

丸亀市
地域福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和7年4月

丸 亀 市

丸亀市社会福祉協議会

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	市民	2
(1)	あなたご自身について.....	2
(2)	地域福祉に関する意識について.....	5
(3)	日常生活について.....	24
(4)	隣近所との関わりについて.....	73
(5)	地域活動やボランティア活動について.....	94
(6)	災害時に関することについて.....	113
(7)	福祉制度や福祉事業について.....	125
(8)	丸亀市社会福祉協議会について.....	137
(9)	丸亀市の地域福祉について.....	146
2	事業所	159
(1)	貴事業所のことについて.....	159
(2)	貴事業所が取り組んでいる活動（地域で行う公益的活動等を含む）について.....	167
(3)	相談体制について.....	176
(4)	災害に関することについて.....	185
(5)	福祉制度や福祉事業について.....	189
(6)	社会福祉法人の方にお聞きします。	198
3	関係団体.....	202
(1)	貴団体のことについて.....	202
(2)	貴団体が取り組んでいる活動について.....	212
(3)	利用者について.....	223
(4)	災害に関することについて.....	234
(5)	福祉制度や福祉事業について.....	239

I 調査の概要

1 調査の目的

本市および市社会福祉協議会では「第3次地域福祉計画及び地域福祉活動計画」の次期計画の策定を予定しています。この計画は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりをより前進させるため、市民、関係機関・NPO・団体、社会福祉協議会・行政等が連携し、地域における支え合い、助け合いの仕組みづくりを、ともに考え、進めていくものです。

本調査は、「第4次地域福祉計画及び地域福祉活動計画」策定に向けた取組のひとつとして実施するものです。

2 調査対象

市 民：18歳以上の丸亀市民3,000人を無作為抽出

事業所：丸亀市内福祉関係事業所の方々

団 体：丸亀市内の福祉関係団体の方々

3 調査期間

市 民：令和6年12月20日（金）～令和7年1月15日（水）

事業所、団 体：令和7年1月24日（金）～2月18日（火）

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
市 民	3,000 通	1,056 通	35.2%
事業所	80 通	49 通	61.3%
団 体	80 通	47 通	58.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

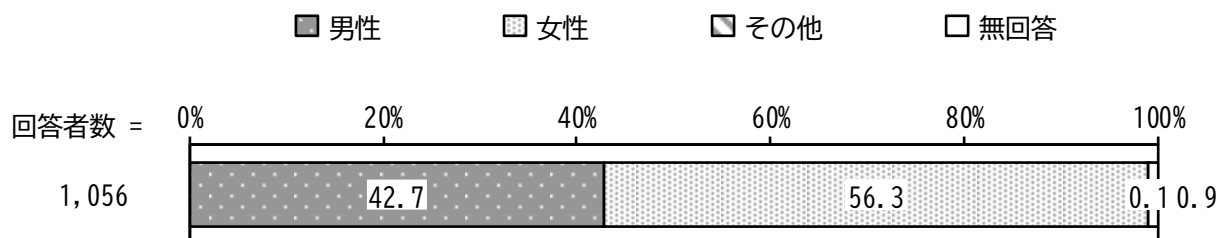
Ⅱ 調査結果

1 市民

(1) あなたご自身について

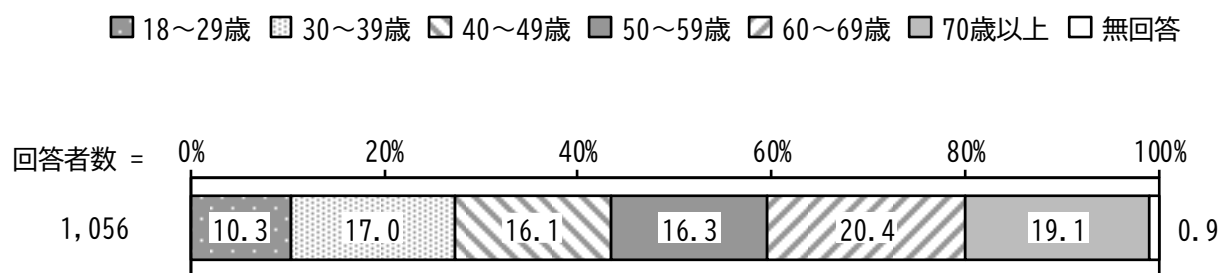
問1 あなたの性別はどちらですか。

「男性」の割合が42.7%、「女性」の割合が56.3%となっています。



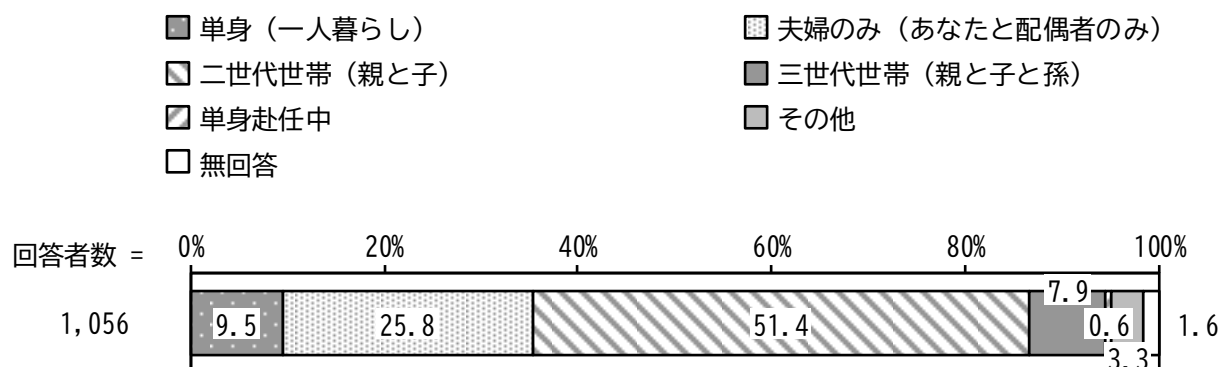
問2 あなたの年齢は次のうちどれにあたりますか。(令和6年12月1日現在)

「60～69歳」の割合が20.4%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が19.1%、「30～39歳」の割合が17.0%となっています。



問3 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(○は1つ)

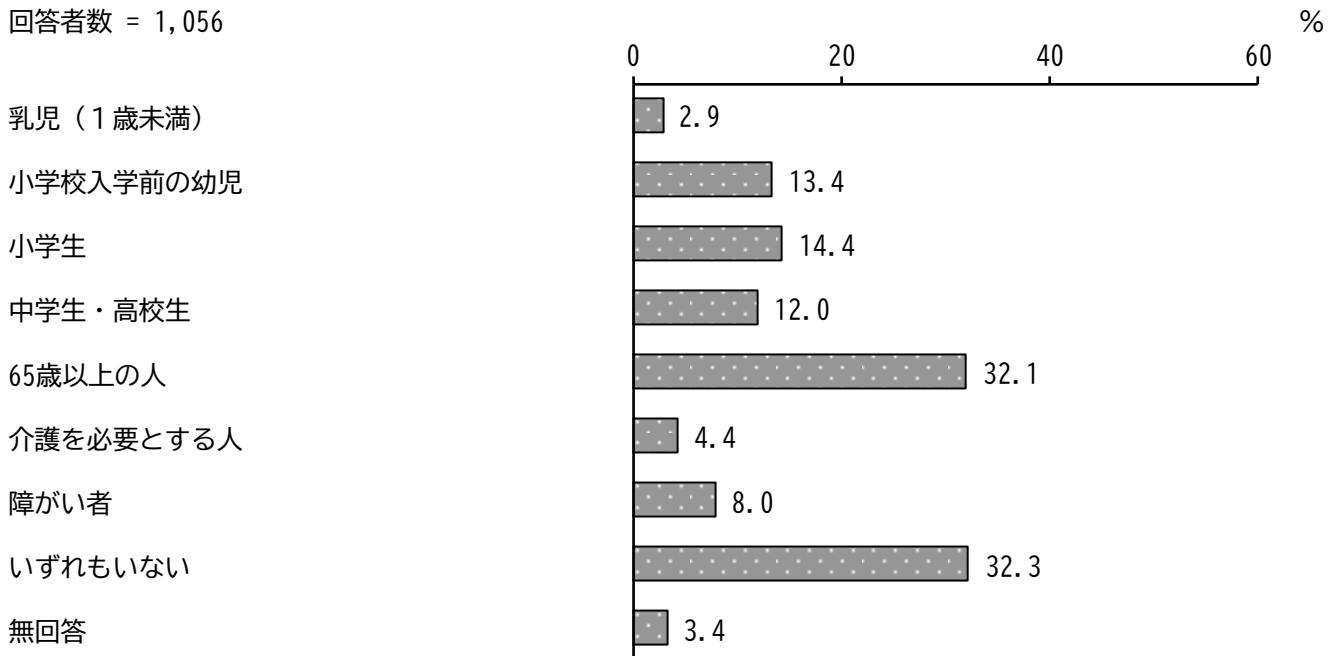
「二世世代世帯（親と子）」の割合が51.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ（あなたと配偶者のみ）」の割合が25.8%となっています。



問4 あなたもしくは同居している家族の中に、次のような方はいますか。
(○はあてはまるものすべて)

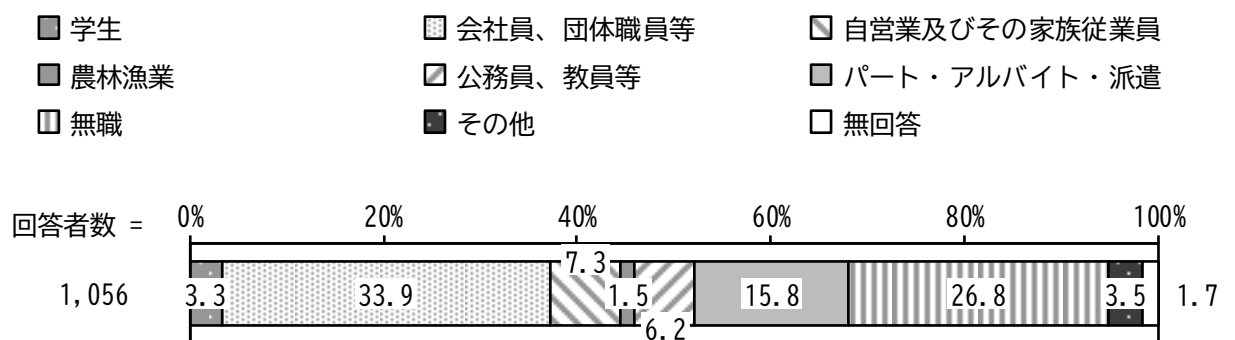
「いずれもない」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「65 歳以上の人」の割合が 32.1%、「小学生」の割合が 14.4%となっています。

回答者数 = 1,056



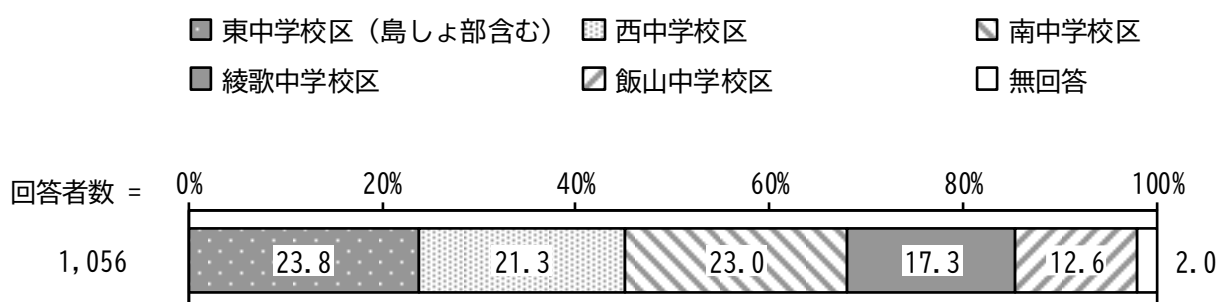
問5 あなたの主な職業は何ですか。(○は1つ)

「会社員、団体職員等」の割合が 33.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が 26.8%、「パート・アルバイト・派遣」の割合が 15.8%となっています。



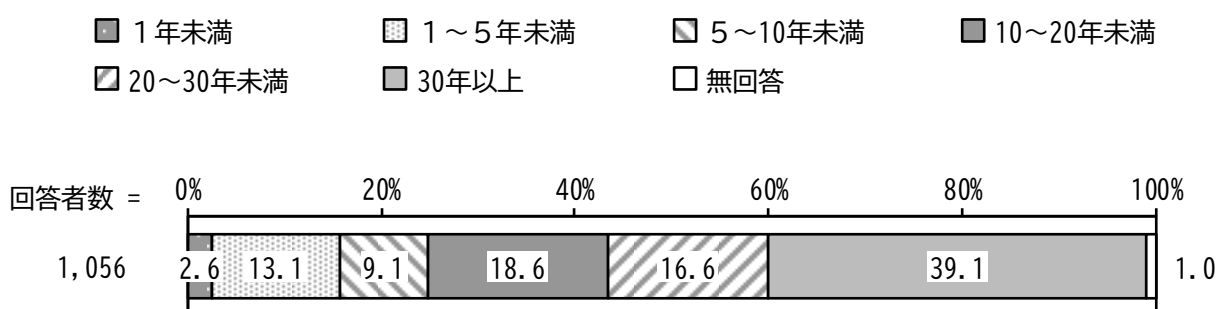
問6 どちらの地区にお住まいですか。(○は1つ)

「東中学校区(島しょ部含む)」の割合が23.8%と最も高く、次いで「南中学校区」の割合が23.0%、「西中学校区」の割合が21.3%となっています。



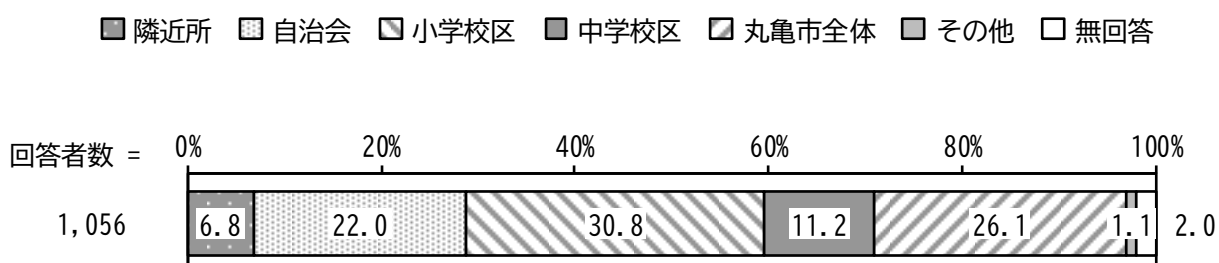
問7 あなたは現在の地区に何年お住まいですか。(○は1つ)

「30年以上」の割合が39.1%と最も高く、次いで「10~20年未満」の割合が18.6%、「20~30年未満」の割合が16.6%となっています。



問8 あなたが考える「地域」の範囲をお答えください。(○は1つ)

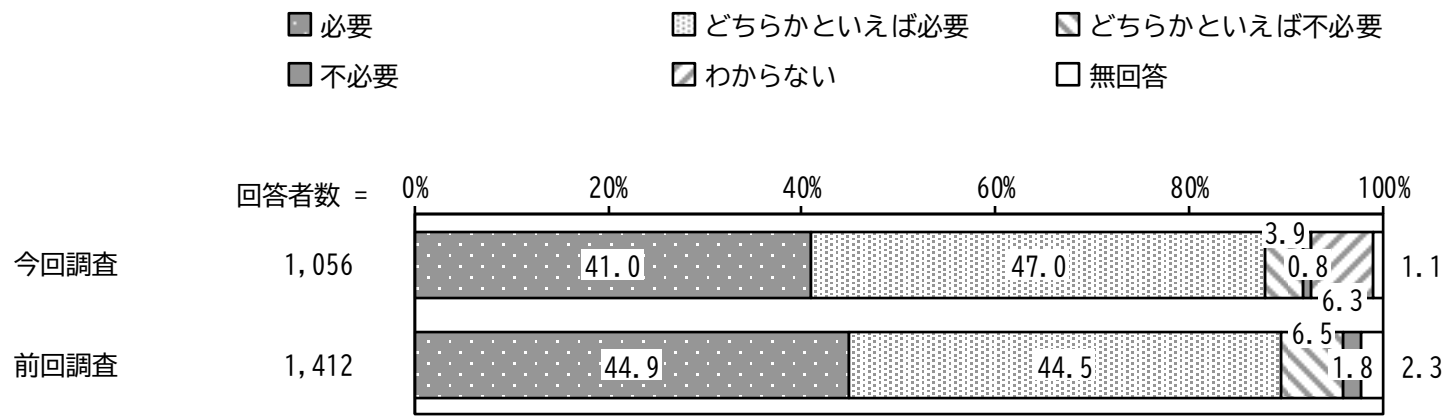
「小学校区」の割合が30.8%と最も高く、次いで「丸亀市全体」の割合が26.1%、「自治会」の割合が22.0%となっています。



(2) 地域福祉に関する意識について

問9 あなたは、住み慣れた地域で誰もが安心して生活をおくるためには、住民同士の支え合い・助け合いが必要だと思いますか。(○は1つ)

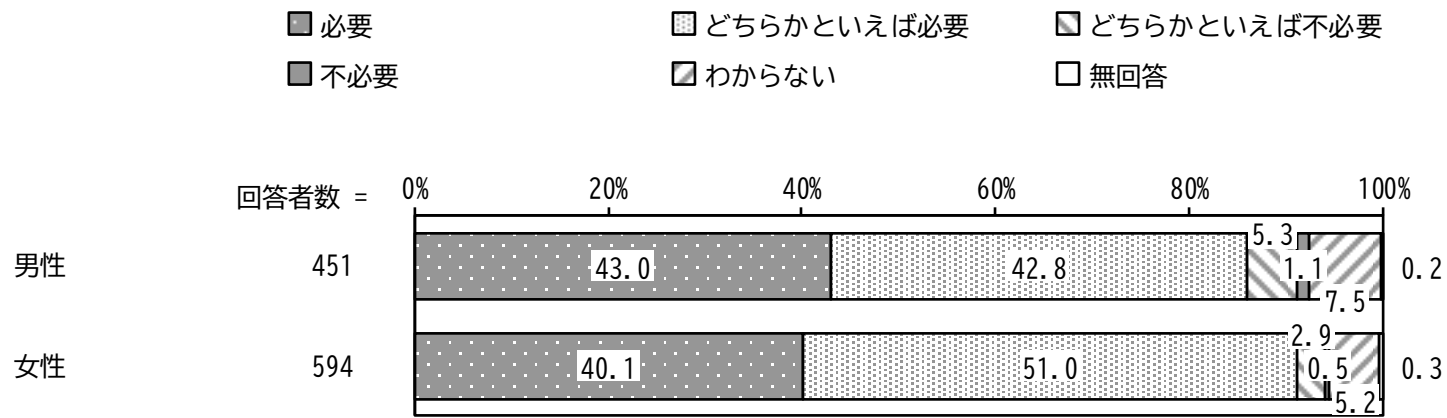
「必要」「どちらかといえば必要」を合わせた“必要”の割合が88.0%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では、「不必要」が「不要」となっており、「わからない」がありませんでした。

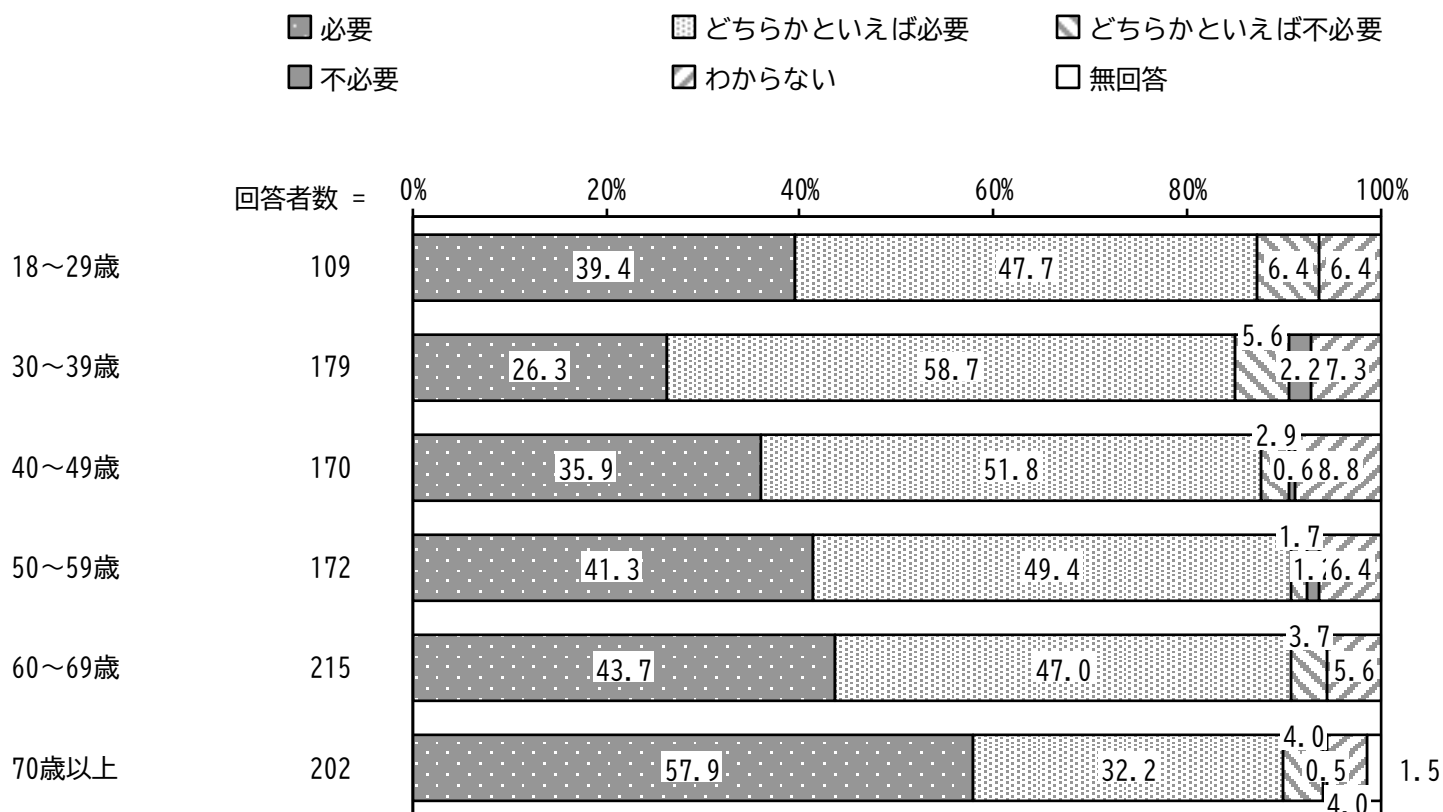
【性別】

性別にみると、“必要”で女性の割合が高くなっています。



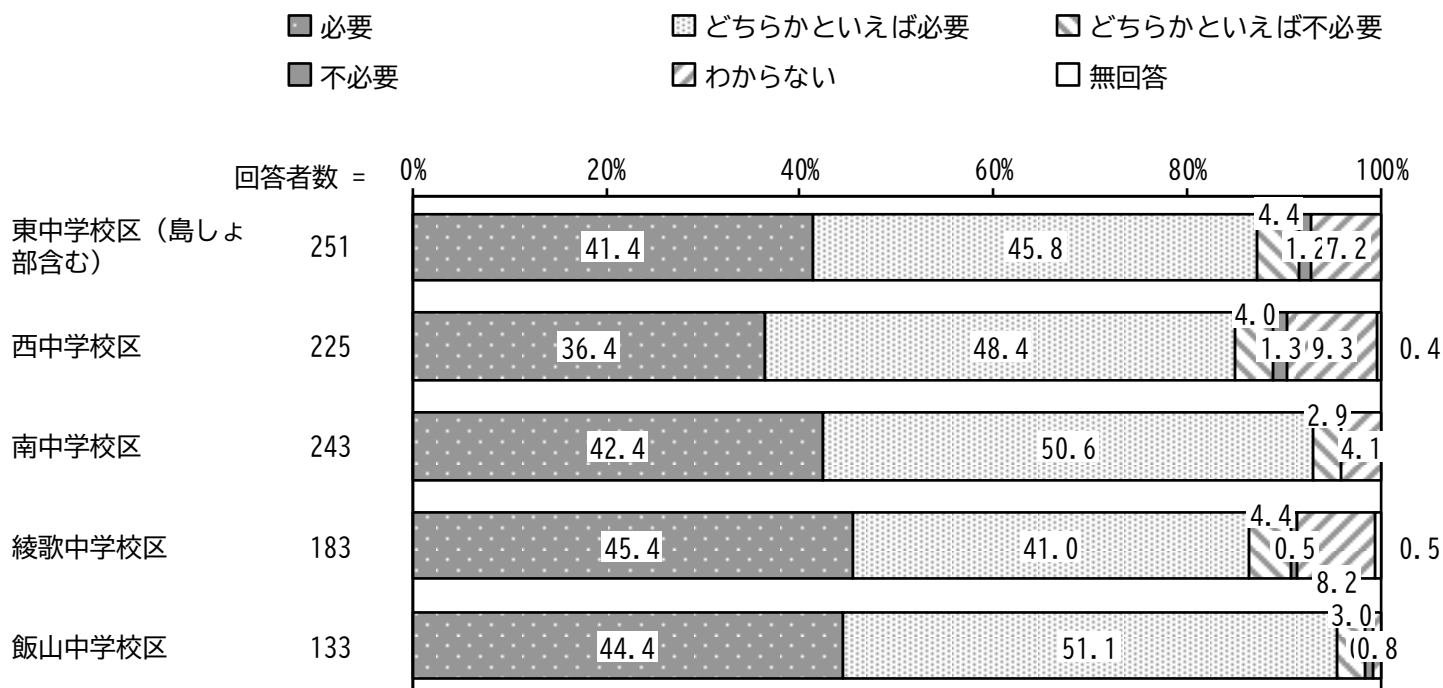
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「必要」の割合が高くなる傾向にあります。



【地区別】

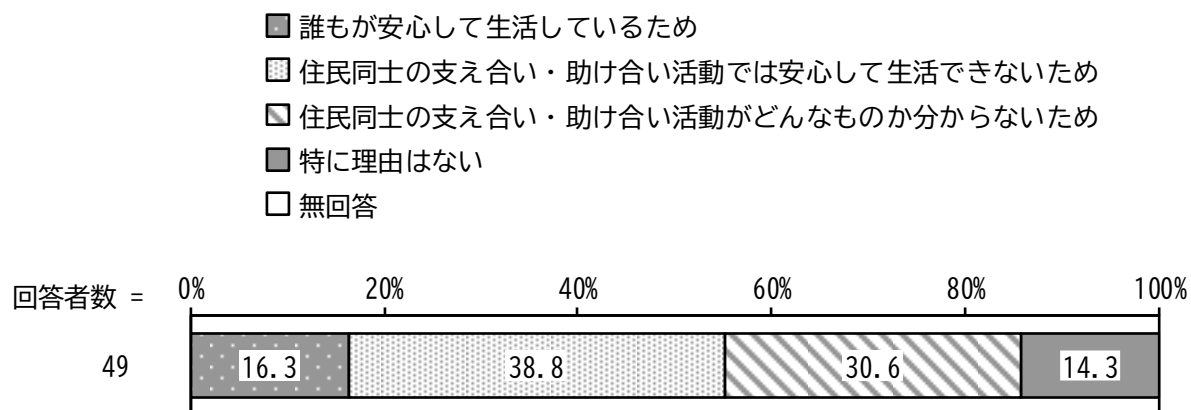
地区別にみると、“必要”の割合が飯山中学校区で高くなっています。



問9で「どちらかといえば不必要」「不必要」を選んだ方におうかがいします。

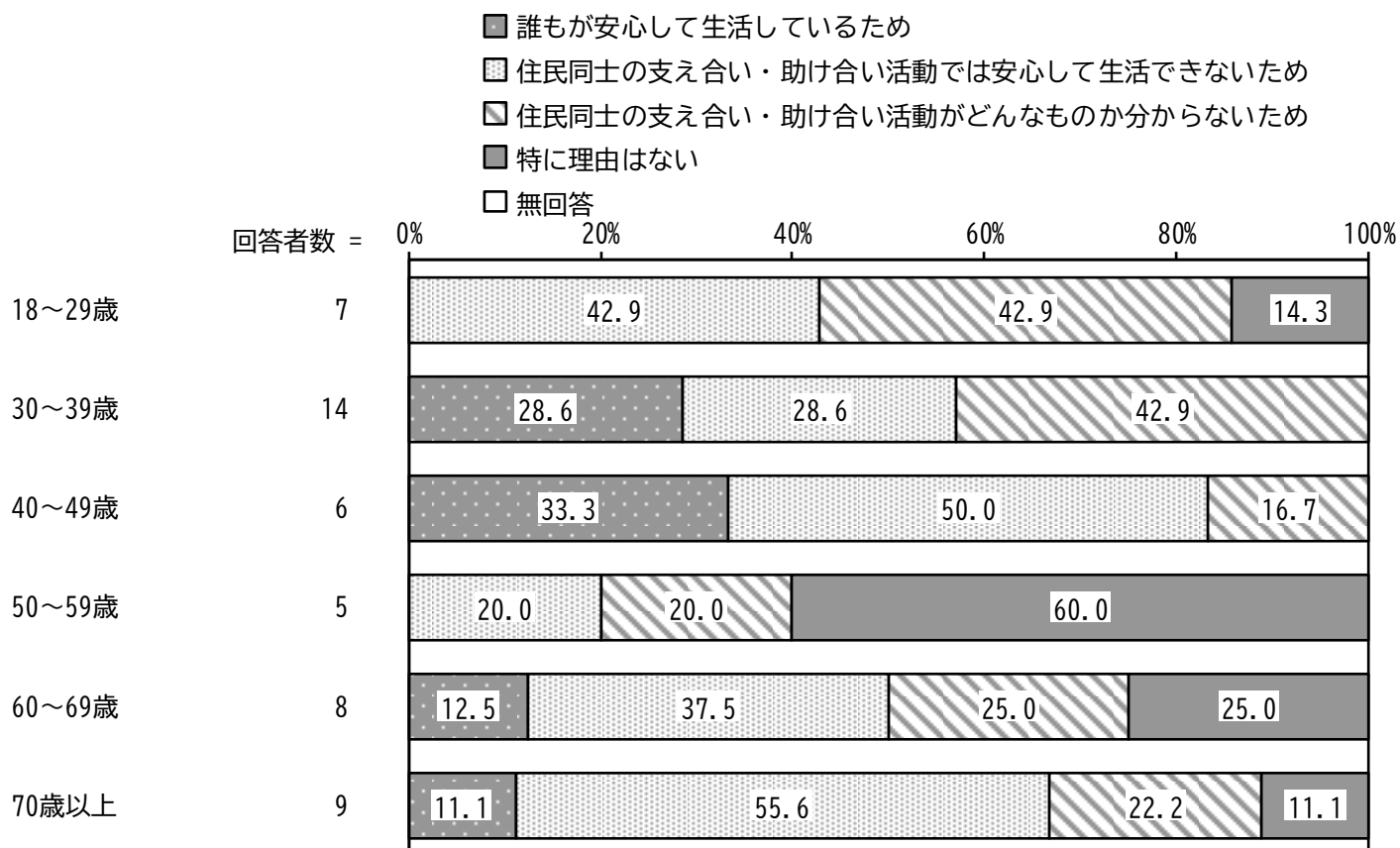
問9（1）その理由は何ですか（○は1つ）

「住民同士の支え合い・助け合い活動では安心して生活できないため」の割合が38.8%と最も高く、次いで「住民同士の支え合い・助け合い活動がどんなものか分からないため」の割合が30.6%、「誰もが安心して生活しているため」の割合が16.3%となっています。



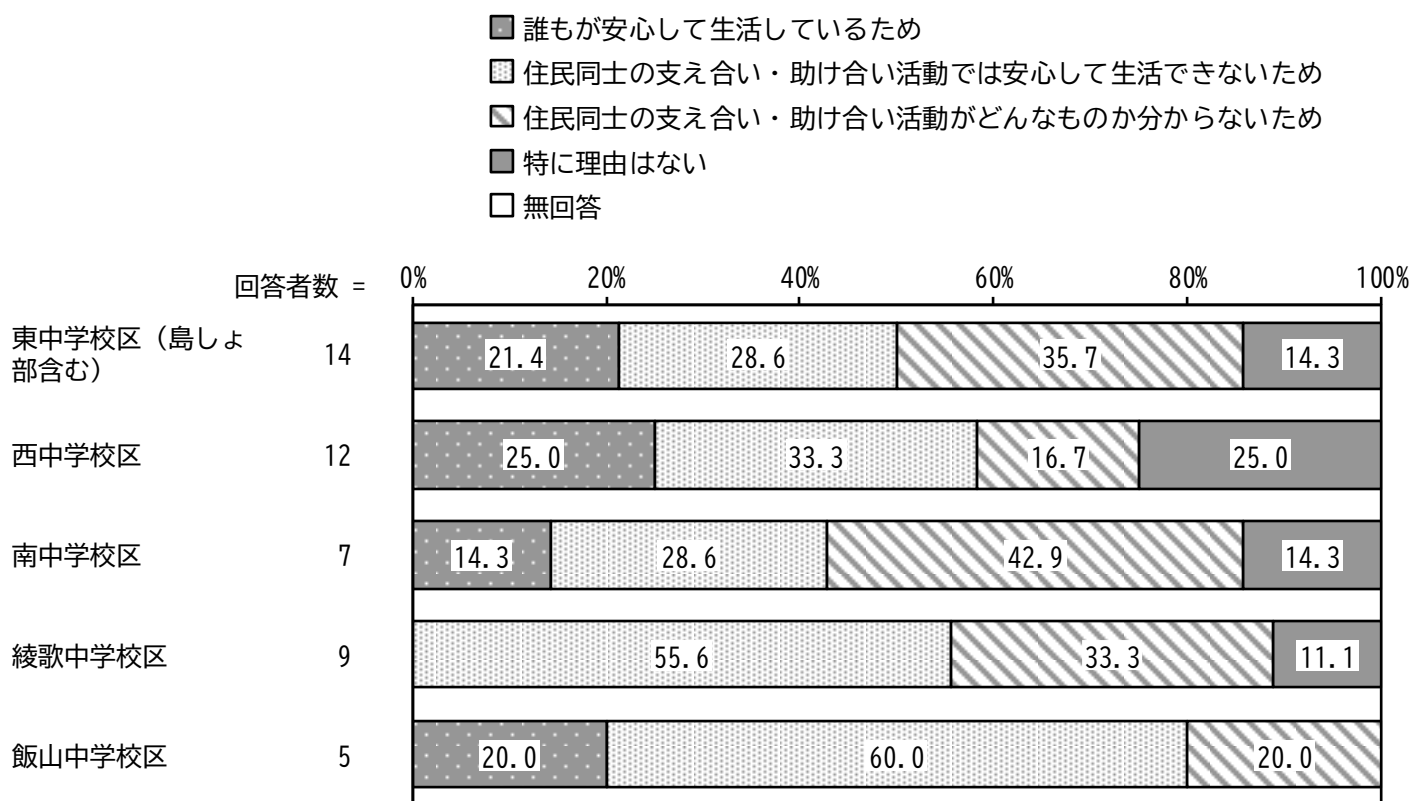
【年齢別】

年齢別にみると、「誰もが安心して生活しているため」、「住民同士の支え合い・助け合い活動がどんなものか分からないため」の割合が30～39歳で高くなっています。



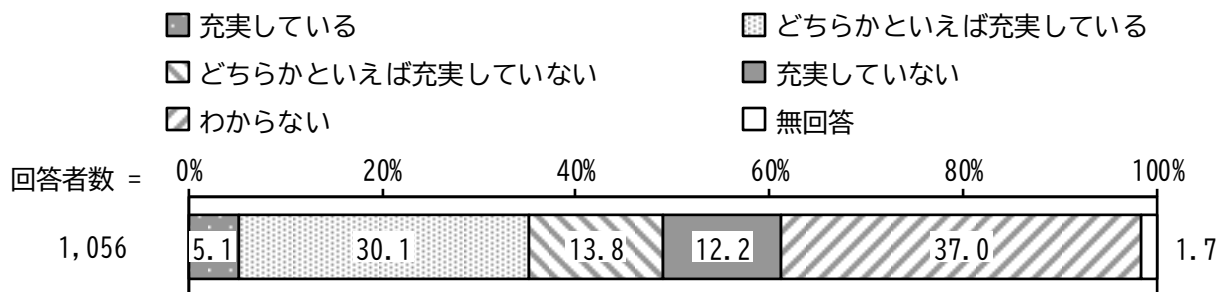
【地区別】

地区別にみると、「住民同士の支え合い・助け合い活動がどんなものか分からないため」の割合が東中学校区（島しょ部含む）で高く、「誰もが安心して生活しているため」の割合が西中学校区で高くなっています。

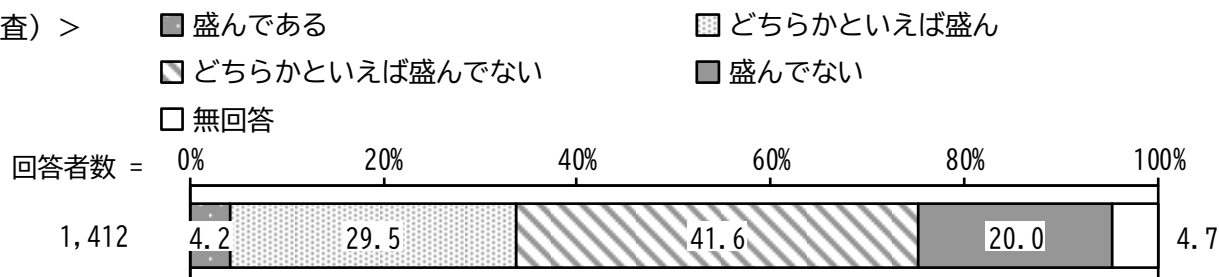


問 10 あなたがお住まいの地域では、住民同士の支え合い・助け合い活動が充実していますか。（○は1つ）

「充実している」「どちらかといえば充実している」を合わせた“充実している”の割合が 35.2%、「どちらかといえば充実していない」「充実していない」を合わせた“充実していない”の割合が 26.0%となっています。

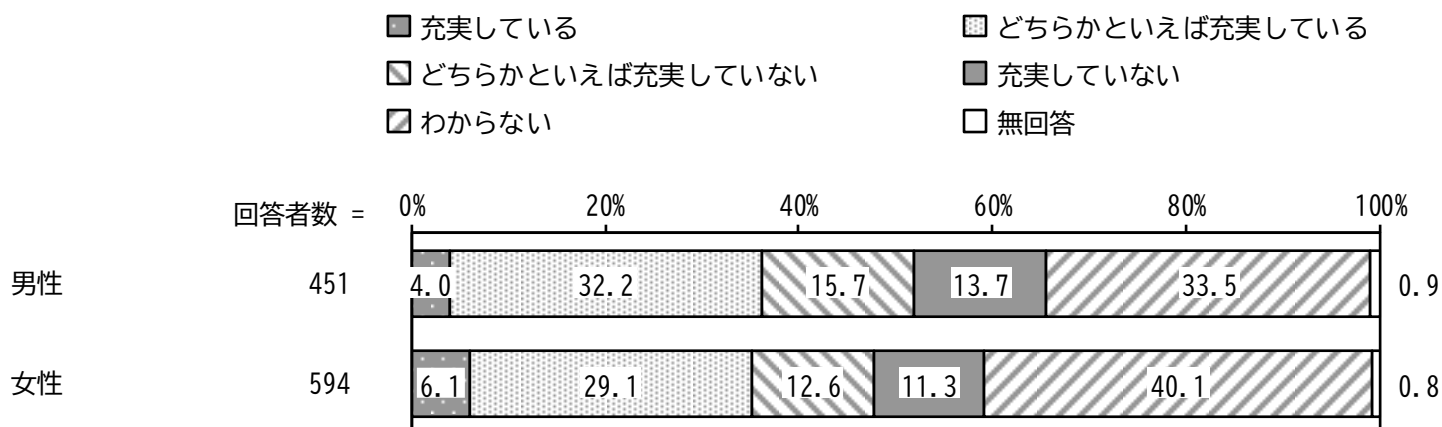


<参考（前回調査）>



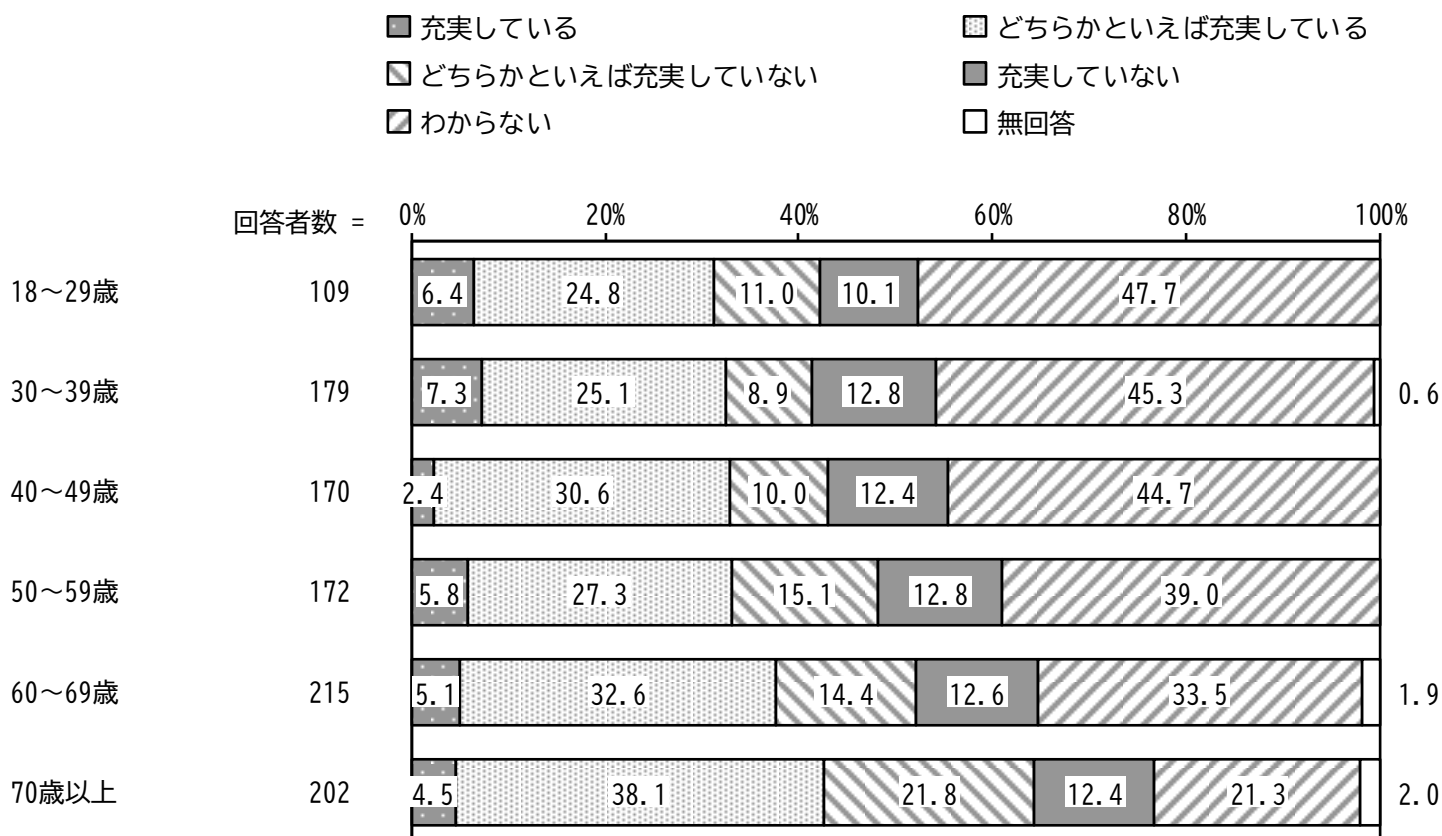
【性別】

性別にみると、“充実していない”で男性の割合が高くなっています。



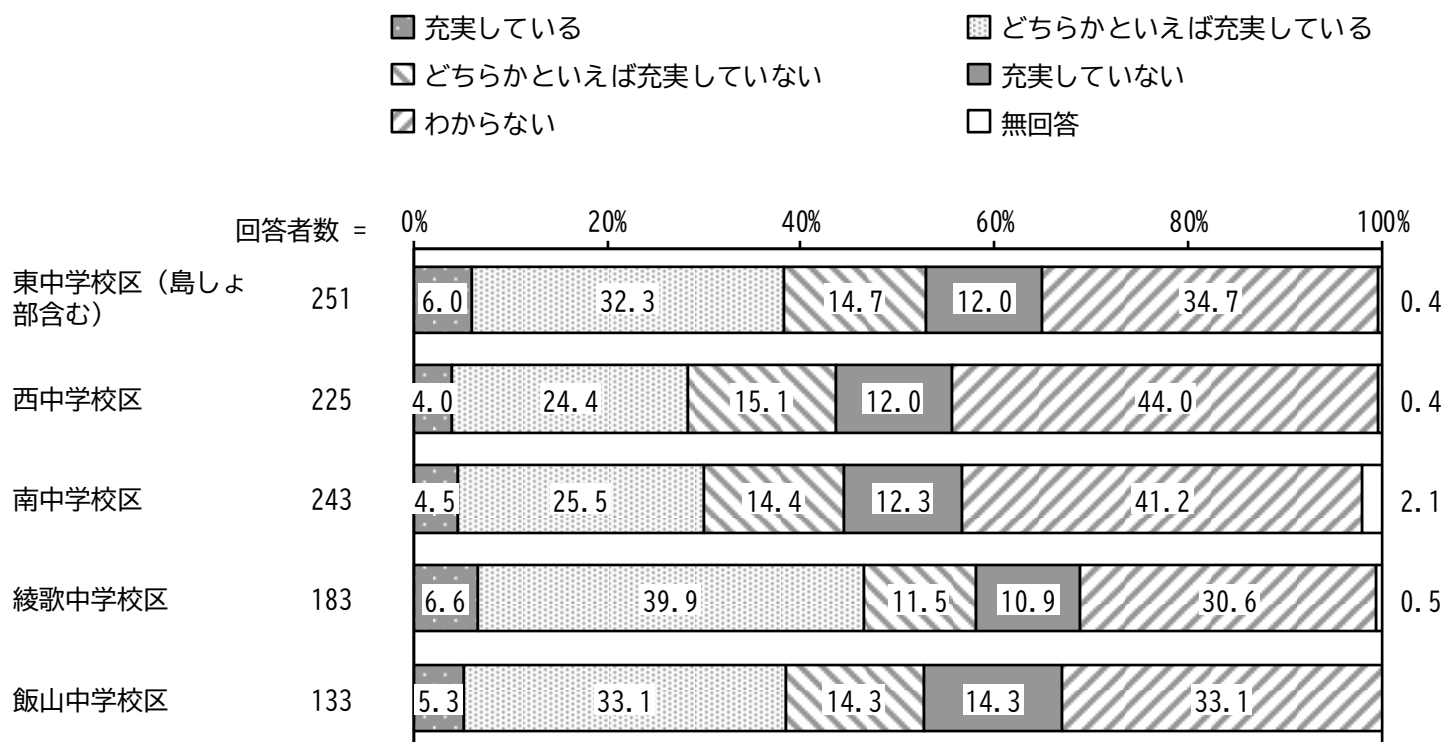
【年齢別】

年齢別にみると、“充実している”の割合が70歳以上で高くなっています。



【地区別】

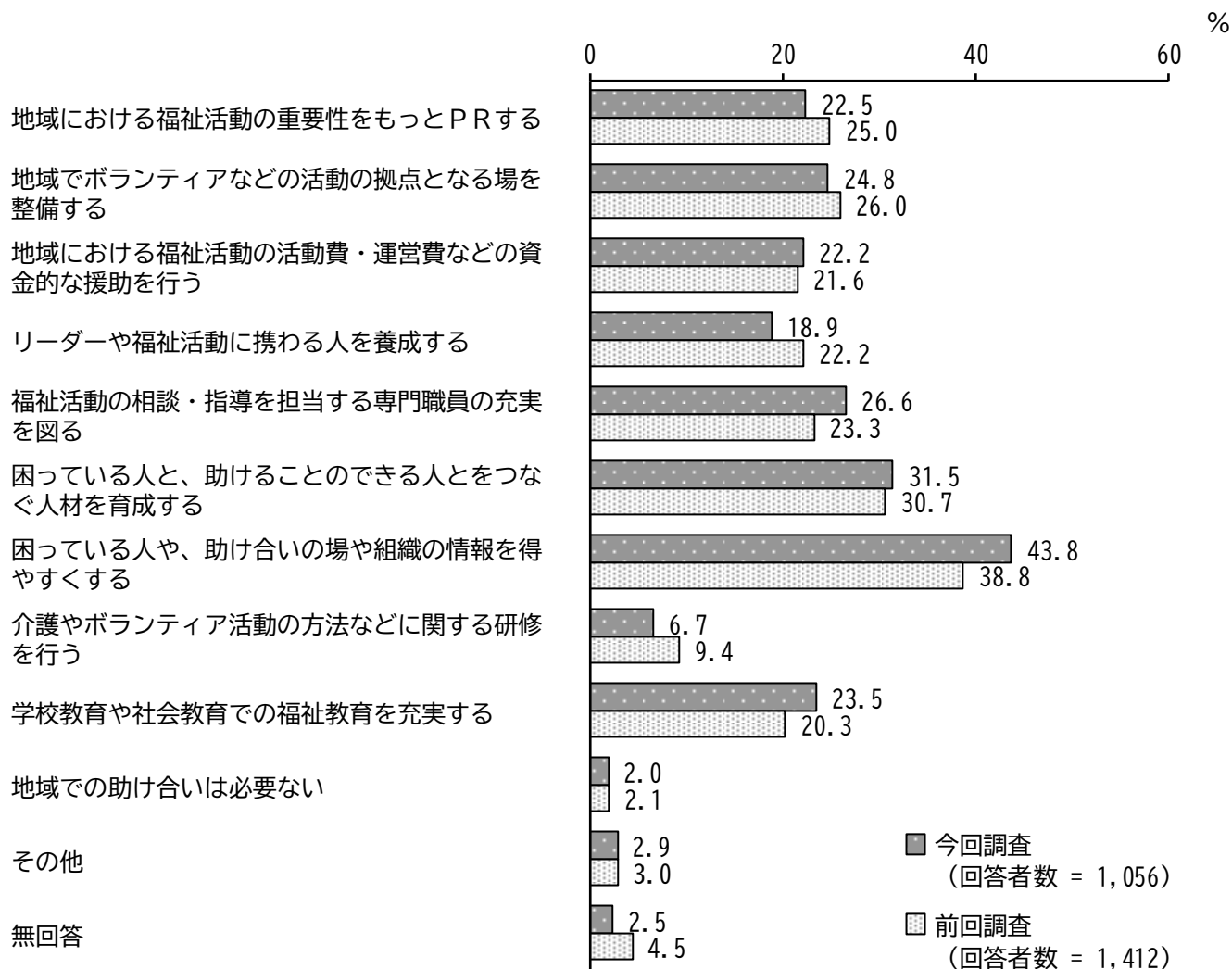
地区別にみると、“充実している”の割合が綾歌中学校区で高くなっています。



問 11 住民同士の支え合い・助け合いが地域で広がるためには、あなたはどんなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「困っている人や、助け合いの場や組織の情報を得やすくする」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「困っている人と、助けることのできる人をつなぐ人材を育成する」の割合が 31.5%、「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」の割合が 26.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、「地域における福祉活動の重要性をもっとPRする」の割合が70歳以上で高く、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」の割合が40～49歳で高く、「リーダーや福祉活動に携わる人を養成する」の割合が18～29歳で低く、「困っている人や、助け合いの場や組織の情報を得やすくする」の割合が30～39歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	地域における福祉活動の重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	リーダーや福祉活動に携わる人を養成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人と、助けることのできる人をつなぐ人材を育成する	困っている人や、助け合いの場や組織の情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	地域での助け合いは必要ない	その他	無回答
全 体	1,056	22.5	24.8	22.2	18.9	26.6	31.5	43.8	6.7	23.5	2.0	2.9	2.5
18～29歳	109	22.9	24.8	24.8	11.9	16.5	33.9	47.7	6.4	32.1	2.8	4.6	1.8
30～39歳	179	15.6	21.2	25.1	12.3	18.4	32.4	50.8	2.8	33.5	2.8	4.5	1.1
40～49歳	170	18.2	35.9	21.2	20.0	20.0	30.6	46.5	3.5	27.1	3.5	2.9	—
50～59歳	172	20.9	20.9	23.3	18.0	34.3	34.3	40.7	8.7	18.6	1.2	2.9	1.2
60～69歳	215	27.4	25.6	23.7	23.3	30.2	30.7	41.9	7.4	16.7	1.9	2.8	2.3
70歳以上	202	29.2	22.3	17.3	24.8	35.6	30.2	40.1	10.9	19.3	0.5	1.0	3.0

【地区別】

地区別にみると、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」の割合が飯山中学校区で高くなっています。

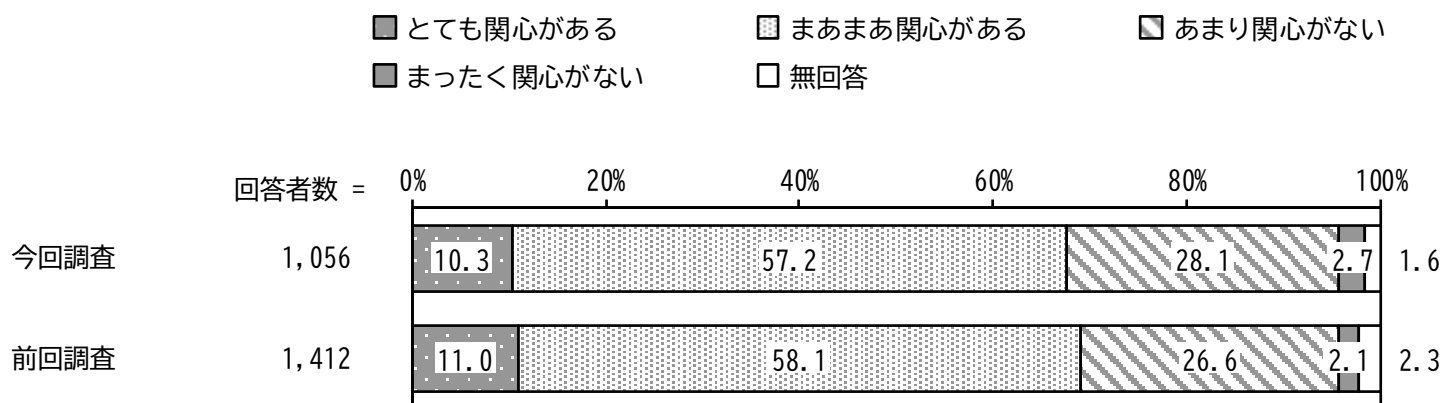
単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	地域における福祉活動の重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	リーダーや福祉活動に携わる人を養成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人と、助けることのできる人をつなぐ人材を育成する	困っている人や、助け合いの場や組織の情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	地域での助け合いは必要ない	その他	無回答
全 体	1,056	22.5	24.8	22.2	18.9	26.6	31.5	43.8	6.7	23.5	2.0	2.9	2.5
東中学校区（島しょ部含む）	251	21.5	25.5	23.1	20.7	27.5	31.9	43.4	6.8	23.1	2.4	3.6	0.4
西中学校区	225	20.9	25.8	21.3	19.6	23.6	33.3	45.3	4.9	28.4	2.2	2.7	1.3
南中学校区	243	23.5	22.2	22.2	16.5	25.1	32.9	45.3	7.0	24.7	1.6	2.9	2.1
綾歌中学校区	183	25.1	22.4	24.0	20.8	30.1	29.5	44.3	7.7	24.0	1.6	3.8	2.2
飯山中学校区	133	24.8	30.1	21.8	19.5	30.1	31.6	40.6	9.0	16.5	2.3	0.8	1.5

問 12 あなたは福祉に関心をお持ちですか。（○は1つ）

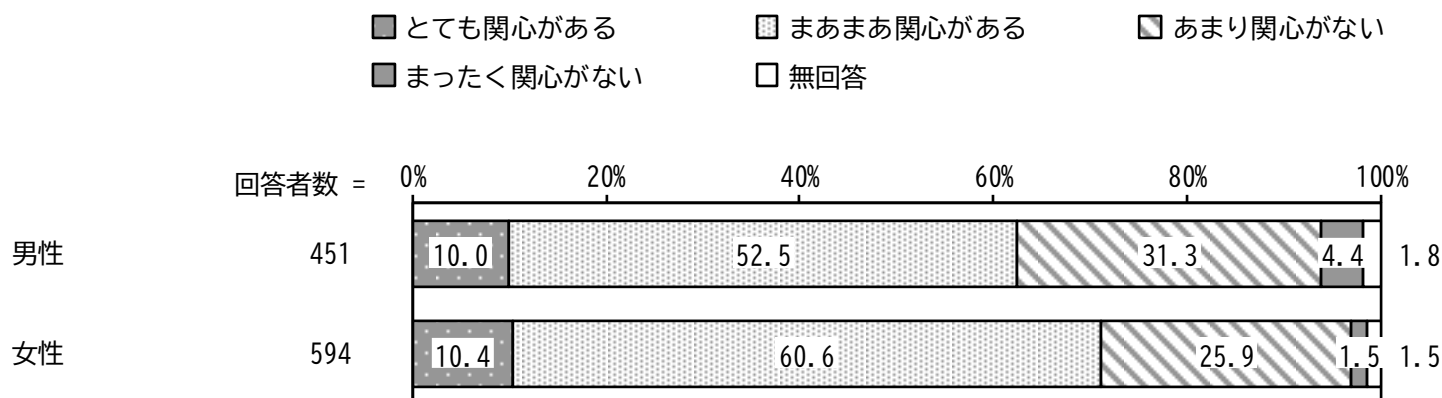
「とても関心がある」「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 67.5%、「あまり関心がない」「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が 30.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



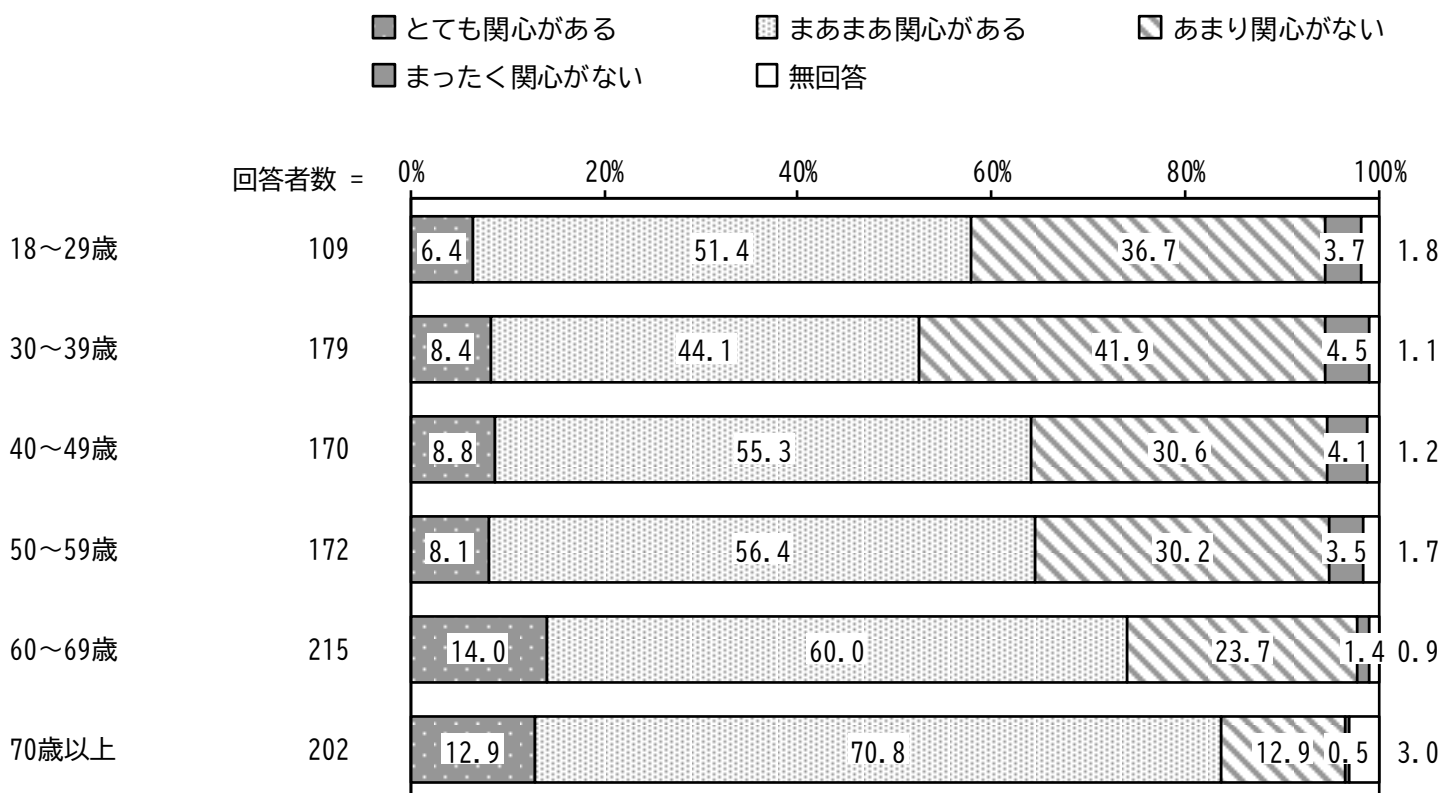
【性別】

性別にみると、“関心がない”で男性の割合が高く、“関心がある”で女性の割合が高くなっています。



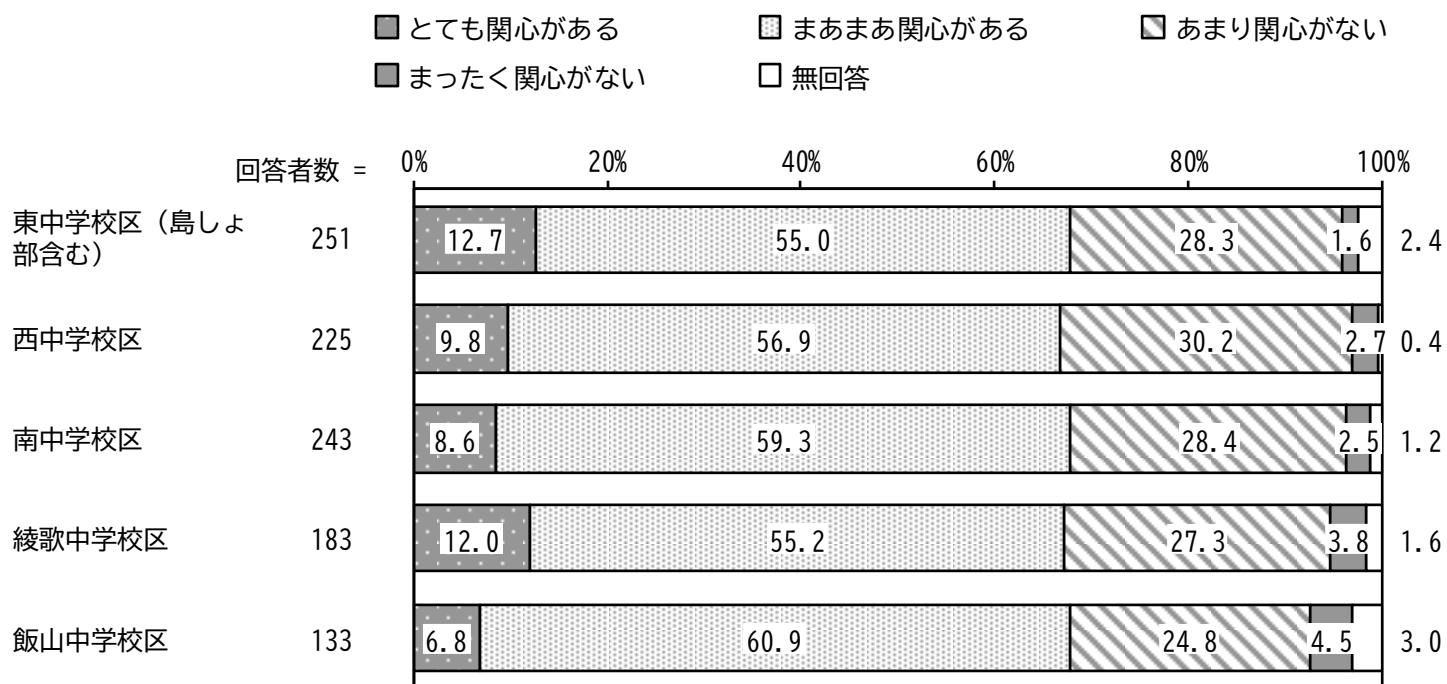
【年齢別】

年齢別にみると、“関心がある”の割合が30～39歳で低く、“関心がない”の割合が70歳以上で低くなっています。



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

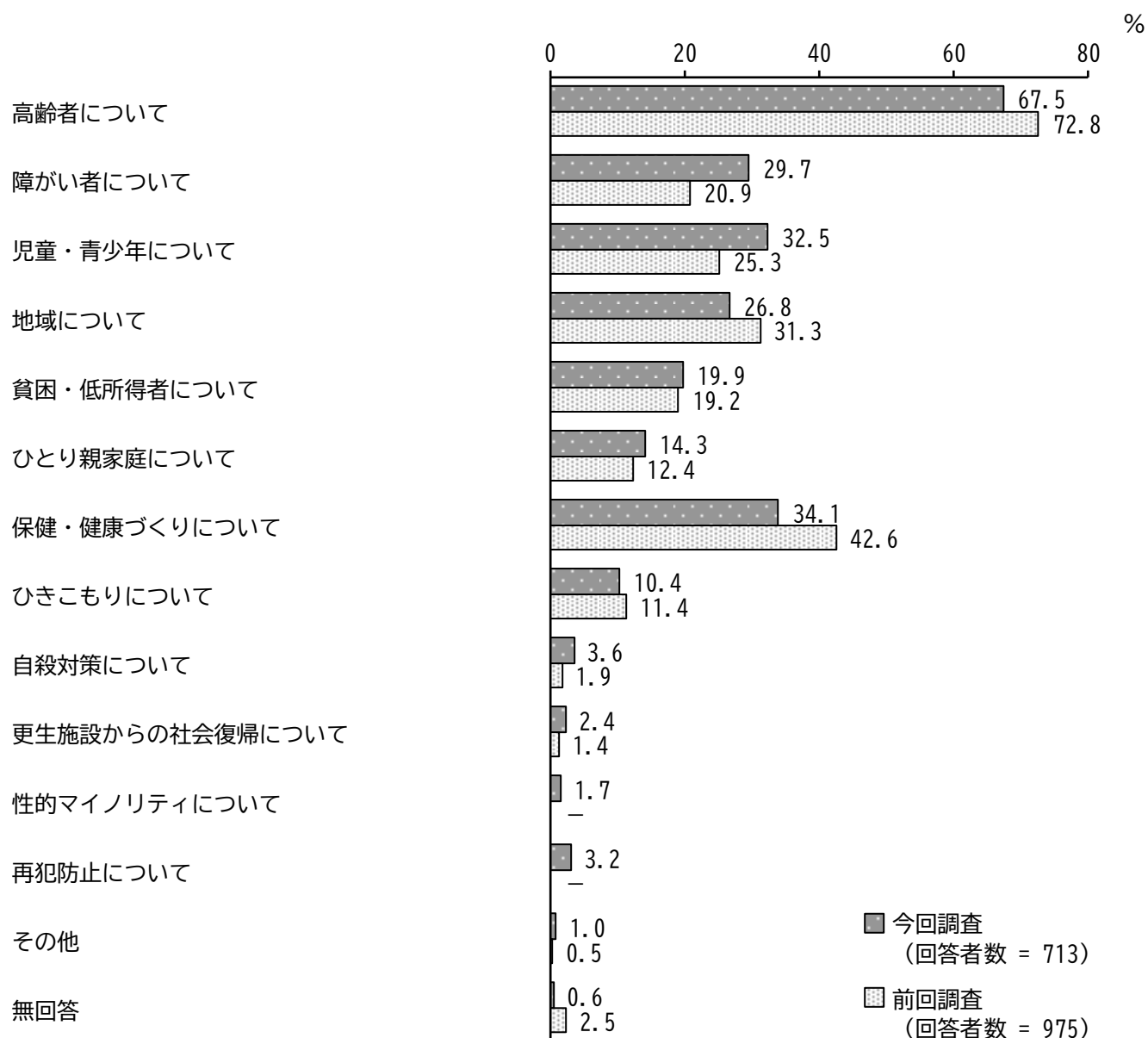


問 12 で「とても関心がある」「まあまあ関心がある」を選んだ方におうかがいします。

問 12（１）福祉に関するどの分野に関心がありますか。（○は３つまで）

「高齢者について」の割合が 67.5%と最も高く、次いで「保健・健康づくりについて」の割合が 34.1%、「児童・青少年について」の割合が 32.5%となっています。

前回調査と比較すると、「障がい者について」「児童・青少年について」の割合が増加しています。一方、「高齢者について」「保健・健康づくりについて」の割合が減少しています。



※前回調査では、「高齢者について」が「高齢者のことについて」、「障がい者について」が「障がい者のことについて」、「児童・青少年について」が「児童・青少年のことについて」、「地域について」が「地域のことについて」、「貧困・低所得者について」が「貧困・低所得者のことについて」、「ひとり親家庭について」が「ひとり親家庭のことについて」となっており、「性的マイノリティについて」、「再犯防止について」がありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「障がい者について」の割合が18～29歳で低く、「児童・青少年について」の割合が30～39歳で高く、「保健・健康づくりについて」の割合が70歳以上で高く、40～49歳で低くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	高齢者について	障がい者について	児童・青少年について	地域について	貧困・低所得者について	ひとり親家庭について	保健・健康づくりについて	ひきこもりについて	自殺対策について	更生施設からの社会復帰について	性的マイノリティについて	再犯防止について	その他	無回答
全 体	713	67.5	29.7	32.5	26.8	19.9	14.3	34.1	10.4	3.6	2.4	1.7	3.2	1.0	0.6
18～29歳	63	49.2	17.5	44.4	23.8	19.0	14.3	33.3	3.2	11.1	6.3	6.3	6.3	3.2	3.2
30～39歳	94	41.5	27.7	73.4	24.5	16.0	14.9	34.0	10.6	4.3	1.1	1.1	3.2	1.1	—
40～49歳	109	52.3	35.8	45.0	25.7	22.9	13.8	22.9	16.5	4.6	4.6	0.9	3.7	0.9	0.9
50～59歳	111	73.0	30.6	27.9	31.5	23.4	19.8	27.0	12.6	1.8	—	0.9	3.6	1.8	—
60～69歳	159	78.6	32.7	18.2	25.2	20.1	11.9	36.5	8.2	3.8	2.5	2.5	2.5	—	—
70歳以上	169	83.4	28.4	14.8	27.8	17.8	13.0	44.4	10.1	0.6	1.8	0.6	1.8	0.6	0.6

【地区別】

地区別にみると、「高齢者について」の割合が西中学校区で低く、「障がい者について」の割合が飯山中学校区で高く、「児童・青少年について」の割合が綾歌中学校区で低く、「貧困・低所得者について」の割合が南中学校区で高く、飯山中学校区で低くなっています。

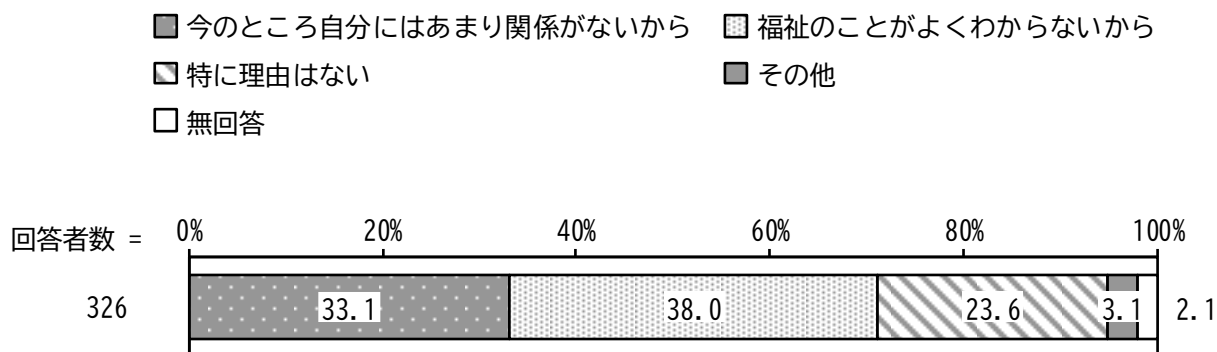
単位：％

質問項目 地区	回答者数(件)	高齢者について	障がい者について	児童・青少年について	地域について	貧困・低所得者について	ひとり親家庭について	保健・健康づくりについて	ひきこもりについて	自殺対策について	更生施設からの社会復帰について	性的マイノリティについて	再犯防止について	その他	無回答
全 体	713	67.5	29.7	32.5	26.8	19.9	14.3	34.1	10.4	3.6	2.4	1.7	3.2	1.0	0.6
東中学校区 (島しょ部含む)	170	65.9	31.2	34.7	27.1	18.8	11.8	32.9	12.4	2.4	3.5	1.2	2.4	1.2	1.8
西中学校区	150	60.7	30.7	39.3	28.7	17.3	16.7	39.3	13.3	1.3	2.0	2.7	2.0	2.0	—
南中学校区	165	69.7	26.1	32.1	26.1	25.5	13.3	30.9	8.5	6.7	3.6	1.2	4.2	0.6	—
綾歌中学校区	123	69.9	26.0	26.0	25.2	21.1	16.3	33.3	8.9	5.7	0.8	2.4	4.9	—	0.8
飯山中学校区	90	74.4	35.6	27.8	26.7	14.4	14.4	35.6	7.8	1.1	1.1	1.1	2.2	1.1	—

問 12 で「あまり関係がない」「まったく関係がない」を選んだ方におうかがいします。

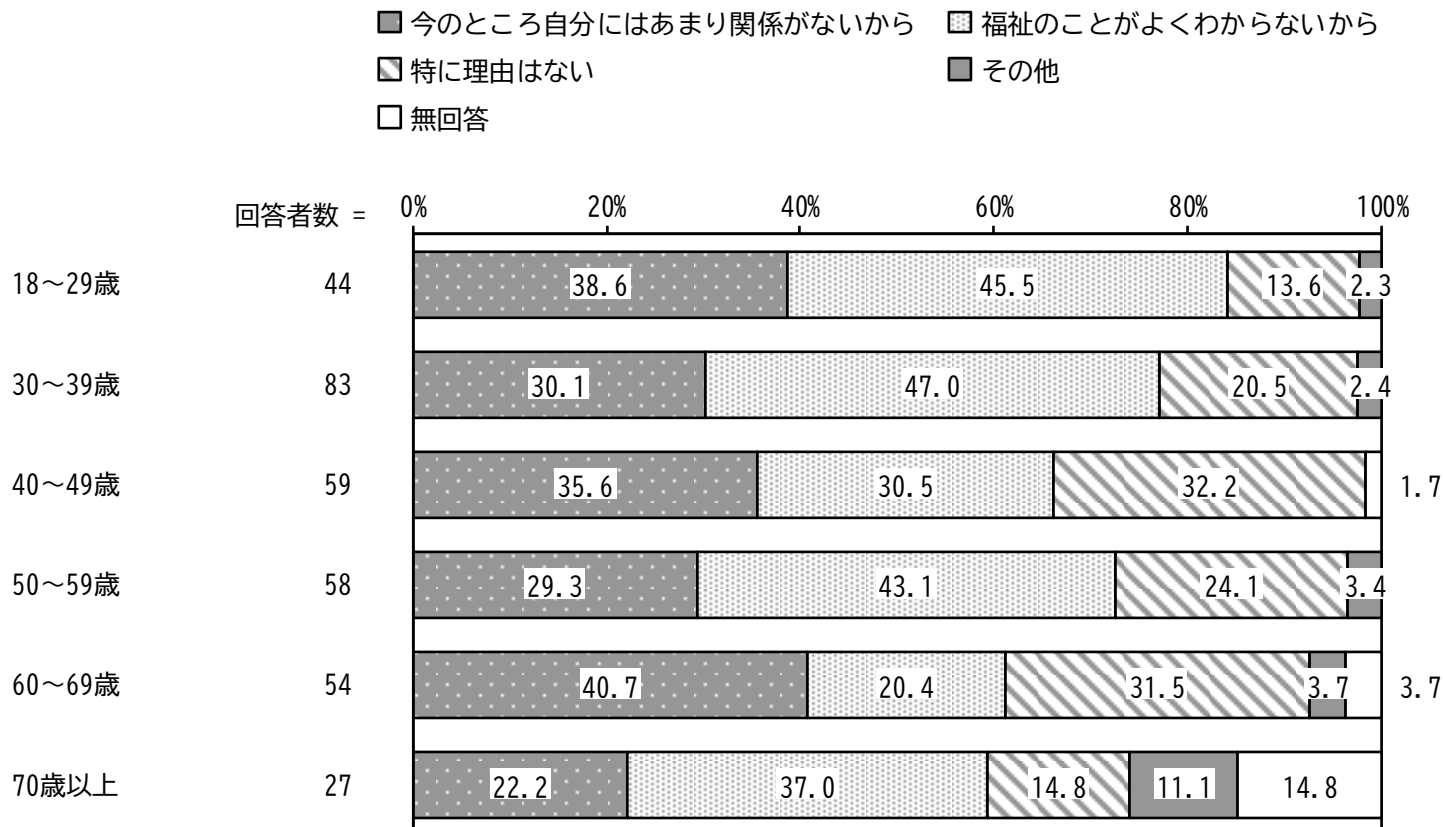
問 12（２）その理由は何ですか。（○は１つ）

「今のところ自分にはあまり関係がないから」の割合が 33.1%、「福祉のことがよくわからないから」の割合が 38.0%、「特に理由はない」の割合が 23.6%となっています。



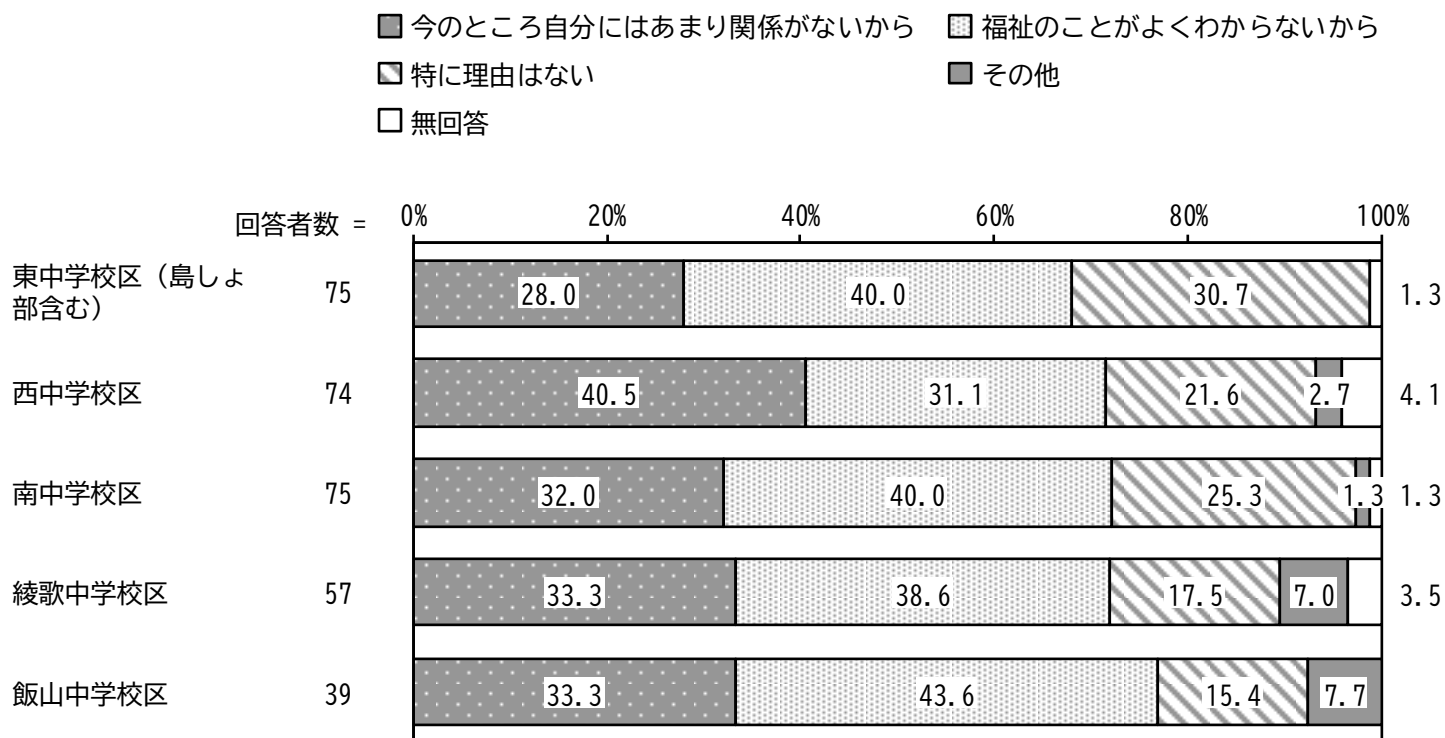
【年齢別】

年齢別にみると、「今のところ自分にはあまり関係がないから」の割合が 70 歳以上で低く、「福祉のことがよくわからないから」の割合が 60～69 歳で低く、「特に理由はない」の割合が 18～29 歳で低くなっています。



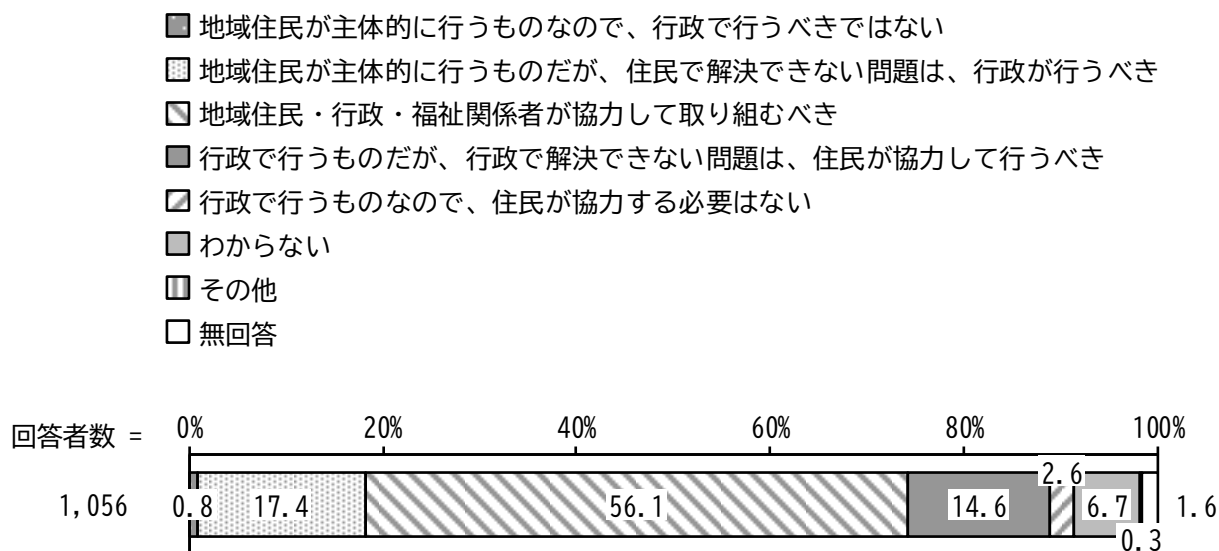
【地区別】

地区別にみると、「今のところ自分にはあまり関係がないから」の割合が西中学校区で高く、「特に理由はない」の割合が東中学校区で高く、飯山中学校区で低くなっています。



問 13 あなたの地域福祉についての考え方に一番近いものはどれですか。(○は1つ)

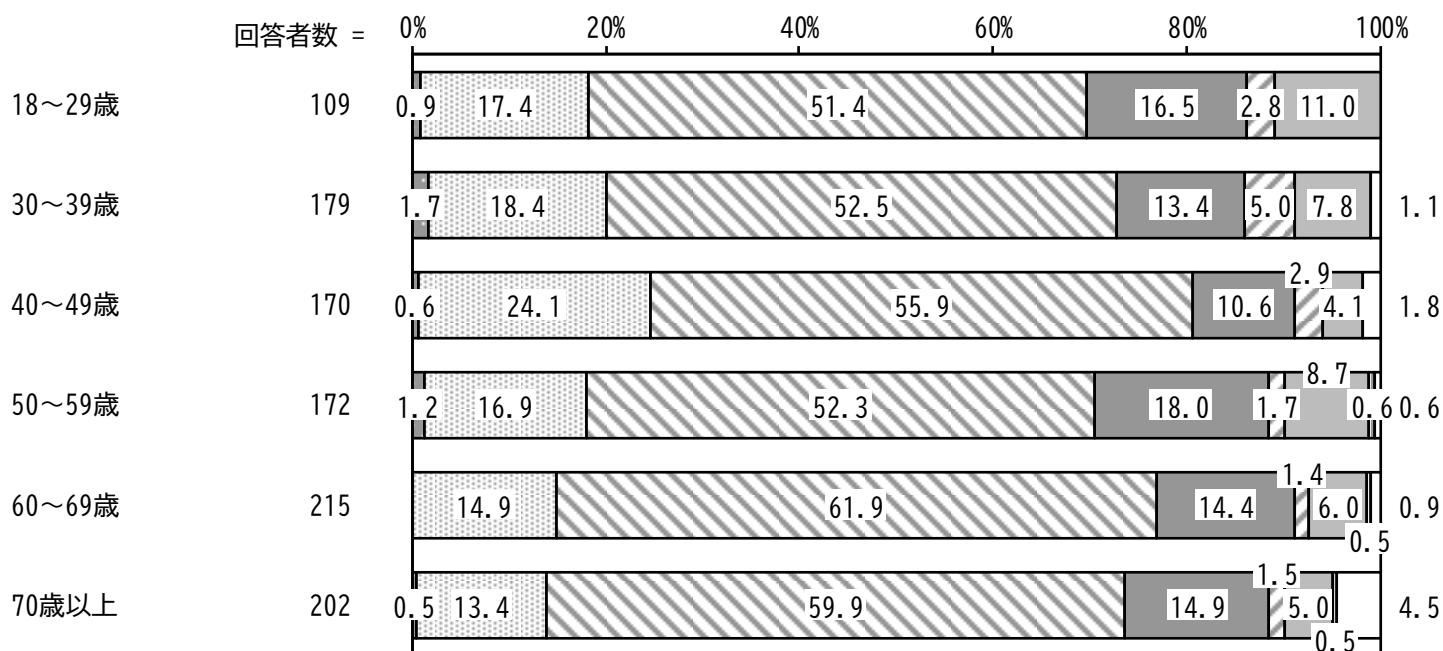
「地域住民・行政・福祉関係者が協力して取り組むべき」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「地域住民が主体的に行うものだが、住民で解決できない問題は、行政が行うべき」の割合が 17.4%、「行政で行うものだが、行政で解決できない問題は、住民が協力して行うべき」の割合が 14.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「地域住民・行政・福祉関係者が協力して取り組むべき」の割合が60～69歳で高くなっています。

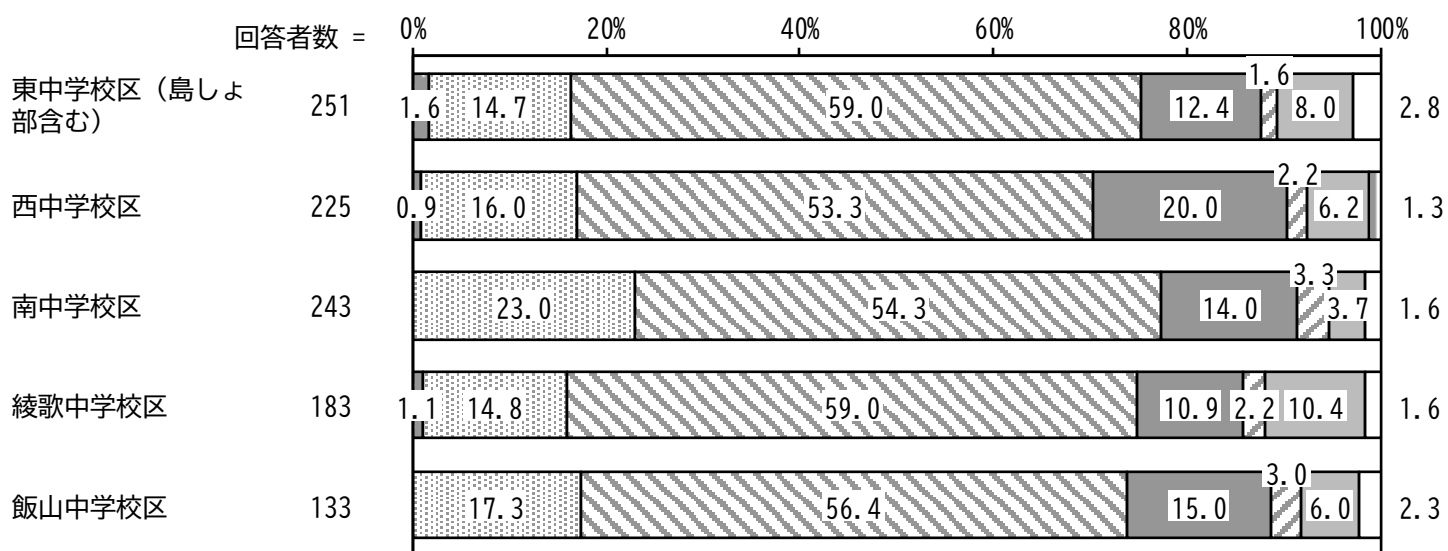
- 地域住民が主体的に行うものなので、行政で行うべきではない
- ▨ 地域住民が主体的に行うものだが、住民で解決できない問題は、行政が行うべき
- ▩ 地域住民・行政・福祉関係者が協力して取り組むべき
- 行政で行うものだが、行政で解決できない問題は、住民が協力して行うべき
- ▨ 行政で行うものなので、住民が協力する必要はない
- わからない
- ▨ その他
- 無回答



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

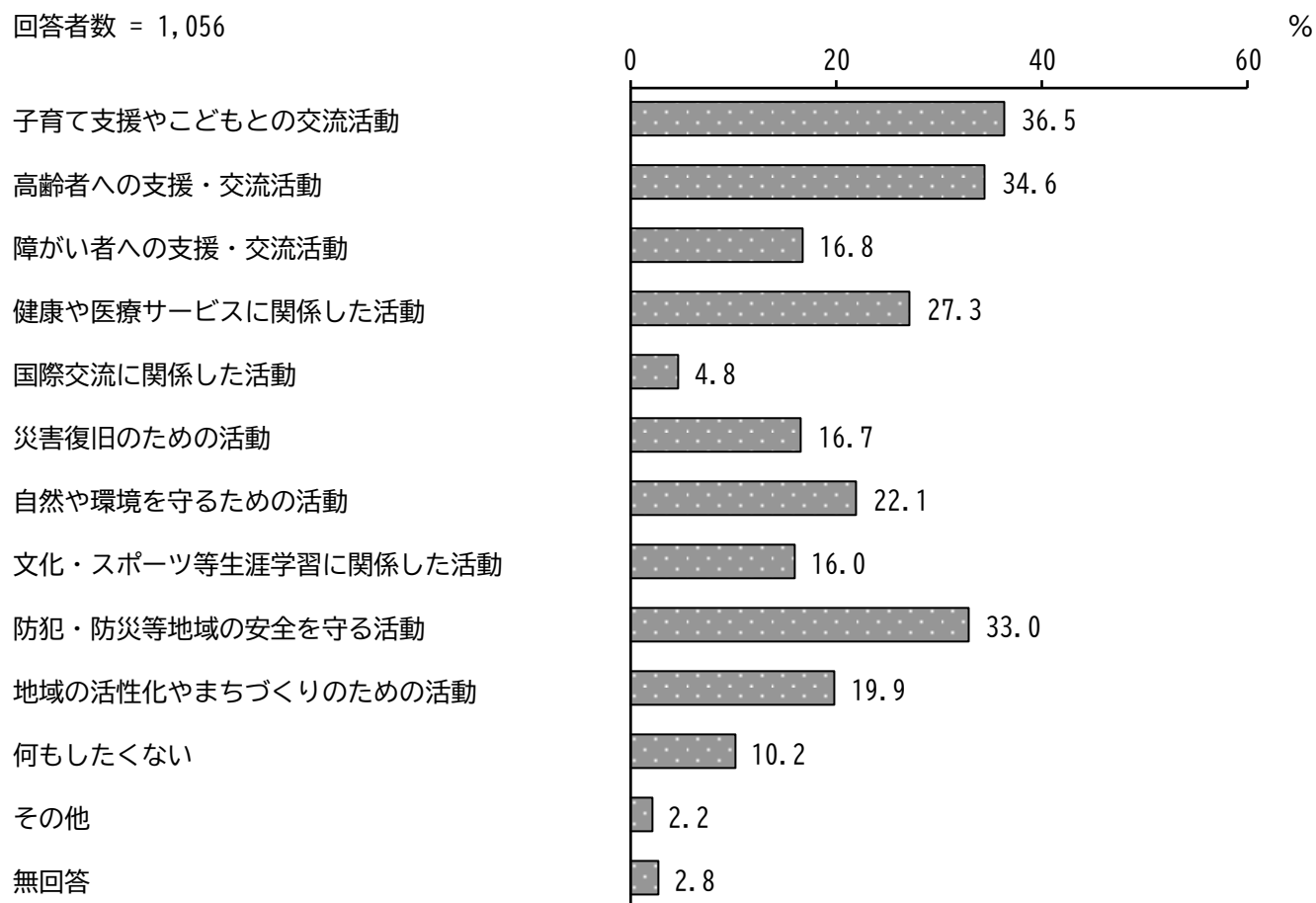
- 地域住民が主体的に行うものなので、行政で行うべきではない
- ▨ 地域住民が主体的に行うものだが、住民で解決できない問題は、行政が行うべき
- ▤ 地域住民・行政・福祉関係者が協力して取り組むべき
- 行政で行うものだが、行政で解決できない問題は、住民が協力して行うべき
- ▧ 行政で行うものなので、住民が協力する必要はない
- わからない
- ▨ その他
- 無回答



問 14 あなたは、地域福祉に関して、日頃、どのような取組をしたいと考えていますか。
(〇はいくつでも)

「子育て支援やこどもとの交流活動」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「高齢者への支援・交流活動」の割合が 34.6%、「防犯・防災等地域の安全を守る活動」の割合が 33.0%となっています。

回答者数 = 1,056



【年齢別】

年齢別にみると、「障がい者への支援・交流活動」の割合が18～29歳で低く、「健康や医療サービスに関係した活動」の割合が30～39歳で低く、「自然や環境を守るための活動」の割合が70歳以上で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	子育て支援やこどもとの交流活動	高齢者への支援・交流活動	障がい者への支援・交流活動	健康や医療サービスに関係した活動	国際交流に関係した活動	災害復旧のための活動	自然や環境を守るための活動	文化・スポーツ等生涯学習に関係した活動	防犯・防災等地域の安全を守る活動	地域の活性化やまちづくりのための活動	何もしたくない	その他	無回答
全 体	1,056	36.5	34.6	16.8	27.3	4.8	16.7	22.1	16.0	33.0	19.9	10.2	2.2	2.8
18～29歳	109	46.8	24.8	10.1	26.6	7.3	21.1	23.9	18.3	27.5	28.4	9.2	0.9	1.8
30～39歳	179	62.6	15.1	11.7	19.0	4.5	22.3	15.6	17.3	27.9	25.7	12.8	1.7	1.1
40～49歳	170	41.8	25.9	18.8	30.0	5.9	20.6	20.0	17.1	31.2	15.3	14.7	1.8	0.6
50～59歳	172	27.9	37.2	16.3	29.1	6.4	15.7	20.9	12.2	34.3	23.8	8.1	4.7	2.3
60～69歳	215	28.4	46.0	20.0	31.2	2.3	12.1	20.0	15.3	37.2	15.3	10.2	2.8	3.7
70歳以上	202	19.8	48.5	19.8	27.2	4.0	11.9	29.7	16.8	36.1	14.9	6.4	1.0	6.4

【地区別】

地区別にみると、「高齢者への支援・交流活動」の割合が綾歌中学校区で高く、西中学校区で低くなっています。

単位：％

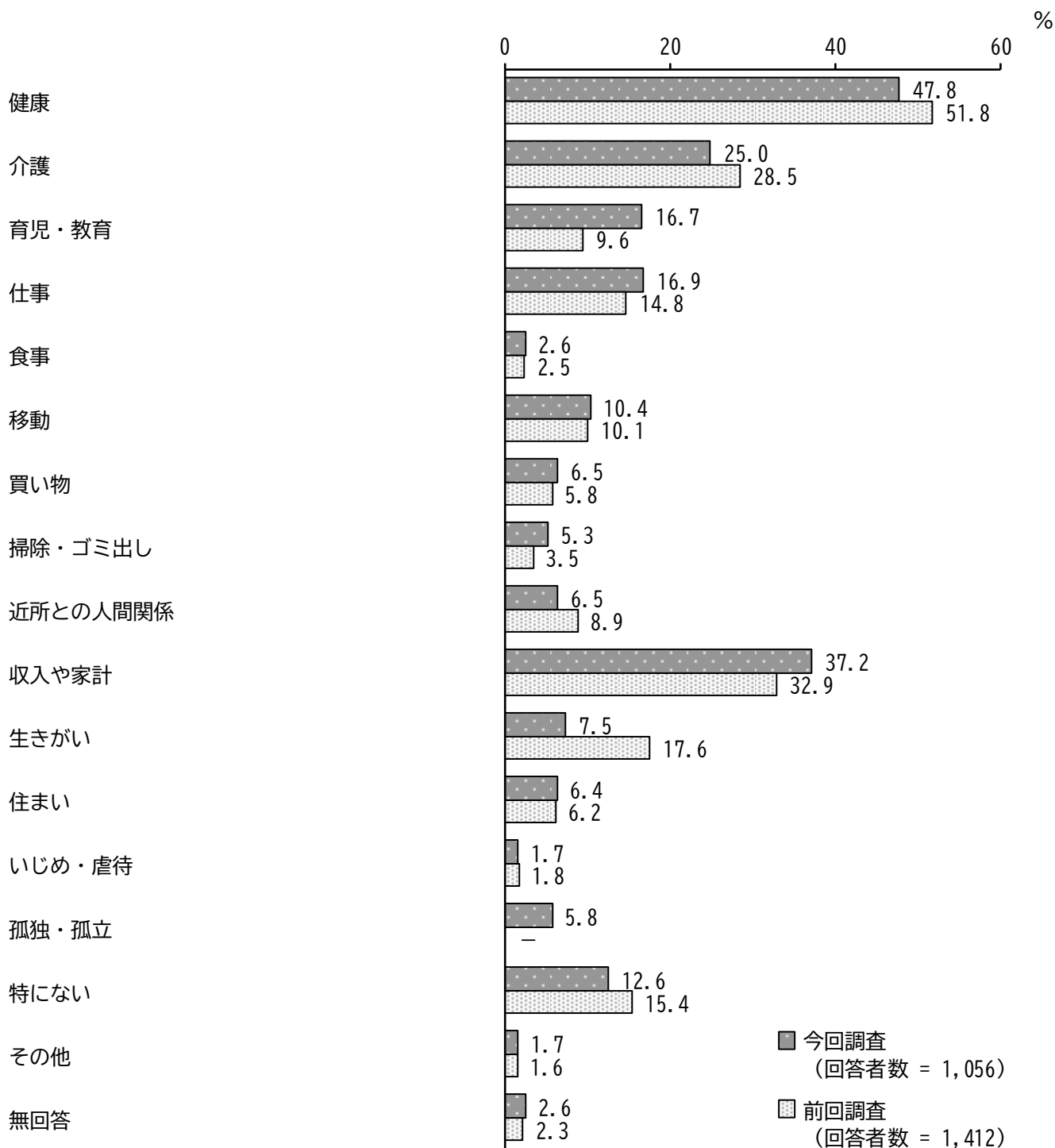
質問項目 地区	回答者数(件)	子育て支援やこどもとの交流活動	高齢者への支援・交流活動	障がい者への支援・交流活動	健康や医療サービスに関係した活動	国際交流に関係した活動	災害復旧のための活動	自然や環境を守るための活動	文化・スポーツ等生涯学習に関係した活動	防犯・防災等地域の安全を守る活動	地域の活性化やまちづくりのための活動	何もしたくない	その他	無回答
全 体	1,056	36.5	34.6	16.8	27.3	4.8	16.7	22.1	16.0	33.0	19.9	10.2	2.2	2.8
東中学校区（島しょ部含む）	251	36.3	35.5	15.1	29.1	5.6	17.1	21.9	14.7	36.7	20.7	12.0	1.2	3.6
西中学校区	225	40.0	29.3	16.4	28.4	5.3	16.9	21.8	17.8	29.8	21.3	11.6	1.3	1.8
南中学校区	243	36.6	32.9	17.3	25.9	3.7	14.4	21.8	17.7	30.5	16.5	11.1	1.2	2.9
綾歌中学校区	183	32.8	39.3	15.8	26.8	4.4	16.9	22.4	14.2	35.0	21.9	6.6	5.5	2.7
飯山中学校区	133	36.8	38.3	19.5	26.3	5.3	19.5	18.8	15.8	34.6	19.5	8.3	2.3	2.3

(3) 日常生活について

問15 あなたは、毎日の暮らしの中で、今困っていることや将来心配なことがありますか。
(○は3つまで)

「健康」の割合が47.8%と最も高く、次いで「収入や家計」の割合が37.2%、「介護」の割合が25.0%となっています。

前回調査と比較すると、「育児・教育」の割合が増加しています。一方、「生きがい」の割合が減少しています。



※前回調査では、「生きがい」が「生きがい・将来」となっており、「孤独・孤立」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、「健康」、「生きがい」で男性の割合が高く、「育児・教育」で女性の割合が高くなっています。

単位：％

質問項目 性別	回答者数 (件)	健康	介護	育児・ 教育	仕事	食事	移動	買い物	掃除・ゴミ出し
全 体	1,056	47.8	25.0	16.7	16.9	2.6	10.4	6.5	5.3
男性	451	52.8	25.1	11.3	19.3	3.3	10.4	6.9	4.9
女性	594	43.9	25.1	21.0	15.0	2.0	10.6	6.4	5.7

質問項目 性別	近所との人間関係	収入や家計	生きがい	住まい	いじめ・虐待	孤独・孤立	特にない	その他	無回答
全 体	6.5	37.2	7.5	6.4	1.7	5.8	12.6	1.7	2.6
男性	8.0	37.0	10.4	5.5	2.0	6.2	11.8	2.0	2.2
女性	5.6	37.2	5.2	7.2	1.5	5.4	13.5	1.5	2.9

【年齢別】

年齢別にみると、「育児・教育」の割合が30～39歳で高く、「仕事」の割合が18～29歳で高く、「買い物」の割合が70歳以上で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	健康	介護	育児・ 教育	仕事	食事	移動	買い物	掃除・ゴミ出し
全 体	1,056	47.8	25.0	16.7	16.9	2.6	10.4	6.5	5.3
18～29歳	109	23.9	15.6	23.9	32.1	4.6	8.3	3.7	6.4
30～39歳	179	33.0	19.0	45.3	22.9	2.2	10.6	3.9	6.1
40～49歳	170	35.9	19.4	28.8	22.4	1.8	7.6	6.5	3.5
50～59歳	172	55.8	32.0	8.7	17.4	1.7	9.9	4.7	6.4
60～69歳	215	60.9	30.2	1.4	11.6	1.9	12.1	4.7	3.3
70歳以上	202	62.4	28.7	1.0	3.5	4.0	12.9	14.4	6.9

質問項目 年齢	近所との人間関係	収入や家計	生きがい	住まい	いじめ・虐待	孤独・孤立	特にない	その他	無回答
全 体	6.5	37.2	7.5	6.4	1.7	5.8	12.6	1.7	2.6
18～29歳	3.7	45.9	13.8	4.6	0.9	3.7	14.7	1.8	0.9
30～39歳	8.4	46.4	5.6	5.0	5.6	3.4	8.4	2.8	2.2
40～49歳	6.5	38.8	6.5	6.5	0.6	7.1	15.3	0.6	2.9
50～59歳	2.9	41.9	3.5	9.9	1.2	5.2	10.5	1.7	2.9
60～69歳	6.5	34.4	9.3	6.0	0.9	6.5	13.5	2.8	1.9
70歳以上	9.9	22.3	7.9	6.4	1.0	7.4	14.4	0.5	4.0

【同居家族構成別】

同居家族構成別にみると、「住まい」の割合が単身（一人暮らし）で高くなっています。

単位：％

同居家族構成	質問項目	回答者数 (件)	健康	介護	育児・教育	仕事	食事	移動	買い物	掃除・ゴミ出し
全 体		1,056	47.8	25.0	16.7	16.9	2.6	10.4	6.5	5.3
単身（一人暮らし）		100	53.0	23.0	6.0	25.0	7.0	13.0	12.0	6.0
夫婦のみ（あなたと配偶者のみ）		272	58.8	28.3	7.4	11.0	3.3	9.9	8.8	5.9
二世世代世帯（親と子）		543	40.9	23.4	25.6	18.2	2.0	10.1	5.0	5.7
三世世代世帯（親と子と孫）		83	49.4	22.9	8.4	14.5	－	12.0	2.4	2.4
単身赴任中		6	16.7	16.7	－	16.7	－	－	－	－
その他		35	48.6	28.6	8.6	22.9	－	8.6	8.6	2.9

同居家族構成	質問項目	近所との人間関係	収入や家計	生きがい	住まい	いじめ・虐待	孤独・孤立	特にない	その他	無回答
全 体		6.5	37.2	7.5	6.4	1.7	5.8	12.6	1.7	2.6
単身（一人暮らし）		5.0	41.0	8.0	13.0	2.0	13.0	5.0	2.0	3.0
夫婦のみ（あなたと配偶者のみ）		8.1	29.8	8.5	5.9	－	7.4	11.4	1.8	3.3
二世世代世帯（親と子）		6.6	40.3	6.6	5.9	2.6	3.3	13.3	1.8	2.6
三世世代世帯（親と子と孫）		6.0	37.3	10.8	6.0	2.4	3.6	19.3	－	1.2
単身赴任中		16.7	16.7	16.7	－	－	16.7	50.0	－	－
その他		－	40.0	2.9	5.7	－	14.3	14.3	2.9	－

【地区別】

地区別にみると、「介護」の割合が飯山中学校区で高く、「育児・教育」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

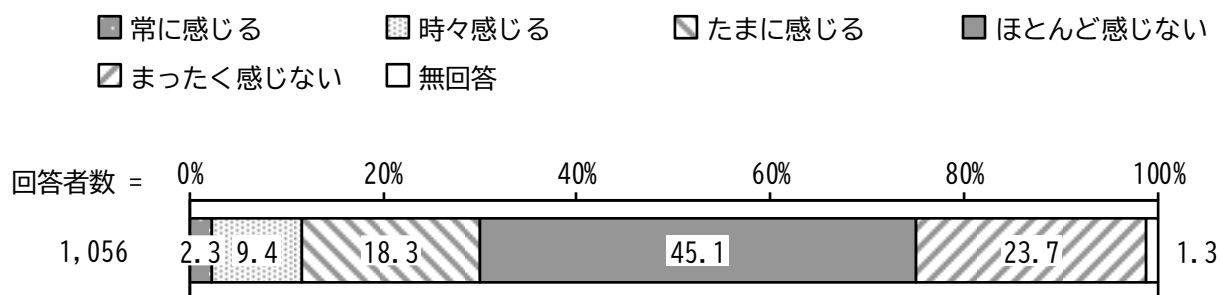
単位：％

地区	質問項目	回答者数 (件)	健康	介護	育児・教育	仕事	食事	移動	買い物	掃除・ゴミ出し
全 体		1,056	47.8	25.0	16.7	16.9	2.6	10.4	6.5	5.3
東中学校区（島しょ部含む）		251	47.4	19.5	20.7	16.3	2.0	8.0	5.6	6.0
西中学校区		225	45.3	23.1	24.9	18.7	3.1	7.6	5.3	4.0
南中学校区		243	47.7	27.2	16.5	14.4	4.5	12.8	7.0	4.9
綾歌中学校区		183	48.1	25.1	6.6	16.9	0.5	12.0	9.8	8.2
飯山中学校区		133	51.9	35.3	11.3	19.5	2.3	12.8	5.3	1.5

地区	質問項目	近所との人間関係	収入や家計	生きがい	住まい	いじめ・虐待	孤独・孤立	特にない	その他	無回答
全 体		6.5	37.2	7.5	6.4	1.7	5.8	12.6	1.7	2.6
東中学校区（島しょ部含む）		7.6	37.1	8.0	6.0	0.4	7.2	13.5	2.0	2.4
西中学校区		8.4	35.1	6.7	5.3	4.0	5.3	14.2	1.3	1.3
南中学校区		7.4	42.0	7.4	7.0	1.2	4.1	9.5	0.8	3.7
綾歌中学校区		3.3	36.1	7.7	7.7	0.5	5.5	14.2	3.8	3.8
飯山中学校区		5.3	36.8	6.8	6.8	3.0	7.5	12.8	0.8	0.8

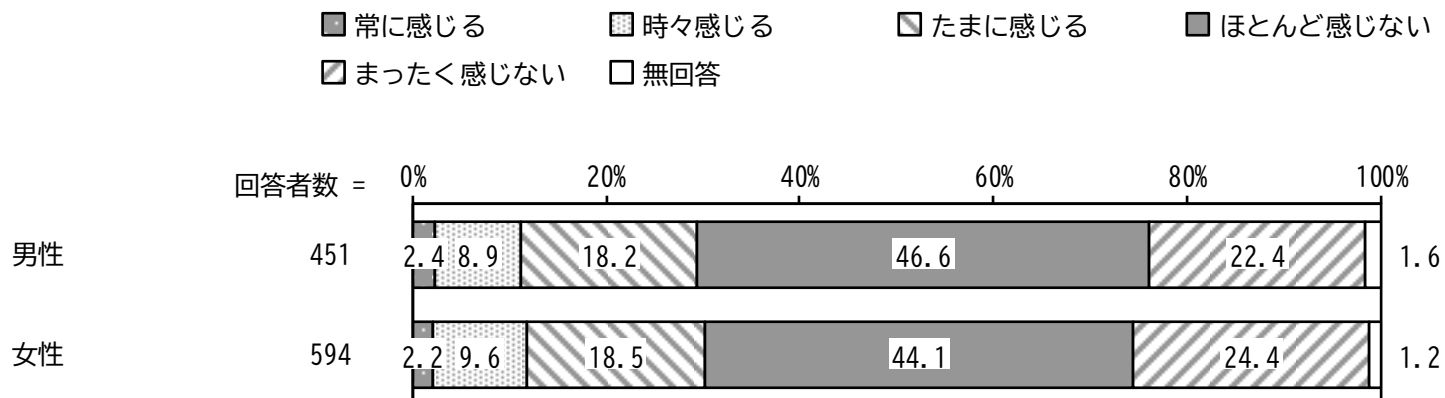
問 16 あなたは、普段孤独を感じますか。(○は1つ)

「常を感じる」「時々感じる」「たまを感じる」を合わせた“感じる”の割合が30.0%、「ほとんど感じない」「まったく感じない」を合わせた“感じない”の割合が68.8%となっています。



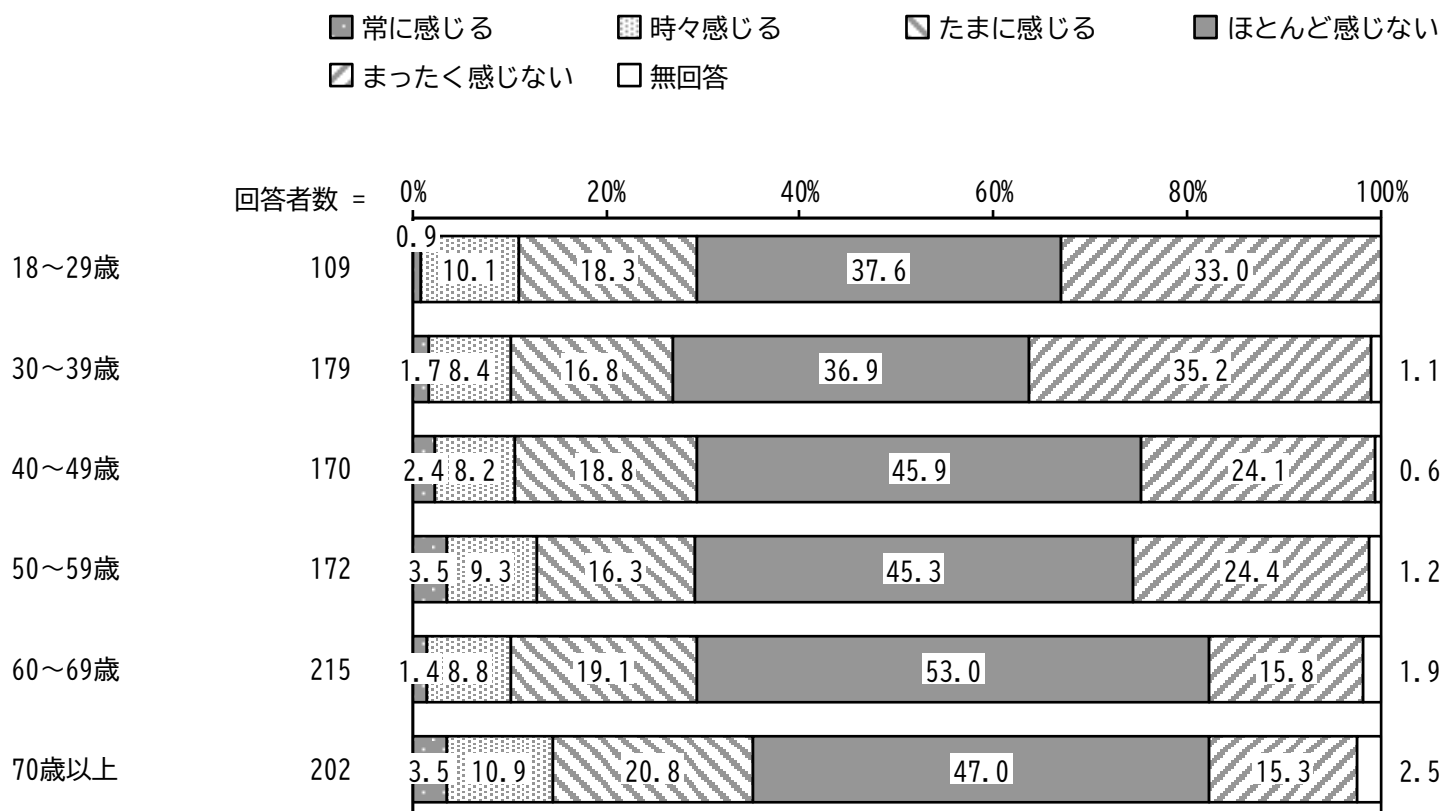
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



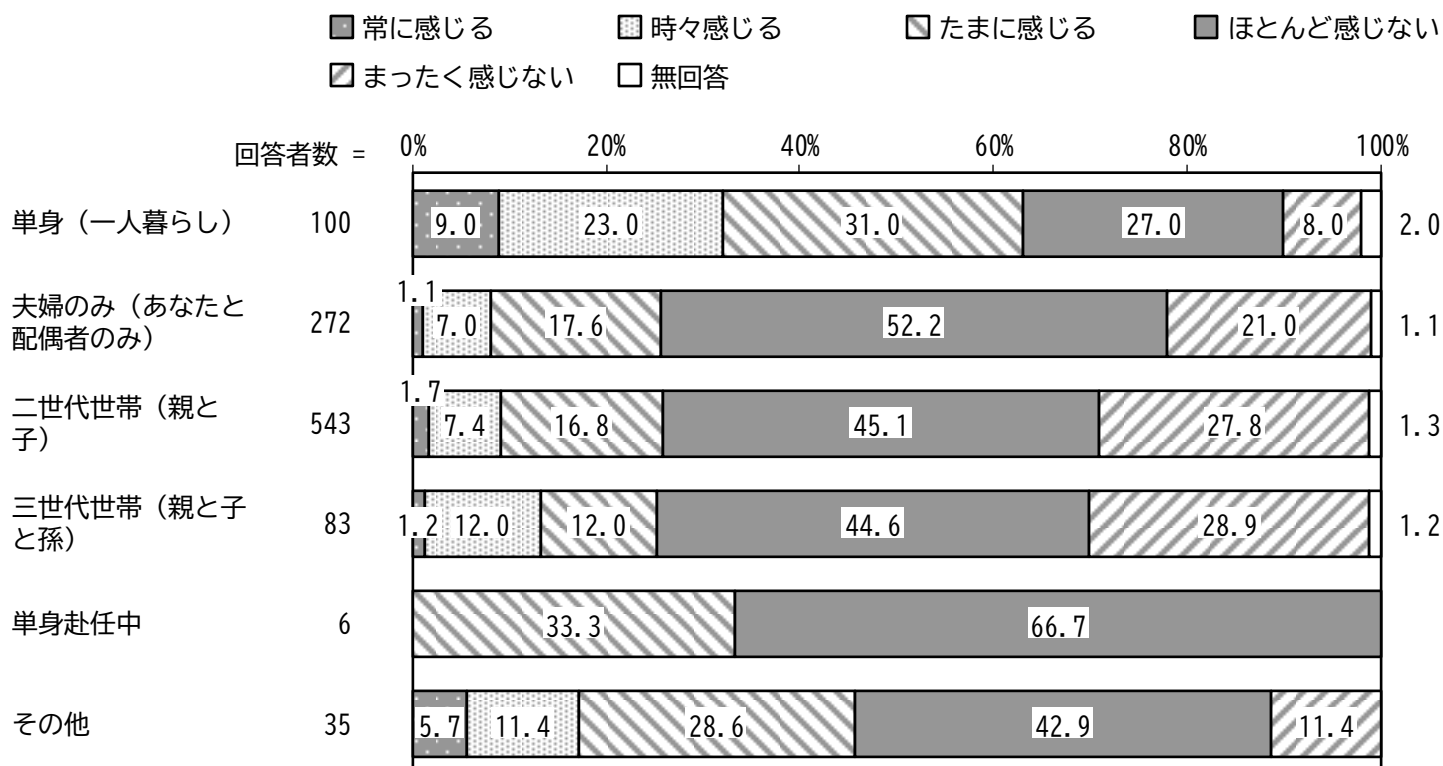
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



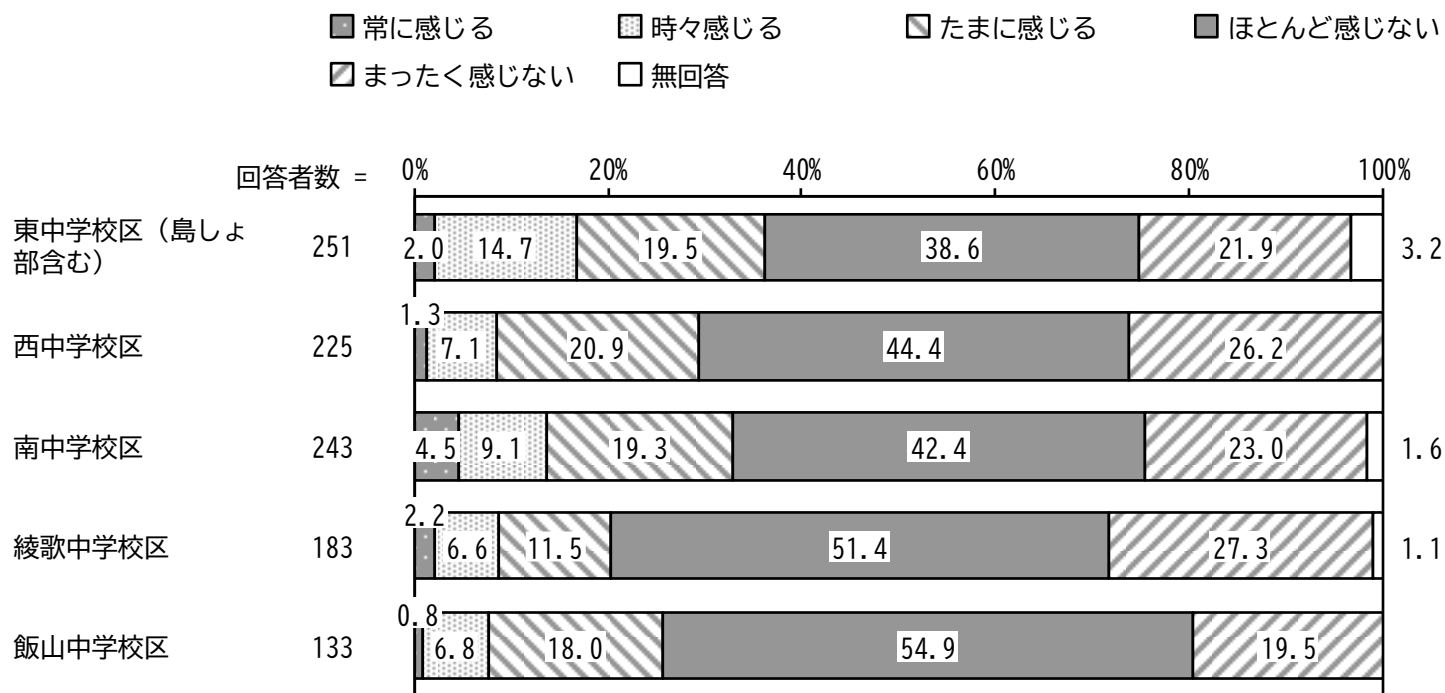
【同居家族構成別】

同居家族構成別にみると、“感じない”の割合が単身（一人暮らし）で低くなっています。



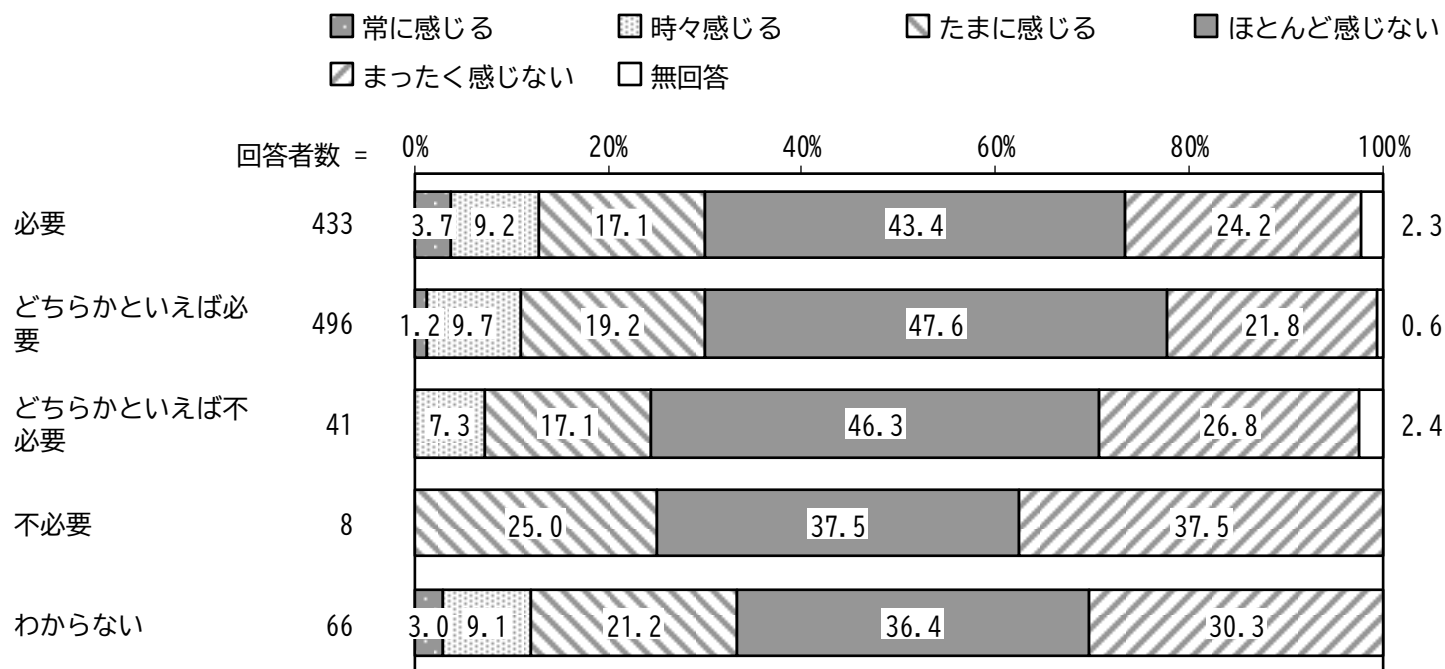
【地区別】

地区別にみると、“感じる”の割合が東中学校校区（島しょ部含む）で高くなっています。



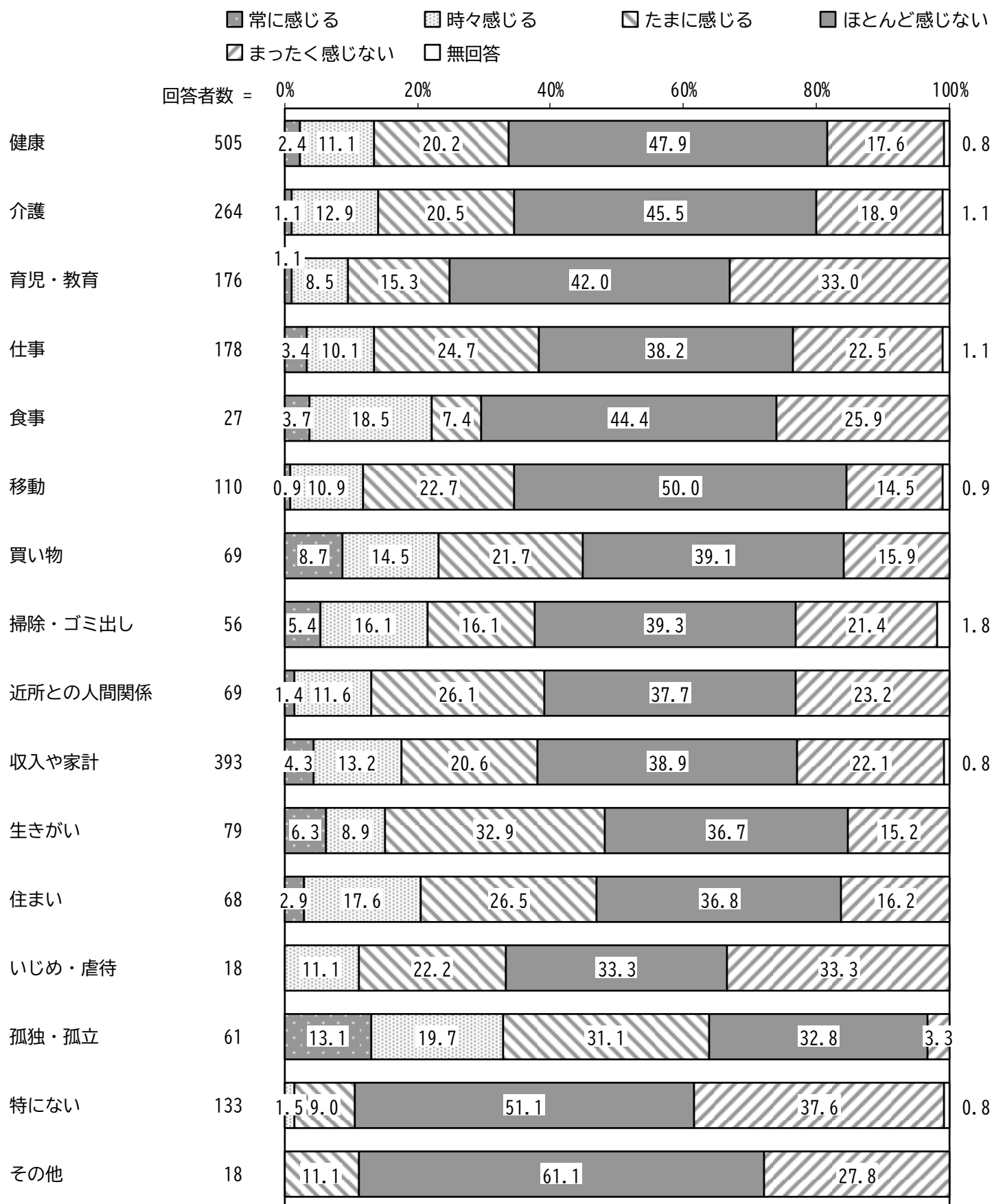
【住民同士の支え合い・助け合いの必要性別】

住民同士の支え合い・助け合いの必要性別にみると、大きな差はみられません。



【今困っていることや将来心配なこと別】

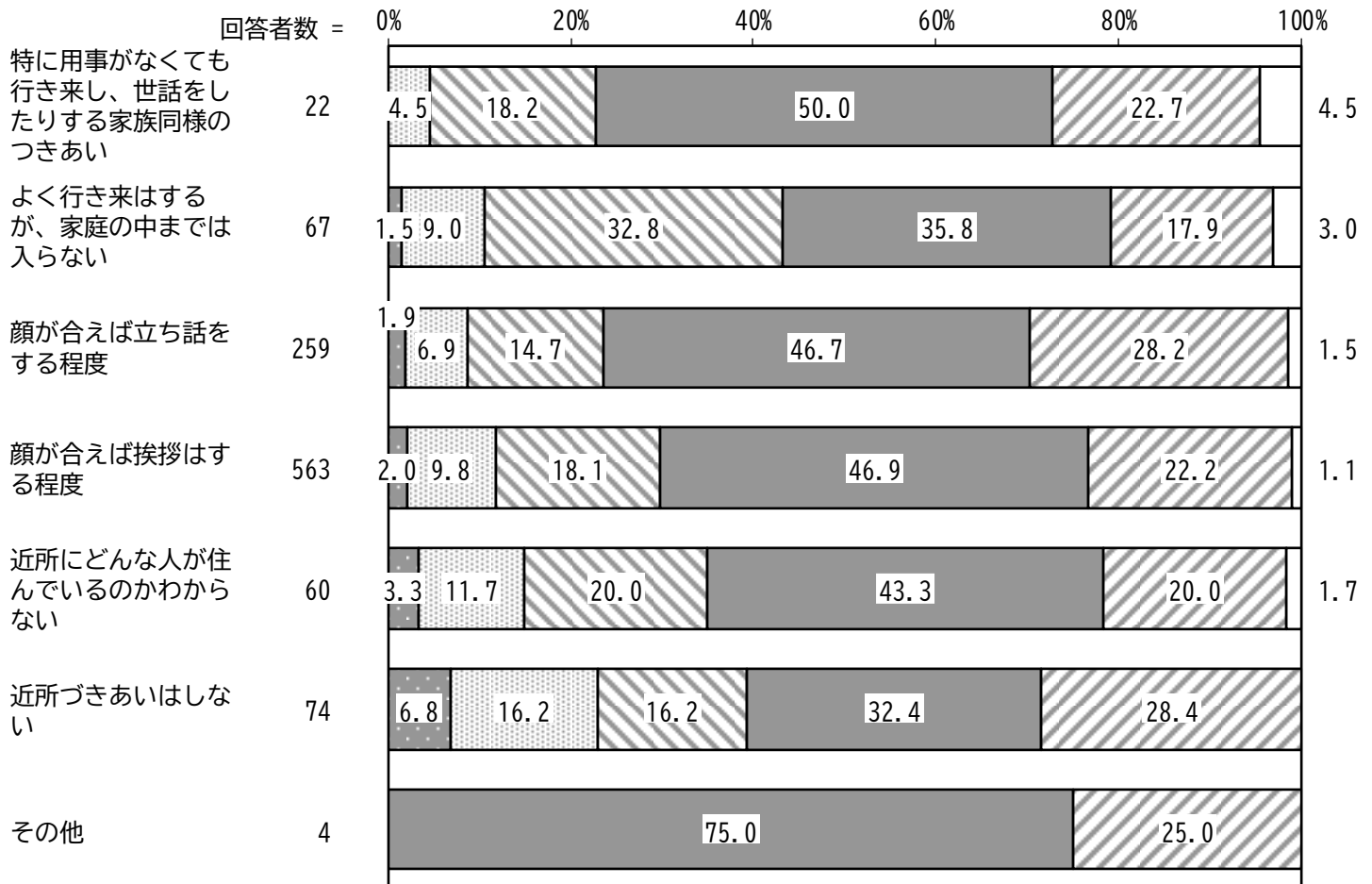
今困っていることや将来心配なこと別にみると、“感じる”の割合が『生きがい、住まい、孤独・孤立』で高く、“感じない”の割合が『特にない』で高くなっています。



【近所との関わり方別】

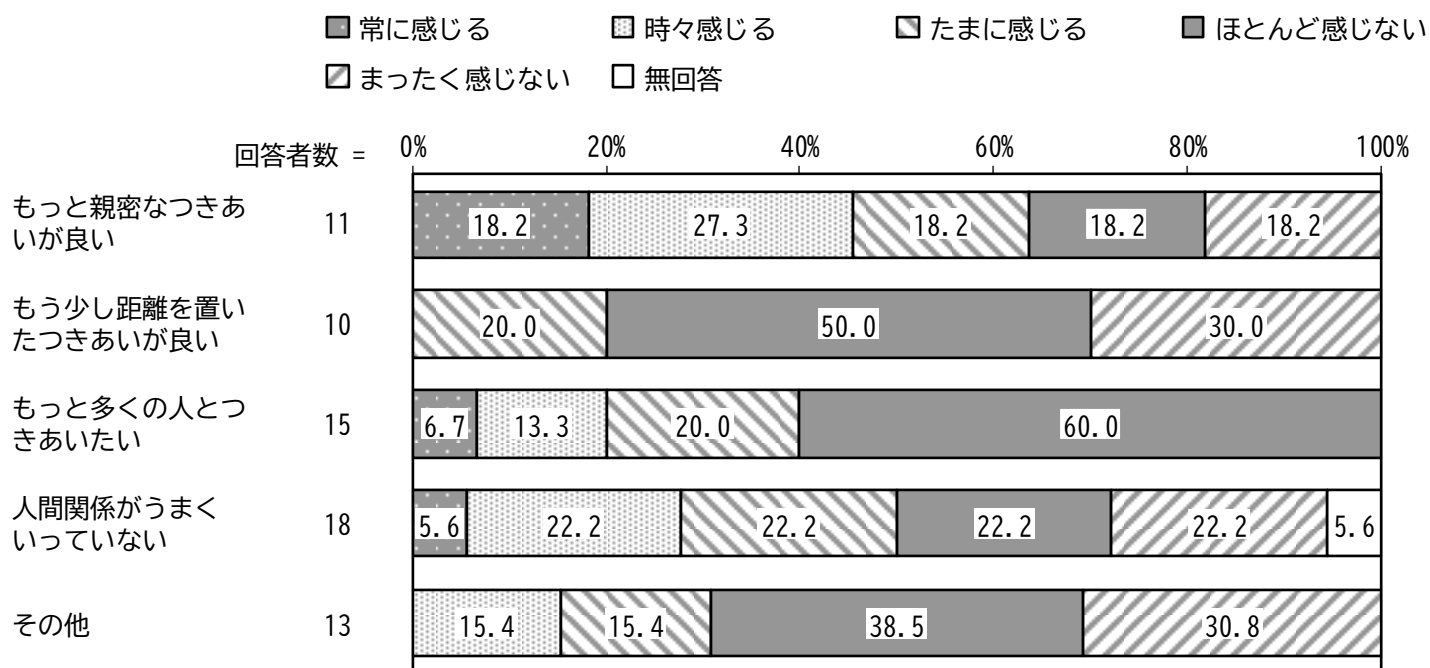
近所との関わり方別にみると、近所との関わりがない人ほど孤独を感じる割合（「常を感じる」と「時々感じる」の合計）が高い傾向にあります。

常を感じる
 時々感じる
 たまを感じる
 ほとんど感じない
 まったく感じない
 無回答



【今の近所づきあいで不満なこと別】

今の近所づきあいで不満なこと別にみると、“感じる”の割合が『もっと親密なつきあいが良い』で高く、“感じない”の割合が『もう少し距離を置いたつきあいが良い』で高くなっています。

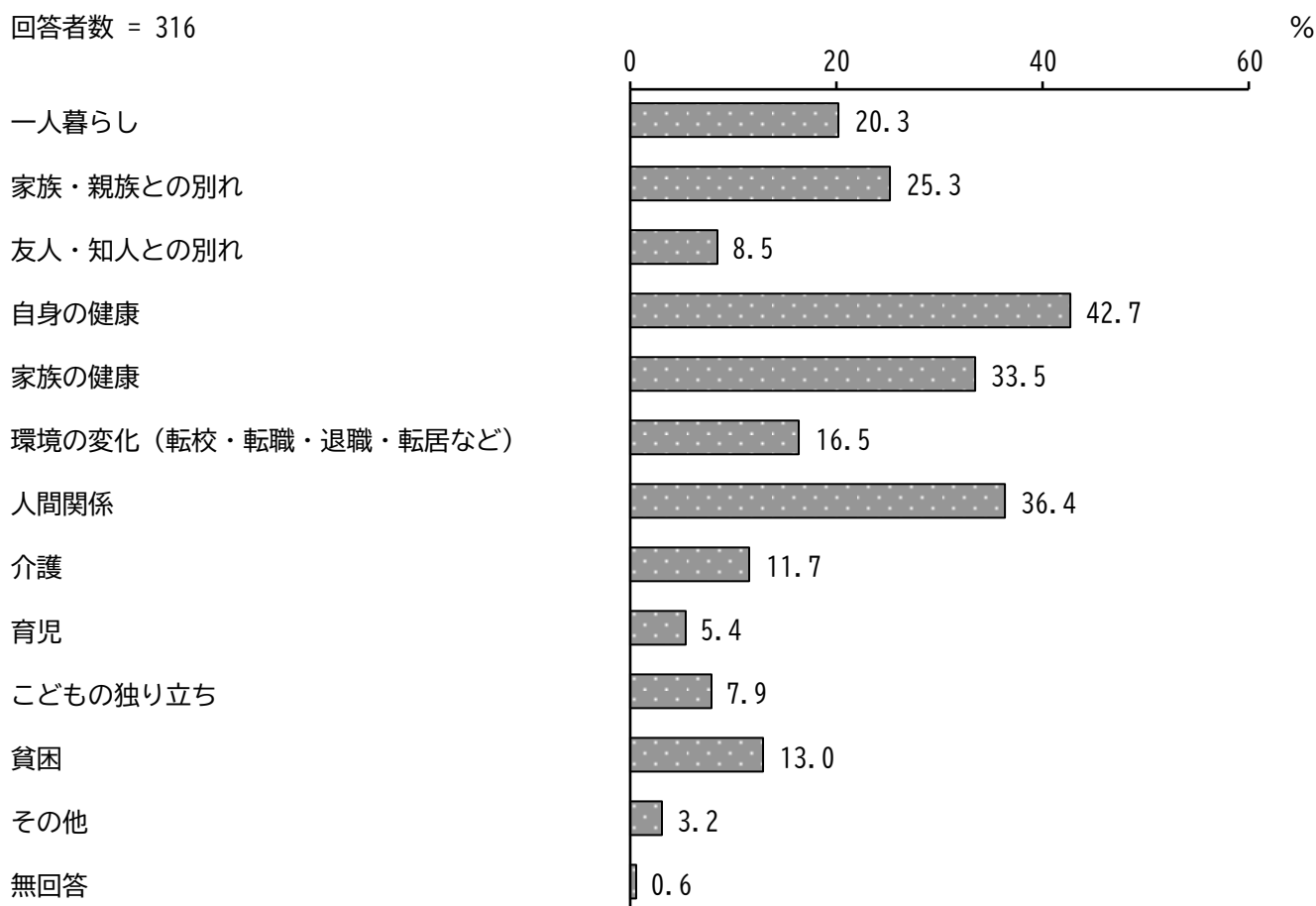


問 16 で「常を感じる」「時々感じる」「たまを感じる」を選んだ方におうかがいします。

問 17 あなたの孤独感に影響を与えたと思われる出来事はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

「自身の健康」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「人間関係」の割合が 36.4%、「家族の健康」の割合が 33.5%となっています。

回答者数 = 316



【性別】

性別にみると、「一人暮らし」、「自身の健康」で男性の割合が高く、「家族・親族との別れ」、「環境の変化（転校・転職・退職・転居など）」、「育児」で女性の割合が高くなっています。

単位：%

質問項目	回答者数（件）	一人暮らし	家族・親族との別れ	友人・知人との別れ	自身の健康	家族の健康	環境の変化（転校・転職・退職・転居など）	人間関係	介護	育児	こどもの独り立ち	貧困	その他	無回答
性別														
全 体	316	20.3	25.3	8.5	42.7	33.5	16.5	36.4	11.7	5.4	7.9	13.0	3.2	0.6
男性	133	25.6	20.3	9.0	50.4	31.6	12.8	37.6	9.8	1.5	4.5	12.0	3.8	1.5
女性	180	16.7	28.9	7.8	37.2	34.4	19.4	35.6	12.8	8.3	9.4	13.9	2.8	—

【年齢別】

年齢別にみると、「家族・親族との別れ」の割合が40～49歳で低く、「友人・知人との別れ」の割合が50～59歳で低く、「家族の健康」の割合が70歳以上で高く、「人間関係」の割合が18～29歳で高く、「育児」の割合が30～39歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	一人暮らし	家族・親族との別れ	友人・知人との別れ	自身の健康	家族の健康	環境の変化 (転校・転職・退職・転居など)	人間関係	介護	育児	こどもの独り立ち	貧困	その他	無回答
全 体	316	20.3	25.3	8.5	42.7	33.5	16.5	36.4	11.7	5.4	7.9	13.0	3.2	0.6
18～29歳	32	31.3	15.6	15.6	28.1	31.3	21.9	53.1	6.3	3.1	—	—	3.1	—
30～39歳	48	8.3	18.8	12.5	16.7	22.9	33.3	52.1	2.1	18.8	—	18.8	6.3	2.1
40～49歳	50	10.0	12.0	8.0	28.0	26.0	30.0	38.0	—	12.0	12.0	16.0	6.0	2.0
50～59歳	50	22.0	32.0	2.0	54.0	36.0	4.0	34.0	18.0	2.0	16.0	18.0	2.0	—
60～69歳	63	22.2	28.6	4.8	57.1	28.6	14.3	30.2	14.3	—	11.1	7.9	3.2	—
70歳以上	71	28.2	35.2	11.3	56.3	47.9	4.2	23.9	21.1	—	4.2	14.1	—	—

【地区別】

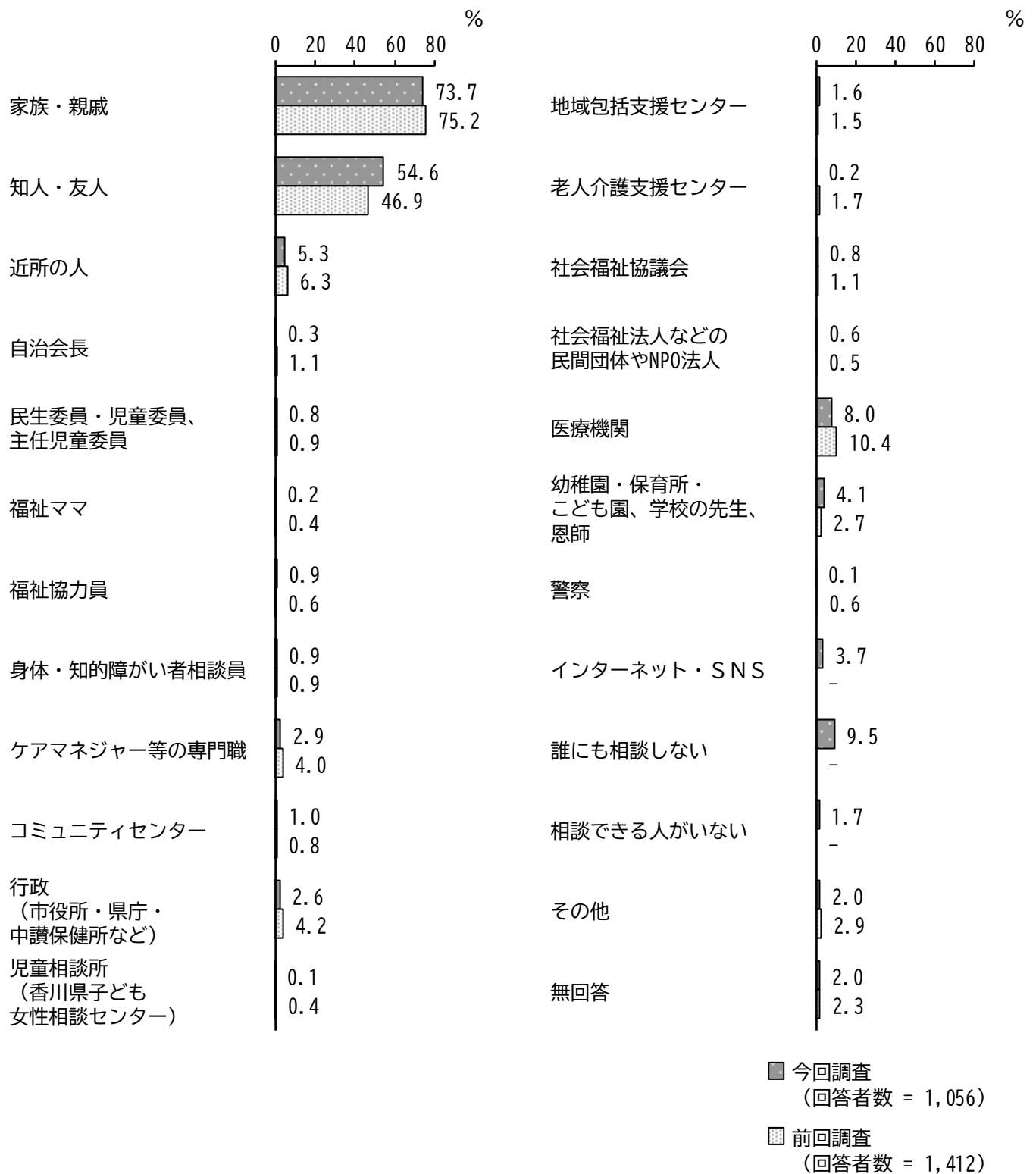
地区別にみると、「一人暮らし」の割合が南中学校区で高く、「家族の健康」の割合が綾歌中学校区で高く、「育児」の割合が飯山中学校区で高くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	一人暮らし	家族・親族との別れ	友人・知人との別れ	自身の健康	家族の健康	環境の変化 (転校・転職・退職・転居など)	人間関係	介護	育児	こどもの独り立ち	貧困	その他	無回答
全 体	316	20.3	25.3	8.5	42.7	33.5	16.5	36.4	11.7	5.4	7.9	13.0	3.2	0.6
東中学校区（島しょ部含む）	91	18.7	19.8	7.7	41.8	30.8	17.6	30.8	14.3	4.4	11.0	13.2	—	—
西中学校区	66	18.2	25.8	6.1	37.9	30.3	18.2	39.4	10.6	9.1	9.1	15.2	4.5	—
南中学校区	80	26.3	28.8	12.5	40.0	31.3	11.3	33.8	7.5	2.5	3.8	13.8	5.0	2.5
綾歌中学校区	37	18.9	32.4	2.7	59.5	48.6	21.6	45.9	16.2	2.7	8.1	13.5	2.7	—
飯山中学校区	34	14.7	23.5	14.7	44.1	35.3	17.6	41.2	11.8	11.8	5.9	8.8	2.9	—

問 18 あなたは現在、不安や悩みを誰に、もしくはどこに相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族・親戚」の割合が 73.7%と最も高く、次いで「知人・友人」の割合が 54.6%となっています。
前回調査と比較すると、「知人・友人」の割合が増加しています。



※前回調査では、「民生委員・児童委員、主任児童委員」が「民生委員・児童委員」、「誰にも相談しない」と「相談できる人がいない」が「誰にも相談しない・相談できる人がいない」となっており、あわせて 10.5%となっていました。また、「インターネット・SNS」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、「誰にも相談しない」で男性の割合が高く、「家族・親戚」、「知人・友人」で女性の割合が高くなっています。

単位：％

性別	質問項目	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	近所の人	自治会長	民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉ママ	福祉協力員	身体・知的障がい者相談員	ケアマネジャー等の専門職	コミュニティーセン ター	行政(市役所・県庁・中 済保健所など)	児童相談所(香川県 子ども女性相談セ ンター)
全 体		1,056	73.7	54.6	5.3	0.3	0.8	0.2	0.9	0.9	2.9	1.0	2.6	0.1
男性		451	69.6	42.6	2.9	0.7	1.1	—	0.4	1.1	2.2	0.9	2.9	—
女性		594	77.1	64.1	7.2	—	0.5	0.3	1.2	0.8	3.5	1.2	2.4	0.2

性別	質問項目	地域包括支援セン ター	老人介護支援セン ター	社会福祉協議会	社会福祉法人などの 民間団体やその他	医療機関	幼稚園・保育所・こ ども園、学校の先 生、恩師	警察	インターネット・S NS	誰にも相談しない	相談できる人がい ない	その他	無回答
全 体		1.6	0.2	0.8	0.6	8.0	4.1	0.1	3.7	9.5	1.7	2.0	2.0
男性		1.1	—	1.1	—	8.6	1.8	0.2	4.2	12.9	2.7	1.8	2.2
女性		2.0	0.3	0.5	1.0	7.4	5.9	—	3.4	6.7	1.0	2.2	1.9

【年齢別】

年齢別にみると、「知人・友人」の割合が18～29歳で高く、「医療機関」の割合が70歳以上で高く、「幼稚園・保育所・こども園、学校の先生、恩師」の割合が30～39歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	近所の人	自治会長	民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉ママ	福祉協力員	身体・知的障がい者相談員	ケアマネジャー等の専門職	コミュニティセン ター	行政(市役所・県庁・中 読保健所など)	児童相談所(香川県 子ども女性相談セ ンター)
全 体	1,056	73.7	54.6	5.3	0.3	0.8	0.2	0.9	0.9	2.9	1.0	2.6	0.1
18～29歳	109	83.5	79.8	0.9	—	—	—	—	0.9	1.8	0.9	—	—
30～39歳	179	76.5	58.1	5.0	—	—	—	2.2	—	1.7	1.1	3.9	—
40～49歳	170	73.5	58.8	5.9	—	—	—	0.6	2.4	1.8	—	0.6	—
50～59歳	172	70.9	52.3	2.3	—	—	—	0.6	0.6	2.3	—	2.9	—
60～69歳	215	74.4	49.3	7.9	0.5	0.9	0.9	0.5	0.9	1.9	1.4	3.3	0.5
70歳以上	202	68.3	43.1	7.4	1.0	3.0	—	1.0	1.0	7.4	2.5	3.5	—

質問項目 年齢	地域包括支援セン ター	老人介護支援セン ター	社会福祉協議会	人の社会福祉法人など の民間団体や法	医療機関	幼稚園・保育所・こ ども園、学校の先 生、恩師	警察	インターネット・S NS	誰にも相談しない	相談できる人がい ない	その他	無回答
全 体	1.6	0.2	0.8	0.6	8.0	4.1	0.1	3.7	9.5	1.7	2.0	2.0
18～29歳	—	—	—	—	1.8	5.5	—	4.6	2.8	0.9	0.9	—
30～39歳	1.7	—	1.1	1.1	5.0	11.2	—	5.0	11.2	1.1	2.8	1.7
40～49歳	—	—	—	1.8	7.6	5.9	0.6	5.3	11.2	2.4	4.1	0.6
50～59歳	1.7	—	1.2	0.6	6.4	2.3	—	2.3	11.0	2.9	2.3	1.7
60～69歳	1.4	—	—	—	10.2	0.9	—	3.7	9.8	1.9	0.5	2.3
70歳以上	4.0	1.0	2.0	—	12.9	0.5	—	2.0	7.9	1.0	1.5	4.5

【地区別】

地区別にみると、「知人・友人」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	近所の人	自治会長	民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉ママ	福祉協力員	身体・知的障がい者相談員	ケアマネジャー等の専門職	コミュニティーセン ター	行政(市役所・県庁・中 読保健所など)	児童相談所(香川県 子ども女性相談セ ンター)
全 体	1,056	73.7	54.6	5.3	0.3	0.8	0.2	0.9	0.9	2.9	1.0	2.6	0.1
東中学校区(島 しょ部含む)	251	76.5	59.4	6.8	0.4	0.4	—	0.4	0.4	2.4	0.4	3.6	—
西中学校区	225	76.4	54.2	2.7	—	—	—	1.3	0.9	1.8	0.4	1.8	0.4
南中学校区	243	70.0	53.5	5.8	0.4	0.8	—	0.4	1.6	4.1	0.8	1.2	—
綾歌中学校区	183	71.6	48.6	2.2	0.5	2.2	1.1	1.1	1.1	2.7	2.2	2.7	—
飯山中学校区	133	77.4	58.6	11.3	—	0.8	—	0.8	—	4.5	1.5	4.5	—

質問項目 地区	地域包括支援センター	老人介護支援センター	社会福祉協議会	社会福祉法人などの民間団体やその他の法人	医療機関	幼稚園・保育所・こども園、学校の先生、恩師	警察	インターネット・SNS	誰にも相談しない	相談できる人がいない	その他	無回答
全 体	1.6	0.2	0.8	0.6	8.0	4.1	0.1	3.7	9.5	1.7	2.0	2.0
東中学校区（島しょ部含む）	2.0	－	0.8	0.8	8.0	5.6	－	2.4	7.2	2.0	2.8	2.4
西中学校区	2.2	－	1.3	0.9	8.0	4.0	－	3.1	9.3	1.3	1.8	0.4
南中学校区	0.4	0.4	0.4	－	7.8	3.7	0.4	3.3	10.3	2.5	2.1	3.7
綾歌中学校区	2.2	－	0.5	－	9.3	3.3	－	5.5	8.7	2.2	2.2	2.7
飯山中学校区	1.5	0.8	0.8	1.5	6.8	3.8	－	5.3	11.3	－	0.8	－

【近所との関わり方別】

近所との関わり方別にみると、「家族・親戚」の割合が近所づきあいはいはしないで低く、「知人・友人」の割合がよく行き来はするが、家庭の中までは入らないで高く、「近所の人」の割合が特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあいで高くなっています。

単位：％

質問項目 近所との関わり方	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	近所の人	自治会長	民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉ママ	福祉協力員	身体・知的障がい者相談員	ケアマネジャー等の専門職	コミュニティセンター	行政(市役所・県庁・中 済保健所など)	児童相談所(香川県子ども 女性相談センター)
全 体	1,056	73.7	54.6	5.3	0.3	0.8	0.2	0.9	0.9	2.9	1.0	2.6	0.1
特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい	22	68.2	50.0	36.4	4.5	4.5	—	4.5	—	9.1	4.5	—	—
よく行き来はするが、家庭の中までは入らない	67	82.1	68.7	20.9	—	4.5	3.0	1.5	—	4.5	3.0	3.0	—
顔が合えば立ち話をする程度	259	77.6	54.1	9.7	0.4	0.4	—	—	1.5	5.0	1.2	3.1	0.4
顔が合えば挨拶はする程度	563	76.0	53.6	1.2	0.2	0.2	—	0.7	0.9	1.8	0.7	2.1	—
近所にどんな人が住んでいるのかわからない	60	65.0	58.3	—	—	1.7	—	1.7	—	3.3	1.7	6.7	—
近所づきあいはいはしない	74	44.6	45.9	—	—	1.4	—	2.7	1.4	1.4	—	1.4	—
その他	4	50.0	75.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

質問項目 近所との関わり方	地域包括支援センター	老人介護支援センター	社会福祉協議会	社会福祉法人などの民間団体やNPO法人	医療機関	幼稚園・保育所・こども園、学校の先生、恩師	警察	インターネット・SNS	誰にも相談しない	相談できる人がいない	その他	無回答
全 体	1.6	0.2	0.8	0.6	8.0	4.1	0.1	3.7	9.5	1.7	2.0	2.0
特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい	—	—	9.1	—	13.6	9.1	—	—	—	—	—	9.1
よく行き来はするが、家庭の中までは入らない	—	—	—	—	6.0	6.0	—	—	1.5	—	1.5	1.5
顔が合えば立ち話をする程度	1.5	0.4	0.8	0.4	10.8	2.3	—	3.1	6.9	1.5	1.2	1.9
顔が合えば挨拶はする程度	1.8	0.2	0.5	0.5	7.6	5.0	0.2	4.3	9.6	1.8	2.0	2.1
近所にどんな人が住んでいるのかわからない	1.7	—	1.7	1.7	3.3	5.0	—	6.7	11.7	—	3.3	1.7
近所づきあいはいはしない	1.4	—	—	—	5.4	—	—	4.1	25.7	5.4	4.1	—
その他	—	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—	25.0	—

【地域活動の参加有無別】

地域活動の参加有無別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

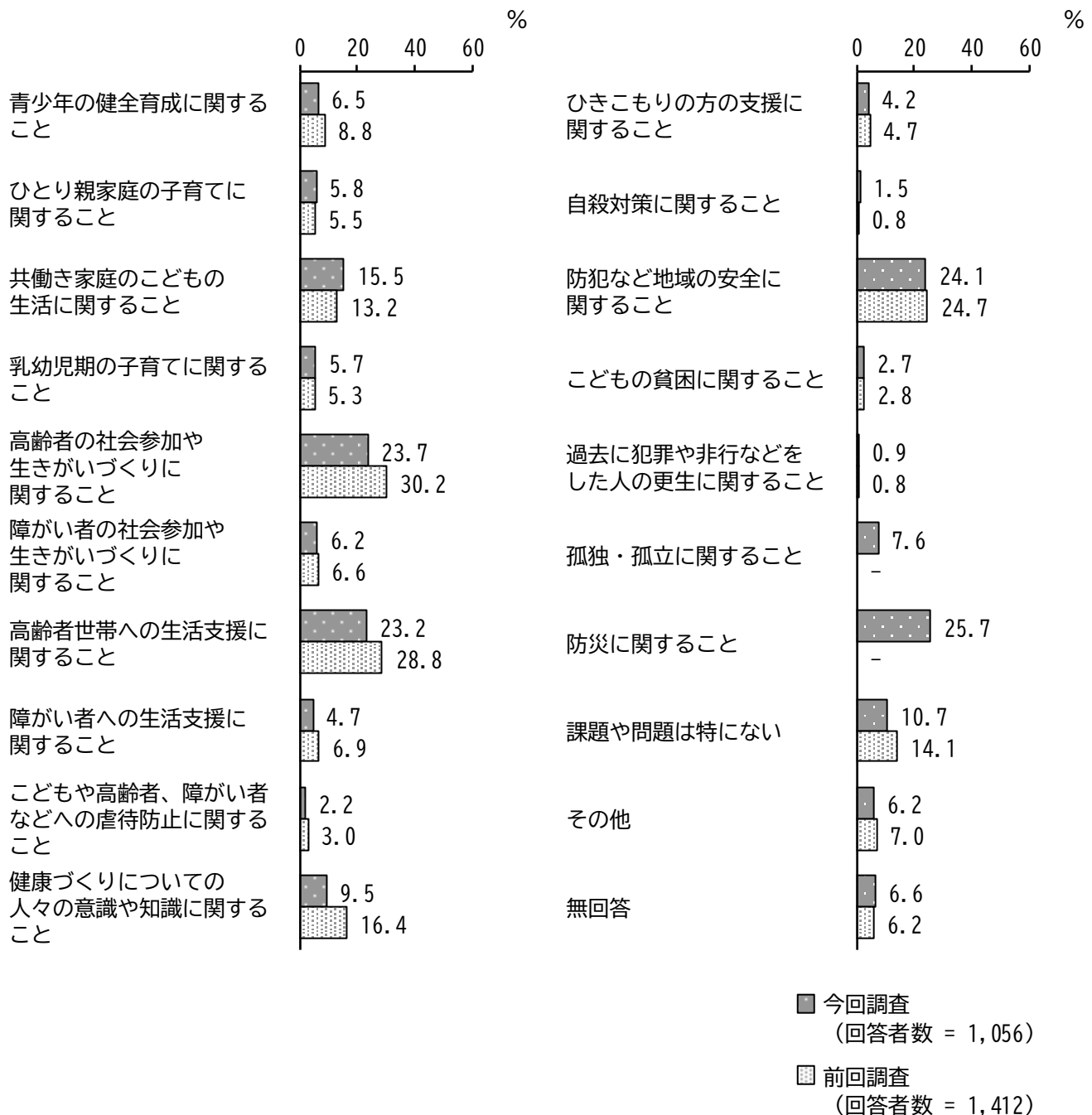
質問項目 地域活動の参加有無	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	近所の人	自治会長	民生委員・児童委員、 主任児童委員	福祉ママ	福祉協力員	身体・知的障がい者相談 員	ケアマネジャー等の専 門職	コミュニティセンター	行政(市役所・県庁・中 讃保健所など)	児童相談所(香川県子ど も女性相談センター)
全 体	1,056	73.7	54.6	5.3	0.3	0.8	0.2	0.9	0.9	2.9	1.0	2.6	0.1
現在活動している	259	74.9	55.2	10.0	1.2	1.9	0.8	0.8	0.8	2.3	1.5	2.7	0.4
現在活動していないが、過 去に活動したことがある	284	74.3	56.0	6.3	—	0.4	—	0.7	0.7	3.2	0.4	3.2	—
活動したことがない	508	73.0	53.7	2.2	—	0.4	—	1.0	1.2	3.0	1.0	2.2	—

質問項目 地域活動の参加有無	地域包括支援センター	老人介護支援センター	社会福祉協議会	社会福祉法人などの民 間団体やNPO法人	医療機関	幼稚園・保育所・こども 園、学校の先生、恩師	警察	インターネット・SNS	誰にも相談しない	相談できる人がいない	その他	無回答
全 体	1.6	0.2	0.8	0.6	8.0	4.1	0.1	3.7	9.5	1.7	2.0	2.0
現在活動している	1.5	—	0.8	—	8.9	4.6	—	1.9	7.7	1.5	1.2	2.3
現在活動していないが、過 去に活動したことがある	1.8	0.7	1.1	1.4	6.0	3.2	—	4.2	7.4	1.8	3.5	1.8
活動したことがない	1.4	—	0.6	0.4	8.5	4.3	0.2	4.3	11.4	1.8	1.6	2.0

問 19 あなたがお住まいの地域には、どのような課題や問題があると思いますか。
(○は3つまで)

「防災に関すること」の割合が 25.7%と最も高く、次いで「防犯など地域の安全に関すること」の割合が 24.1%、「高齢者の社会参加や生きがいのづくりに関すること」の割合が 23.7%となっています。

前回調査と比較すると、「高齢者の社会参加や生きがいのづくりに関すること」「高齢者世帯への生活支援に関すること」「健康づくりについての人々の意識や知識に関すること」の割合が減少しています。



※前回調査では、「ひとり親家庭の子育てに関すること」が「母子家庭や父子家庭の子育てに関すること」、「障がい者の社会参加や生きがいのづくりに関すること」が「障がいのある人の社会参加や生きがいのづくりに関すること」、「障がい者への生活支援に関すること」が「障がいのある人への生活支援に関すること」、「こどもや高齢者、障がい者などへの虐待防止に関すること」が「こどもや高齢者、障がいのある人などへの虐待防止に関すること」、「ひきこもりの方の支援に関すること」が「ひきこもりの方の社会復帰への支援に関すること」、「こどもの貧困に関すること」が「子どもの貧困に関すること」となっており、「孤独・孤立に関すること」、「防災に関すること」がありませんでした。

[その他意見の内訳]

18～39 歳
行政が行っている事のアピール、興味のない人たちへのアピール。
今のところ大きな問題がないのでわからない。
保育園に入園できなかった。
近隣の人とあまり関わらないので、わからない。
子どもを預かってもらえる場が少なく、どこも予約が一杯。産婦人科が少なく、どこも混んでいる。出産、育児の費用の補助を増やしてほしい。
金銭面。物価高騰で収入があっても苦しい。市から援助がほしい。
人との関わりに希薄な人が多い気がする。生活保護を含め、本当に必要な人にお金を使ってほしい。
どのような活動や、現在何をしているのかまったくわからない。
不登校
働いていない人に仕事を紹介したり与えたりすること。
発達障害の子どもとその親への支援。
野焼きの煙や火災への不安。

40～64 歳
子どもや高齢者ばかり目を向けず、働いている人に目を向けるべき。
難病の高校生が進学、進級ができる支援、相談。
地域というくりに興味がない。
住民票の住所と実際の居住場所が異なっている人々が存在する。選挙の時だけ人数が増えたり、ガソリンチケット配布時だけ戻ってきて取り合ったり、行政側とも何らかの連係が疑われる。
税金に関する問題。
若い世帯の地域離れ。
すべて課題があると思う。
ひとり親の介護問題。
経済的。
隣人関係の希薄化。
高齢になったときの交通手段。
社会の諸問題を地域単位で考えていないため、無回答とさせていただきます。
外国人労働者のマナーの悪さ。

65 歳以上
小さな子どもの遊ぶ公園がない。
どの問題もあると思うが、地域として特にどれが・・・というのは分からない。
自治会の活動が熱心すぎて、若い世代（子育て世代）にとって負担に思っていること。協力と参加への強制、自治会費の集金とのバランスが△。
独居世帯の孤独死。
仕事場が地域でないため、現在の状況があまりわかっていない。
一人暮らしの老人が多く、将来空家が増え、治安が悪くなるのでは？
良く分からない。
外国人が多いのでマナーや言葉。
近隣では問題は感じておりません。
自治会との関わり。
今の処あまり感じない。穏やかな環境でありがたい。
街灯がなさすぎる。
高齢者が多い地域なので、障害者に対する差別的な意識が根強いこと。

【性別】

性別にみると、「高齢者の社会参加や生きがいづくりに関すること」で男性の割合が高くなっています。

単位：％

性別	質問項目	回答者数（件）	青少年の健全育成に関すること	ひとり親家庭の子育てに関すること	共働き家庭のこどもの生活に関すること	乳幼児期の子育てに関すること	高齢者の社会参加や生きがいづくりに関すること	障がい者の社会参加や生きがいづくりに関すること	高齢者世帯への生活支援に関すること	障がい者への生活支援に関すること	子どもや高齢者、障がい者などへの虐待防止に関すること	健康づくりについての人々の意識や知識に関すること
全 体		1,056	6.5	5.8	15.5	5.7	23.7	6.2	23.2	4.7	2.2	9.5
男性		451	6.4	6.7	15.5	4.4	26.8	6.7	24.6	4.9	2.2	11.1
女性		594	6.7	5.2	15.8	6.7	21.0	5.9	21.9	4.7	2.2	8.4

性別	質問項目	無回答	その他	課題や問題は特にな	防災に関するこ	孤独・孤立に関するこ	過去に犯罪や非行な	こどもの貧困に関するこ	防犯など地域の安全	自殺対策に関するこ	ひきこもりの方
		の支	援に	関するこ	と	を	した人	の更	に	に	に
全 体		6.6	6.2	10.7	25.7	7.6	0.9	2.7	24.1	1.5	4.2
男性		5.8	5.1	11.3	25.9	8.6	1.1	2.9	25.7	1.6	3.1
女性		7.1	6.9	10.3	25.6	6.9	0.7	2.5	22.7	1.3	5.1

【年齢別】

年齢別にみると、「共働き家庭のこどもの生活に関すること」の割合が30～39歳で高く、「乳幼児期の子育てに関すること」の割合が18～29歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	青少年の健全育成に関すること	ひとり親家庭の子育てに関すること	共働き家庭のこどもの生活に関すること	乳幼児期の子育てに関すること	高齢者の社会参加や生きがいづくりに関すること	障がい者の社会参加や生きがいづくりに関すること	高齢者世帯への生活支援に関すること	障がい者への生活支援に関すること	子どもや高齢者、障がい者などへの虐待防止に関すること	健康づくりについての人々の意識や知識に関すること
全 体	1,056	6.5	5.8	15.5	5.7	23.7	6.2	23.2	4.7	2.2	9.5
18～29歳	109	6.4	11.0	18.3	14.7	15.6	1.8	14.7	3.7	—	10.1
30～39歳	179	10.6	8.9	38.0	11.7	6.1	3.9	12.8	1.7	3.9	5.0
40～49歳	170	9.4	6.5	18.2	7.1	18.2	10.0	21.2	5.9	0.6	5.9
50～59歳	172	5.2	5.8	7.6	1.2	26.2	7.6	29.7	2.9	2.3	8.7
60～69歳	215	5.1	4.7	9.3	2.8	34.0	7.4	26.0	8.4	2.3	11.2
70歳以上	202	3.5	1.0	5.9	1.5	34.2	5.0	29.7	5.0	3.0	15.3

質問項目 年齢	ひきこもりの方の支援に関すること	自殺対策に関すること	防犯など地域の安全に関すること	こどもの貧困に関すること	過去に犯罪や非行などをした人の更生に関すること	孤独・孤立に関すること	防災に関すること	課題や問題は特にな	その他	無回答
全 体	4.2	1.5	24.1	2.7	0.9	7.6	25.7	10.7	6.2	6.6
18～29歳	—	4.6	18.3	4.6	4.6	6.4	30.3	15.6	7.3	0.9
30～39歳	4.5	2.8	19.0	3.9	—	3.9	22.9	12.3	7.3	5.6
40～49歳	8.2	1.2	18.8	4.7	—	8.8	21.8	11.8	6.5	4.1
50～59歳	5.8	1.2	25.0	2.3	—	10.5	21.5	9.9	10.5	8.1
60～69歳	2.8	0.5	28.4	0.9	0.9	6.5	27.9	8.8	6.0	7.0
70歳以上	3.0	—	30.2	1.0	1.0	9.4	30.2	8.4	0.5	10.9

【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

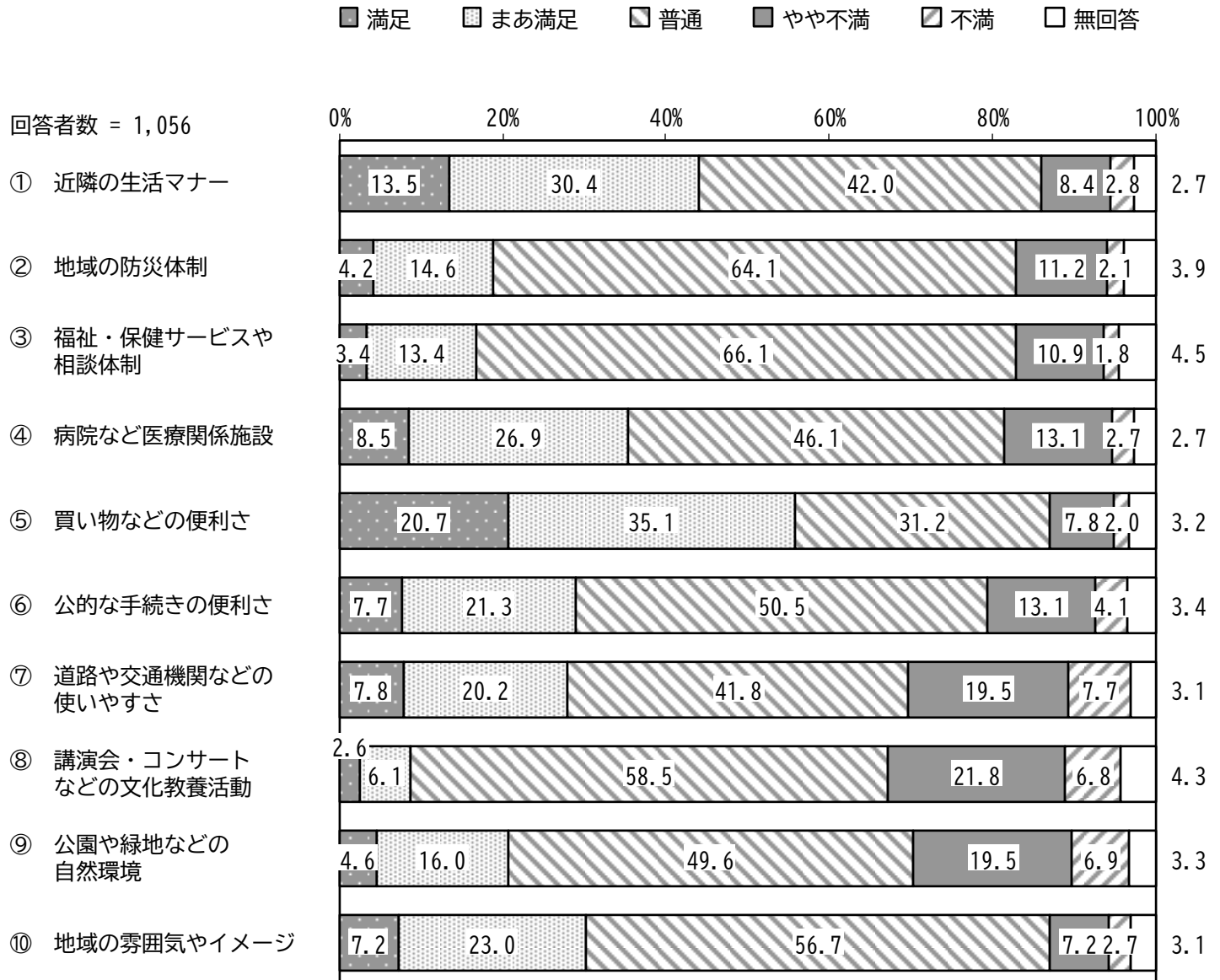
単位：％

地区	質問項目	回答者数(件)	青少年の健全育成に関すること	ひとり親家庭の子育てに関すること	共働き家庭のこどもの生活に関すること	乳幼児期の子育てに関すること	高齢者の社会参加や生きがいづくりに関すること	障がい者の社会参加や生きがいづくりに関すること	高年齢者世帯への生活支援に関すること	障がい者への生活支援に関すること	防犯に関すること	健康づくりについての人々の意識や知識に関すること
全 体		1,056	6.5	5.8	15.5	5.7	23.7	6.2	23.2	4.7	2.2	9.5
東中学校区（島しょ部含む）		251	6.4	5.2	18.3	6.8	23.9	7.6	22.3	3.6	2.8	10.4
西中学校区		225	7.6	8.0	16.9	5.3	22.2	8.0	19.1	5.8	1.3	6.7
南中学校区		243	9.1	4.9	17.7	5.8	20.6	4.5	23.5	4.5	2.9	8.2
綾歌中学校区		183	4.9	4.9	9.3	2.7	30.6	3.8	29.5	6.6	1.1	9.3
飯山中学校区		133	3.8	6.8	15.0	9.0	22.6	6.8	24.1	2.3	3.0	16.5

地区	質問項目	ひきこもりの方の支援に関すること	自殺対策に関すること	防犯など地域の安全に関すること	こどもの貧困に関すること	過去に犯罪や非行などをした人の更生に関すること	孤独・孤立に関すること	防災に関すること	課題や問題は特にな	その他	無回答
全 体		4.2	1.5	24.1	2.7	0.9	7.6	25.7	10.7	6.2	6.6
東中学校区（島しょ部含む）		4.8	0.8	23.9	1.6	0.8	8.0	26.3	8.0	6.4	8.8
西中学校区		4.4	0.4	21.8	4.0	0.4	9.3	25.8	12.0	5.8	7.1
南中学校区		4.1	3.3	27.2	3.7	1.2	7.8	24.7	12.3	5.3	4.9
綾歌中学校区		2.7	1.1	20.2	1.6	1.6	8.2	25.7	9.3	8.2	5.5
飯山中学校区		5.3	1.5	25.6	2.3	－	3.0	27.1	12.8	3.8	4.5

問 20 あなたが現在住んでいる地域の暮らしやすさはいかがですか。
 (①～⑩の各項目について、「満足」～「不満」の番号のうちひとつだけ○)

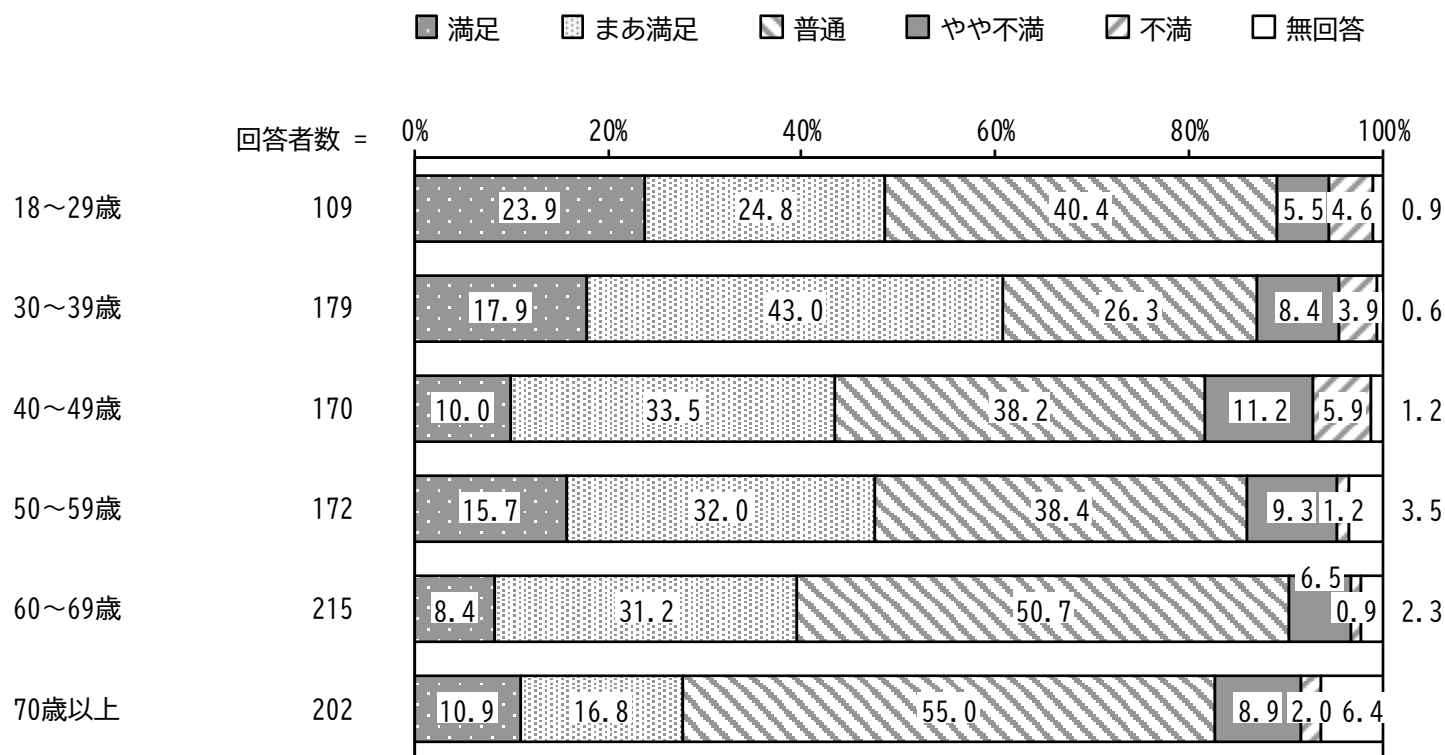
『⑤ 買い物などの便利さ』で「満足」と「まあ満足」をあわせた“満足”の割合が高くなっています。また、『② 地域の防災体制』『③ 福祉・保健サービスや相談体制』で「普通」の割合が高くなっています。



① 近隣の生活マナー

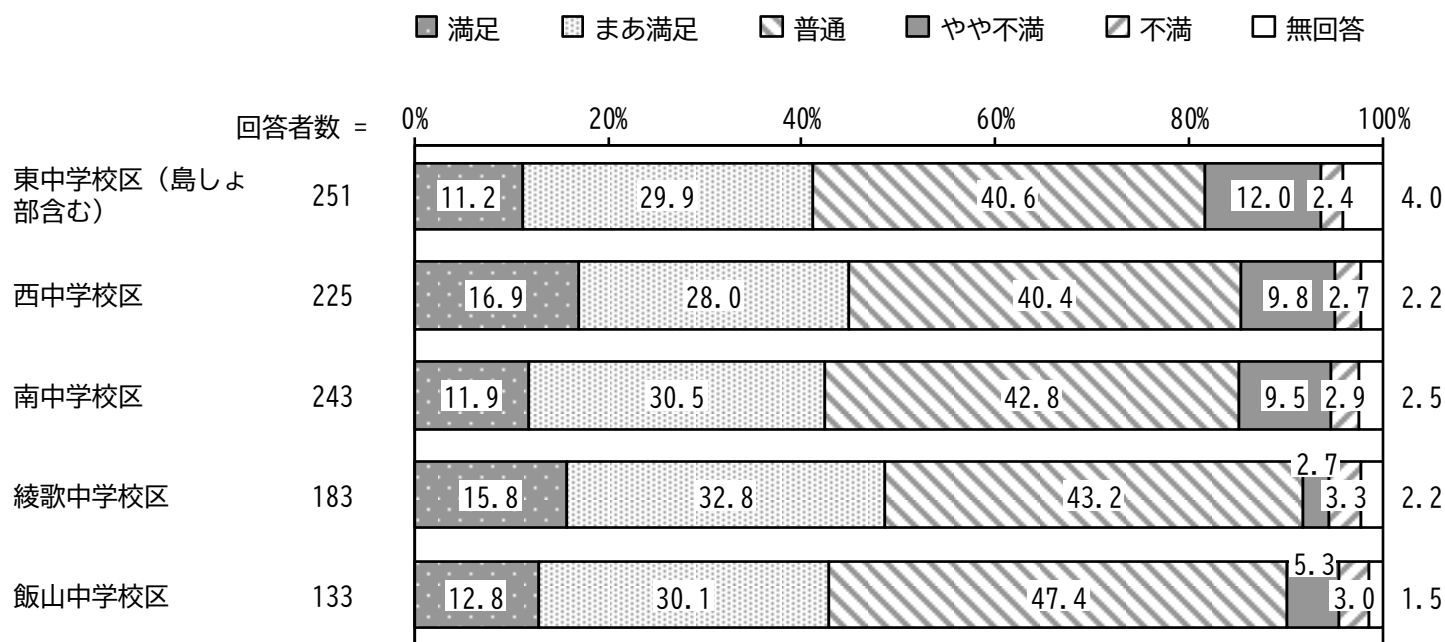
【年齢別】

年齢別にみると、“満足”の割合が30～39歳で高く、70歳以上で低くなっています。



【地区別】

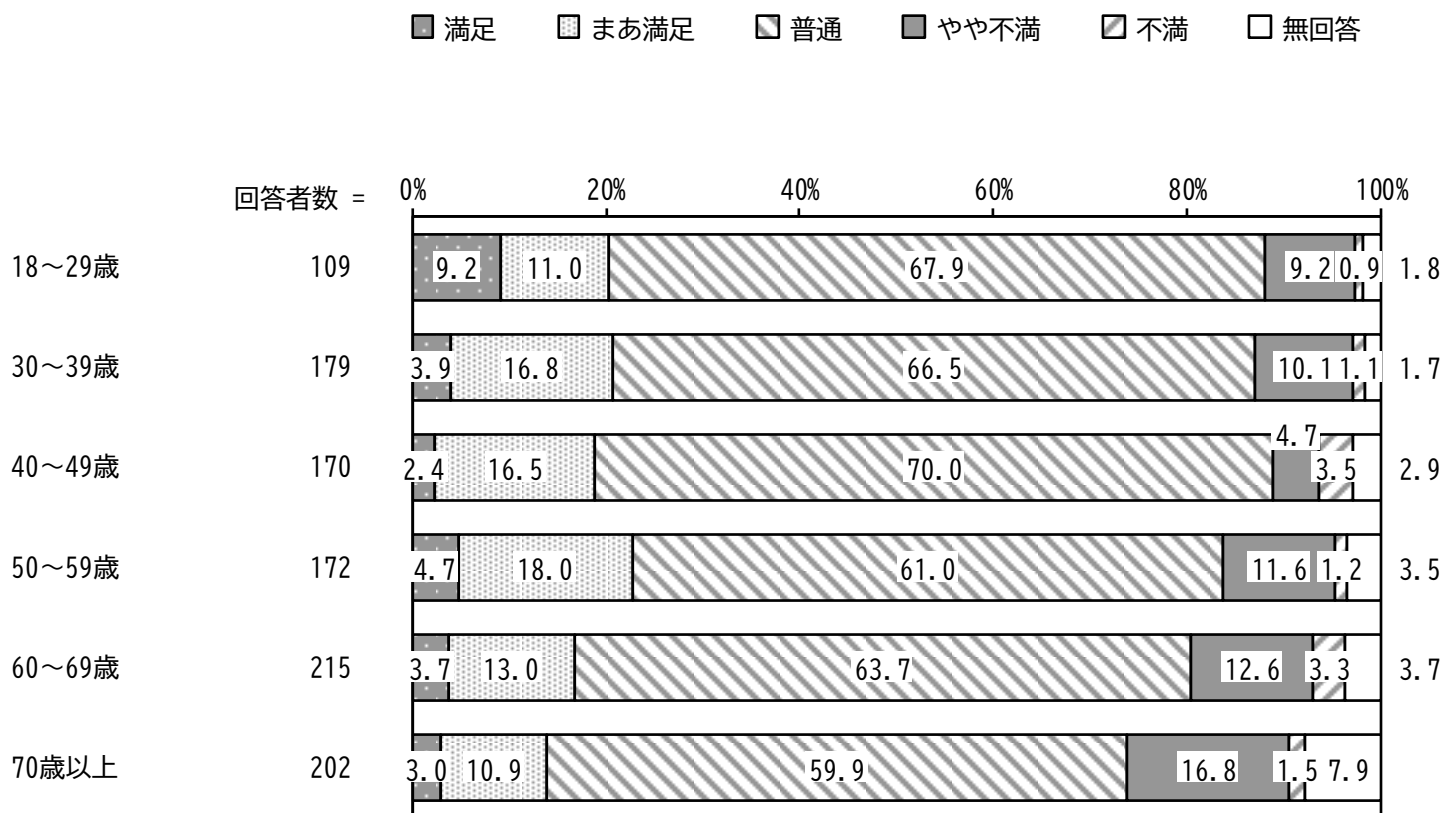
地区別にみると、大きな差はみられません。



② 地域の防災体制

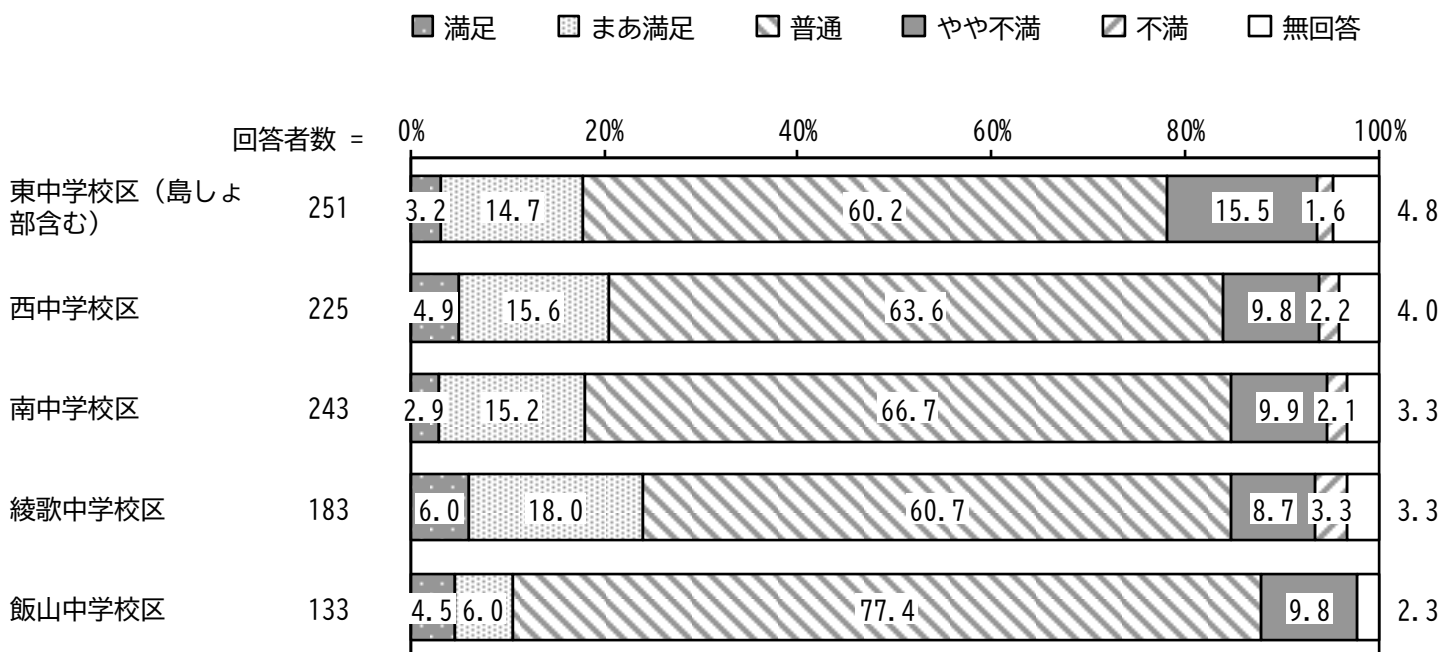
【年齢別】

年齢別にみると、「満足」の割合が 50～59 歳で高く、「普通」の割合が 40～49 歳で高くなっています。



【地区別】

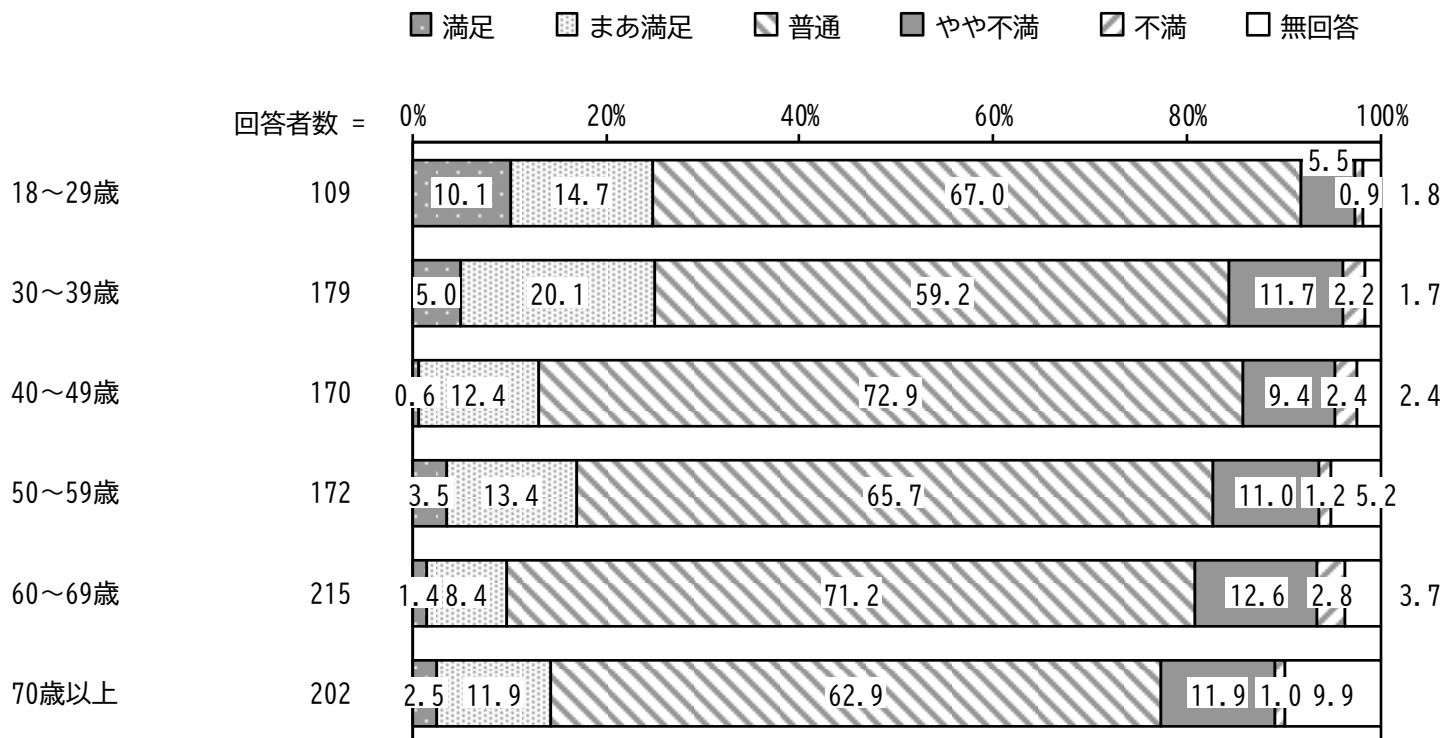
地区別にみると、「普通」の割合が飯山中学校区で高くなっています。



③ 福祉・保健サービスや相談体制

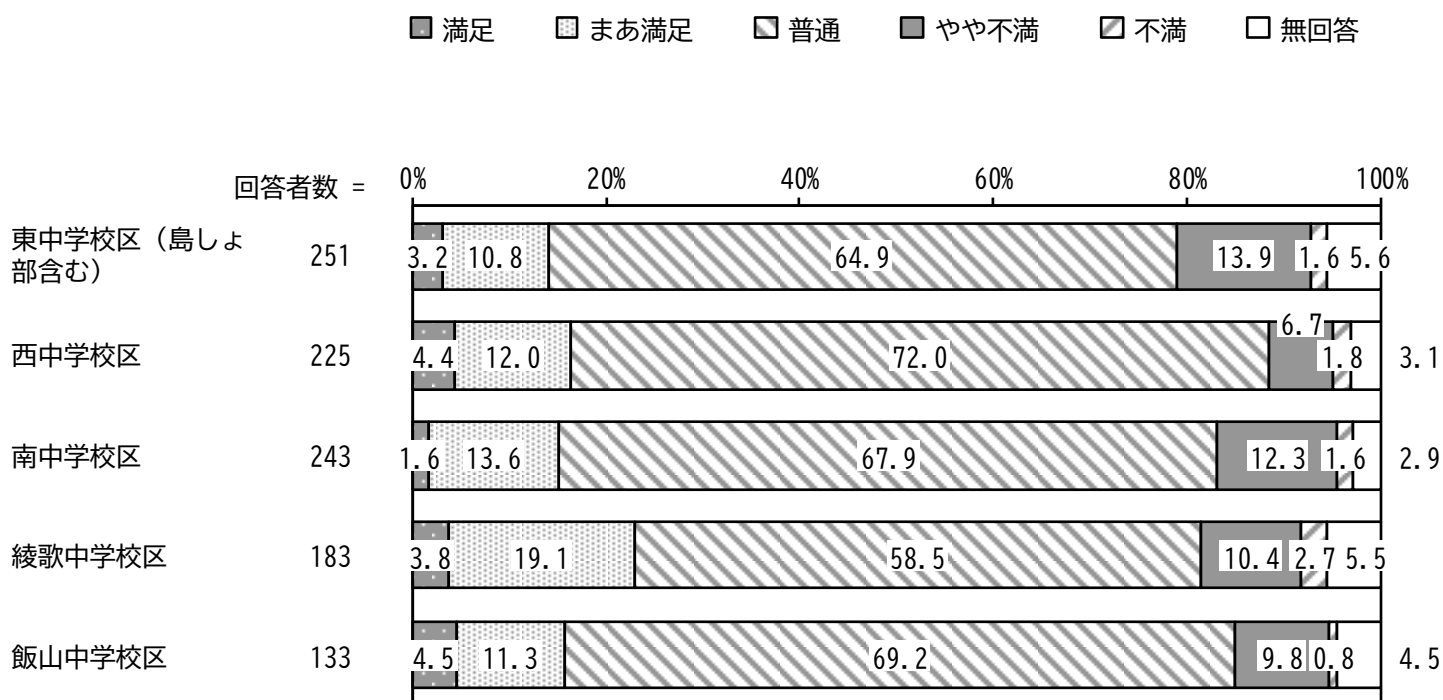
【年齢別】

年齢別にみると、「満足」の割合が 30～39 歳で高く、「普通」の割合が 40～49 歳で高くなっています。



【地区別】

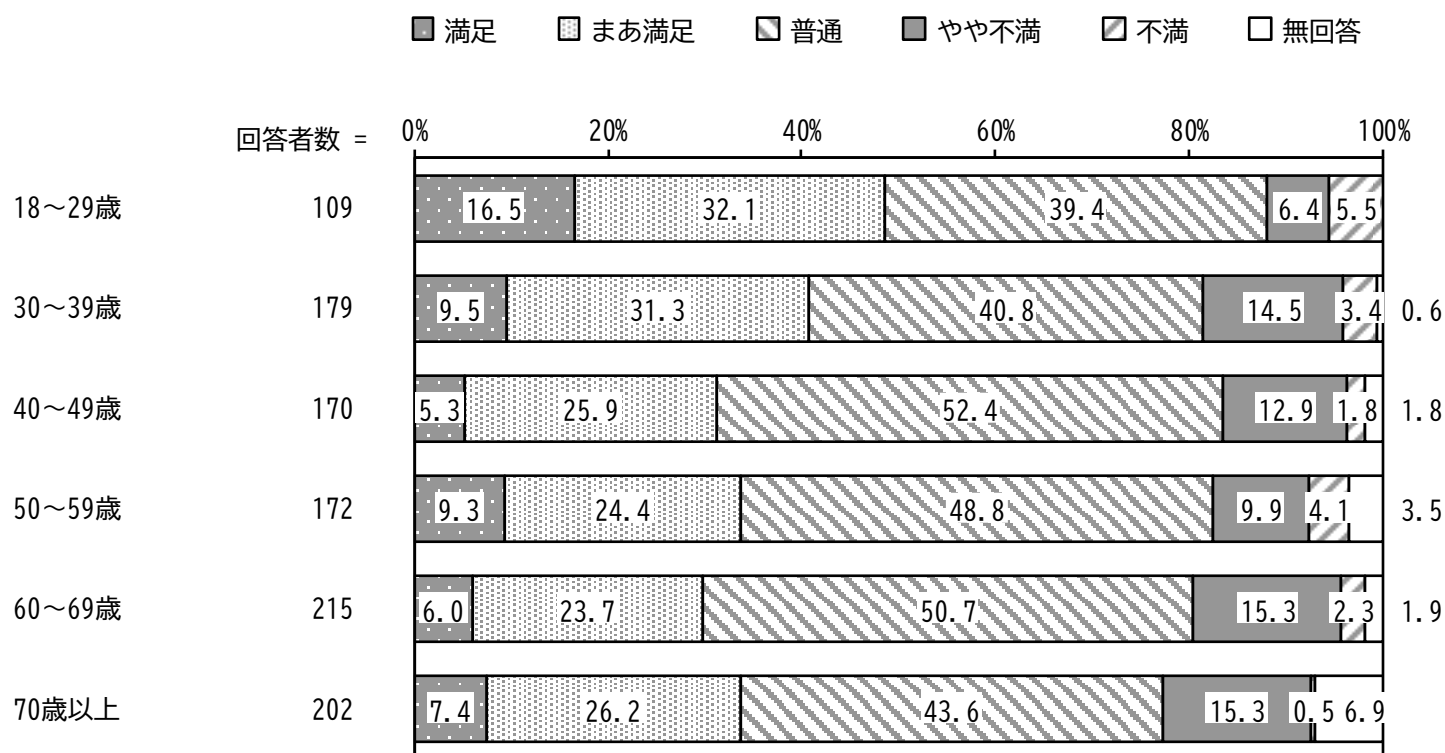
地区別にみると、「満足」の割合が綾歌中学校区で高く、「普通」の割合が西中学校区で高くなっています。



④ 病院など医療関係施設

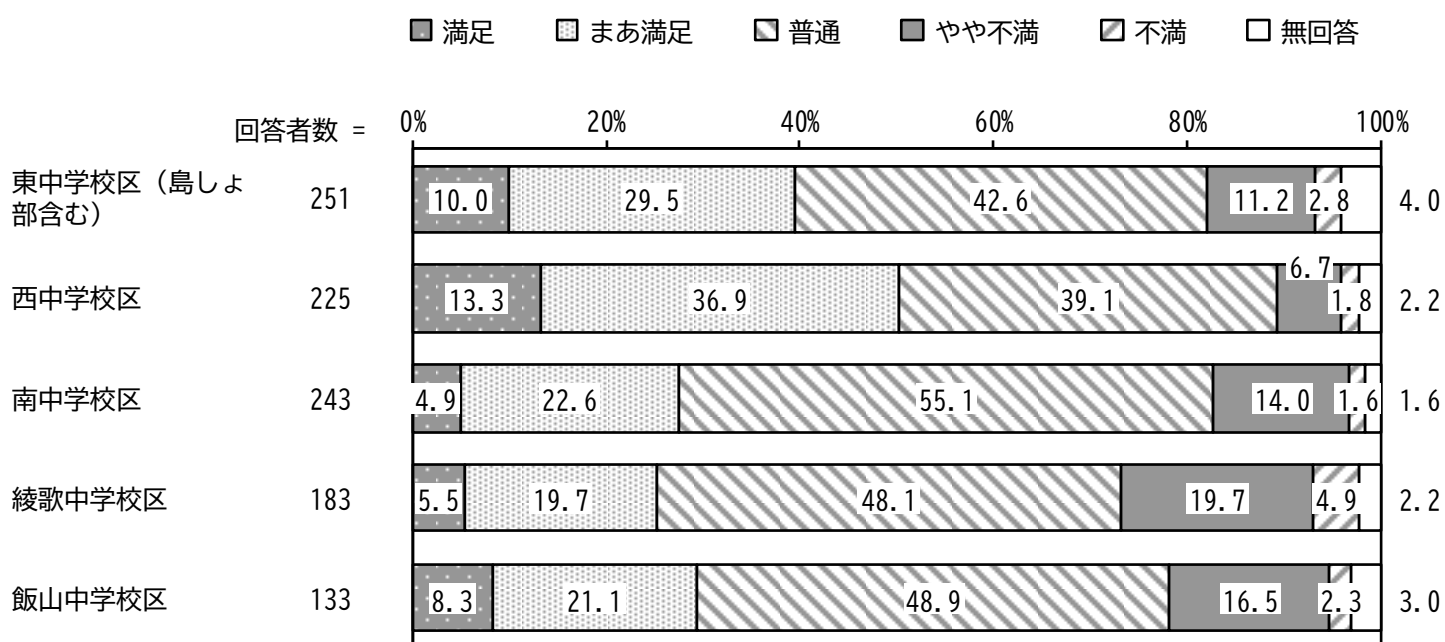
【年齢別】

年齢別にみると、“満足”の割合が18～29歳で高くなっています。



【地区別】

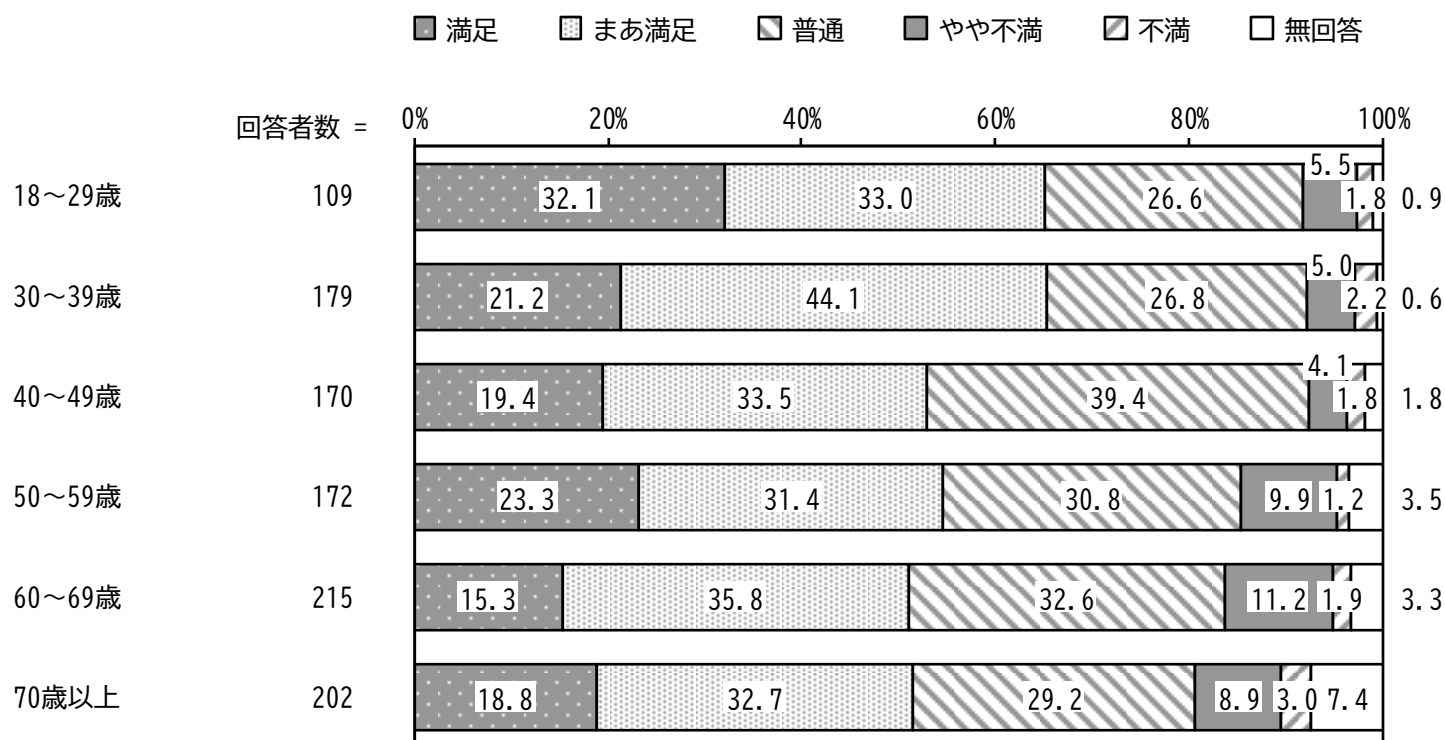
地区別にみると、“満足”の割合が西中学校区で高く、「普通」の割合が南中学校区で高く、“不満”の割合が綾歌中学校区で高くなっています。



⑤ 買い物などの便利さ

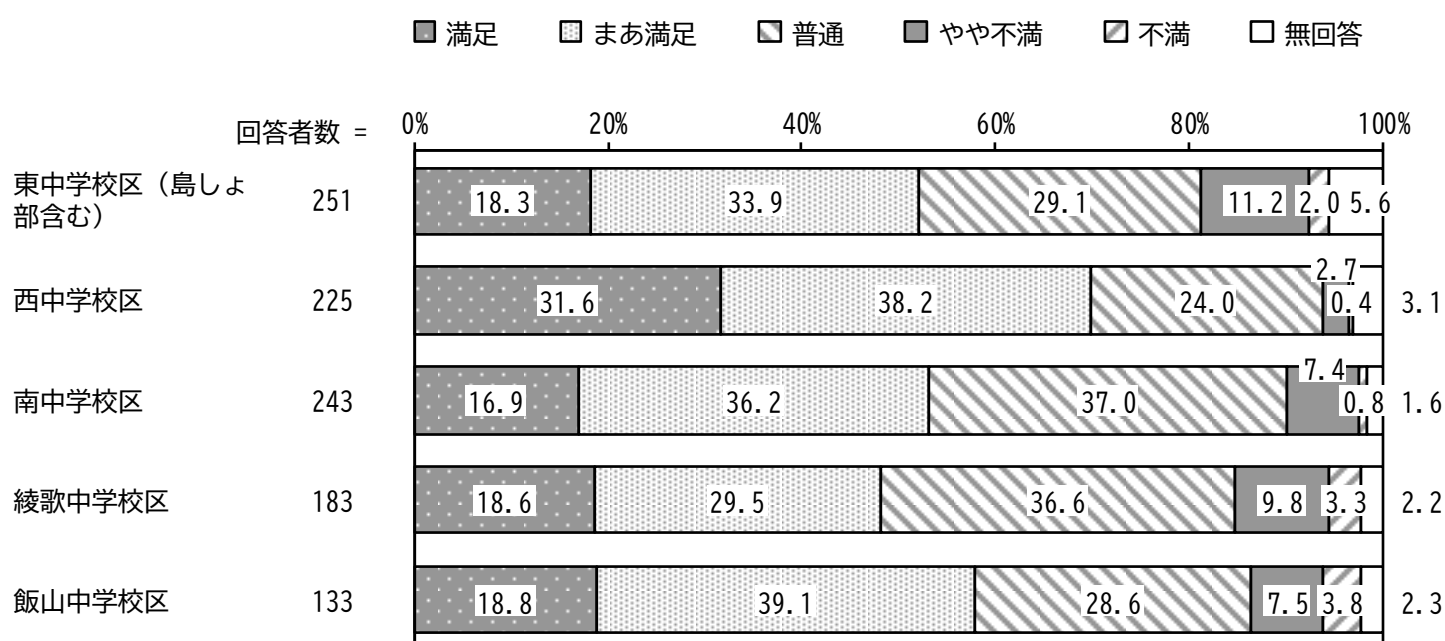
【年齢別】

年齢別にみると、“満足”の割合が18～29歳、30～39歳で高く、「普通」の割合が40～49歳で高くなっています。



【地区別】

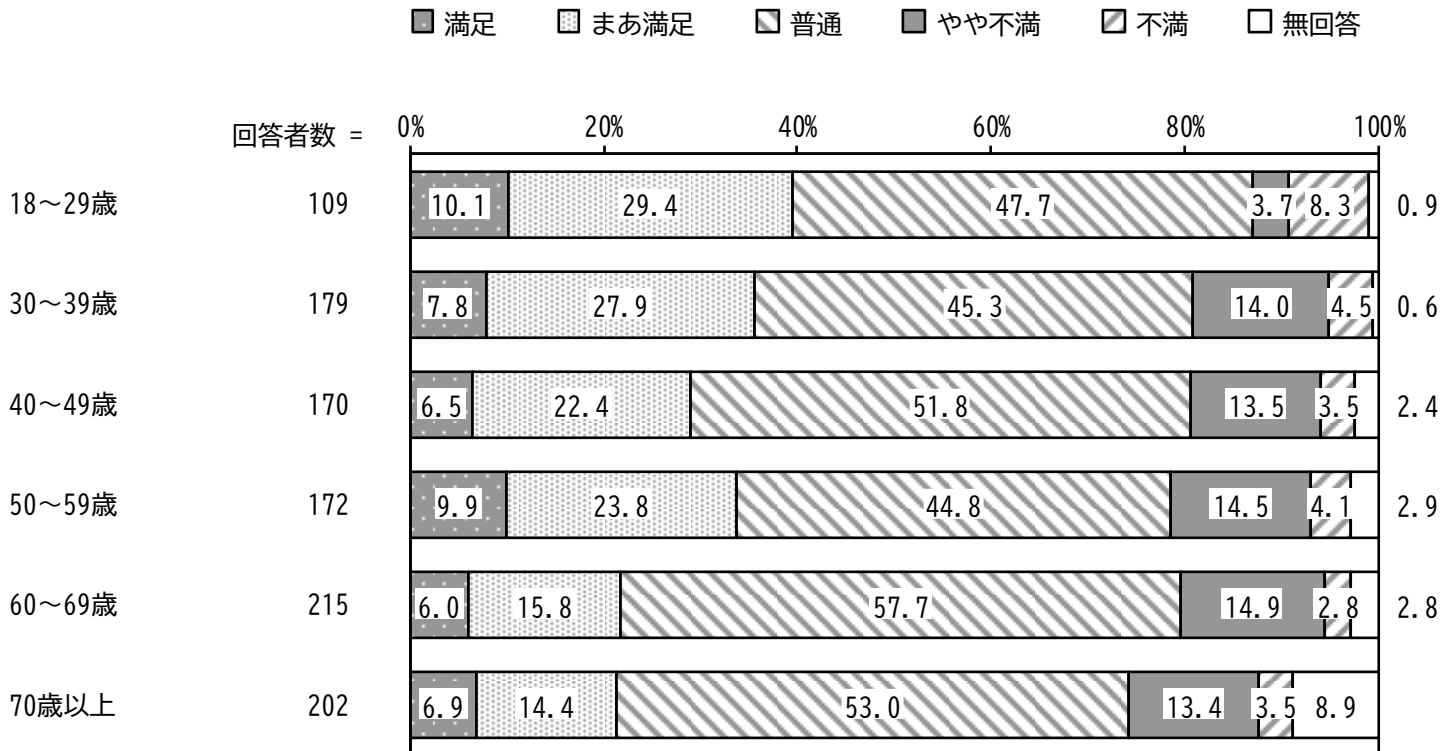
地区別にみると、“満足”の割合が西中学校区で高くなっています。



⑥ 公的な手続きの便利さ

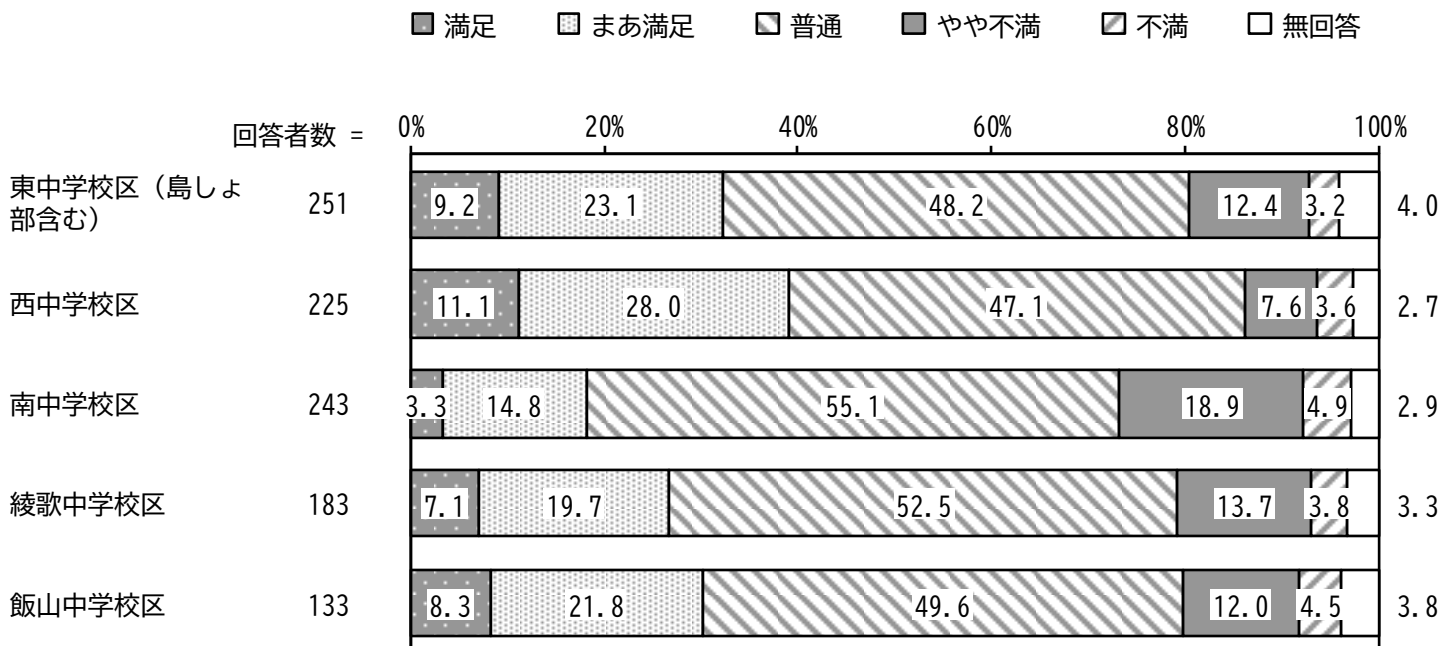
【年齢別】

年齢別にみると、“満足”の割合が18～29歳で高く、「普通」の割合が60～69歳で高くなっています。



【地区別】

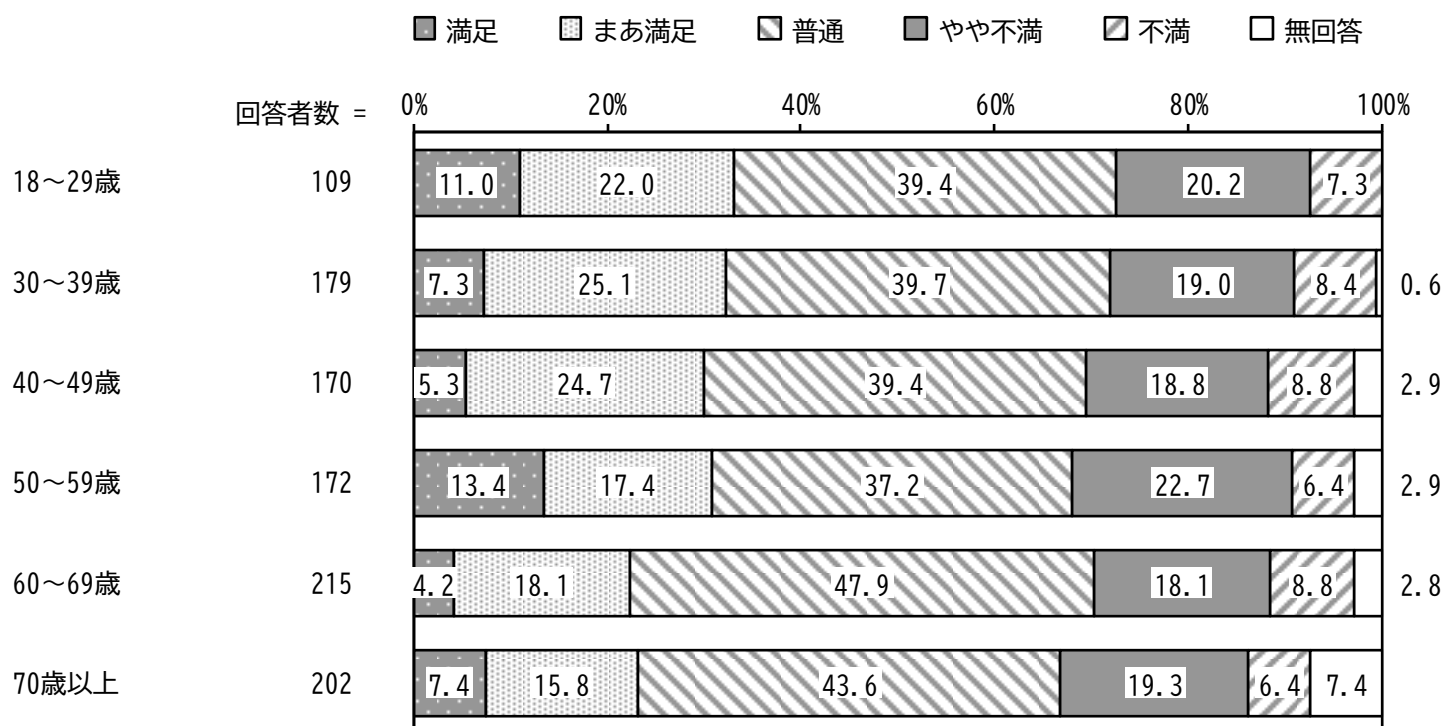
地区別にみると、“満足”の割合が西中学校区で高く、“不満”の割合が南中学校区で高くなっています。



⑦ 道路や交通機関などの使いやすさ

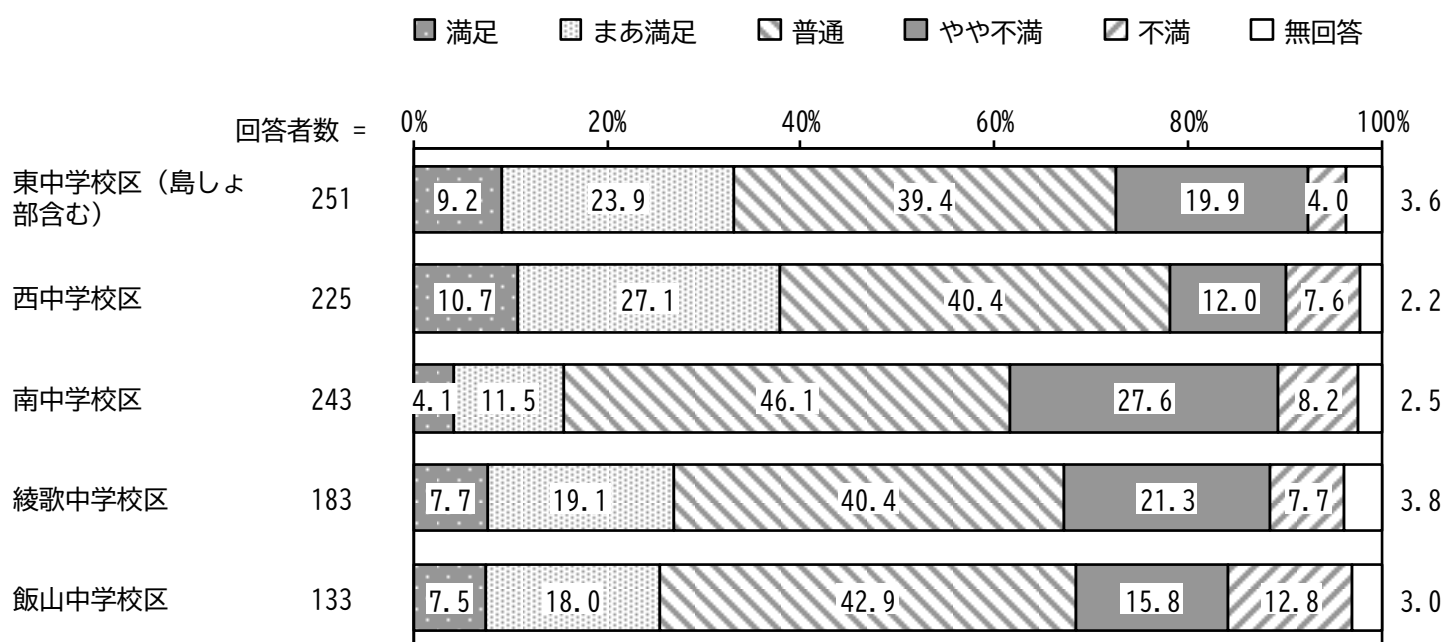
【年齢別】

年齢別にみると、「普通」の割合が60～69歳で高く、50～59歳で低くなっています。



【地区別】

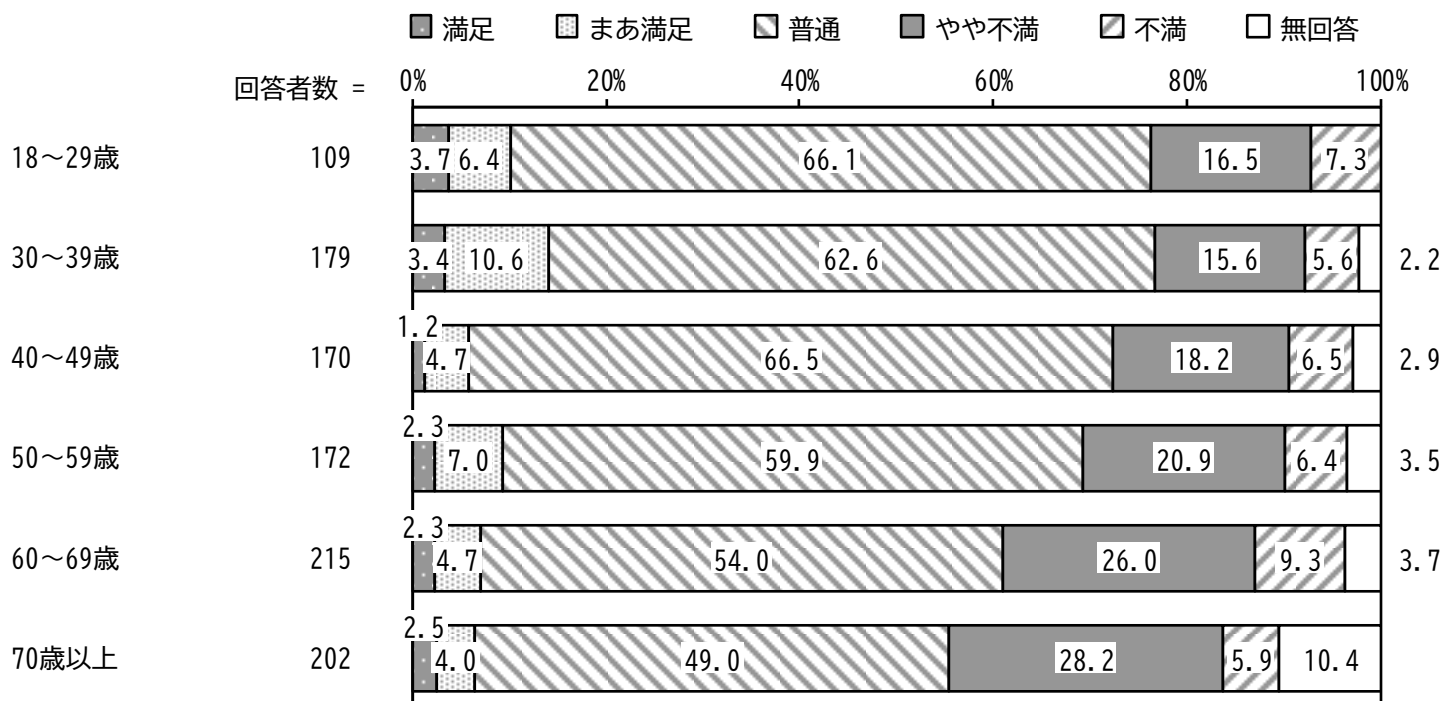
地区別にみると、「満足」の割合が西中学校区で高く、「不満」の割合が南中学校区で高くなっています。



⑧ 講演会・コンサートなどの文化教養活動

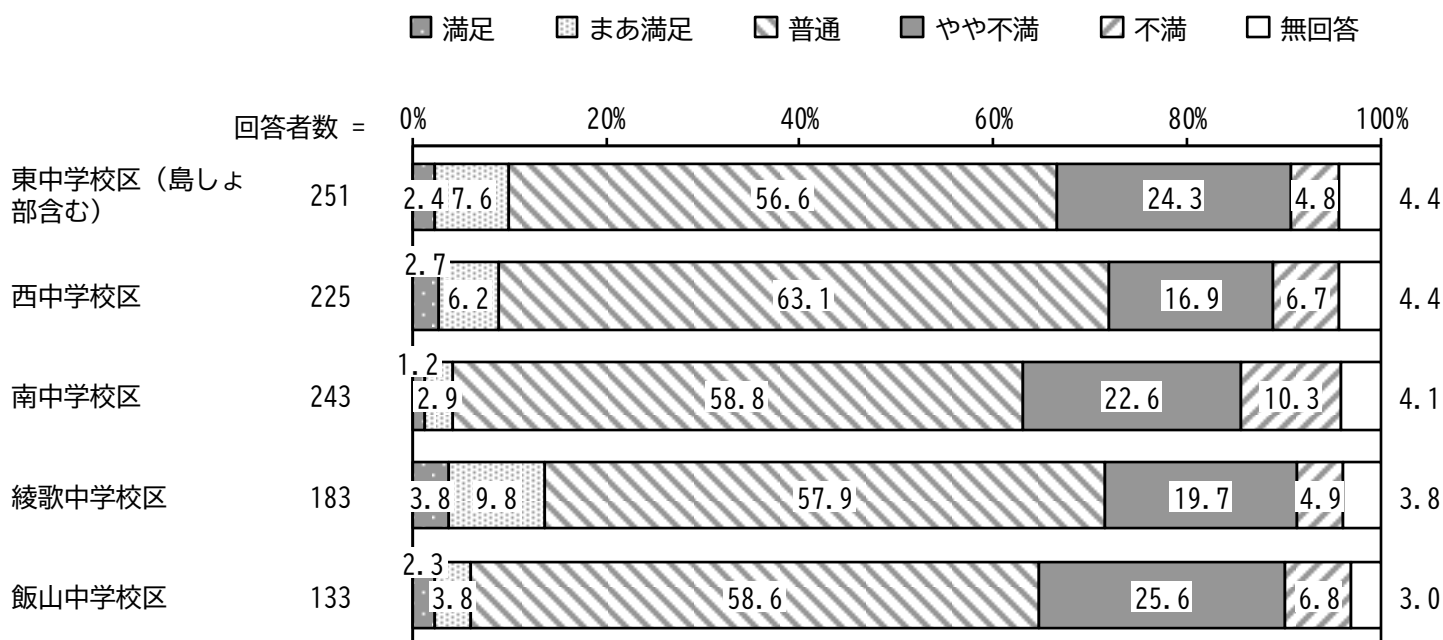
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて“不満”の割合が高くなる傾向にあります。



【地区別】

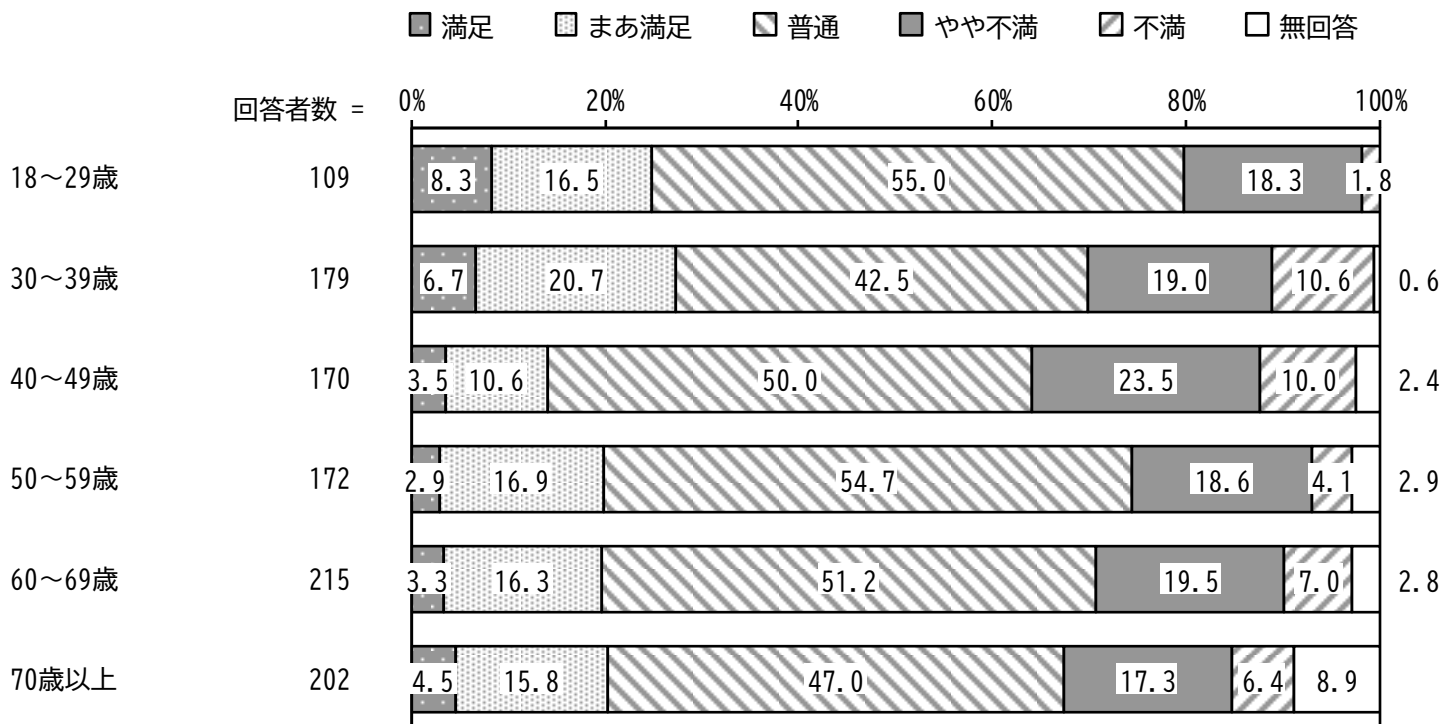
地区別にみると、“不満”の割合が南中学校区で高くなっています。



⑨ 公園や緑地などの自然環境

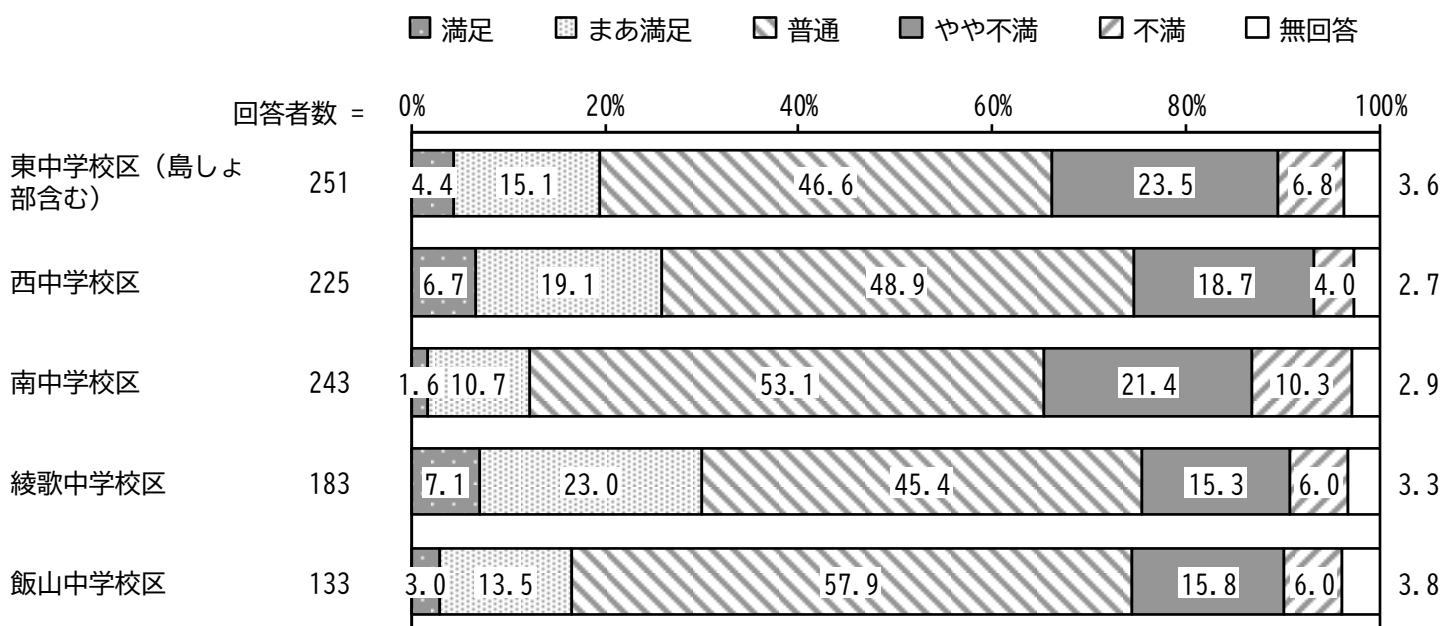
【年齢別】

年齢別にみると、“満足”の割合が30～39歳で高く、“不満”の割合が40～49歳で高くなっています。



【地区別】

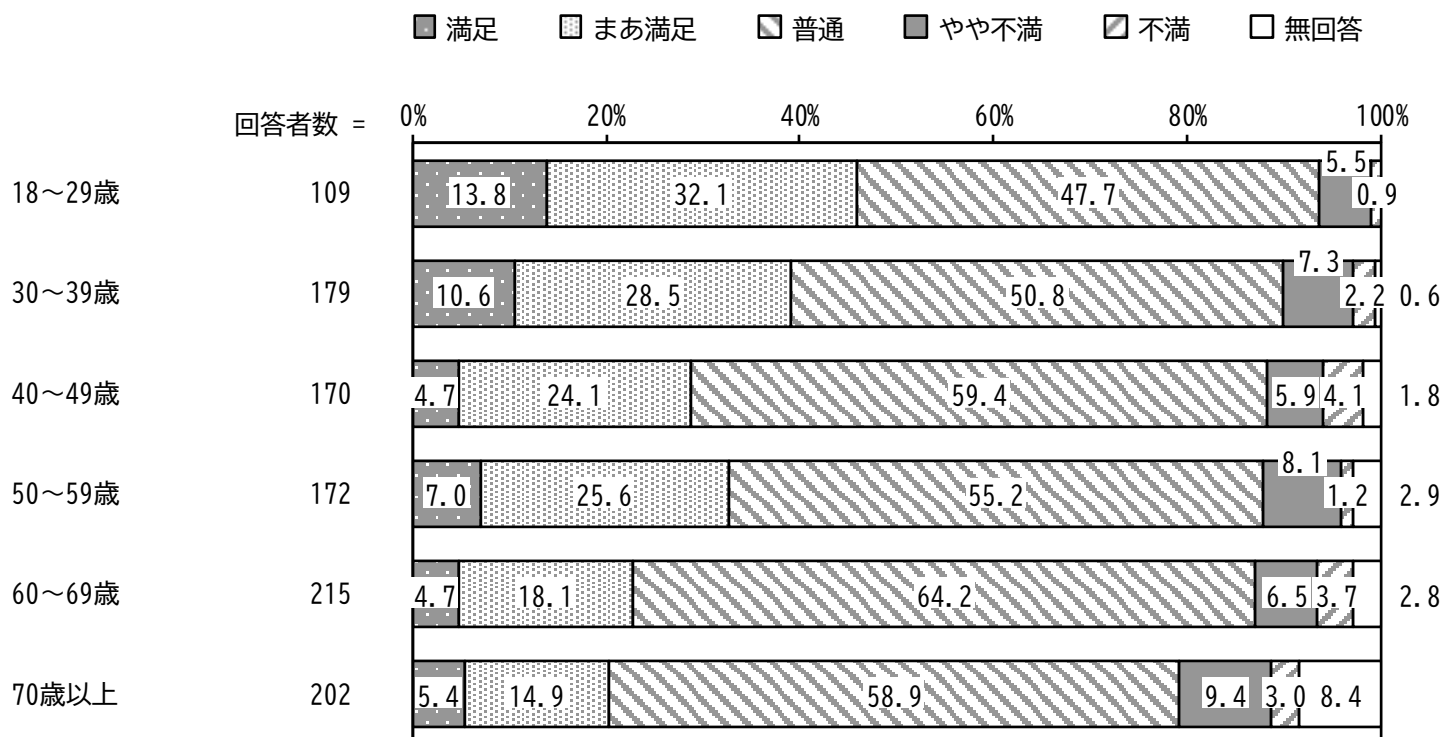
地区別にみると、“満足”の割合が綾歌中学校区で高く、南中学校区で低くなっています。



⑩ 地域の雰囲気やイメージ

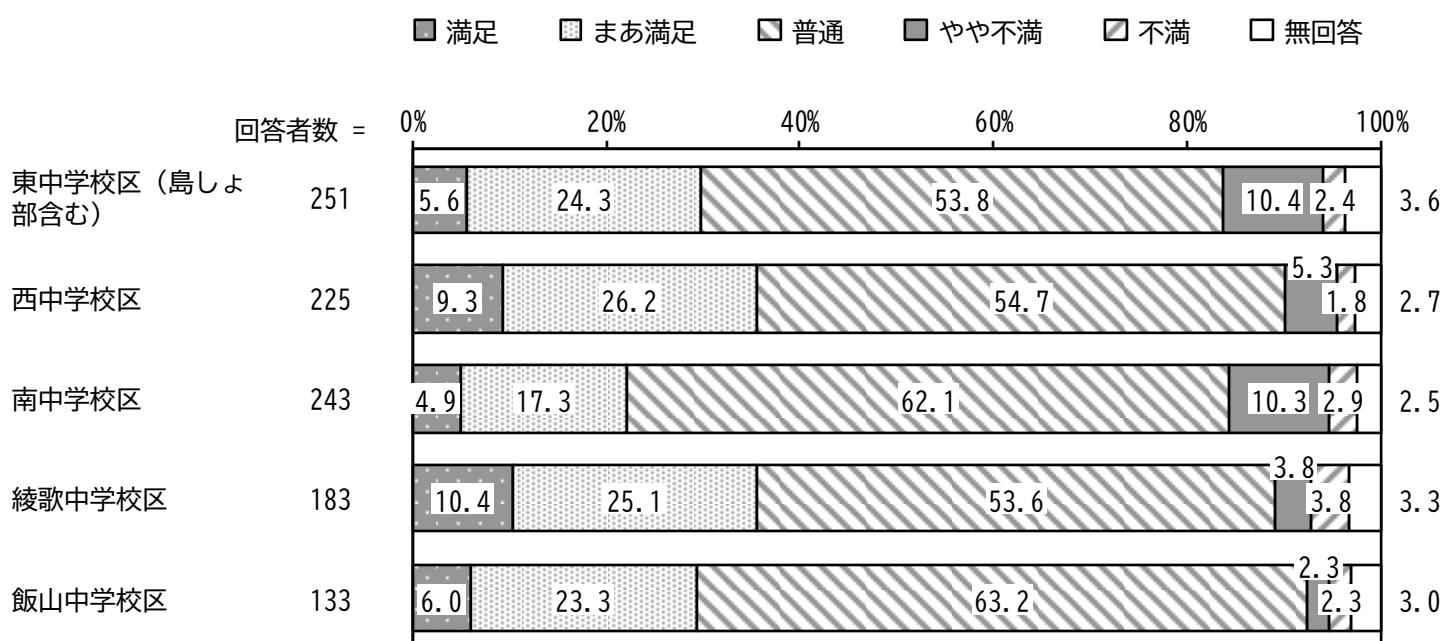
【年齢別】

年齢別にみると、「満足」の割合が18～29歳で高く、「普通」の割合が60～69歳で高くなっています。



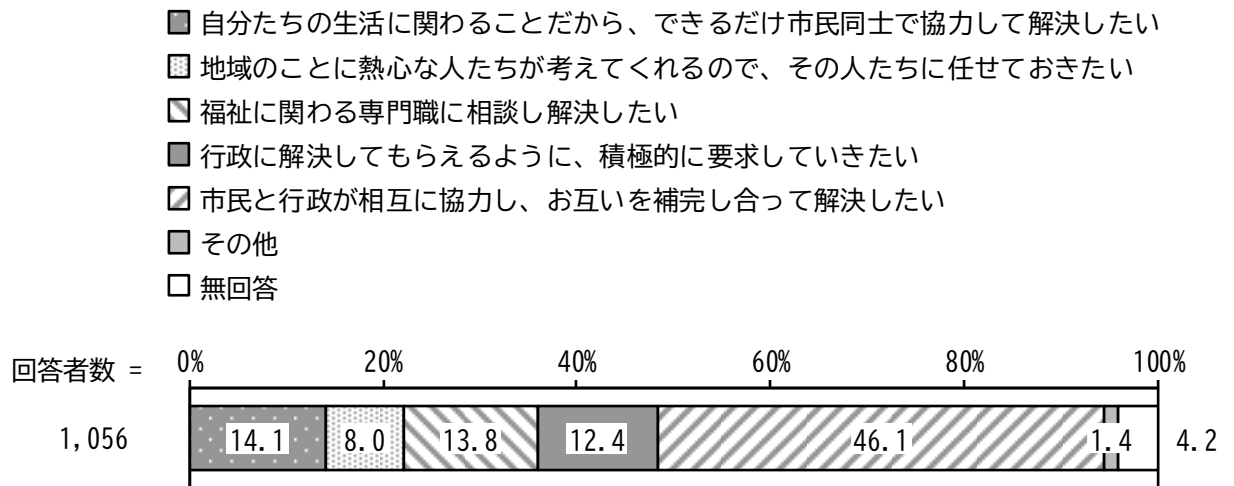
【地区別】

地区別にみると、「満足」の割合が西中学校区、綾歌中学校区で高く、「普通」の割合が飯山中学校区、南中学校区で高くなっています。



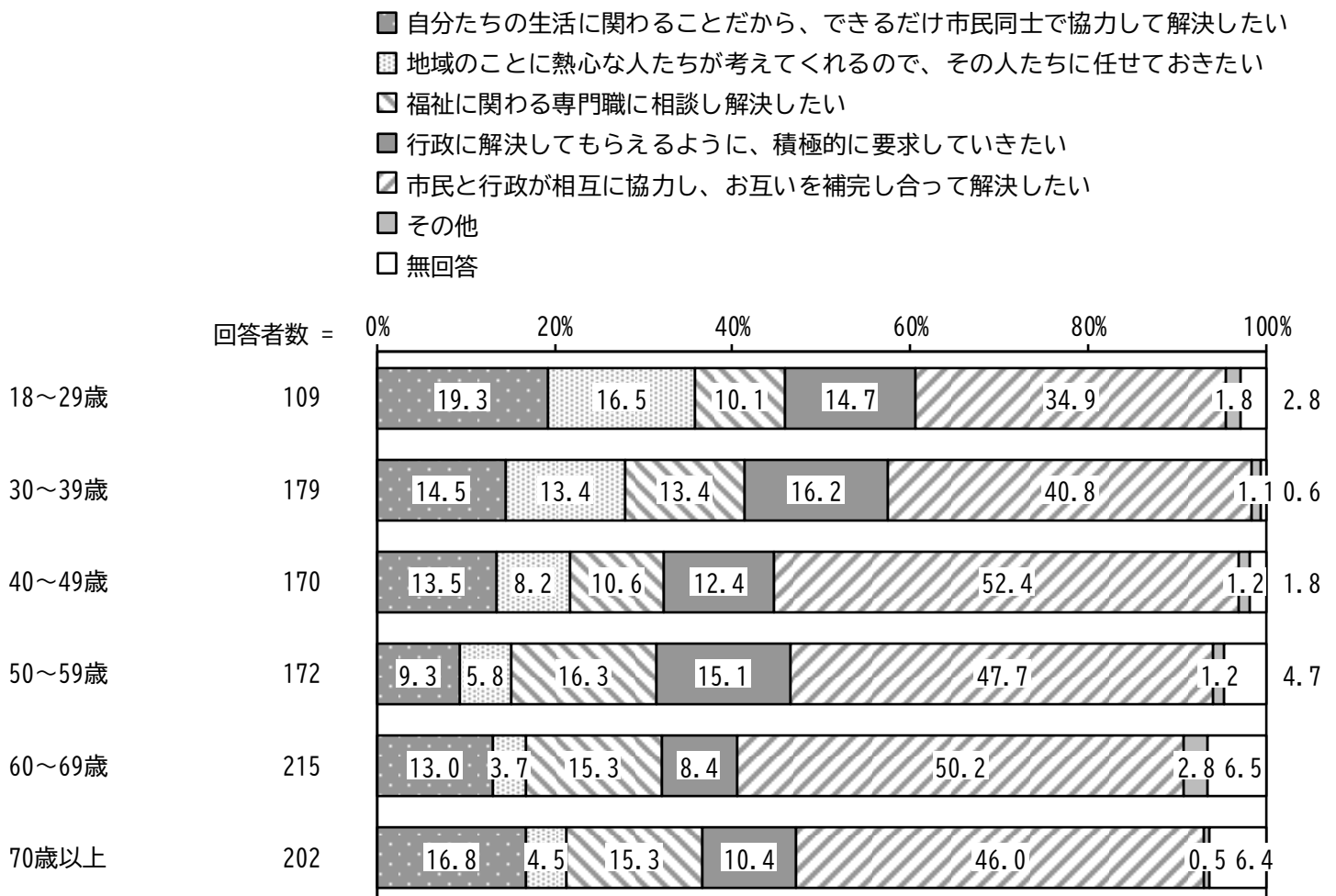
問 21 あなたは日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのがよいと思いますか。(〇は1つ)

「市民と行政が相互に協力し、お互いを補完し合って解決したい」の割合が 46.1%と最も高く、次いで「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ市民同士で協力して解決したい」の割合が 14.1%、「福祉に関わる専門職に相談し解決したい」の割合が 13.8%となっています。



【年齢別】

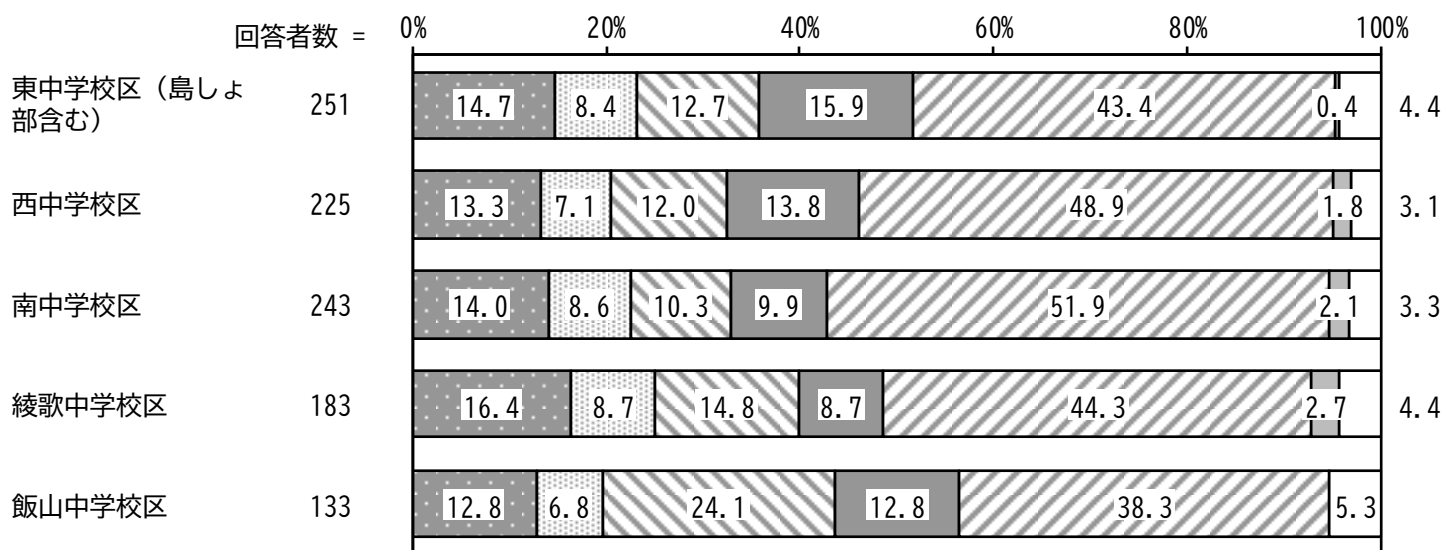
年齢別にみると、「市民と行政が相互に協力し、お互いを補完し合って解決したい」の割合が 40～49 歳で高く、18～29 歳で低くなっています。



【地区別】

地区別にみると、「福祉に関わる専門職に相談し解決したい」の割合が飯山中学校区で高くなっています。

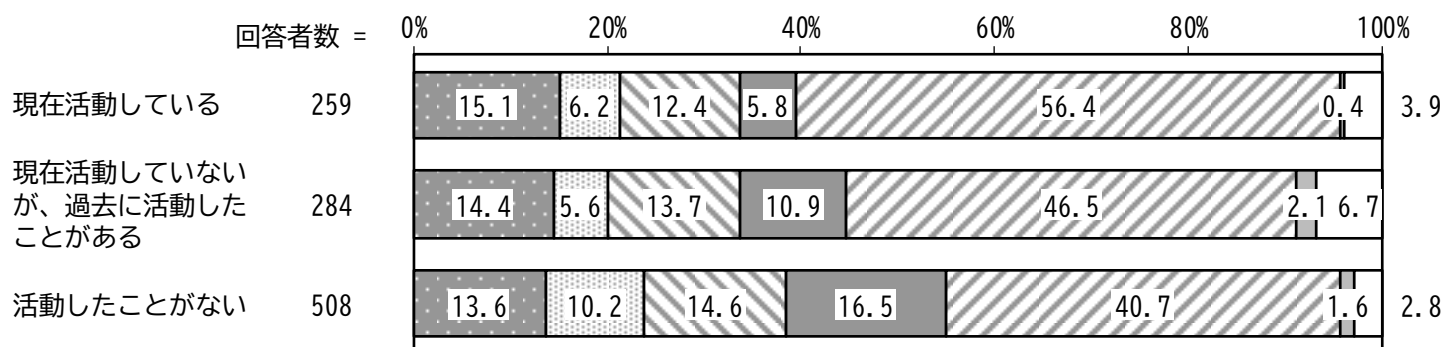
- 自分たちの生活に関わることから、できるだけ市民同士で協力して解決したい
- ▨ 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
- ▤ 福祉に関わる専門職に相談し解決したい
- 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
- ▤ 市民と行政が相互に協力し、お互いを補完し合って解決したい
- その他
- 無回答



【地域活動の参加有無別】

地域活動の参加有無別にみると、「市民と行政が相互に協力し、お互いを補完し合って解決したい」の割合が『現在活動している』で高くなっています。

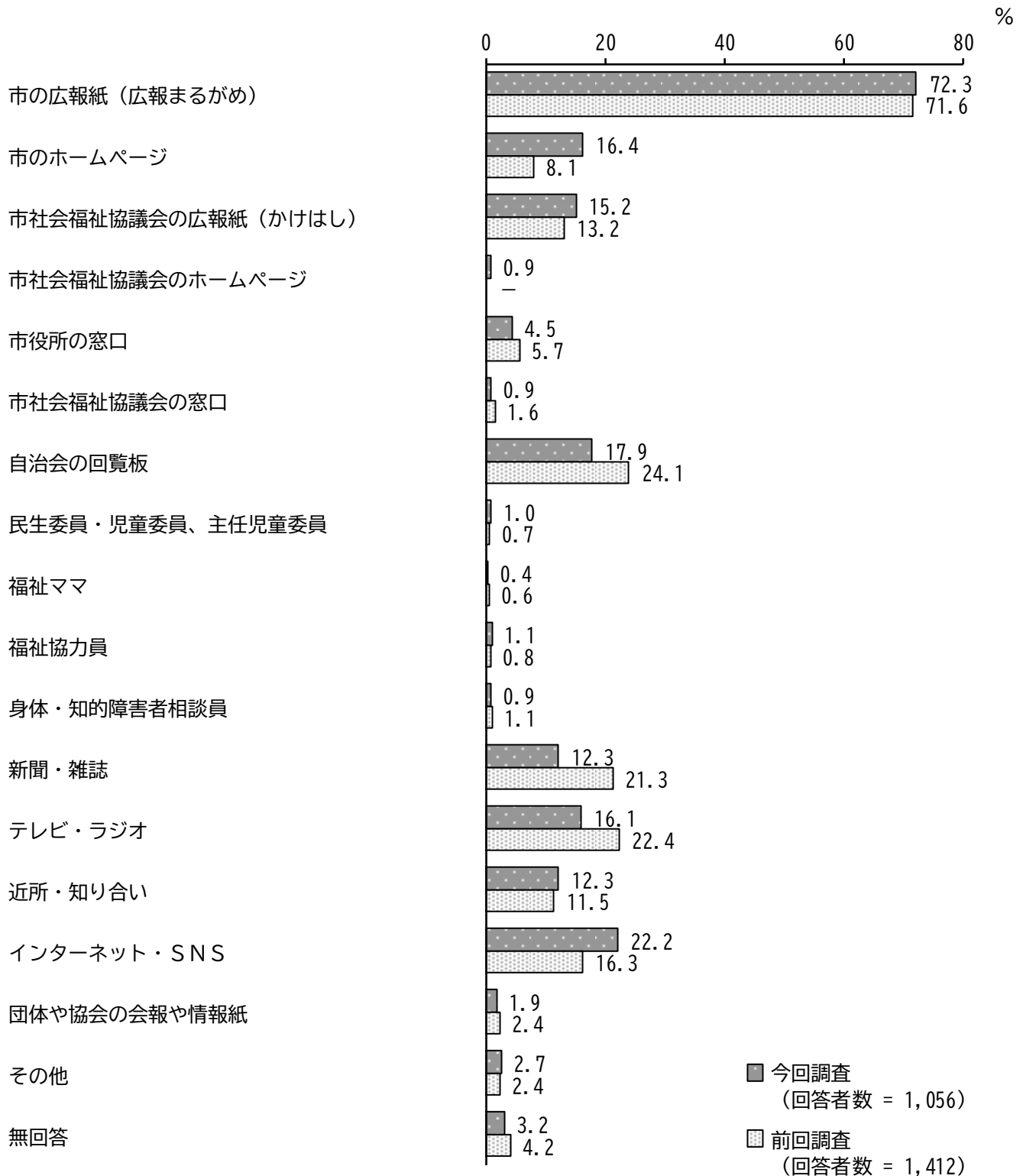
- 自分たちの生活に関わることから、できるだけ市民同士で協力して解決したい
- ▨ 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
- ▤ 福祉に関わる専門職に相談し解決したい
- 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
- ▤ 市民と行政が相互に協力し、お互いを補完し合って解決したい
- その他
- 無回答



問 22 あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。(〇は3つまで)

「市の広報紙（広報まるがめ）」の割合が72.3%と最も高く、次いで「インターネット・SNS」の割合が22.2%、「自治会の回覧板」の割合が17.9%となっています。

前回調査と比較すると、「市のホームページ」「インターネット・SNS」の割合が増加しています。一方、「自治会の回覧板」「新聞・雑誌」「テレビ・ラジオ」の割合が減少しています。



※前回調査では、「民生委員・児童委員、主任児童委員」が「民生委員・児童委員」となっており、「市社会福祉協議会のホームページ」がありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「市の広報紙（広報まるがめ）」の割合が18～29歳で低く、「市のホームページ」の割合が30～39歳で高く、「新聞・雑誌」の割合が70歳以上で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	市の広報紙 (広報まるがめ)	市のホームページ	市社会福祉協議会の 広報紙(かけはし)	市社会福祉協議会の ホームページ	市役所の窓口	市社会福祉協議会の 窓口	自治会の回覧板	民生委員・児童委員、 主任児童委員	福祉ママ
全 体	1,056	72.3	16.4	15.2	0.9	4.5	0.9	17.9	1.0	0.4
18～29歳	109	56.0	18.3	5.5	1.8	5.5	—	5.5	—	—
30～39歳	179	72.1	24.6	12.8	1.1	5.6	—	8.9	—	—
40～49歳	170	66.5	16.5	17.1	0.6	4.7	—	9.4	—	—
50～59歳	172	73.3	19.2	11.6	1.2	2.9	1.2	12.2	0.6	—
60～69歳	215	79.5	15.8	19.1	0.5	4.2	0.5	27.9	0.9	0.9
70歳以上	202	78.2	5.9	20.8	0.5	5.0	3.5	33.7	4.0	1.0

質問項目 年齢	福祉協力員	身体・知的障害者相 談員	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	近所・知り合い	インターネット・S NS	団体や協会の会報や 情報紙	その他	無回答
全 体	1.1	0.9	12.3	16.1	12.3	22.2	1.9	2.7	3.2
18～29歳	—	0.9	8.3	24.8	14.7	37.6	0.9	1.8	—
30～39歳	1.1	0.6	5.0	11.7	16.2	30.2	0.6	2.8	1.1
40～49歳	1.2	1.8	2.4	13.5	10.0	32.9	2.4	6.5	2.9
50～59歳	0.6	1.2	13.4	12.2	12.8	21.5	1.7	3.5	4.7
60～69歳	1.4	—	13.0	18.6	9.8	16.7	1.4	0.9	2.8
70歳以上	2.0	1.5	27.7	18.3	12.4	4.5	3.5	1.0	5.4

【地区別】

地区別にみると、「市の広報紙（広報まるがめ）」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

地区	質問項目	回答者数（件）	市の広報紙（広報まるがめ）	市のホームページ	市社会福祉協議会の広報紙（かけはし）	市社会福祉協議会のホームページ	市役所の窓口	市社会福祉協議会の窓口	自治会の回覧板	民生委員・児童委員、主任児童委員	福祉ママ
全 体		1,056	72.3	16.4	15.2	0.9	4.5	0.9	17.9	1.0	0.4
東中学校区（島しょ部含む）		251	74.5	17.9	15.5	1.2	3.6	0.8	21.5	1.2	0.4
西中学校区		225	74.2	18.7	13.8	0.4	4.9	0.4	11.6	—	0.4
南中学校区		243	75.7	15.6	16.0	0.4	4.1	1.2	13.2	1.2	—
綾歌中学校区		183	63.9	14.2	19.7	1.6	3.8	0.5	24.0	2.2	0.5
飯山中学校区		133	71.4	13.5	12.0	0.8	7.5	2.3	23.3	0.8	0.8

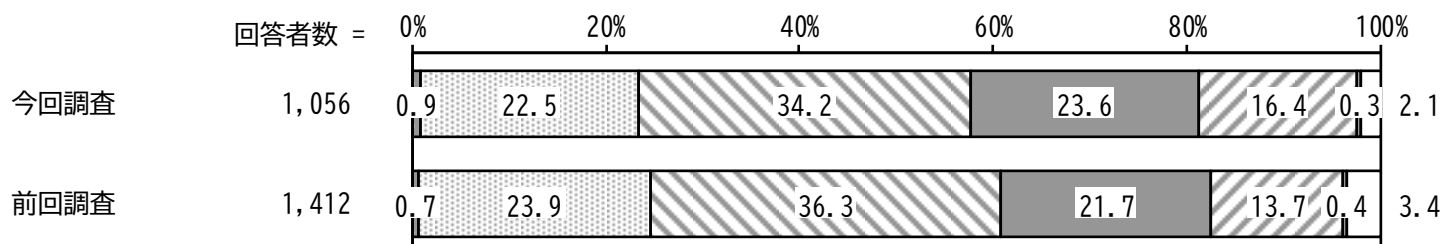
地区	質問項目	福祉協力員	身体・知的障害者相談員	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	近所・知り合い	インターネット・SNS	団体や協会の会報や情報紙	その他	無回答
全 体		1.1	0.9	12.3	16.1	12.3	22.2	1.9	2.7	3.2
東中学校区（島しょ部含む）		0.4	—	16.7	16.3	12.0	22.3	1.2	1.6	4.4
西中学校区		1.8	2.2	10.7	13.8	12.0	24.4	1.8	1.3	3.1
南中学校区		1.2	1.6	10.7	16.0	11.9	22.2	2.5	3.3	3.3
綾歌中学校区		1.1	—	10.9	17.5	11.5	21.9	2.7	4.9	2.2
飯山中学校区		0.8	0.8	12.0	18.0	17.3	20.3	0.8	2.3	1.5

問 23 あなたは、福祉に関する情報をどの程度入手できているとお考えですか。（○は1つ）

「十分入手できている」「ある程度入手できている」を合わせた“入手できている”の割合が23.4%、「あまり入手できていない」「ほとんど入手できていない」を合わせた“入手できていない”の割合が57.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

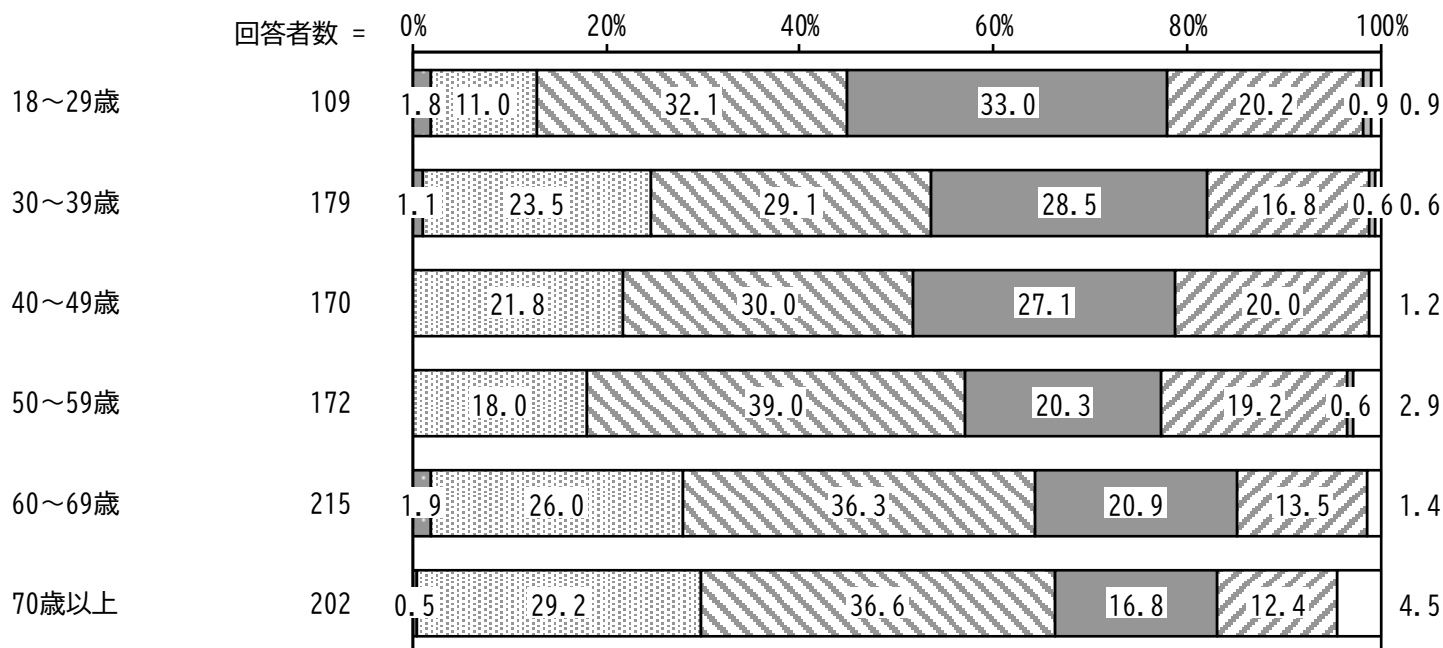
- 十分入手できている
- ある程度入手できている
- あまり入手できていない
- ほとんど入手できていない
- わからない
- その他
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、“入手できていない”の割合が18～29歳で高くなっています。

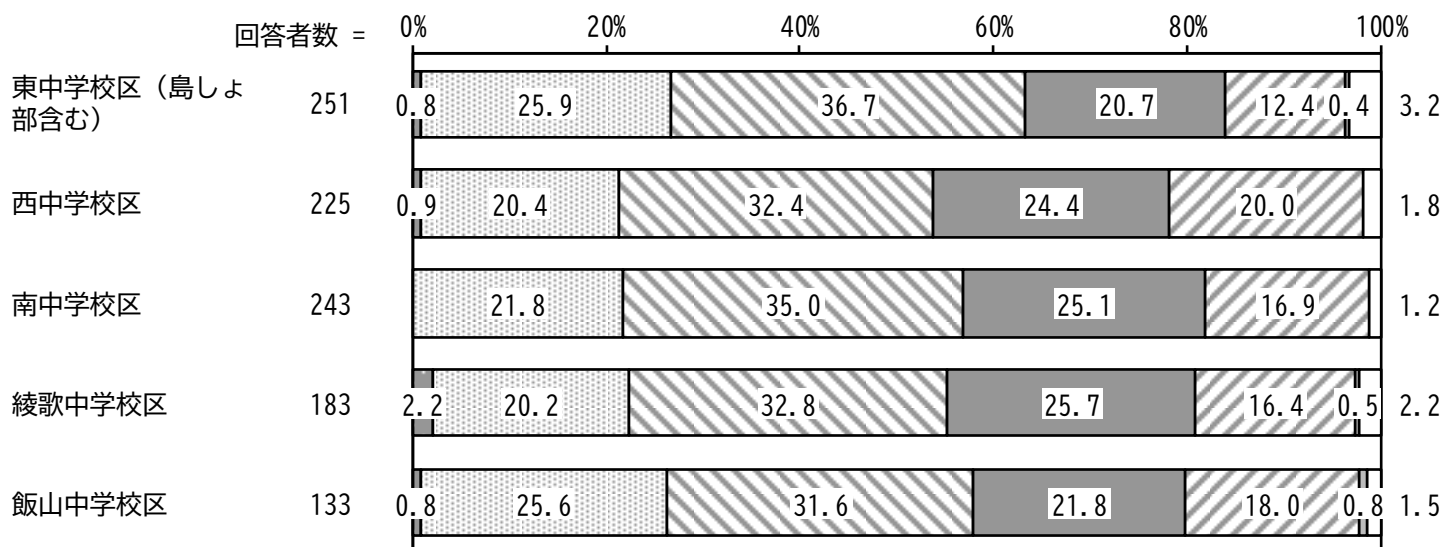
☒ 十分入手できている ☒ ある程度入手できている ☒ あまり入手できていない
☒ ほとんど入手できていない ☒ わからない ☒ その他
☐ 無回答



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

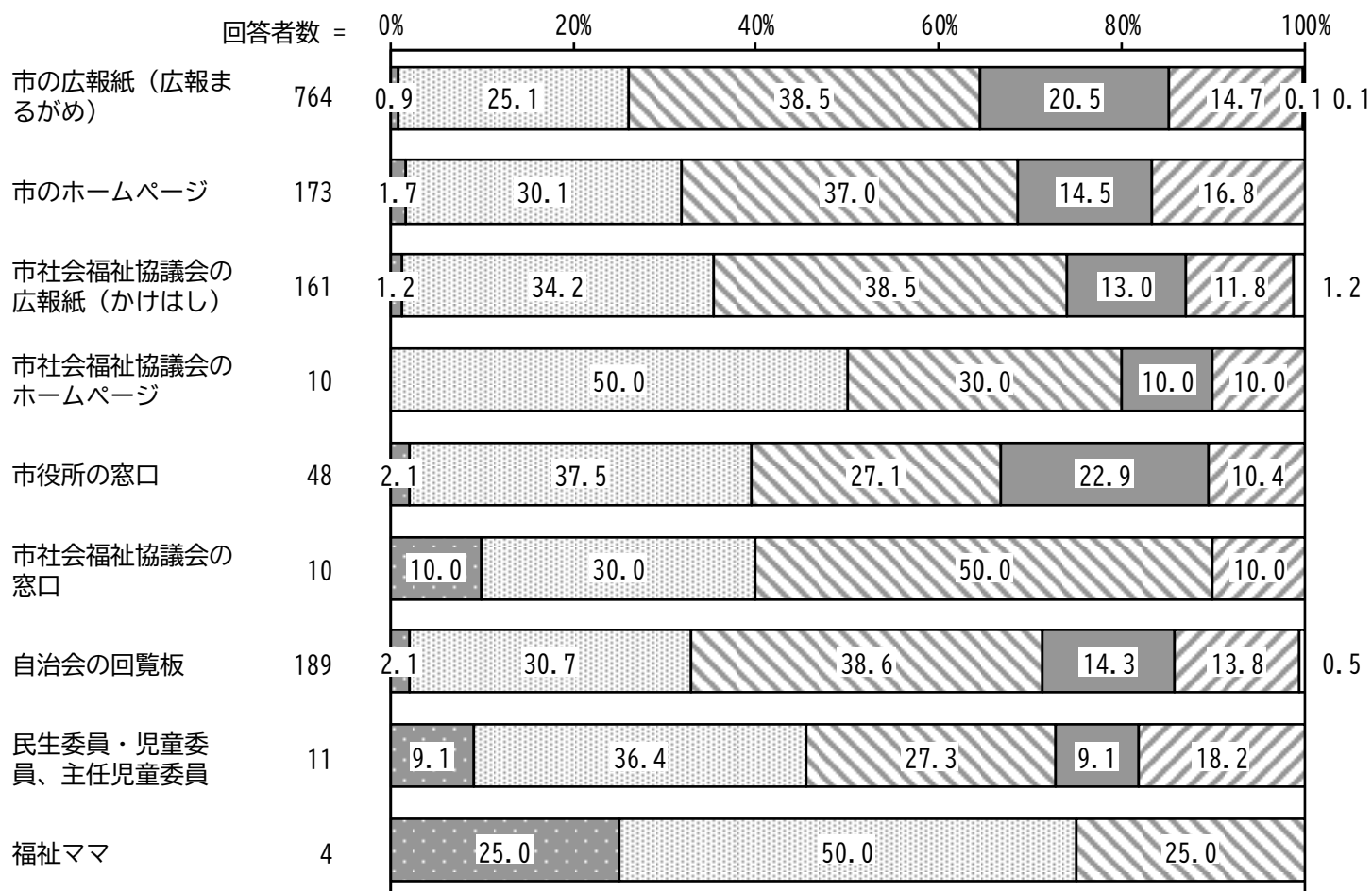
☒ 十分入手できている ☒ ある程度入手できている ☒ あまり入手できていない
☒ ほとんど入手できていない ☒ わからない ☒ その他
☐ 無回答



【情報の入手手段別】

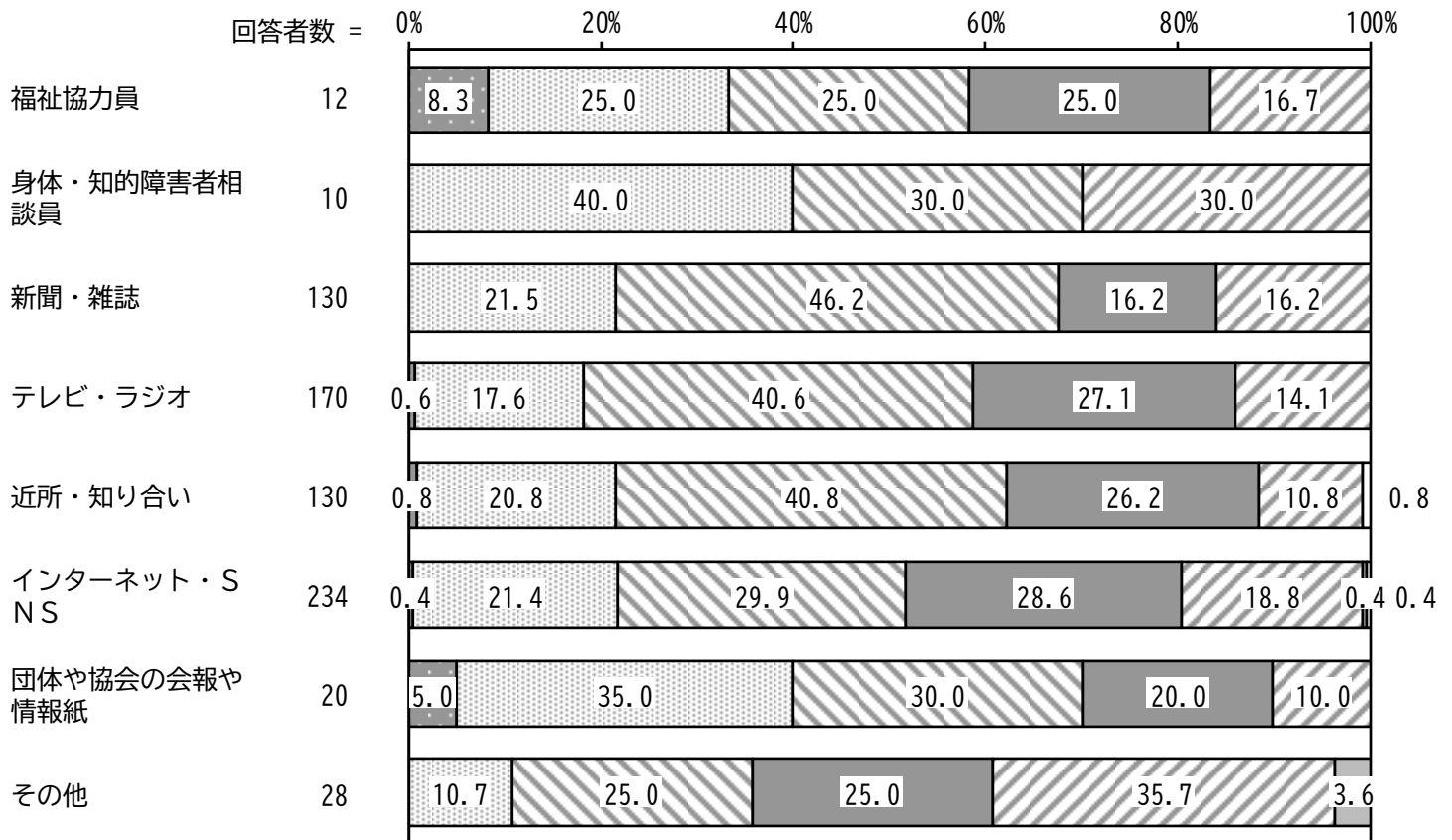
情報の入手手段別にみると、“入手できている”の割合が市社会福祉協議会のホームページで高く、“入手できていない”の割合が民生委員・児童委員、主任児童委員、身体・知的障害者相談員で低くなっています。

☐ 十分入手できている ☐ ある程度入手できている ☐ あまり入手できていない
☐ ほとんど入手できていない ☐ わからない ☐ その他
☐ 無回答



（次ページへ続く）

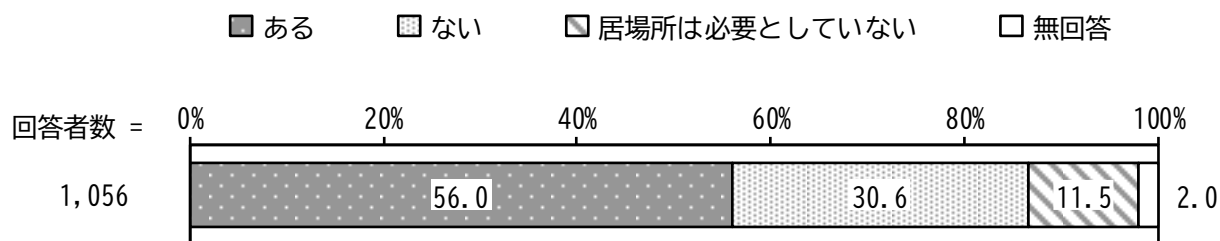
☒ 十分入手できている ☒ ある程度入手できている ☒ あまり入手できていない
☒ ほとんど入手できていない ☒ わからない ☒ その他
☐ 無回答



(前ページのグラフ 続き)

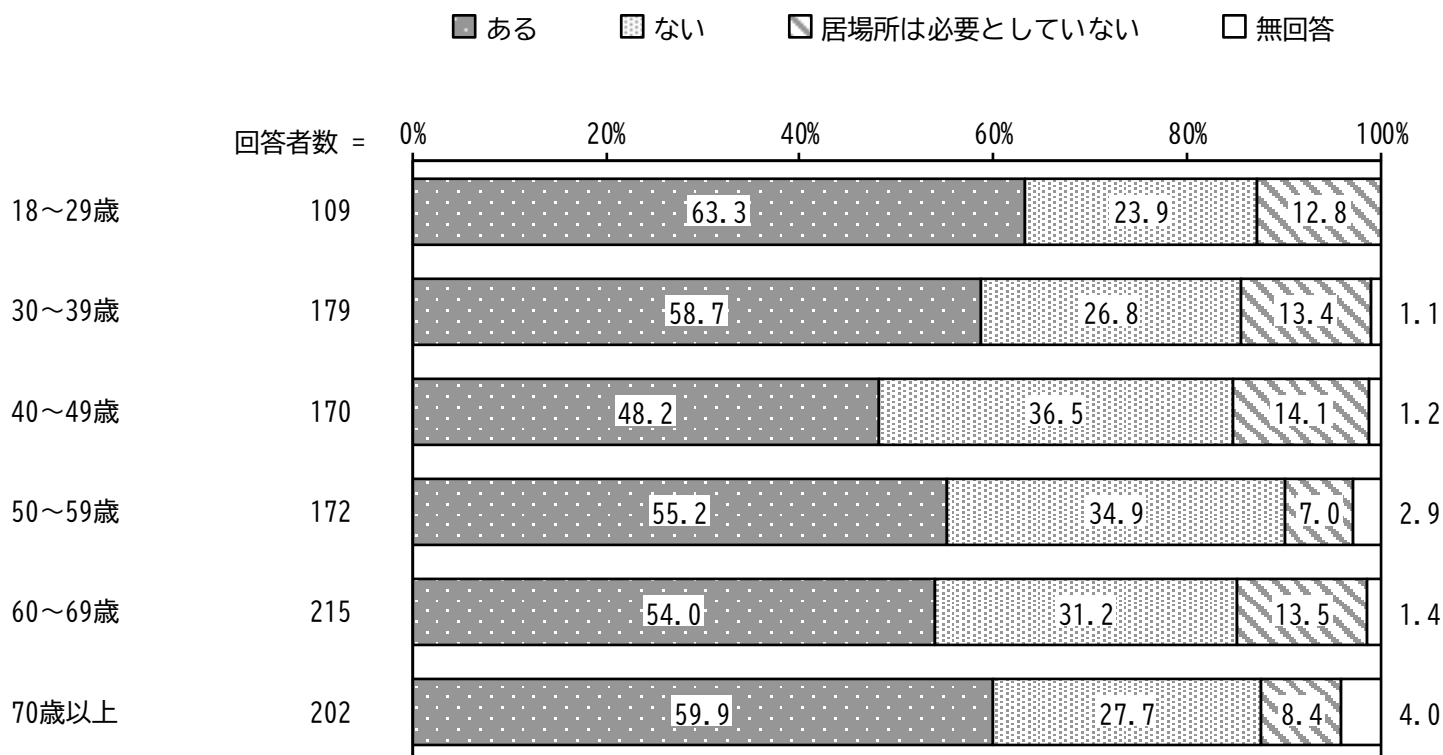
問 24 あなたは、家や学校・職場以外に気軽に行ける居場所がありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が 56.0%、「ない」の割合が 30.6%、「居場所は必要としていない」の割合が 11.5% となっています。



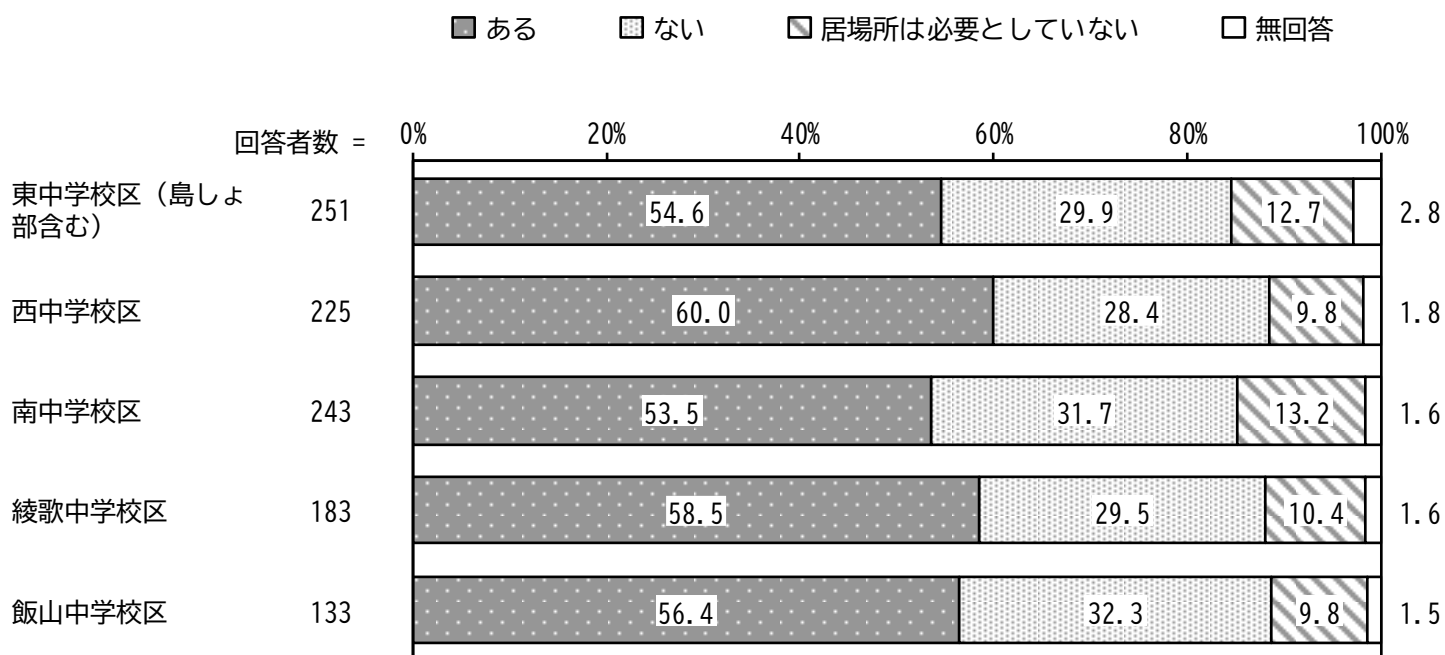
【年齢別】

年齢別にみると、「ある」の割合が 18～29 歳で高く、40～49 歳で低くなっています。



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

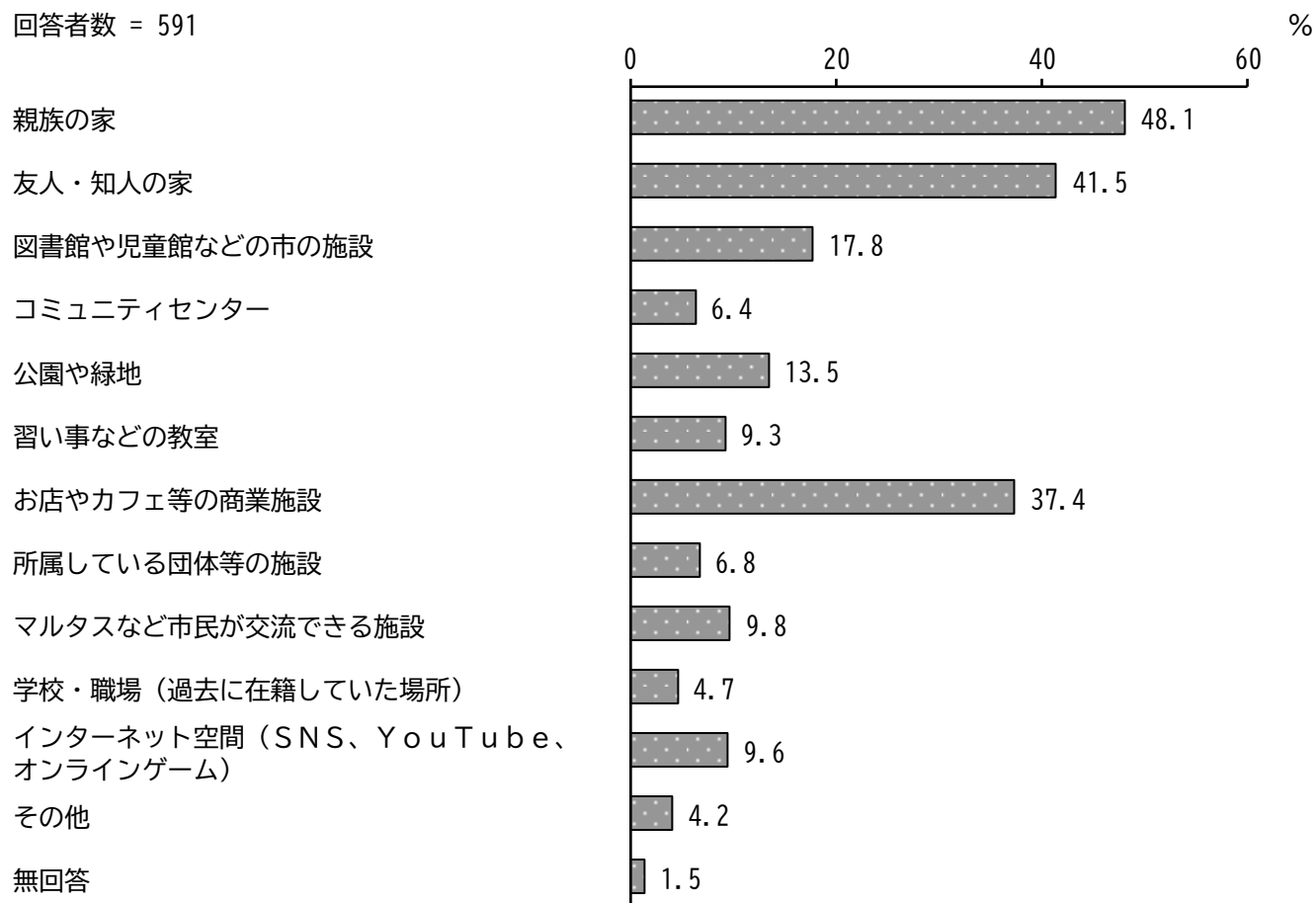


問 24 で「ある」を選んだ方におうかがいします。

問 24（１）それはどのような場所・施設ですか。（○は３つまで）

「親族の家」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「友人・知人の家」の割合が 41.5%、「お店やカフェ等の商業施設」の割合が 37.4%となっています。

回答者数 = 591



【年齢別】

年齢別にみると、「友人・知人の家」の割合が18～29歳で高く、「公園や緑地」の割合が30～39歳で高く、「習い事などの教室」の割合が70歳以上で高く、「お店やカフェ等の商業施設」の割合が60～69歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	親族の家	友人・知人の家	図書館や児童館などの市の施設	コミュニティセンター	公園や緑地	習い事などの教室	お店やカフェ等の商業施設	所属している団体等の施設	マルタスなど市民が交流できる施設	学校・職場(過去に在籍していた場所)	インターネット空間(SNS、YouTube、オンラインゲーム)	その他	無回答
全 体	591	48.1	41.5	17.8	6.4	13.5	9.3	37.4	6.8	9.8	4.7	9.6	4.2	1.5
18～29歳	69	42.0	53.6	13.0	2.9	5.8	2.9	33.3	1.4	18.8	15.9	20.3	2.9	1.4
30～39歳	105	52.4	39.0	16.2	8.6	20.0	2.9	35.2	2.9	16.2	2.9	17.1	1.9	1.9
40～49歳	82	50.0	40.2	18.3	7.3	14.6	4.9	41.5	6.1	3.7	3.7	4.9	3.7	3.7
50～59歳	95	49.5	38.9	16.8	1.1	7.4	9.5	38.9	4.2	9.5	5.3	8.4	9.5	1.1
60～69歳	116	50.9	40.5	17.2	6.0	15.5	11.2	44.0	11.2	8.6	4.3	9.5	2.6	0.9
70歳以上	121	43.8	41.3	21.5	10.7	13.2	19.0	32.2	10.7	5.0	0.8	1.7	5.0	0.8

【地区別】

地区別にみると、「親族の家」の割合が東中学校区で高く、「友人・知人の家」の割合が西中学校区で低く、「お店やカフェ等の商業施設」の割合が飯山中学校区で高く、「マルタスなど市民が交流できる施設」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	親族の家	友人・知人の家	図書館や児童館などの市の施設	コミュニティセンター	公園や緑地	習い事などの教室	お店やカフェ等の商業施設	所属している団体等の施設	マルタスなど市民が交流できる施設	学校・職場（過去に在籍していた場所）	インターネット空間（SNS、YouTube、オンラインゲーム）	その他	無回答
全 体	591	48.1	41.5	17.8	6.4	13.5	9.3	37.4	6.8	9.8	4.7	9.6	4.2	1.5
東中学校区（島しょ部含む）	137	56.9	41.6	19.7	8.0	11.7	12.4	28.5	4.4	16.1	4.4	10.9	5.8	0.7
西中学校区	135	43.7	31.1	19.3	5.2	11.1	6.7	38.5	7.4	14.1	5.2	10.4	4.4	3.0
南中学校区	130	45.4	46.2	16.2	5.4	16.9	6.2	38.5	8.5	6.9	5.4	8.5	3.1	1.5
綾歌中学校区	107	47.7	47.7	15.9	7.5	11.2	5.6	35.5	7.5	2.8	4.7	7.5	6.5	1.9
飯山中学校区	75	49.3	45.3	14.7	6.7	16.0	17.3	53.3	5.3	4.0	4.0	9.3	—	—

【近所との関わり方別】

近所との関わり方別にみると、「友人・知人の家」の割合が特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあいで高く、「図書館や児童館などの市の施設」の割合が近所にどんな人が住んでいるのかわからないで高く、「お店やカフェ等の商業施設」の割合が近所づきあいはしないで高く、「所属している団体等の施設」の割合がよく行き来はするが、家庭の中までは入らないで高くなっています。

単位：％

質問項目	回答者数 (件)	親族の家	友人・知人の家	図書館や児童館などの 市の施設	コミュニティセンター	公園や緑地	習い事などの教室
近所との関わり方							
全 体	591	48.1	41.5	17.8	6.4	13.5	9.3
特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい	18	50.0	72.2	16.7	11.1	—	5.6
よく行き来はするが、家庭の中までは入らない	49	53.1	59.2	20.4	8.2	14.3	10.2
顔が合えば立ち話をする程度	164	50.0	38.4	19.5	9.1	12.8	12.8
顔が合えば挨拶はする程度	298	48.3	40.3	15.8	4.0	15.4	7.4
近所にどんな人が住んでいるのかわからない	23	30.4	30.4	30.4	8.7	17.4	13.0
近所づきあいはしない	30	30.0	33.3	16.7	6.7	3.3	3.3
その他	3	66.7	33.3	33.3	33.3	—	33.3

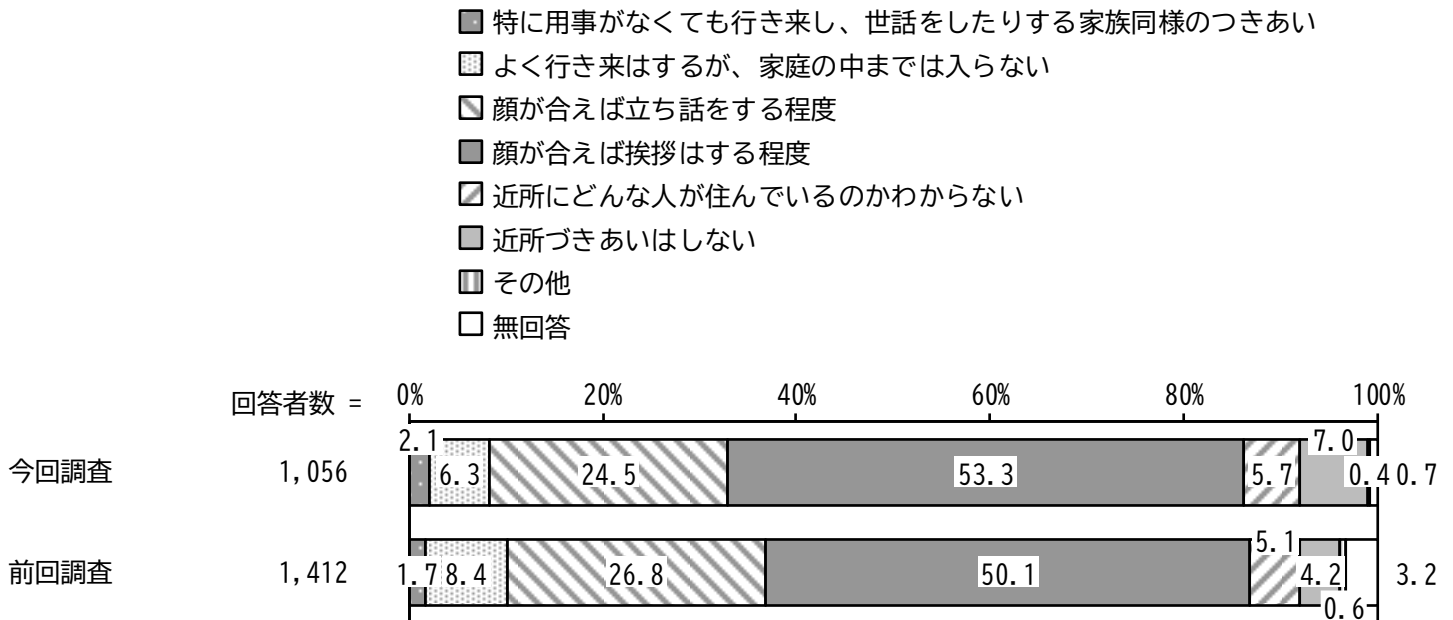
質問項目	施設 お店やカフェ等の商業	施設 所属している団体等の	施設 マルチスなど市民が交 流できる施設	施設 学校・職場（過去に在籍 していた場所）	施設 インターネット空間（S NS、YouTube、 オンラインゲーム）	その他	無回答
近所との関わり方							
全 体	37.4	6.8	9.8	4.7	9.6	4.2	1.5
特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい	27.8	11.1	11.1	—	5.6	5.6	—
よく行き来はするが、家庭の中までは入らない	28.6	16.3	8.2	4.1	—	2.0	2.0
顔が合えば立ち話をする程度	37.8	7.9	6.7	3.0	9.1	6.1	2.4
顔が合えば挨拶はする程度	37.9	5.7	11.7	7.0	11.4	3.4	1.0
近所にどんな人が住んでいるのかわからない	39.1	—	13.0	—	17.4	—	—
近所づきあいはしない	46.7	—	10.0	—	6.7	10.0	3.3
その他	33.3	—	—	—	33.3	—	—

(4) 隣近所との関わりについて

問 25 あなたは、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。(○は1つ)

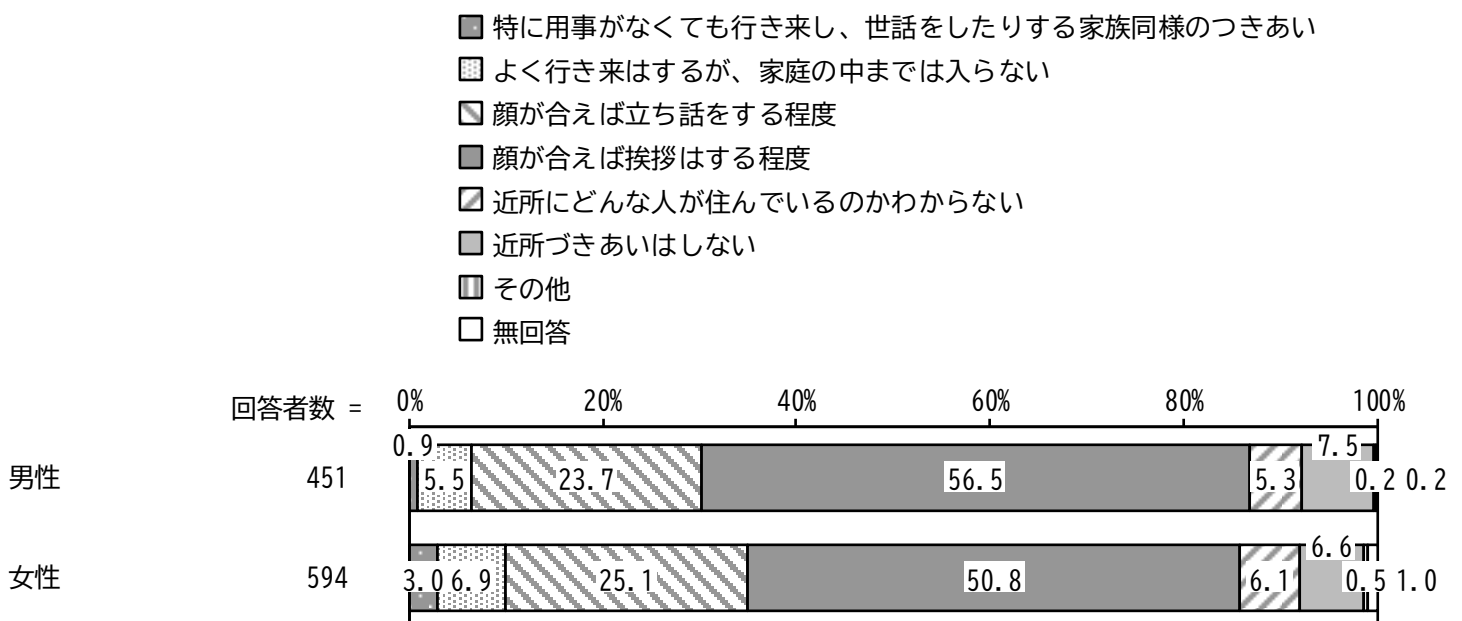
「顔が合えば挨拶はする程度」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が 24.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

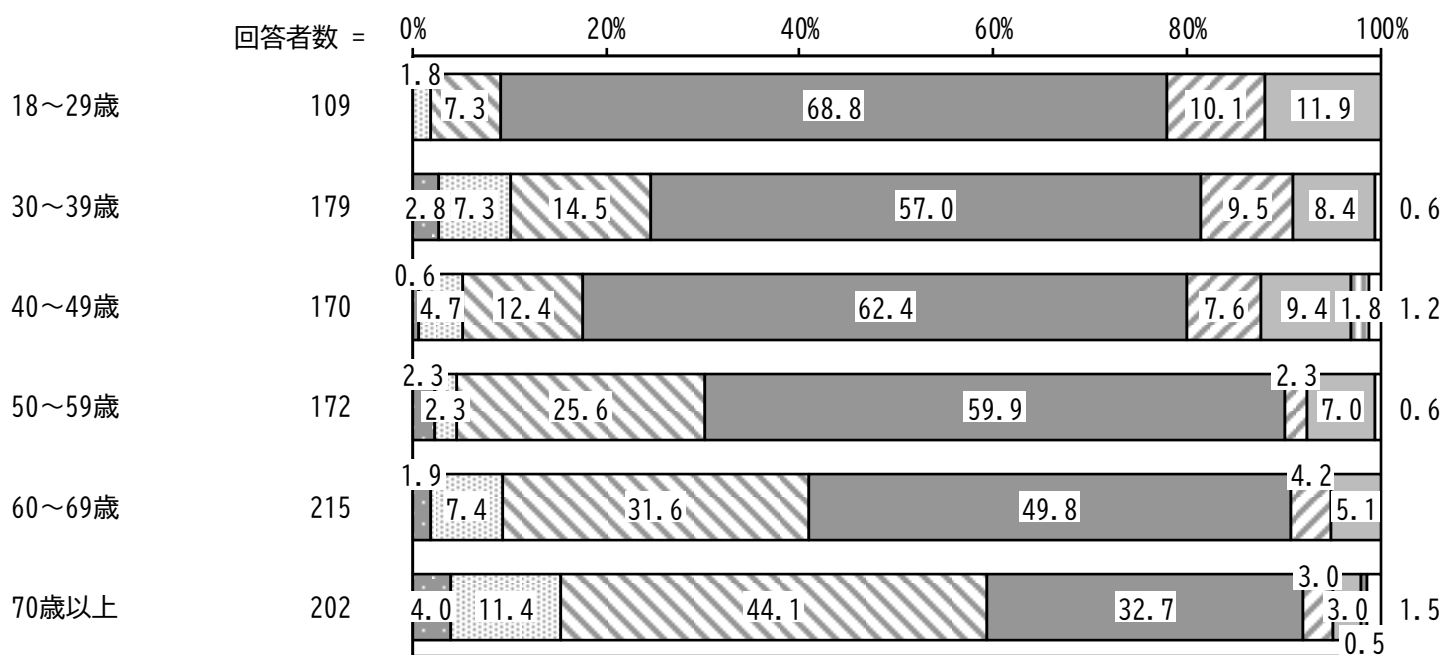
性別にみると、「顔が合えば挨拶はする程度」で男性の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が18～29歳で低く、「顔が合えば挨拶はする程度」の割合が70歳以上で低くなっています。

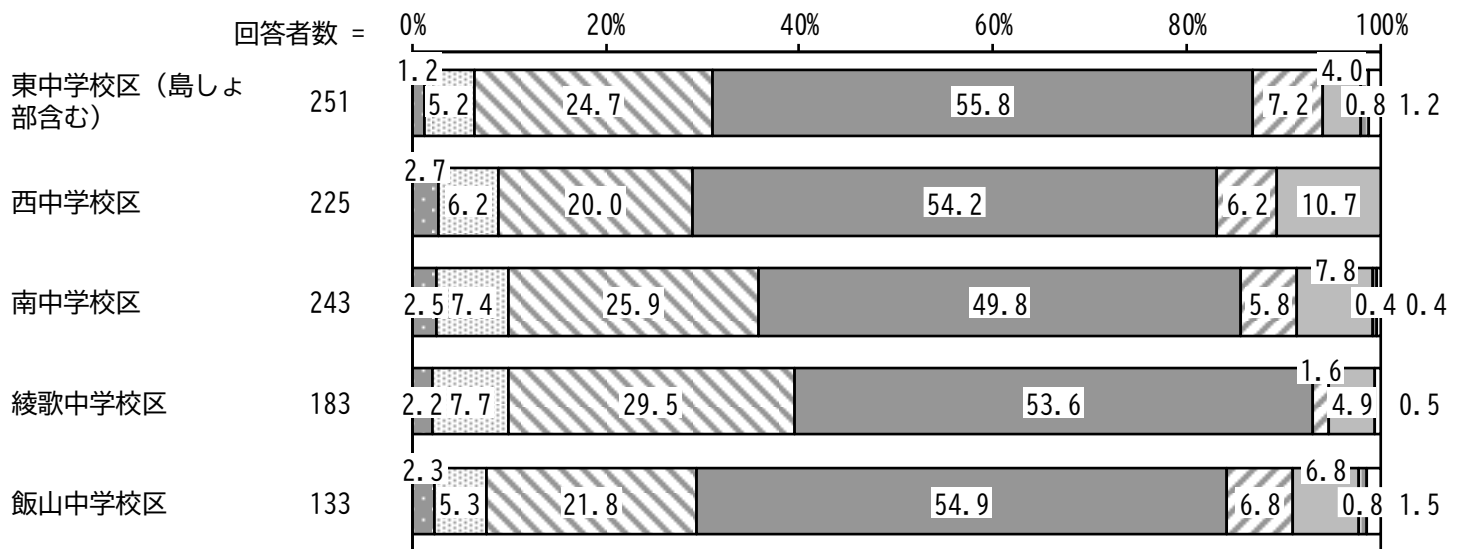
- 特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい
- ▨ よく行き来はするが、家庭の中までは入らない
- ▤ 顔が合えば立ち話をする程度
- 顔が合えば挨拶はする程度
- ▤ 近所にどんな人が住んでいるのかわからない
- ▨ 近所づきあいはいらない
- その他
- 無回答



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

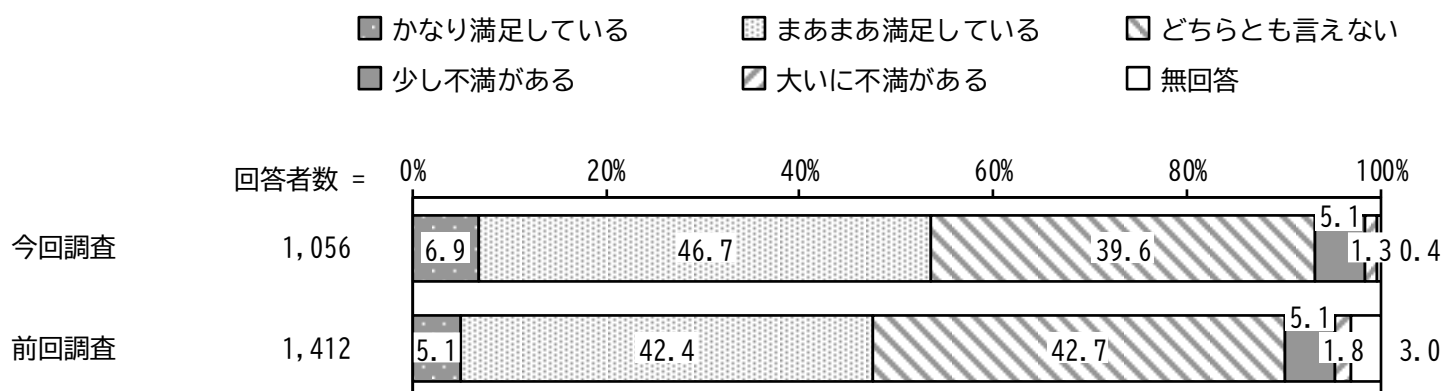
- 特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様のつきあい
- ▨ よく行き来はするが、家庭の中までは入らない
- ▧ 顔が合えば立ち話をする程度
- 顔が合えば挨拶はする程度
- ▨ 近所にどんな人が住んでいるのかわからない
- 近所づきあいはいらない
- ▨ その他
- 無回答



問 26 あなたは、今の近所づきあいに満足していますか。(○は1つ)

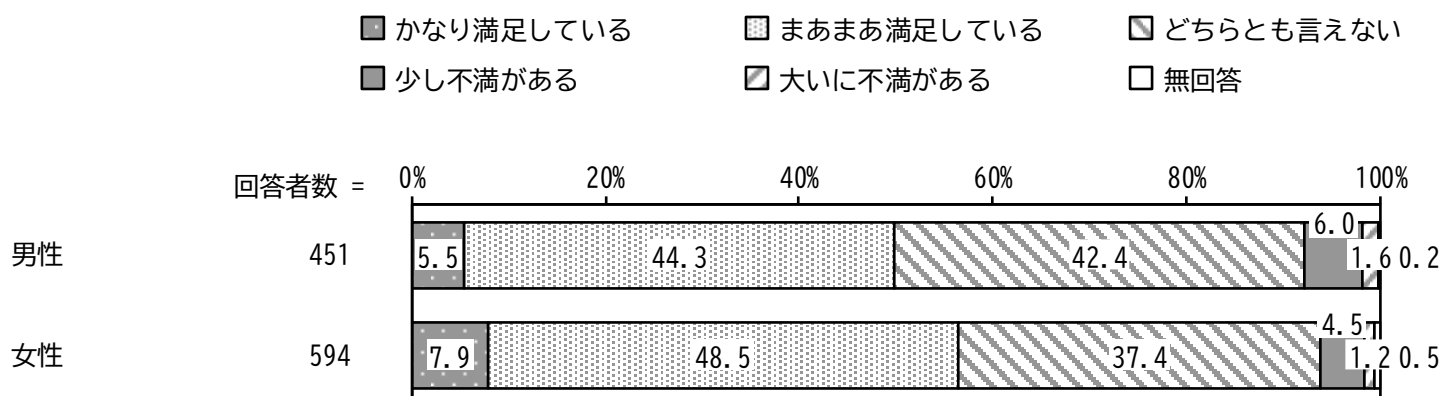
「かなり満足している」「まあまあ満足している」を合わせた“満足している”の割合が53.6%、「どちらとも言えない」の割合が39.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



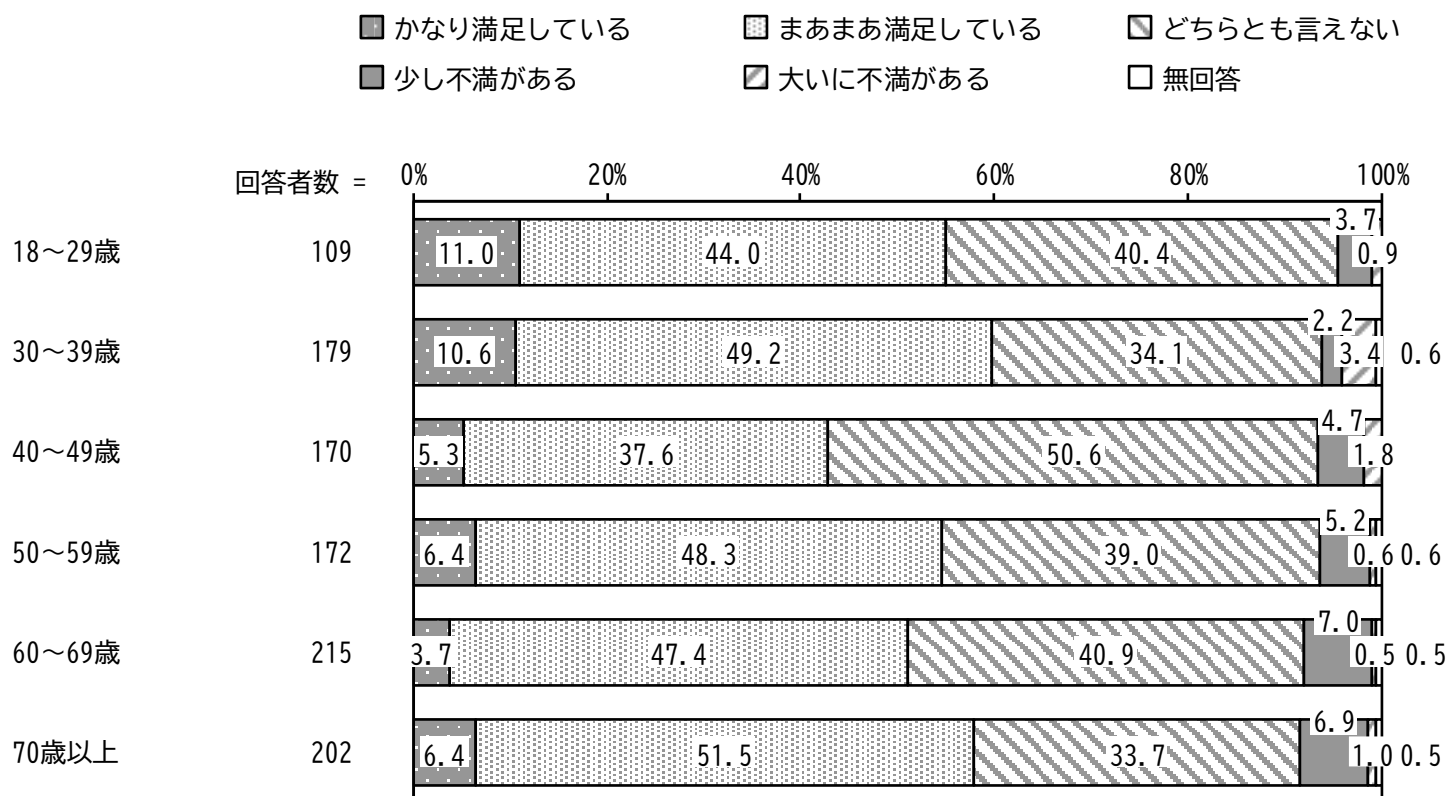
【性別】

性別にみると、“どちらとも言えない”で男性の割合が高く、“満足している”で女性の割合が高くなっています。



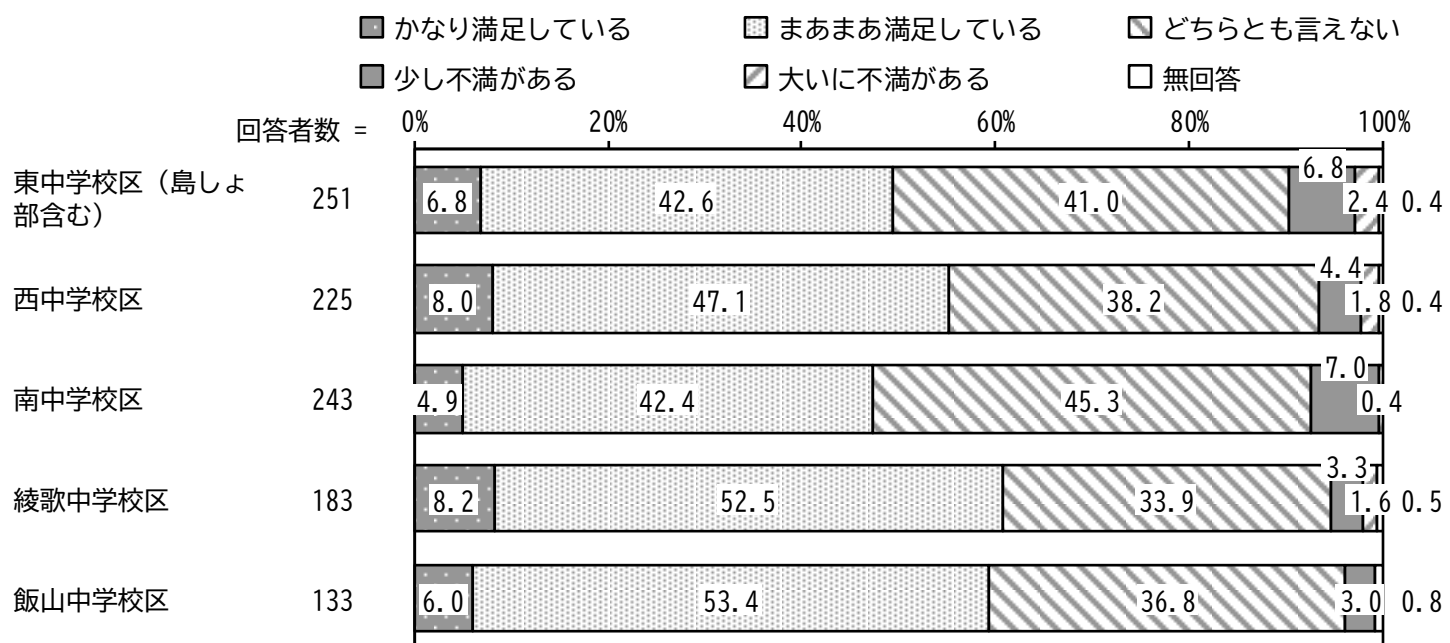
【年齢別】

年齢別にみると、「どちらとも言えない」の割合が40～49歳で高くなっています。



【地区別】

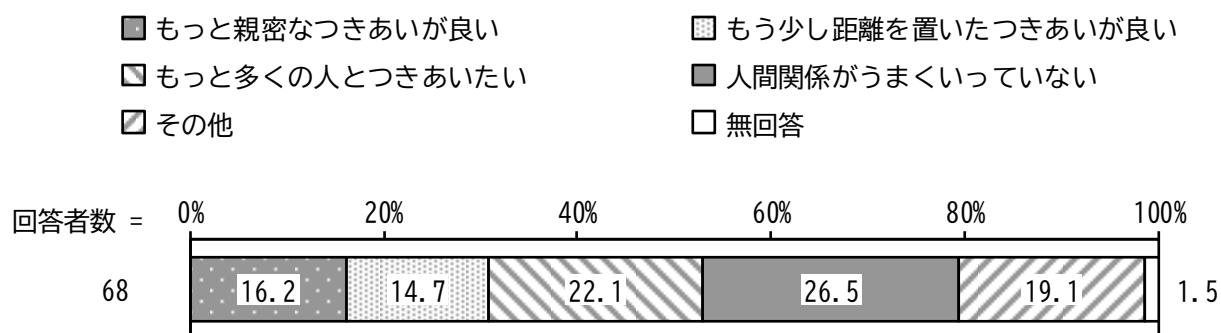
地区別にみると、“満足している”の割合が綾歌中学校区で高くなっています。



問 26 で「少し不満がある」「大いに不満がある」を選んだ方におうかがいします。

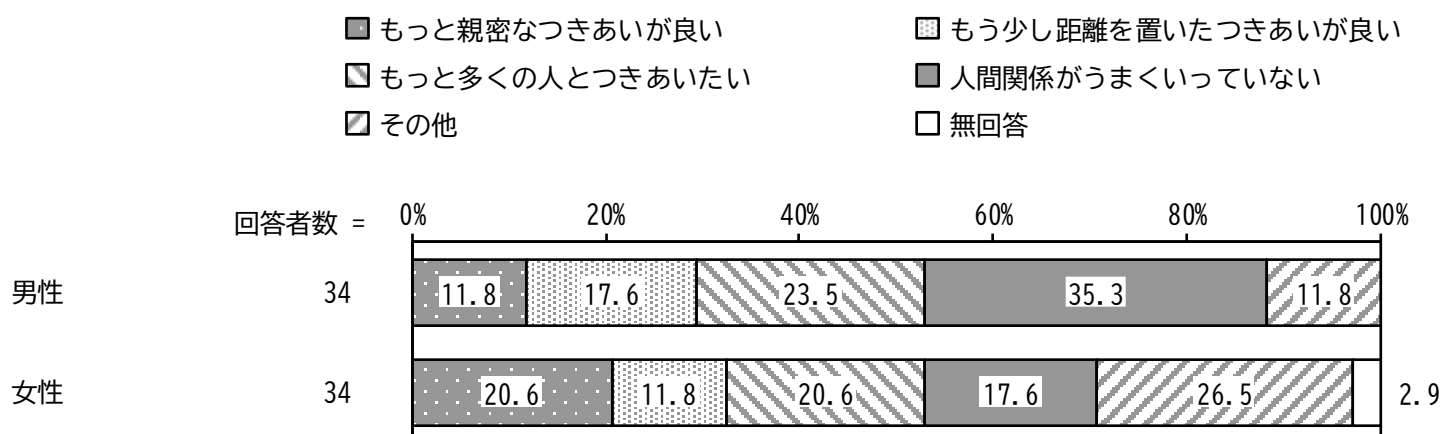
問 26（１）どのようなことが不満ですか。（○は１つ）

「人間関係がうまくいっていない」の割合が 26.5%と最も高く、次いで「もっと多くの人とつきあいたい」の割合が 22.1%、「もっと親密なつきあいが良い」の割合が 16.2%となっています。



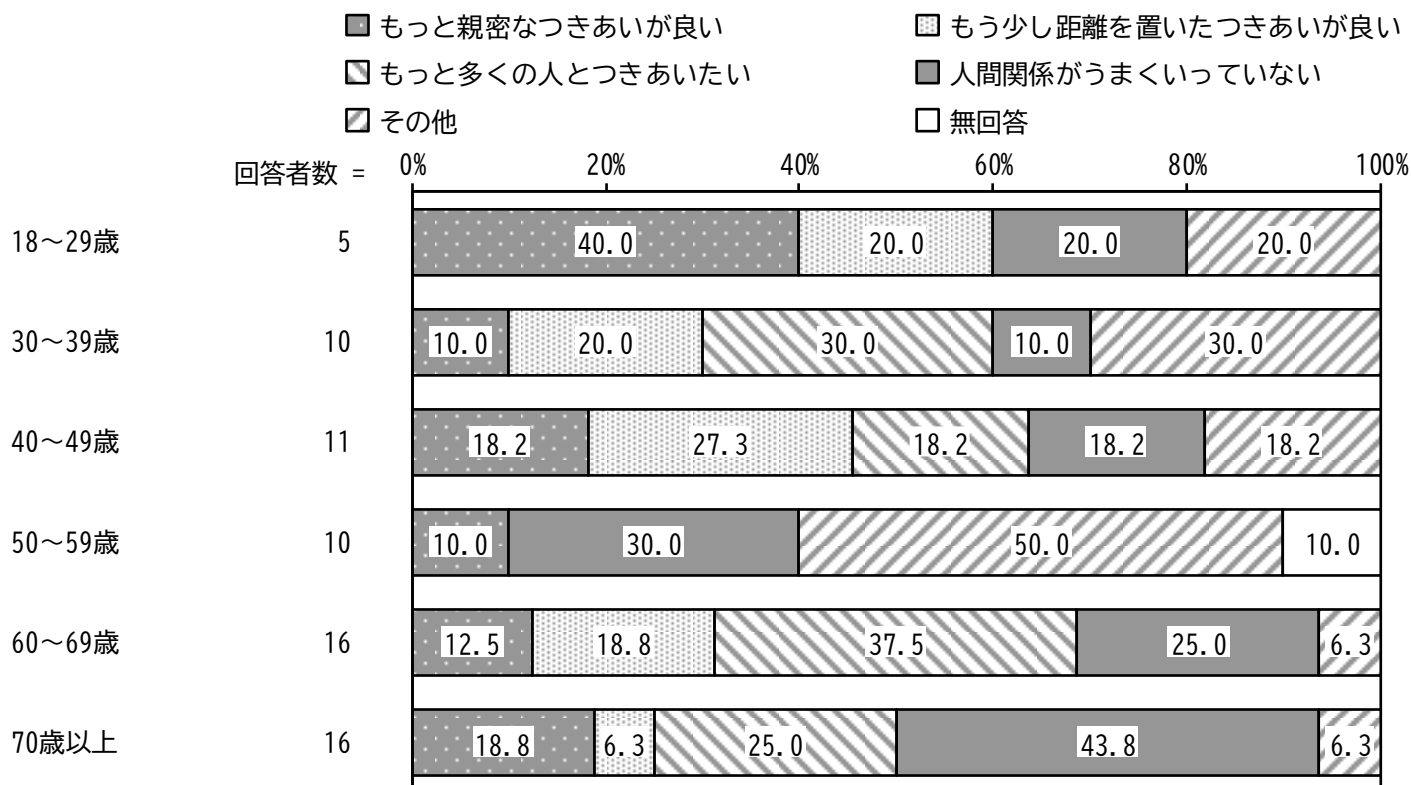
【性別】

性別にみると、「人間関係がうまくいっていない」で男性の割合が高く、「もっと親密なつきあいが良い」で女性の割合が高くなっています。



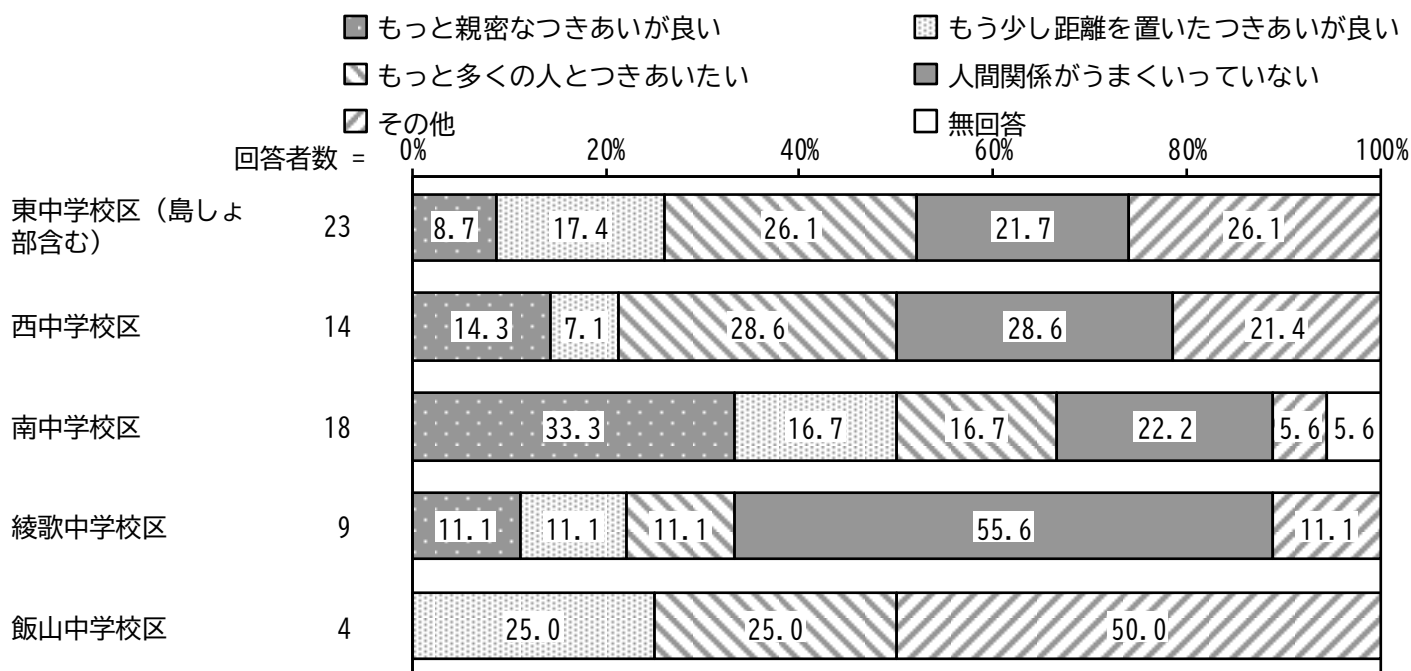
【年齢別】

年齢別にみると、「もう少し距離を置いたつきあいが良い」の割合が40～49歳で高く、「人間関係がうまくいっていない」の割合が70歳以上で高く、30～39歳で低くなっています。



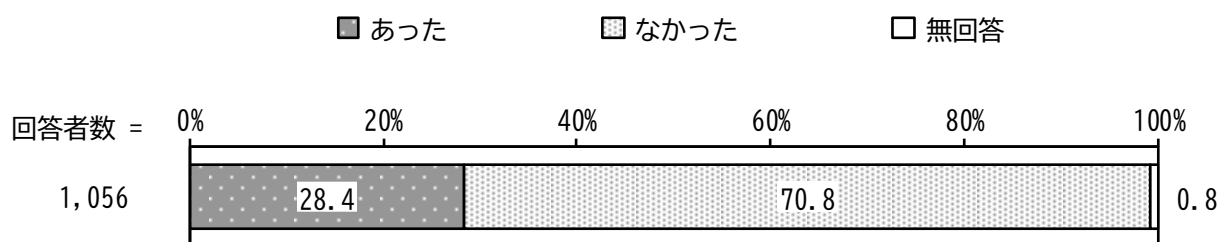
【地区別】

地区別にみると、「もっと親密なつきあいが良い」の割合が南中学校区で高くなっています。



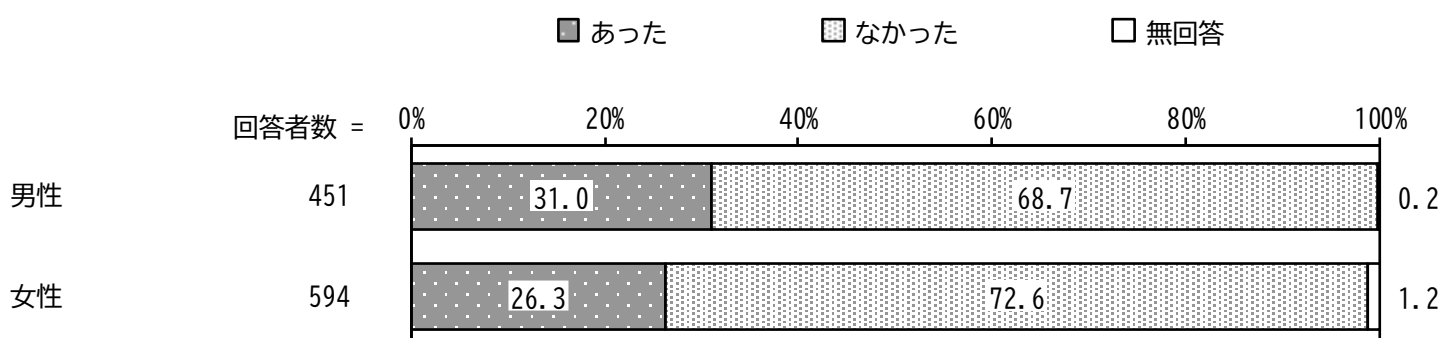
問 27 あなたは、これまで地域の問題について地域の人と話す機会がありましたか。(〇は1つ)

「あった」の割合が28.4%、「なかった」の割合が70.8%となっています。



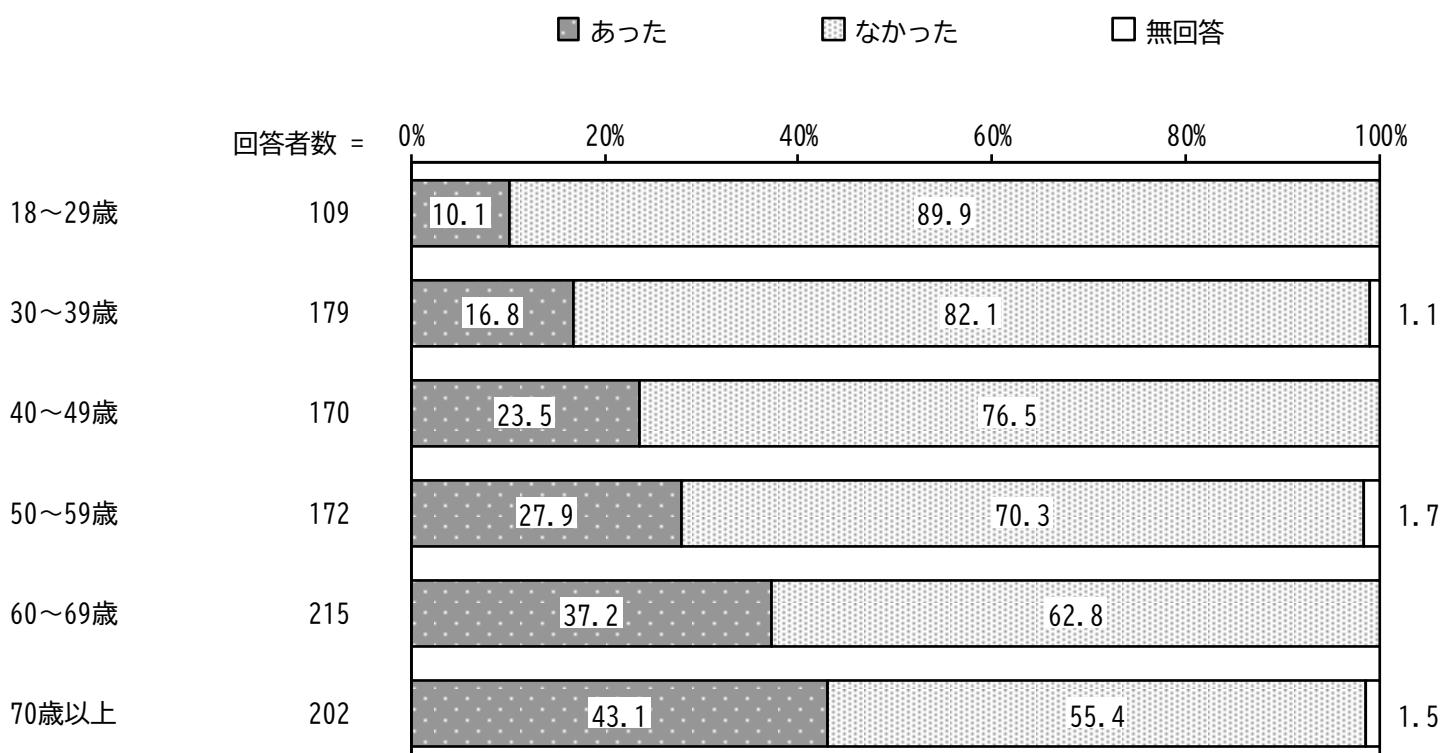
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



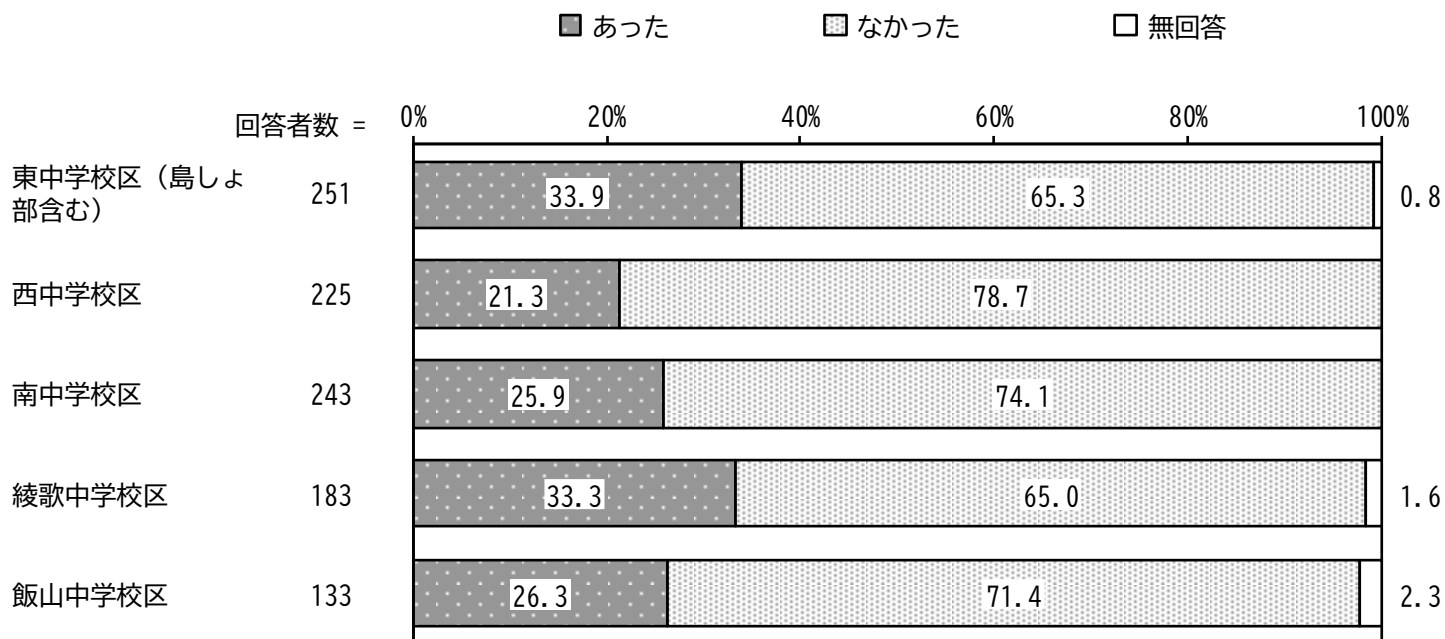
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「あった」の割合が高くなっています。



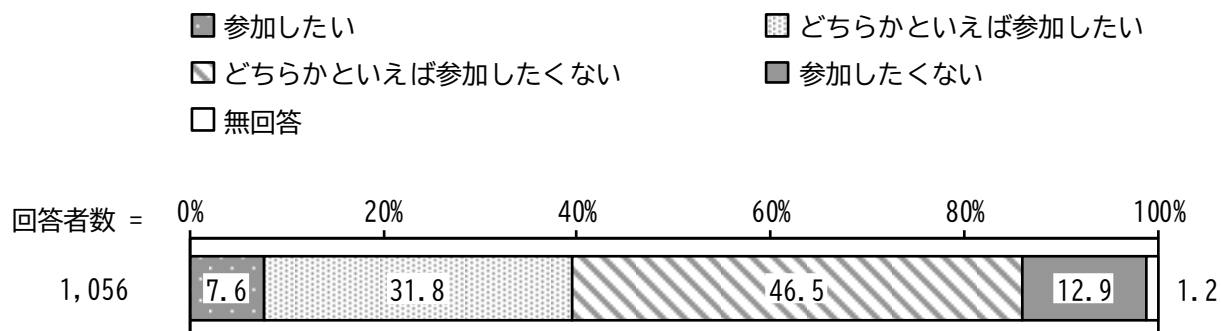
【地区別】

地区別にみると、「なかった」の割合が西中学校区で高くなっています。



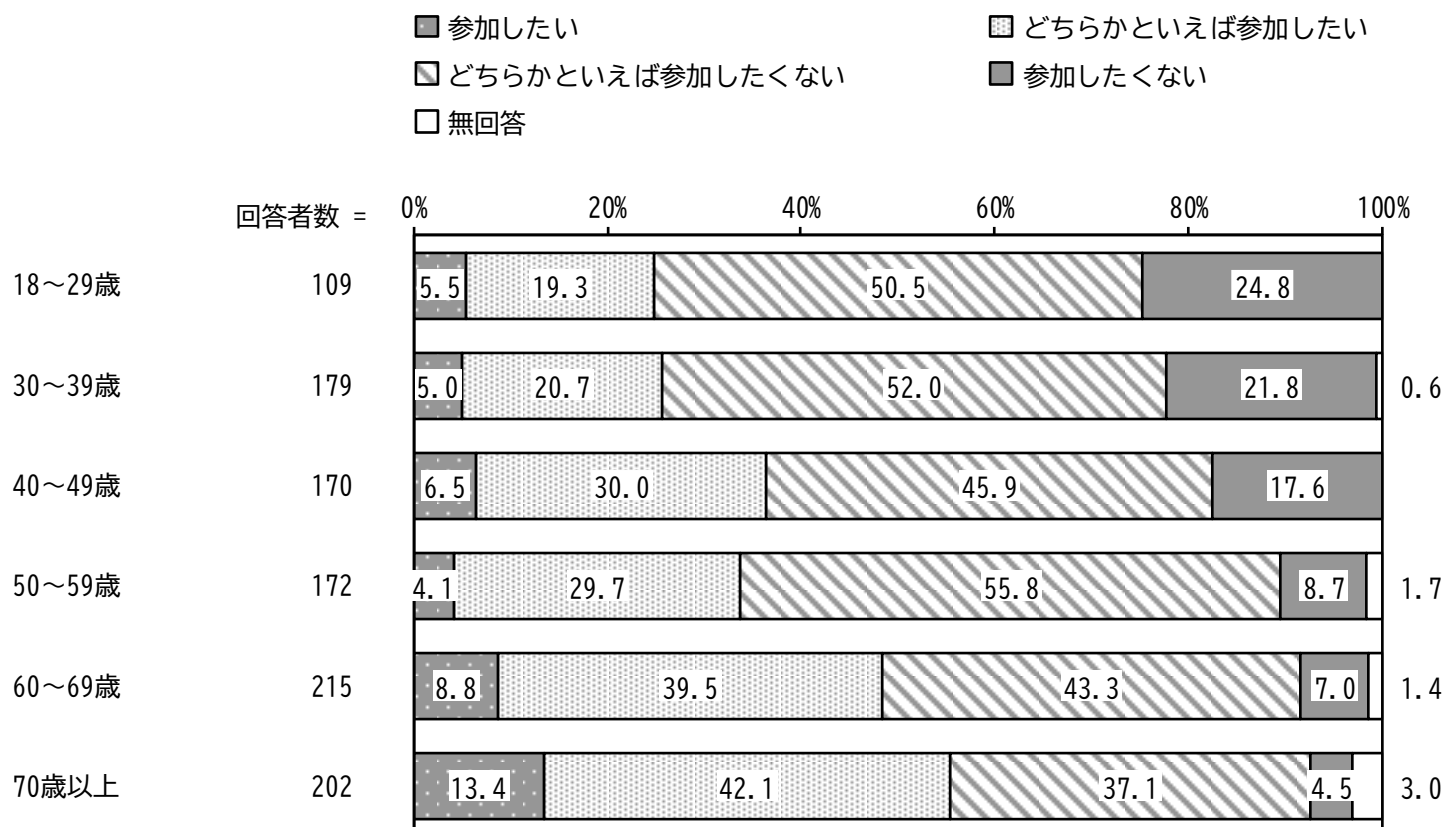
問 28 あなたは、地域の問題について地域の人と話す機会があれば参加したいですか。
(○は1つ)

「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を合わせた“参加したい”の割合が 39.4%、「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」を合わせた“参加したくない”の割合が 59.4%となっています。



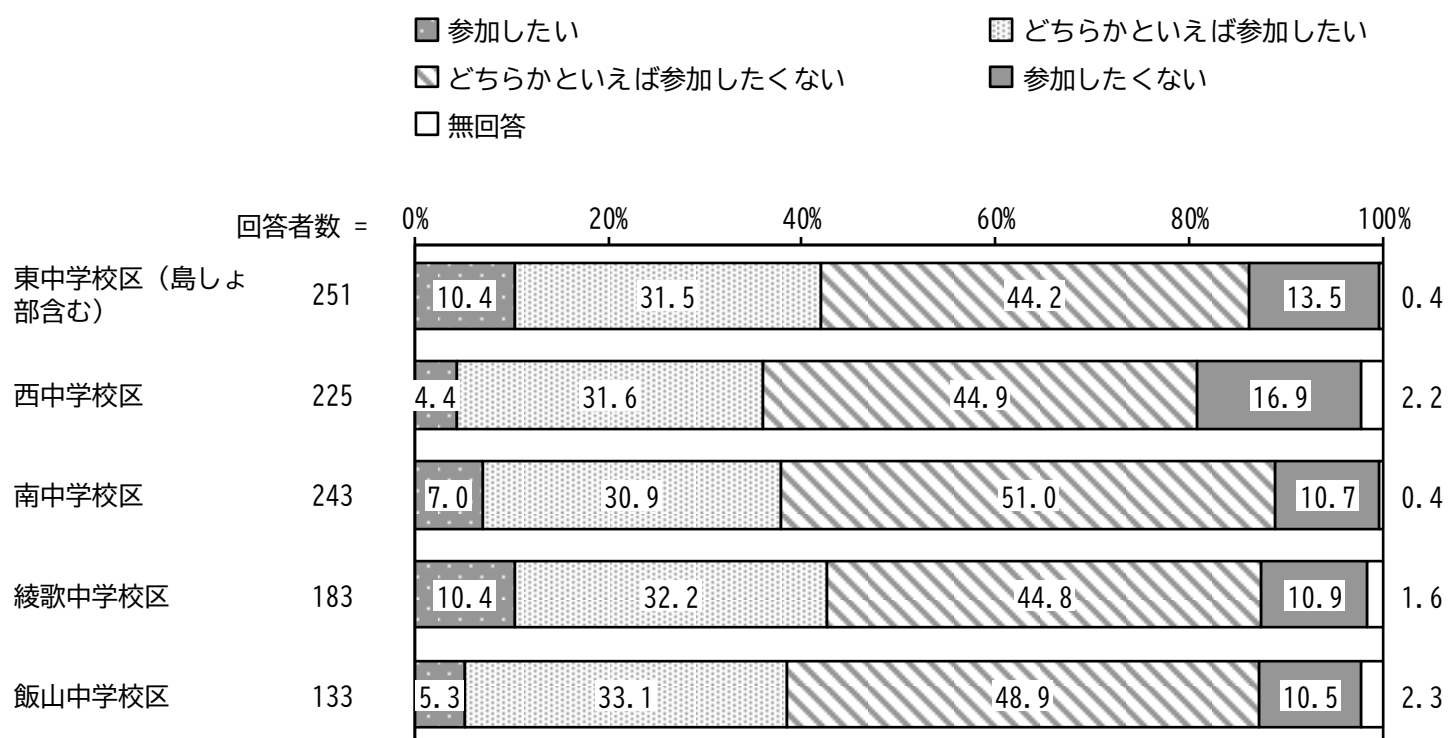
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて“参加したい”の割合が高くなる傾向にあります。



【地区別】

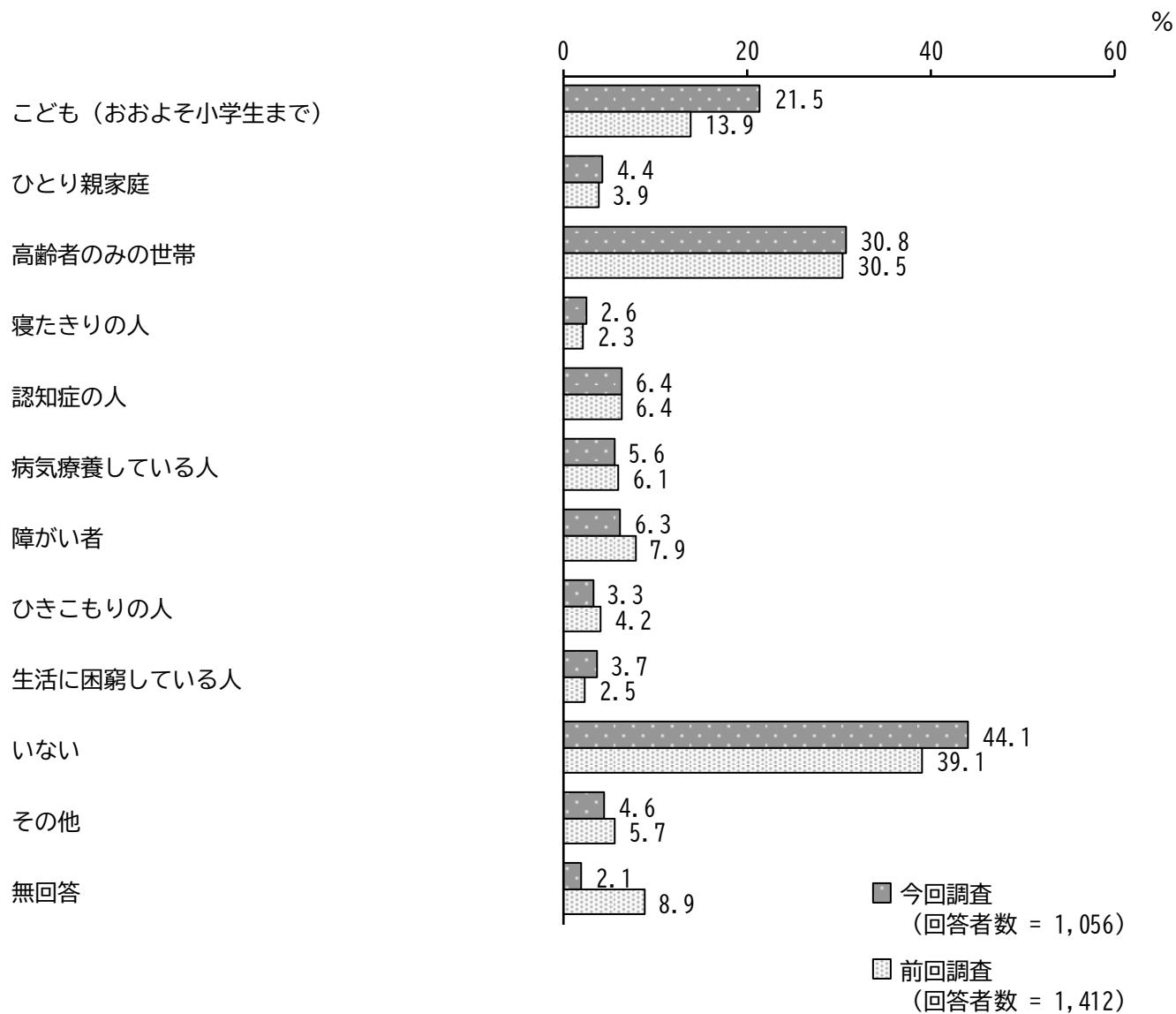
地区別にみると、大きな差はみられません。



問 29 あなたの近所には、次のような、見守りを必要とする人や気にかかる人がいますか。
(あてはまるものすべてに○)

「いない」の割合が44.1%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」の割合が30.8%、「こども（おおよそ小学生まで）」の割合が21.5%となっています。

前回調査と比較すると、「こども（おおよそ小学生まで）」の割合が増加しています。



※前回調査では、「こども（おおよそ小学生まで）」が「子ども（おおよそ小学生まで）」、「障がい者」が「障がいのある人」となっていました。

【地区別】

地区別にみると、「こども（おおそ小学生まで）」の割合が西中学校区で高く、「高齢者のみの世帯」の割合が西中学校区で低くなっています。

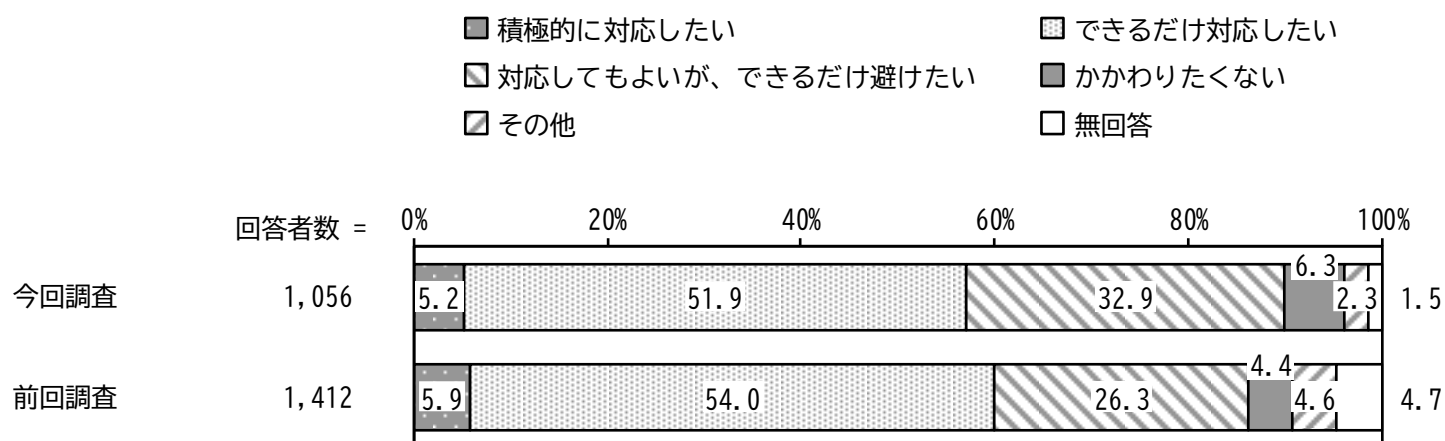
単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	こども（おおそ小学生まで）	ひとり親家庭	高齢者のみの世帯	寝たきりの人	認知症の人	病気療養している人	障がい者	ひきこもりの人	生活に困窮している人	いない	その他	無回答
全 体	1,056	21.5	4.4	30.8	2.6	6.4	5.6	6.3	3.3	3.7	44.1	4.6	2.1
東中学校区（島しょ部含む）	251	23.1	5.6	35.1	3.6	7.2	6.0	6.8	3.6	5.6	42.6	3.6	1.2
西中学校区	225	28.9	4.9	23.6	1.8	8.0	5.3	4.9	3.6	2.7	45.8	3.6	1.3
南中学校区	243	18.1	3.7	30.9	2.9	6.2	4.9	4.9	4.1	3.3	43.2	8.2	1.6
綾歌中学校区	183	20.8	4.4	33.3	2.2	4.9	6.6	7.1	2.2	5.5	41.0	4.4	4.4
飯山中学校区	133	14.3	3.0	33.1	2.3	6.0	6.0	9.0	3.0	0.8	48.9	3.0	1.5

問 30 暮らしの中で困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった場合に、あなたはどのように対応したいと思いますか。(〇は1つ)

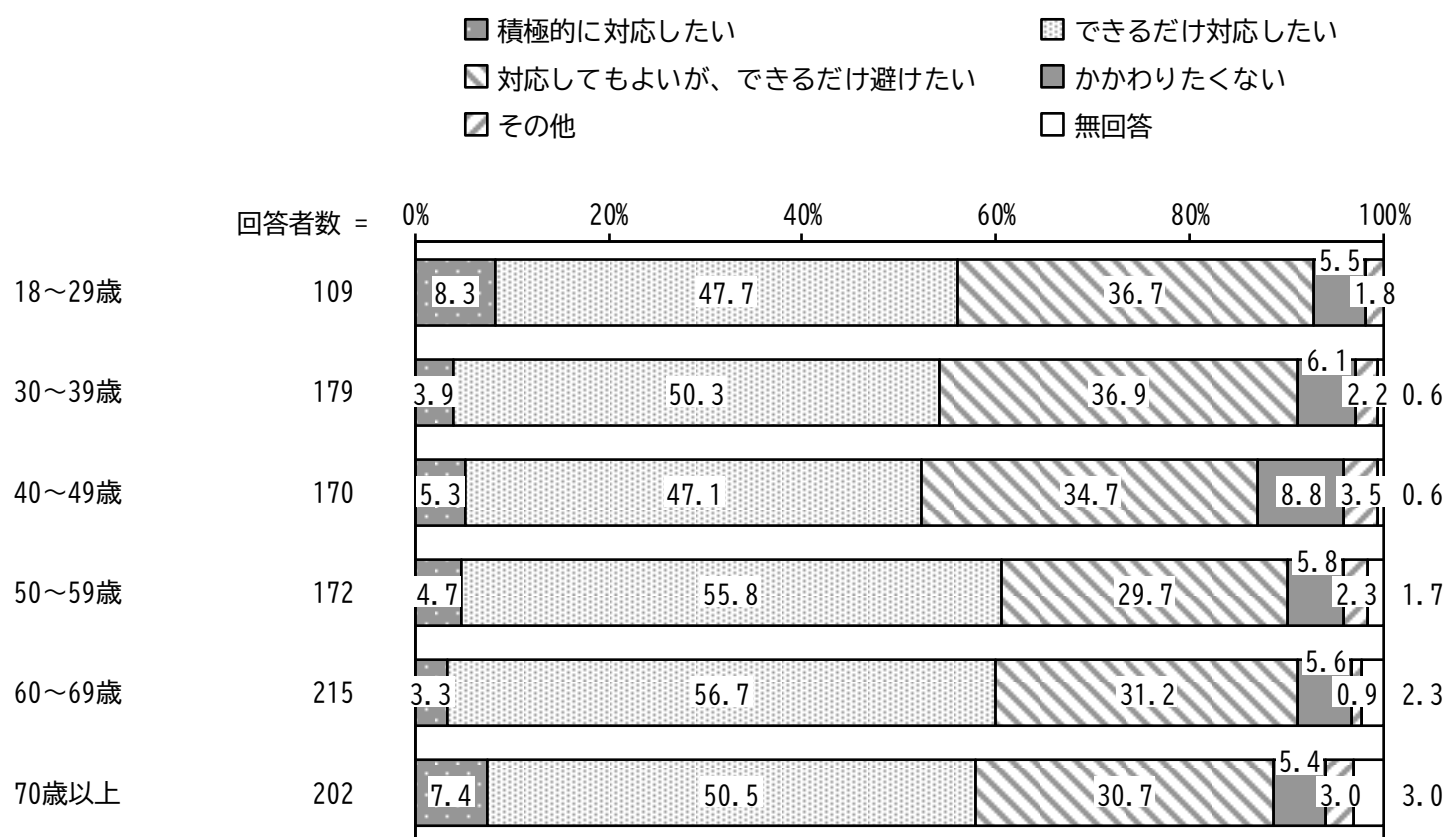
「できるだけ対応したい」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「対応してもよいが、できるだけ避けたい」の割合が 32.9%となっています。

前回調査と比較すると、「対応してもよいが、できるだけ避けたい」の割合が増加しています。



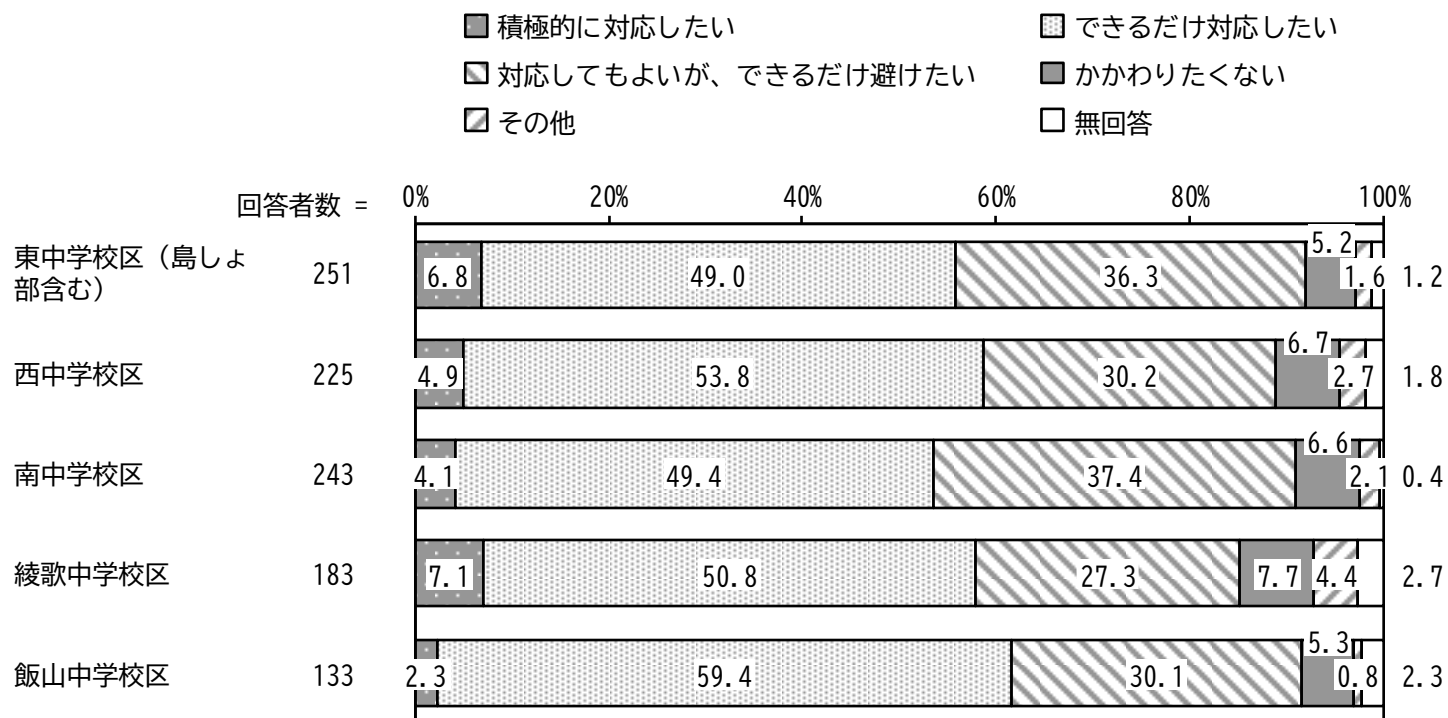
【年齢別】

年齢別にみると、「できるだけ対応したい」の割合が 60～69 歳で高く、40～49 歳で低くなっています。



【地区別】

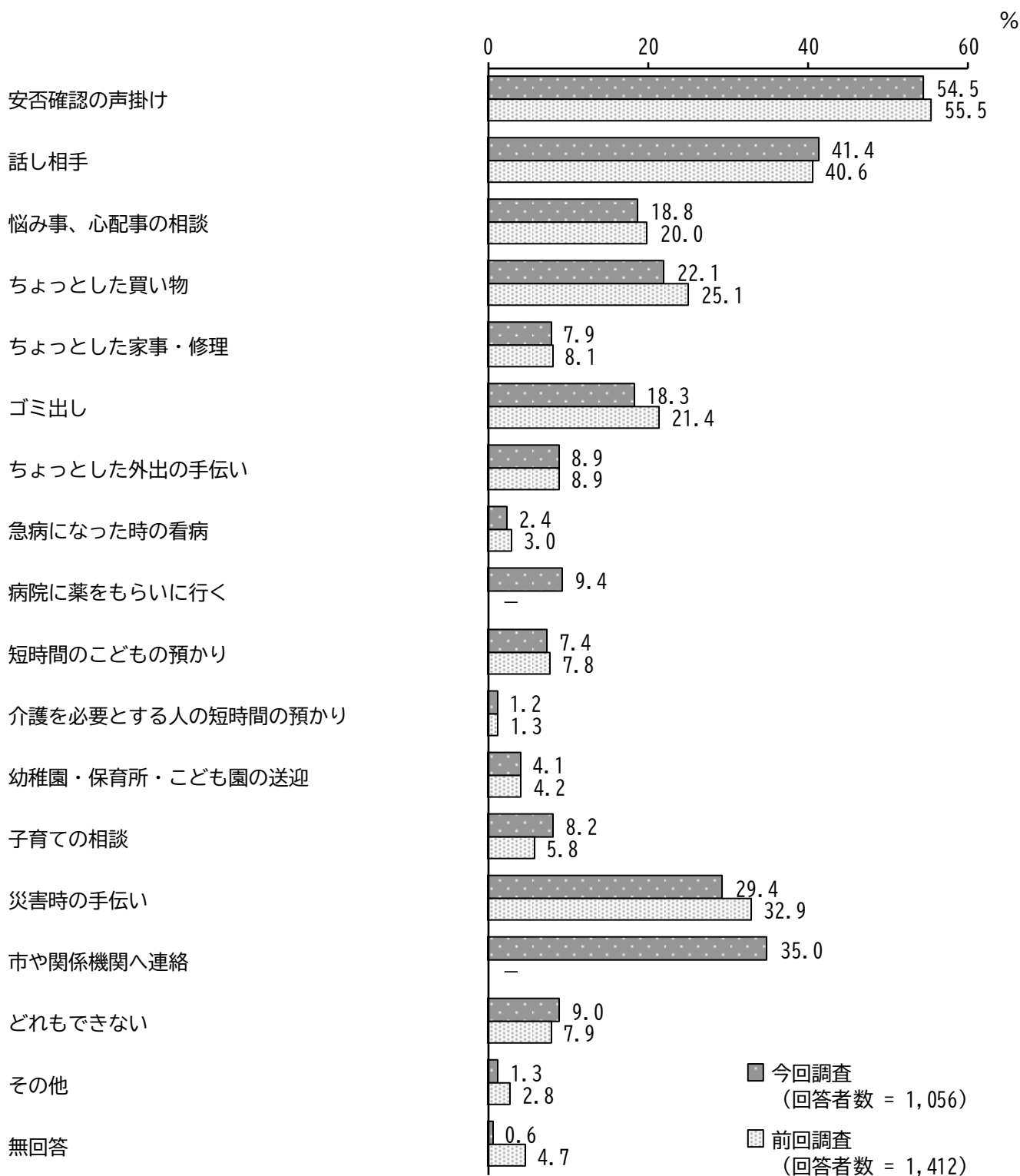
地区別にみると、「できるだけ対応したい」の割合が飯山中学校校区で高く、「対応してもよいが、できるだけ避けたい」の割合が綾歌中学校校区で低くなっています。



問 31 近所で困っている方がいた時、あなたができることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「安否確認の声掛け」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「話し相手」の割合が 41.4%、「市や関係機関へ連絡」の割合が 35.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では、「ゴミ出し」が「ゴミだし」となっており、「病院に薬をもらいに行く」、「市や関係機関へ連絡」がありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「ゴミ出し」の割合が30～39歳で低く、「災害時の手伝い」の割合が50～59歳で高く、「市や関係機関へ連絡」の割合が18～29歳で低くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	安否確認の 声掛け	話し相手	悩み事、 心配事の相 談	ちよつとした買 い物	ちよつとした家 事・修理	ゴミ出し	ちよつとした外 出の手伝い	急病になつた 時の看病	病院に薬をもら いにいく
全 体	1,056	54.5	41.4	18.8	22.1	7.9	18.3	8.9	2.4	9.4
18～29歳	109	55.0	38.5	22.0	21.1	8.3	13.8	9.2	3.7	7.3
30～39歳	179	55.9	43.0	21.8	15.6	3.9	11.2	4.5	0.6	5.6
40～49歳	170	55.3	40.0	17.6	22.9	9.4	23.5	11.2	2.9	10.0
50～59歳	172	57.0	40.1	16.3	23.8	9.3	15.7	8.1	3.5	11.0
60～69歳	215	54.4	42.3	14.9	24.7	8.8	20.0	8.4	0.9	10.7
70歳以上	202	50.0	41.6	20.8	23.8	7.4	22.3	11.4	3.5	9.9

質問項目 年齢	短時間 のこどもの預 かり	介護を必要と する人の短時 間の預かり	幼稚園・保 育所・こども 園の送迎	子育ての相 談	災害時の手 伝い	市や関係機 関へ連絡	どれもでき ない	その他	無回 答
全 体	7.4	1.2	4.1	8.2	29.4	35.0	9.0	1.3	0.6
18～29歳	5.5	—	0.9	8.3	29.4	25.7	7.3	2.8	—
30～39歳	10.1	0.6	4.5	14.5	24.0	29.6	8.9	2.8	—
40～49歳	9.4	1.2	7.1	9.4	28.2	38.2	12.4	1.2	—
50～59歳	10.5	1.2	3.5	7.0	34.9	35.5	8.1	1.7	1.7
60～69歳	5.6	0.5	5.1	7.0	32.1	39.1	7.0	—	0.5
70歳以上	4.0	3.5	2.5	4.5	26.2	36.6	10.4	0.5	1.0

【地区別】

地区別にみると、「悩み事、心配事の相談」の割合が飯山中学校区で低く、「ちょっとした買い物」の割合が綾歌中学校区で高く、「災害時の手伝い」の割合が飯山中学校区で高く、南中学校区で低くなっています。

単位：％

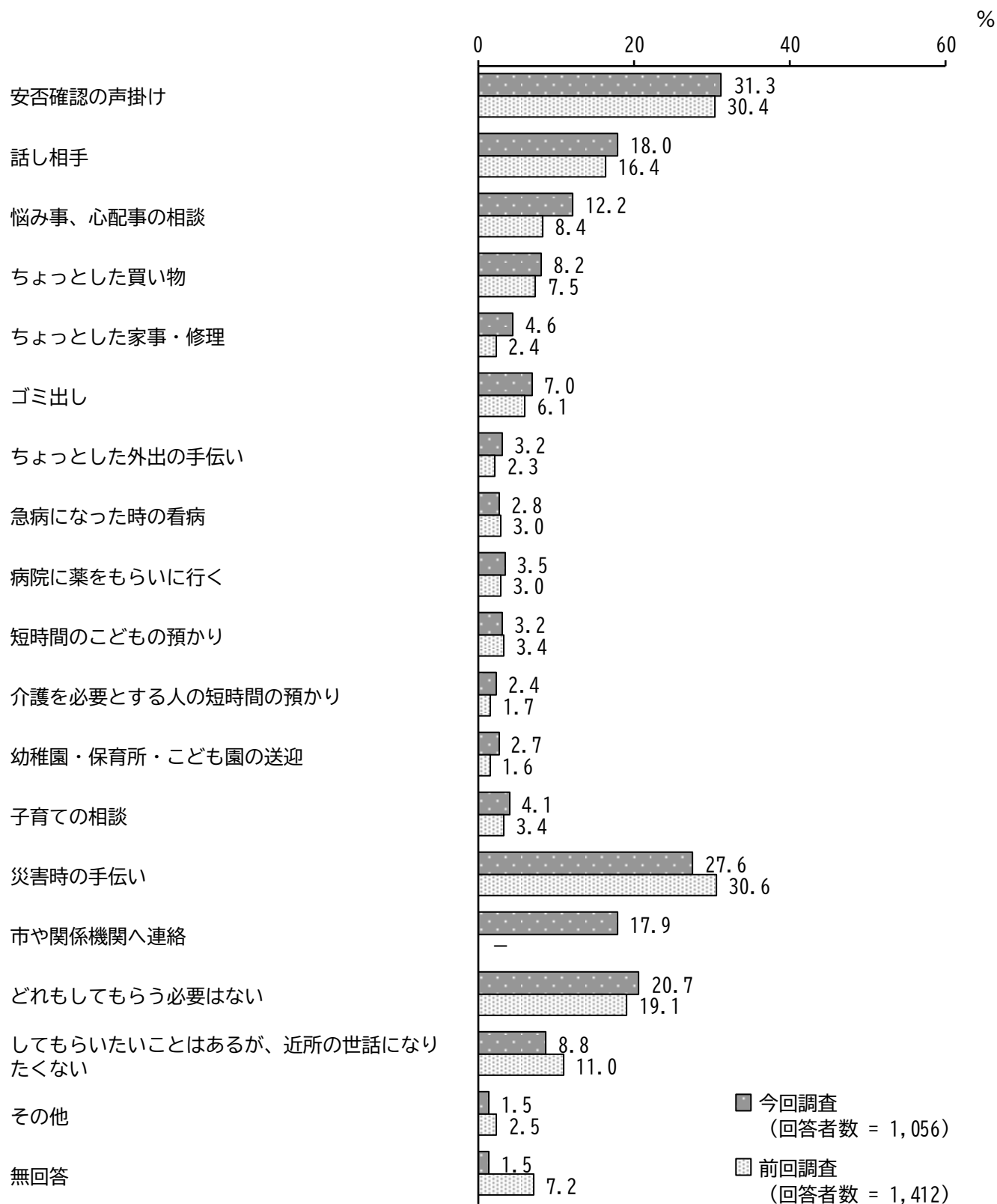
地区	質問項目	回答者数 (件)	安否確認の 声掛け	話し相手	悩み事、 心配事の 相談	ちょっとした 買い物	ちよつとした家事・ 修理	ゴミ出し	ちよつとした外出の 手伝い	急病になつた時の 看病	病院に薬をもらいに 行く
全 体		1,056	54.5	41.4	18.8	22.1	7.9	18.3	8.9	2.4	9.4
東中学校区（島しょ部含む）		251	56.6	43.0	22.7	25.5	8.0	23.1	9.6	3.2	9.6
西中学校区		225	52.4	38.2	17.8	19.1	6.7	17.8	7.1	2.7	7.6
南中学校区		243	56.0	41.6	20.6	18.1	7.8	14.8	8.6	2.5	7.8
綾歌中学校区		183	51.9	41.0	15.8	28.4	8.2	16.9	10.4	1.6	11.5
飯山中学校区		133	53.4	40.6	12.0	18.8	9.8	17.3	8.3	1.5	10.5

地区	質問項目	短時間 のこども の預かり	介護を 必要とする 人の 短時間の 預かり	幼稚園・ 保育所・こ ども園の 送迎	子育て での相談	災害時 の手伝い	市や関係 機関へ 連絡	どれも できない	その他	無回答
全 体		7.4	1.2	4.1	8.2	29.4	35.0	9.0	1.3	0.6
東中学校区（島しょ部含む）		7.6	2.0	2.8	8.8	32.3	36.7	10.0	0.4	0.4
西中学校区		9.8	1.8	4.9	9.8	29.3	32.0	9.8	1.3	0.9
南中学校区		5.8	0.4	2.5	5.8	22.6	34.2	11.5	0.8	—
綾歌中学校区		7.1	0.5	6.0	6.0	28.4	34.4	7.7	2.2	1.1
飯山中学校区		7.5	1.5	6.0	13.5	36.1	39.1	4.5	3.0	—

問 32 近所の人に手助けをしてもらおうとしたら、あなたはどのようなことをしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「安否確認の声掛け」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「災害時の手伝い」の割合が 27.6%、「どれもしてもらう必要はない」の割合が 20.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では、「ゴミ出し」が「ゴミだし」となっており、「市や関係機関へ連絡」がありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「子育ての相談」の割合が30～39歳で高く、「市や関係機関へ連絡」の割合が18～29歳で低く、「どれもしてもらわない必要はない」の割合が40～49歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	安否確認の 声掛け	話し相手	悩み事、 心配事の 相談	ちょっとした 買い物	ちょっとした 家事・ 修理	ゴミ出し	ちょっとした 外出の 手伝い	急病になっ た時の看 病	病院に薬を もらいに 行く
全 体	1,056	31.3	18.0	12.2	8.2	4.6	7.0	3.2	2.8	3.5
18～29歳	109	30.3	22.0	18.3	6.4	4.6	4.6	3.7	7.3	1.8
30～39歳	179	25.7	14.5	13.4	4.5	3.4	2.2	2.2	2.2	3.4
40～49歳	170	27.6	17.1	9.4	10.6	6.5	9.4	2.4	3.5	5.3
50～59歳	172	32.6	15.7	10.5	8.1	5.2	7.0	2.3	1.7	2.9
60～69歳	215	35.3	18.6	13.0	8.8	3.3	8.4	4.2	2.3	3.7
70歳以上	202	34.2	21.3	11.4	10.4	5.4	8.9	4.5	2.0	3.5

質問項目 年齢	短時間 のこども の預かり	介護を 必要と する人 の短時 間の預 かり	幼稚園・ 保育所・ こども 園の送 迎	子育て の相談	災害時 の手伝 い	市や関 係機関 へ連絡	どれも してもら わない 必要は ない	してもら いたい こと はある が、近 所の世 話にな りたく ない	その他	無回 答
全 体	3.2	2.4	2.7	4.1	27.6	17.9	20.7	8.8	1.5	1.5
18～29歳	2.8	3.7	2.8	5.5	24.8	11.9	19.3	10.1	2.8	—
30～39歳	10.1	2.8	7.8	17.3	24.6	14.0	24.0	7.3	0.6	0.6
40～49歳	5.9	2.9	5.9	2.4	27.6	14.7	27.6	7.6	1.2	1.2
50～59歳	0.6	2.3	—	0.6	31.4	22.1	23.8	9.9	1.7	2.3
60～69歳	0.9	1.9	0.9	0.5	28.4	18.1	16.3	8.4	1.4	1.4
70歳以上	—	1.5	—	—	27.2	22.8	15.3	9.9	1.5	3.0

【地区別】

地区別にみると、「安否確認の声掛け」の割合が飯山中学校区で高く、綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

地区	質問項目	回答者数 (件)	安否確認の 声掛け	話し相手	悩み事、 心配事の相 談	ちよつとした買 い物	ちよつとした家 事・修理	ゴミ出し	ちよつとした外 出の手伝い	急病になつた 時の看病	病院に薬をもら いに行く
全 体		1,056	31.3	18.0	12.2	8.2	4.6	7.0	3.2	2.8	3.5
東中学校区（島しょ部含む）		251	34.3	15.1	14.3	9.2	6.4	6.0	3.6	4.0	4.4
西中学校区		225	31.6	17.3	11.1	7.6	2.7	5.3	2.2	4.0	3.1
南中学校区		243	28.8	16.9	10.7	7.0	2.1	8.2	1.6	2.1	3.3
綾歌中学校区		183	25.7	19.7	13.1	7.7	4.9	6.6	3.8	0.5	2.2
飯山中学校区		133	37.6	24.1	12.0	12.0	9.0	9.8	5.3	3.8	5.3

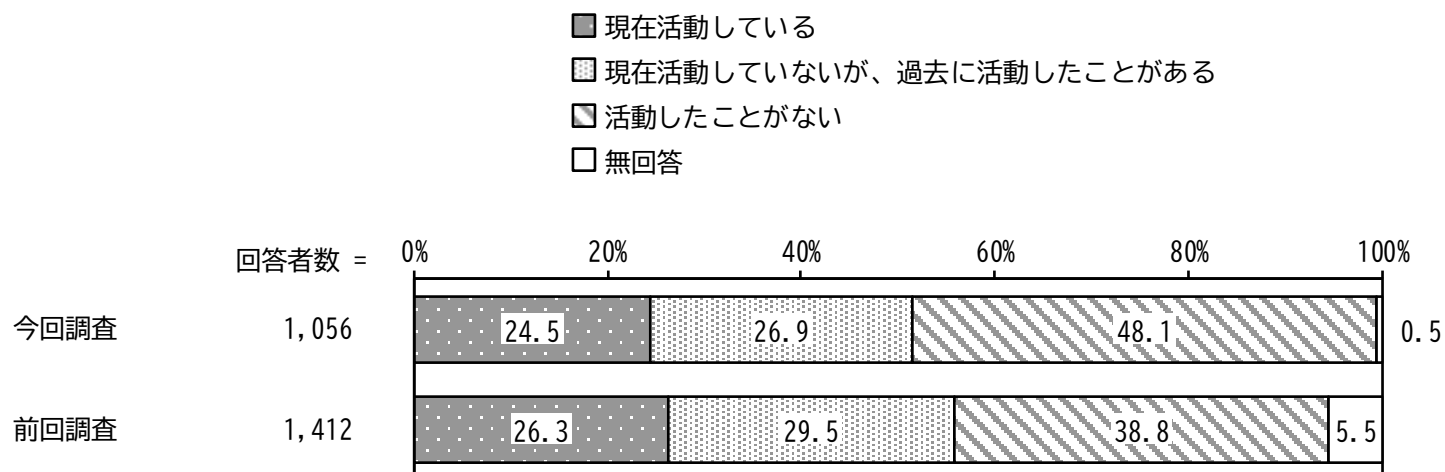
地区	質問項目	短時間 の預かり	介護を 必要とする 人の短時間 の預かり	幼稚園・保 育所・こども 園の送迎	子育ての 相談	災害時の 手伝い	市や関係機 関へ連絡	どれもし てもらう必 要はない	してもら いたいこと はあるが、 近所の世 話になりた くない	その他	無回 答
全 体		3.2	2.4	2.7	4.1	27.6	17.9	20.7	8.8	1.5	1.5
東中学校区（島しょ部含む）		3.2	2.0	2.4	4.4	29.1	16.3	18.7	8.8	1.2	2.0
西中学校区		5.3	3.1	3.6	3.1	26.2	19.6	22.7	7.1	0.9	2.2
南中学校区		2.1	0.4	2.1	4.1	24.7	13.6	22.2	9.9	1.6	0.4
綾歌中学校区		1.6	2.2	1.6	3.3	28.4	18.6	23.0	10.4	2.7	2.2
飯山中学校区		4.5	6.0	4.5	6.0	30.8	23.3	16.5	8.3	0.8	—

(5) 地域活動やボランティア活動について

問 33 あなたは、現在、自治会や子ども会、PTA、コミュニティ等の地域活動をしていますか。
(○は1つ)

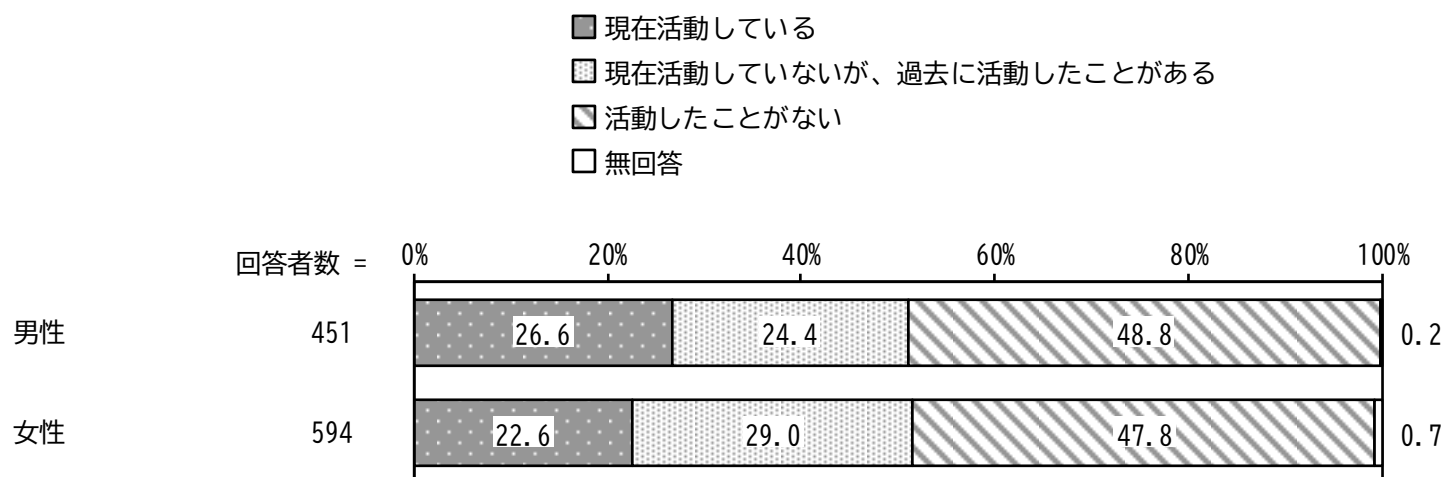
「現在活動している」の割合が 24.5%、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が 26.9%、「活動したことがない」の割合が 48.1%となっています。

前回調査と比較すると、「活動したことがない」の割合が増加しています。



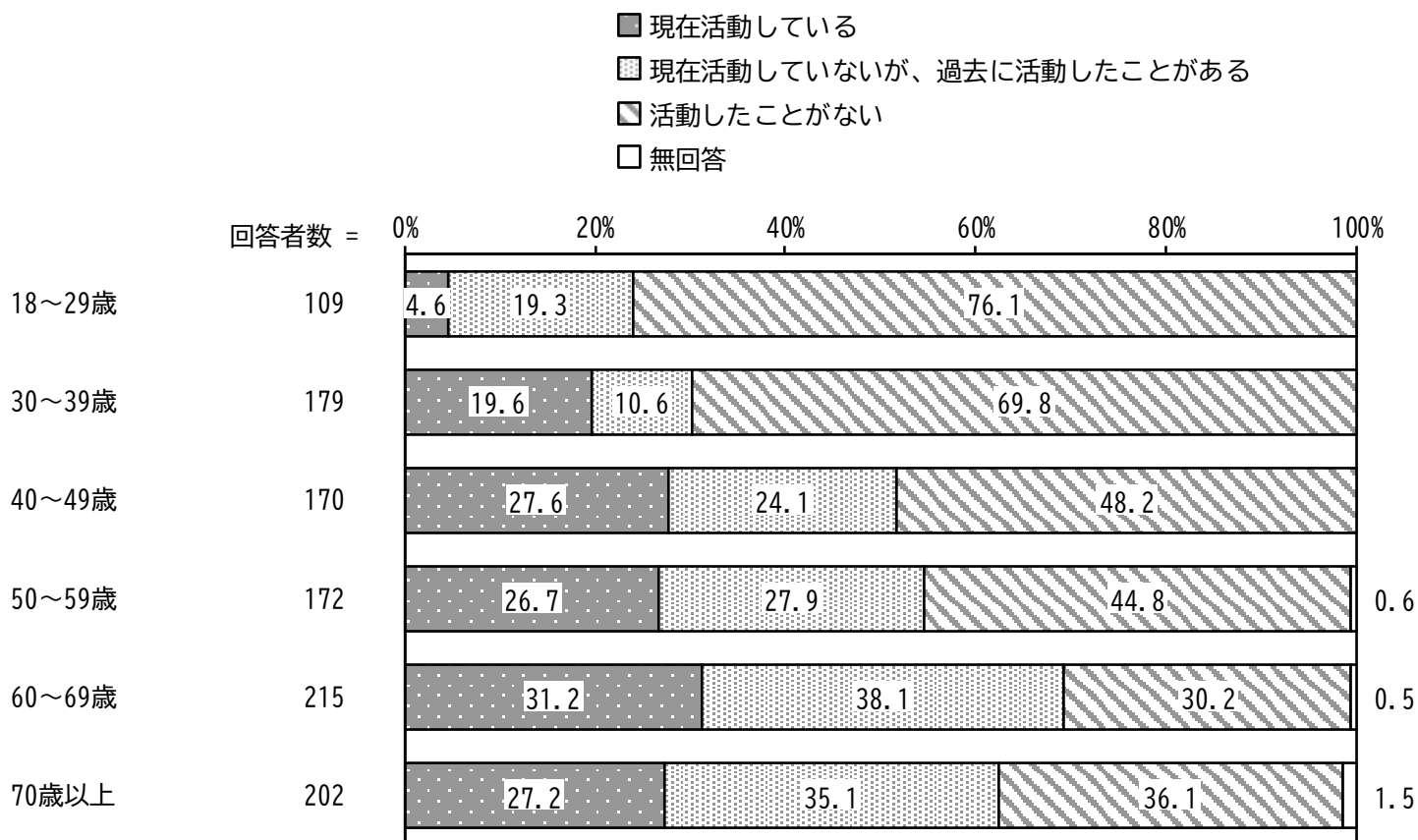
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



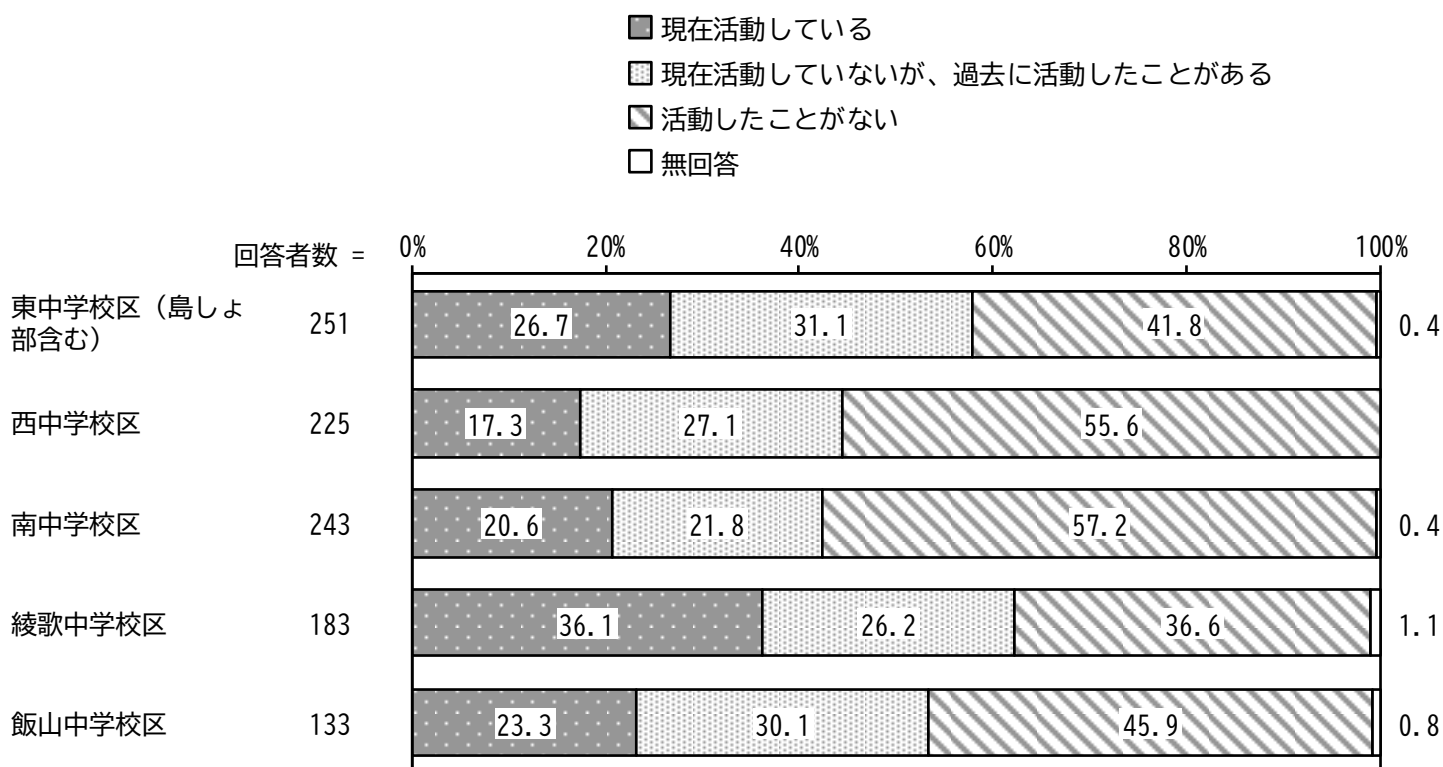
【年齢別】

年齢別にみると、「現在活動している」の割合が18～29歳で低く、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」の割合が30～39歳で低くなっています。



【地区別】

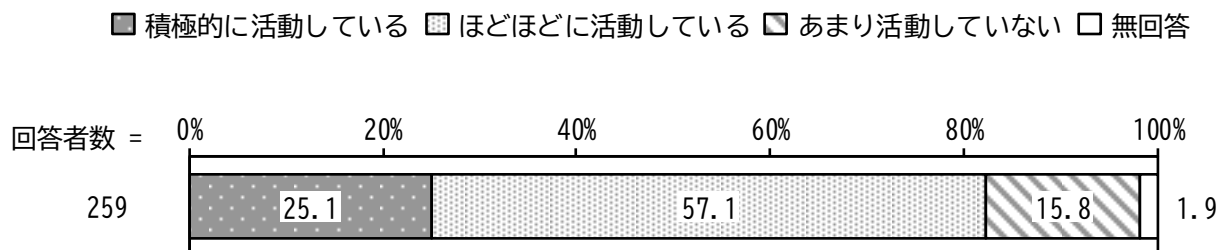
地区別にみると、「現在活動している」の割合が綾歌中学校区で高くなっています。



問 33 で「現在活動している」を選んだ方におうかがいします。

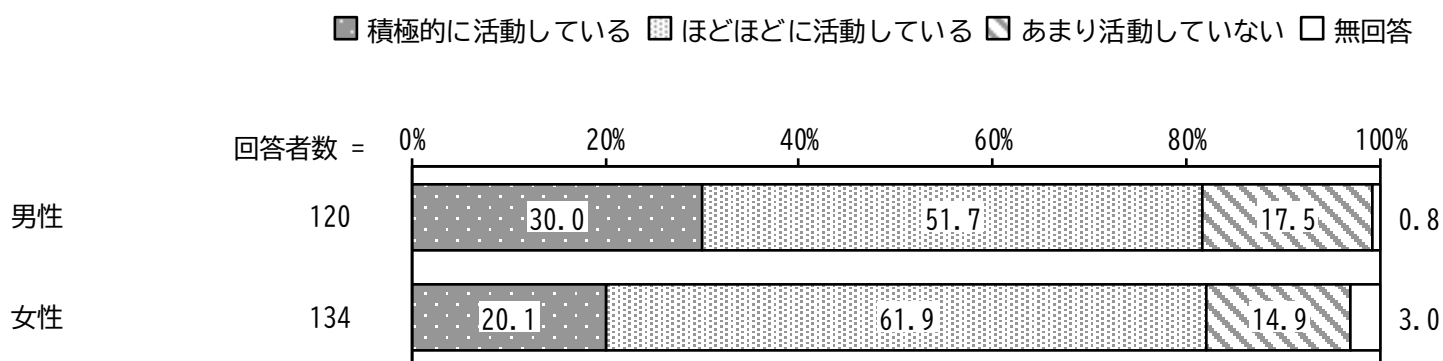
問 33（１）どの程度活動していますか。（○は１つ）

「積極的に活動している」の割合が 25.1%、「ほどほどに活動している」の割合が 57.1%、「あまり活動していない」の割合が 15.8%となっています。



【性別】

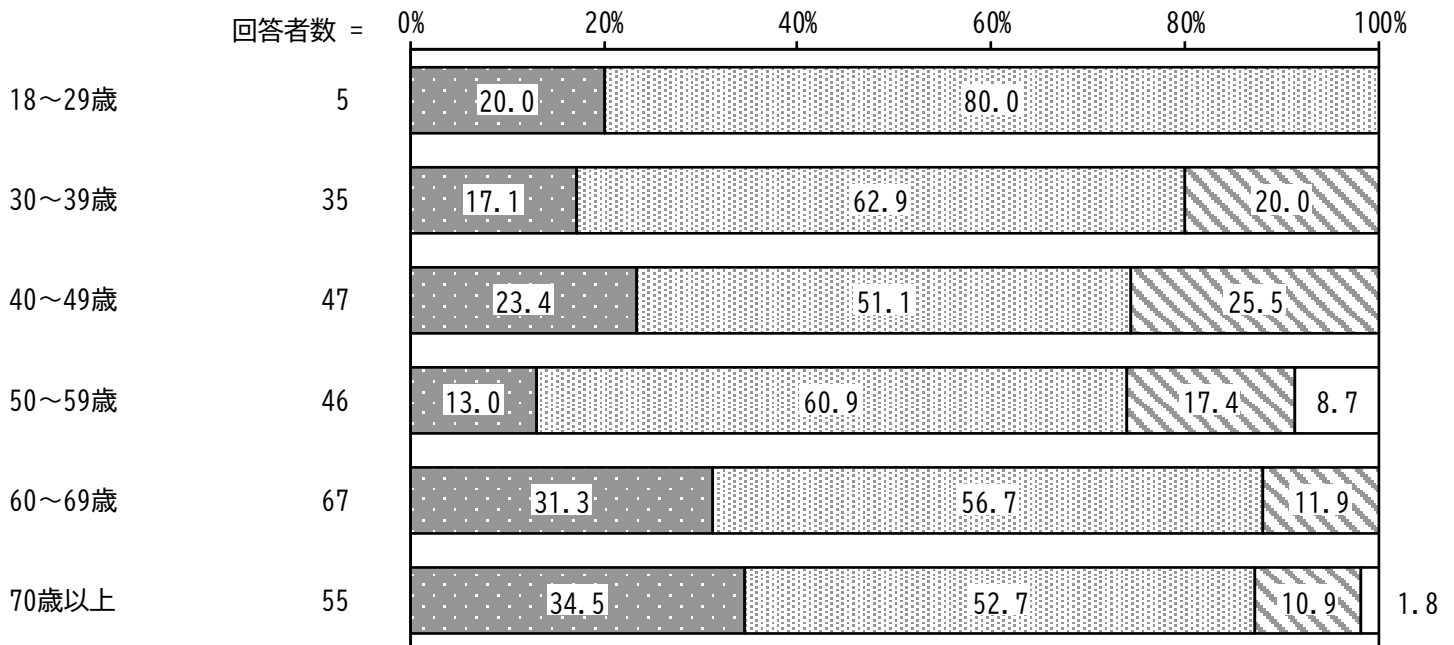
性別にみると、「積極的に活動している」で男性の割合が高く、「ほどほどに活動している」で女性の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「積極的に活動している」の割合が50～59歳で低く、「あまり活動していない」の割合が40～49歳で高くなっています。

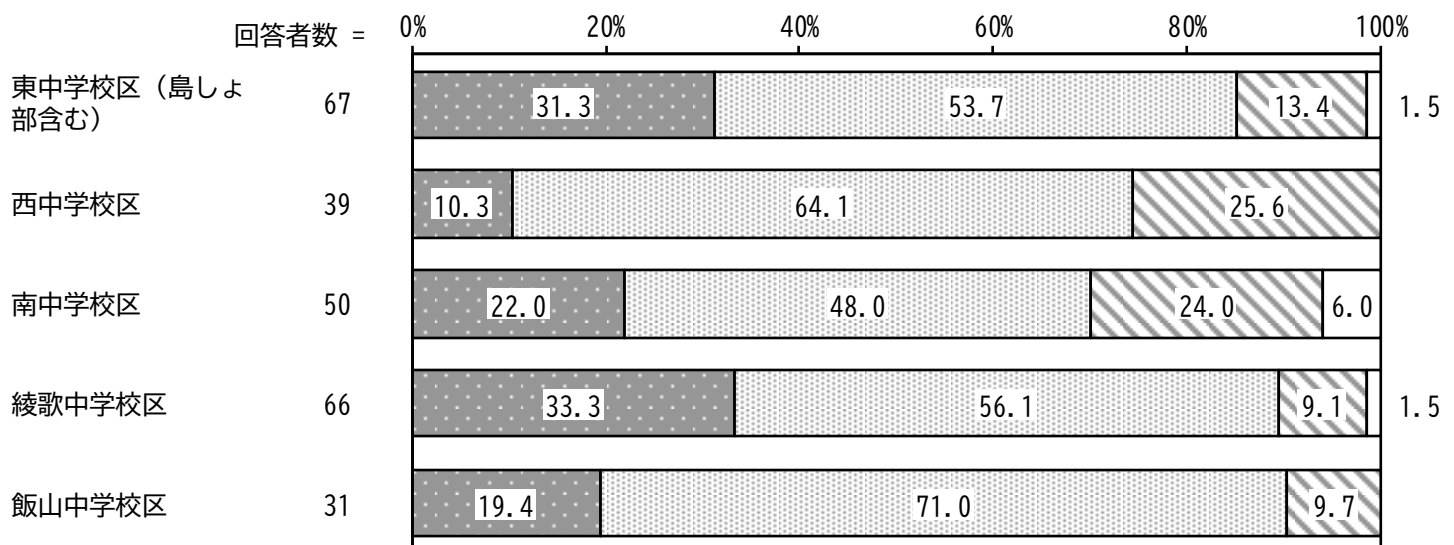
■ 積極的に活動している □ ほどほどに活動している ▨ あまり活動していない □ 無回答



【地区別】

地区別にみると、「積極的に活動している」の割合が西中学校校区で低く、「ほどほどに活動している」の割合が飯山中学校校区で高くなっています。

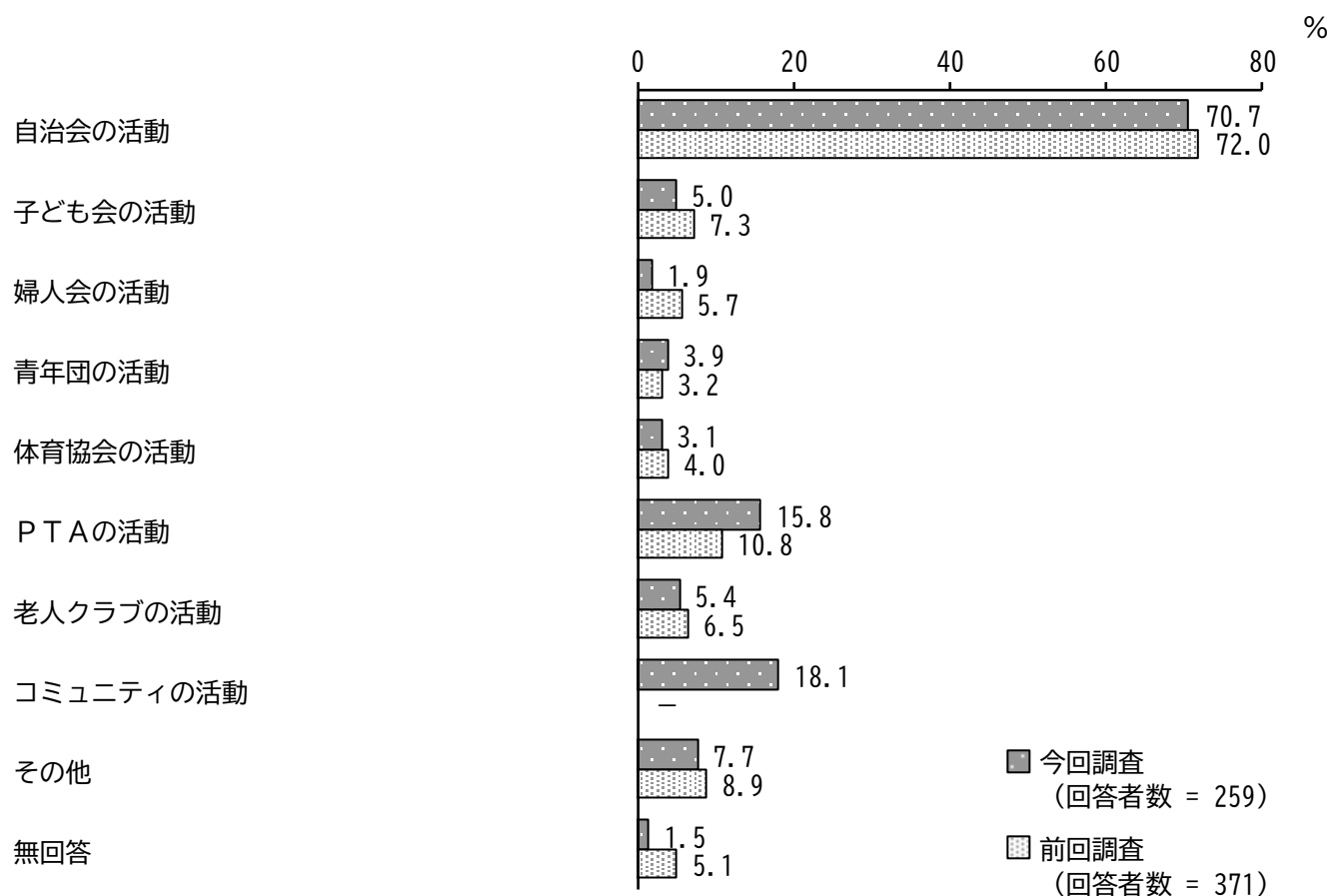
■ 積極的に活動している □ ほどほどに活動している ▨ あまり活動していない □ 無回答



問 33（２）どのような活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

「自治会の活動」の割合が70.7%と最も高く、次いで「コミュニティの活動」の割合が18.1%、「PTAの活動」の割合が15.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では、「コミュニティの活動」がありませんでした。

〔その他意見の内訳〕

18～39 歳
人がいないので。
小学校のボランティア（教育活動の支援）
ボーイスカウト
40～64 歳
子どものため。
消防団

65 歳以上
神社総代としての活動
家内がしている。
愛育班
ライオンズクラブに入会している。
動物病院がしている老人ホーム入居者のドッグセラピー
民生委員
隊友会、桜友会の活動。
OB会のボランティア活動
地域振興
福祉
警察補導員
土地改良、民生委員

【年齢別】

年齢別にみると、「自治会の活動」の割合が 60～69 歳で高く、「PTA の活動」の割合が 30～39 歳、40～49 歳で高く、「老人クラブの活動」の割合が 70 歳以上で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	自治会の活動	子ども会の活動	婦人会の活動	青年団の活動	体育協会の活動	PTA の活動	老人クラブの活動	動コミ ユニティ の活	その他	無回答
全 体	259	70.7	5.0	1.9	3.9	3.1	15.8	5.4	18.1	7.7	1.5
18～29歳	5	80.0	—	—	20.0	—	20.0	—	—	—	—
30～39歳	35	62.9	8.6	2.9	5.7	2.9	37.1	—	8.6	2.9	—
40～49歳	47	57.4	10.6	—	2.1	2.1	42.6	—	14.9	8.5	2.1
50～59歳	46	69.6	2.2	4.3	6.5	4.3	13.0	—	15.2	4.3	4.3
60～69歳	67	82.1	1.5	1.5	4.5	4.5	1.5	3.0	23.9	9.0	1.5
70歳以上	55	72.7	5.5	1.8	—	1.8	—	20.0	25.5	12.7	—

【地区別】

地区別にみると、「自治会の活動」の割合が飯山中中学校区で高く、「青年団の活動」の割合が東中学校区で高く、「コミュニティの活動」の割合が南中学校区で低くなっています。

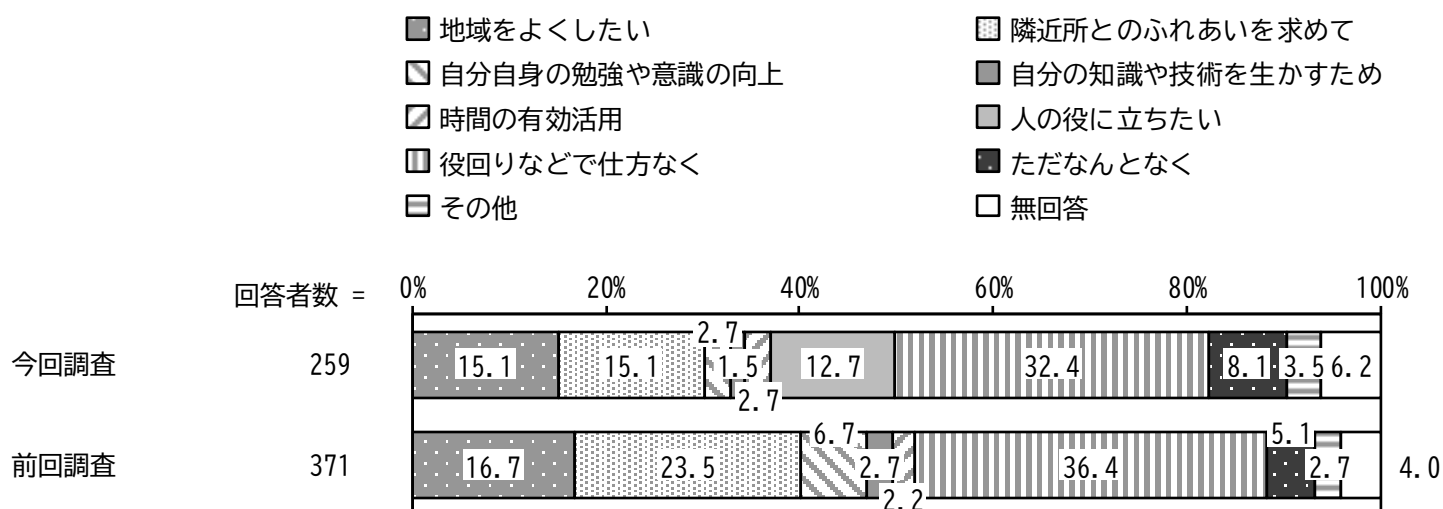
単位：％

地区	質問項目 回答者数 (件)	自治会の活動	子ども会の活動	婦人会の活動	青年団の活動	体育協会の活動	P.T.Aの活動	老人クラブの活動	コミュニティの活動	その他	無回答
全 体	259	70.7	5.0	1.9	3.9	3.1	15.8	5.4	18.1	7.7	1.5
東中学校区（島しょ部含む）	67	73.1	7.5	1.5	10.4	6.0	17.9	4.5	22.4	9.0	1.5
西中学校区	39	74.4	2.6	—	2.6	5.1	23.1	—	12.8	5.1	—
南中学校区	50	70.0	2.0	2.0	2.0	2.0	18.0	8.0	10.0	6.0	2.0
綾歌中学校区	66	63.6	7.6	1.5	—	1.5	16.7	4.5	24.2	7.6	—
飯山中中学校区	31	80.6	3.2	6.5	3.2	—	—	9.7	16.1	12.9	3.2

問 33（3）どのような目的で活動していますか。（○は1つ）

「役回りなどで仕方なく」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「地域をよくしたい」、「隣近所とのふれあいを求めて」の割合が 15.1%となっています。

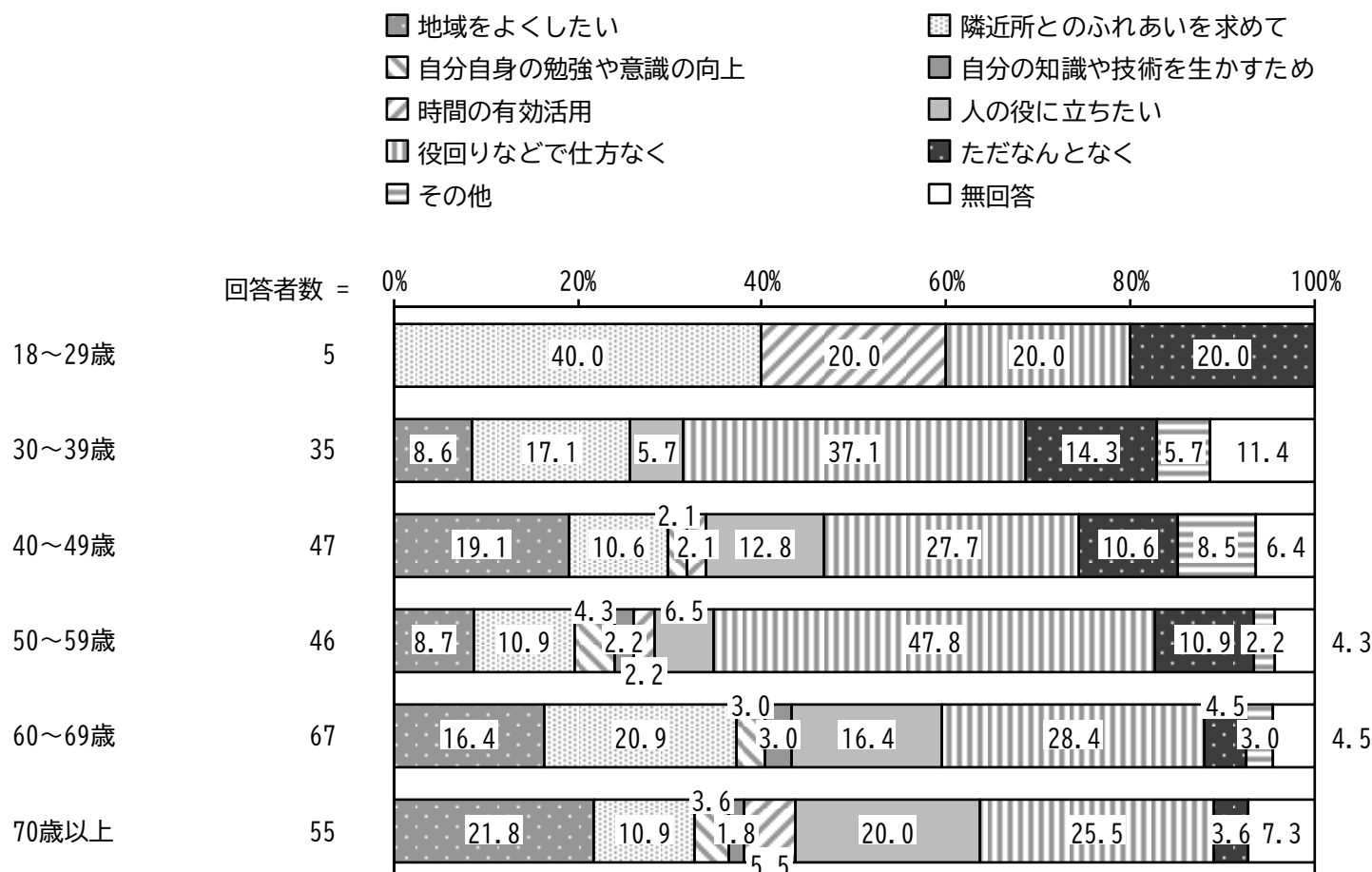
前回調査と比較すると、「隣近所とのふれあいを求めて」の割合が減少しています。



※前回調査では、「人の役に立ちたい」がありませんでした。

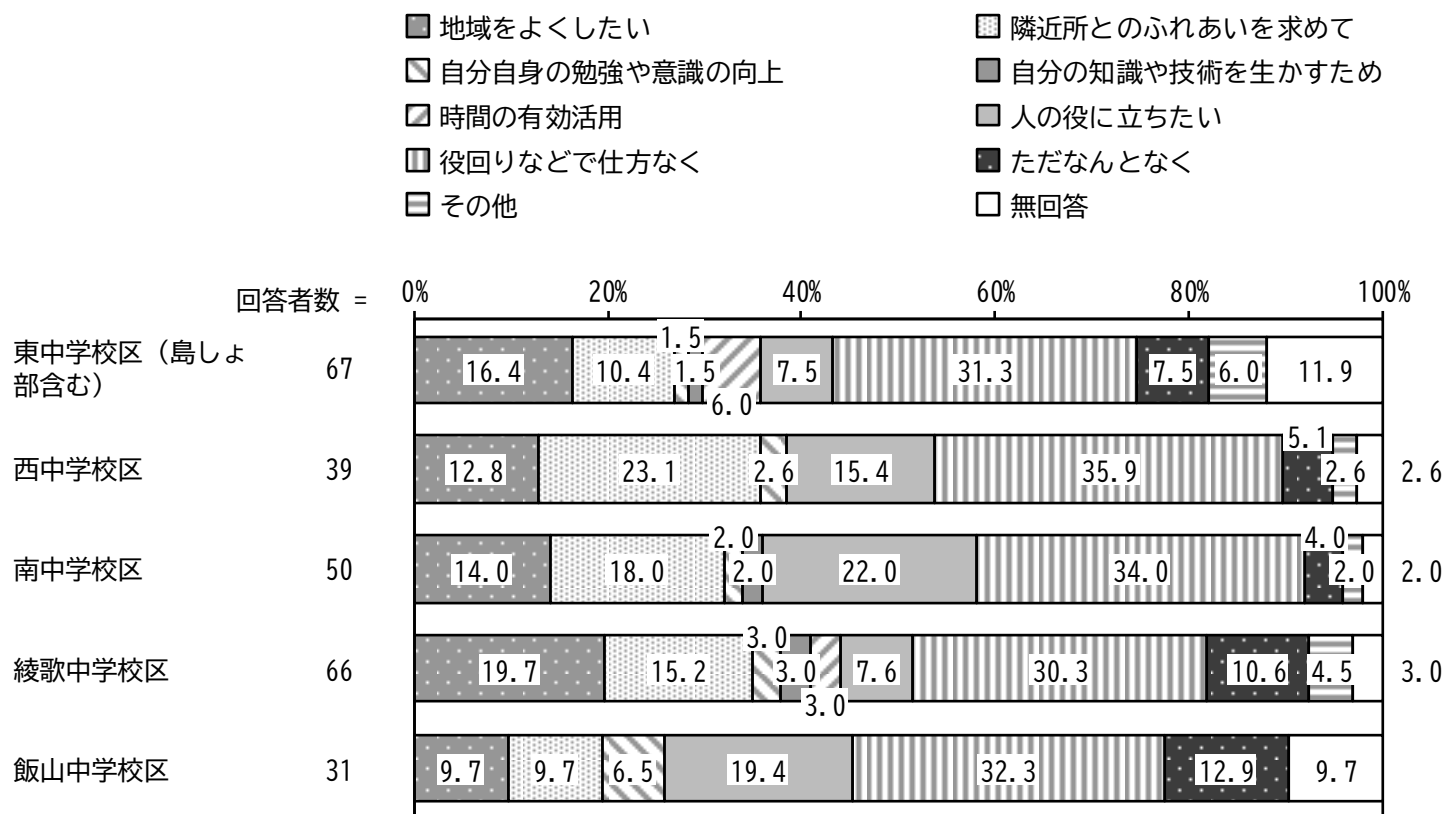
【年齢別】

年齢別にみると、「役回りなどで仕方なく」の割合が 50～59 歳で高くなっています。



【地区別】

地区別にみると、「隣近所とのふれあいを求めて」の割合が西中学校区で高く、「人の役に立ちたい」の割合が南中学校区で高くなっています。

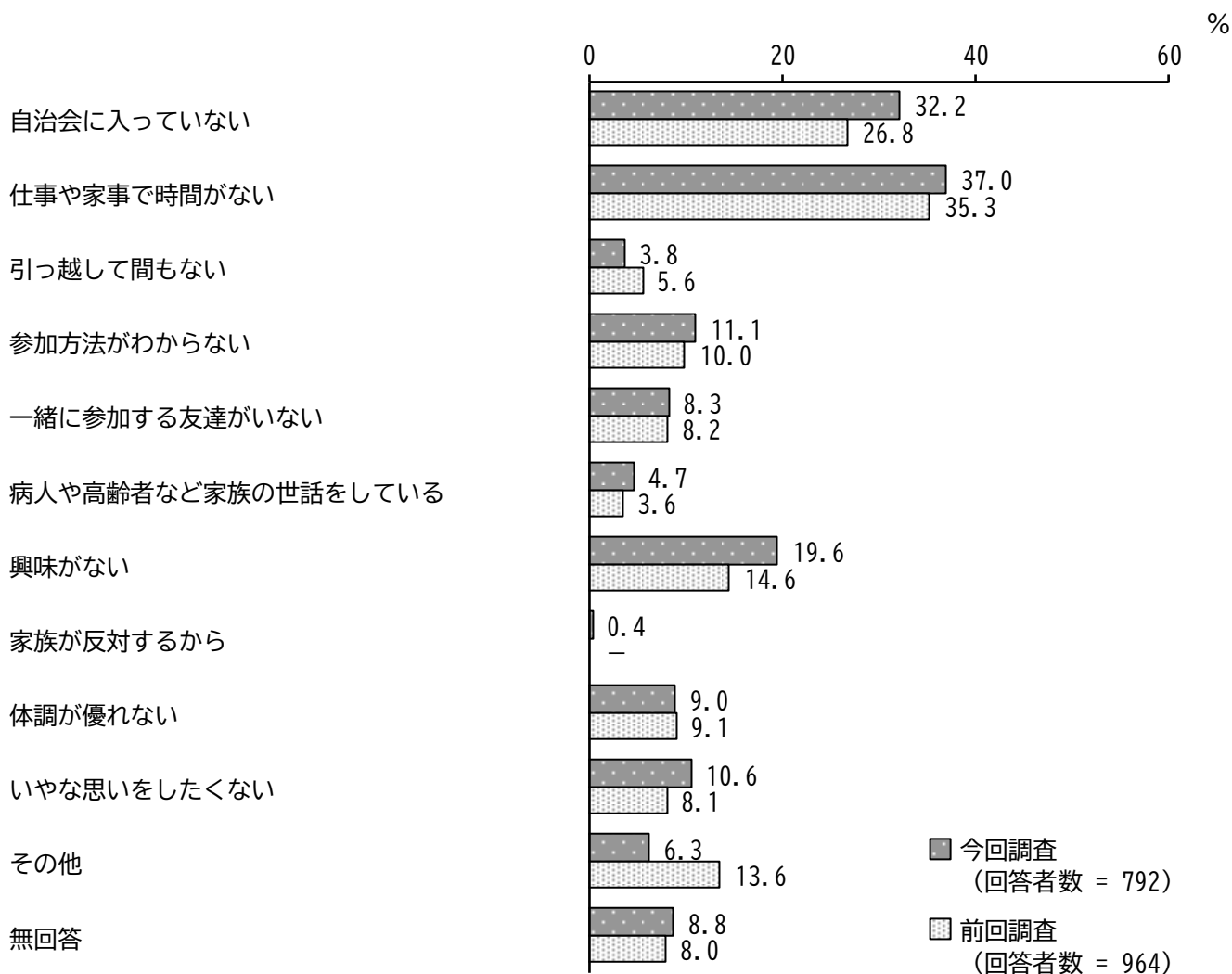


問 33 で「現在活動していないが、過去に活動したことがある」「活動したことがない」を選んだ方におうかがいします。

問 33（４）現在活動していない理由は何ですか。（○は３つまで）

「仕事や家事で時間がない」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「自治会に入っていない」の割合が 32.2%、「興味がない」の割合が 19.6%となっています。

前回調査と比較すると、「自治会に入っていない」「興味がない」の割合が増加しています。



※前回調査では、「家族が反対するから」がありませんでした。

[その他意見の内訳]

18～39 歳
自治会がない。
子どもが大きくなったら、参加を考えている。
時間がない。
活動の有無がわからない。
他の地域に行っている。
子ども会自体がなくなった。
順番制
家族が参加しているから。
自治会をやめた。活動の意義が見い出せない。
高齢のため。
自治会長、副会長の年が終了。
2の補足で大学生になり、実家通いということもあって非常に忙しい。
機会がない。
活動が困難です。

40～64 歳
自治会に入っていない人は参加できないため。
社宅利用の為留守にすることが多いので。
当たってないから。
子ども会が子ども数の減少により休会になった。
担当が終了。
任期が終ったから。
親の世代（80 代）がまだ自治会の中心、コミュニティ全体も 80 代以上が中心。
家族が代行している。
親がしているので、自分はしていない。
良い人のフリをすると陰口を言われるのが嫌。
家族が対応。
希望したが希望者が多くジャンケンで負けた。

65 歳以上
自治会役員のとき。
役員でない。
子どもが大きくなったので。子ども会、PTAが終わったから。
代表者の方がしている。
自治会に入って、資源ゴミ当番、班長など回ってくれば活動している。
対象となる子どもが成長したから。
自分が高齢者になった。
孫の子守り等で時間が取れない。
順番が回ってきた時は活動をする。
自治会長の時にやった。嫌では無いが、順番が有る。
高齢のため。
年をとったから。
自分に番が来れば行う。
忙しい。
高齢のため。
認知症の為、活動することができない。
子どもが大きくなった。自治会は当番制で今年は当たってないから。
割と新しい分譲地なので、この辺りに住む人はほとんど自治会に入っていないしそもそも自治会があるのかもわかっていない人が多いです。
家族が参加している。
役が回っていない、声が掛からない。
子ども会がなくなったため。
時間がとれない。

【年齢別】

年齢別にみると、「仕事や家事で時間がない」の割合が30～39歳で高く、「参加方法がわからない」の割合が18～29歳で高く、「病人や高齢者など家族の世話をしている」の割合が60～69歳で高く、「体調が優れない」の割合が70歳以上で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	自治会に入っていない	仕事や家事で時間がない	引越して間もない	参加方法がわからない	一緒に参加する友達がいない	病人や高齢者など家族の世話をしている	興味がない	家族が反対するから	体調が優れない	いやな思いをしたくない	その他	無回答
全 体	792	32.2	37.0	3.8	11.1	8.3	4.7	19.6	0.4	9.0	10.6	6.3	8.8
18～29歳	104	35.6	26.9	1.9	22.1	12.5	1.0	29.8	—	1.0	6.7	6.7	3.8
30～39歳	144	43.8	54.2	6.3	13.2	9.7	—	29.2	—	1.4	13.9	3.5	4.2
40～49歳	123	36.6	46.3	4.1	6.5	6.5	4.1	21.1	1.6	4.1	8.1	7.3	8.1
50～59歳	125	38.4	34.4	4.8	12.0	6.4	3.2	19.2	0.8	6.4	9.6	6.4	6.4
60～69歳	147	25.9	38.1	4.1	5.4	5.4	9.5	14.3	—	14.3	9.5	8.8	9.5
70歳以上	144	16.7	20.8	1.4	9.7	9.7	9.0	6.9	—	23.6	13.9	5.6	18.1

【地区別】

地区別にみると、「自治会に入っていない」の割合が西中学校校区で高く、「仕事や家事で時間がない」の割合が綾歌中学校校区で低くなっています。

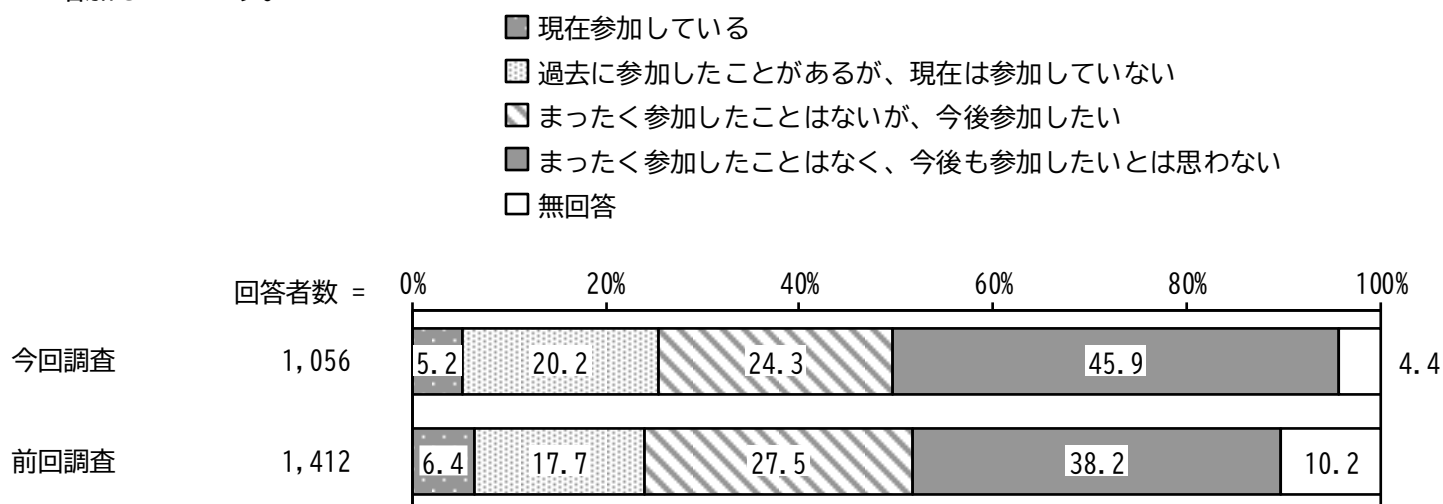
単位：％

質問項目 地区	回答者数(件)	自治会に入っていない	仕事や家事で時間がない	引越して間もない	参加方法がわからない	一緒に参加する友達がいない	病人や高齢者など家族の世話をしている	興味がない	家族が反対するから	体調が優れない	いやな思いをしたくない	その他	無回答
全 体	792	32.2	37.0	3.8	11.1	8.3	4.7	19.6	0.4	9.0	10.6	6.3	8.8
東中学校区（島しょ部含む）	183	28.4	40.4	3.8	10.9	12.6	3.8	16.4	—	9.3	9.8	7.1	8.7
西中学校区	186	40.3	36.0	5.4	15.6	7.5	3.8	16.7	0.5	9.1	8.6	3.2	9.1
南中学校区	192	35.9	38.5	2.6	9.9	7.3	5.7	24.5	0.5	9.4	13.5	7.3	6.3
綾歌中学校区	115	22.6	29.6	1.7	8.7	5.2	6.1	24.3	0.9	11.3	11.3	10.4	9.6
飯山中学校区	101	29.7	41.6	4.0	8.9	6.9	5.0	15.8	—	5.9	6.9	4.0	10.9

問 34 あなたは、問 33 のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動（有償のボランティア活動も含む）に参加したことがありますか。（○は1つ）

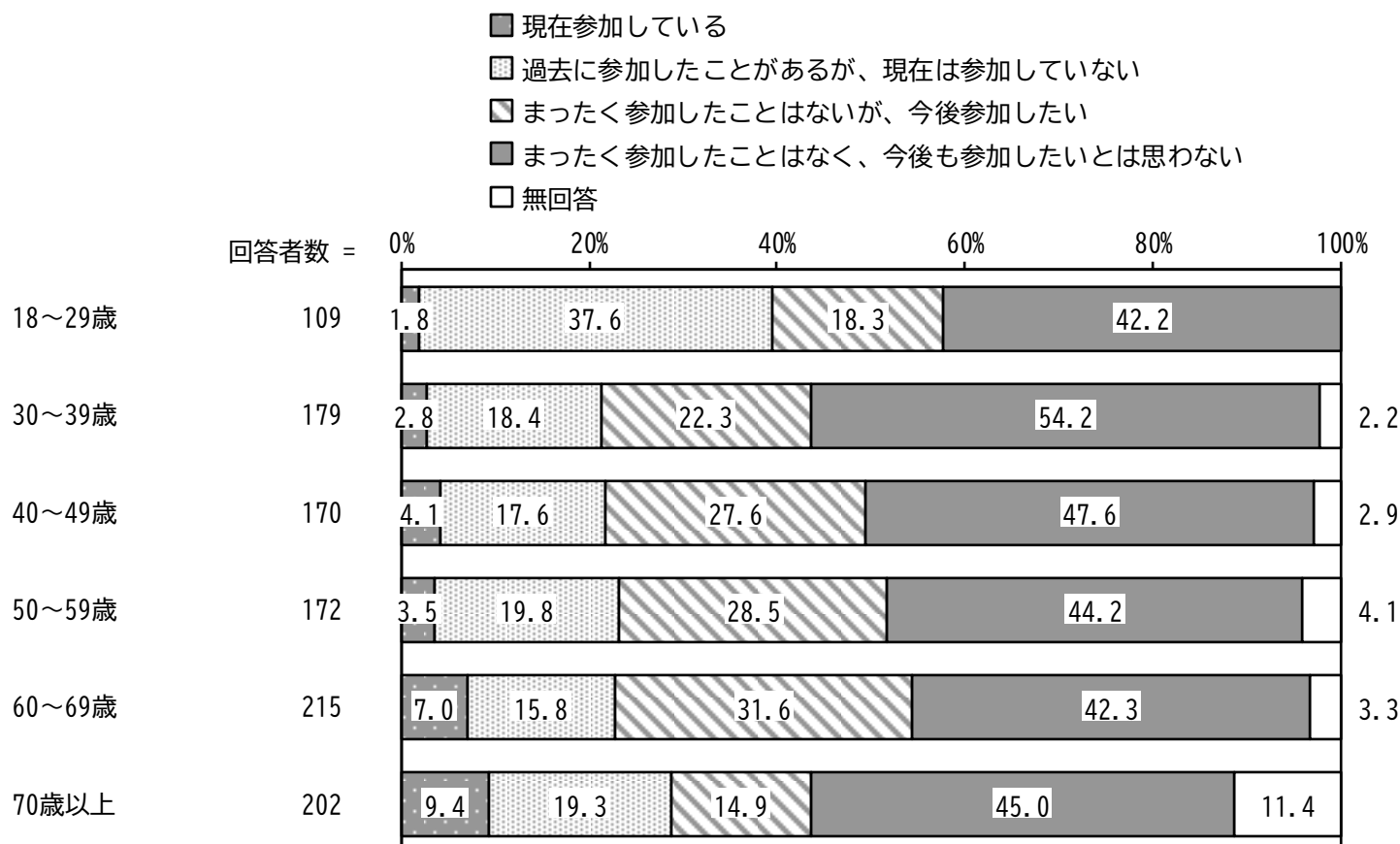
「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が 45.9%と最も高く、次いで「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合が 24.3%、「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合が 20.2%となっています。

前回調査と比較すると、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が増加しています。



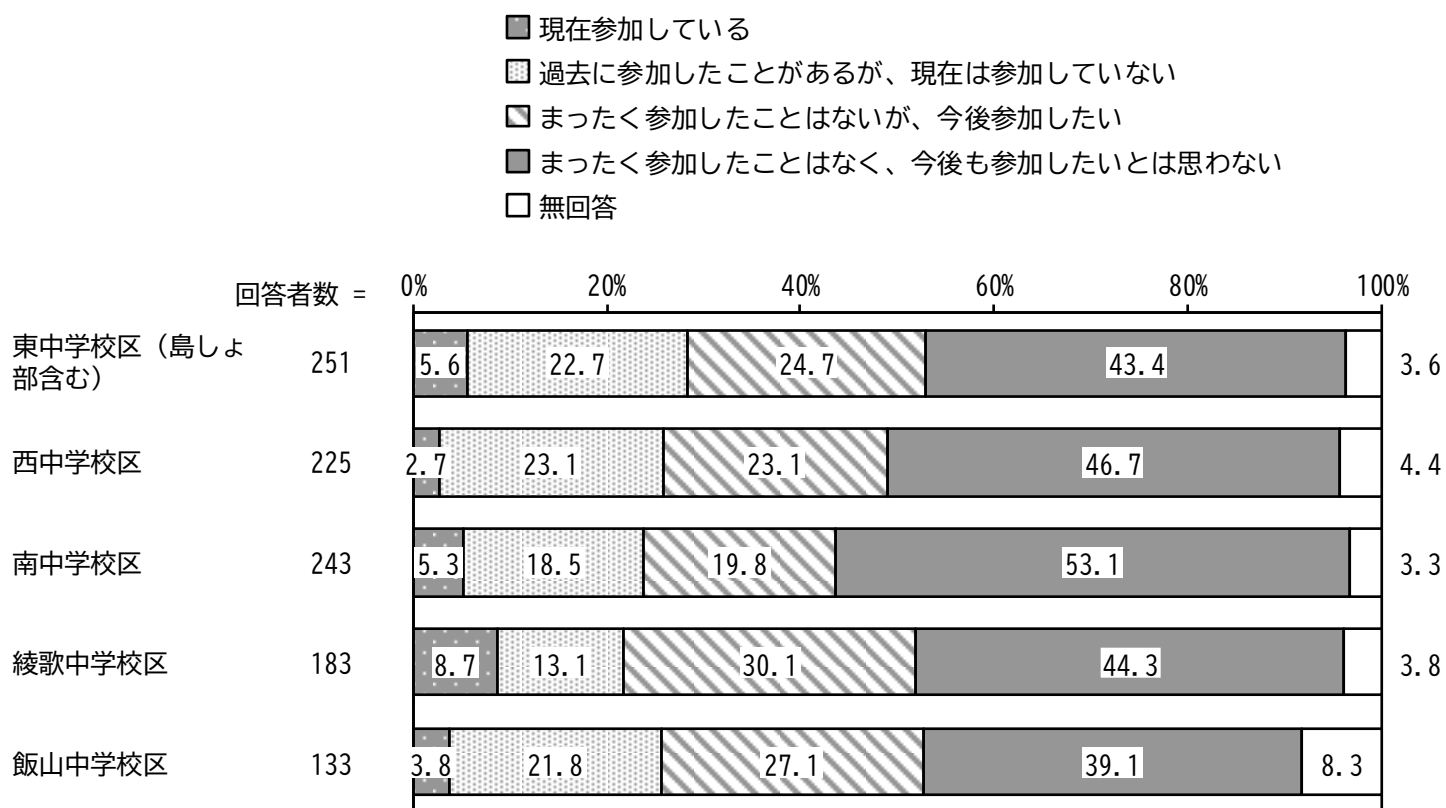
【年齢別】

年齢別にみると、「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合が 18～29 歳で高く、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合が 70 歳以上で低く、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が 30～39 歳で高くなっています。



【地区別】

地区別にみると、「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合が綾歌中学校区で低く、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が南中学校区で高く、飯山中学校区で低くなっています。

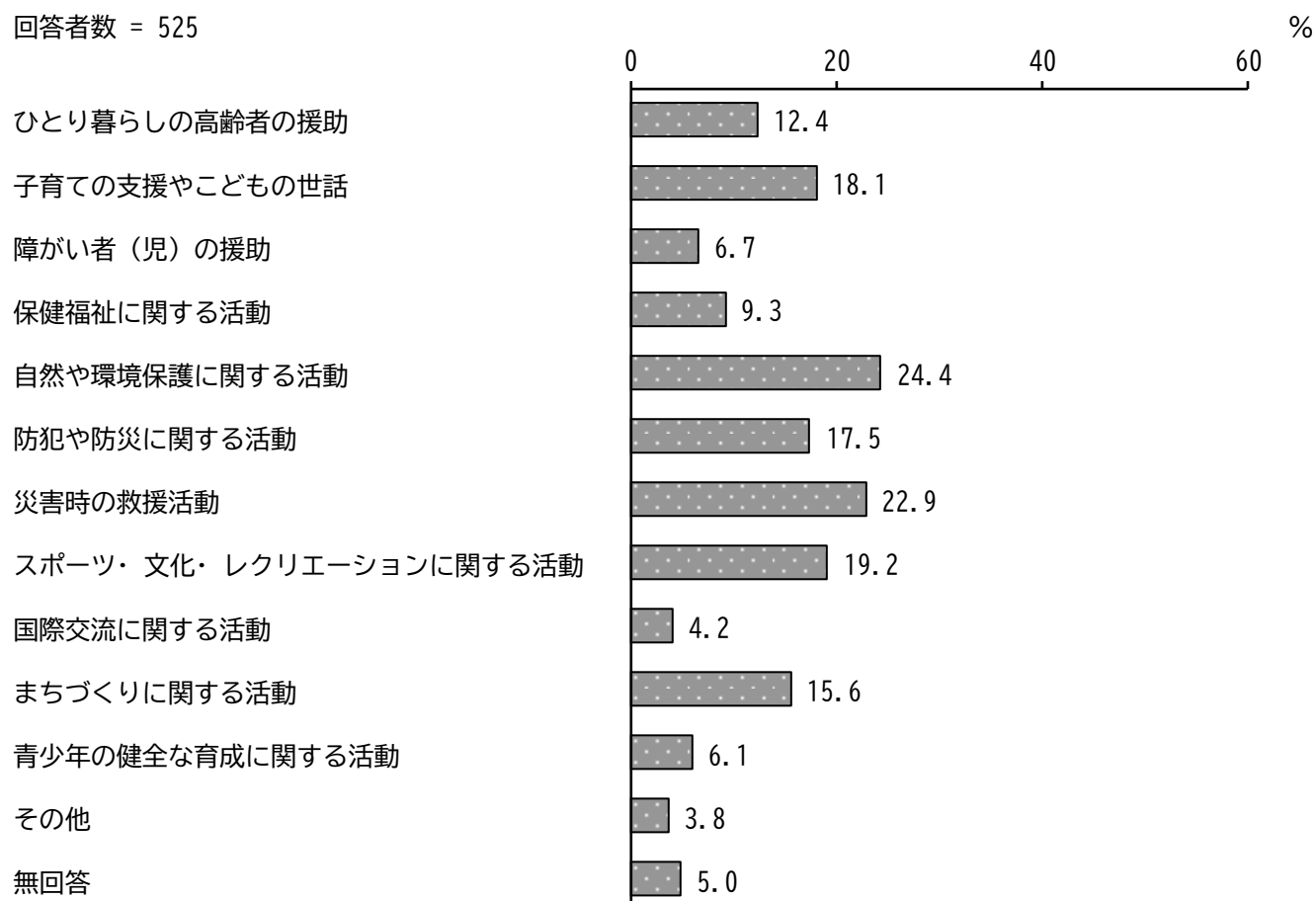


問 34 で「現在参加している」「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」「まったく参加したことはないが、今後参加したい」を選んだ方におうかがいします。

問 34（１）あなたは、どのようなボランティア活動をしています（していました）（したいと思います）か。（○は３つまで）

「自然や環境保護に関する活動」の割合が 24.4%と最も高く、次いで「災害時の救援活動」の割合が 22.9%、「スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動」の割合が 19.2%となっています。

回答者数 = 525



【年齢別】

年齢別にみると、「子育ての支援やこどもの世話」の割合が30～39歳で高く、70歳以上で低く、「防犯や防災に関する活動」の割合が40～49歳で高く、50～59歳で低く、「スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動」の割合が18～29歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	ひとり暮らしの高齢者の援助	子育ての支援やこどもの世話	障がい者(児)の援助	保健福祉に関する活動	自然や環境保護に関する活動	防犯や防災に関する活動	災害時の救援活動	スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動	国際交流に関する活動	まちづくりに関する活動	青少年の健全な育成に関する活動	その他	無回答
全 体	525	12.4	18.1	6.7	9.3	24.4	17.5	22.9	19.2	4.2	15.6	6.1	3.8	5.0
18～29歳	63	4.8	27.0	3.2	3.2	28.6	17.5	12.7	27.0	1.6	20.6	6.3	1.6	—
30～39歳	78	6.4	29.5	7.7	7.7	24.4	14.1	21.8	20.5	6.4	17.9	5.1	3.8	3.8
40～49歳	84	10.7	23.8	10.7	8.3	23.8	23.8	19.0	19.0	6.0	15.5	10.7	1.2	3.6
50～59歳	89	14.6	14.6	6.7	11.2	24.7	12.4	29.2	18.0	6.7	14.6	4.5	5.6	5.6
60～69歳	117	17.9	15.4	5.1	11.1	19.7	19.7	28.2	14.5	3.4	12.0	6.0	5.1	6.0
70歳以上	88	14.8	4.5	6.8	12.5	26.1	17.0	21.6	19.3	1.1	15.9	4.5	2.3	9.1

【地区別】

地区別にみると、「ひとり暮らしの高齢者の援助」の割合が西中学校区で低く、「自然や環境保護に関する活動」の割合が南中学校区、飯山中学校区で低く、「スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動」の割合が東中学校区で高く、綾歌中学校区で低くなっています。

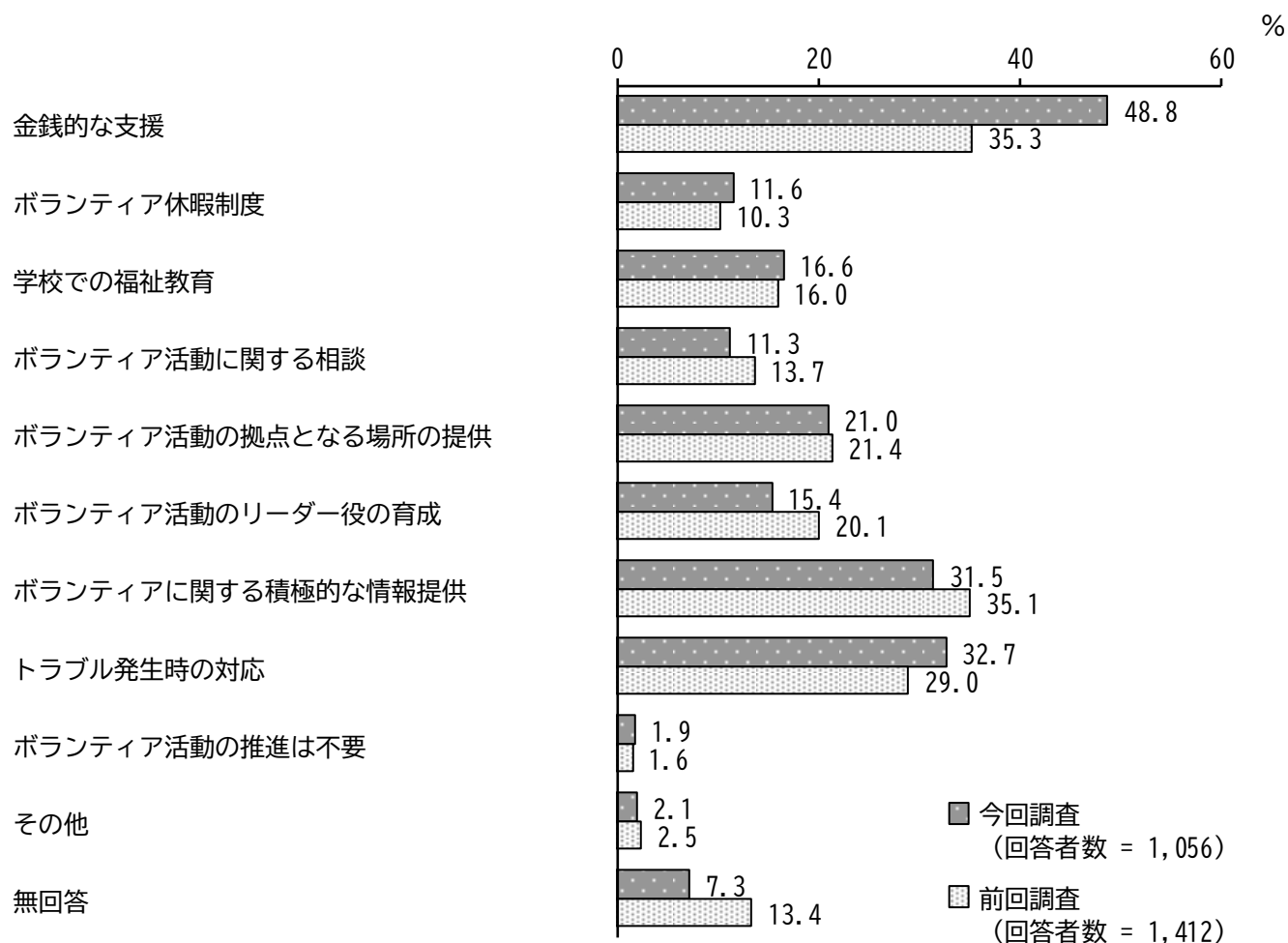
単位：％

質問項目 地区	回答者数(件)	ひとり暮らしの高齢者の援助	子育ての支援やこどもの世話	障がい者(児)の援助	保健福祉に関する活動	自然や環境保護に関する活動	防犯や防災に関する活動	災害時の救援活動	スポーツ・文化・レクリエーションに関する活動	国際交流に関する活動	まちづくりに関する活動	青少年の健全な育成に関する活動	その他	無回答
全 体	525	12.4	18.1	6.7	9.3	24.4	17.5	22.9	19.2	4.2	15.6	6.1	3.8	5.0
東中学校区（島しょ部含む）	133	14.3	15.0	4.5	10.5	30.1	16.5	27.1	24.8	3.0	14.3	7.5	4.5	6.8
西中学校区	110	5.5	22.7	10.9	12.7	24.5	15.5	20.0	18.2	6.4	13.6	9.1	1.8	6.4
南中学校区	106	16.0	17.0	3.8	5.7	17.0	17.9	20.8	21.7	3.8	17.9	4.7	1.9	5.7
綾歌中学校区	95	13.7	16.8	7.4	8.4	28.4	21.1	23.2	13.7	3.2	16.8	4.2	6.3	1.1
飯山中学校区	70	11.4	21.4	7.1	10.0	17.1	18.6	24.3	14.3	5.7	14.3	4.3	2.9	4.3

問 35 地域のボランティア活動をすすめていく上で、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)

「金銭的な支援」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「トラブル発生時の対応」の割合が 32.7%、「ボランティアに関する積極的な情報提供」の割合が 31.5%となっています。

前回調査と比較すると、「金銭的な支援」の割合が増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「金銭的な支援」の割合が70歳以上で低く、「ボランティア休暇制度」の割合が30～39歳で高く、70歳以上で低く、「ボランティア活動のリーダー役の育成」の割合が18～29歳で低く、「ボランティアに関する積極的な情報提供」の割合が60～69歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	金銭的な支援	ボランティア 休暇制度	学校での福祉教育	ボランティア活動 に関する相談	ボランティア活動の 拠点となる場所の提供	ボランティア活動の リーダー役の育成	ボランティアに関する 積極的な情報提供	ボランティア発生時の 対応	ボランティア活動の 推進は不要	その他	無回答
全 体	1,056	48.8	11.6	16.6	11.3	21.0	15.4	31.5	32.7	1.9	2.1	7.3
18～29歳	109	57.8	15.6	27.5	8.3	22.0	4.6	23.9	26.6	2.8	1.8	1.8
30～39歳	179	54.7	18.4	24.0	8.4	20.7	10.6	26.8	35.8	4.5	1.1	5.6
40～49歳	170	56.5	12.4	14.7	7.6	21.2	17.1	32.4	35.3	1.8	3.5	5.3
50～59歳	172	55.8	15.1	16.3	13.4	18.6	12.8	30.8	33.1	1.7	2.9	5.8
60～69歳	215	47.4	7.9	13.0	15.3	25.1	20.5	39.1	30.2	—	0.9	6.5
70歳以上	202	28.2	4.0	10.4	11.9	19.3	20.8	30.7	32.2	1.0	2.5	15.8

【地区別】

地区別にみると、「ボランティアに関する積極的な情報提供」の割合が綾歌中学校区で高く、飯山中学校区で低くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	金銭的な支援	ボランティア 休暇制度	学校での福祉教育	ボランティア活動に 関する相談	ボランティア活動の 拠点となる場所の提供	ボランティア活動の リーダー役の育成	ボランティアに関する 積極的な情報提供	ボランティア発生時の 対応	ボランティア活動の 推進は不要	その他	無回答
全 体	1,056	48.8	11.6	16.6	11.3	21.0	15.4	31.5	32.7	1.9	2.1	7.3
東中学校区（島しょ部含む）	251	45.8	12.7	14.7	16.7	19.9	18.7	30.7	30.7	2.0	2.4	8.8
西中学校区	225	55.1	12.0	18.2	7.1	24.4	18.7	33.3	34.2	3.6	0.9	5.3
南中学校区	243	49.4	9.5	17.3	8.6	18.1	12.8	30.0	34.6	0.4	1.6	8.2
綾歌中学校区	183	48.1	10.4	17.5	10.9	22.4	10.9	36.1	30.1	1.6	4.4	6.6
飯山中学校区	133	45.9	14.3	17.3	13.5	21.1	14.3	25.6	31.6	1.5	0.8	6.0

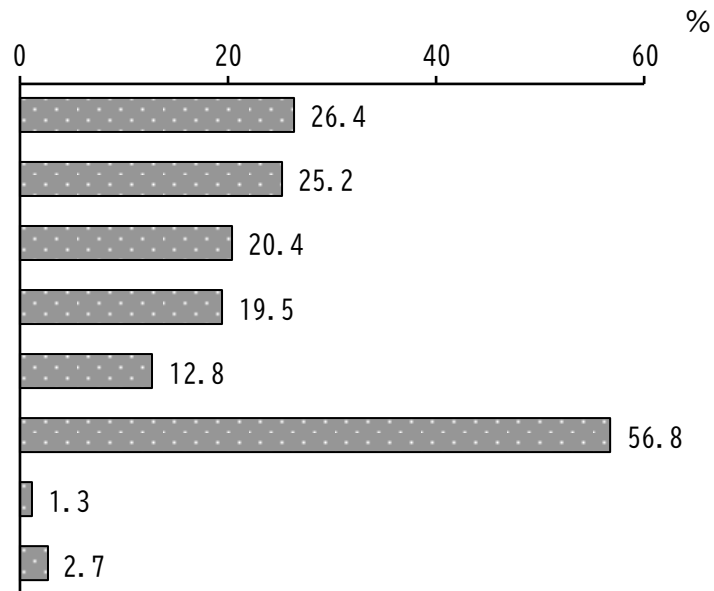
(6) 災害時に関することについて

問 36 近年、災害が多発しています。災害に備えて日頃から地域でどのようなことが必要だ
と思いますか。(○は2つまで)

「必要物資を備蓄して災害に備える」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる」の割合が 26.4%、「防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う」の割合が 25.2%となっています。

回答者数 = 1,056

- 日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる
- 防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う
- 見守りが必要な世帯を記載した防災マップを整備する
- 防災学習や地域独自のハザードマップづくりなど、自主防災会等の活動を活発化する
- 災害時に備えて地域や自治会で見守り等が必要な方の個人情報の取扱いを考える
- 必要物資を備蓄して災害に備える
- その他
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、「日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる」の割合が 70 歳以上で高く、「防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う」の割合が 18～29 歳で高く、「必要物資を備蓄して災害に備える」の割合が 30～39 歳で高く、70 歳以上で低くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる	防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う	見守りが必要な世帯を記載した防災マップを整備する	防災学習や地域独自のハザードマップづくりなど、自主防災会等の活動を活発化する	災害時に備えて地域や自治会で見守り等が必要な方の個人情報の取扱いを考える	必要物資を備蓄して災害に備える	その他	無回答
全 体	1,056	26.4	25.2	20.4	19.5	12.8	56.8	1.3	2.7
18～29歳	109	15.6	42.2	24.8	23.9	3.7	56.0	0.9	—
30～39歳	179	25.7	24.6	20.1	22.9	8.4	67.6	0.6	0.6
40～49歳	170	22.9	25.3	20.0	19.4	12.4	60.6	2.4	1.8
50～59歳	172	24.4	25.0	18.0	19.2	13.4	58.1	2.3	1.2
60～69歳	215	26.5	20.5	21.9	17.2	16.7	54.0	0.9	2.8
70歳以上	202	37.1	21.8	19.8	16.3	17.8	46.5	1.0	7.9

【地区別】

地区別にみると、「防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う」の割合が西中学校区で高く、飯山中学校区で低く、「必要物資を備蓄して災害に備える」の割合が飯山中学校区で高く、南中学校区で低くなっています。

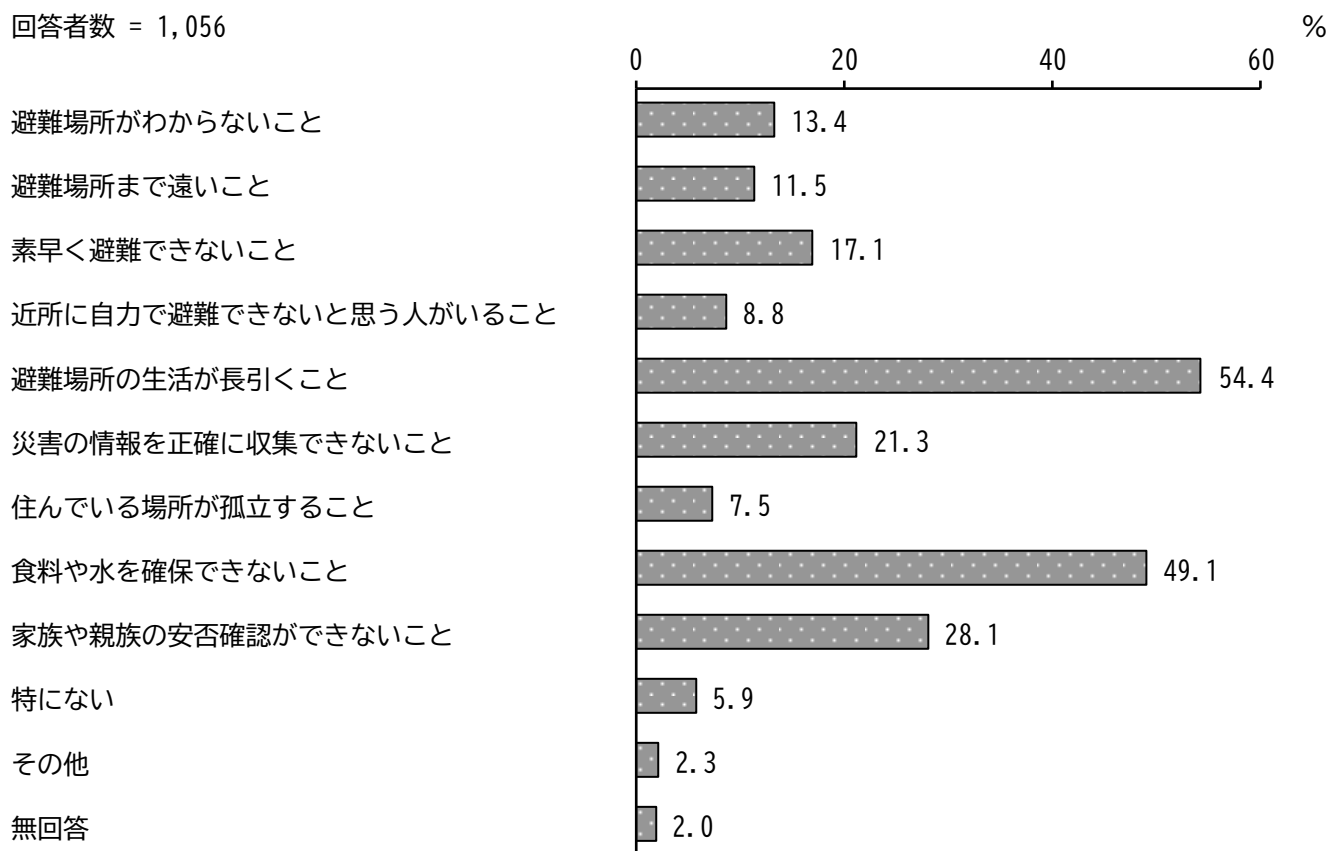
単位：％

地区	質問項目	回答者数(件)	日頃から顔の見える関係づく る機会を多くつくる	防災訓練のあり方を見直し、 災害時の避難訓練などを定期 的に行う	見守りが必要な世帯を記載し た防災マップを整備する	防災学習や地域独自のハザード マップづくりなど、自主防 災会等の活動を活発化する	災害時に備えて地域や自治会 で見守り等が必要な方の個人 情報の取扱いを考える	必要物資を備蓄して災害に備 える	その他	無回答
全 体		1,056	26.4	25.2	20.4	19.5	12.8	56.8	1.3	2.7
東中学校区（島しょ部含む）		251	22.7	27.1	19.1	20.7	17.1	54.2	2.4	4.0
西中学校区		225	26.2	29.8	20.0	20.9	12.4	58.7	0.9	1.8
南中学校区		243	28.4	22.6	23.9	21.4	11.9	49.8	1.6	2.5
綾歌中学校区		183	27.9	25.1	19.1	16.9	9.3	60.7	1.1	1.6
飯山中学校区		133	29.3	19.5	20.3	14.3	12.8	64.7	－	2.3

問 37 あなたは、丸亀市で災害（地震や台風、土砂災害など）が起こった時に、どのようなことが不安ですか。（○は3つまで）

「避難場所の生活が長引くこと」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「食料や水を確保できないこと」の割合が 49.1%、「家族や親族の安否確認ができないこと」の割合が 28.1%となっています。

回答者数 = 1,056



【年齢別】

年齢別にみると、「素早く避難できないこと」の割合が 50～59 歳で低く、「避難場所の生活が長引くこと」の割合が 18～29 歳で低く、「食料や水を確保できないこと」の割合が 30～39 歳で高く、「家族や親族の安否確認ができないこと」の割合が 70 歳以上で低くなっています。

単位：%

質問項目 年齢	回答者数 (件)	避難場所がわからないこと	避難場所まで遠いこと	素早く避難できないこと	近所に自力で避難できないと思う人がいること	避難場所の生活が長引くこと	災害の情報を正確に収集できないこと	住んでいる場所が孤立すること	食料や水を確保できないこと	家族や親族の安否確認ができないこと	特にない	その他	無回答
全 体	1,056	13.4	11.5	17.1	8.8	54.4	21.3	7.5	49.1	28.1	5.9	2.3	2.0
18～29歳	109	16.5	13.8	17.4	14.7	41.3	16.5	4.6	49.5	36.7	5.5	2.8	1.8
30～39歳	179	16.2	9.5	21.2	6.1	52.5	19.6	5.0	60.9	34.6	5.0	2.8	0.6
40～49歳	170	15.9	8.8	14.1	7.1	54.1	17.6	7.1	58.8	35.3	7.6	4.1	0.6
50～59歳	172	14.0	10.5	11.0	6.4	58.1	22.7	4.7	44.8	29.7	6.4	3.5	2.9
60～69歳	215	8.8	11.2	14.9	11.2	61.9	24.2	8.8	44.7	24.2	4.7	0.9	1.9
70歳以上	202	10.9	14.9	24.3	9.4	53.5	22.8	12.4	38.6	14.4	5.9	0.5	4.0

【地区別】

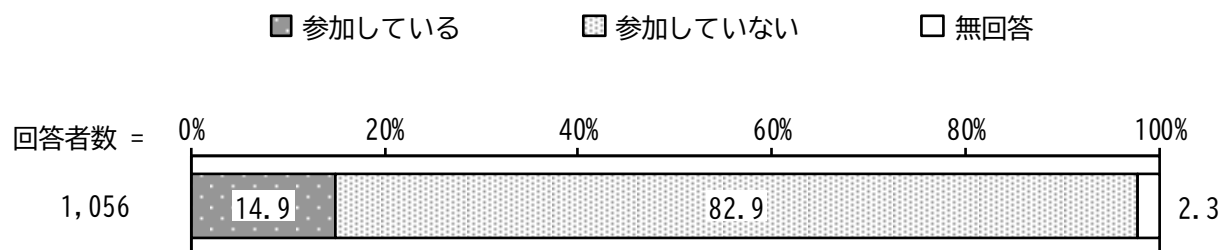
地区別にみると、「避難場所がわからないこと」の割合が飯山中学校区で低く、「素早く避難できないこと」の割合が西中学校区で高くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	避難場所がわからないこと	避難場所まで遠いこと	素早く避難できないこと	近所に自力で避難できない と思う人がいること	避難場所の生活が長引く こと	災害の情報を正確に収集 できないこと	住んでいる場所が孤立す ること	食料や水を確保できない こと	家族や親族の安否確認が できないこと	特にない	その他	無回答
全 体	1,056	13.4	11.5	17.1	8.8	54.4	21.3	7.5	49.1	28.1	5.9	2.3	2.0
東中学校区（島 しょ部含む）	251	15.5	15.5	17.5	10.4	53.0	22.3	8.0	47.4	22.7	4.8	2.0	3.6
西中学校区	225	17.8	8.9	23.6	8.0	52.0	20.0	8.4	45.8	32.9	7.1	1.8	0.9
南中学校区	243	14.8	8.6	15.6	7.4	55.1	23.5	3.7	51.4	28.0	7.0	2.1	1.6
綾歌中学校区	183	8.2	9.3	13.7	10.4	55.2	16.9	7.7	50.8	29.5	6.0	3.8	2.2
飯山中学校区	133	4.5	14.3	13.5	9.0	60.9	22.6	11.3	51.1	30.8	3.0	1.5	1.5

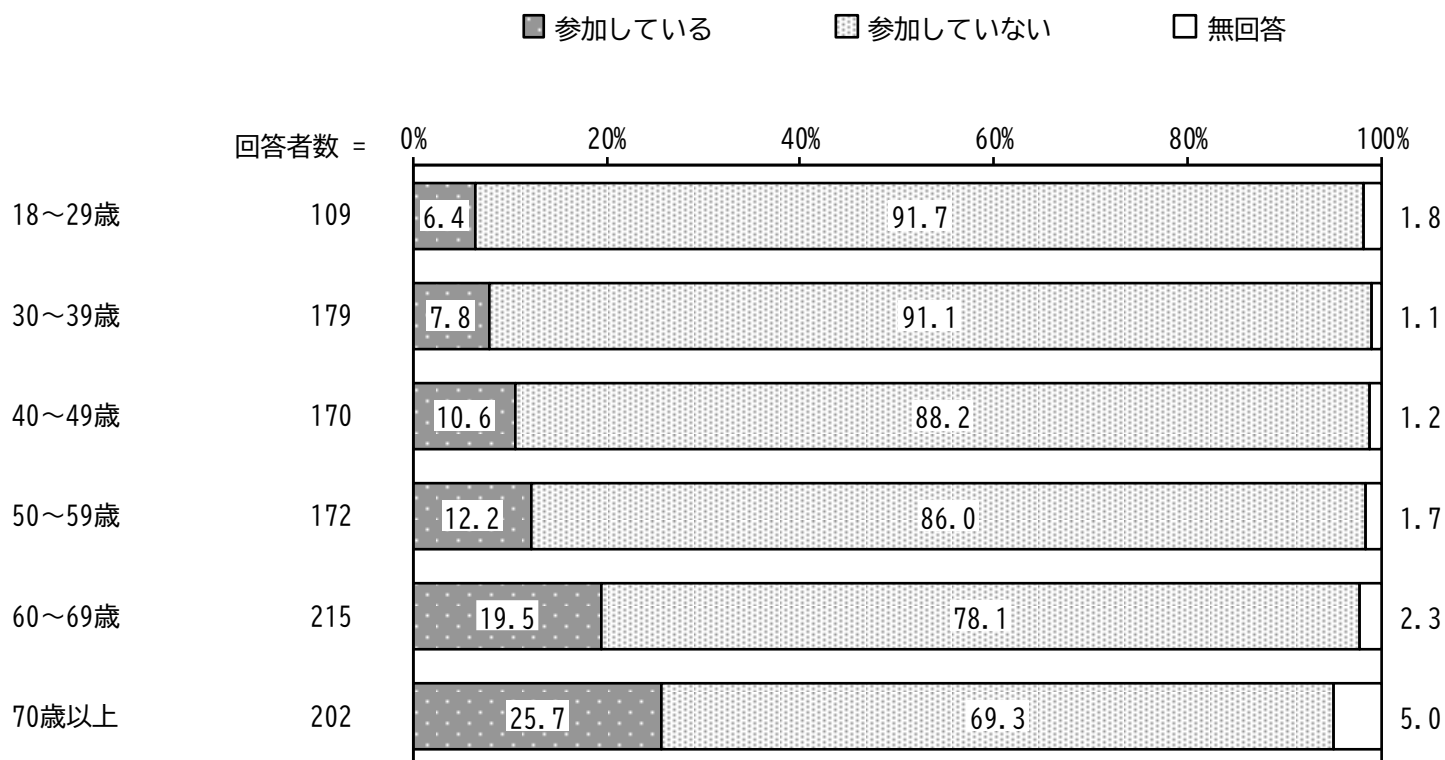
問 38 あなたは、地域の防災訓練に参加していますか。(○は1つ)

「参加している」の割合が14.9%、「参加していない」の割合が82.9%となっています。



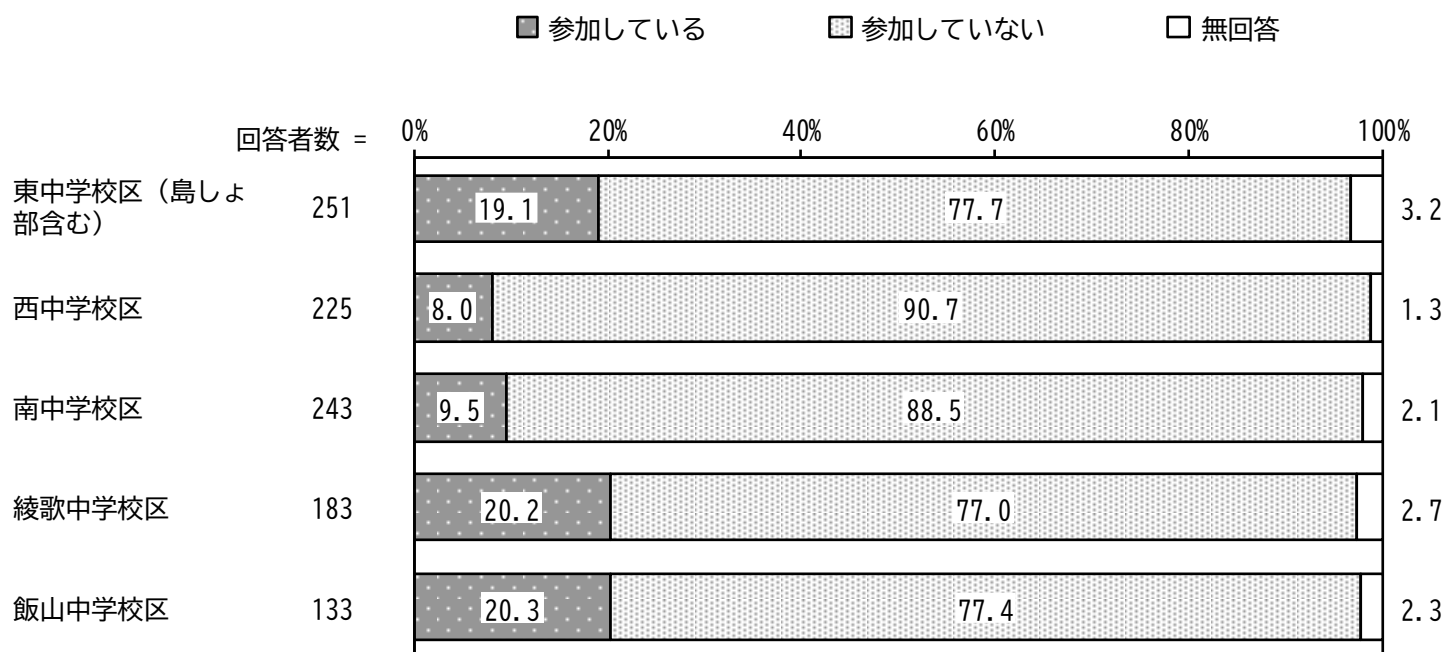
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「参加していない」の割合が高くなっています。



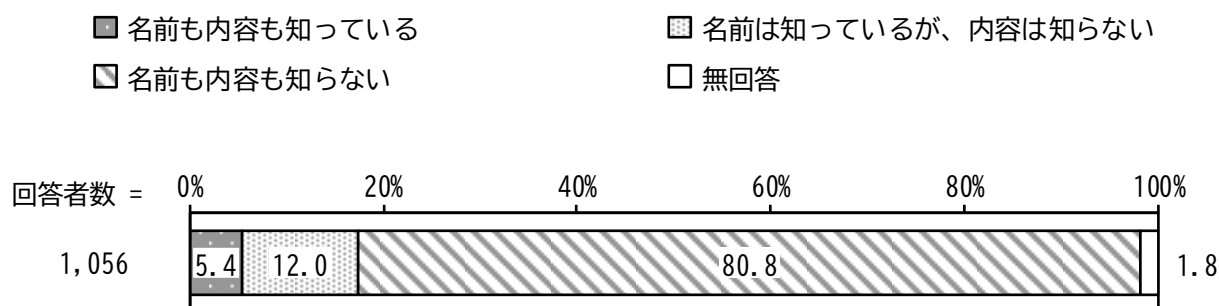
【地区別】

地区別にみると、「参加していない」の割合が西中学校校区で高くなっています。



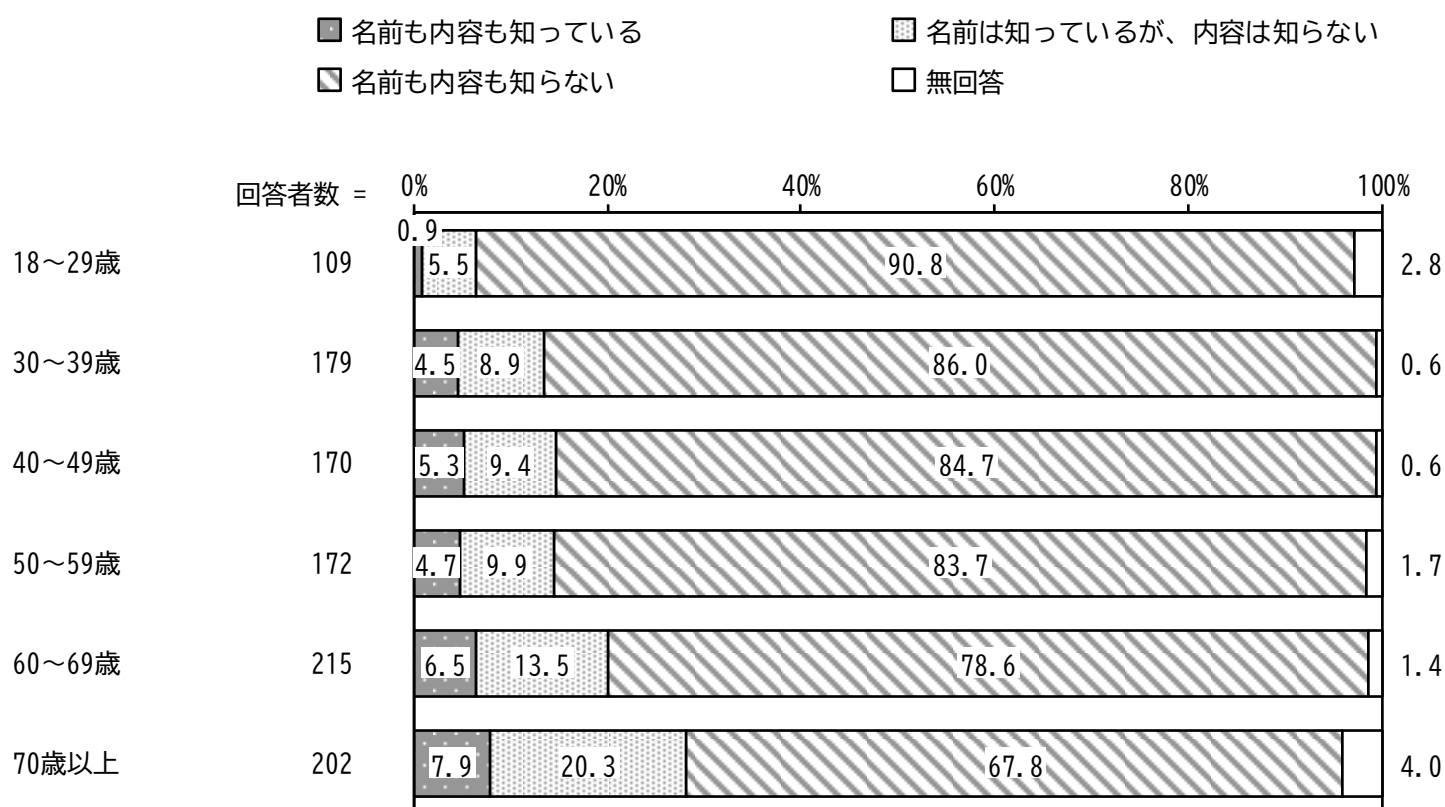
問 39 あなたは、「避難行動要支援者名簿」を知っていますか。(○は1つ)

「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 12.0%、「名前も内容も知らない」の割合が 80.8% となっています。



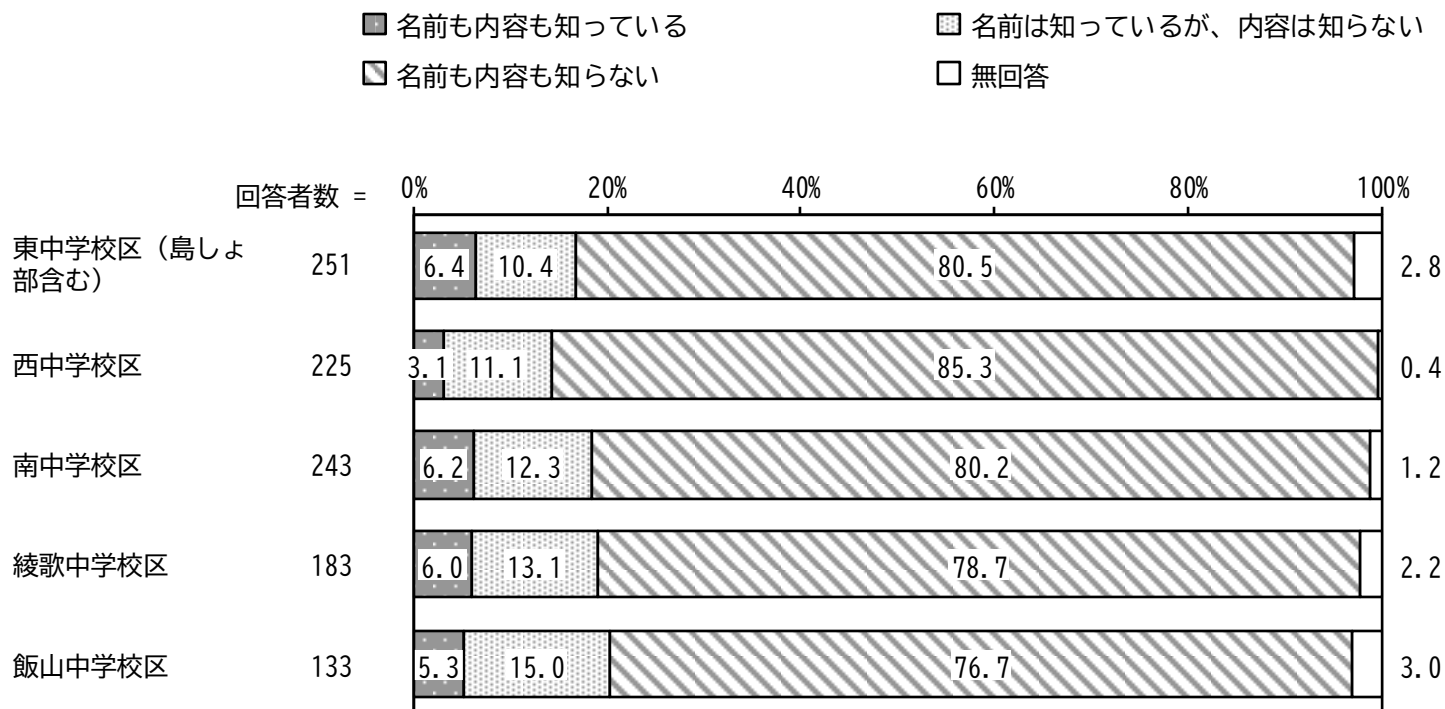
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が高くなる傾向にあります。



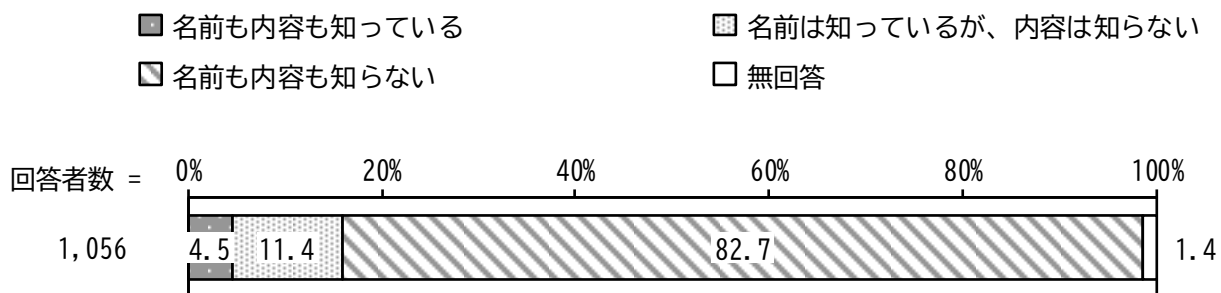
【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。



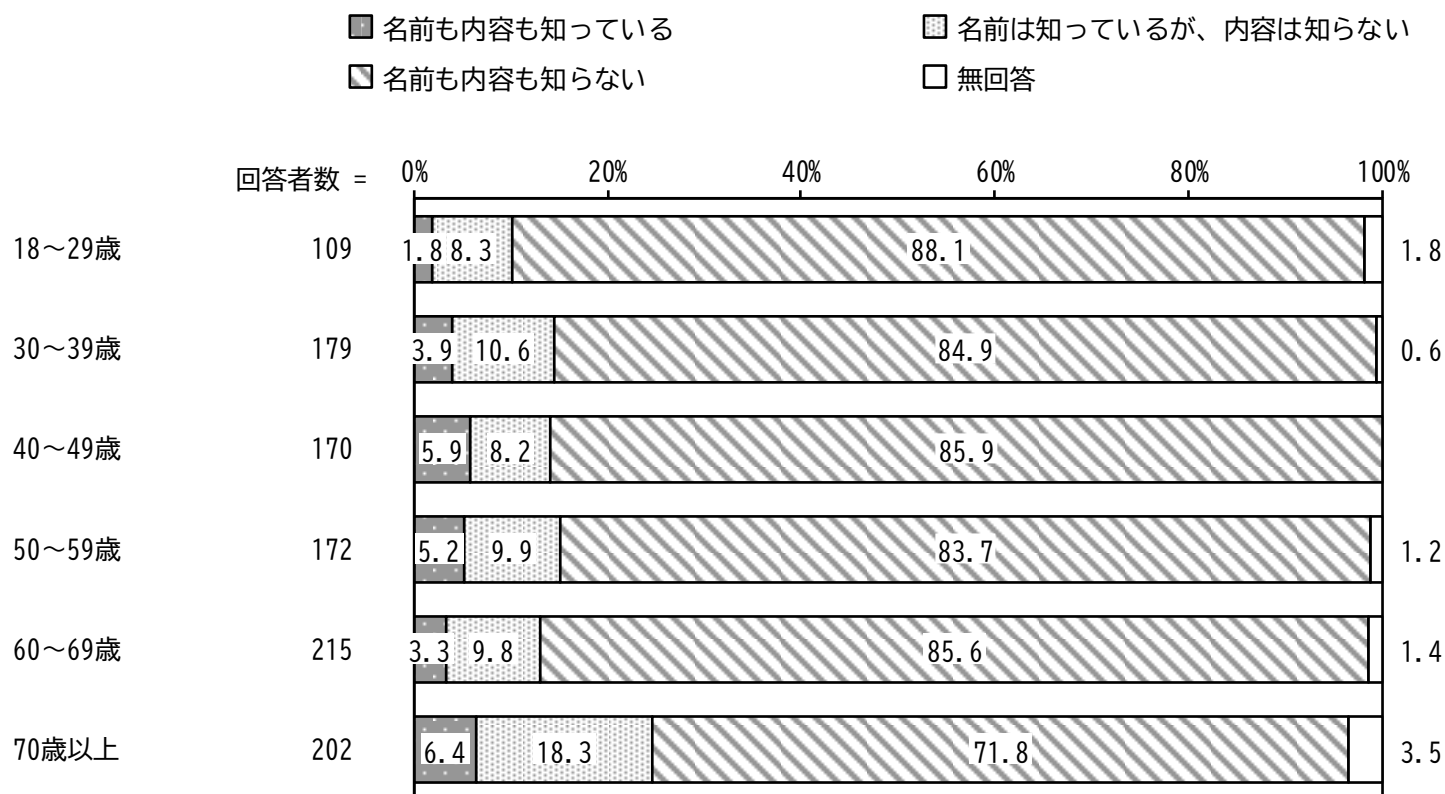
問 40 あなたは、「個別避難計画」を知っていますか。（○は1つ）

「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 11.4%、「名前も内容も知らない」の割合が 82.7%となっています。



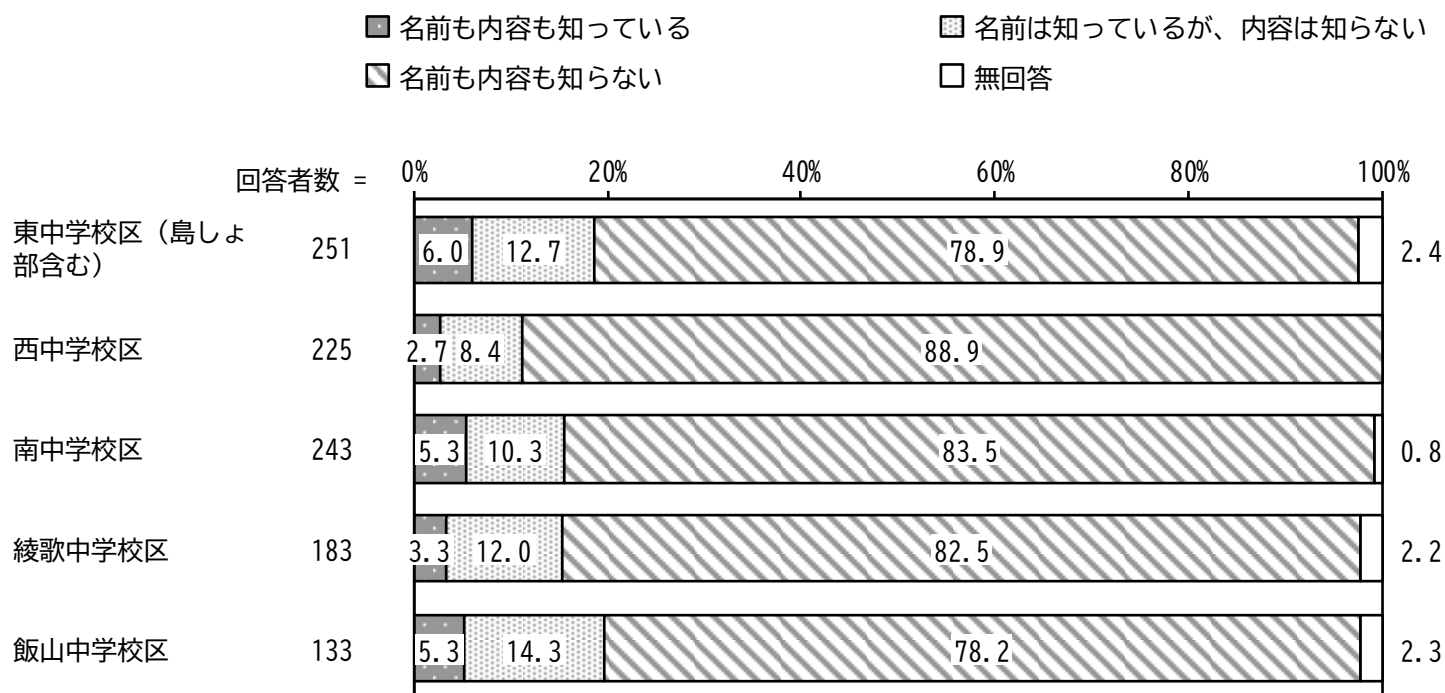
【年齢別】

年齢別にみると、「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が70歳以上で高くなっています。



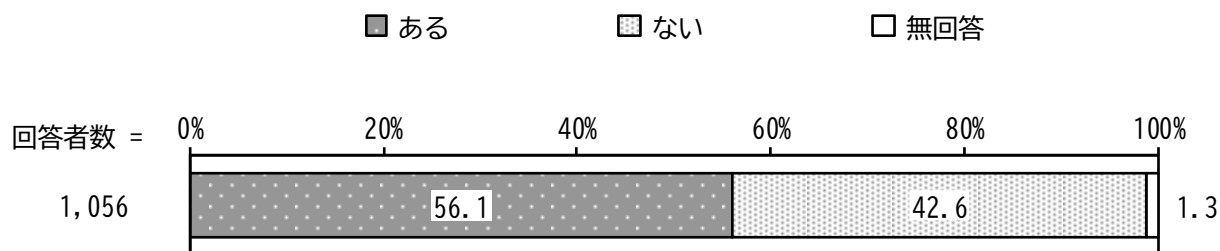
【地区別】

地区別にみると、「名前も内容も知らない」の割合が西中学校区で高くなっています。



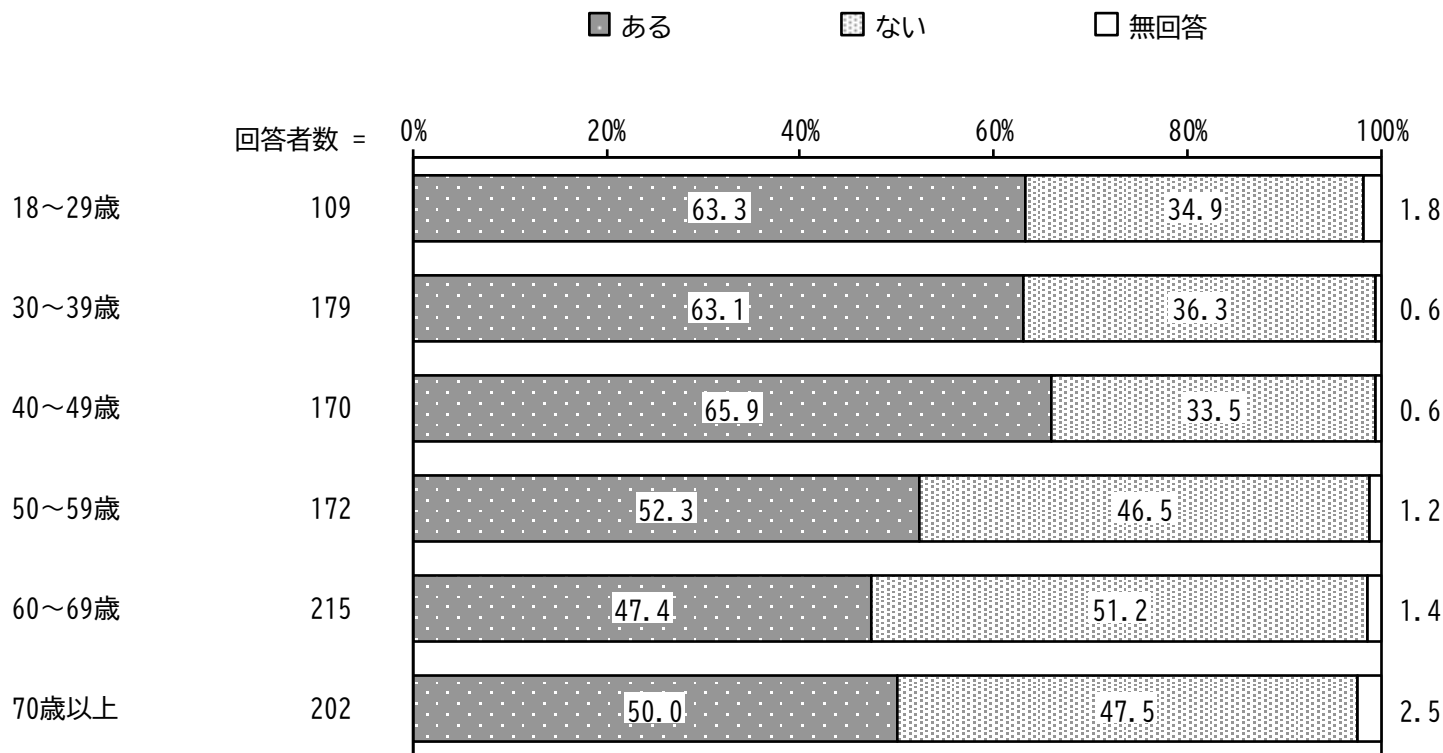
問 41 あなたは、災害時の避難行動について、家族で話し合ったことがありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が 56.1%、「ない」の割合が 42.6%となっています。



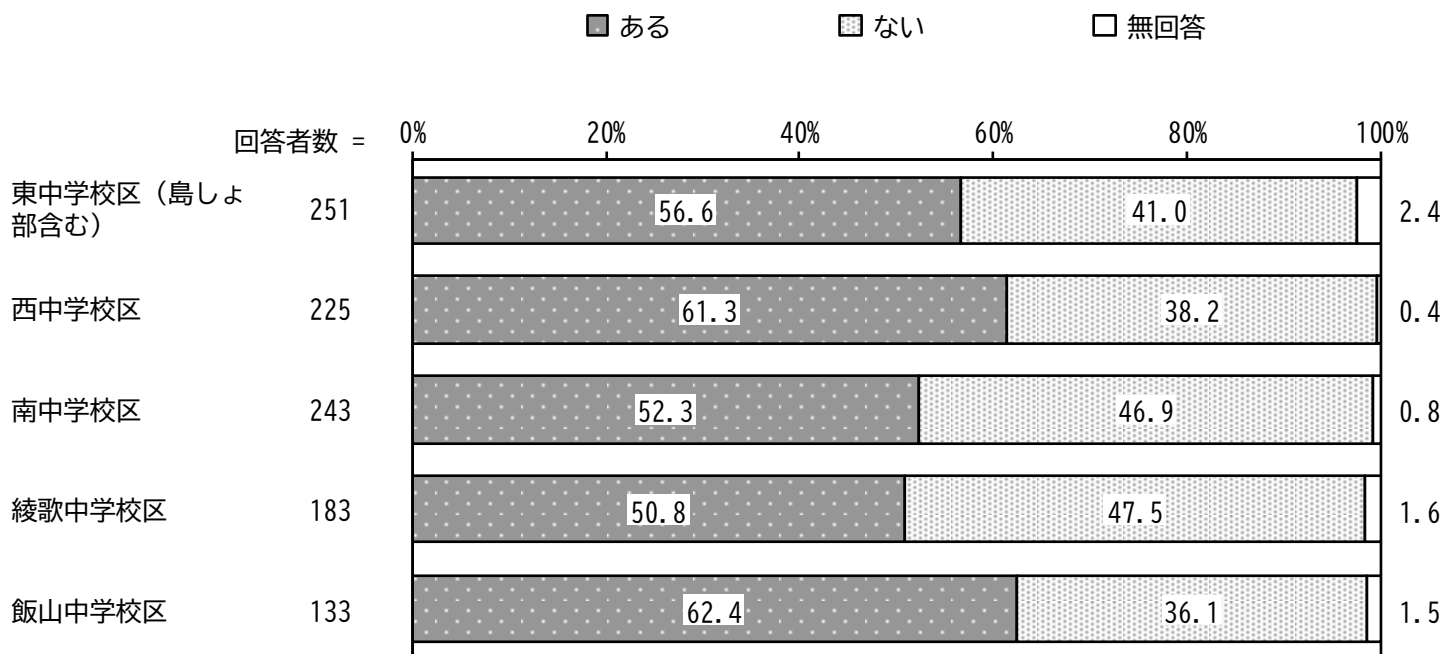
【年齢別】

年齢別にみると、「ある」の割合が 40～49 歳で高くなっています。



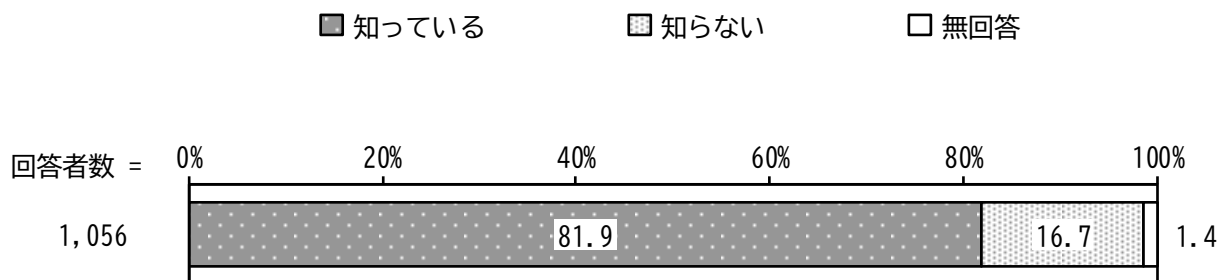
【地区別】

地区別にみると、「ない」の割合が飯山中学校区で低くなっています。



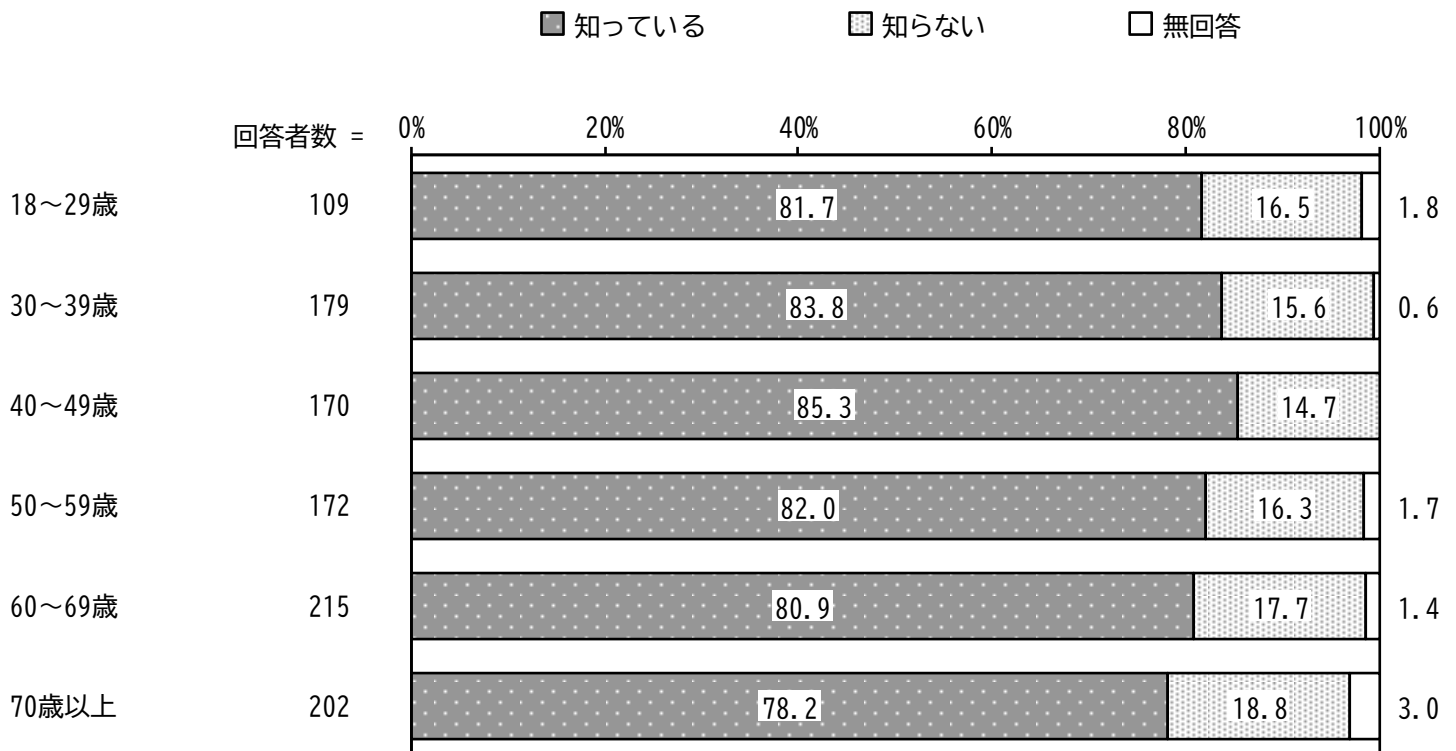
問 42 あなたは、ハザードマップについて知っていますか。（○は1つ）

「知っている」の割合が81.9%、「知らない」の割合が16.7%となっています。



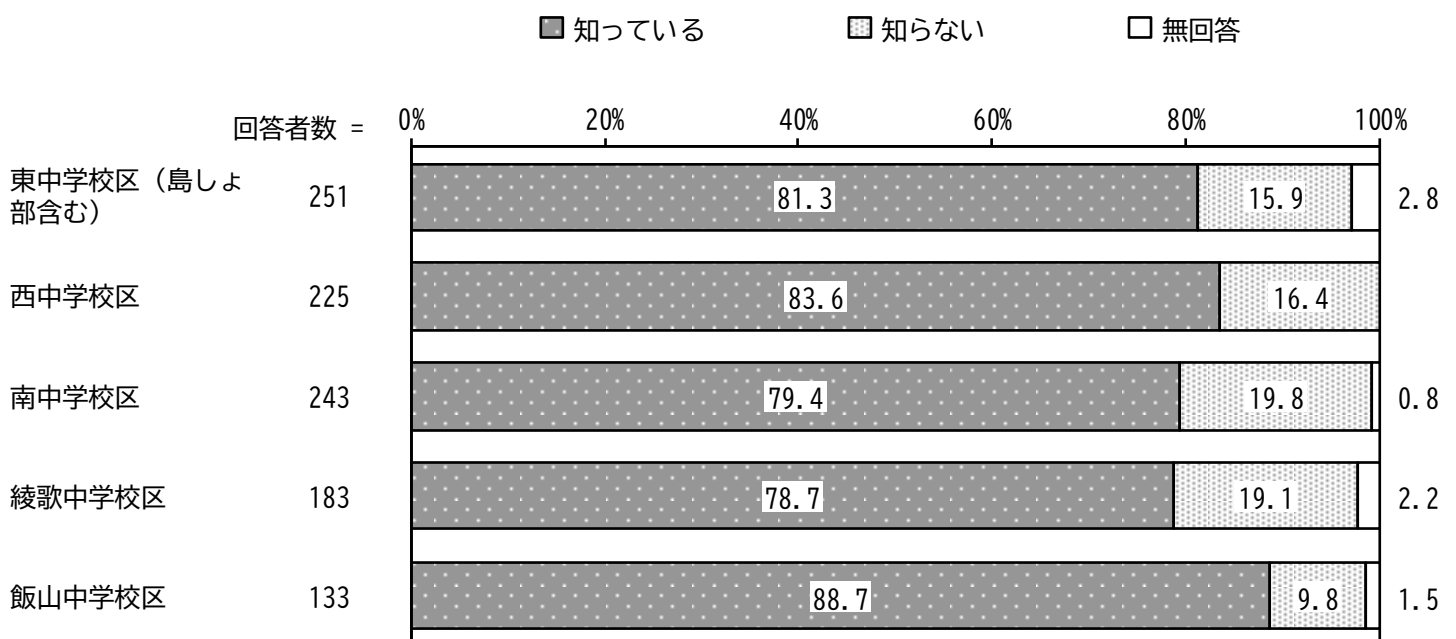
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【地区別】

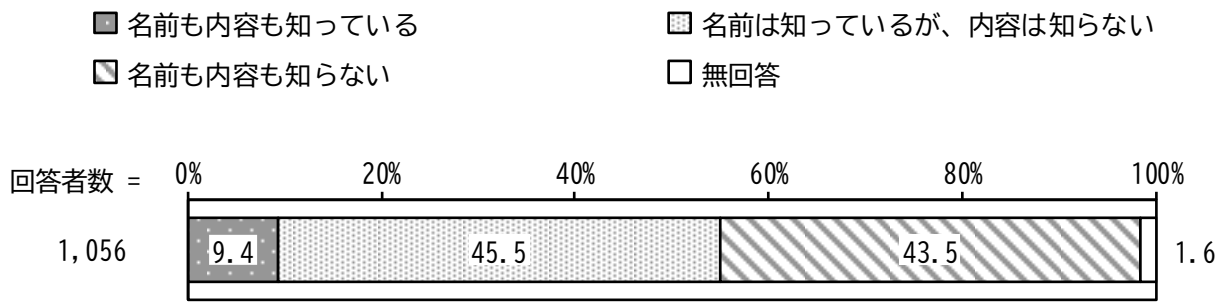
地区別にみると、「知らない」の割合が飯山中学校区で低くなっています。



(7) 福祉制度や福祉事業について

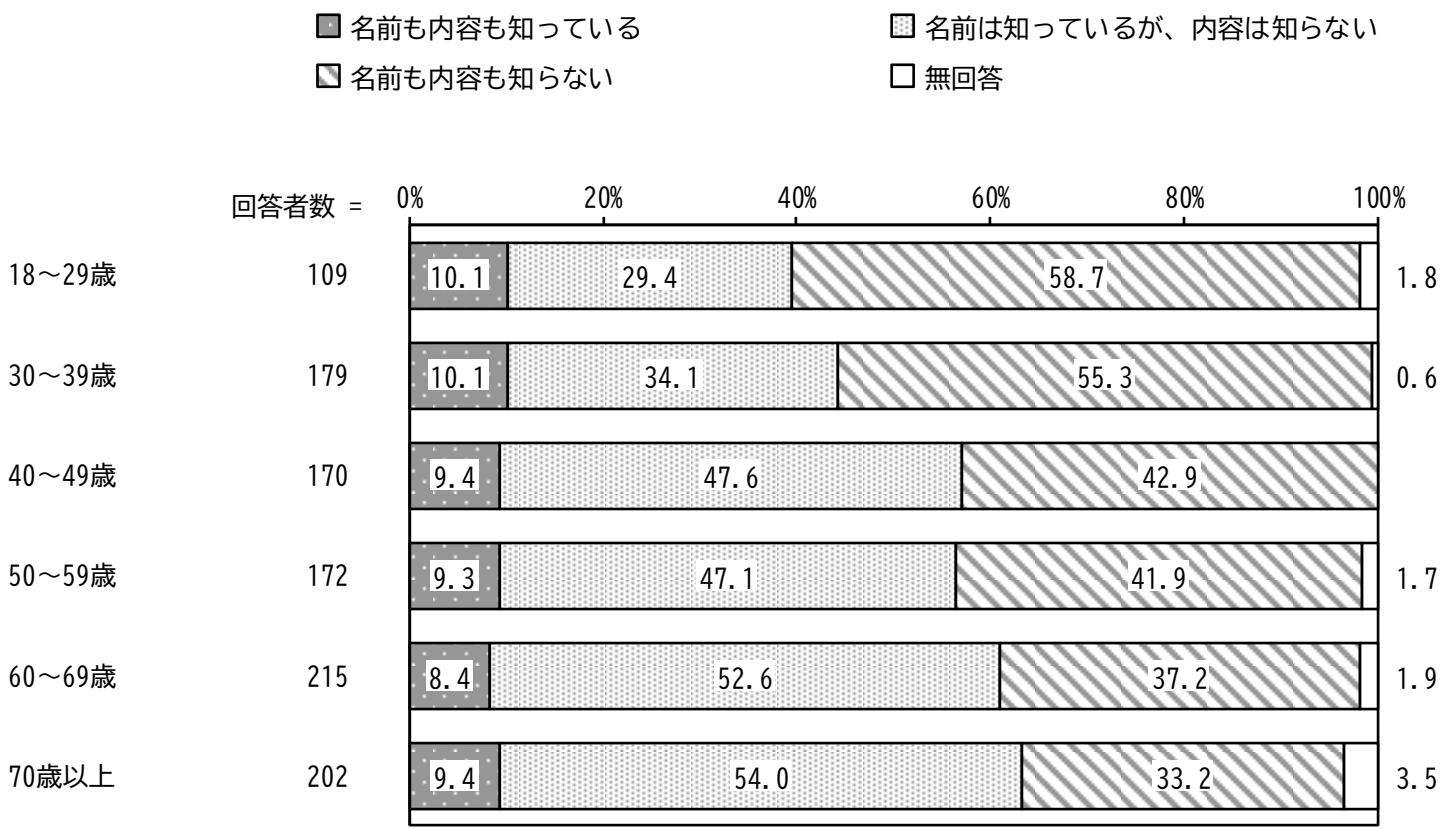
問 43 あなたは、「生活困窮者自立支援制度」を知っていますか。(○は1つ)

「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 45.5%、「名前も内容も知らない」の割合が 43.5% となっています。



【年齢別】

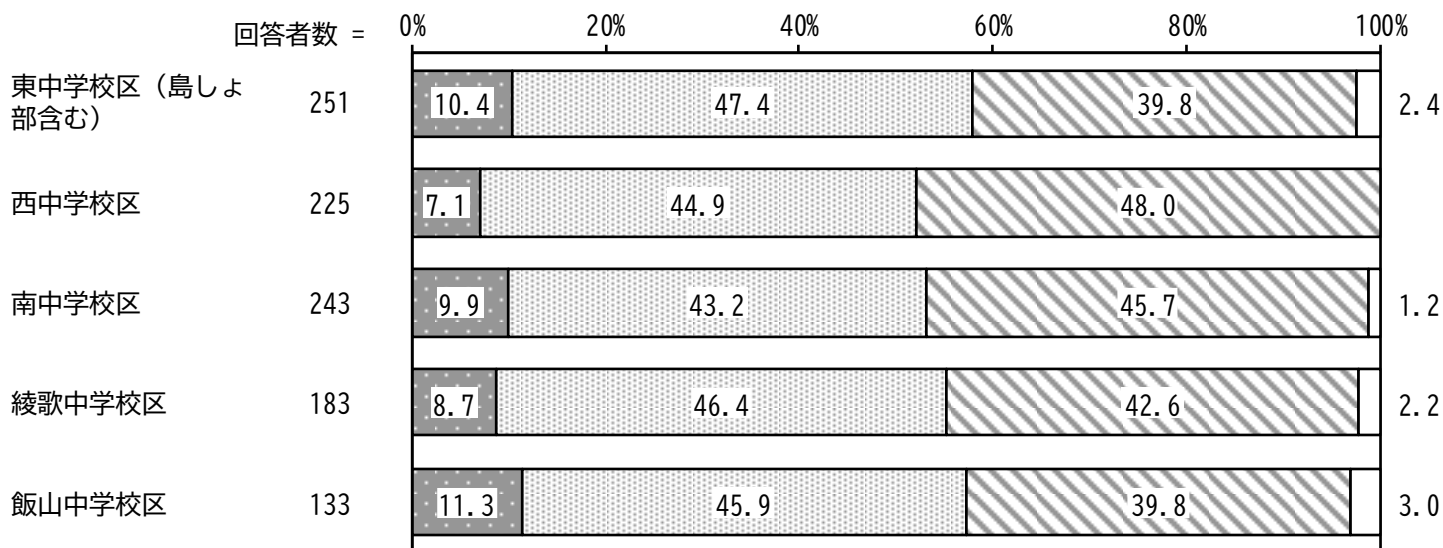
年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。

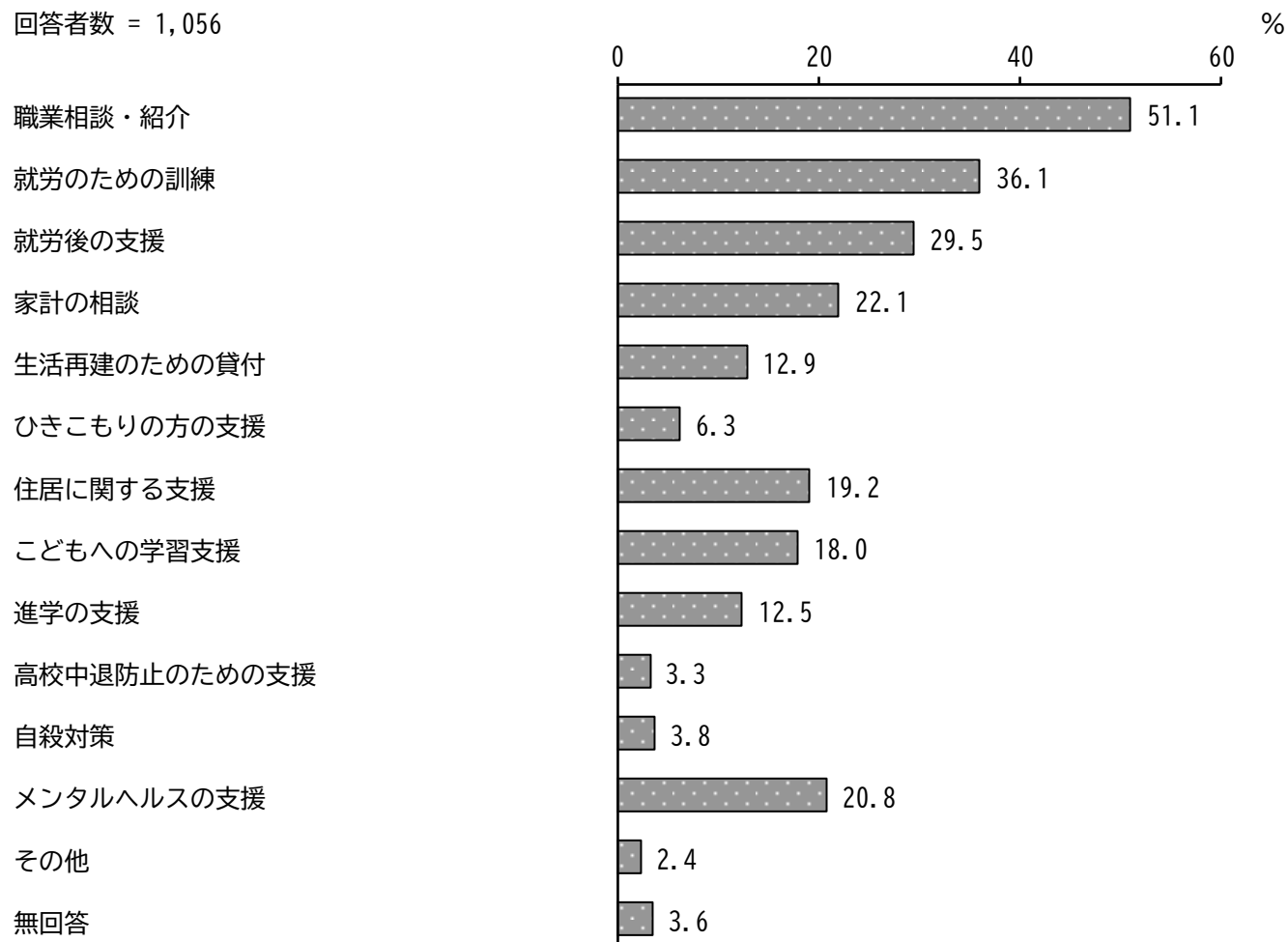
- 名前も内容も知っている
- 名前は知っているが、内容は知らない
- 名前も内容も知らない
- 無回答



問 44 生活困窮者の問題や支援制度について、あなた自身は具体的にどのような支援が最も必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「職業相談・紹介」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「就労のための訓練」の割合が 36.1%、「就労後の支援」の割合が 29.5%となっています。

回答者数 = 1,056



【年齢別】

年齢別にみると、「職業相談・紹介」の割合が50～59歳で高く、「就労のための訓練」の割合が30～39歳で高く、「就労後の支援」の割合が70歳以上で低く、「生活再建のための貸付」の割合が60～69歳で高く、40～49歳で低く、「住居に関する支援」の割合が70歳以上で高く、18～29歳で低く、「こどもへの学習支援」の割合が30～39歳で高くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数 (件)	職業相談・紹介	就労のための訓練	就労後の支援	家計の相談	生活再建のための貸付	ひきこもりの方の支援	住居に関する支援	こどもへの学習支援	進学の支援	高校中退防止のための支援	自殺対策	メンタルヘルスの支援	その他	無回答
全 体	1,056	51.1	36.1	29.5	22.1	12.9	6.3	19.2	18.0	12.5	3.3	3.8	20.8	2.4	3.6
18～29歳	109	45.0	37.6	31.2	18.3	9.2	1.8	11.9	20.2	17.4	2.8	8.3	26.6	5.5	3.7
30～39歳	179	46.9	48.0	34.6	17.9	11.2	5.6	12.8	26.8	12.3	5.6	3.4	21.8	3.4	2.2
40～49歳	170	55.3	42.4	32.4	21.2	8.2	11.2	15.9	22.4	15.9	3.5	2.9	18.8	1.2	1.2
50～59歳	172	59.9	38.4	32.6	19.8	11.0	5.8	20.9	14.0	11.6	2.3	3.5	19.8	1.7	1.7
60～69歳	215	55.8	27.4	27.4	27.0	18.6	5.1	22.3	12.6	8.8	2.8	4.2	24.2	2.8	3.3
70歳以上	202	42.6	26.7	22.8	25.7	15.3	6.9	26.7	14.4	11.4	3.0	2.5	16.3	1.0	8.4

【地区別】

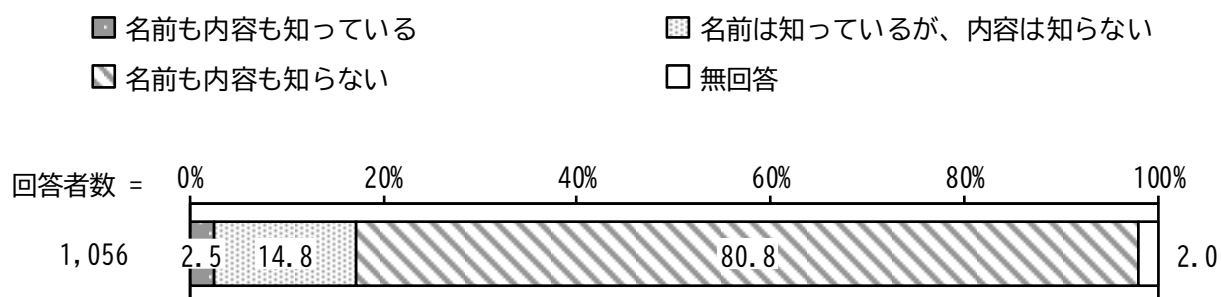
地区別にみると、「就労のための訓練」の割合が南中学校区で高く、「職業相談・紹介」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数 (件)	職業相談・紹介	就労のための訓練	就労後の支援	家計の相談	生活再建のための貸付	ひきこもりの方の支援	住居に関する支援	こどもへの学習支援	進学の支援	高校中退防止のための支援	自殺対策	メンタルヘルスの支援	その他	無回答
全 体	1,056	51.1	36.1	29.5	22.1	12.9	6.3	19.2	18.0	12.5	3.3	3.8	20.8	2.4	3.6
東中学校区 (島しょ部含む)	251	52.6	35.9	27.5	23.5	13.1	8.4	18.7	15.9	13.9	2.8	1.6	24.7	3.6	6.0
西中学校区	225	54.7	35.6	35.1	21.8	11.6	7.1	18.2	22.7	12.0	3.6	4.9	18.2	0.9	2.2
南中学校区	243	51.9	41.2	25.9	19.8	17.3	5.3	22.6	16.5	11.9	1.6	5.3	18.9	2.9	1.6
綾歌中学校区	183	43.2	30.6	32.8	24.0	12.0	5.5	18.6	16.9	12.6	3.8	3.3	20.2	2.7	4.4
飯山中学校区	133	54.1	36.1	28.6	22.6	8.3	3.8	15.0	18.0	11.3	6.8	3.0	23.3	1.5	3.0

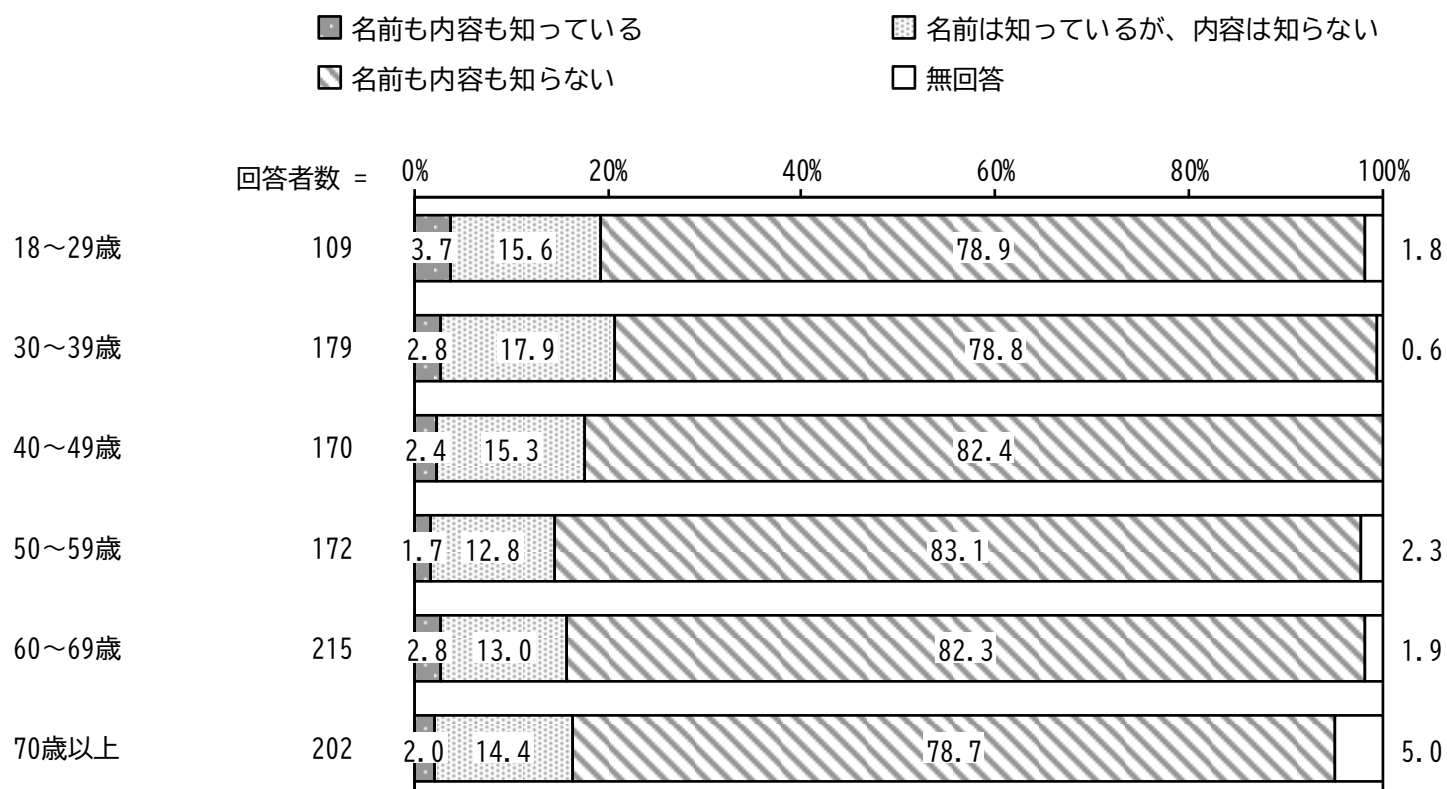
問 45 あなたは、「あすたねっと」について知っていますか。(○は1つ)

「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 14.8%、「名前も内容も知らない」の割合が 80.8% となっています。



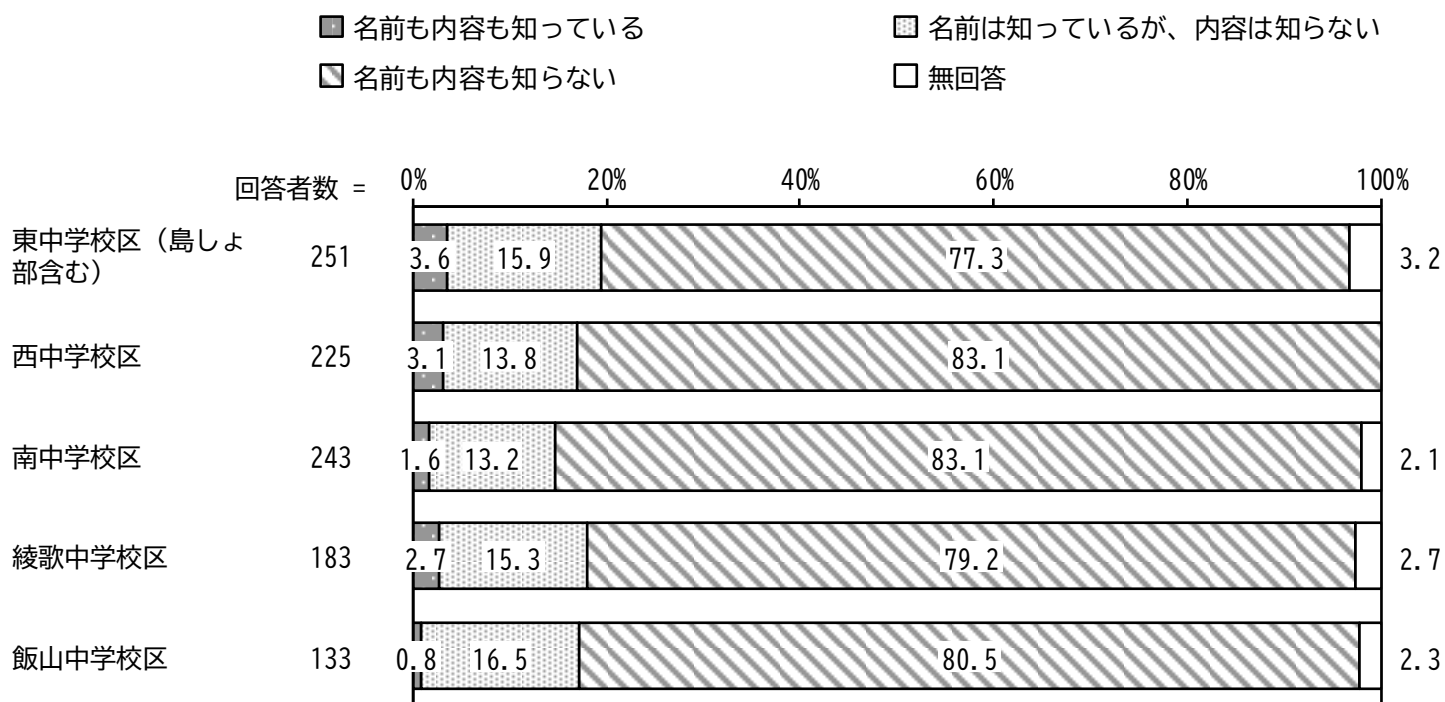
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



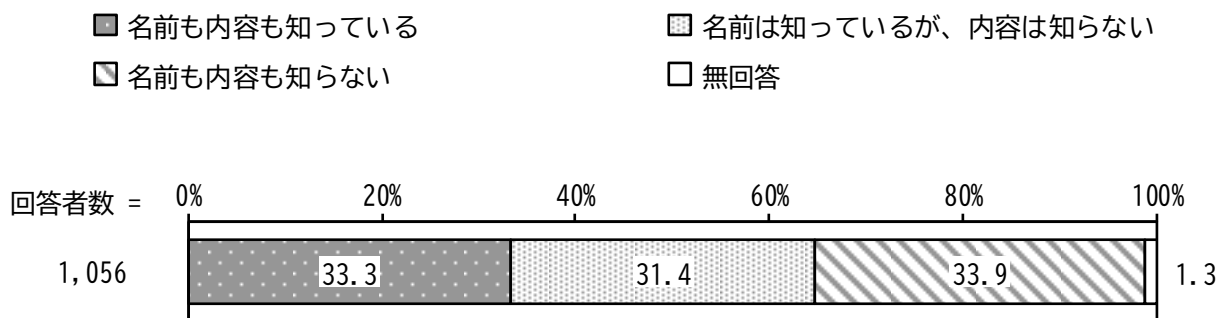
【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。



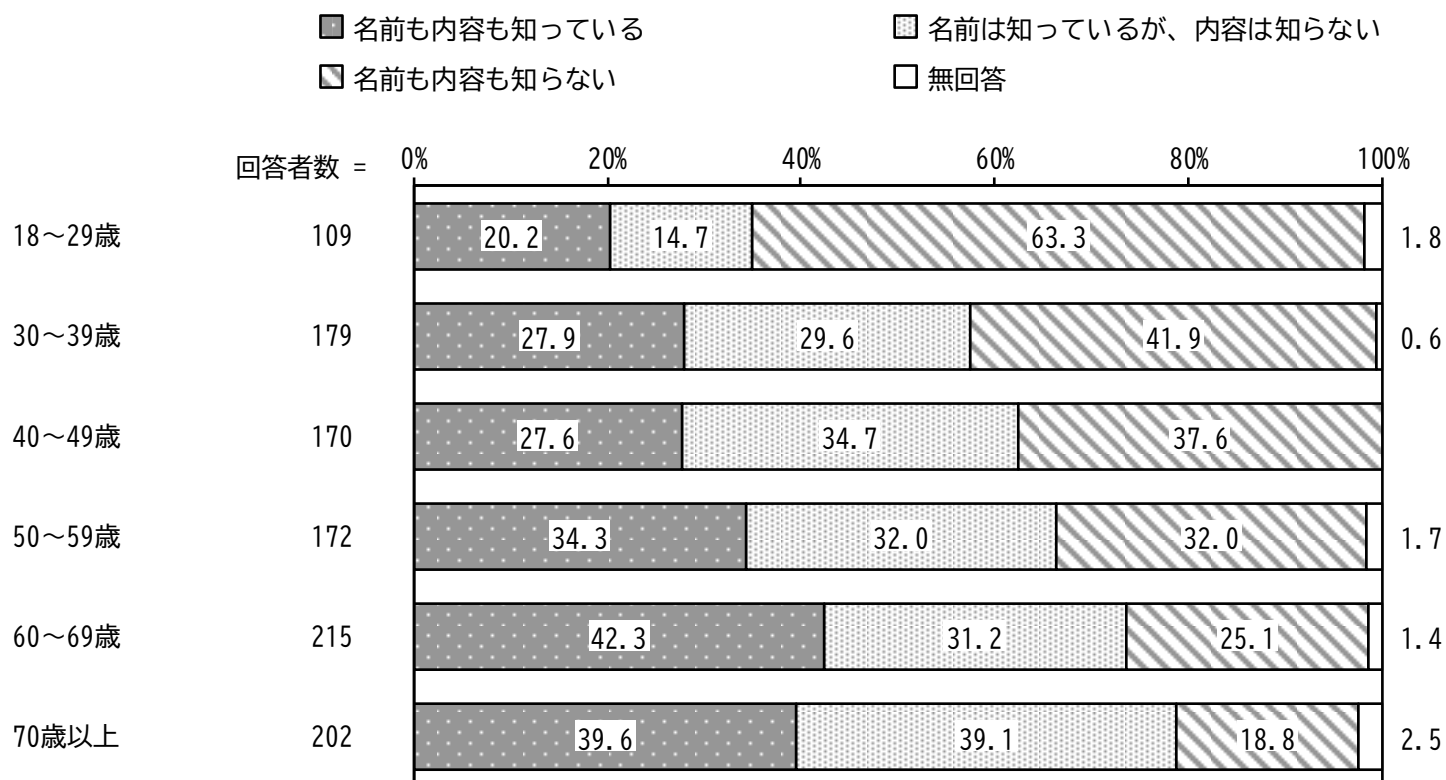
問 46 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は1つ）

「名前も内容も知っている」の割合が 33.3%、「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 31.4%、「名前も内容も知らない」の割合が 33.9%となっています。



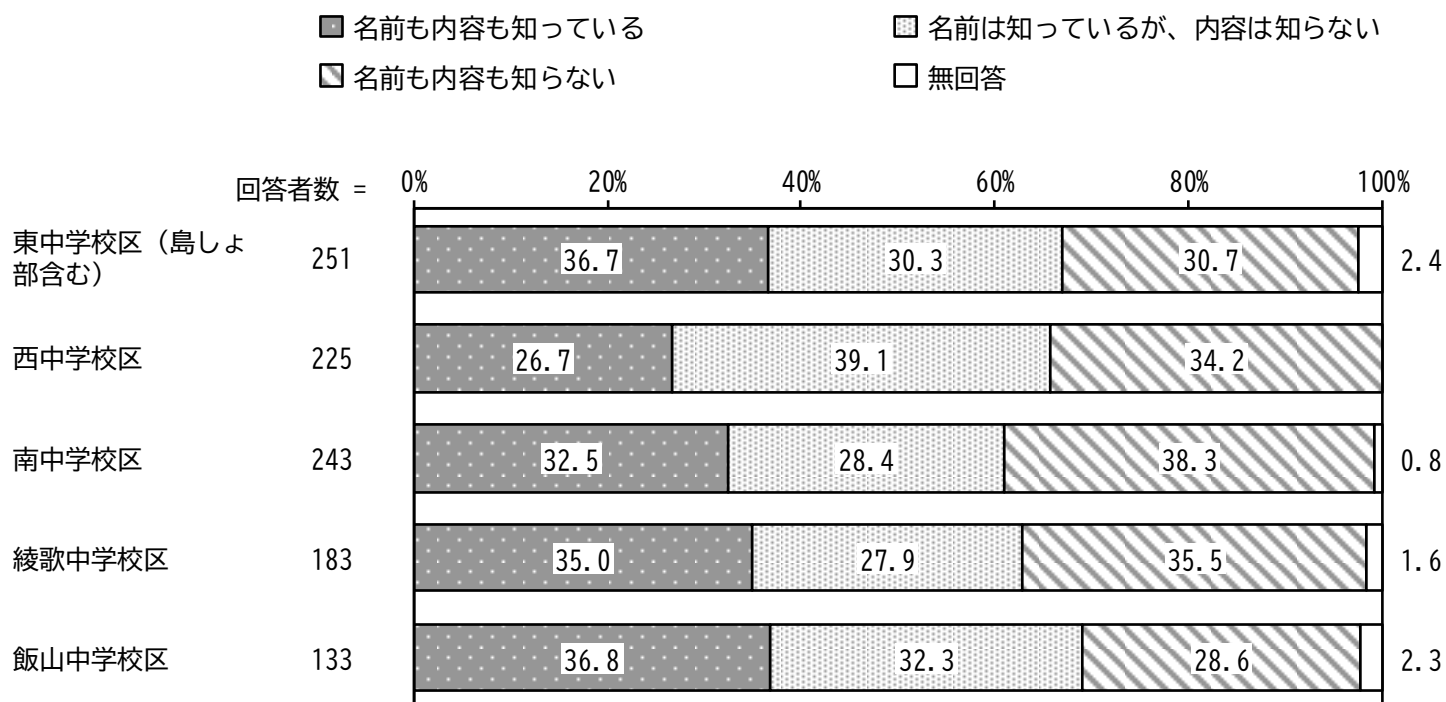
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



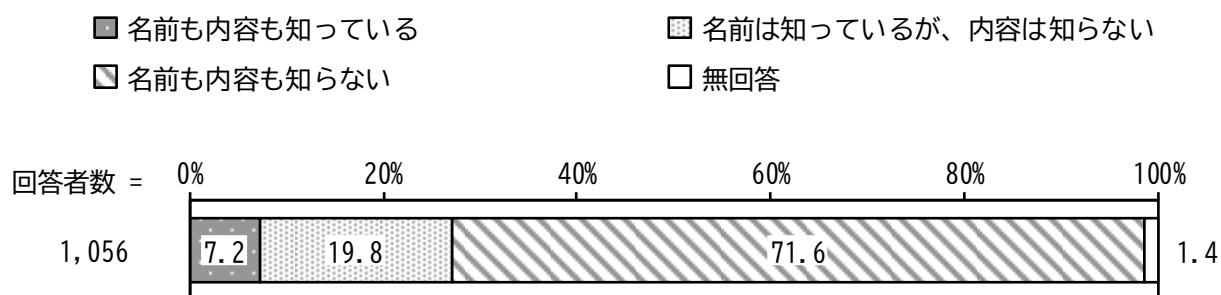
【地区別】

地区別にみると、「名前知っているが、内容は知らない」の割合が西中学校区で高くなっています。



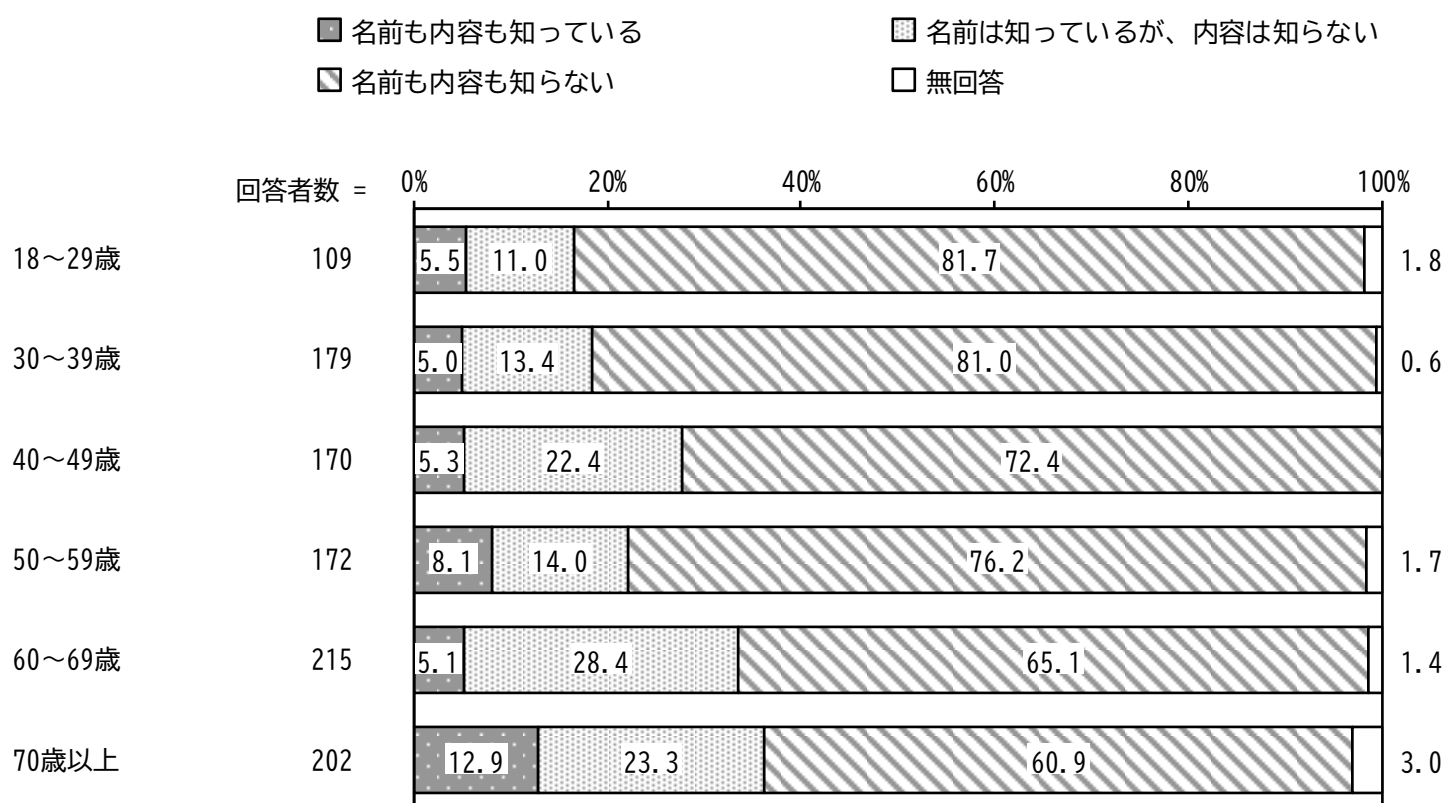
問 47 あなたは、「市民後見人」について知っていますか。(○は1つ)

「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 19.8%、「名前も内容も知らない」の割合が 71.6% となっています。



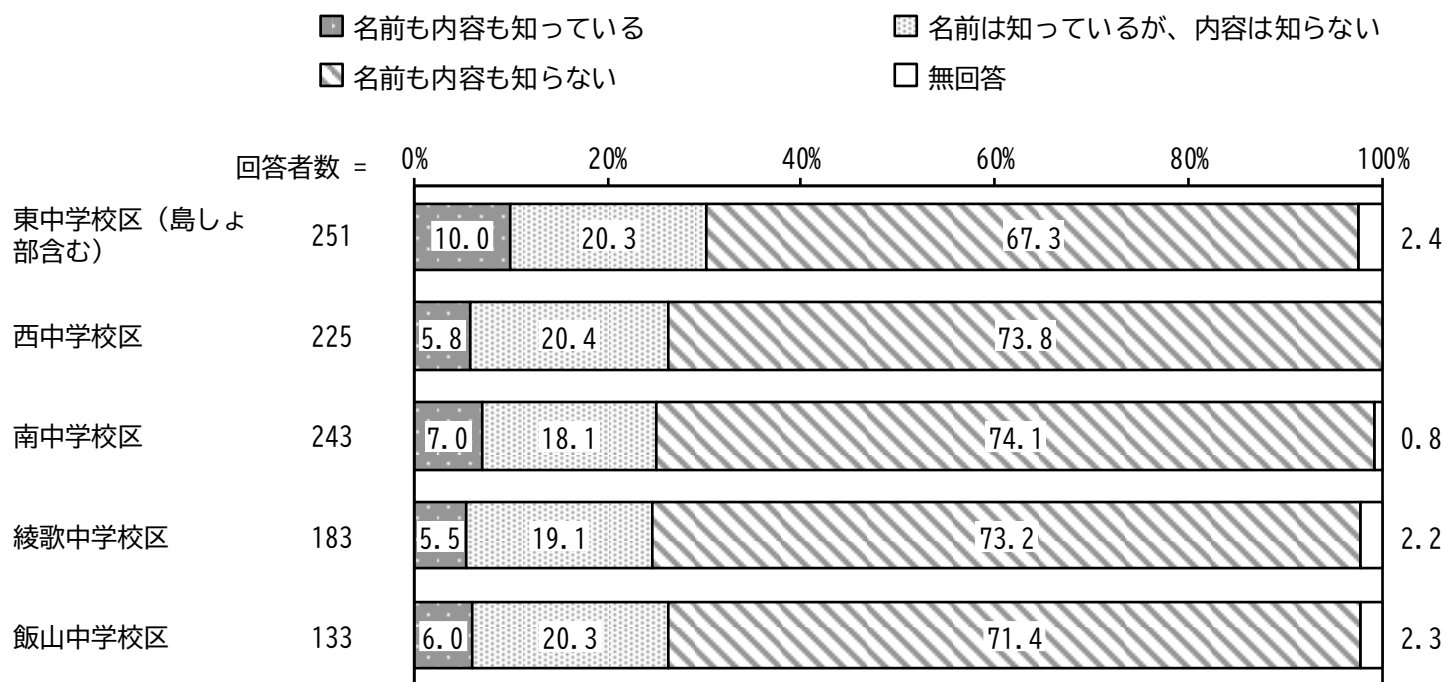
【年齢別】

年齢別にみると、「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 60～69 歳で高く、「名前も内容も知らない」の割合が 18～29 歳、30～39 歳で高くなっています。



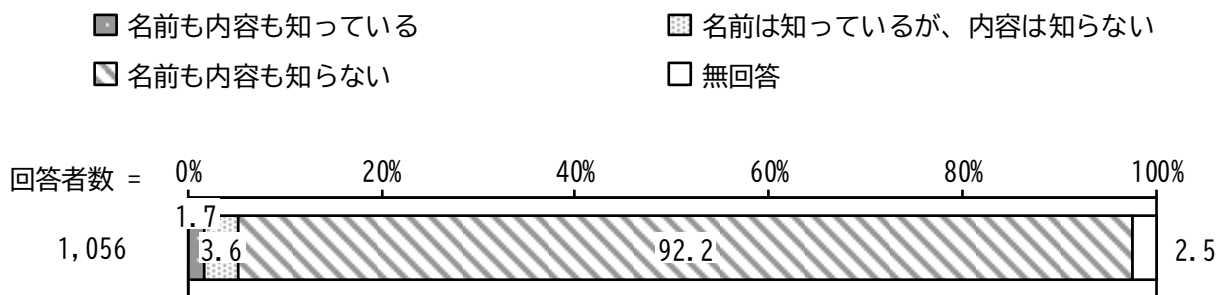
【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。



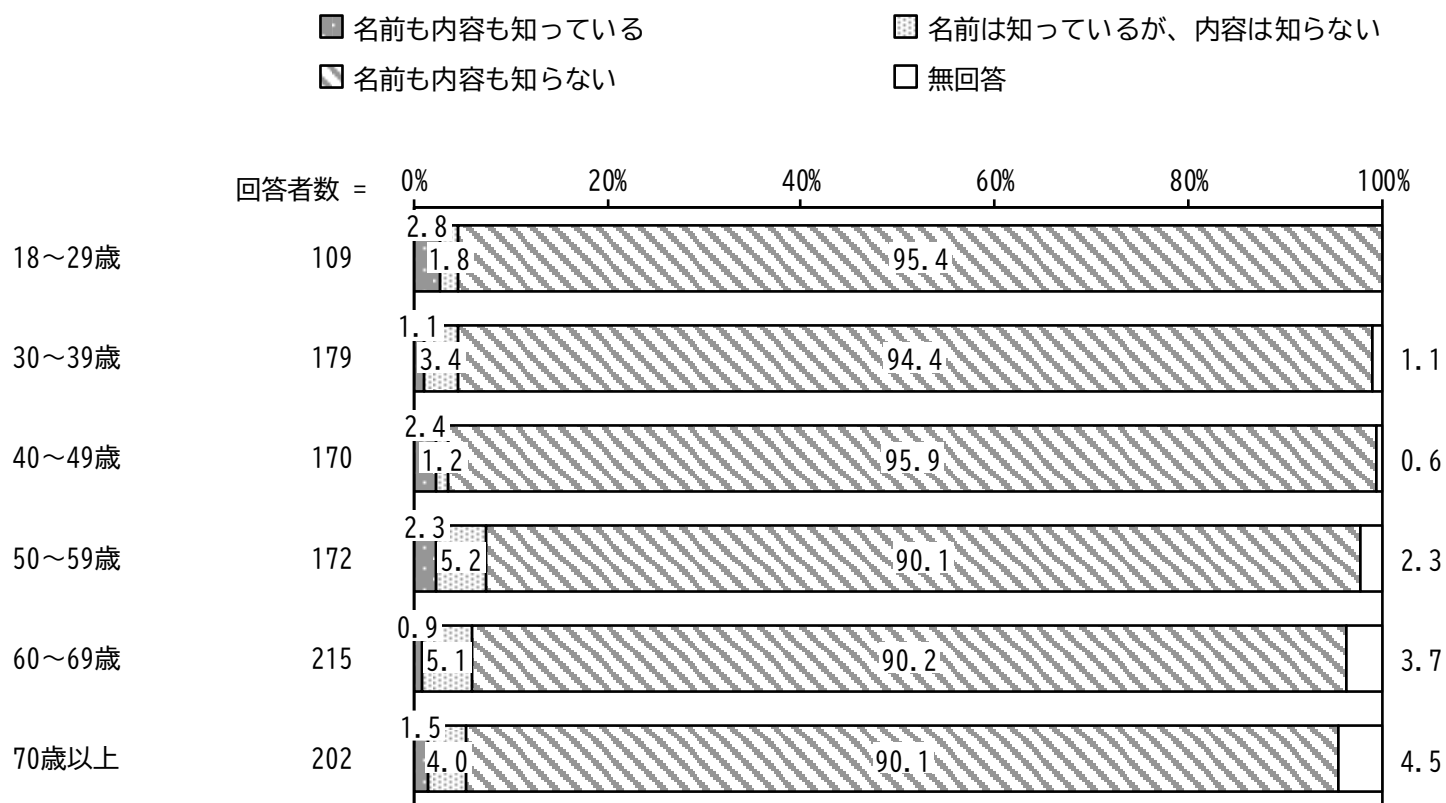
問 48 あなたは、「重層的支援体制整備事業」を知っていますか。（○は1つ）

「名前も内容も知らない」の割合が92.2%となっています。



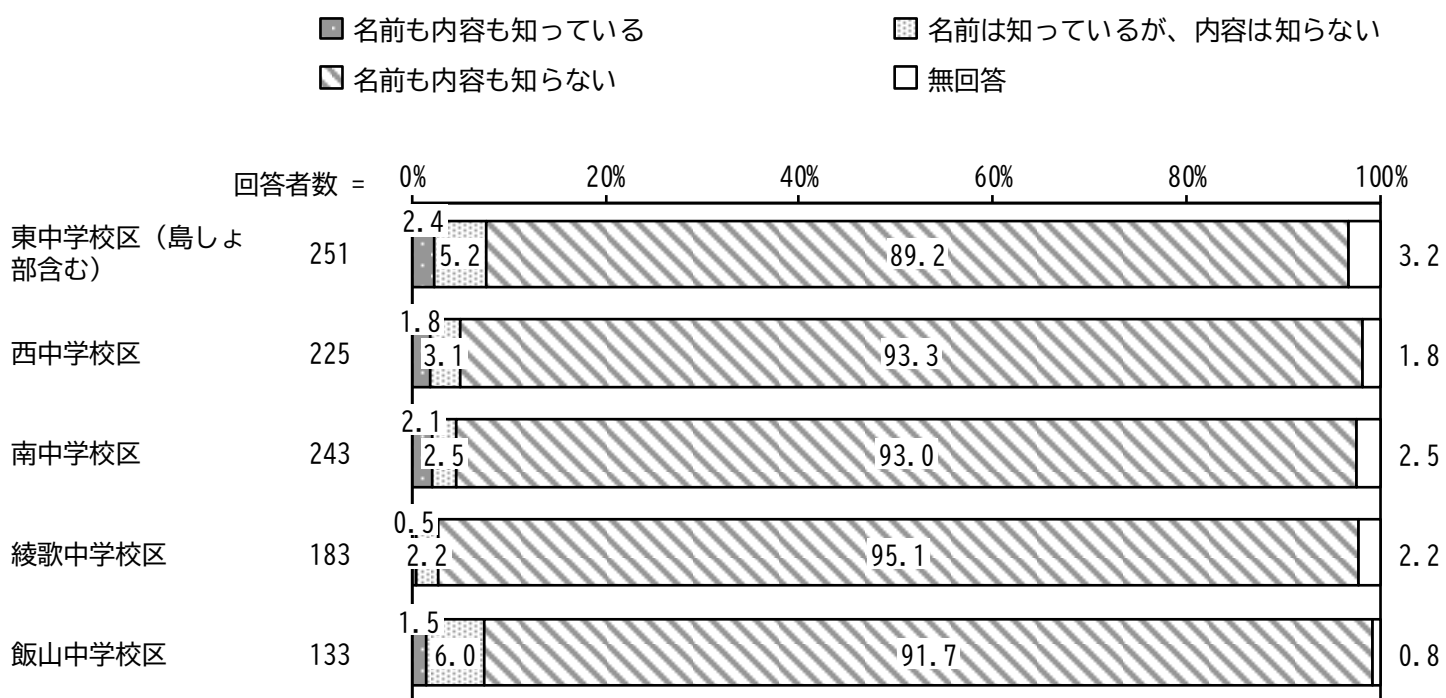
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【地区別】

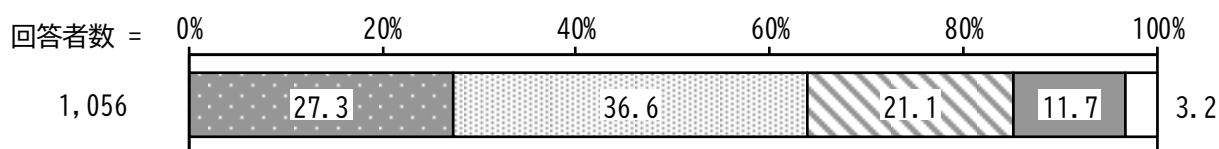
地区別にみると、大きな差はみられません。



問 49 あなたにとって、「ダブルケア」や「8050 問題」、「ヤングケアラー」などの問題は身近な問題だと思いますか。(○は1つ)

「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”の割合が 63.9%、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせた“思わない”の割合が 32.8%となっています。

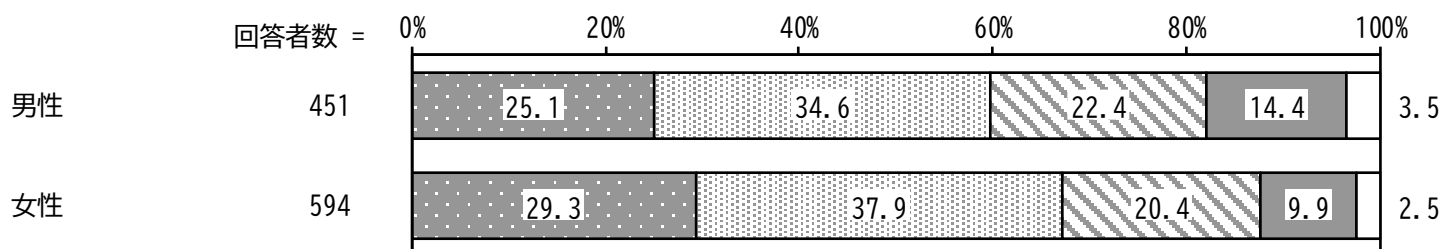
■ 思う ■ どちらかといえば思う ▨ どちらかといえば思わない ■ 思わない □ 無回答



【性別】

性別にみると、“思わない”で男性の割合が高く、“思う”で女性の割合が高くなっています。

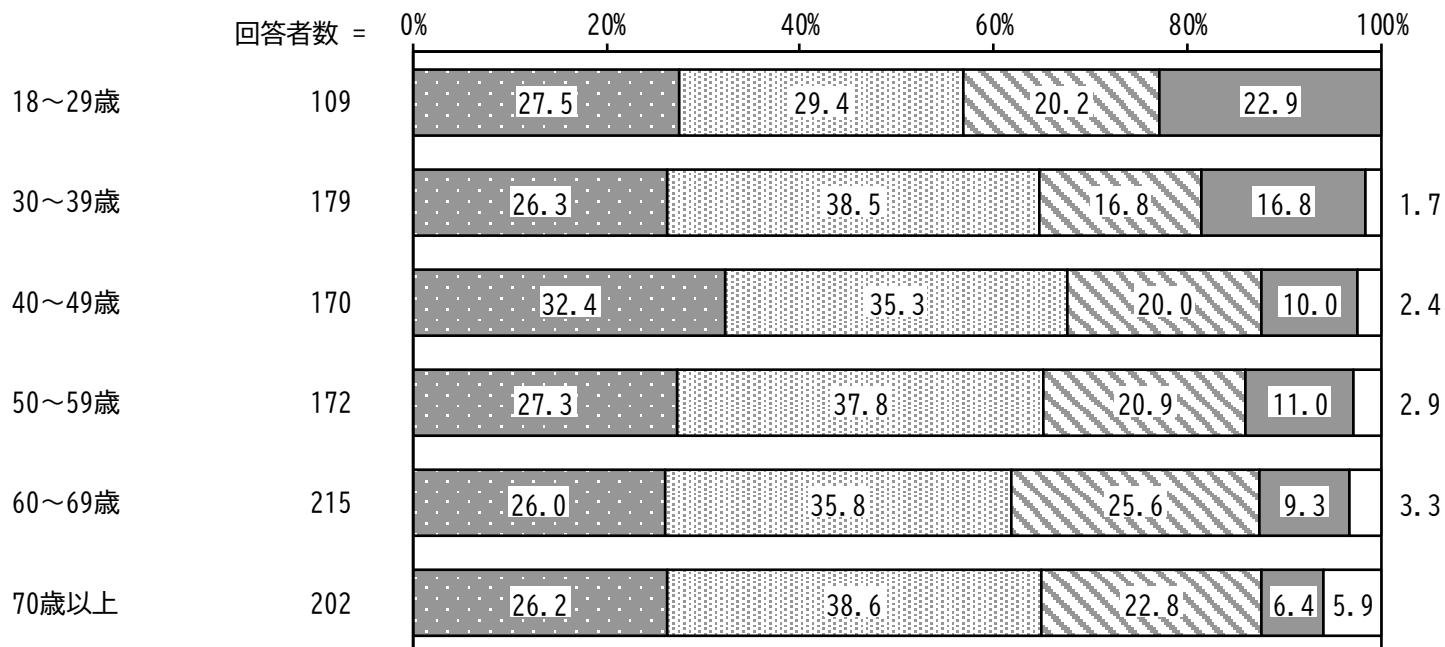
■ 思う ■ どちらかといえば思う ▨ どちらかといえば思わない ■ 思わない □ 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、“思わない”の割合が18～29歳で高くなっています。

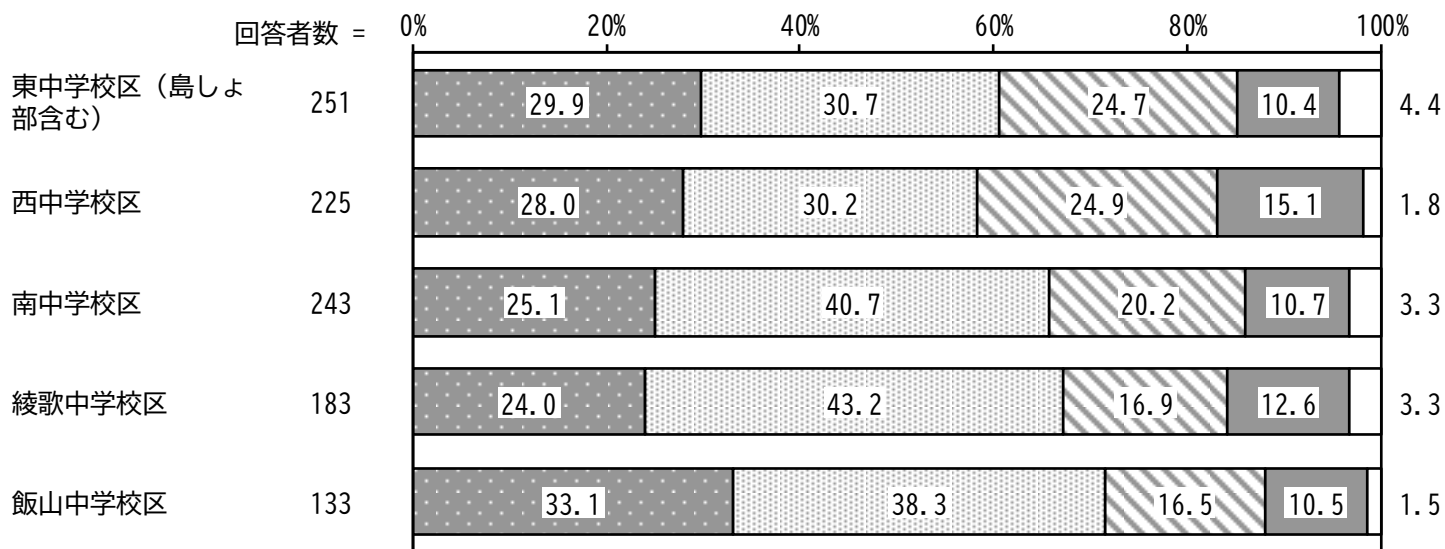
■ 思う ■ どちらかといえば思う ■ どちらかといえば思わない ■ 思わない □ 無回答



【地区別】

地区別にみると、“思う”の割合が飯山中学校区で高く、“思わない”の割合が西中学校区で高くなっています。

■ 思う ■ どちらかといえば思う ■ どちらかといえば思わない ■ 思わない □ 無回答

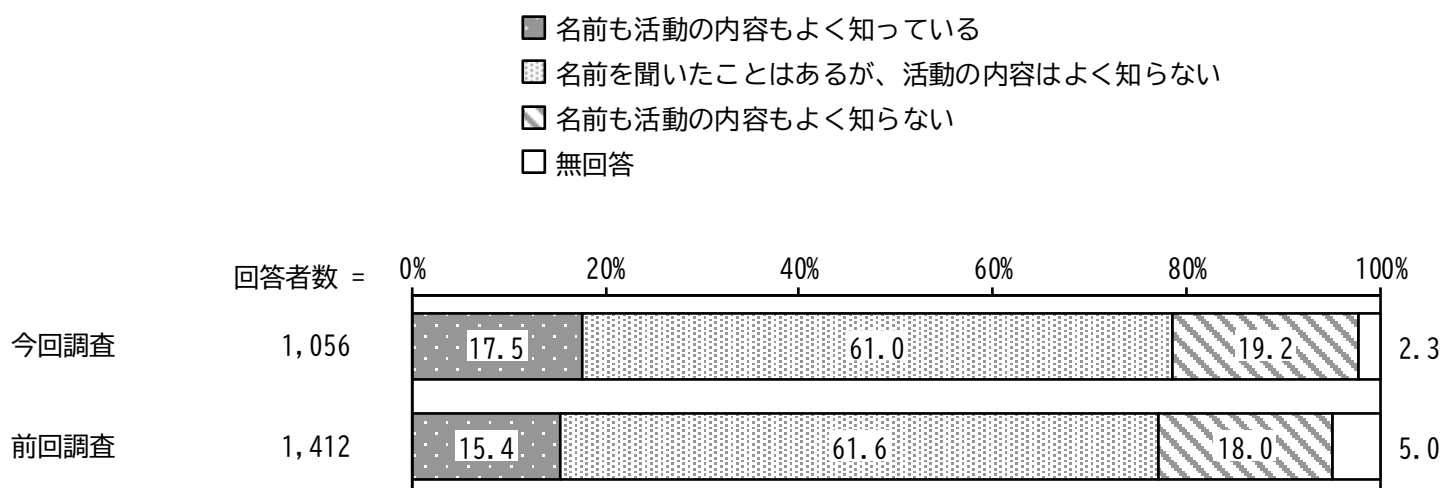


(8) 丸亀市社会福祉協議会について

問 50 あなたは丸亀市社会福祉協議会を知っていますか。(○は1つ)

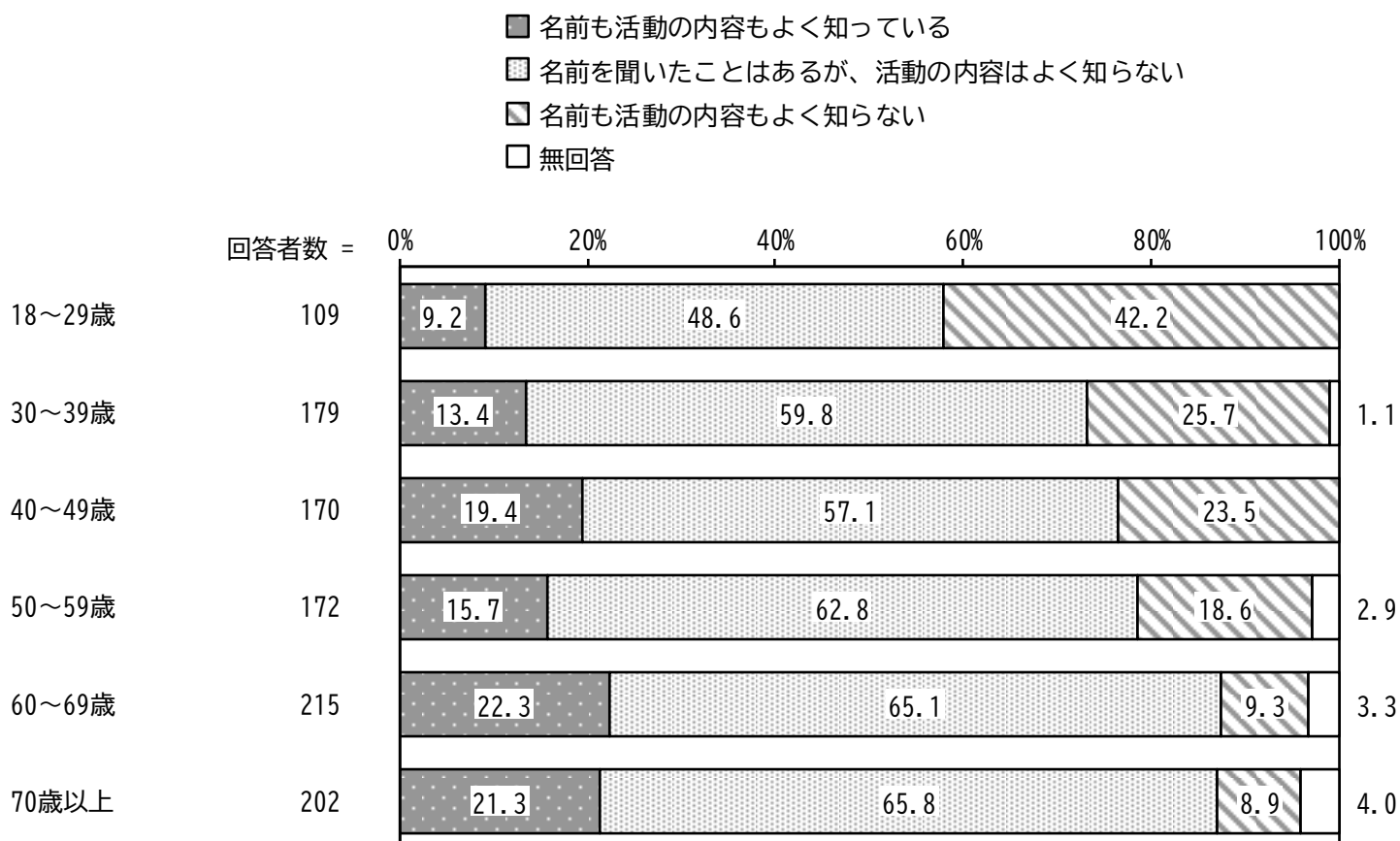
「名前も活動の内容もよく知っている」の割合が 17.5%、「名前を聞いたことはあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が 61.0%、「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が 19.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



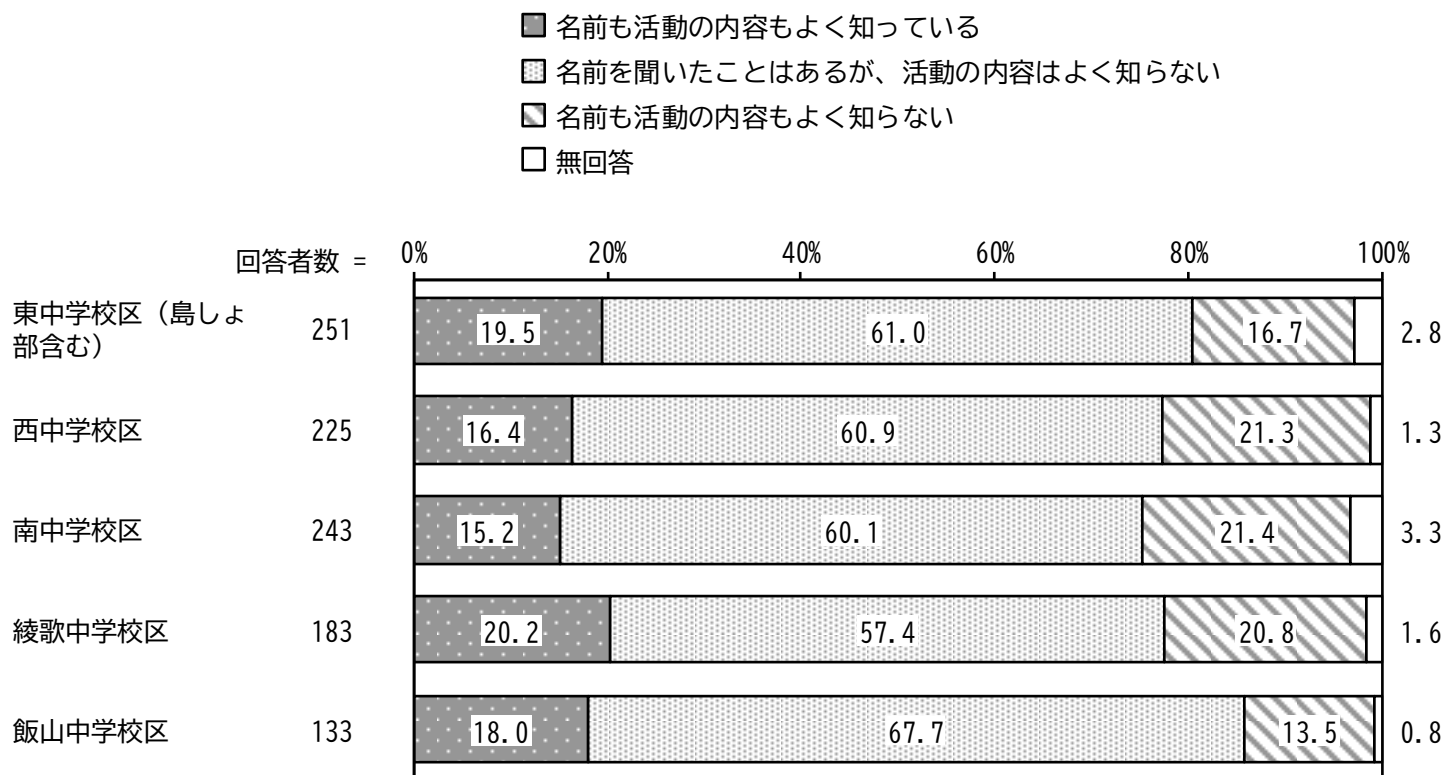
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が高くなる傾向にあります。



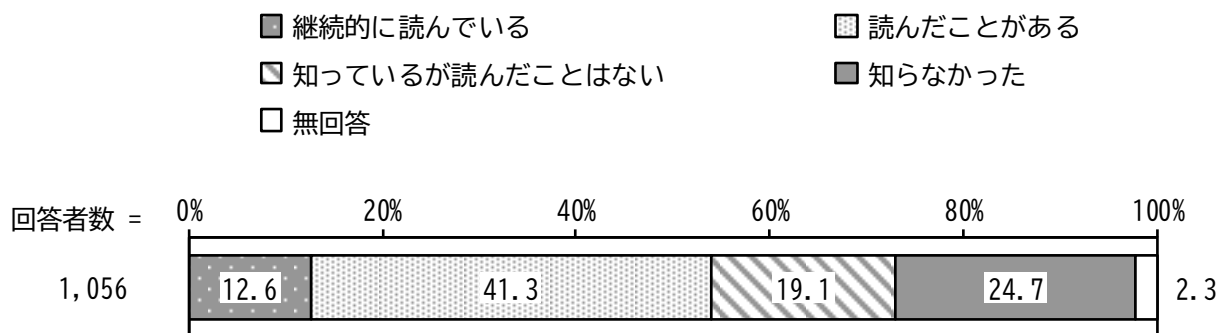
【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。



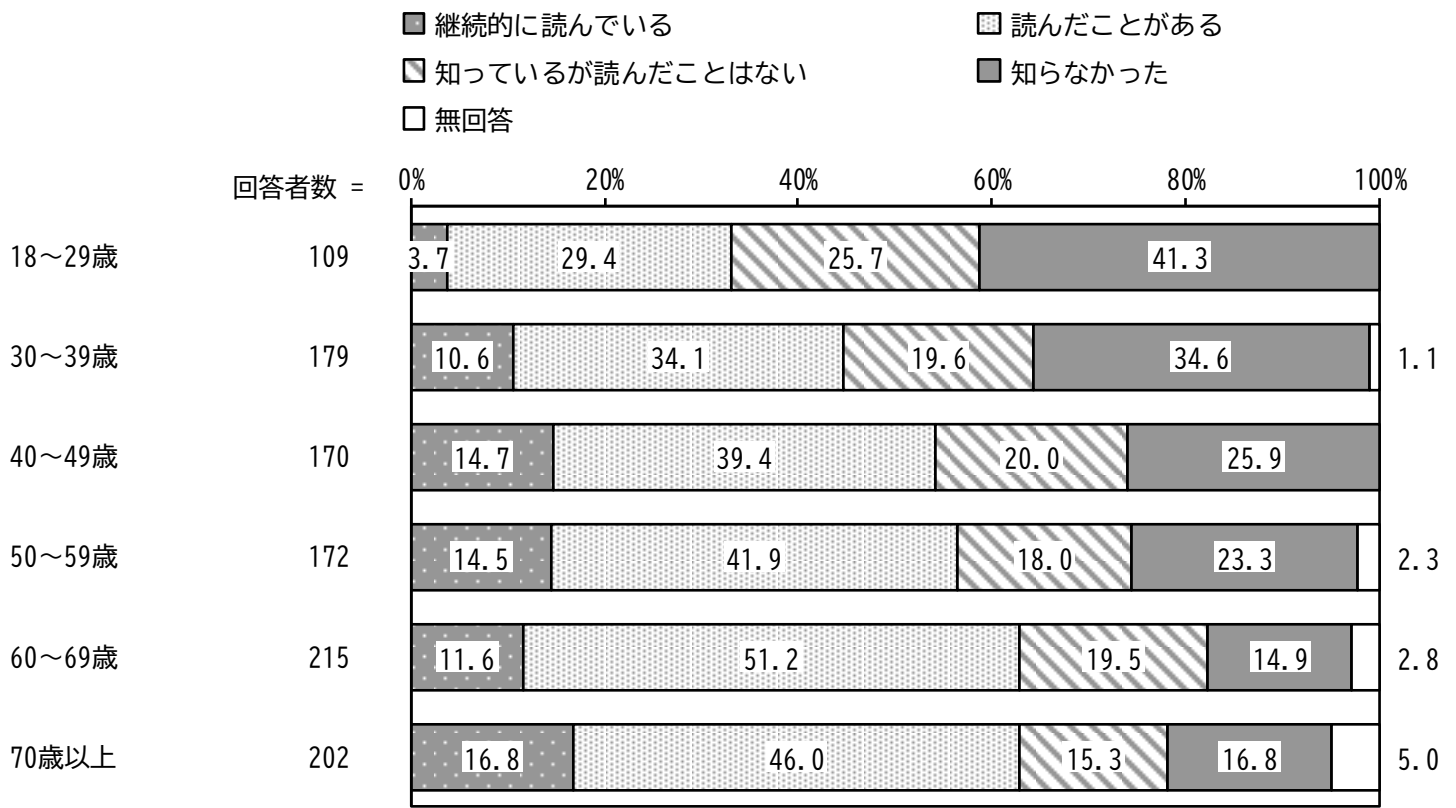
問 51 丸亀市社会福祉協議会では、福祉についての情報提供や福祉への理解を深めていただくために、社協だより『かけはし』を年4回発行しています。読んだことがありますか。（○は1つ）

「読んだことがある」の割合が41.3%と最も高く、次いで「知らなかった」の割合が24.7%、「知っているが読んだことはない」の割合が19.1%となっています。



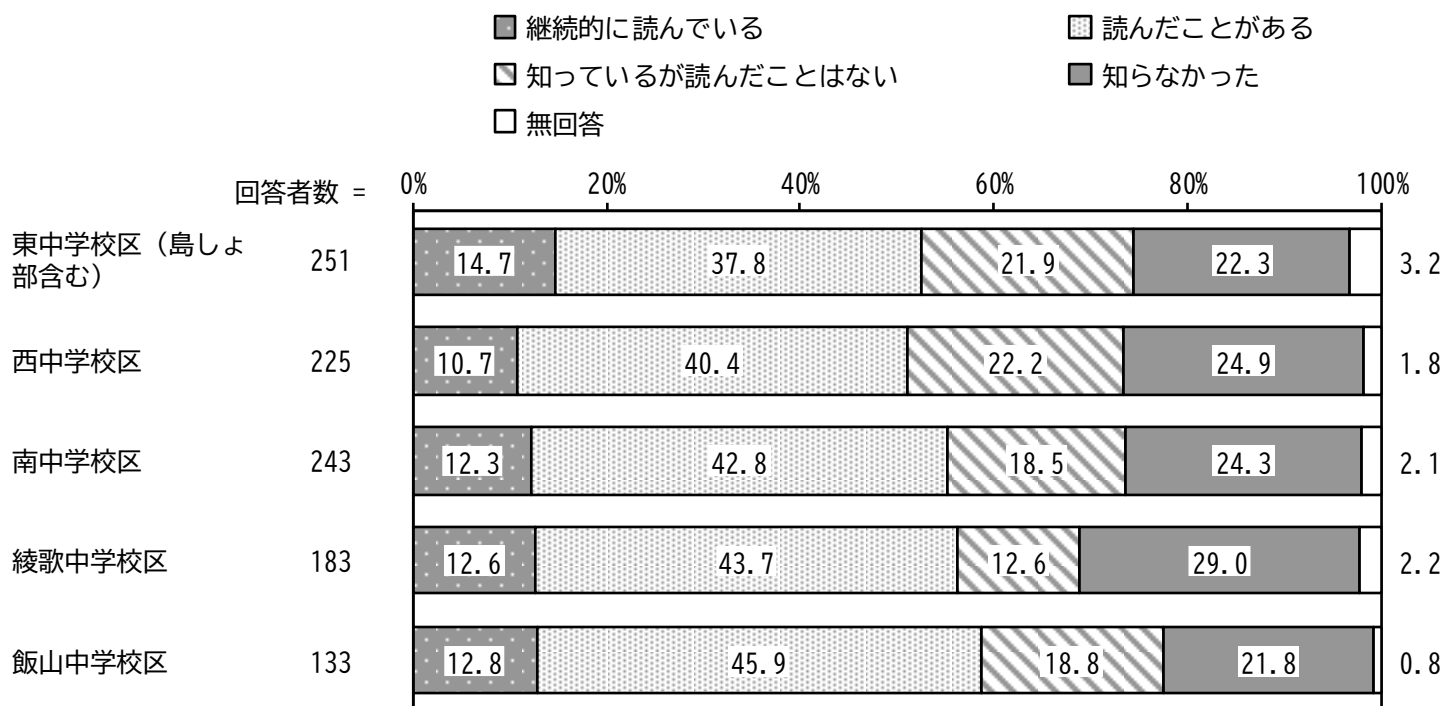
【年齢別】

年齢別にみると、「継続的に読んでいる」の割合が18～29歳で低く、「読んだことがある」の割合が60～69歳で高くなっています。



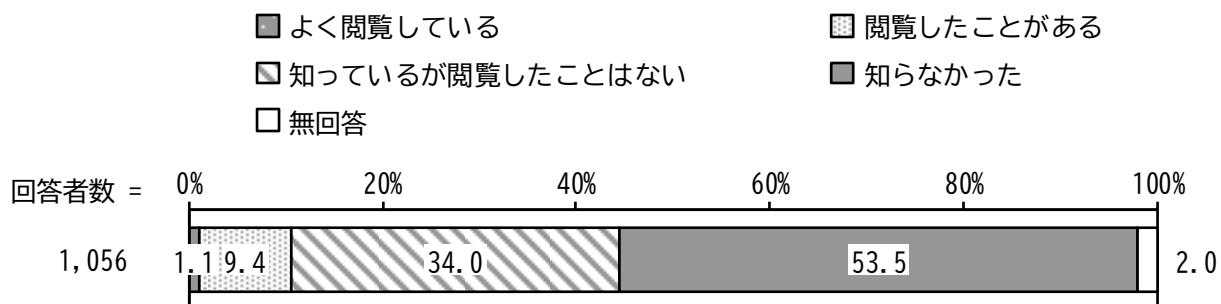
【地区別】

地区別にみると、大きな差はみられません。



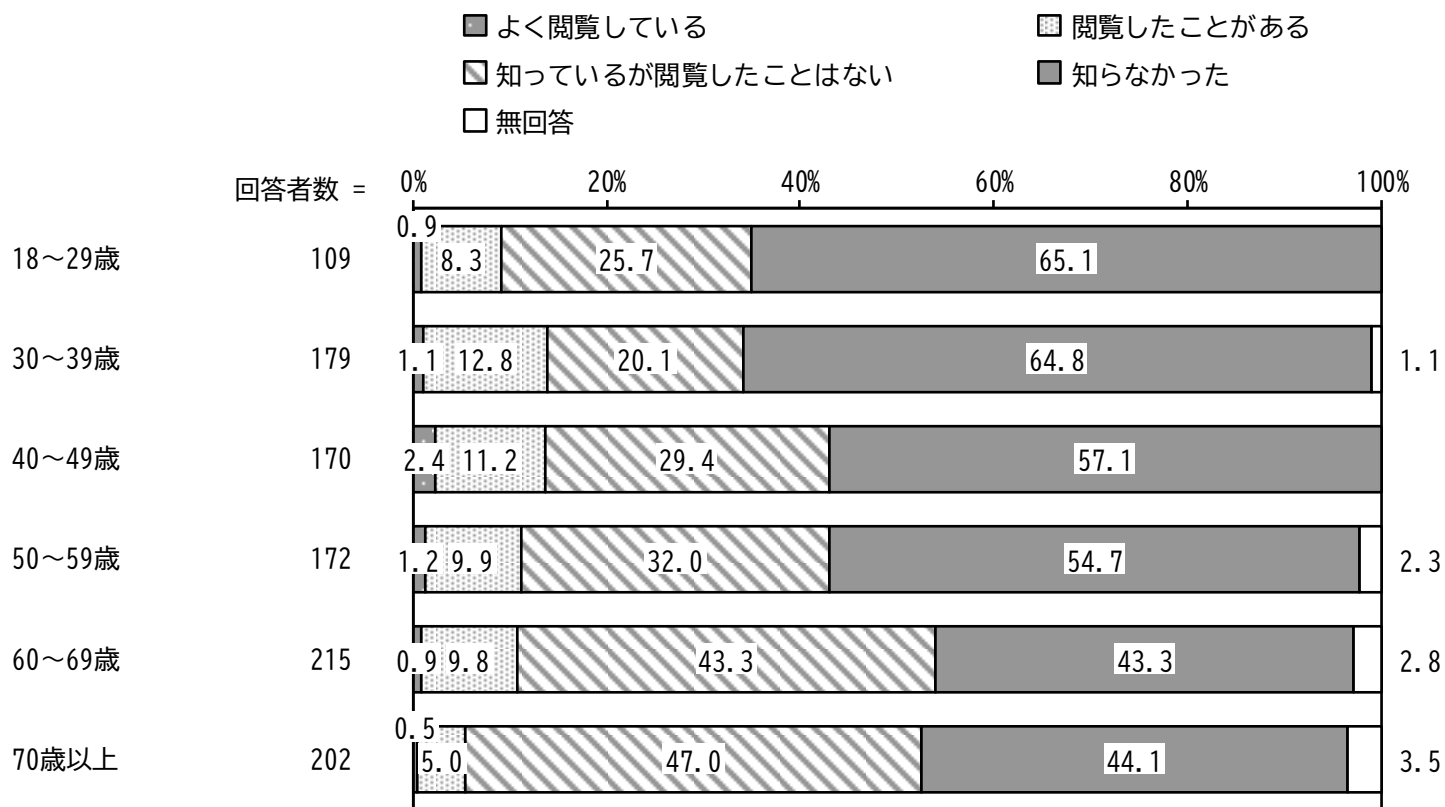
問 52 丸亀市社会福祉協議会では、福祉についての情報提供や福祉への理解を深めていただくために、ホームページやSNSを開設しています。閲覧したことがありますか。（○は1つ）

「知らなかった」の割合が 53.5%と最も高く、次いで「知っているが閲覧したことはない」の割合が 34.0%となっています。



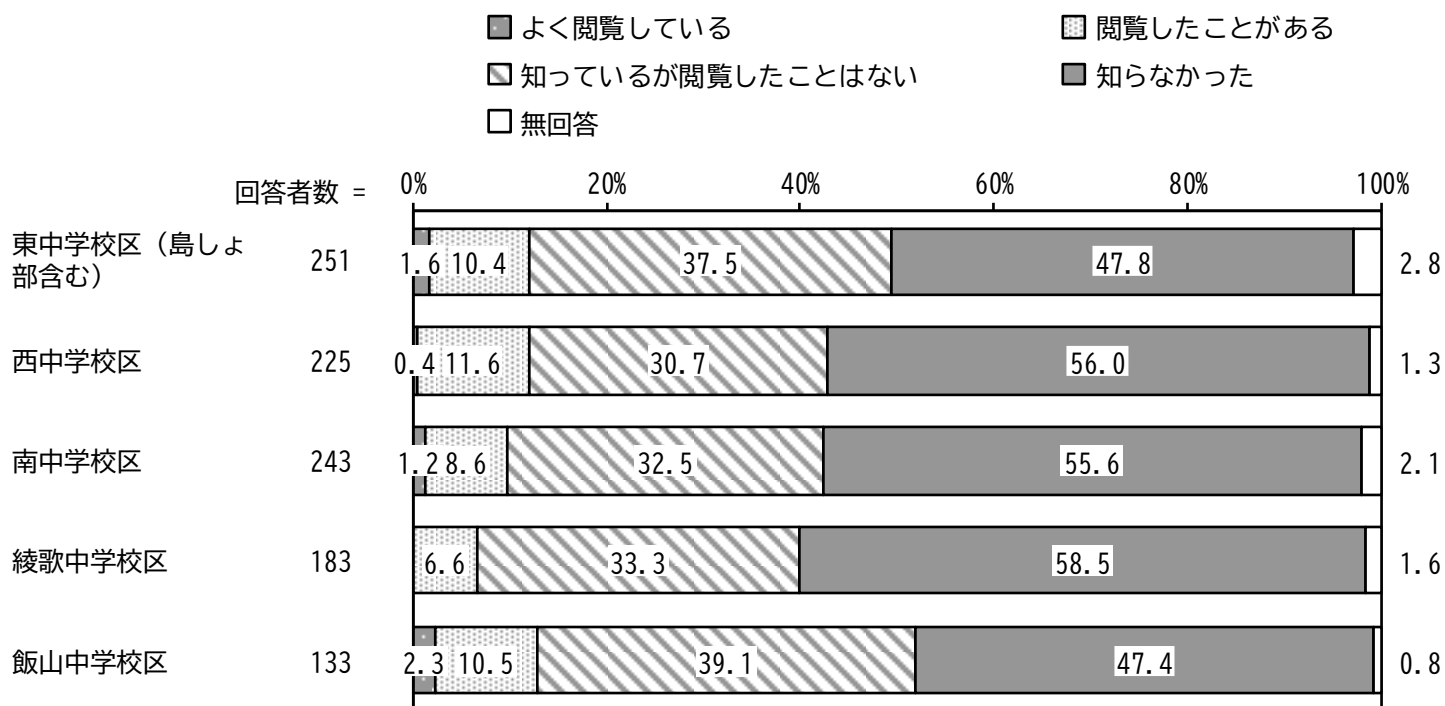
【年齢別】

年齢別にみると、「知っているが閲覧したことはない」の割合が70歳以上で高く、30～39歳で低く、「知らなかった」の割合が18～29歳、30～39歳で高くなっています。



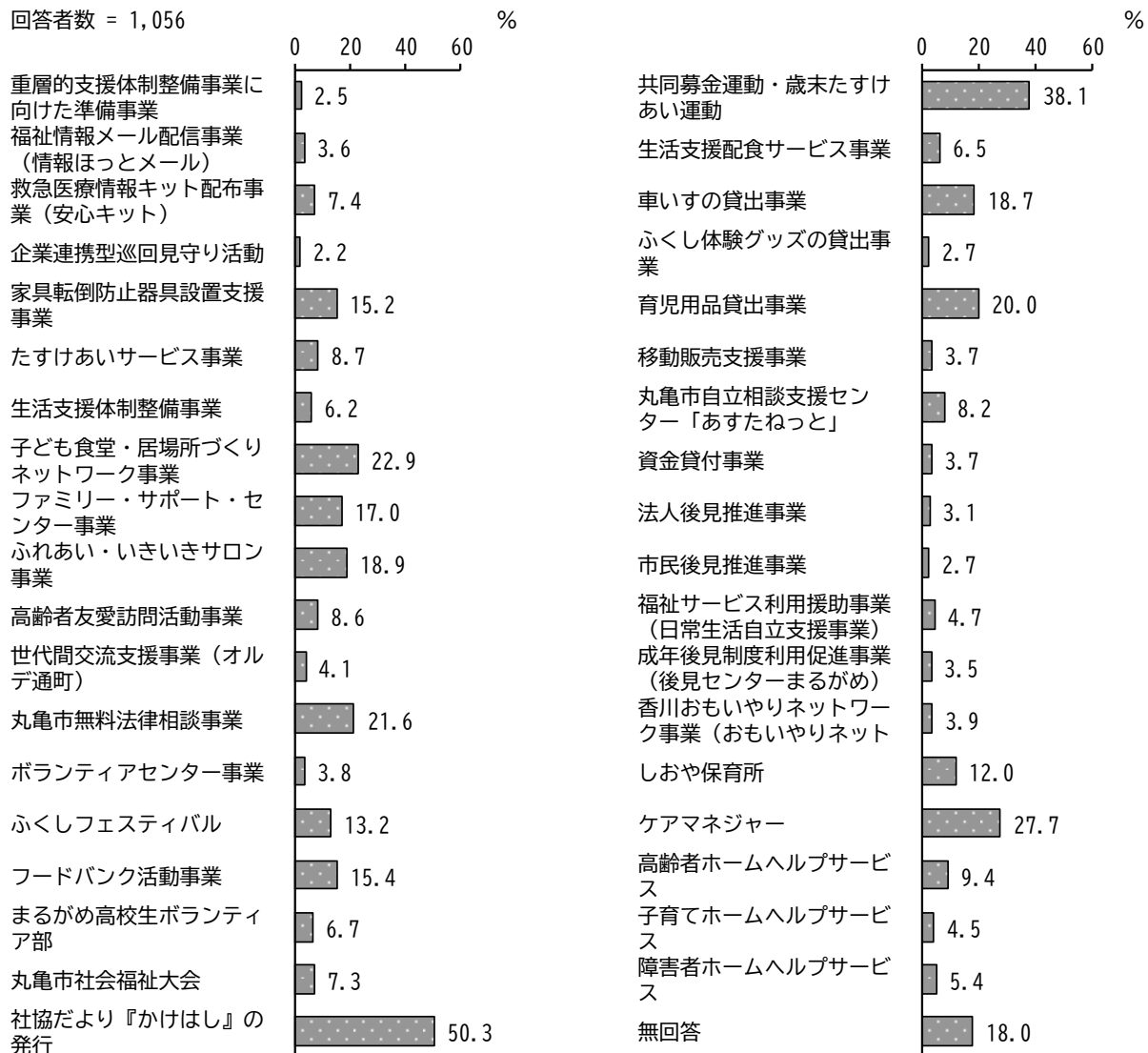
【地区別】

地区別にみると、「知らなかった」の割合が綾歌中学校区で高くなっています。



問 53 丸亀市社会福祉協議会の事業で、あなたが知っているものを選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

「社協だより『かけはし』の発行」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「共同募金運動・歳末たすけあい運動」の割合が 38.1%、「ケアマネジャー」の割合が 27.7%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「ファミリー・サポート・センター事業」、「育児用品貸出事業」の割合が30～39歳で高く、「高齢者友愛訪問活動事業」の割合が70歳以上で高く、「社協だより『かけはし』の発行」の割合が60～69歳で高く、18～29歳で低くなっています。

単位：％

質問項目 年齢	回答者数(件)	重層的支援体制整備事業に向けた準備事業	福祉情報メール配信事業(情報ほつとメール)	救急医療情報キット配布事業(安心キット)	企業連携型巡回見守り活動	家具転倒防止器具設置支援事業	たすけあいサービス事業	生活支援体制整備事業	子ども食堂・居場所づくりネットワーク事業	ファミリー・サポート・センター事業	ふれあい・いきいきサロン事業	高齢者友愛訪問活動事業	世代間交流支援事業(オルデ通町)
全 体	1,056	2.5	3.6	7.4	2.2	15.2	8.7	6.2	22.9	17.0	18.9	8.6	4.1
18～29歳	109	1.8	3.7	1.8	0.9	3.7	6.4	6.4	24.8	12.8	7.3	2.8	1.8
30～39歳	179	1.1	2.2	6.1	0.6	11.7	8.4	4.5	19.6	32.4	12.8	2.8	3.4
40～49歳	170	2.4	4.1	7.1	2.9	11.2	9.4	1.8	22.4	30.0	13.5	2.4	4.1
50～59歳	172	3.5	2.9	4.7	1.2	12.2	9.3	7.0	19.2	14.0	16.3	5.2	5.2
60～69歳	215	3.3	3.3	8.4	3.3	20.0	7.4	5.1	25.1	7.4	26.0	11.6	3.3
70歳以上	202	2.5	5.4	13.4	3.5	25.7	10.9	11.4	26.7	8.4	29.7	21.8	5.9

質問項目 年齢	丸亀市無料法律相談事業	ボランティアセンター事業	ふくしフェスティバル	フードバンク活動事業	まるがめ高校生ボランティア部	丸亀市社会福祉大会	社協だより『かけはし』の発行	共同募金運動・歳末たすけあい運動	生活支援配食サービス事業	車いすの貸出事業	ふくし体験グッズの貸出事業	育児用品貸出事業	移動販売支援事業
全 体	21.6	3.8	13.2	15.4	6.7	7.3	50.3	38.1	6.5	18.7	2.7	20.0	3.7
18～29歳	5.5	0.9	8.3	11.0	11.9	0.9	37.6	9.2	0.9	9.2	0.9	10.1	3.7
30～39歳	14.0	2.8	14.5	17.3	6.1	2.8	41.3	14.0	5.0	12.3	2.2	39.1	2.8
40～49歳	13.5	1.8	14.1	15.9	7.1	3.5	51.8	22.9	2.9	14.7	4.1	23.5	4.1
50～59歳	16.3	4.7	12.8	12.8	9.3	7.0	50.0	37.2	4.1	14.0	2.3	13.4	2.9
60～69歳	34.9	4.2	15.3	16.7	4.7	10.2	60.5	55.3	7.9	24.2	1.9	20.9	2.3
70歳以上	34.7	6.9	12.4	16.3	4.5	15.3	54.0	69.8	14.4	31.7	4.5	10.9	6.4

質問項目 年齢	丸亀市自立相談支援センター「あすたねっと」	資金貸付事業	法人後見推進事業	市民後見推進事業	福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)	成年後見制度利用促進事業(後見センターまるがめ)	香川おもいやりネットワーク事業(おもいやりネットワーク丸亀)	しおや保育所	ケアマネジャー	高齢者ホームヘルプサービス	子育てホームヘルプサービス	障害者ホームヘルプサービス	無回答
全 体	8.2	3.7	3.1	2.7	4.7	3.5	3.9	12.0	27.7	9.4	4.5	5.4	18.0
18～29歳	12.8	2.8	0.9	—	1.8	0.9	2.8	11.0	11.9	1.8	3.7	1.8	23.9
30～39歳	5.0	4.5	1.7	1.7	2.8	2.2	2.8	15.6	20.1	7.8	7.8	3.9	22.9
40～49歳	8.8	2.4	2.4	2.4	2.4	2.9	4.1	9.4	17.6	4.1	4.1	4.1	20.6
50～59歳	7.6	2.3	4.1	2.3	5.2	2.9	3.5	13.4	21.5	5.8	3.5	2.9	23.8
60～69歳	7.9	3.3	3.7	1.9	5.6	2.8	4.7	9.8	41.4	13.0	3.3	7.4	9.8
70歳以上	8.9	5.9	5.0	6.9	8.9	7.9	5.0	12.9	42.1	17.8	4.5	9.9	10.9

【地区別】

地区別にみると、「ふれあい・いきいきサロン事業」の割合が綾歌中学校区で高く、「高齢者友愛訪問活動事業」の割合が東中学校区で高く、「しおや保育所」の割合が西中学校区で高くなっています。

単位：％

質問項目 地区	回答者数（件）	重層的支援体制整備事業に向けた準備事業	福祉情報メール配信事業（情報ほつとメール）	救急医療情報キット配布事業（安心キット）	企業連携型巡回見守り活動	家具転倒防止器具設置支援事業	たすけあいサービス事業	生活支援体制整備事業	子ども食堂・居場所づくりネットワーク事業	ファミリー・サポート・センター事業	ふれあい・いきいきサロン事業	高齢者友愛訪問活動事業	世代間交流支援事業（オルデ通町）
全 体	1,056	2.5	3.6	7.4	2.2	15.2	8.7	6.2	22.9	17.0	18.9	8.6	4.1
東中学校区（島しょ部含む）	251	2.4	4.0	6.8	2.4	17.1	8.0	6.0	26.3	20.7	19.9	15.1	8.8
西中学校区	225	3.1	3.1	6.7	1.3	11.6	8.0	4.9	25.3	23.1	12.0	3.6	5.3
南中学校区	243	2.5	3.3	8.6	1.6	16.5	9.1	8.6	23.0	14.0	15.6	8.2	1.6
綾歌中学校区	183	2.2	2.7	7.1	3.3	15.3	7.1	4.4	16.9	10.4	31.1	8.7	1.1
飯山中学校区	133	0.8	4.5	8.3	2.3	17.3	13.5	5.3	21.8	16.5	19.5	4.5	1.5

質問項目 地区	丸亀市無料法律相談事業	ボランティアセンター事業	ふくしフェスティバル	フードバンク活動事業	まるがめ高校生ボランティア部	丸亀市社会福祉大会	社協だより『かけはし』の発行	共同募金運動・歳末たすけあい運動	生活支援配食サービス事業	車いすの貸出事業	ふくし体験グッズの貸出事業	育児用品貸出事業	移動販売支援事業
全 体	21.6	3.8	13.2	15.4	6.7	7.3	50.3	38.1	6.5	18.7	2.7	20.0	3.7
東中学校区（島しょ部含む）	26.7	4.8	12.4	16.7	6.8	9.6	51.4	38.2	7.6	20.7	3.2	17.5	4.8
西中学校区	18.7	4.9	14.2	16.4	10.2	7.1	52.0	31.6	5.3	20.0	3.6	27.1	4.4
南中学校区	24.3	4.1	10.3	13.6	6.6	5.3	51.9	39.1	5.8	17.7	2.9	19.3	3.7
綾歌中学校区	18.6	1.6	17.5	15.3	4.4	8.7	42.6	41.0	6.6	14.8	1.1	15.3	1.1
飯山中学校区	18.0	3.0	13.5	15.8	5.3	4.5	55.6	42.9	7.5	21.8	2.3	22.6	3.8

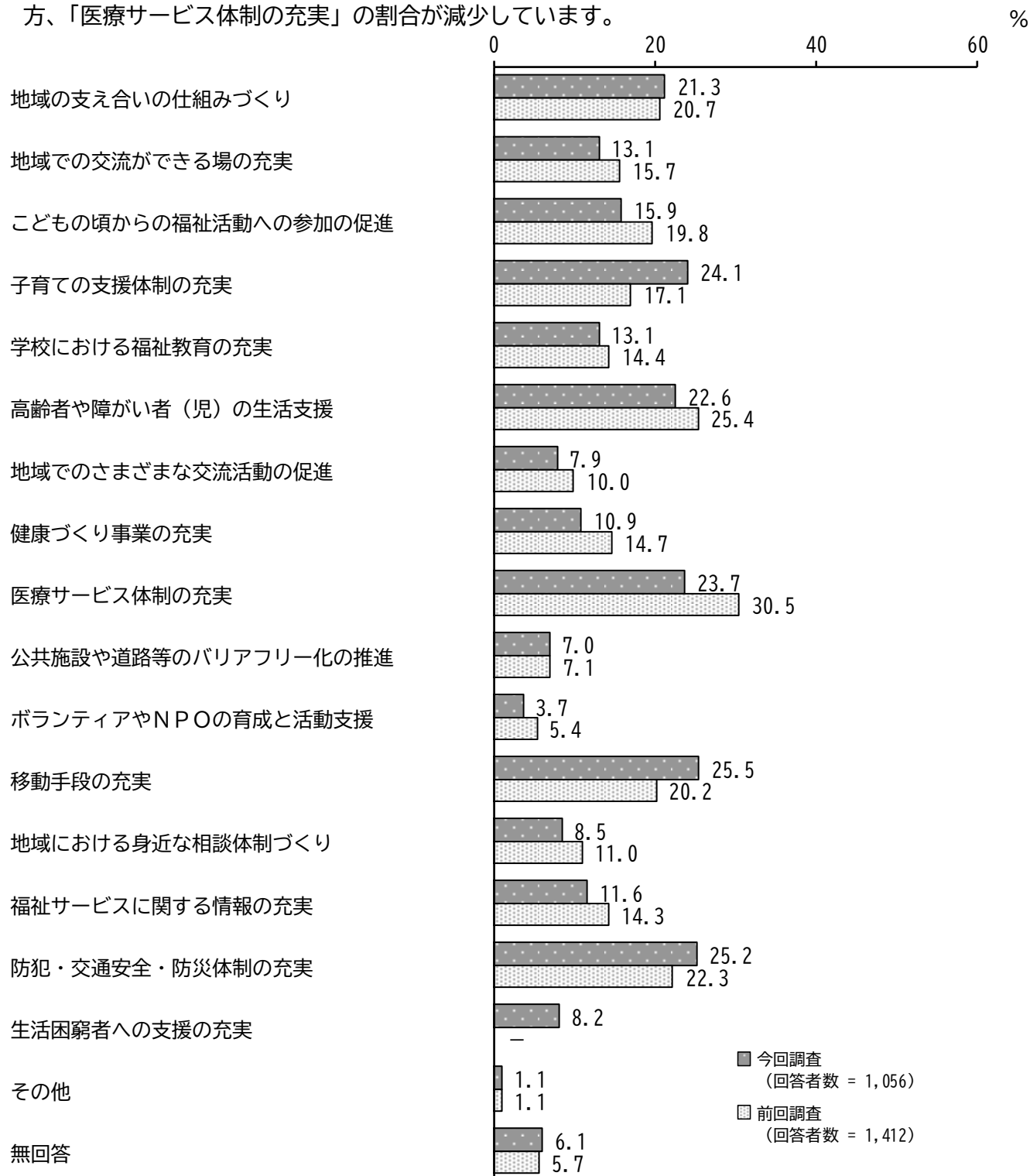
質問項目 地区	丸亀市自立相談支援センター「あすたねつと」	資金貸付事業	法人後見推進事業	市民後見推進事業	福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）	成年後見制度利用促進事業（後見センターまるがめ）	香川おもいやりネットワーク事業（おもいやりネット丸亀）	しおや保育所	ケアマネジャー	高齢者ホームヘルプサービス	子育てホームヘルプサービス	障害者ホームヘルプサービス	無回答
全 体	8.2	3.7	3.1	2.7	4.7	3.5	3.9	12.0	27.7	9.4	4.5	5.4	18.0
東中学校区（島しょ部含む）	9.2	6.0	3.2	4.0	6.8	4.4	4.0	13.5	31.9	12.4	8.8	8.8	17.1
西中学校区	7.1	3.6	2.2	2.7	3.1	1.8	3.6	26.7	24.4	4.9	3.1	4.9	19.1
南中学校区	9.1	3.3	4.1	2.9	5.3	4.1	4.1	7.8	28.4	9.1	4.5	4.9	17.3
綾歌中学校区	6.6	2.2	3.3	1.6	3.8	1.6	3.3	2.7	26.2	11.5	1.6	3.3	19.7
飯山中学校区	9.8	1.5	2.3	2.3	3.8	6.0	5.3	6.0	27.1	8.3	3.0	3.0	12.8

(9) 丸亀市の地域福祉について

問 54 今後、地域福祉を進めるために丸亀市はどのような施策に優先して取り組んでいくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「移動手段の充実」の割合が 25.5%と最も高く、次いで「防犯・交通安全・防災体制の充実」の割合が 25.2%、「子育ての支援体制の充実」の割合が 24.1%となっています。

前回調査と比較すると、「子育ての支援体制の充実」「移動手段の充実」の割合が増加しています。一方、「医療サービス体制の充実」の割合が減少しています。



※前回調査では、「こどもの頃からの福祉活動への参加の促進」が「子どもの頃からの福祉活動への参加の促進」となっており、「生活困窮者への支援の充実」がありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「地域の支え合いの仕組みづくり」の割合が30～39歳で低く、「学校における福祉教育の充実」の割合が60～69歳で低く、「移動手段の充実」の割合が18～29歳で高く、「福祉サービスに関する情報の充実」の割合が70歳以上で高くなっています。

単位：％

年齢	質問項目	回答者数(件)	地域の支え合いの仕組みづくり	地域での交流ができる場の充実	こどもの頃から福祉活動への参加の促進	子育ての支援体制の充実	学校における福祉教育の充実	高齢者や障がい者(児)の生活支援	地域でのさまざまな交流活動の促進	健康づくり事業の充実	医療サービス体制の充実
全 体		1,056	21.3	13.1	15.9	24.1	13.1	22.6	7.9	10.9	23.7
18～29歳		109	21.1	10.1	15.6	34.9	16.5	13.8	7.3	8.3	22.9
30～39歳		179	13.4	14.5	20.1	51.4	19.0	12.8	6.7	7.3	20.7
40～49歳		170	24.7	14.1	17.1	29.4	14.1	18.2	4.7	6.5	20.6
50～59歳		172	22.1	11.6	15.7	11.0	12.8	25.6	8.1	15.1	25.6
60～69歳		215	21.4	12.1	15.8	18.6	7.0	30.7	7.9	12.1	27.9
70歳以上		202	24.3	14.9	12.4	6.9	11.9	28.2	11.9	13.4	22.8

年齢	質問項目	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支	のの公の支
全 体		7.0	3.7	25.5	8.5	11.6	25.2	8.2	1.1	6.1
18～29歳		9.2	2.8	33.0	5.5	5.5	25.7	6.4	1.8	3.7
30～39歳		5.6	3.9	26.3	3.9	6.1	29.1	5.0	1.7	2.8
40～49歳		5.9	4.1	22.4	5.9	10.0	29.4	8.2	1.2	9.4
50～59歳		5.8	3.5	28.5	12.8	9.9	22.1	7.6	1.7	5.8
60～69歳		12.1	4.2	23.7	12.1	16.3	23.3	10.7	0.5	3.7
70歳以上		3.5	3.0	22.8	9.4	18.3	22.3	9.9	0.5	10.4

【地区別】

地区別にみると、「福祉サービスに関する情報の充実」の割合が東中学校区で高く、「防犯・交通安全・防災体制の充実」の割合が綾歌中学校区で低くなっています。

単位：％

地区	質問項目	回答者数 (件)	地域の 仕組 みづく り	地域 での交 流がで きる場 の充実	こども の頃か ら福祉 活動へ の参加 の促進	子育て の支援 体制の 充実	学校に おける 福祉教 育の充 実	高齢者 や障が い者(児)の生 活支援	地域で のさま ざまな 交流活 動の促 進	健康 づくり 事業の 充実	医療サ ービス 体制の 充実
全 体		1,056	21.3	13.1	15.9	24.1	13.1	22.6	7.9	10.9	23.7
東中学校区（島しょ部含む）		251	18.3	12.4	19.5	22.7	10.8	19.1	9.6	9.2	22.3
西中学校区		225	24.9	13.8	15.1	28.9	13.8	26.2	8.4	8.9	25.3
南中学校区		243	22.6	13.6	14.4	23.9	14.8	23.0	5.8	9.9	27.2
綾歌中学校区		183	20.8	12.6	16.4	20.8	14.8	23.0	5.5	14.2	21.9
飯山中学校区		133	19.5	10.5	14.3	25.6	11.3	22.6	11.3	13.5	18.8

地区	質問項目	公共施設 の推進	ボランティア の育成と活動 支援	移動手段 の充実	地域にお ける身近 な相談体 制づくり	福祉サー ビスに関 する情報 の充実	防犯・交 通安全・ 防災体制 の充実	生活困窮 者への支 援の充実	その他	無回答
全 体		7.0	3.7	25.5	8.5	11.6	25.2	8.2	1.1	6.1
東中学校区（島しょ部含む）		5.2	4.0	21.1	11.6	16.7	30.3	10.4	1.2	7.2
西中学校区		7.6	4.9	24.0	8.0	9.3	27.1	8.0	1.3	3.1
南中学校区		4.9	2.5	30.0	4.9	9.1	27.2	7.4	0.8	5.3
綾歌中学校区		9.3	4.9	23.0	11.5	14.8	14.8	9.3	1.6	6.0
飯山中学校区		9.0	1.5	29.3	7.5	7.5	21.8	4.5	0.8	10.5

問 55 「地域のつながりや支え合い」を高めていくためのご意見やご提案等がありましたらご記入ください。(自由回答)

「自由回答」では、お寄せいただいた市民の皆様の文章を原則そのまま掲載していますが、個人が特定されるもの、明らかに誤字・脱字と考えられる箇所等については、修正を加えています。

回答（カテゴリー化）	件数		
	18～39 歳	40～64 歳	65 歳～
地域福祉に関する意識について	3	1	6
日常生活について	5	3	4
隣近所との関わりについて	1	4	4
地域活動やボランティア活動について	13	16	14
災害時に関することについて	1	1	1
福祉制度や福祉事業について	5	4	7
丸亀市社会福祉協議会について	1	1	0
丸亀市の地域福祉について	1	0	1
アンケートについて	1	0	0
その他	8	4	8

■地域福祉に関する意識について
18～39 歳
市政がどれだけ地域福祉に力を入れても、市民が関心、興味を持てるようにしなければ、市民にとっては「市政が勝手にやってること」と思われる状況は変わらないと考える。そうなれば地域福祉は理想的な方向に進まないと考える。
ほっと一息つきながら無料でお茶をのめるようなスペースを作ったり、地域福祉に関する仕事の給料のアップをするとそれに就いている人の人材の確保につながると思う。
社会福祉協力員、民生委員などのなり手がいない。引き受けても、次にひきつぐ人がいない。引き受けられずとやらないといけなくなるのがこわい。高齢化により、ボランティアでこのような事をするのは難しくなっています。それでもボランティアでやっていった方がいいと市はお考えですか。市の職員で、お願いしたいです。
40～64 歳
「地域のつながりや支え合い」を最も破壊してきたのは行政職員の権力への忖度だったと指摘したい。利益を追求し、住民の利害対立を煽る行為は公共工事などで多々あったと思う。令和元年に複数の高齢者が所在不明となった団地があった。担当の民生委員の所在確認に協力していた人は精神病院に入院させられた。令和3年4月末に、少なくとも1名は未だ所在不明であることを地域包括センターで確認している。その後同センターからの連絡も無い。警察も精神病の妄想として話を聞かない。市民の偏見を利用し、さらに助長して「地域のつながりや支え合い」を断ち切るこの悪辣な行為に福祉部職員も加担している。速やかに現状の忖度体質について反省し、市民に見える形で改善を示す行動を取るよう提案したい。
65 歳～
最近では自治会脱退者が増加しています。新しく転入してきた方は全く知りません。30 年前、20 年前、10 年前・・・どんどんつながりがなくなっています。高齢者ばかりが地域活動をしている現状がもっと進行していけば、地域福祉も困ると思います。
・地域でのコミュニケーションができていない。色んな行事を行い、参加者にはクオカード、図書カードなどを配り参加させることが重要。

・近所で亡くなった人がいても、分からない。個人情報管理は重要だが、近隣の助け合いを求めるには不適當。 ・自助、共助、公助と言われるが、50 年前の日本とは異なる。3 世代同居世帯は少ない。つまり公助が一番で、公助の一番に行くことは共助の育成。近隣の人の遊び場所の提供、簡単行事と参加者の金銭的な報酬。
高齢者二人だけの生活です。今のところ健康にも恵まれ、近所の人間関係もよく静かに過ごしています。恵まれた生活をしていると思います。地域福祉を進めるためにどのような施策に・・・???これから先必要になった時はお願いすることがあると思います。宜しくお願いします。
地域福祉に参加してこなかった事が自分にとって問題だと思っています。自然な形で参加出来る様な施策があればいいと思います。
もっと公園を作って欲しい。宇多津は中心部にもかかわらずたくさんあり、子育て中の方が利用してる。
地域福祉活動は難しく、行政で力を入れてほしい。
年齢区分なし
部落問題は金額面で大きいので、自治会へのイメージが悪いと思います。差別されているので、なかなか難しいと考えています。税金を払っているのにサービスができるように予算を考えて欲しいです。飯野町西分はゴミ1つすてれません。行政と自治会のテーマだと思います。
■日常生活について
18～39 歳
物騒な事件が多い今の世の中で、地域のつながりを作っていく為の信頼関係を築くのが、とても難しいように思います。まずは国が治安を良くする取り組みをすべきではないかと思います。例えば、外国人労働者の管理や、外国人移住者や在日居住者が日本の法律やルールのもとで暮らすよう、しっかりとした対応が必要なのではないか。また、闇バイトが増える一方、参加する人間がなぜ出るのかを考えることも必要ではないか。ネットワークを使った犯罪も多い中、それに精通したプロフェッショナルな人材が国の中枢期間にどれだけいるのかは、一般市民からすると疑わしいところである。毎日のように暗い事件が多い今の世の中で、つながり合い支え合う地域を目指すのはとても難しいと思います。
・道路族の取締まりをお願いしたい。 ・小学生（高学年）の子がいるから、1～2年生の子がいる親がその子任せで、保護者なしで子どもだけで道路で遊んでいる。非常に危ない。丸亀市今津町4番地付近。
何をしてほしいとか具体的には分かりませんが、家計が大変だったり、子育てをしていく上で将来のお金への不安など悩んでいるので、少しでも安心できる暮らしをしたい。
地域で子どもが安心して集まれる場所や公園がない。ゲームや家の中で遊ぶことが中心になっている。外に出て活動することが出来る場所が地区ごとに必要と思う。特に小学生は校区外へ行けないことで遊ぶ場所に困っていると思う。体力や集中力、友人関係など外での活動は様々なことにつながり影響があると思う。ゲームやSNSスマホなどに依存しやすい環境になっていると思う。
自治会に入っていない人にもゴミをだせるようにしてください。おねがいします。
40～64 歳
近所にバイクを隠してまで乗っている少年に、日々悩まされています。きっと何らかの事情でおおっぴらに暴走できないのですが、夜に行政の人間が来ない時間には暴走しています。高齢者の多い住宅街でそのような子ども、シングルマザーがおかしな行動をとり、迷惑極まりない。このような少年問題はしっかり行政が正していくべき！
自治会に入らないとゴミ（特に資源ゴミ）がすてられないのがつらい。
近所の野焼きがすごいので、野焼きをする日にち、時間を定めてほしい。地域のつながりどころではない。
65 歳～
丸亀市のコミュニティバスについて困っている事があります。バスが停まる所が考えられていない事である。歩道と車道の境界のコンクリートが切られてなく、バスとコンクリートの間に降り、車道でバスの行くのをすれすれで待って、車道を歩いて切れている所で歩道に行きます。こんなバス停がいくつもあり、こわい思いがしてたまりません。バスの会社に委託してあるからと言ってそのままです。何回もいままでもお願いしてきましたがそのままです。ぜひ、コンクリートの切れた所、安全な所にバス停をつくって下さい。けがをする人がでできます。よろしくお願いします。

誰もがいつでも気軽に交流できる自然にめぐまれた心地よい場、環境の整備と充実が必要だと思う。(コミュニティ開催や公園、散歩道など) 飯野山の登山道やアスレチック後の整備で子どもや大人が心地よく楽しめるようにする。池の周りも散策が楽しめるようにして、健康づくりに役に立てるなど、ふれあえる機会を作る。今ある自然を生かせるよう整備する。
目の前に困っている人がいたら声を掛ける様にはしています。小さい範囲の中ですが、ゴミ出しの場所に気をつけたり出来ることは、してるし続けたいと思う。一日一善の精神で生活したい。個人的ですが。
一人暮らしの高齢者は、日頃の買物や病院通いに困っています。まわりの他人や福祉関係者の手を借りる事をさけたいと思っています。自分も今は元気に生活できていますが何年か先はわかりません。常に不安がつきまっています。その時が来たら老人ホームに行く事になります。
■隣近所との関わりについて
18～39 歳
道路で子どもが大声、奇声をあげて遊んでいるので騒音や事故の危険(とび出してくるので)の問題がある。それに、他人の敷地にボールが飛んで行くと無断で入る等、親と一緒にいても平気でしている。自分の家の敷地内だからといっても、隣近所に家があるのだから周りの迷惑等考えて気を付けて生活するべきだと思う。こういった事を何らかの形で注意喚起して頂きたい。「子どもだから仕方ない」「ちょっとくらい」等周りの事よりも自分達の方が優先されて当然と思っているような親が多い様に思う。もちろん、そうでない親御さんもいるし、子どもだから…と思う部分はあるけど、だからと言って大柄な態度で自分達の好き勝手にやるのは違うと思う。困った時は助け合いやお互い様と言うが、普段からそんな態度をとられていて、支え合いたい、助け合いたいという気持ちは正直持てないです。
40～64 歳
よく自治会加入を求められるが、全然知らない土地に家を建てて、急に入ってほしいと言われても誰かも分からない、何をしているのかも分からないということがあり、加入拒否したことがある。それだったらまず隣近所とかで小さな自治会を作って顔見知りの人と参加する方が安心であると思う(分譲地だけの自治会とか)。共働き世帯が多く、正直自分達の生活だけでいっぱいいいいだと思うので、そんな人達でも安心して参加できる何かがあればいいかなと思う。
近所の人の顔を見ることもない。声かけ、あいさつ。
困った状況になってもなかなか手をかしてほしいと言にくい。周りの人たちは皆せかせか忙しそう。自分にもあてはまる。日頃から地域の人と仲良くするようにつとめたい。
昭和のご近所さんの関係くらいになればいいかなと思います。
65 歳～
大きい(広い)コミュニティや相談し合える小さなコミュニティ(となり近所)の仕組作り。互助の思いの少ない人たちへ、必要なことを示す何らかのメリットを与えて気を引く(参加してもらう)。半径 100 メートル内の小さなイベント(そうじ、パトロール、屋台、もよおし物、となりの人の顔を知ることから始める)。
人間関係が濃密な田舎で育ち、40 才代で当地に移り住み 30 年になりますが、近所の方と逢っても挨拶する程度で、それ以上は進展しません。ご近所の方の考えも何も分からず。今後も多分こんな状態が続くと思います。今は所属しているスポーツ協会で活動する事が唯一のストレス発散になっております。ただ妻は買物以外は一日中家にこもり、少々可哀想であります。
転居して年数が浅く、新しい団地生活で、私たちはある程度年をとっており、近所の人たちは若い夫婦と小さな子どもを育てている人がほとんどです。よく話しをしている方は、となりの人ぐらいいい程度で、会うこともないので、名前すらよく知らないというような状態です。何か役に立ってあげたいと思うこともありますが、きっかけがないとご近所さんとのつながりや支え合いもないと思います。
隣人が日本語が分からない中国人家族(老夫婦と娘家族?子どもは日本語も喋れる)なのですが、その子どものマナーがとても悪く人の家の敷地に勝手に入ってきたり、田んぼに落としたボールを汚れながら拾っても何も言わず無視、車が通っているのに避けなかったりわざと邪魔をしたり、と困ることも多いです。他の近所の方の方が、子ども同士が遊んでいるときに叱ってくれたり、話をしてくれることが多いのですが、当の中国人家族の親や祖父母は子どもになにも言いません。まさに見かねた地域の人たちで見守り、日本のマナーを教え育てているような状況です。なぜ、日本語もわからない人たちが日本姓を名乗り土地を買って家を建てれるのか不思議でならないのですが、そのような人がいても日本語で話が出来ないのでお手上げです。

福祉で対応出来るものではないかもしれませんが、外国人に対して地域の情報の提供やマナーに関する注意事項を英語や中国語などで配布するなど、して欲しいと少し感じました。
年齢区分なし
何か困っている家庭があれば積極的に声かけをしていく！
■地域活動やボランティア活動について
18～39 歳
地域のつながり等は手段だと思う。その先で得るものが無かったり、メリットを感じなければどれだけアピールしても、協力してくれる人は少ないと思う。危機感に呼びかけても一時的だったりするので、どのように続くような形を作るか？必要か？等を意識しないと改善しないし、おそらく時間もかかる。
ボランティアではなく、時給制などお金がもらえるシステムにすると、参加人数の激増、取り組みへの真剣さUPなどになると思う。
地域ごとの交流の場を増やすなど、行事を大きく取り上げることで活性化をはかるべき。
賃貸に住んでいると自治会等がある訳ではないので地域コミュニティがつくりにくい環境です。また、子どもがいと小学校などで情報が得られるが、夫婦2人だとパンフレットで情報を収集するので、ポスト投函してくれたら有難いです。
地域のつながりは、住民の皆様が積極的に行動に出なければ、なかなか理解してもらえません。まだまだ、私達の地域では福祉については他人事と思っている住民が多いと感じられます。
コロナ以降自治会のもちつき大会も中止。みんなが集まり、交流できる場がふえたらいいと思っています。
住みやすい地域づくりが丸亀市の今後の発展につながると思います。期待しています。
地域のつながり支え合いを高める為に気楽に参加できる場所やイベントを考えて行ってほしい。他の地域で行っている事で良いと思う事を参考にして取り入れてほしい。
地域SNSや掲示板の活用 オンラインコミュニケーションを活用して、住民同士の情報共有や交流を促進する。SNSや掲示板を通して、地域のニュース、イベント情報、助け合いの呼びかけなどを行う。ブロックチェーン技術を活用→デジタルバッジやトークンによる報酬制度／住民が地域貢献活動(ボランティアやコミュニティイベントの運営など)に参加することでデジタルバッジやトークンがもらえる。このトークンは地域内の特典やサービスと交換できる。
明るく前向きで、協調性のある者を中心に、お世話をしたい人を集め、ボランティアも、本人で望む見返りを用意する。お金だけではなく、周りに自慢出来る様なこと、人からほめられたり、認められること。中心となって動く人がいないと結局無くなっていく。地域福祉に関しては知らない事が多い。うまく、認知させる方法はないかと思う。人が集まる企業や店と連携する等、地域福祉以外の様々な活動、ボランティアと密に連携する。
自治会に入っていないければ地域とつながり支え合うことは難しいのではないかとと思うが自治会の業務が負担になることは避けたい。
若い人たちの人口が減っているように感じています。自治体の交流活動が必要だと思っています。また、地域活性化のための大規模な再開発も必要だと思っています。現在、再開発が進んでいるのは市役所周辺だけで他の地域では衰退しているように感じます。商業施設も少なくなっているように感じています。また、商店街もいつ無くなってしまうのが心配なレベルです。駅周辺の(商店街も含めた)再開発が必要だと思っています。また、新幹線誘致について非常に重要であると考えています。四国新幹線開通の機運が高まるなか、どこに新幹線の駅を作るのが必ず話題になるはず。その時にはぜひ丸亀駅に新幹線駅を作ってほしいです。また、その時に同時に今運用している在来線の乗り場を2番線から宇多津駅と同じ4番線まで拡張するべきだと思います。丸亀駅はほとんどの特急、快速、普通列車が停車しますが、万が一、多度津駅や宇多津駅でトラブルが発生したとしても2番線までしかない丸亀駅では折り返し運転を行うことができず、必ず運転見合わせの区間に入ってしまう。それも含めて検討をお願いします。また、HPのハザードマップの容量が大きすぎて読み込みができない事が多いので、容量を軽くしてほしいです。
孤立せず、他人を認め認められ受け入れられる暮らしがいいことは誰もが分かっている事。ただ生きていくために心のゆとりが必要でそのゆとりがなければ地域活動などできないのでは？最低限の生活ができていて、たとえ一人暮らしであっても楽しいと感じ笑うことのできる環境でなければと思う。物価高で買い控えが続く、日々ストレスを感じる昨今。せめて生きていくために必要な食への援助をみな平等にお願いしたい。丸亀

ペイとか、スマホを持たない人には簡単に使える食事券とか… それから地域での集まり。幼児や児童にも協力を仰ぎながら、地域の人が子どもたちと触れ合える場所や行事の開催を実施しては…。買い物や散歩ついでに寄りましてみたいに、気軽に皆が参加できたらと思う。
40～64 歳
ボランティア活動の拠点を増やすこと。高齢者や障害者のため、公共交通機関の拡充。様々な人が集う公園を増やす。人が集まりボランティア活動も活性化し、地域住民の足となる公共交通機関を増やす。そもそも本数が少ないから（あってないようなもの）、バス等に乗らなくなる。おもいきって増便し（中途半端ではなく、最低でも1時間に6便、公共交通機関の利便性を売りに、市のアピールができる）バスを使ってもらう。雇用をうながし、住民が増加すれば税収も増え、丸亀市がうるおう。目先の収支を追ってはだめなのでは？ニフトリが先か卵が先か？
コミュニティの行事や役員はずっと参加している人が同じです。これは他者の為というよりも、地位や名誉の為ではないかと思います。なぜなら後継者を育てようとしなない。みなコミュニティ活動ではなく一部の方のコミュニティセンターとなっている。もっと積極的に地域の方に利用して頂けるような活動を推進していかなければ、PTA自体が無くなる様に地域活動も無くなるかも知れないですね。
自治会の運動会など参加したいけど。自治会が無い為（マンション）自治会に関係なく気軽に参加できるイベントがあれば良いなあと思います。
いつもおつかれ様です。お手伝いする事は可能ですが、その様な情報を自分から積極的に取りにいかないの、知らない事が多かったです。広報まるがめくらいしか目を通さないの、地域のつながり等子どもが大きくなってからは、関係があまりありません。何かあれば参加したいとは思っています。
地域のくくりが、そもそも不確定でわかりません。自治会もないので近所つきあいもないし、つきあうつもりもありません。母が障害者になった時、問い合わせなければなんの情報もはいりませんでした。なので地域に頼ることはないかわりに、近所の見守りや福祉など、何か押しつけられるのもお断りしようと思っています。
個人的な考え方ですが、世代交替が進んでいくと、無償ボランティアの引受手がいなくなると思うので、どこかでボランティア＝無償という概念を変えていく必要があると思う。
地域のつながりがどのくらいあるのかすらわかりません。もっと情報を子どもでもわかりやすく、目にとまる場所に出してほしいです。
高齢者が多い地域と若者世帯が多い地域の問題点は必ずしも同じではないと思います。その地域ごとの支え合いを考えていかないといけない時代になってきていると思います。私が住む地域は高齢者しかいないので、今50代ですが、支える力が少なくとても支えることはできません。私がこの先年老いた時誰が支えてくれるのでしょうか。とても不安です。
自治会としての集まりではなく行事やイベントなどで顔を合わせる機会を増していく事から、近所のつながりを持ち、福祉や助け合いにつなげていってほしい。何かしたいと思う気持ちがあっても近所の人との関わりや顔を合わせる機会が少ないと、思いだけで思ってしまう、個々の家族だけのつながりしかもてないと思う。盆おどりや小さいイベントなどをしてほしい。
地域とのつながりをもちたい若者が減る中、これまでの「自治体」というつながりの方法だけでなく新たな地域が繋がれる方法を模索していく必要があると思う。＊PTAや自治体など、このままの形で継続してもそのうち参加者がいなくなるのでは？と思います。無償の地域活動には限界がある。
自治会の高齢化…次世代に事務等でいいから作業を譲ってほしい。団塊世代が亡くなると一気に自治会が無くなってしまふ。ちょっとしたお手伝いをするのも、躊躇してしまう 小さいボランティア(短時間・事故がおきにくい etc.) プチボラみたいなモノから参加していければ、キッカケになり広がっていくかなと思います。福祉の分野だけでなく、おしろ祭りの後のそうじ、観光シーズン前のお遍路さんの休憩所のそうじなど、募集してほしいです。外国人の方が空家を購入し生活するようになりました その方達と自治会に入ってもらったためのパンフレットなどあればよりよい生活・地域作りの手助けになります。
或は境を設けた地域を武器で守る、そうです。私は、心の境をなくして生きてゆきたい、と思いました。
地域での交流が不足している。
休耕地、耕作放棄地を地域住民が野菜や米を育てれる場として活用してみてはどうか？小学校、こども園等周辺にそういった土地があれば学校行事として野菜を育て、採れた作物を調理実習、給食で活用できる。また農業を通じて地域の住人とも交流ができると思います。昔は田植えを学校行事として取り組んでくれていたが

いつからか無くなってしまいました。機械化が主流になり便利さ、効率化が進むほど人と人とのつながりが消えていくように感じます。私の地域、垂水も農地が減り、住宅地ばかりになっていっています。元々居た人は他所へ行き、他所から来た人が増える。これでは地域のつながりは深められないのでは？とも感じます。5年後、10年後、人口は更に減っていくと思います。行政だけでなく住民一人一人を考えていかなければいけない課題だと思います。
そもそも、何のために「地域のつながりや支え合い」を高める必要があるのかを考えねばならない。誰も苦しんだり困ったりしていないのであれば「地域のつながりや支え合い」を高める必要がない。現在、というよりもこの数十年、起きている社会問題の原因の大部分は、「租税国家論への執着（貨幣の仕組みへの無理解）」そして「貨幣の分配ルートを賃金のみに限定することへの執着」。我々は昨今、AI/ロボット等の技術の加速度的進化を目の当たりにし、同時に近い将来の万物のコモディティ化も、容易に想像可能な状況であり、執着・情性により強引に形だけが継続されているだけの現行システムなど、当然維持できるはずがない。ですから、「地域のつながりや支え合い」を考える前に、マクロの諸問題の解決を優先すべきだと考えています。でなければ問題の切り分けができない。マクロで解決すべき問題は、ミクロで解決せず、マクロに圧力をかけマクロに解決させるべきだというのが、基本的な考えとなります。もちろんそれだけで万事解決とはいきません、そうすれば「地域のつながりや支え合い」のための土壌ができます。
地域行事については転居者には参加しにくい雰囲気がある。子どもがいる世帯であれば、子どもを通じて関わりがでるので、参加していくハードルは下がると思う。
65歳～
自治会活動において、参加する人としらない人がはっきりしており、参加しない人は全てにおいて無関心である。行政などが主導して、活性化を図ることはできないであろうか。
近所のつき合いは1人ないし2人の家族、まして老人世帯なので進んで地域の活動に参加して、もっと前向きに生きていくことを考えていきたい。そうすれば生き方も楽しくて頑張っていけると思う。
地域のつながりや支え合いを高めていくには、リーダー的な指導者が必要だと思います。今は人からの世話を受けても世話をするのはイヤだと思える人が多いと思います。ならば順番を決めて指導者になるようにしてはどうでしょうか。一度でも経験をすればそのやり方がわかり、理解が深まると思います。皆が参画して盛り上げていってはどうでしょうか。
自治会の高齢化や縮小が気がかりである。昔ながらの自治会というしくみが時代にそぐわないのであれば、それに代わるようなしくみやシステム作りが必要なのではないか？特に独身者、子育て世代、転勤族でも参加できるようなネットワークの場やつながりなど、今のデジタル時代に合った形で新しく作り上げることができればと思う。
昔より生活が便利になり、地域のつながりが薄れたように思います。普段から住民の方たちが集まる機会があればと思います。各コミュニティにも出張所のようなものができ、情報の発信などして市民と協力できればと思う。
高齢者の増加に伴い、健康等の問題で地域活動への参加は難しくなっています。今後の地域活動の中に医療関係の行事説明等があれば、高齢者の地域活動への関心も高くなると考えられますので、医療関係の活動もいれていただければよいのですが。現在コミュニティセンターで医療関係相談日もありますが、これを更に充実させていただく等です。
コミュニティセンターは日常開いているが、自治会館は日頃閉まっていて、地域の方は行事の時しか入れない。毎日のように高齢者の方々は道ばたで、座ってお話をされている。地域の方がボランティアで自治会館を開ける事は、なかなか出来ないの、コミュニティセンターのように人を雇用して週に1、2回でも開ければ、高齢者の方々の行き場が出来るのになぁと思います。
自治会に入っていない家庭に対し、入会するよう推進してもらいたい。
各公民館の利用促進をはかる。具体的には面白イベントの開催など。
自治会活動への市としての積極的支援。
自治会活動に積極的に参加協力する。なお、学校区と自治会が違うのはいかなものか。統一してほしい。小学校区で地域は繋がっているのだから当然統一。これは行政指導でないといけない。学校区、城西だが自治会は城南、これは納得できない。是非統一を願う。

1、自治会の役員をやっていますが、自治会に新たに入りたいという人や役員をやろうと積極的になる人がほとんどいません。自治会に入ることに大きなメリットが見当たらないのが、大きな原因であると思います。市で大きなメリットを作ってほしいと思います。2、私は、あと数年で80才になり、免許返納する可能性があります。その時、市内での移動手段が限られているようで心配です。タクシーはわざわざ呼ぶ必要があるし、バスは時間や経路が不足です。何かもっと便利な移動手段を作ることはいできないでしょうか。
いつも活動ありがとうございます。自分は今は何もしていませんが、退職後は何か地域に役立つ事が出来ればと考えております。
転勤のため、他の市に所属したことがあるが、丸亀市はとてもイベントや子どもなどの遊び場など充実していて活気がある印象。このまま続けてほしい。自治会の強制入会、強制寄付金集金（体協費や神社神祭費・運営協力費、共同募金など）と不本意な関わり支出となっている。自治会への強制入会をさせない呼びかけや強制している自治会への自治会活動応援補助金制限などをしてほしい。強制入会となったため、市指定ゴミ袋に書いている文字を見るたびにストレスとなっています。どの市もしているのでここで書いても変わらないだろうが、市指定ゴミ袋が市の収益のためにしているのなら納得だが、廃棄物削減のためと言うのが理解できない。これにより廃棄物が減るとは思えないし、不法投棄や商業施設への家庭ゴミ持込が増えているのではないかと思う。国政が住民税非課税世帯や高齢者に重点を置いてしまっているため、可能であれば県や市では労働者を積極的に支援し非課税世帯などへは支援を手厚くしないでほしい。行政からの支援で生きていく、養っていくのではなく、労働で生きていく、親族などを養う社会としてほしい。本来この規模は国政の話になると思うので可能な限りでお願いしたい。
■災害時に関することについて
18～39 歳
近所の人と関わることはあるが、子どもから大人関係なく関わるネットワークがあればいいと思う（オルデ通町の様子をみたことある）。防災の知識や動きを聞けるような場がほしい。自治会の方がかなり高齢になってきていて、あまり参加したことなかった分、私にも何か力になれないか考えているが、中々交流を深められない。普段、学童保育に携わっているため、学童保育の環境整備、体制づくりについて、本当に見直してほしい。支援、育成する職員の研修をしたり、場所、遊びの幅を広げてほしい。勝手な意見が多くすみません。
40～64 歳
災害がこれからおきない事はないと思うのですべての事に対応していきたい。
65～歳
集落（自治会）で世帯主はわかるが、家族は誰が何人いるかわからない。個人情報だが、自治会長になった時に、それぐらいは把握していないと何となく自治会長としての役割をはたせない様な気がする。災害（火事とか）が有った時に、救助したりする時にわかっていた方が良い。 昔、住民の絆を深める互助事業として、冠婚葬祭があったが、今は、それに代わる事業として、住民のほとんどが不安を感じている南海トラフ地震等防災の共助事業を考えている。その要領は、先ず輕易で抵抗なく取組める安否確認体制づくりから始め、事後、住民の有する特技と物（機械力等）を活用する緊急救命救助、更に生活相互支援等の金のいらないソフト面の体制づくりを充実発展させる。そしてこの活動を通じて、地域住民の絆を深めることが出来ると考えている。現在、自治会では、防災体制づくりは緒に就いたばかりだが、隣組等による安否確認体制と一部近隣工場が有するレッカー・大型発電機の活用依頼等を実施している。また、その集まりで、住民の名前を知ったり、顔なじみがふえている。
■福祉制度や福祉事業について
18～39 歳
企業にて障がい者雇用の仕事をしています（市外ですが）。有資格の専門職のため、採用活動でいろんな障がい者の方、支援者の方と関わっていく中で、まだまだ障がいへの理解不足や様々な弊害が多くある印象を常に持っています。まずは学校や地域等で福祉教育の場を設け、自身が当事者になった際に自発的に動けるような取り組みがあれば、もっと生きやすい社会になっているのでは？と感じています。ただ、実際大人になるとそういった勉強の場を設けたとしても、関心を持たずに足を運ばないのが大半だと思うので、学校という絶対的に機会を持てるような場での早期教育が1番かと思います。いつか思い出してもらえれば十分だと思うので。
今の時代、近所や地域で新たなつながりをつくるのはむずかしいので、学校での福祉教育やひきこもり支援などの若者支援と、香川や丸亀に働きたい企業やスタートアップ等の誘致を行い、同級生や同じ学校のつながりをそのまま大人になってもつづけられるようなしくみを考える。「福祉」の概念をもっと大きく持ち、人々が

生き、生活するすべてが福祉の一つとして支援する行政や団体側が縦割りではなく、共生や互助を念頭に動ければ、もっと活気のある丸亀になると思う。
丸亀の福祉事業は充実していますが、例えば健康に関して、病気になってからでは遅いので、日々の食生活が大切な事で、事前の講演などありましたら予防策として大事なことだと思います。
地域の将来のことを考えると、生産年齢人口を増やすことが最重要であると考えます。そのためには、 ・発達障害でそのままでは支援される側になる子どもを、幼いころから支援することで支援する側(生産する側)にすること。 ・学力的に優秀であるが家庭が生活困窮であるため学習活動が不十分である子どもへの学習支援。北欧では「教育」の最大の目的は「良き納税者の育成」と聞いたことがあります。人口減少社会になった日本でしっかり考える事柄です。
若い世代がもっと積極的に参加出来る環境作りが必要だと思う。障害のため車椅子ユーザーですが、ご近所さんとよりも専門知識のある人と繋がっていた方が安心です。訪問看護事業者さんがもっと活動しやすいように更なる助成をしてあげてください。
40～64 歳
子育てのため、共働きが必要になってくる。障害をもった子どものいる家庭に対して、安心して、子どもが学校生活を送れるように支援を強化してほしい。
障がいをもつ家族を介護している親やきょうだいの方々が安心して働ける場所や職などがあればいいと思いました。介護をしている家族はなかなか大変なことが多いと思うので。
健康な体で仕事や生活ができるようにすることが福祉予算の増加を止めることになります。介護が必要な高齢者を作らないようにすること。つながりや支え合いは大切だと思いますが、自助能力を下げないことも大切だと思います。そのために医療費の助成や健康を保つための支援が必要だと思います。病気予防、ワクチンなど。※带状疱疹ワクチンの費用助成をして欲しいです。(50 才女性より)
高齢者や生活困窮者への支援の充実。ひとり暮らしの方の生活援助など。
65 歳～
孤独死を防ぐ対策はできないでしょうか？例えば見守りロボットを必要とする方に、無料で設置するなど。
社会福祉協議会の事業の内容をわかりやすく。
・子ども達が犯罪などにまき込まれない町。大人達が常に見守りが出来て、守る体制が必要。 ・ダブルケア、子育て中の親を支援する。 ・8050、子どもに対する、医療や仕事の世話。 ・ヤングケアラー、子どもに対する支援。 上記3点が必要と思われる。
数年前、市外で生活していたとき、悩みを相談できる人がいなく、母のケアマネジャーに相談しようとしたら、ケアマネジャーから「私はおしゃべりな性格で周りの人に話してしまうから、私に話をしないで下さい」と言われました。あのときに県や市に相談窓口があることをアドバイスしてほしかったと思います。1人で悩み、相談をだれにしていかわからない人は、たくさんいると思います。福祉にかかわる人は、この相談内容は自分の仕事と関係ないと切り放すのではなく、他に相談窓口があることをアドバイスしてあげてほしい。
公共施設はいろいろ有るが障害者が利用可能な物にして欲しい。その施設を利用したくても階段、さく等で車イスが入って行けないとかスロープはあるが傾斜がきつくて入っていけない等、健常者ではわからない障害を取り払って欲しい。
中学校の子どもがひきこもりです。子育てでは義務教育になると余裕ない学校担任が相談対応になり、福祉的不安を相談できないまま不登校やひきこもりになっていると感じます。また無理して頑張ってきた子どもたちも高校生や就職などでつまずき、ひきこもる現状も多くあります。8050 問題は子どものうちから考えておくことだと思います。そのためにも未然や初期の対応がとても大事、そして家族の支援がとても大事。教育の中に福祉は絶対必要で、地域の中にも「あたりまえ」があたりまえでない理解が必要です。こういった声を出せないまま、相談できないまま、諦めの中で苦しんでいる人が多いです。当事者や当事者家族の声をもっと聞いてほしいが、丸亀市にひきこもりの専門窓口がないことに愕然としました。県や他市や民間のがんばりで支えられ生き延びた感じがします。今回、アンケート調査というかたちで伝えられてありがとうございました。アンケートがこなければ、孤独な思いのまま地域の中に潜んでいました。このような話をする場、リアルな声を出せる場がほしいです。それが本当の繋がりの一歩ではないかと思っています。

子育て支援に力を入れて欲しい。
■丸亀市社会福祉協議会について
18～39 歳
普通の生活が出来ない人達が孤立していかないようにすることが、長い目でみて社会全体の利益になっていくので、他者を切り捨てない思いやりの気持ちを、子どもから大人までが持つよう努力、教育していく必要があると思います。様々な生き方の人がいらっしゃって、困っていても助けを求められない方もいらっしゃるし、目にはみえていない問題も多くあるので、社会が変わっていくことで個人が変わる側面もあるので、行政には頑張っていたきたいと思います。
40～64 歳
・名の通った活動家による講演会等の開催。 ・名の通った大学に入ることだけに関心がある世間の子育ての偏りをなくし、勉強だけしかしていない受験生に社会的弱者への思いやりを育むように、日本全体で教育制度を見直すよう、文科省等の中央政府に働きかける。 ・それが無理なら、丸亀市が率先してモデル地域となるように、自治会長と話し合いの場をもち、あるいは海外の姉妹都市での取り組みを参考に、優れている施策があれば導入する。
■丸亀市の地域福祉について
18～39 歳
新興住宅地など新しい家庭が勢いよく増えているが、おそらく既存のその地域の住民とは分離しているのではないと思う。自分の家庭も自治会には加入しておらず、近所づきあいはない。地域の活動も分からない。しかし、自治会に入りたいとも思わない。時間的、精神的に労力があるため。自治会が不必要とは思っていないが、入れないので、地域を自治会など身近なところだけには限らず、丸亀市として自分は考えている。
65 歳～
「市内の便利な交通手段の考慮」例えば「ぐるっとバス」の路線の見直しにより、日常行動においてもっと気軽に利用できるように、バス停、運行時間等考えていただきたい。地域のつながり、支え合いにしても一人暮らし、高齢で元気で移動手段がなければできません。1. 今後増加する高齢者の買い物、病院通い等。2. 身障者の方の利用。3. 免許返納者の方の利用、他。
■アンケートについて
18～39 歳
仕事が朝早く、帰りがおそいので近所づきあいもできず、親族もほとんどなく天涯孤独なのでどこに行ったら相談できるかわからない。アンケート日付がおくれてすみません。忙がしすぎて仕事から帰るとしんどくてなにもする気がせず、新聞すら朝早いし帰るとしんどいので読めない。このアンケートを読む気力がなかなかありませんでした。
■その他
18～39 歳
小さくない公園を作ってほしい。
知らないことが多すぎたので、もっと知れる機会があればいいのと思った。
イベント等を市のホームページで見やすく発信してほしい。防犯灯等を取り付けて夜のイベント等ができる場所。緊急車輛のサイレンがききとれない。NPO等名前だけで活動がわかりにくいので、冊子や紹介で内容が知りたい。グルットに乗りたいが、発着が少ないのもっと細かく区切って便数を増やしたり、再就職の教育を市から企業に支援してもらうのはどうでしょう。車の安全教育を保護者や地域の人も受けられる様にしたい。子どもの為になるので。
積極的な財政出動や「マルタス」のような施設の充実を図るべきだ。
迷惑外国人の排除及び教育。
まずは金銭面に余裕がないと外へ意識が向きづらい。余裕のある生活にしていただけるようになってくれればそういう方も増えるのでは？

不登校の子が増えているが、相談できる窓口があることを知らない人が多いと思う。医療機関へ相談に行く人も多いが、身体的な問題がなくメンタル的な事だった場合の対応がむずかしいのかも知れない。
本当に必要としている人に適切にお金が使用されていることを願っています。
40～64 歳
潜在的な有志の人はいると思うが、実行に至っていないように思う。負担感のない気軽なものだと思える雰囲気があればいいのかも。また有用感が味わえ、楽しいものと感じられることをアピール。
困った時助けてほしい時に、お願いしようとしても手続きなど手間と時間がかかる。その時に必要としている状況にその手間と手続き、役所関係などどうにかならないのか。結局はそのパイプ役となる人が必要となり、欲しい支援をしてもらえない人がいることを知ってほしい。何のためのマイナンバーカード導入なのか、預金のひもづけでなく、その人の障害の有無、持病、必要となる支援などをひもづけて、すぐ対応できるようにしたらどうなのか。
丸亀花火大会を、元の場所に戻してください！
親世代（70 代）のつながりや交流は活発だが、自分の世代（50 代）はそこまで活発ではないので、将来どうなっていくのだろうとの思いはある。
65 歳～
気軽に会話が出来る場所の確保。
旧、郡部に住んでいて、市役所へ行くには交通の便がバスしかありません。高齢で免許証を返納したため。
各自治会（自治会場）への出張講習等をしてはどうか。
もっと市民が参加しやすいイベント等があればと思います。
いいシステムがあっても、知らなければ意味がない。絵に描いた餅では期待できない。
医師紹介を援助してほしい。
行政の指導によって、地域の成功事例の水平展開が必要！
地域（サカイ）に住んでいるし、急な住宅増にとまどっている。
年齢区分なし
生活に必要な物を購入するための店の充実。近くに店がなく、日頃の購入が大変不便。（特に高齢者、障害者が困っている）

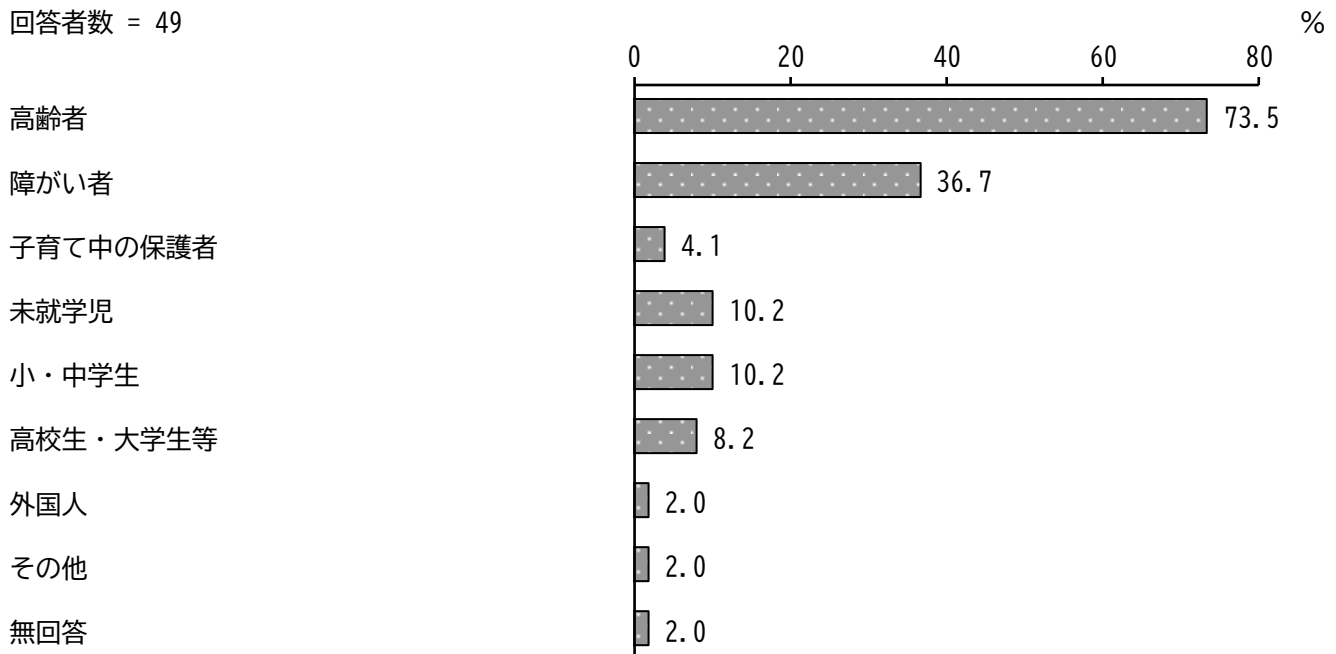
2 事業所

(1) 貴事業所のことについて

問1 貴事業所が提供する福祉サービスの対象としている人はどんな方々ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「高齢者」の割合が73.5%と最も高く、次いで「障がい者」の割合が36.7%、「未就学児」、「小・中学生」の割合が10.2%となっています。

回答者数 = 49

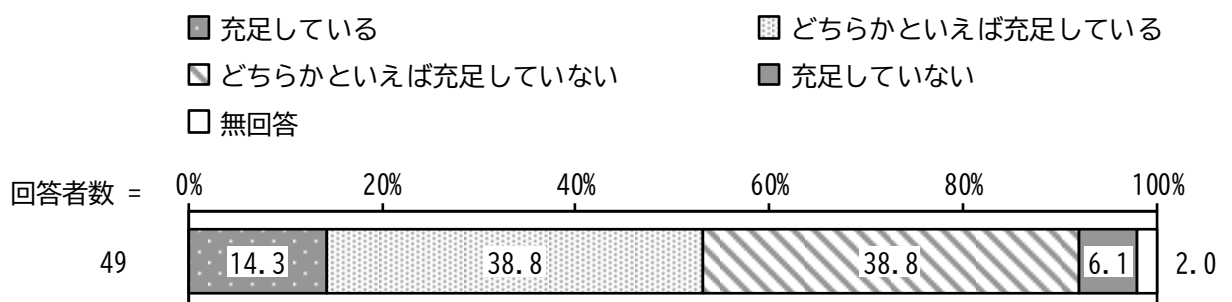


「その他」内訳
介護保険認定者

問2 貴事業所が対象としている人向けの、行政及び民間の福祉サービスの量や質は充足していると思いますか。(○は1つ)

① 量

「充足している」「どちらかといえば充足している」を合わせた“充足している”の割合が53.1%、「どちらかといえば充足していない」「充足していない」を合わせた“充足していない”の割合が44.9%となっています。

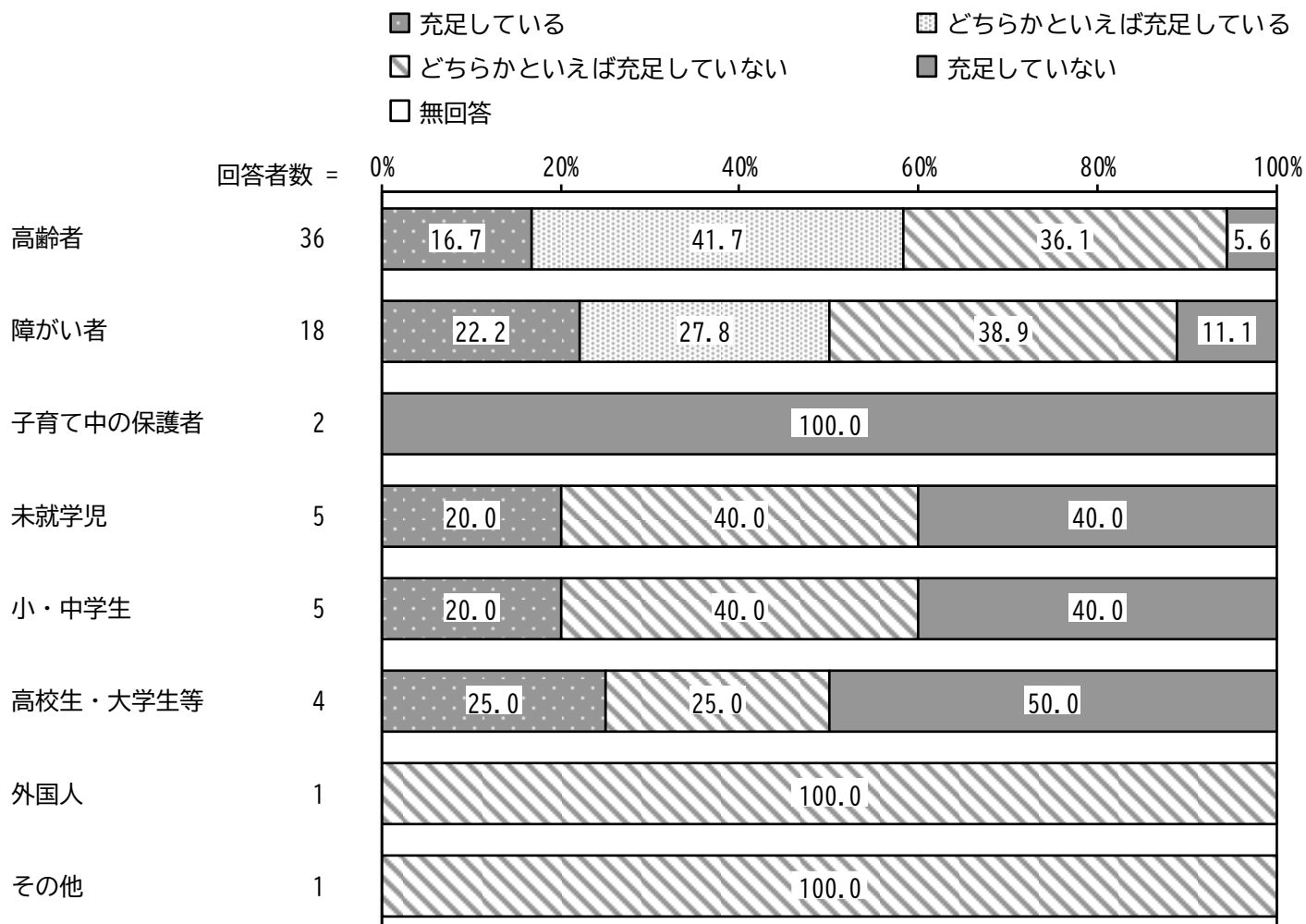


課題や改善すべき点など、気づいたことや日ごろ思っていること
福祉サービス提供を増やしていきたい。
移動式サービスについて、地域によってバラつきがある。
最近、近隣の機能訓練特化型デイサービスが閉所されました。こちらでも受入人数が限られる為、困る人がいなければいいと思います。
施設の数やサービスはたくさんあるように思うが、本当に必要とされている方にサービスが行き届いていないと感じる。
リハビリのデイがなくなっている。
有料老人ホームに入居されている方の介護。
少し量が多いと感じることもあるが、担当を終了することもあるので、適量であると思う。
単発で利用できるショートが少ない。ヘルパー不足。
A型事業所の数が少ない。
受け入れができない在宅の利用者さんの短期入所先が乏しい。
児童（障がい）の短期入所の事業所が不足している。相談支援事業所やヘルパーの事業所も不足している。
児童発達から放課後デイへの移行の希望があるけれど、受け入れ先が無い。
入所希望される方を幅広く受け入れ、その方にあったサービス、対応をしている。
見守りが多く、活動量が十分に確保できていない。
介護タクシー等利用者さんの足となるものは少ないと思っている。
事業所の数の点では充足と言ったところであろうが、実際のサービスの受け入れなどについては、人員の不足などの問題もあり断られることが多い。長年にわたって議論されているであろうが、慢性的な人員不足を根本的に解消されるような取り組みが必要であると思われる。
人材不足によって定員数まで子どもを受入れることができていない。
ここ数年新しい事業所が増えていると感じている。利用者への過剰な営業活動により、混乱している利用者がある。
地域に就労移行支援、就労定着支援の事業所が少ない。
人件費の安さ
定員枠の問題と運営の問題
通所は受け入れがあるがショート等の泊まりのサービスが受けにくいと聞いています。
介護施設や介護サービスを利用したくても待機者や希望者が多くて、すぐにサービスが利用できない。
独居高齢者がどのようなサービス（自費あるいは介護サービス等）があるのか認知していない、あるいは、そのような情報が入ってきづらい環境である場合に、生活が困窮する可能性があるため、独居高齢者が情報を選択しやすいアドバイザー（民生委員等や互助グループ）の活動があればと思っています。
訪問介護事業所の閉鎖が続いており、必要としている方のニーズに応えられていないように思います。
放課後等デイサービスの事業所がすでに定員がいっぱいで、希望している事業所に入れない。

課題や改善すべき点など、気づいたことや日ごろ思っていること
個人の生活のしづらさに合ったサービスがない。
利用したい人が利用できずにいる場合がある。
以前より、事業所数は増えていて利用者が選べる

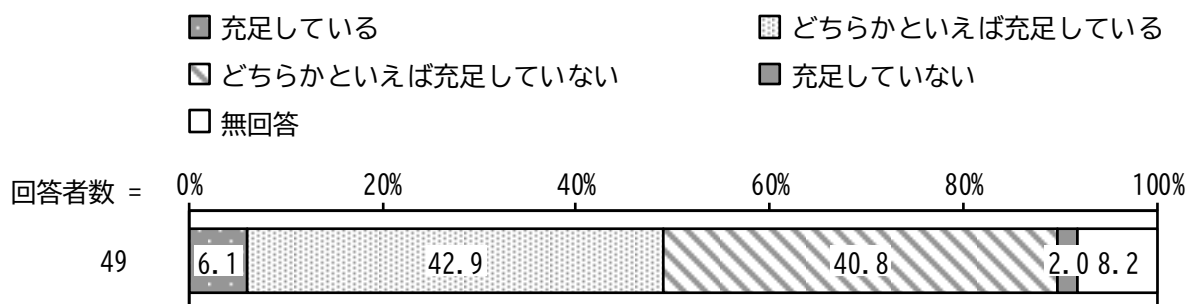
【対象者別】

対象者別にみると、“充足していない”の割合が障がい者で高くなっています。



② 質

「充足している」「どちらかといえば充足している」を合わせた“充足している”の割合が49.0%、「どちらかといえば充足していない」「充足していない」を合わせた“充足していない”の割合が42.8%となっています。

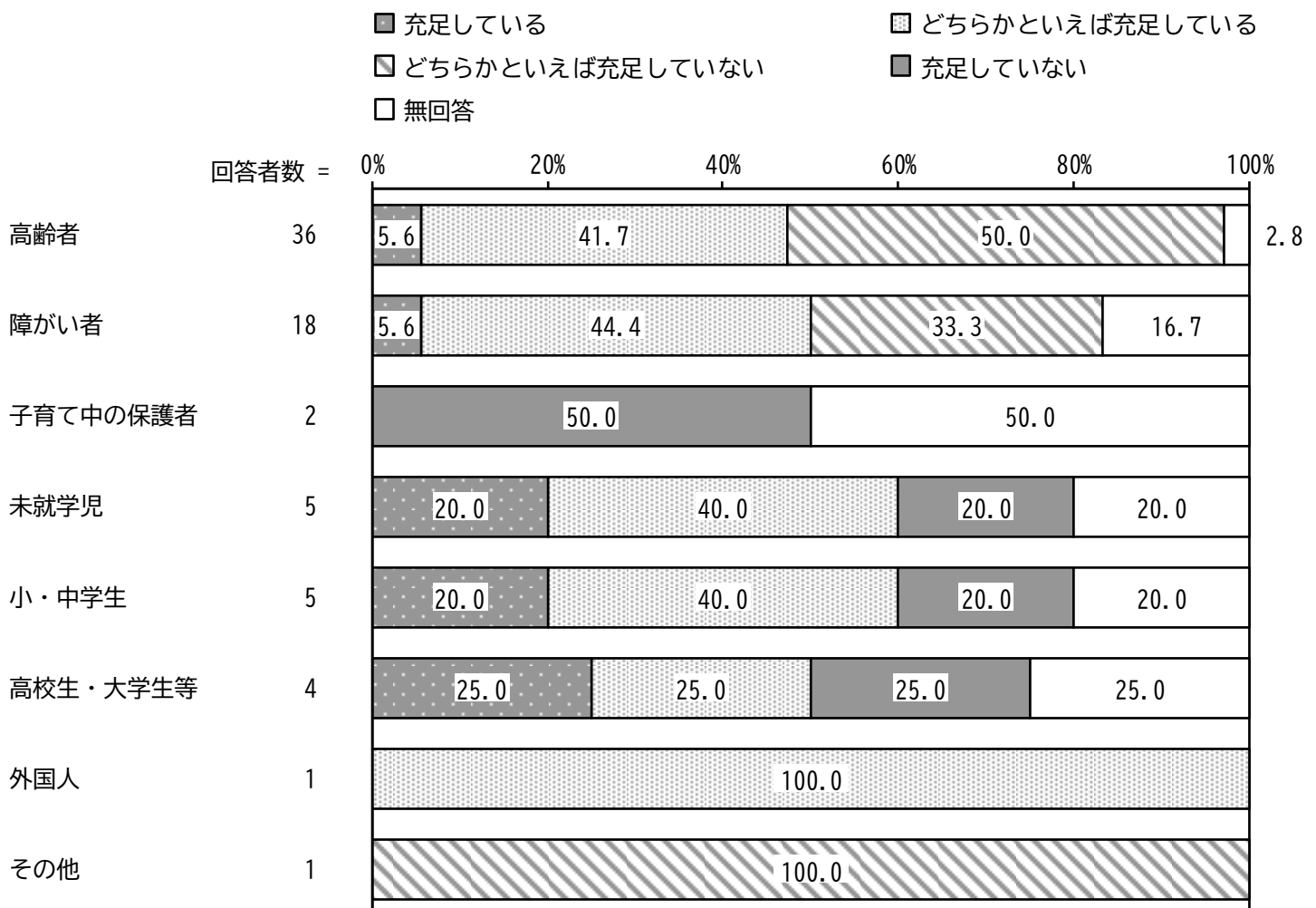


課題や改善すべき点など、気づいたことや日ごろ思っていること
職員の技術の向上を図りたい。
・質は良いと思います。
・介護タクシーについては、ストレッチャー対応が少ないように思います。
その人に合ったサービスへとうまくつなぐことが出来ていない。家族の認知症や介護に対する理解力がない。知識・情報不足だと思う。
リハビリを行なうデイ（半日）が足りない。
ひとりひとりの利用者さんに合った介護を提供している。
一生懸命にその人の為にしているつもりではある。
どの事業所も少ない人員の中、精一杯支援して下さいます。
障がい者認定を頂く対象年齢によって受けられるサービスがちがすぎる。同じ障がい1級でも、年齢によって差が大きいと感じる。
ヘルパー事業所の職員の質のばらつきに疑問を感じることはある。
どの事業所（児童・放課後）（就労A・B）（就労移行支援）もそれぞれの特徴があり、頑張られています。
研修等を積極的に行ったり、参加している。
安心安全な生活場面に加えて、生活の質の向上につながる日中活動の提供が不十分。
人員不足が多い。
サービス全般にわたり、いまひとつでなかなか難しい。
上記したように、慢性的な人員不足により、十分な質が担保されているとは言い難い面がある。
人材不足。
人材不足と、妊娠出産、育児を理由にベテラン職員が最前線から離れなければいけないことで、質の担保が難しい。
物価高騰により、色々な場面において制限をかけながら質を落とさずサービスを提供する事にストレスを感じている。

課題や改善すべき点など、気づいたことや日ごろ思っていること
慢性的な人員不足により、サービスの質の維持や向上は難しいように感じる。
人件費の安さ
機能向上を行う為の質の向上
今のところは大丈夫だが急な体調不良等があれば人員が足りない日が出てくる可能性がある。
看護・介護職の配置状況、研修の充実度、離職率。
かなり差があると感じる。
質の差がある。
同じB型事業所でも、様々なニーズに答えられる事業所があり、選べた方がよい。

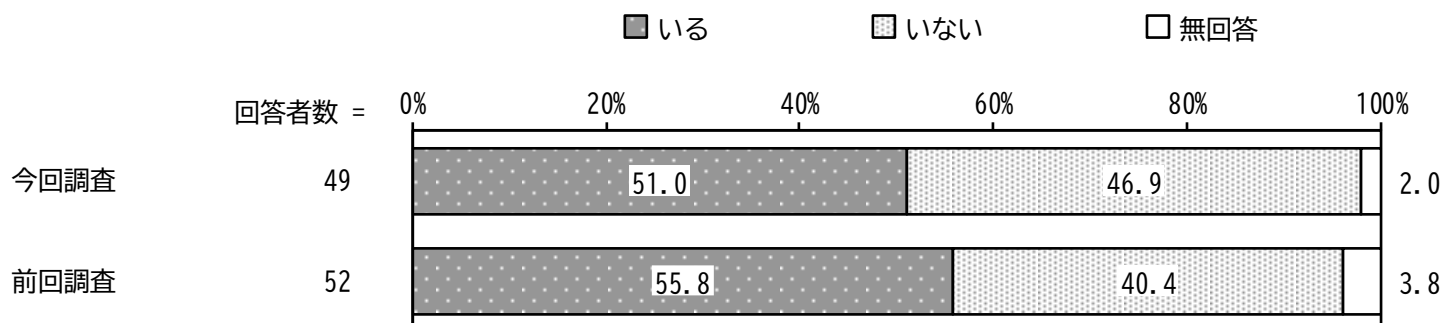
【対象者別】

対象者別にみると、「どちらかといえば充足していない」の割合が高齢者で高くなっています。



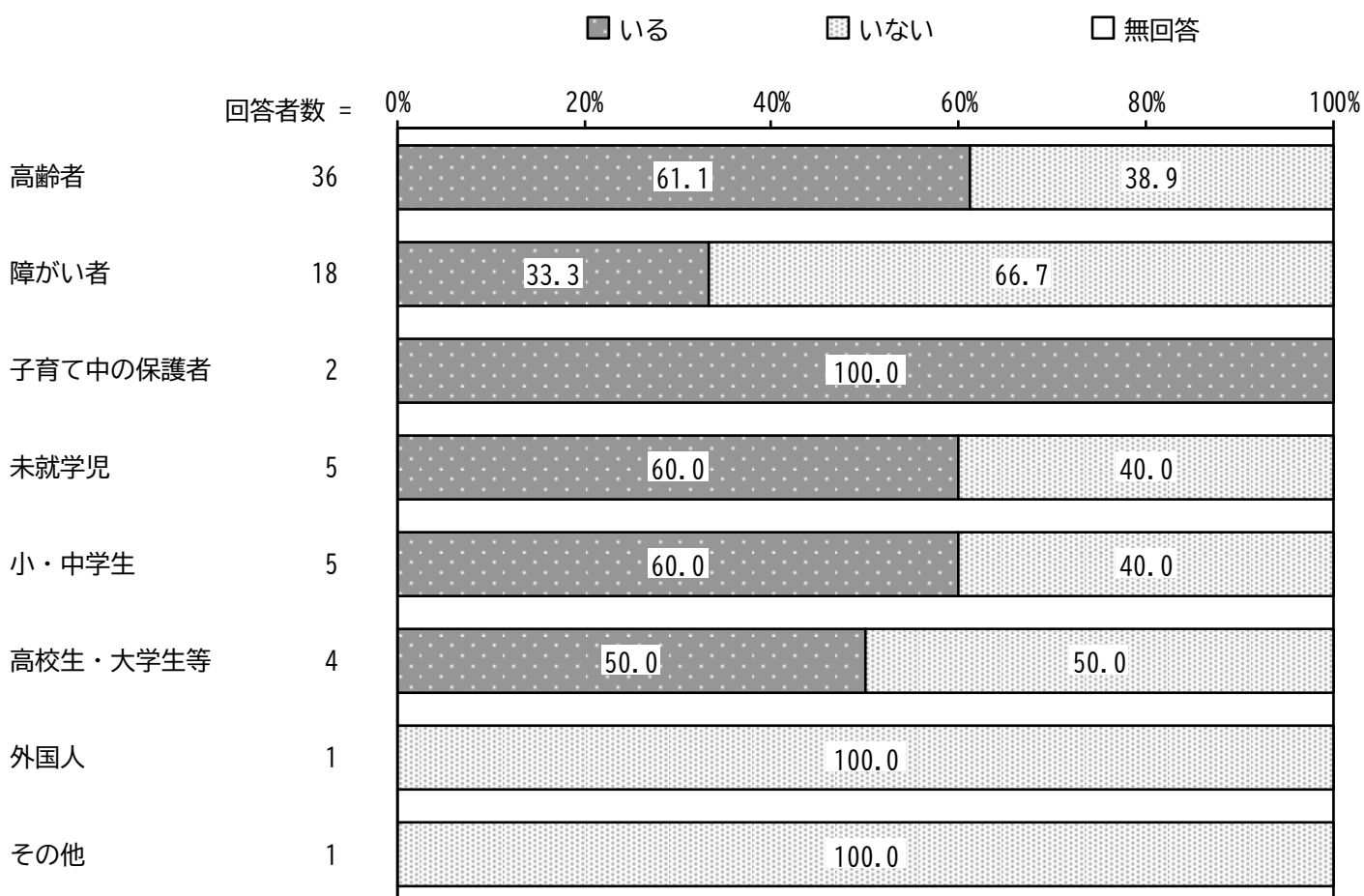
問3 貴事業所が対象としている人について、支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスの利用に結びついていない人がいますか。(〇は1つ)

「いる」の割合が51.0%、「いない」の割合が46.9%となっています。
前回調査と比較すると、「いない」の割合が増加しています。



【対象者別】

対象者別にみると、「いる」の割合が高齢者で高く、「いない」の割合が障がい者で高くなっています。



問3で「1.いる」と回答した方のみお答え下さい。

問3－1 そのような人たちを福祉サービスの利用につなげるためには、どのようなことを改善する必要があると思いますか？（自由記述）。

その人の介護量に対しての介護度が低すぎてサービスを増やせない。
・施設情報の提供 ・施設見学がしやすいようにする。例えば送迎。 ・利用することでの体の変化について数値等で説明。
要支援1.2の方にも福祉サービスを充実させる必要があると思います。
外へ出ることに対して本人が抵抗がある。認知症であることをオープンに出来ないことで、症状が進行している。もっと地域に理解を深めるための取り組みがあればと思う。
お金がなくて、サービスを受けられない人がいる。本人の希望、節約などで使いたくない。
令和7年3月末で当デイ閉鎖。リハビリをしたい方はおり、ニーズはあるが経営的に難しい様子（リハビリに特化した半日のデイは特にきびしく、閉鎖になる事業所が多い様子）。料金は決められている中なので、ガソリンや電気代が上がるとなお経営がきびしくなるため、事業所の金銭的なサポートが必要なのではと思う。
軽費老人ホーム入所者で、介護認定を受けてサービスを開始しようとした方が、介護サービスを利用しようとした際、保証人がいないためそのサービスが受けられない事が判明した。何か保証人のかわりになる公的処置があればいいと思う。代理人は高額で利用することができなかった（成年後見人制度）。
重度の知的障がい児が短期入所を利用出来ない状況にある。受け入れ先を増やせたらいい。
・就労A型・B型の存在を知らない人も多い。利用の仕方がわからない人が多いので、病院や商業施設などにポスターなどの掲示をしてもいいと思う。 ・ハローワークの相談員の方達も事業所見学等が必要で、その人にあったところの紹介が出来ればと思います。「就労出来ればいい」ではなく、その後の継続も考えて欲しい。本人からの聞き取りを行なうと希望が違っている場合があるので。
経済的に困窮しており、福祉サービスが利用できない。
金銭面 福祉制度の理解
ご本人が福祉サービスの利用を拒否するが多い。ご本人とニーズと福祉サービスが合致していない。
生活保護受給者が介護保険の申請を行い、利用を希望されている際には、介護度の決定がなされてからでないと利用できないと言われる。介護保険は、本来は申請日から利用できるし、介護保険が優先であるにもかかわらず、利用ができない実情で、非常に困る場面が明らかに出現している。市の行政制度やシステムの問題であるなら、早急な改善を望む。また、介護保険を含め福祉サービスの利用は、基本申請を行わなければならない。独居、夫婦ともに認知症などの方が、申請も行わず利用につながっていないケースも見られることがある。民生委員と包括、ケアマネや介護事業所とのつながりを強める必要がある。
どの業界も人材が不足しているが、地区単位での相談箇所、また民生委員さんの活用。
児童施設に入所させる条件としてネグレクトケースが対象となりにくい傾向がある。国が不適切養育とは何かをもっと具体的にして、ネグレクトケースを施設入所させていく必要がある。
ケアの方向性を他事業所と共有できていない場面があるように思います。お互いの事業所の考えに相違はありますが、方向性を統一することで必要なサービスの提供をより行えるようになっていくと感じます。

PR不足と利用料の値下げ
ケースを考慮した制度の柔軟性
受け入れ枠の拡大
高齢者自身が、支援を拒否することがある。自由がなくなるイメージがあるのか？ サービス自体は多岐にわたってあると思うが、困っていることに対して、どこに申し込めばよいのか、具体的にこういったサービスがあるのかなどもっと分かりやすいフローチャートや窓口を周知できればいいと思う。
介護保険の申請をするも、その後どうしたらいいのか分からない高齢者が増えています。介護保険申請後、手紙だけではわからない方も多くいるので、電話連絡・今使っているサービス事業所（生きがい）への連絡があると事業所側からも対応ができると思います。
福祉サービスのPR。近隣による見守りや声かけ。
時々、事業所に直接相談があるが、どの機関（事業所・役所）も相談先を紹介する一方で本人はたらいまわし状況になり、どこへ相談すればよいかわからずに困っている。適切な機関がきちんと相談に乗らなければならないと思う。

(2) 貴事業所が取り組んでいる活動（地域で行う公益的活動等を含む）について

問4 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問5 問4の回答の中で、貴事業所が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問6 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体等に協力してほしいことはありますか。
・移動手段がない。 ・買い物に行けない。 ・地域の交流がない。		市役所、病院、買い物ができる店を循環するバス。
高齢独居の方もヘルパーが十分でない方がいます。少し時間が延ばせれば+αの家事をしてもらえるのではと思いました。	困り事をケアマネジャーにつなげるなどをしています。	
高齢者の移動支援が足りない（担い手も足りない）。	地域のコミュニティで実施している移動支援サービスに登録している（運転手として）→実績はない。	移動支援サービスの運転手が同じく高齢化している。他の事業所などにも呼びかけ、その地域に関わるいろいろな事業所と協力できるように行政から働きかけてほしい。
お金のこと	各制度の説明	
一人暮らしでの不安要素の相談がある。	聞かれた内容にもよるが、アドバイスできる事はアドバイスしている。	行政でも訪問して相談を聞いて欲しい。
閉鎖されると困ると言われる利用者は多い。	閉鎖のため、2月現在できることはあまりないと思う。	
病院の数が少ない。介護施設が少ない。	基本要介護1の方からの入居だが、要支援の方も受け入れしている。	・夜間のオンコール。 ・急変時に対応してくれる病院。
長寿社会になり、老々介護もめずらしくなくなっている。自宅で最後までくらしたいという方がふえてきている。	その方が希望している生活の支援（サービスの提供など）。	インフォーマルなサービスについて
要介護認定を受けるまででない方が気軽に集まれる場所がない。	要介護以上の方のデイサービス、ヘルパーステーションしかない。	居場所の提供
短期入所の受け入れの相談や入所希望、受け入れ先がないとの相談があるが、空いた部屋がなく受け入れることができない（特に長期の短所入所）。	日中一時、短期入所の相談（短期入所については、週末に部屋が空いた時に限定される）。	ネットワーク作りを密にする（他施設、行政、相談員）。
・短期入所の施設がない。 ・ヘルパー不足（移動支援）。ヘルパーに朝早くとか休日、年末年始などに入ってもらえるところが少ない。 ・障がい者の日中活動が15:30までのところが多く、フルタイムで働く共働き世帯は困っている。せめて17:00まで対応してほしいとのこと。	相談支援によるサービス調整	不足しているサービスの新規事業所のたち上げ、事業継続のバックアップなど。
ありません。地域の方々と接することが無いです。		
地域の問題等を聞くことはありません。		

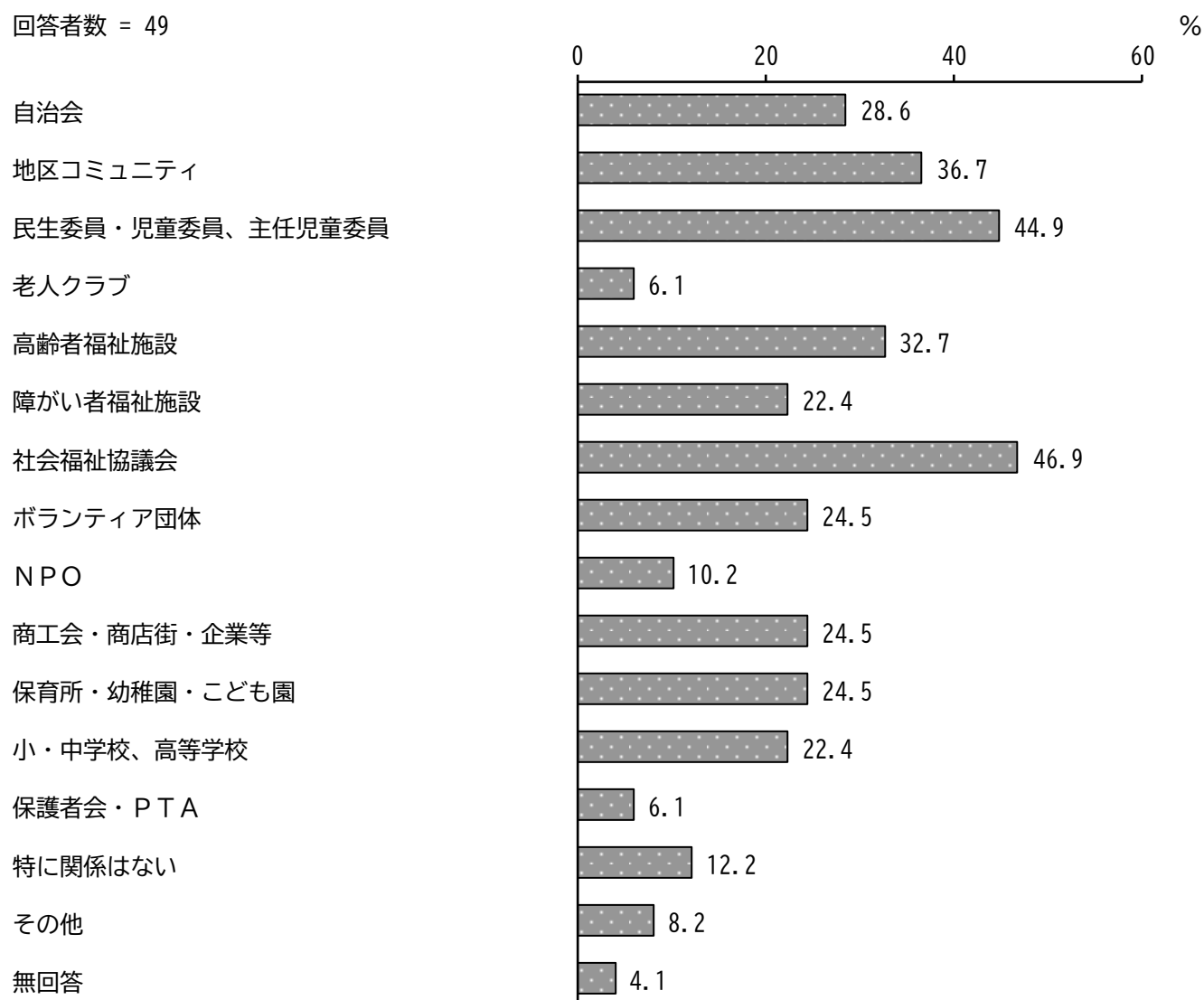
問4 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問5 問4の回答の中で、貴事業所が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問6 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体等に協力してほしいことはありますか。
本施設で聞くことはない。併設している相談事業所で受けている。		
介護疲れ 金銭面 福祉サービスの内容	困り事をサービスや用具で可能な限り解決する。	人員確保
病院への移動手段	介護保険外サービスにての提案	
1番多いのは介護保険外の相談の方が多い。例えば市役所への申請だとか1人ではできなくなったことをどうにかしてほしいと言うような相談が多い。	ご本人ができず、ご家族も支援ができない場合には、仕方なくこちらの方で対応している。ボランティアです。	行政を含め、他の団体等に協力してほしいと思っても、時間外では対応してくれないことが多く、困っています。民間は24時間対応を求められる場合があるので、行政も先頭に立って24時間対応をしてくれるとありがたいと思います
地域密着サービスの運営推進会議などで、委員の方の意見をお聞きすることはある。そのような中で、「必要になった時に気軽に相談ができるように顔なじみの関係が作りたい」「施設があるのは知っているが、どのような所か分からない」等の意見がある。	地域活動への参加やイベントの開催を行って、周知活動を行っている。	行政や包括が行っている活動や健康教室などは継続して行ってほしい。ただ、周知に関して言えばまだまだ十分ではないと思う。認知症カフェや相談会、健康教室などに、「どのような周知活動を行って目標の集客人数何人に対して何人の参加があった」「周知方法が目標に対して十分であったか」「次回どのような周知活動をしていけばいいのか」「目標値の定め方は適正であったか」「集客の結果として、どのような効果があったか」の検討を十分にいただき、福祉制度の内容や利用方法についての周知を行ってほしい。厳しい見方をすれば、開催することに目標を置いていないでしょうか？
介護保険のややこしさ。色々な施設があり分かりにくい。	個別に相談があれば対応	近い場所やweb上で分かりやすく説明できる仕組み
入院や仕事に伴う子どもの預け先が無い。	一時預かりの受入れ	
色々な施設があり、どこがどのような施設なのかよくわからない。(民生委員より) 困っている時に直ぐ利用したくても利用できない。ケアマネに相談しても直ぐには動いてもらえない。	介護保険や施設の説明は、直ぐに行える。相談を受け、必要な関係機関に連絡を行い、現状を報告する。	包括支援センターのケアマネは、民間のケアマネに比べ、動きが遅いと感じる。今すぐにサービスを利用したいと思っても、直ぐに対応できないケースがよくある。ケアマネが少ない為なのかよくわからないが・・・
障害者雇用についての相談		
隣の医院での紹介により入所、通所となることが多いが、規模の点で受入れの限度がある。	職員の充足と規模の拡大	施設維持管理費の補助、人件費の補助、職員の充足
感染症の影響で地域での集まり等が無くなったことで交流の場所等がなくなった。また交流の場	地域の交流の場所での介護相談、体験会の開催など	公平さ等もあるかと思いますが、ある程度の選択肢として保険サービスの紹介やパンフレットな

問4 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問5 問4の回答の中で、貴事業所が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問6 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体等に協力してほしいことはありますか。
所があり、参加したくても、その場所へ行くことにも向かう方法などに苦慮している。		どを地域の方の手の取りやすいような場所、公民館や市役所やセンター内に置かせていただければと思います。
外出するにあたり、送迎の問題	送迎ルートの柔軟な対応	
入居者様家族が高齢となり、なかなか面会に来れない。	電話やリモートによる面会。ご家族への定期的な病状報告。	
食事や買い物が困る。	配食サービスや外出支援など	協力できる人員
通所介護を利用している方から、知人の物忘れがひどくなっている。家に来るもなかなか帰ろうとしない。風呂に入れていないようで匂いがあると相談されたことがあります。	話を伺い、当施設のケアマネジャーに繋ぐ対応ができます。	1人暮らしの高齢者・認知症かなと思う方に介護保険についてお話しできる場所や、相談する場所がもっと増えればと思います。認知症カフェの開催日の増加など。
小学校や学童で過ごす中で、他の子に先生が手をとられてもらえていない事や子どもの特性を理解してもらえず子どもがしんどい思いをしている、学童から遠まわしにみれないというようなことを言われ、どうしたらいいか連絡がある方もいます。	学童の利用が難しい場合は、市に日数の相談をさせて頂いています。また学校での困りごとは学校を含めてのケース会を行っています。しかしケース会を開くが、前向きではない印象を受けることもあるので、正直難しいです。	
1. 家族が疲弊しているのに本人が施設入居や介護サービスの利用に同意されない。2. 現在の身体状況、経済状況で入居が可能な施設がない。	1. 対象者宅を訪問しての相談支援。見学の同行支援。2. 実際に入居不可能なケースは稀であるため、情報提供を行っている。	
外出したくても交通手段がない。バス停が遠い。外出できなくなると、集まる場所もなく、人と話す事がない。近所の人とも会うことがない。災害時の避難場所、訓練の情報が入ってこない。もし、災害がおきたとしても逃げることができない。	介護保険での通所サービスの調整。ハザードマップ等での確認の促し。	インフォーマルサービスの情報提供。災害時の対応について地域での個別避難計画作成等
移動手段について	自費サービスの提案。	移動を含む、生活でのちょっとした困りごとに適切な対応をしてほしい。
相談をしても、どこもが他機関を紹介して困る。物価が上がり食費等、生活の大変さが直結している。精神障害の方が精神以外の病院受診では3割負担であり受診を控えたりしている。当事業所が送迎をしておらず今後、高齢家族より送迎の心配があり、何か制度を使えないかと言われるが現制度では使えない。	初めての面識のない方からの相談もあれば聞いて他機関に相談している。工賃を上げる努力はしているが限界がある。3障害同じ医療負担であって欲しい。事業所が送迎を考えているが現状では難しい。	行政かもしくはその委託先が最初の相談は受けて欲しい。

問7 貴事業所では、活動を行ううえで他のボランティア団体や公共団体等との交流や協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「社会福祉協議会」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員、主任児童委員」の割合が 44.9%、「地区コミュニティ」の割合が 36.7%となっています。

回答者数 = 49



「その他」内訳
市役所、相談支援事業所
シルバー交番員
支援学校

【対象者別】

対象者別にみると、「障がい者福祉施設」、「社会福祉協議会」の割合が障がい者で高く、「民生委員・児童委員、主任児童委員」、「高齢者福祉施設」の割合が高齢者で高くなっています。

単位：％

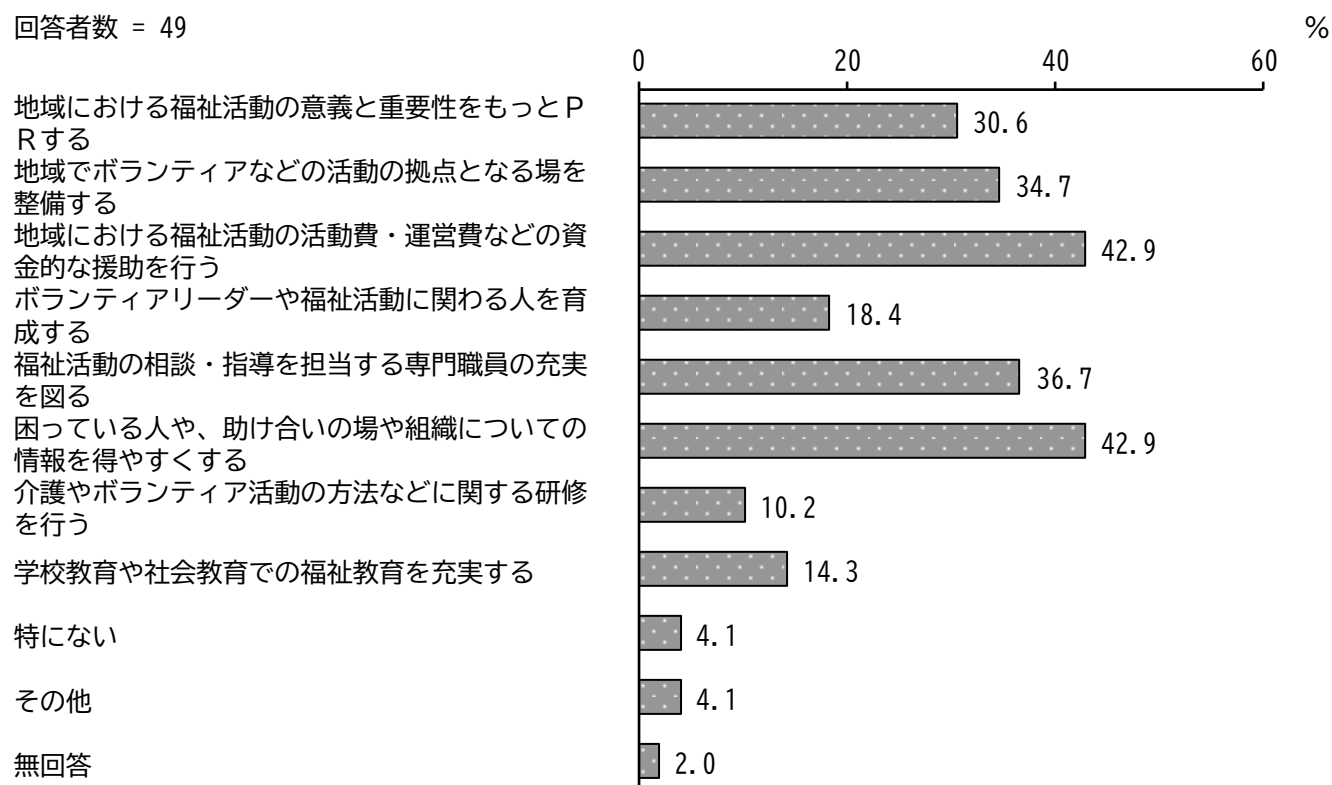
対象者 \ 質問項目	回答者数(件)	自治会	地区コミュニティ	民生委員・児童委員、主任児童委員	老人クラブ	高齢者福祉施設	障がい者福祉施設	社会福祉協議会	ボランティア団体
全 体	49	28.6	36.7	44.9	6.1	32.7	22.4	46.9	24.5
高齢者	36	33.3	38.9	52.8	5.6	44.4	13.9	47.2	25.0
障がい者	18	22.2	44.4	44.4	11.1	33.3	50.0	61.1	27.8
子育て中の保護者	2	100.0	50.0	100.0	—	50.0	50.0	100.0	50.0
未就学児	5	40.0	20.0	40.0	—	20.0	40.0	60.0	20.0
小・中学生	5	40.0	20.0	40.0	—	20.0	40.0	60.0	20.0
高校生・大学生等	4	50.0	25.0	50.0	—	25.0	25.0	50.0	25.0
外国人	1	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	1	—	100.0	100.0	—	100.0	—	100.0	—

対象者 \ 質問項目	NPO	商工会・商店街・企業等	保育所・幼稚園・こども園	小・中学校、高等学校	保護者会・PTA	特に関係はない	その他	無回答
全 体	10.2	24.5	24.5	22.4	6.1	12.2	8.2	4.1
高齢者	5.6	22.2	22.2	13.9	2.8	13.9	5.6	2.8
障がい者	11.1	27.8	22.2	27.8	11.1	5.6	11.1	—
子育て中の保護者	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—
未就学児	60.0	40.0	80.0	80.0	40.0	20.0	—	—
小・中学生	60.0	40.0	80.0	80.0	40.0	20.0	—	—
高校生・大学生等	75.0	50.0	75.0	75.0	50.0	25.0	—	—
外国人	100.0	—	100.0	100.0	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

問8 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」の割合が 36.7%となっています。

回答者数 = 49



「その他」内訳

近場にどんな福祉サービスがあるのか、どんな方がそこを利用できるのか、企業はどう関わることが出来るのかを地域の人が知ること。

課題を明確化して、共有することで助けてくれる人や企業が集まるのではないかな？

【対象者別】

対象者別にみると、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」、「ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する」の割合が高齢者で高く、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」の割合が障がい者で高くなっています。

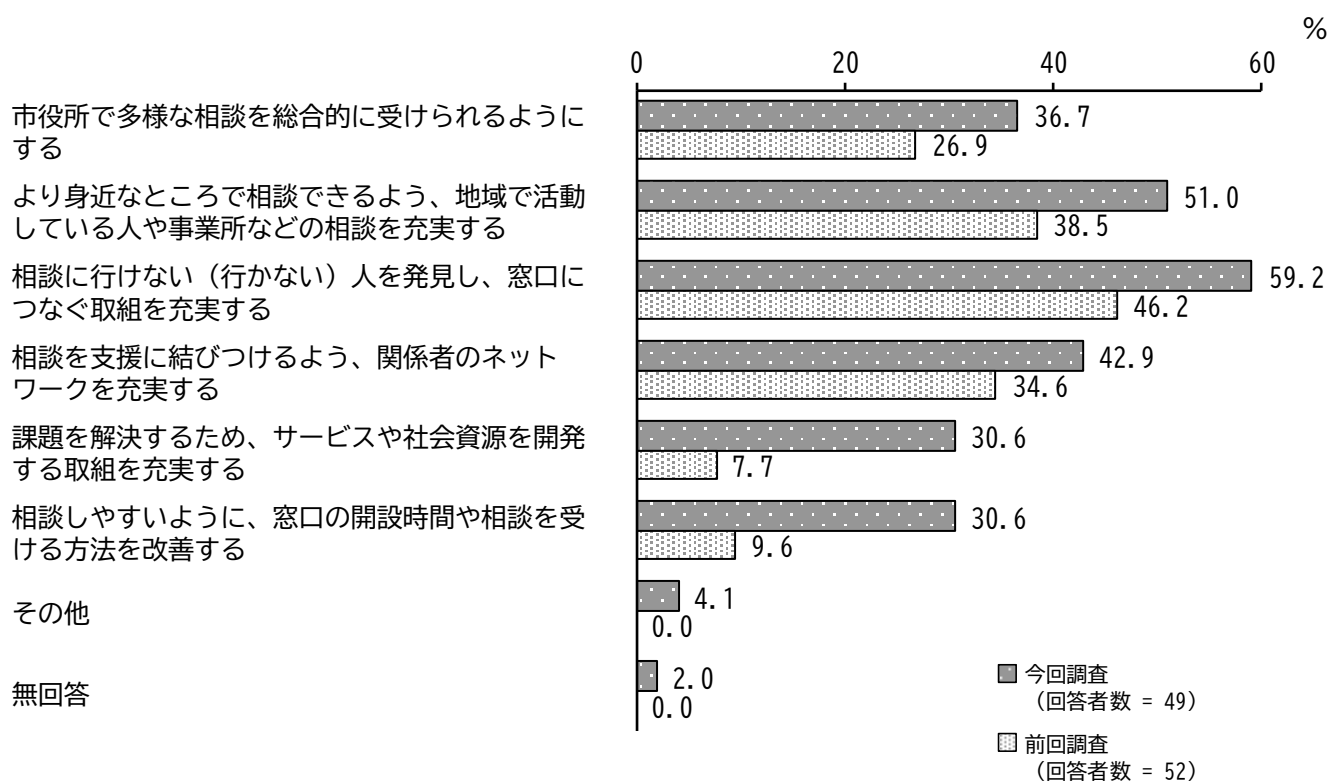
単位：％

対象者	質問項目	回答者数(件)	地域における福祉活動の意義と重要性をもつとPRする	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	特にない	その他	無回答
全 体		49	30.6	34.7	42.9	18.4	36.7	42.9	10.2	14.3	4.1	4.1	2.0
高齢者		36	27.8	41.7	47.2	25.0	36.1	44.4	8.3	13.9	5.6	—	—
障がい者		18	33.3	33.3	50.0	5.6	38.9	50.0	11.1	22.2	—	5.6	—
子育て中の保護者		2	—	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—
未就学児		5	—	20.0	40.0	—	40.0	80.0	—	20.0	—	20.0	—
小・中学生		5	—	20.0	40.0	—	40.0	80.0	—	20.0	—	20.0	—
高校生・大学生等		4	—	25.0	50.0	—	25.0	75.0	—	—	—	25.0	—
外国人		1	—	—	100.0	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—
その他		1	—	100.0	—	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—

問9 多様な生活課題に対して制度等の枠を超えた包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」の割合が 51.0%、「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」の割合が 42.9%となっています。

前回調査と比較すると、「市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする」「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」「相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」「課題を解決するため、サービスや社会資源を開発する取組を充実する」「相談しやすいように、窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善する」の割合が増加しています。



「その他」内訳
事業所を増やす。
福祉サービスを知らない人に、福祉サービスとは何か、受ける為にはどうすればいいかを知ってもらう機会・環境を整える。

【対象者別】

対象者別にみると、「市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする」、「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」の割合が障がい者で高く、「相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」の割合が高齢者、障がい者で高くなっています。

単位：％

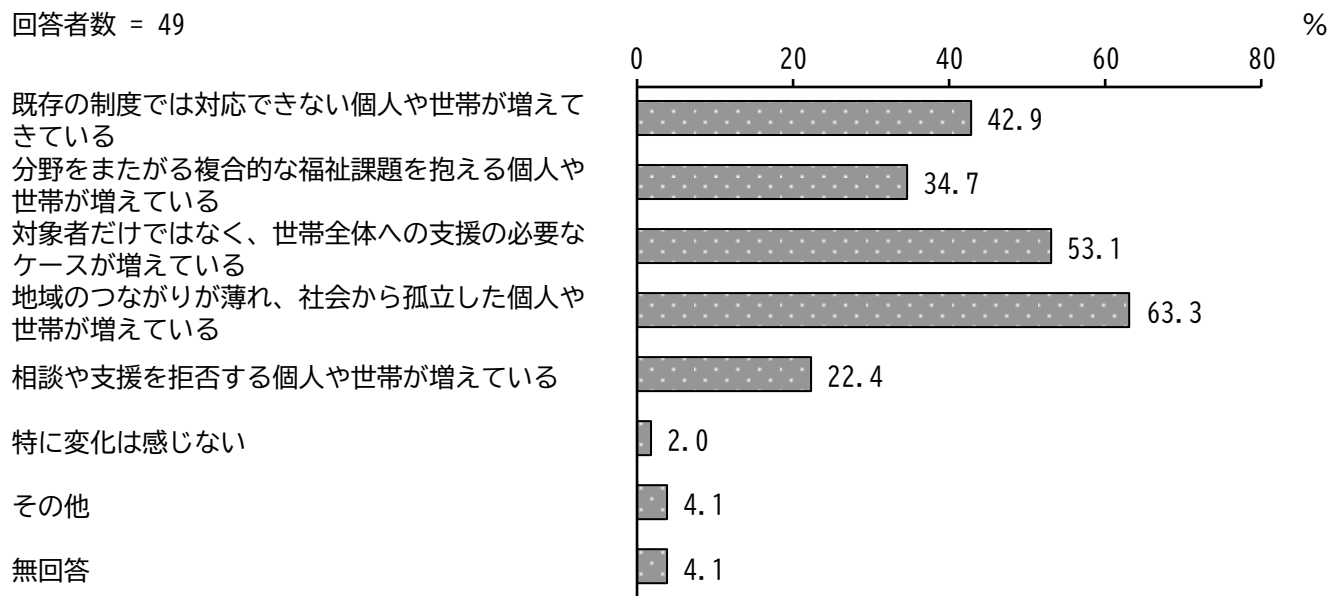
質問項目 対象者	回答者数（件）	市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする	より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する	相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する	相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する	課題を解決するため、サービスや社会資源を開発する取組を充実する	相談しやすいように、窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善する	その他	無回答
全 体	49	36.7	51.0	59.2	42.9	30.6	30.6	4.1	2.0
高齢者	36	30.6	58.3	66.7	44.4	33.3	30.6	—	—
障がい者	18	55.6	61.1	66.7	44.4	33.3	50.0	5.6	—
子育て中の保護者	2	50.0	—	50.0	—	100.0	—	—	—
未就学児	5	40.0	—	40.0	—	40.0	—	20.0	—
小・中学生	5	40.0	—	40.0	—	40.0	—	20.0	—
高校生・大学生等	4	50.0	—	25.0	—	50.0	—	25.0	—
外国人	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—
その他	1	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—

(3) 相談体制について

問 10 最近の相談内容や支援対象者の傾向について、どのように感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が 63.3%と最も高く、
次いで「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」の割合が 53.1%、「既
存の制度では対応できない個人や世帯が増えてきている」の割合が 42.9%となっています。

回答者数 = 49



「その他」内訳
障害者施設利用者の高齢化
年代や環境によって異なる。若い子ほど働く意識が希薄で周囲へ与える影響（良・悪）が大きいと感じる。

【対象者別】

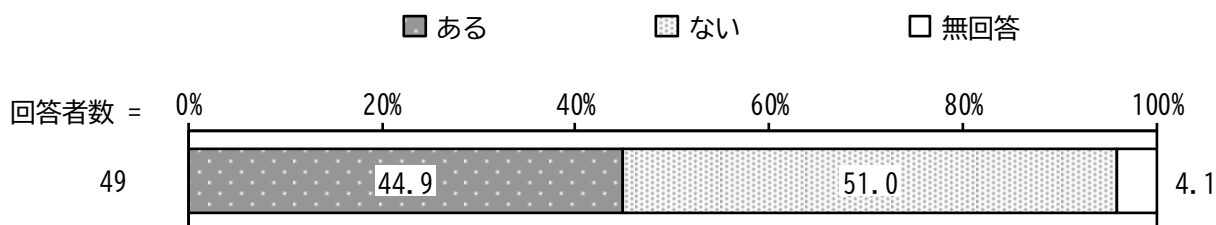
対象者別にみると、「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」、「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」の割合が障がい者で高く、「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が高齢者で高くなっています。

単位：％

質問項目 対象者	回答者数(件)	既存の制度では対応できない個人や世帯が増えている	分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている	対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている	地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている	相談や支援を拒否する個人や世帯が増えている	特に変化は感じない	その他	無回答
全 体	49	42.9	34.7	53.1	63.3	22.4	2.0	4.1	4.1
高齢者	36	44.4	36.1	50.0	69.4	25.0	—	—	2.8
障がい者	18	44.4	55.6	66.7	61.1	11.1	5.6	11.1	—
子育て中の保護者	2	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	—	—	—
未就学児	5	60.0	40.0	80.0	80.0	40.0	—	—	—
小・中学生	5	60.0	40.0	80.0	80.0	40.0	—	—	—
高校生・大学生等	4	50.0	50.0	75.0	100.0	50.0	—	—	—
外国人	1	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
その他	1	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—

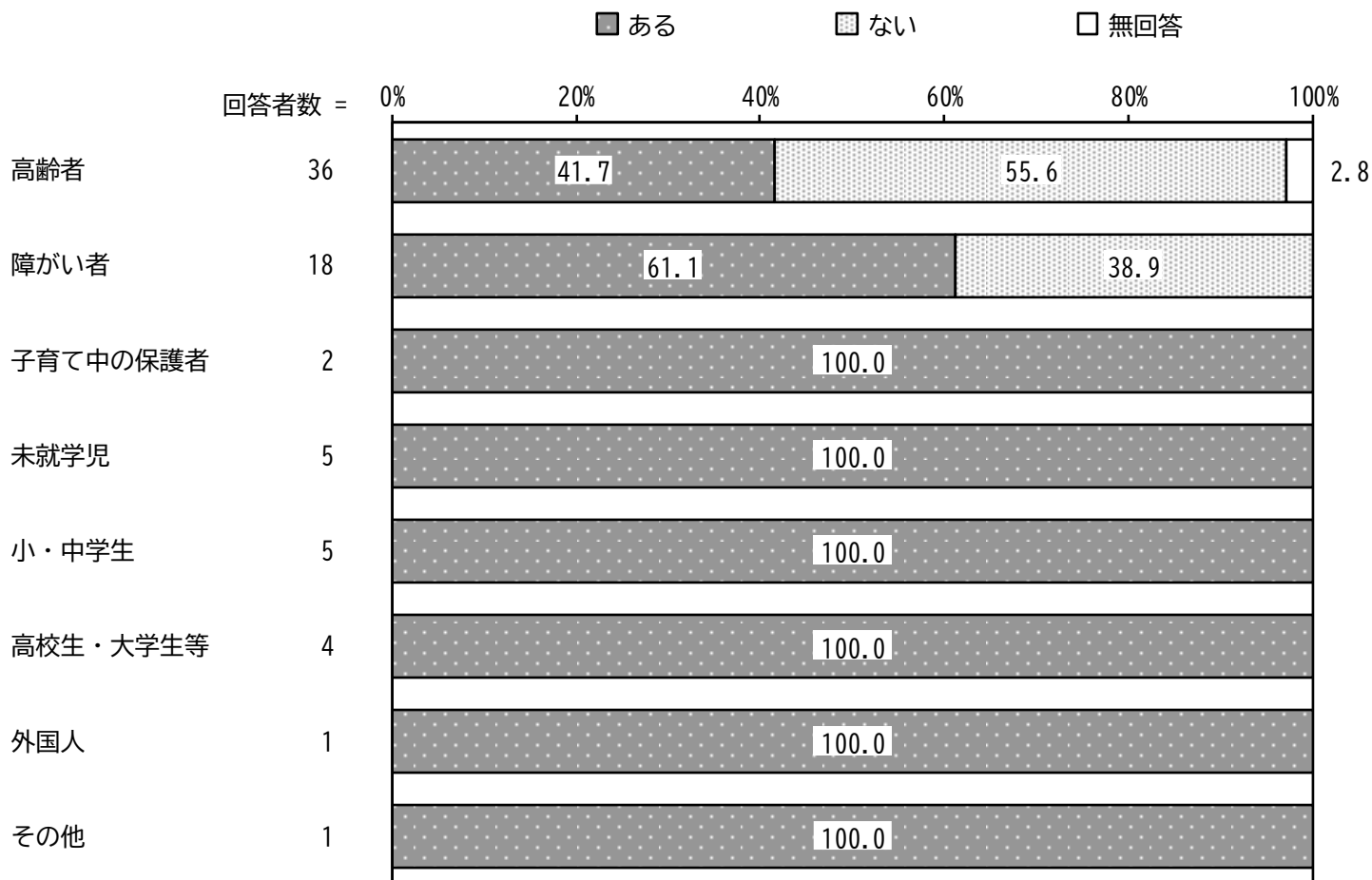
問 11 「制度の狭間」や「複合多問題」といった福祉課題を抱えた個人や世帯について、相談を受けたことがありますか。(〇は1つ)

「ある」の割合が44.9%、「ない」の割合が51.0%となっています。



【対象者別】

対象者別にみると、「ある」の割合が障がい者で高くなっています。

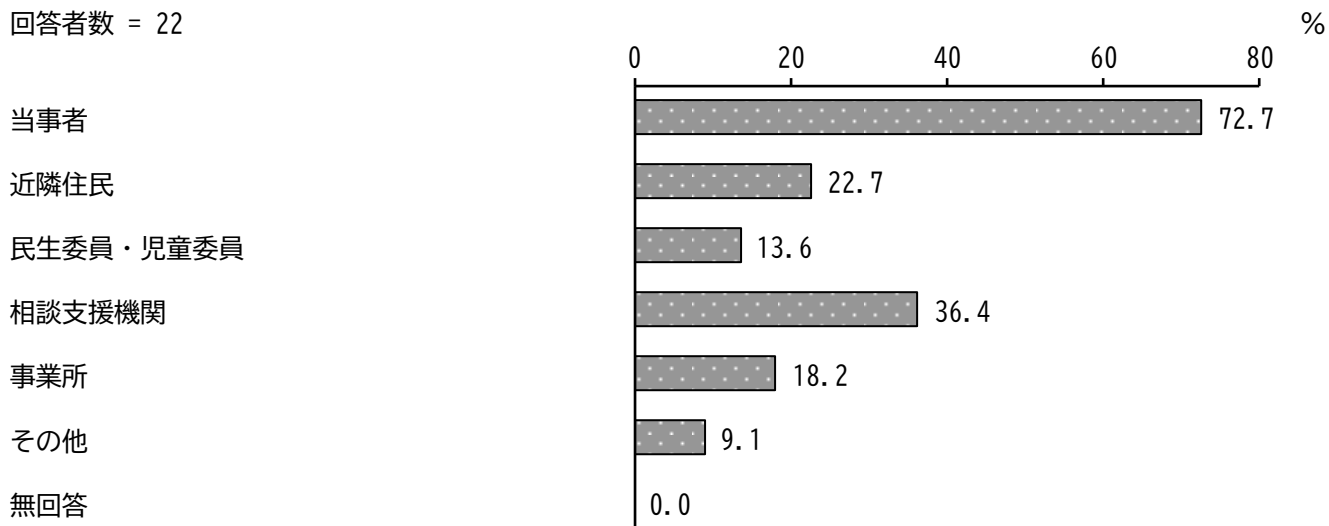


問 11 で「ある」と回答した方のみお答え下さい。

問 11－1 問 11 のような相談は、どこから受けることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

「当事者」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「相談支援機関」の割合が 36.4%、「近隣住民」の割合が 22.7%となっています。

回答者数 = 22



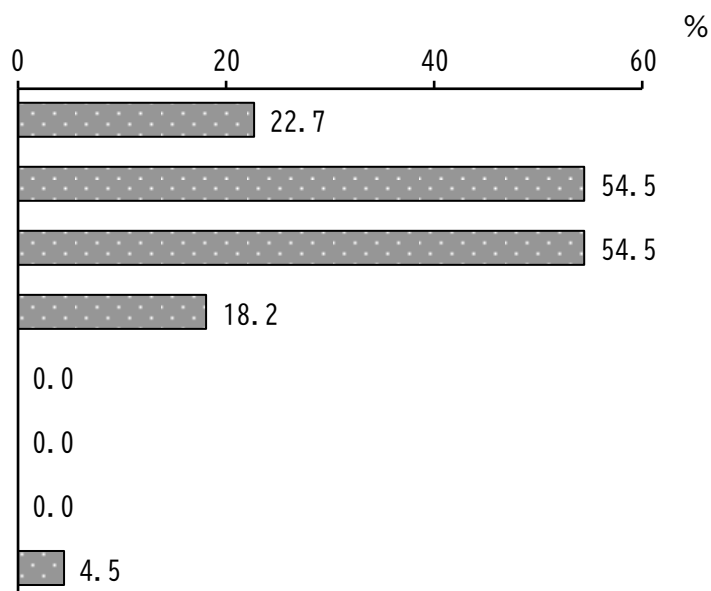
「その他」内訳
教育機関
病院

問 11－2 受けた相談が通常関わる業務範囲以外の内容である場合、どのように対応していますか。(○は2つまで)

「相談内容に合致する相談支援機関に直接連絡し、対応を依頼する」、「相談内容に合致する相談支援機関を相談者に伝え、相談者から直接相談してもらっている」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「相談内容に合致する相談支援機関に直接連絡し、相談者と同行訪問して状況確認するなどの対応をしている」の割合が 22.7%となっています。

回答者数 = 22

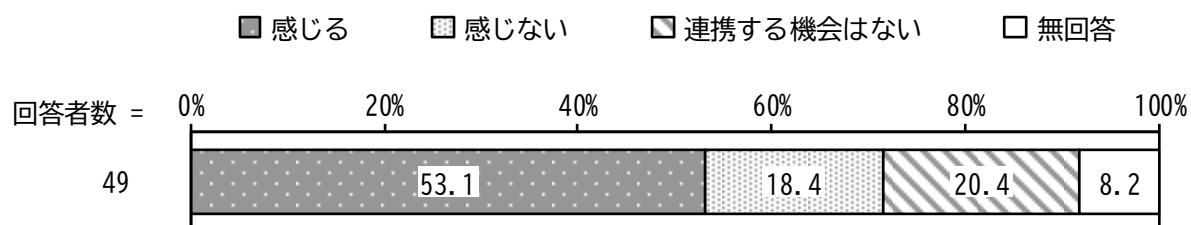
相談内容に合致する相談支援機関に直接連絡し、相談者と同行訪問して状況確認するなどの対応を相談内容に合致する相談支援機関に直接連絡し、対応を依頼する
相談内容に合致する相談支援機関を相談者に伝え、相談者から直接相談してもらっている
業務範囲以外の相談内容であっても、できる範囲で対応している
業務範囲以外の相談内容には、特に対応していない
どのように対応したらよいかわからない
その他
無回答



「その他」内訳
保護者の問題
金銭面、介護。
知的ボーダーの退園生の仕事や生活の支援

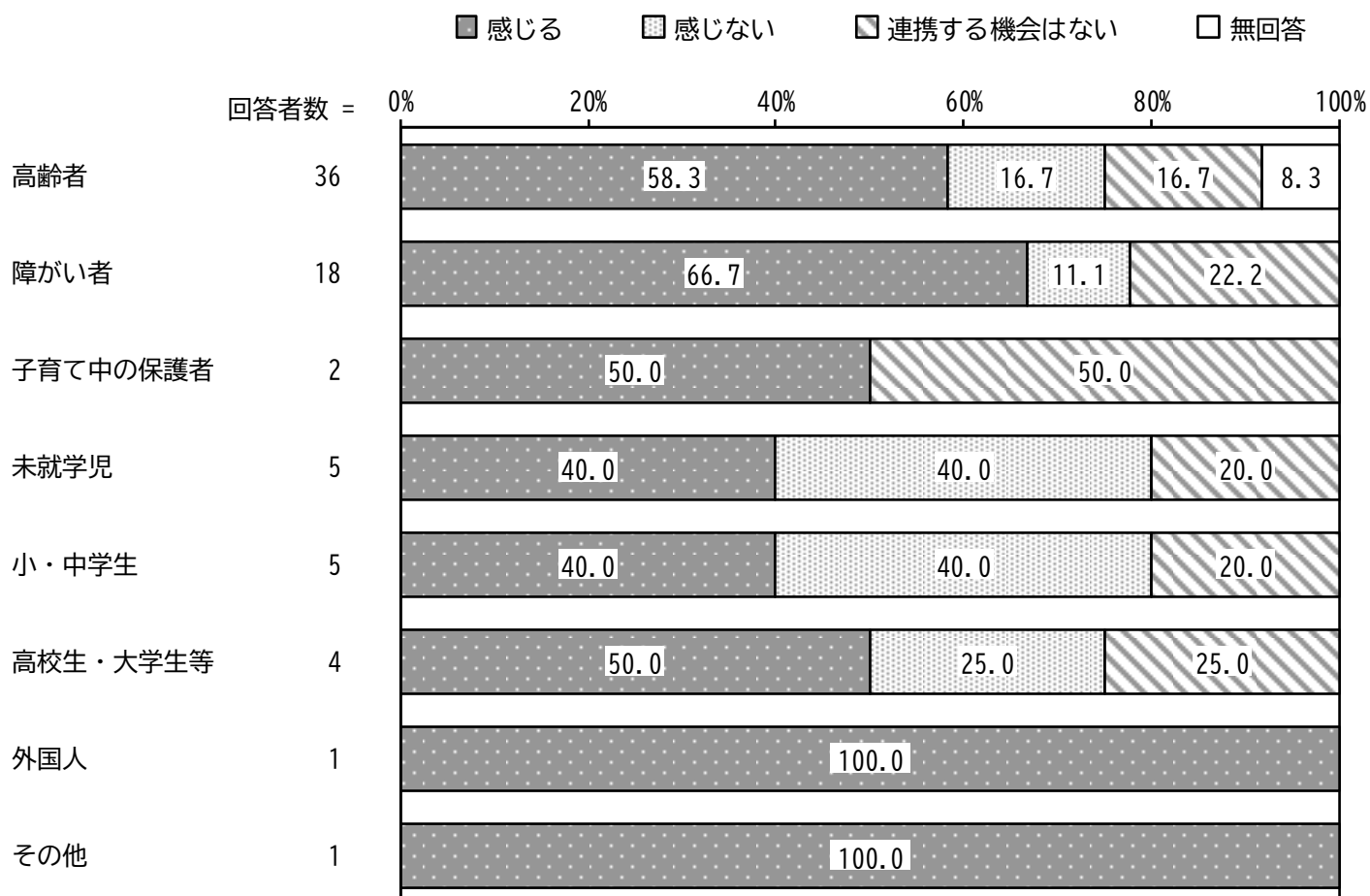
問 12 相談者への支援にあたって通常関わる業務範囲以外の相談支援機関・施設と連携する必要があるときに、連絡や連携はスムーズに行われていると感じますか。（○は1つ）

「感じる」の割合が 53.1%、「感じない」の割合が 18.4%、「連携する機会はない」の割合が 20.4% となっています。



【対象者別】

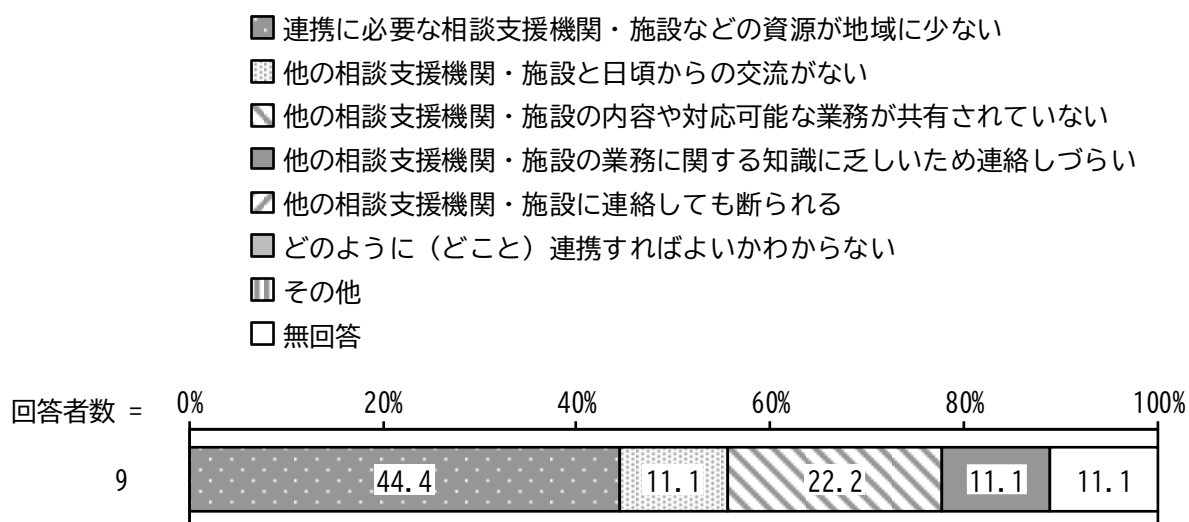
対象者別にみると、「感じる」の割合が障がい者で高くなっています。



問 12 で「感じない」と回答した方のみお答え下さい。

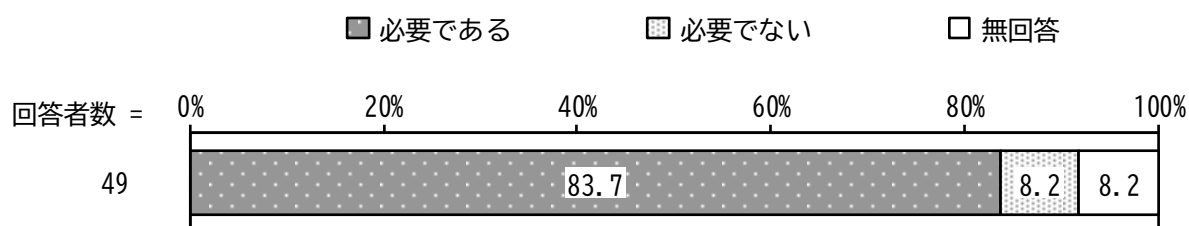
問 12－1 その理由として最もあてはまるのはどれですか。(○は1つ)

「連携に必要な相談支援機関・施設などの資源が地域に少ない」が4件、「他の相談支援機関・施設の内容や対応可能な業務が共有されていない」が2件、「他の相談支援機関・施設と日頃からの交流がない」、「他の相談支援機関・施設の業務に関する知識に乏しいため連絡しづらい」が1件となっています。



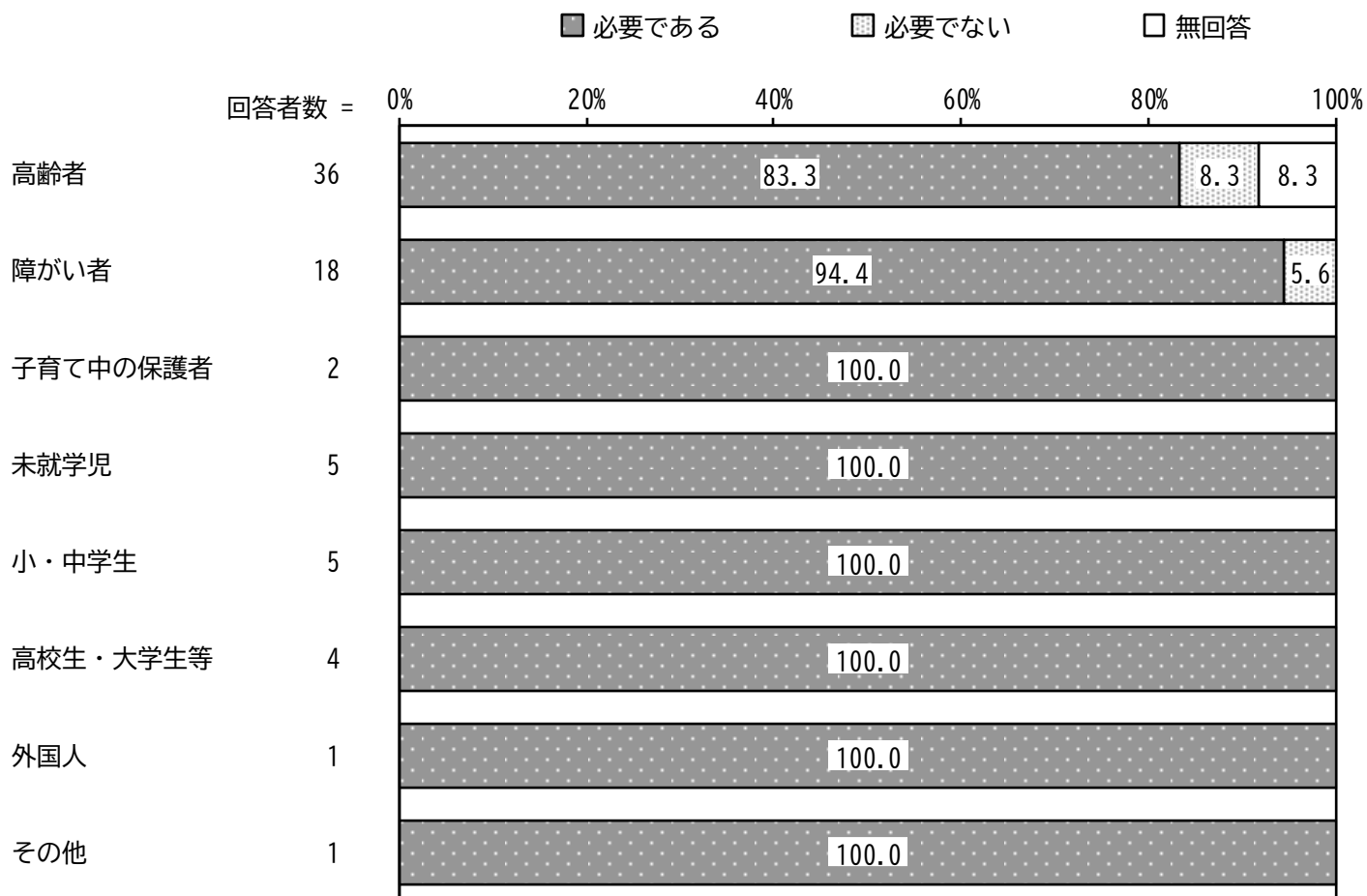
問 13 最近、「制度の狭間」や「複合多問題」といった福祉課題を抱えるため、単独の部署や相談支援機関のみでは対応困難な個人や世帯が増えてきていると言われています。このような場合に、複数の関係部署・機関をコーディネートする部署や相談支援機関が必要と考えますか。(○は1つ)

「必要である」の割合が 83.7%となっています。



【対象者別】

対象者別にみると、「必要である」の割合が障がい者で高くなっています。

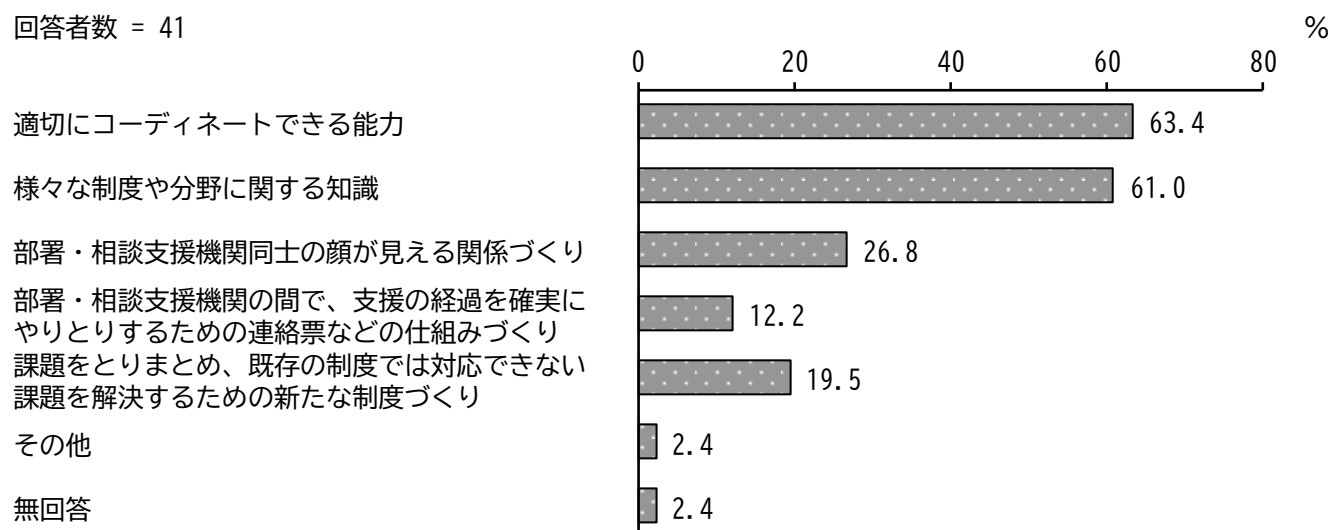


問 13 で「必要である」と回答した方のみお答え下さい。

問 13－ 1 コーディネートする部署や相談支援機関に必要な機能は何ですか。
（○は2つまで）

「適切にコーディネートできる能力」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「様々な制度や分野に関する知識」の割合が 61.0%、「部署・相談支援機関同士の顔が見える関係づくり」の割合が 26.8%となっています。

回答者数 = 41



「その他」内訳

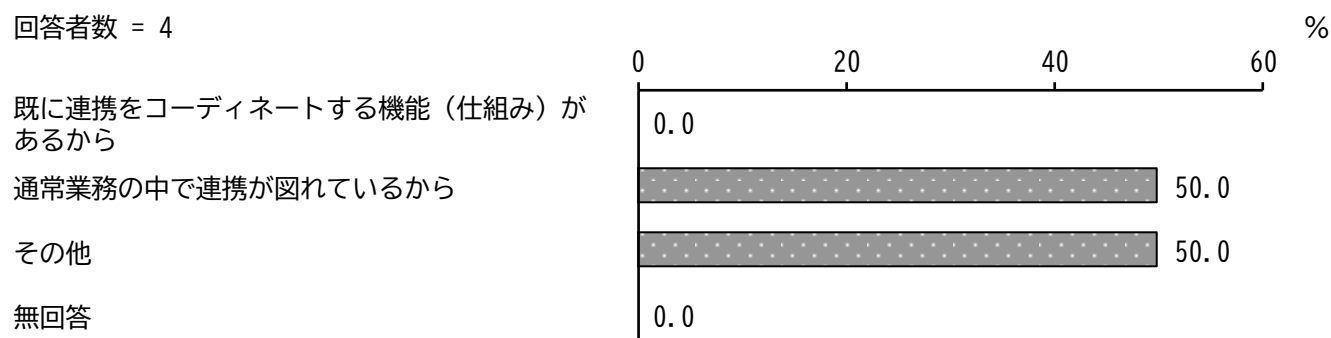
拠点となる場所と主たる運営管理者。

問 13 で「必要でない」と回答した方のみお答え下さい。

問 13－ 2 その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「通常業務の中で連携が図れているから」が2件となっています。

回答者数 = 4



「その他」内訳

コーディネートや連携に限界があり、対応困難なケースも多いため。

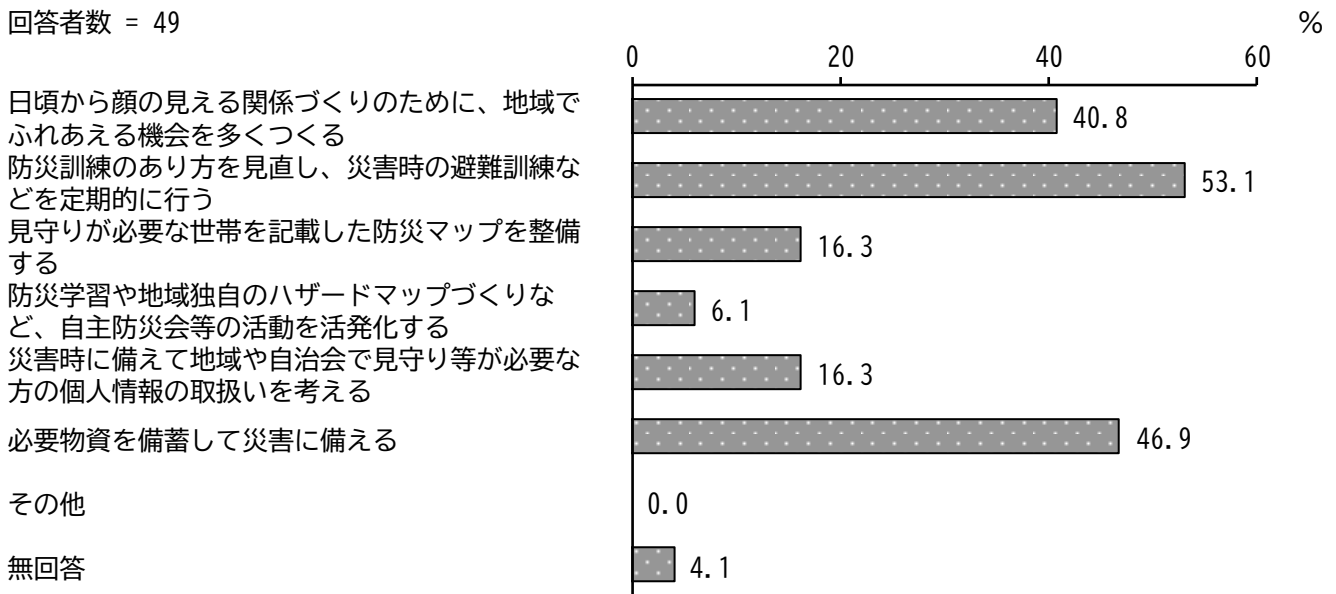
こちらからの要望ではなく、福祉課題を解決する側が必要かどうかを決めるべきだと思いますので。相談者からすれば、「こういうケースなのですが」と持ち込むだけかと思っています。

(4) 災害に関することについて

問 14 近年、災害が多発しています。災害に備えて日頃から地域でどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

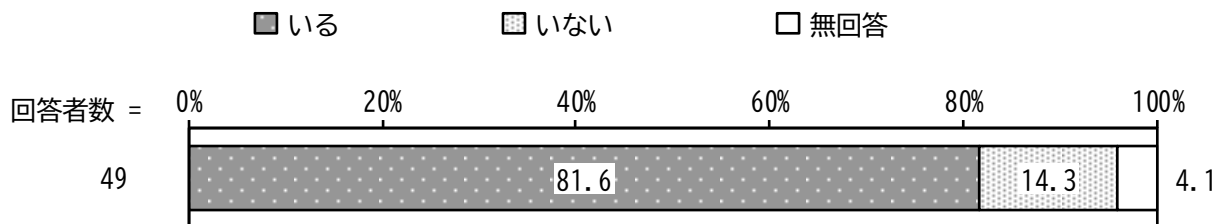
「防災訓練のあり方を見直し、災害時の避難訓練などを定期的に行う」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「必要物資を備蓄して災害に備える」の割合が 46.9%、「日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる」の割合が 40.8%となっています。

回答者数 = 49



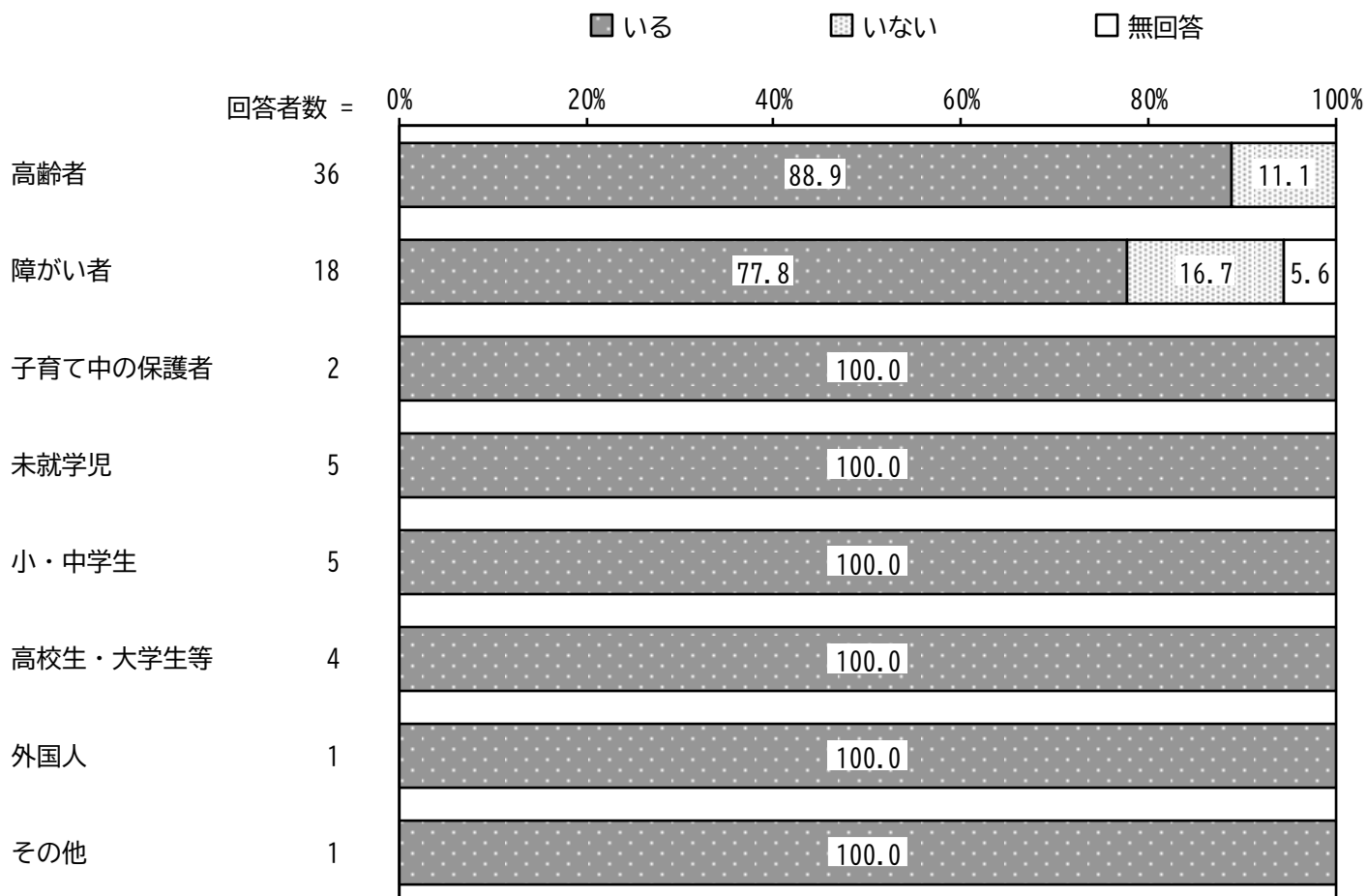
問 15 貴事業所がある地域では、災害時において、避難が困難だと感じる人がいますか。(〇は1つ)

「いる」の割合が 81.6%、「いない」の割合が 14.3%となっています。



【対象者別】

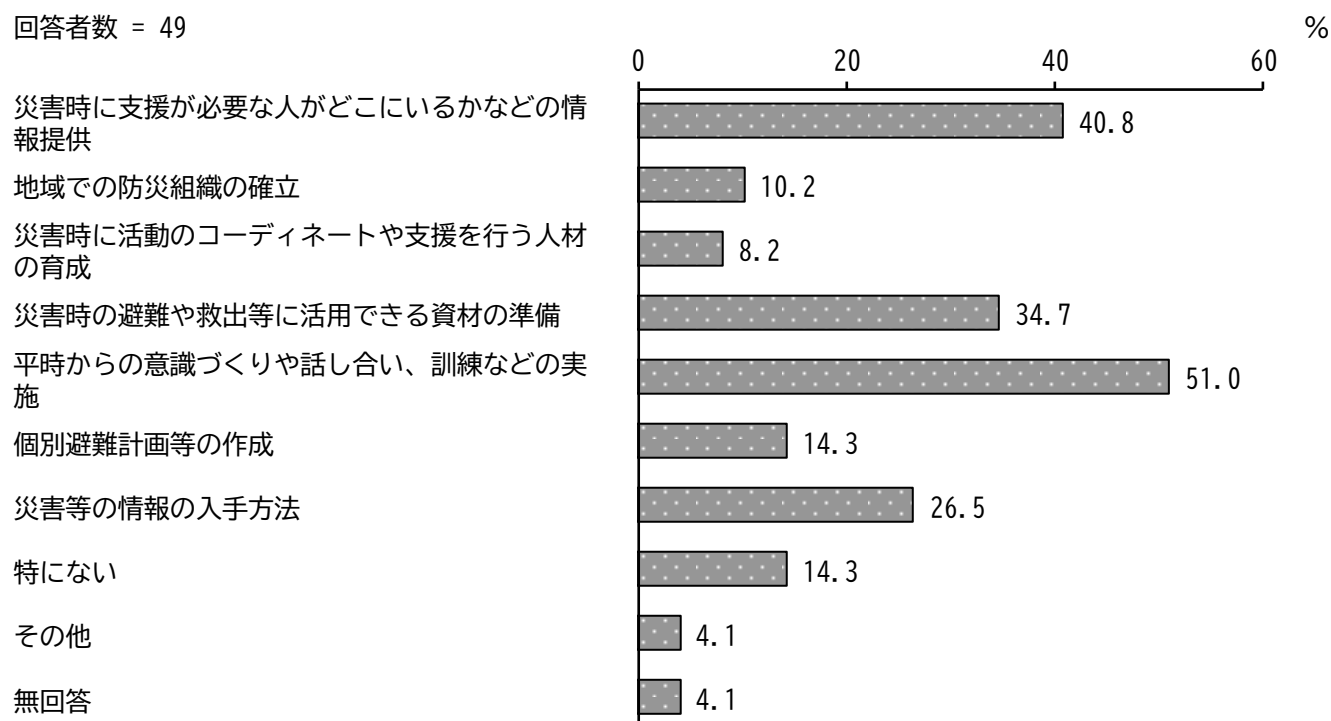
対象者別にみると、「いる」の割合が高齢者で高くなっています。



問 16 避難が困難だと感じる人に対して、貴事業所ではどのような取組をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「平時からの意識づくりや話し合い、訓練などの実施」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「災害時に支援が必要な人がどこにいるかなどの情報提供」の割合が 40.8%、「災害時の避難や救出等に活用できる資材の準備」の割合が 34.7%となっています。

回答者数 = 49



「その他」内訳
地域コミュニティと連携を密にして、福祉避難所としても協力している。
寝たきりの方が、何もしないで欲しいと言う。施設や病院へは行きたくないので、家で死にたいと言う。本人希望でもあるが、訪問時には他の方法等を話し合っている。
歩行困難者への補助を含めた避難訓練の実施

【対象者別】

対象者別にみると、「平時からの意識づくりや話し合い、訓練などの実施」の割合が障がい者で高くなっています。

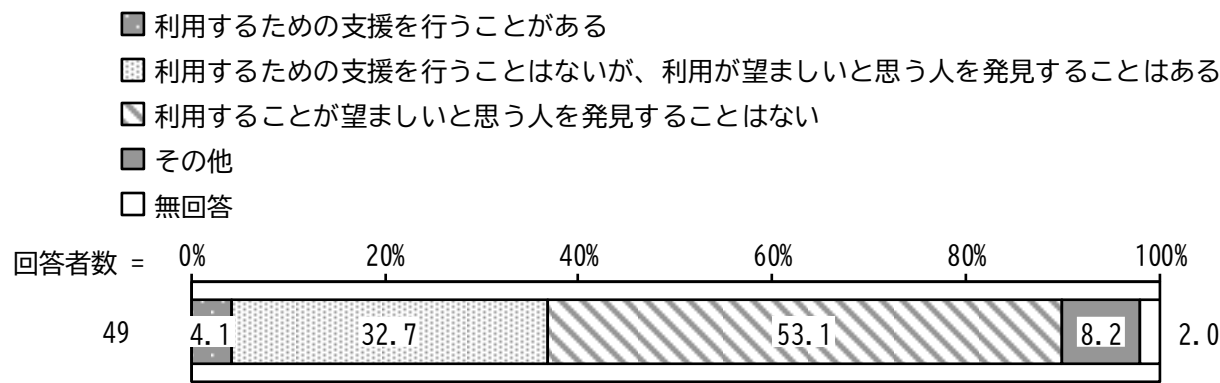
単位：％

対象者	質問項目	回答者数（件）	災害時に支援が必要な人がどこに いるか などの情報提供	地域での防災組織の 確立	災害時に活動のコー ディネートや支援を 行う人材の育成	災害時の避難や救出 等に活用できる資材 の準備	平時からの意識づく りや話し合い、訓練 などの実施	個別避難計画等の作 成	災害等の情報の入手 方法	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全 体		49	40.8	10.2	8.2	34.7	51.0	14.3	26.5	14.3	4.1	4.1
高齢者		36	44.4	8.3	8.3	33.3	50.0	16.7	25.0	16.7	2.8	2.8
障がい者		18	38.9	11.1	5.6	38.9	66.7	5.6	22.2	11.1	5.6	—
子育て中の保護者		2	50.0	—	—	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—
未就学児		5	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	—	—
小・中学生		5	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	—	—
高校生・大学生等		4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	—	—
外国人		1	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0	100.0	—	—	—
その他		1	100.0	—	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—

(5) 福祉制度や福祉事業について

問 17 「あすたねっと」について、貴事業所が対象としている人で、「あすたねっと」の利用を必要とする人を発見したり、利用のための支援を行うことがありますか。(〇は1つ)

「利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が 32.7%、「利用することが望ましいと思う人を発見することはない」の割合が 53.1%となっています。

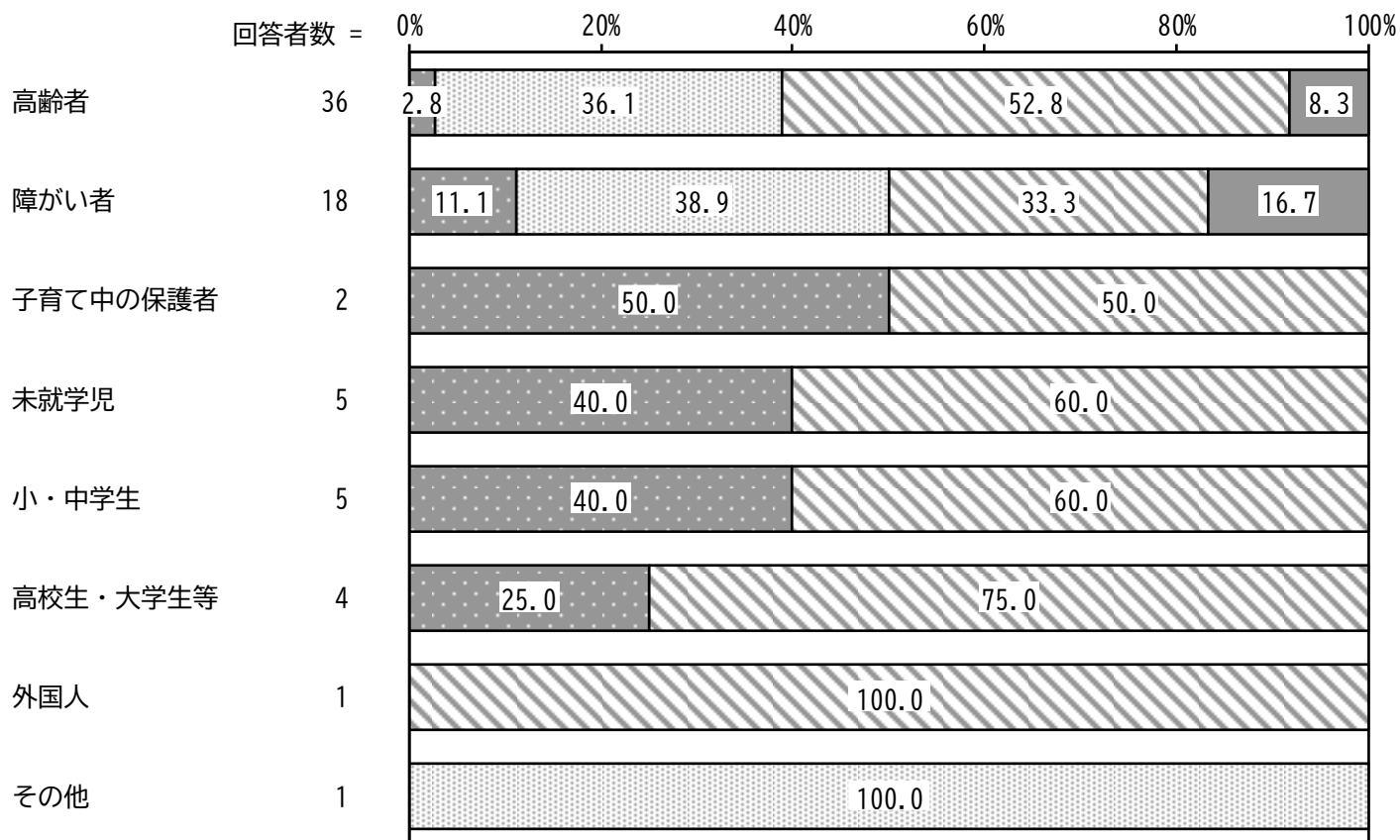


「その他」内訳
「あすたねっと」を知らなかった。
相談支援事業所等と連携をとっているので利用したことはありません。
あすたねっとの利用の対象者についてよくわからない。
利用したことがない。

【対象者別】

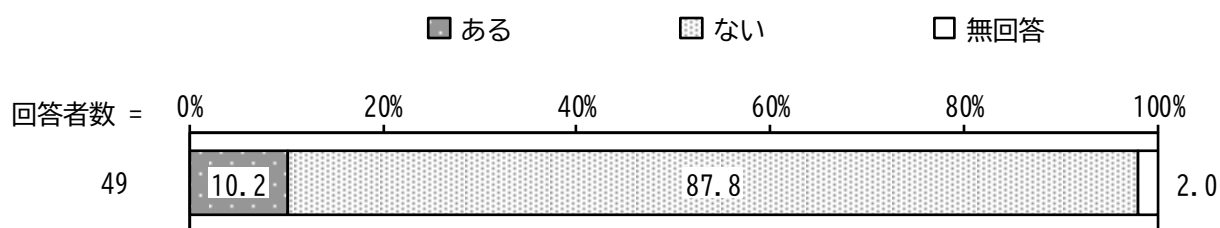
対象者別にみると、「利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が障がい者で高くなっています。

- 利用するための支援を行うことがある
- ▨ 利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある
- ▩ 利用することが望ましいと思う人を発見することはない
- その他
- 無回答



問 18 「再犯防止」に関して、貴事業所が取り組んでいることや協力していることはありますか。（○は1つ）

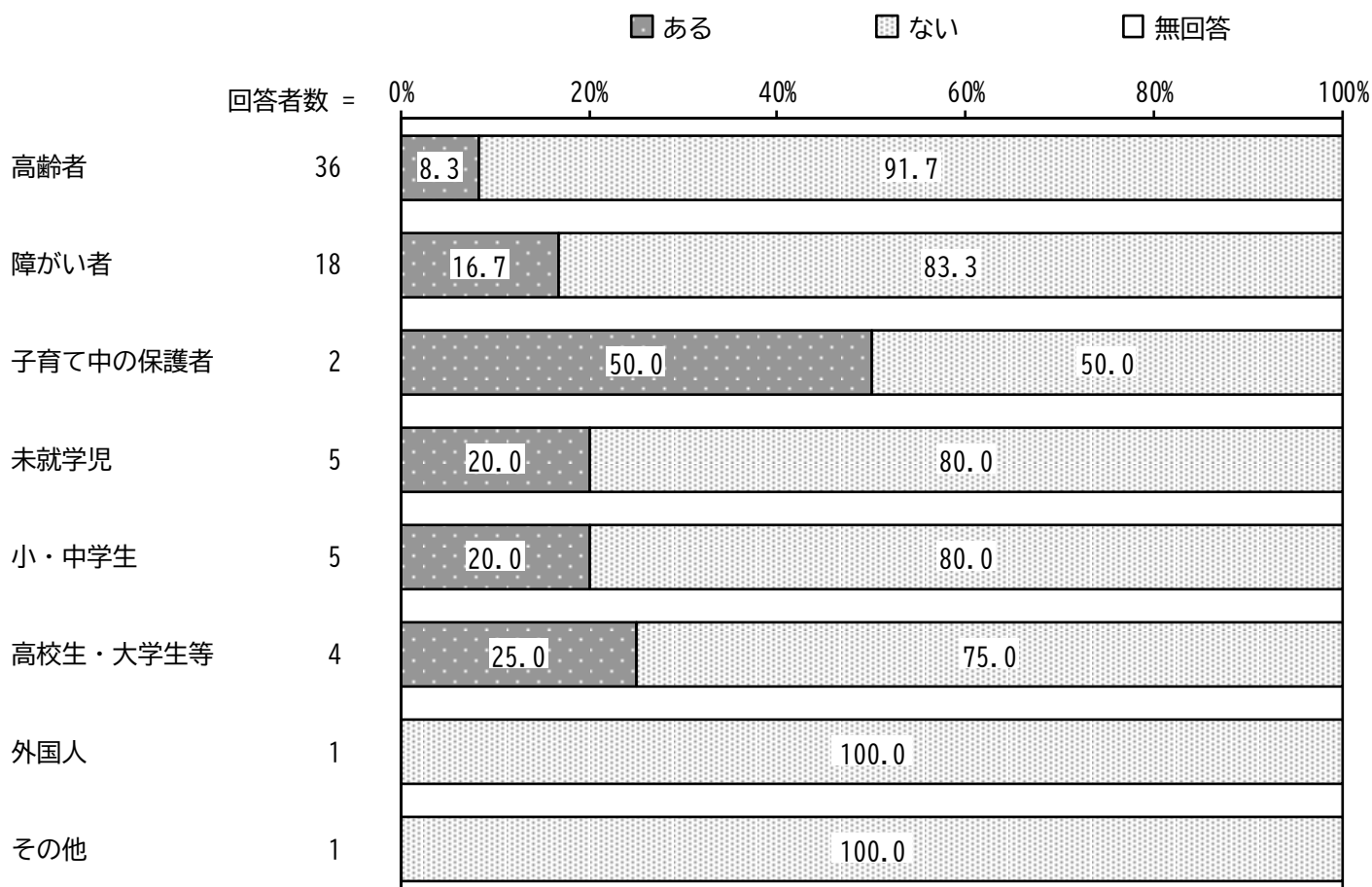
「ある」の割合が 10.2%、「ない」の割合が 87.8%となっています。



「その他」内訳
見守り体制の確保、再犯防止の対処法の提案。
保護監察対象者の雇用事業所登録。
少年院などを退所した方で障害のある利用者も受け入れており、社会生活・就労訓練の場として提供している。
補導委託事業

【対象者別】

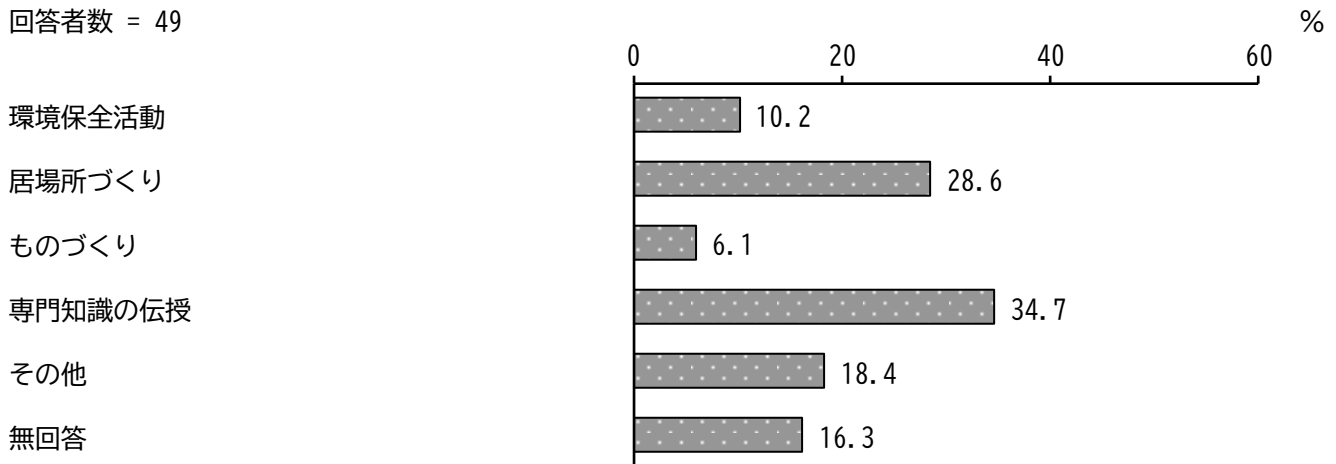
対象者別にみると、「ある」の割合が障がい者で高くなっています。



問 19 貴事業所が今後、社会貢献活動を行う矯正施設や更生保護施設等と共同で取り組めることはありますか？（あてはまるものすべてに○）

「専門知識の伝授」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「居場所づくり」の割合が 28.6%、「環境保全活動」の割合が 10.2%となっています。

回答者数 = 49



「その他」内訳
個人では決められない。会社側が取り組みを行なうかどうか。
雇用機会の提案

【対象者別】

対象者別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

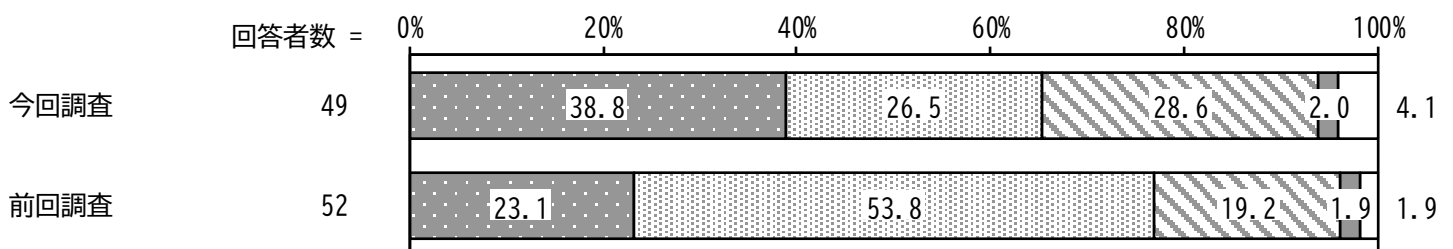
質問項目 対象者	回答者数 (件)	環境保全活動	居場所づくり	ものづくり	専門知識の伝授	その他	無回答
全 体	49	10.2	28.6	6.1	34.7	18.4	16.3
高齢者	36	13.9	30.6	5.6	38.9	13.9	16.7
障がい者	18	11.1	33.3	11.1	27.8	22.2	11.1
子育て中の保護者	2	—	—	—	100.0	—	—
未就学児	5	—	20.0	—	60.0	20.0	—
小・中学生	5	—	20.0	—	60.0	20.0	—
高校生・大学生等	4	—	25.0	—	75.0	—	—
外国人	1	—	100.0	—	—	—	—
その他	1	—	—	—	100.0	—	—

問 20 成年後見制度について、貴事業所が対象としている人で、成年後見制度の利用を必要とする人を発見したり、利用のための支援等を行うことがありますか。（〇は1つ）

「成年後見制度を利用するための支援を行うことがある」の割合が 38.8%、「制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が 26.5%、「活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない」の割合が 28.6%となっています。

前回調査と比較すると、「成年後見制度を利用するための支援を行うことがある」「活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない」の割合が増加しています。一方、「制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が減少しています。

- 成年後見制度を利用するための支援を行うことがある
- ▨ 制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある
- ▧ 活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない
- その他
- 無回答



「その他」内訳
話しをしても受け入れてもらえない。

【対象者別】

対象者別にみると、「成年後見制度を利用するための支援を行うことがある」の割合が障がい者で高くなっています。

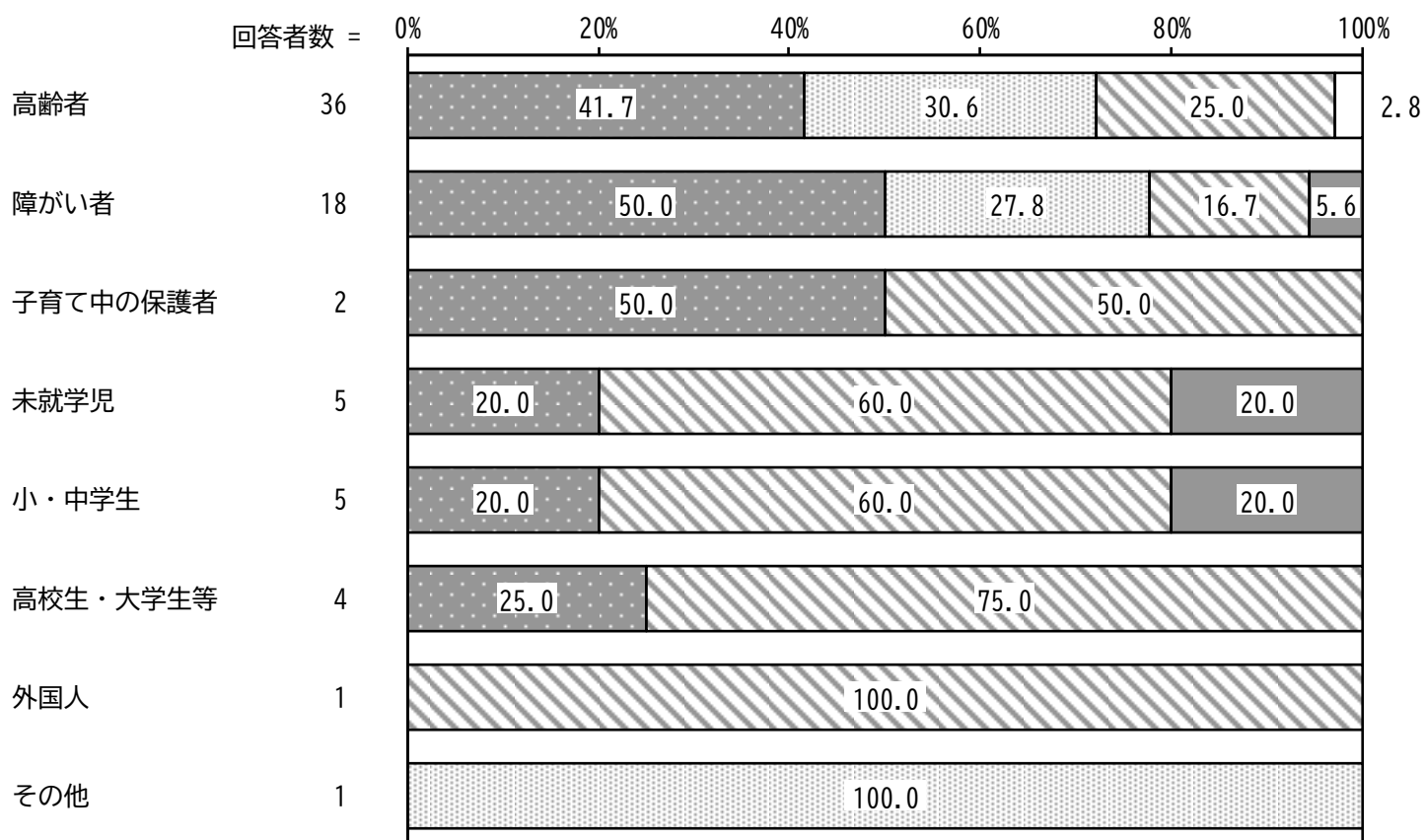
■ 成年後見制度を利用するための支援を行うことがある

▨ 制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある

▧ 活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない

■ その他

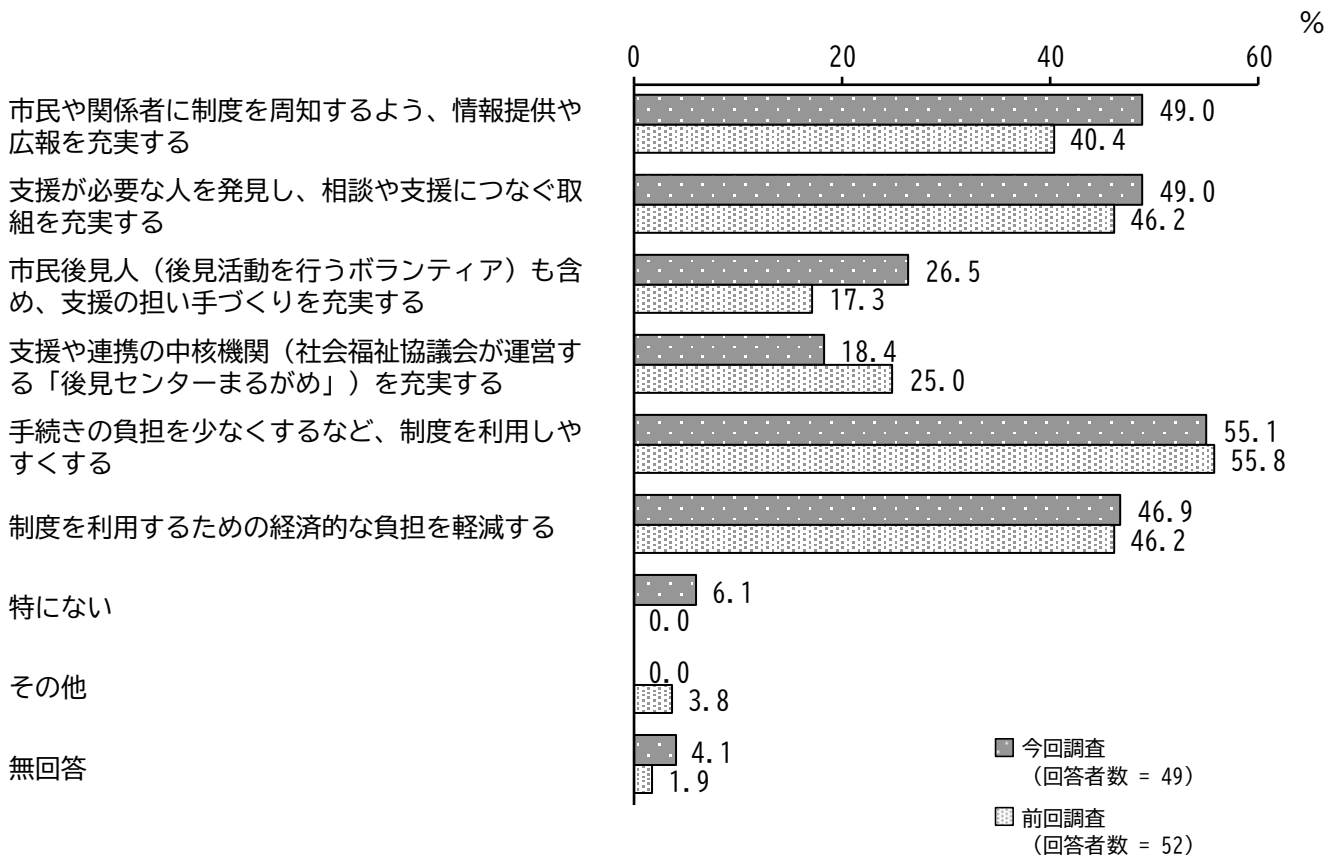
□ 無回答



問 21 成年後見制度の利用を促進するうえで、力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「手続きの負担を少なくするなど、制度を利用しやすくする」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「市民や関係者に制度を周知するよう、情報提供や広報を充実する」、「支援が必要な人を発見し、相談や支援につなぐ取組を充実する」の割合が 49.0%となっています。

前回調査と比較すると、「市民や関係者に制度を周知するよう、情報提供や広報を充実する」「市民後見人（後見活動を行うボランティア）も含め、支援の担い手づくりを充実する」「特にない」の割合が増加しています。一方、「支援や連携の中核機関（社会福祉協議会が運営する「後見センターまるがめ」）を充実する」の割合が減少しています。



問 22 貴事業所における、現在の行政や社会福祉協議会との連携状況や取組、地域福祉推進のために今後取り組みたいこと、住民組織等との連携についてや、人材の確保についてなど、思っていることや課題をご自由にお書きください。

介護認定に関わらず、地域の方と交流して困り事を解決できたらと思います。
有料老人ホームのことをみなさんに知ってもらう。日頃から隣近所と顔みしりの関係を築いていく。地域での福祉活動やボランティア活動に参加する。
いざという時に支えあえるよう、日頃から地域とのつながりを考えてはいるが、隣近所の方とのあいさつはしているが、交流まではできていない。
居宅介護支援事業所の管理者の要件が、主任ケアマネとなった為、後任がいないと退職できず高齢化している。
障害福祉を希望する人材の不足。求人支援の為、何らかの施設紹介等の情報発信をお願いしたい。
・ 地域交流を深め、利用者を知ってもらったり、それが広がり人材確保になればよいと感じる。 ・ 地域連携推進会議をすすめ、事業所を知ってもらう。
行政及び社会福祉協議会との連携は今後も必須である。密なやりとりを行なえたらと思います。
同性介助のための男性職員の確保が難しい。
手続き及び提出書類の簡素化は、今後も進めていただければと思います。
地域における社会資源の開発を積極的にしていきたいと考えております。
通所介護の送迎の連携
何か協力ができることがあれば協力させていただきます。
現在は自身の施設の運営に力を入れたいので、まだ連携などについては考えておりませんが、今後はいろんな機関と協力し、地域福祉の発展に協力していけたらと考えております。
地域住民組織との関りは今まで以上に必要と感じている。まずは、コミュニティセンターからの意見や要望に対しては出来る限り協力し、地域住民から頼られる施設にしたい。
施設利用率の向上のため、紹介先の確保。 災害時の応援。
災害時に地域住民などと連携することは、入居者だけでなく地域全体の安全を確保する上で重要。地域住民との協力による復旧作業や精神的ケアの提供（入居者・住民双方のサポート）、防災訓練に地域住民も参加してもらい、防災に対する意識を高める。
通所介護・介護予防通所介護を利用される方を通して、今後もしっかりと連携を図れればと思います。
高齢者福祉、特に介護に特化している事業所であるため、地域での在宅生活を可能な限り継続できるための支援について、弊社がどのようにしてお役に立てるかを説明する機会を積極的に持ちたいと考えています。
事業を行うにあたり、インフォーマルサービスと言われますが、その把握が十分にできていません。もっと顔の見える関係作りが構築できればと思います。
行政の高度な専門性が必要だと思う。 地域での助け合いができ、活発なコミュニティ活動ができるように、後方支援が必要だと思う。

■その他、地域福祉に関するご意見等がございましたら、自由にご記入ください。

地域でのボランティア活動にも参加していきたいが、時間がとれない。

施設維持管理が、金銭面で苦しい。もっと単価を上げてほしい。経営の補助。事務が複雑になりすぎている。簡素化を。

その人を取り巻く状況が縦割りになっているように感じます。特に災害については、情報が共有されていないと感じます。それぞれの立場の取り組みがもっと共有されれば更に効果が出ると思います。

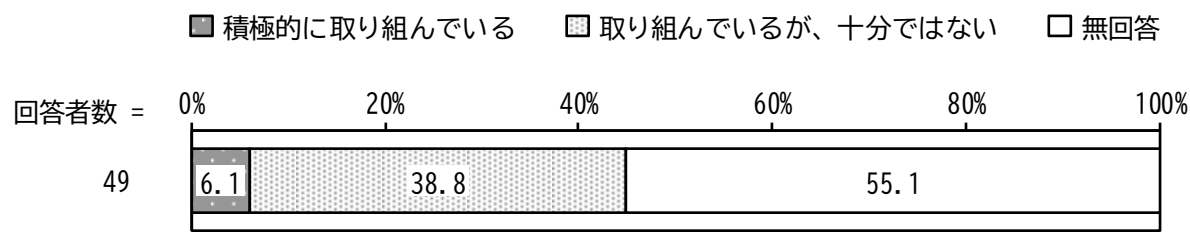
若い世帯や、転入してきた人の自治会加入が少ないように思う。自治会に入る事の必要性を感じない。

行政かもしくはその委託先がどこにもつながっていない人の相談は受け、つなげてほしい。3障害同じ医療費負担であってほしい。

(6) 社会福祉法人の方にお聞きします。

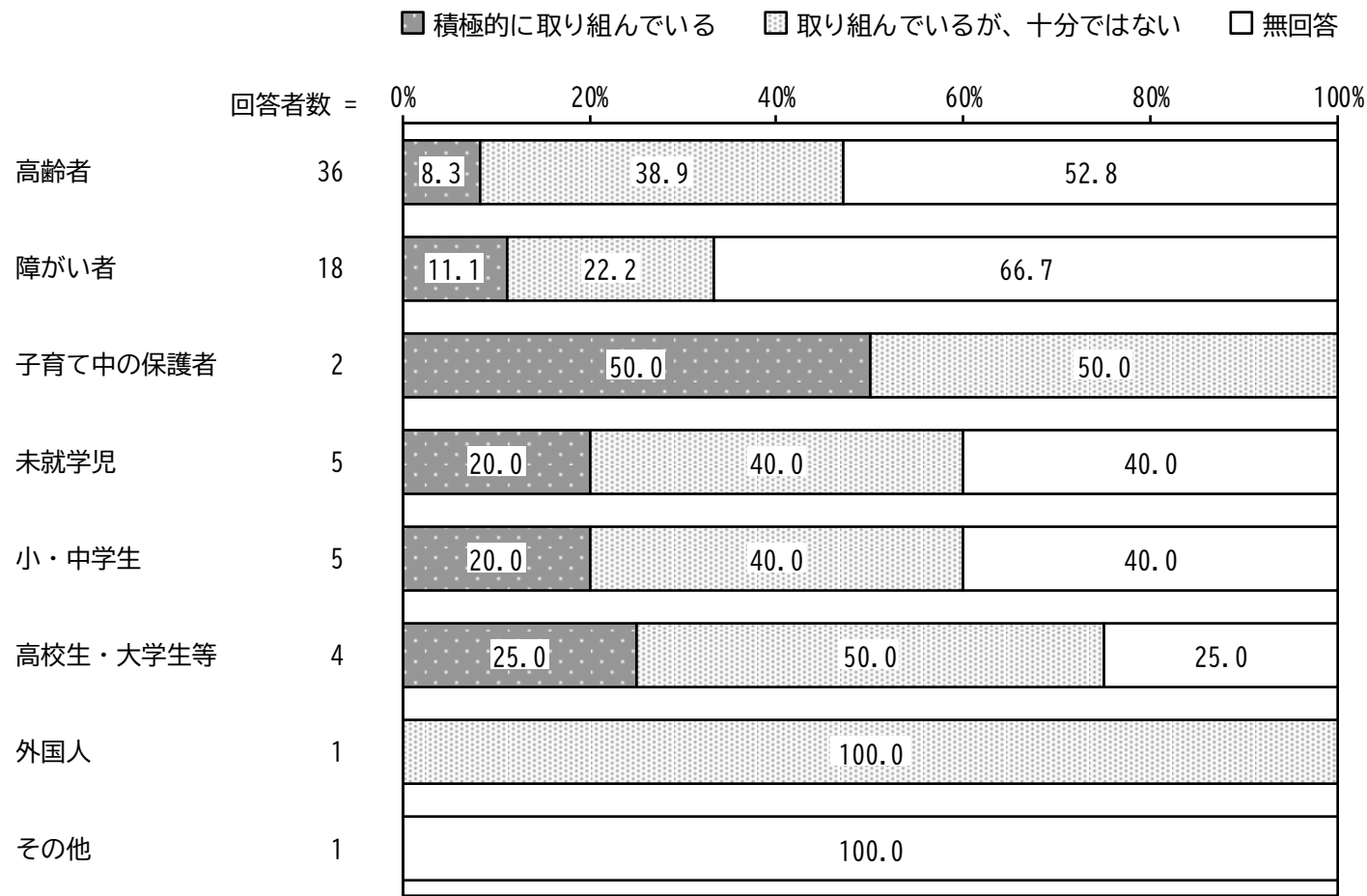
問 23 地域における公益的な取組の実施状況について教えてください。(〇は1つ)

「取り組んでいるが、十分ではない」の割合が38.8%となっています。



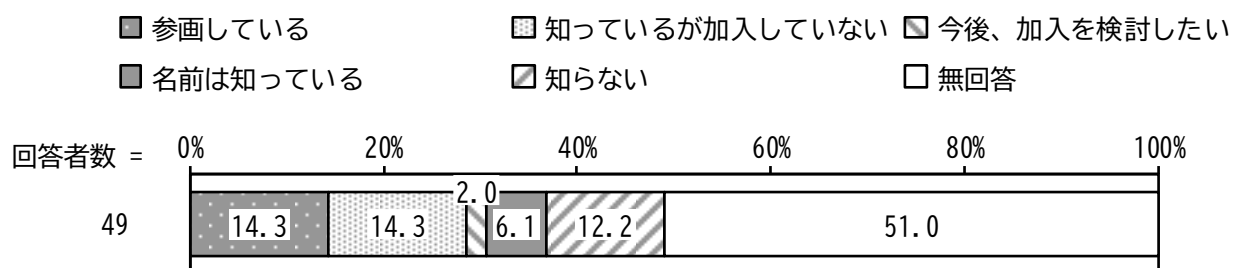
【対象者別】

対象者別にみると、「積極的に取り組んでいる」の割合が障がい者で高くなっています。



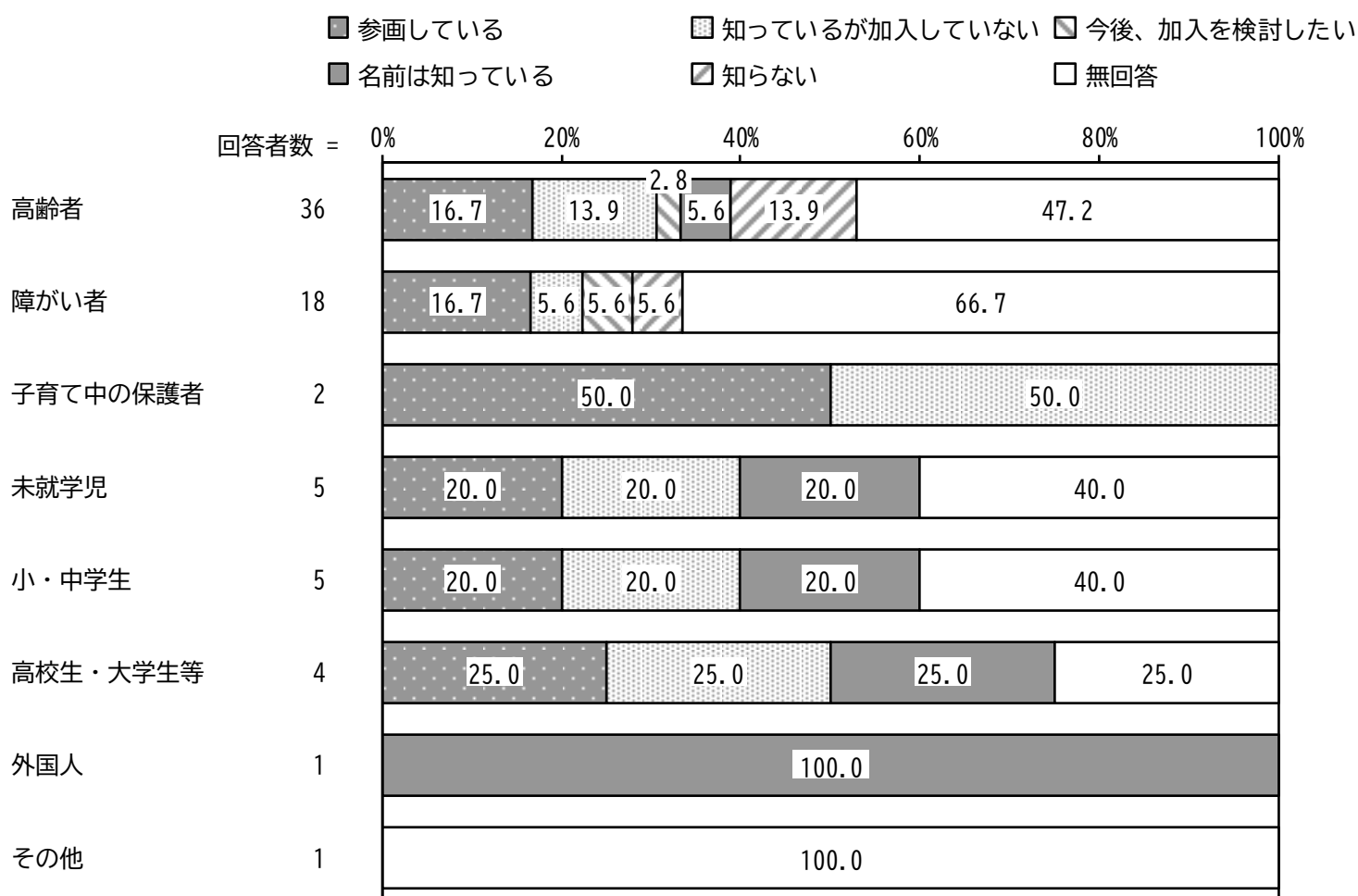
問 24 香川県内で実施している「香川おもいやりネットワーク事業」を知っていますか。
(○は1つ)

「参画している」、「知っているが加入していない」の割合が14.3%と最も高く、次いで「知らない」の割合が12.2%となっています。



【対象者別】

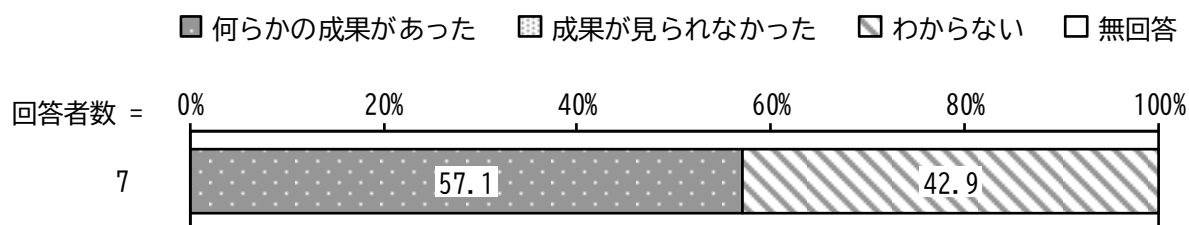
対象者別にみると、「知っているが加入していない」、「知らない」の割合が障がい者で低くなっています。



問 24 で「参画している」と回答した方のみお答え下さい。

問 24－1 「香川おもいやりネットワーク事業」の取組について、成果があったと感じていますか。（○は1つ）また、そう思う理由について具体的に記入してください。

「何らかの成果があった」が4件、「わからない」が3件となっています。



「その他」内訳

おもいやりネットワーク事業を行なうことで、関係者とのつながりができている。

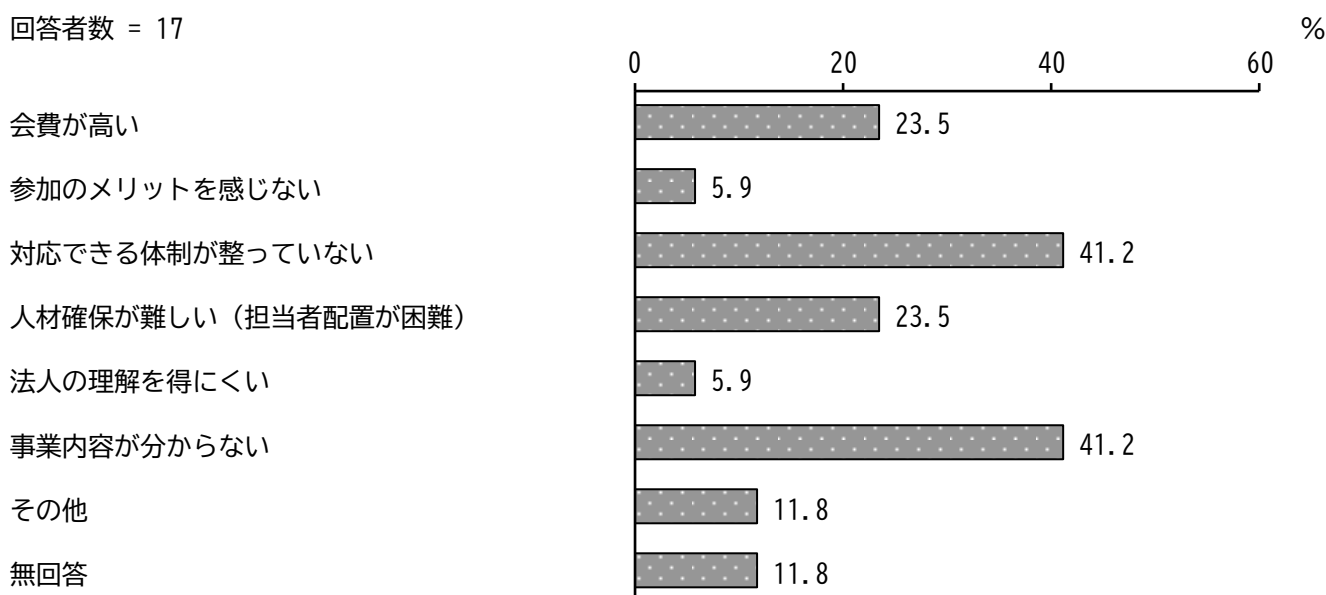
支援を必要とする方を直接サポートする機会がなかった。

問 24 で「知っているが加入していない」「今後、加入を検討したい」「名前は知っている」「知らない」と回答した方のみお答え下さい。

問 24－2 加入していない理由または加入に際して課題となることについて教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「対応できる体制が整っていない」、「事業内容が分からない」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「会費が高い」、「人材確保が難しい（担当者配置が困難）」の割合が 23.5%となっています。

回答者数 = 17



「その他」内訳

公益的な取組みは自ら考えて、取り組んでいくべきだと思う。

問 25 「香川おもいやりネットワーク事業」が「地域づくり」を進めていく一つの事業として、貴事業所が地域の中で実践できることや、今後取り組んでいきたいことを具体的にご自由にお書きください。

介護認定にかかわらず、地域の方との交流を深め、困り事の解決につなげていけたらと思います。
社協さんが窓口となり「この部分で協力いただけないか」と事業所へ相談いただけると事業所としては動きやすい。以前と比べると人手不足が深刻で、十分には協力できないかもしれませんが。
事業所は入所支援施設であるので十分には関わってはいないが、何か機会があれば関係性を深めることも必要かと思う。
思いやりネットワーク事業に参加していることで、各団体や地域での取組について知り、学ぶことができている。
新しい施設と拡充する際に、地域の資源が活用できればと考える（耕作放棄地の借り受けなど）。
協力していきたいが、人手を割ける状況にない。
連絡会への積極的な参加や、地域で行っているボランティア活動など。
地域の医療機関が母体であるため、地域の方々の相談に乗ったり、対応したりしている。

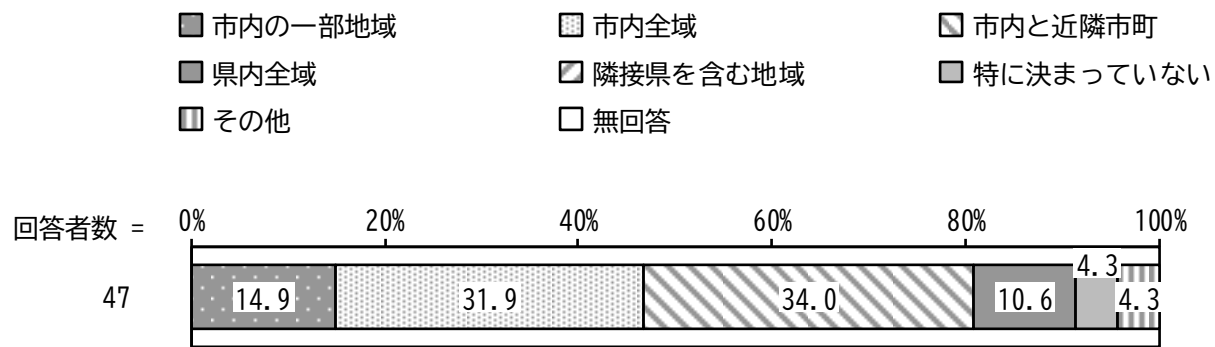
問 26 今後、地域の中でどのような繋がりや資源が必要と感じていますか。また、どのような課題が考えられますか。

個人情報の共有。重層横断的に関わるができるようになること。社協さんの働きに期待しています。
顔の見える関係
繋がりを作る機会を増やすことが大切。
障がい者と高齢者の施設・サービスのつながりは必要。ケアマネや包括などにも障がい者のことをもっと知ってもらいたい。障がい者＝高齢者になっていくので。
生産活動における協業などでできればうれしい。
市議の活躍
課題を明確にし、その課題に取り組める団体や個人が繋がれるような仕組みがあればいいと思う。
困っていても、支援が受けられずに困っている方はいると思う。丸亀市内でも独居老人の把握は出来ていると思うが、日中の過ごし方についても気にする必要があると思う。
人の確保、金銭面での補助。
地域住民に提供しているサービス内容を理解してもらい、サービスの質を確保していく必要がある。
次第に近所付き合いも希薄になり、個人情報といわれる中、生活のしづらさを抱える人を発見し、支援していく体制作りが必要。

3 関係団体
(1) 貴団体のことについて

問1 貴団体の活動範囲（地域）は、次のうちどれにあたりますか。（○はひとつ）

「市内と近隣市町」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「市内全域」の割合が 31.9%、「市内の一部地域」の割合が 14.9%となっています。

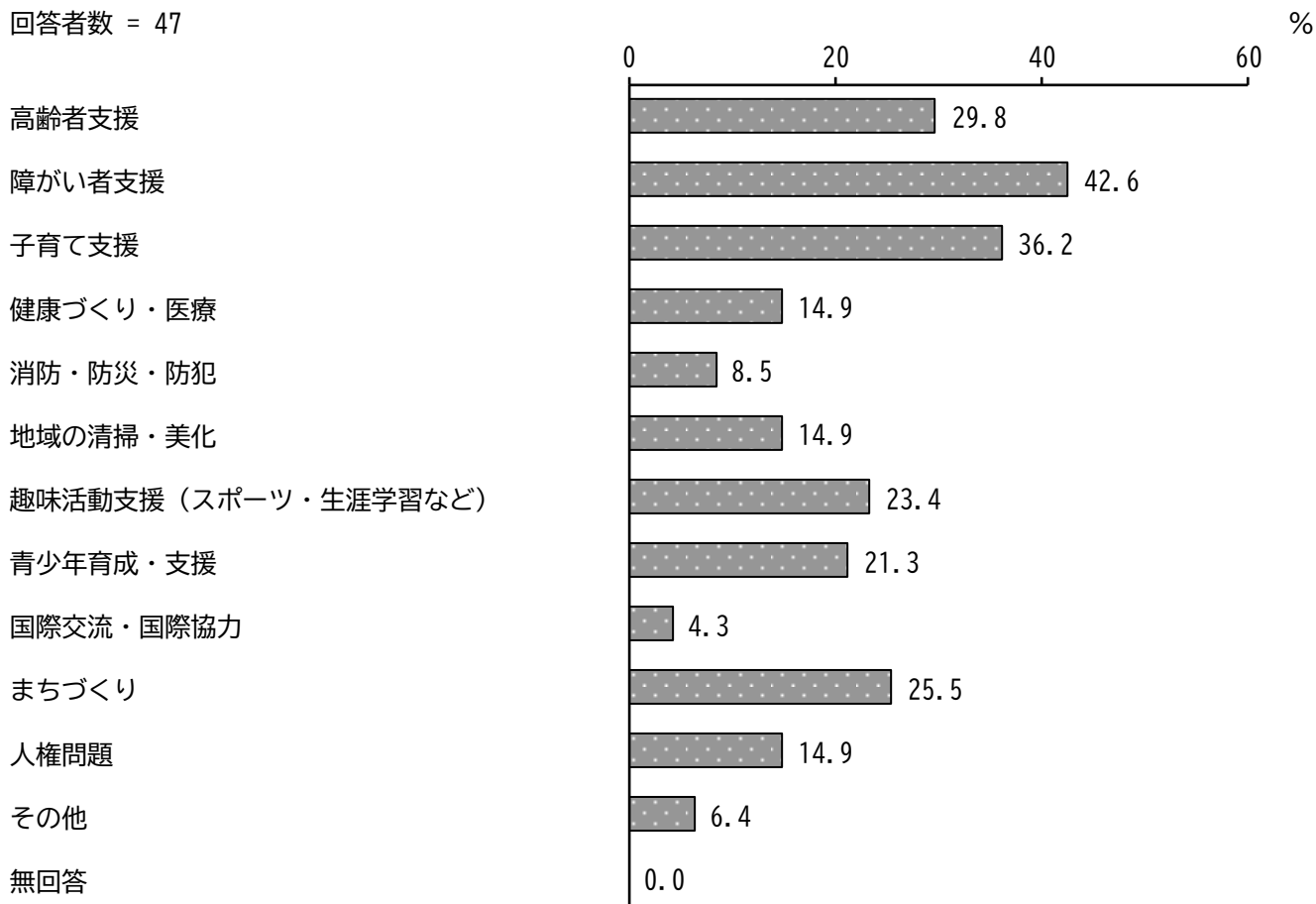


「その他」内訳
地域というよりは、犯罪をした被保護者の処遇。
主に香川県内だか、課題によっては全国規模で活動

問2 貴団体で取り組んでいる活動の分野は、次のどれにあてはまりますか。
(あてはまるものすべてに○)

「障がい者支援」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「子育て支援」の割合が 36.2%、「高齢者支援」の割合が 29.8%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳

犯罪をした被保護者の改善更生。

英霊の顕彰

【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「高齢者支援」、「健康づくり・医療」、「青少年育成・支援」の割合が市内全域で高く、「趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）」の割合が市内と近隣市町で高くなっています。

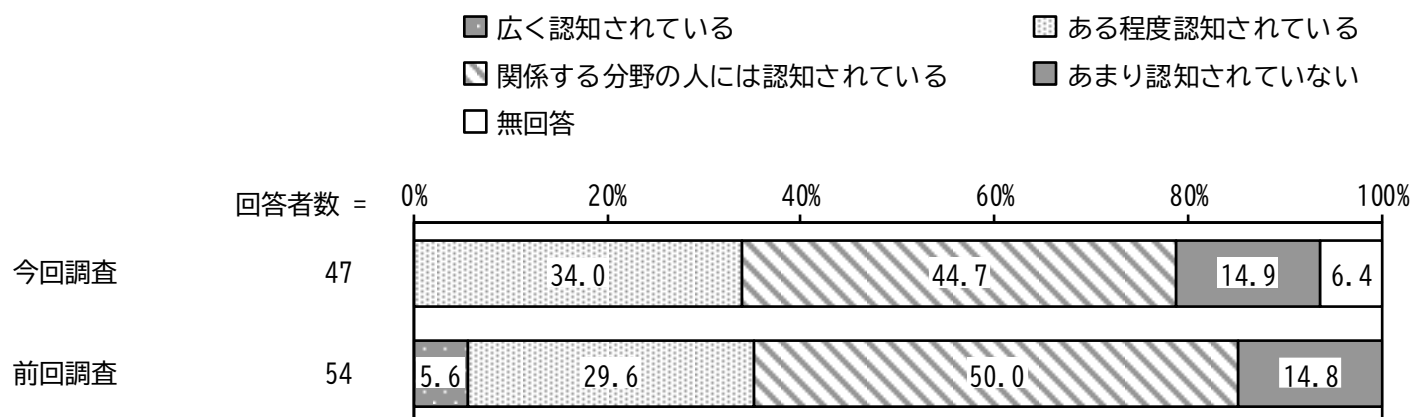
単位：％

質問項目 活動範囲	回答者数 (件)	高齢者支援	障がい者支援	子育て支援	健康づくり・医療	消防・防災・防犯	地域の清掃・美化	趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）	青少年育成・支援	国際交流・国際協力	まちづくり	人権問題	その他	無回答
全 体	47	29.8	42.6	36.2	14.9	8.5	14.9	23.4	21.3	4.3	25.5	14.9	6.4	－
市内の一部地域	7	28.6	42.9	28.6	－	－	28.6	14.3	－	－	42.9	－	－	－
市内全域	15	40.0	40.0	40.0	26.7	6.7	20.0	20.0	33.3	－	33.3	20.0	6.7	－
市内と近隣市町	16	12.5	43.8	37.5	－	12.5	12.5	31.3	18.8	6.3	25.0	18.8	－	－
県内全域	5	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	－	20.0	20.0	20.0	－	－	20.0	－
隣接県を含む地域	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
特に決まっていない	2	100.0	50.0	－	50.0	－	－	50.0	－	－	－	－	－	－
その他	2	－	－	50.0	－	－	－	－	50.0	－	－	50.0	50.0	－

問3 貴団体や貴団体の活動は、丸亀市民に広く認知されていると思いますか。(〇はひとつ)

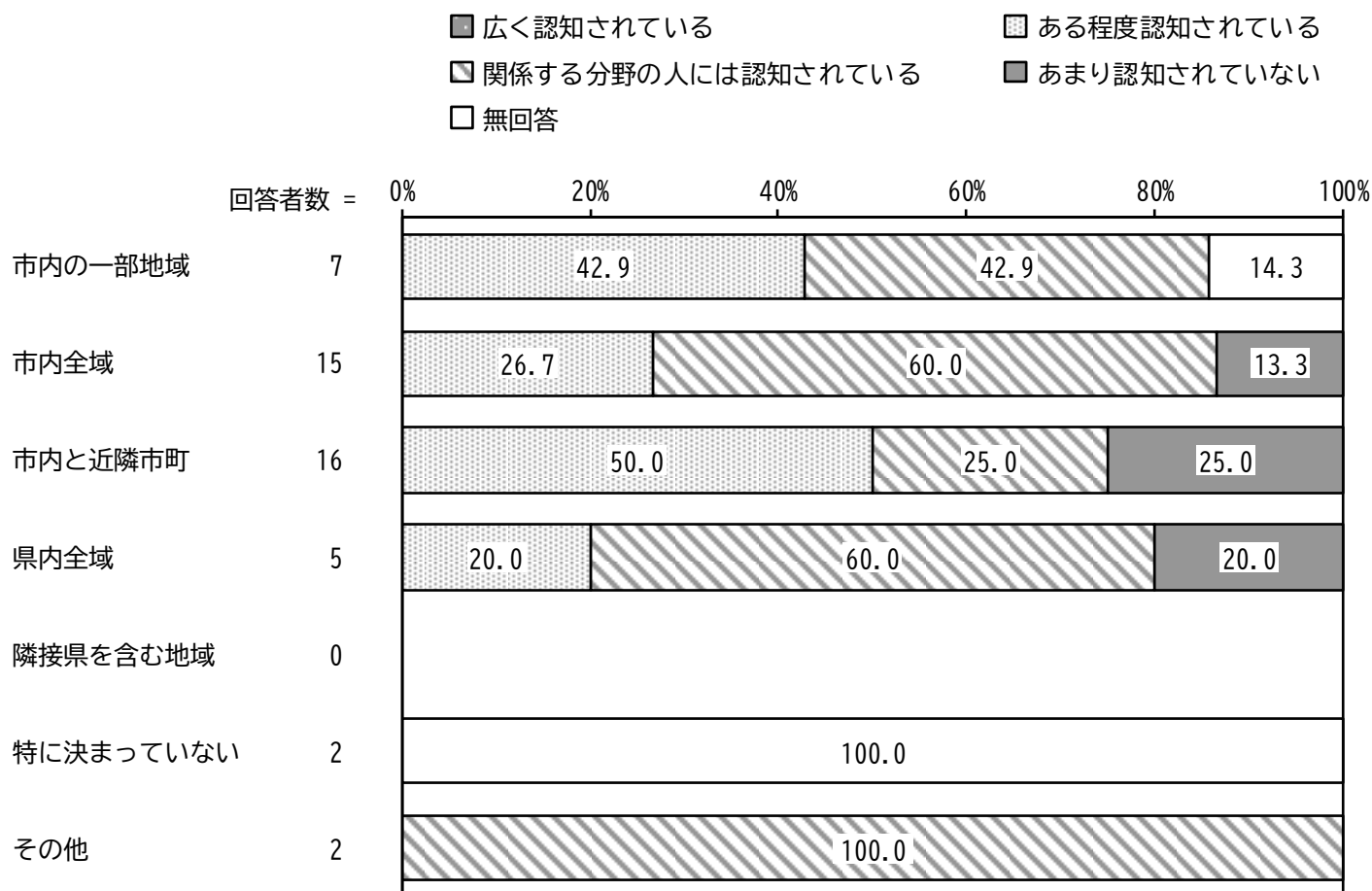
「関係する分野の人には認知されている」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「ある程度認知されている」の割合が 34.0%、「あまり認知されていない」の割合が 14.9%となっています。

前回調査と比較すると、「広く認知されている」「関係する分野の人には認知されている」の割合が減少しています。



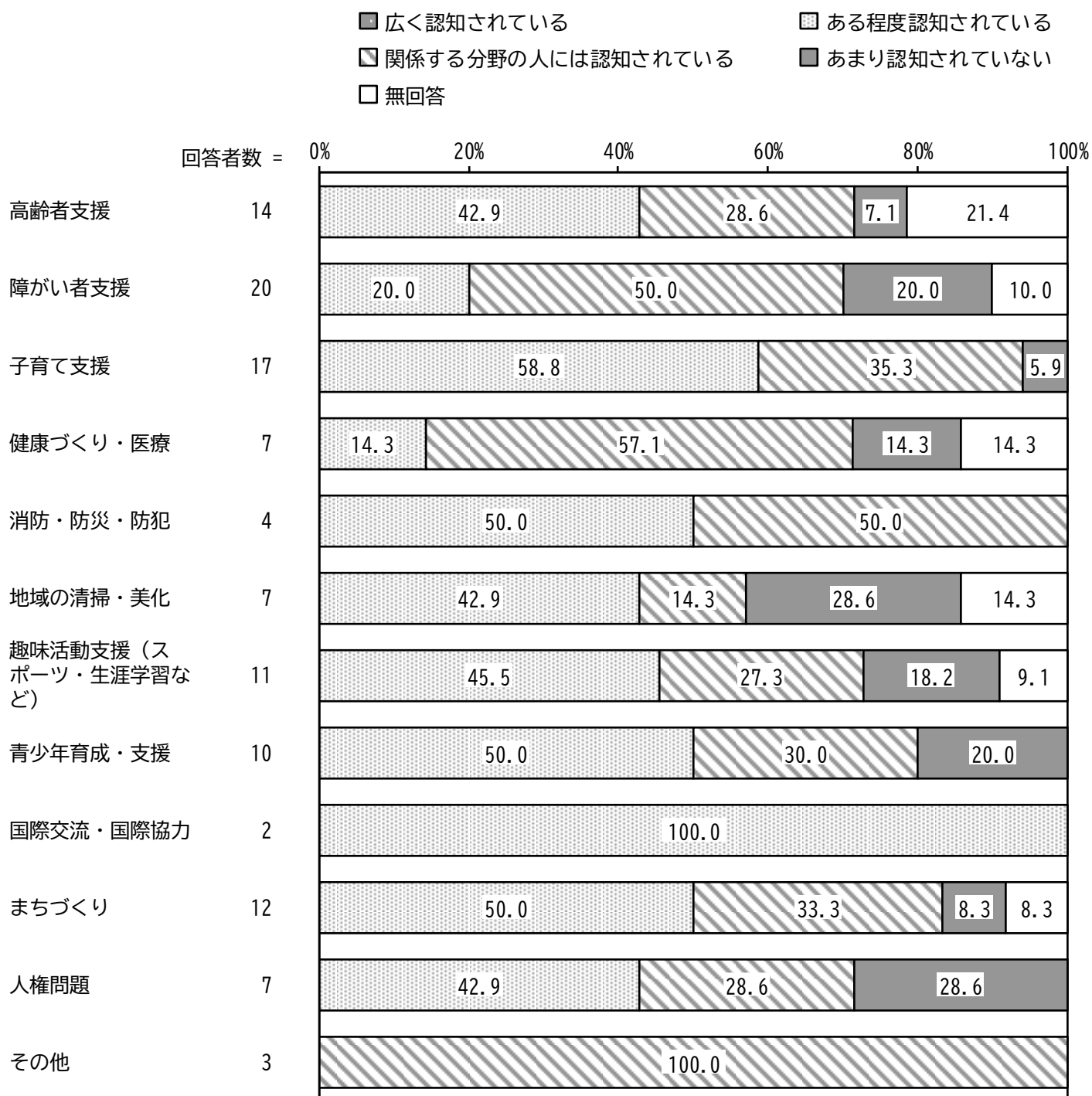
【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「ある程度認知されている」の割合が市内と近隣市町で高く、「関係する分野の人には認知されている」の割合が市内全域で高くなっています。



【活動分野別】

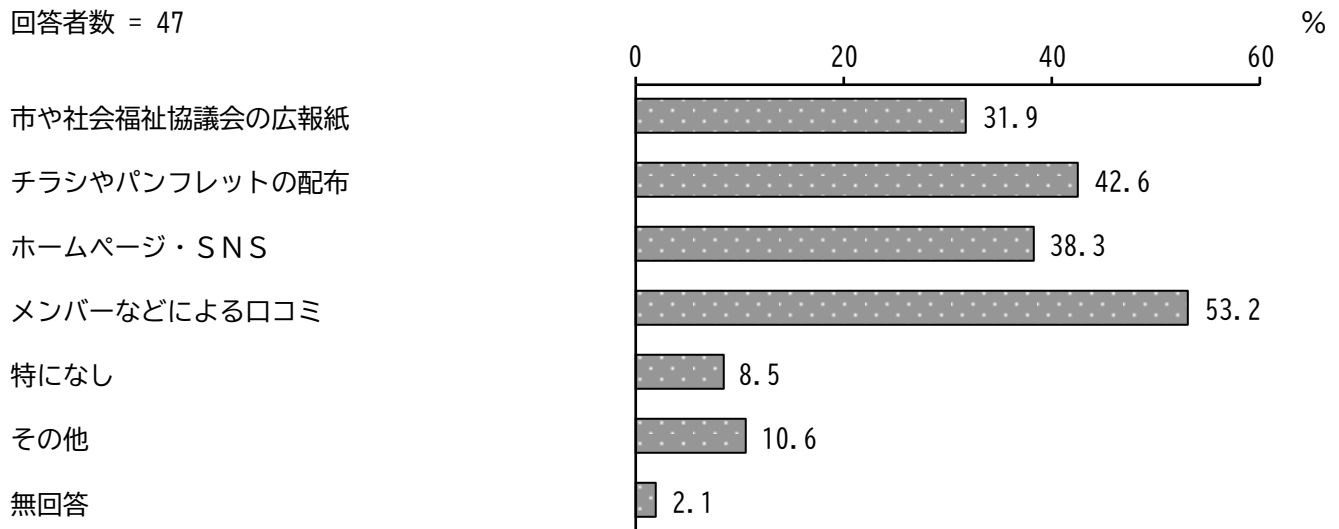
活動分野別にみると、「ある程度認知されている」の割合が子育て支援で高く、「関係する分野の人には認知されている」の割合が障がい者支援で高くなっています。



問4 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「メンバーなどによる口コミ」の割合が53.2%と最も高く、次いで「チラシやパンフレットの配布」の割合が42.6%、「ホームページ・SNS」の割合が38.3%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳
丸亀市中心身障害児（者）育成会の機関誌「愛の灯だより」
愛育だよりや案内状
会員には年に行事の予定2ヶ月前にほのぼの便りで発信している。
香腎協の機関誌
フリーペーパー（マルータ）
関係機関や病院、相談支援事業所への連絡
会員に日本遺族通信、香川県遺族通信等の配布

【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「市や社会福祉協議会の広報紙」の割合が市内全域で高く、「ホームページ・SNS」、「メンバーなどによる口コミ」の割合が市内と近隣町村で高くなっています。

単位：%

質問項目 活動範囲	回答者数 (件)	市や社会福祉協議会 の広報紙	チラシやパンフレ ットの配布	ホームページ・SNS	メンバーなどによ る口コミ	特になし	その他	無回答
全 体	47	31.9	42.6	38.3	53.2	8.5	10.6	2.1
市内の一部地域	7	71.4	42.9	28.6	71.4	—	—	—
市内全域	15	40.0	40.0	20.0	33.3	20.0	13.3	—
市内と近隣市町	16	18.8	43.8	56.3	62.5	—	12.5	—
県内全域	5	20.0	60.0	60.0	60.0	—	20.0	—
隣接県を含む地域	—	—	—	—	—	—	—	—
特に決まっていない	2	—	—	—	50.0	—	—	50.0
その他	2	—	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—

【活動分野別】

活動分野別にみると、「市や社会福祉協議会の広報紙」の割合が障がい者支援、まちづくりで高く、「ホームページ・SNS」、「メンバーなどによる口コミ」の割合が子育て支援で高くなっています。

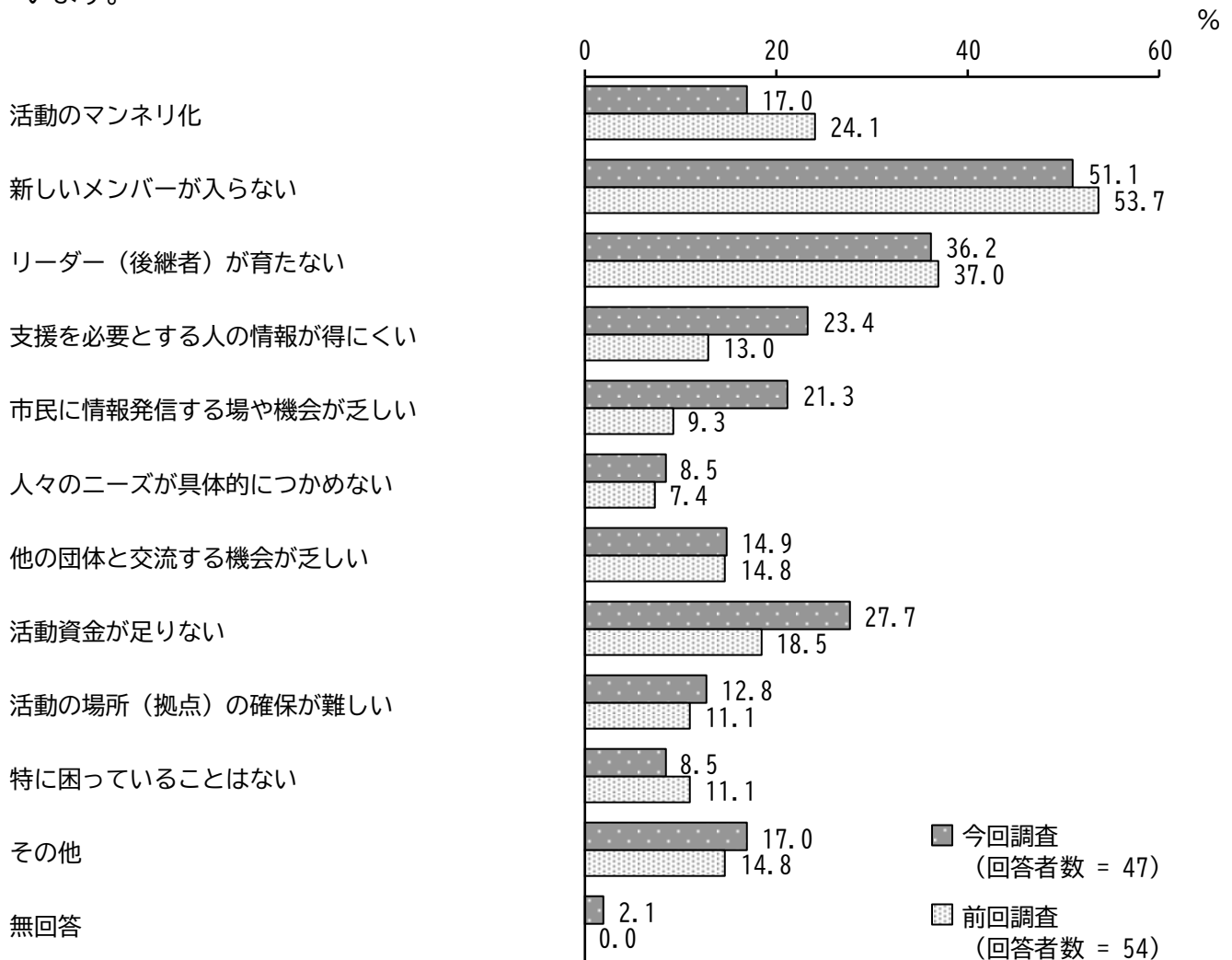
単位：％

活動分野	質問項目	回答者数 (件)	市や社会福祉協議 会の広報紙	チラシやパンフレ ットの配布	S ホームページ・S N	メンバーなどによ る口コミ	特になし	その他	無回答
全 体		47	31.9	42.6	38.3	53.2	8.5	10.6	2.1
高齢者支援		14	35.7	28.6	14.3	50.0	14.3	7.1	7.1
障がい者支援		20	50.0	40.0	35.0	55.0	—	15.0	5.0
子育て支援		17	29.4	58.8	58.8	70.6	5.9	5.9	—
健康づくり・医療		7	14.3	57.1	28.6	42.9	—	28.6	14.3
消防・防災・防犯		4	25.0	50.0	50.0	50.0	—	25.0	—
地域の清掃・美化		7	57.1	42.9	42.9	57.1	14.3	—	—
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	9.1	45.5	36.4	54.5	9.1	9.1	9.1
青少年育成・支援		10	20.0	60.0	50.0	60.0	10.0	—	—
国際交流・国際協力		2	50.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—
まちづくり		12	50.0	58.3	41.7	66.7	8.3	—	—
人権問題		7	28.6	100.0	57.1	57.1	—	—	—
その他		3	—	33.3	33.3	—	33.3	33.3	—

問5 貴団体が活動等を行ううえで困っていることはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

「新しいメンバーが入らない」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「リーダー（後継者）が育たない」の割合が 36.2%、「活動資金が足りない」の割合が 27.7%となっています。

前回調査と比較すると、「支援を必要とする人の情報が得にくい」「市民に情報発信する場や機会が乏しい」「活動資金が足りない」の割合が増加しています。一方、「活動のマンネリ化」の割合が減少しています。



「その他」内訳
会員の高齢化により役員の確保がむつかしくなっている。
活動場所が狭いので、時代のニーズに合わせて新規事業を企画したいが難しい。
会員の住所が広範囲（高松市～観音寺市）なのと高齢化で活動への参加者が少ない。
更生保護の理解。
コロナにより高齢者施設、病院へ出向けない。
若くて健康な人がいない。会員は 70 才すぎた人ばかり。
戦後 80 年となり、戦没者の妻も丸亀市では 1 人となり、遺児も高齢となり会員が激減している。
会員の高齢化により会員全体の実働時間が減っている。
親が高齢化していて、体調面や仕事の都合で、なかなか思うように集まらない。

【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「新しいメンバーが入らない」、「リーダー（後継者）が育たない」、「支援を必要とする人の情報が得にくい」、「市民に情報発信する場や機会が乏しい」の割合が市内全域で高くなっています。

単位：％

活動範囲	質問項目	回答者数（件）	活動のマンネリ化	新しいメンバーが入らない	リーダー（後継者）が育たない	支援を必要とする人の情報が得にくい	市民に情報発信する場や機会が乏しい	人々のニーズが具体的につかめない	他の団体と交流する機会が乏しい	活動資金が足りない	活動の場所（拠点）の確保が難しい	特に困っていることはない	その他	無回答
全 体		47	17.0	51.1	36.2	23.4	21.3	8.5	14.9	27.7	12.8	8.5	17.0	2.1
市内の一部地域		7	28.6	71.4	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	—	—	—	—
市内全域		15	13.3	73.3	46.7	33.3	26.7	13.3	13.3	26.7	13.3	—	13.3	—
市内と近隣市町		16	12.5	31.3	18.8	12.5	12.5	—	12.5	25.0	12.5	18.8	25.0	6.3
県内全域		5	20.0	60.0	80.0	20.0	20.0	—	40.0	20.0	20.0	—	—	—
隣接県を含む地域		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特に決まっていない		2	50.0	—	—	—	50.0	—	—	50.0	50.0	50.0	50.0	—
その他		2	—	—	—	50.0	50.0	50.0	—	50.0	—	—	50.0	—

【活動分野別】

活動分野別にみると「新しいメンバーが入らない」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）、まちづくりで高く、「リーダー（後継者）が育たない」の割合が青少年育成・支援で高く、「活動資金が足りない」の割合が障がい者支援、子育て支援で高くなっています。

単位：％

活動分野	質問項目	回答者数 (件)	活動のマンネリ化	新しいメンバーが入らない	リーダー（後継者）が育たない	支援を必要とする人の情報が得にくい	市民に情報発信する場や機会が乏しい	人々のニーズが具体的につかめない	他の団体と交流する機会が乏しい	活動資金が足りない	活動の場所（拠点）の確保が難しい	特に困っていることはない	その他	無回答
全 体		47	17.0	51.1	36.2	23.4	21.3	8.5	14.9	27.7	12.8	8.5	17.0	2.1
高齢者支援		14	14.3	57.1	35.7	7.1	28.6	7.1	14.3	21.4	21.4	7.1	14.3	7.1
障がい者支援		20	20.0	45.0	35.0	30.0	25.0	5.0	20.0	35.0	20.0	10.0	15.0	—
子育て支援		17	17.6	58.8	29.4	23.5	23.5	17.6	5.9	35.3	17.6	5.9	5.9	—
健康づくり・医療		7	42.9	71.4	57.1	14.3	57.1	14.3	28.6	28.6	28.6	—	14.3	—
消防・防災・防犯		4	25.0	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	—	—	—	—	—
地域の清掃・美化		7	—	85.7	71.4	14.3	28.6	14.3	28.6	42.9	14.3	—	28.6	—
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	36.4	81.8	36.4	9.1	27.3	9.1	18.2	36.4	27.3	—	9.1	—
青少年育成・支援		10	20.0	50.0	50.0	30.0	20.0	10.0	10.0	30.0	10.0	—	—	—
国際交流・国際協力		2	—	100.0	50.0	100.0	50.0	—	—	50.0	50.0	—	—	—
まちづくり		12	8.3	83.3	41.7	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	8.3	—	8.3	—
人権問題		7	—	71.4	14.3	42.9	57.1	28.6	28.6	42.9	14.3	14.3	—	—
その他		3	—	66.7	66.7	—	—	—	—	—	—	—	66.7	—

(2) 貴団体が取り組んでいる活動について

問6 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問7 問6の回答の中で、貴団体が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問8 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体に協力してほしいことはありますか。
国の指定史跡である快天山古墳を地域の活性化、まちづくりにどのように具体化していくのかの悩みがある。	・市や議員さんに要望を伝えること ・会員の意見要望をとりまとめること	
菊づくりは難しい。	丁寧におしえてあげる。	
2ヶ月に1回(年間約6回)役員会を開催し、各地区(岡田、栗熊、高熊)で発生している情報を出し、役員相互で情報共有を図っている。	地域のボランティア活動(例えば赤い羽根共同ボ金活動)には綾歌支部会員も協力している。	
・子どもを近い将来保育所、こども園へ就園させたいが選択に悩んでいる。 ・どんな保育園、こども園が良いのか悩んでいる。 ・子どもの成長発達について ・子どものしつけについて	・将来の就園について、ほとんどのスタッフが元保育士なので、自分達の経験値から聞く事が多い。現在母親の置かれている家庭の状況と今後の母親の働き方などの希望を聞き、保育園・子ども園のどちらが望ましいか、聞きとりながら相談を受けている。 ・躾や子どもの成長発達については、母親の思いに寄り添いながら丁寧にききとり母親が安心して子育てに向き合えるように対応している。保育士としての経験や自分達の子育て経験が生かされていると思う。	・行政から香川県、主に丸亀市内の保育所、子ども園の実施内容、方針など具体的に知りたい。情報を十分理解した上で子どもの就園先を共に考えたい。 ・県外からの転入者も多く、どんな保育園がいいのか子ども園の実施内容、方針を知りたいと言う思いが強い。故に正確な情報を教えてほしい。
当団体の活動に参加している外国人住民らには、聞くことはありません。	外国人住民が抱えている課題を聞きとり、その解決策を共に考えていく場となるよう望んでいます。	行政への手続きや困りごとなどで、どこかでまとめて対応してもらえれば助かります。
南海トラフ地震の発生が80%と言われ、家具類の転倒防止の対応をとりたいが、どのようにすればよいかわからない、避難場所がわからない等の質問を受けます。	香川県防災士会として、家具類への転倒防止機具の取り付けなど、丸亀市と協力しながら対応しています。	
会員間の活動が中心なので、地域の人との関わりはほとんどありません。	当施設、当会の説明や紹介など。	
運転免許証がなければ、何をすることもできず制限されてしまう。	手話教室はZoomも利用可で、家で受講できる。	高齢者施設、幼稚園、学校などでZoomを取り入れて参加して欲しい。手話をもう少し広めて欲しい。
愛育班入会の高齢者から。高齢になって自転車に乗れなくなると歩いて行かないといけない。コミュニティセンターや買い物に行くのが遠くてむずかしい。だんだ	愛育だよりを配布して、情報を届け声かけ話をする。	高齢者の移動手段として、小回りに動いてくれる車。1時間おきくらいには動いてほしい。

問6 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問7 問6の回答の中で、貴団体が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問8 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体に協力してほしいことはありますか。
ん出かけなくなっている。コミュニティバスも便数が少ないので、参加するのに2時間も前に着いたりと利用しづらい。		
通町「みんながオルデ」の拠点で活動しながら、参加者の状況を見ると、ほとんど人が居場所として来ているようです。参加者は特に常連さんや新たな人も含め、なかなか中で特に気軽に参加しています。休憩の時や帰りぎわ等様々な話し声が聞こえてきます。いろいろ話しをしたいんだなと思います。	今日まで特に「にじいろ茶屋」を中心に2題していたのを、1題に変えカフェ等の時間を長くするようにしたところ、それぞれ参加者がいろいろな話をしながら、さわやかな時間をとっています。	そうですね、長年の活動の中で事業参加もそうですが、気軽に行けてその場所づくりとして、館内に1人でも来て自由に安らぎの場をつくる必要があるのではないのでしょうか。活動の場以外に時代の流れのことや、社会の事等興味引くもの等、展示も含め場所づくりが必要ではないのでしょうか。それには場所づくりにはコーディネータの人材や行政、他団体の協力が必要ではないのでしょうか。
すみれ会の発足の前は、丸亀ボランティア協議会でした。その時はデイサービスや在宅お話し相手ボランティアと個別に楽しめる事があったが、今はないのでさみしいという事をよく言われます。	すみれ会では「いやしのハンドマッサージ」の他に、大やけには言っていないのですが、一人暮らしの方のお家の片付けや又、亡くなられた後のお家の片付けなどもやらせていただいています。	すみれ会はどこからも助成金をいただいているので、もしその様な活動の依頼があれば、会で負担するのでその時少し事務費として負担してもらえれば助かります。
毎年の事の行事に「たなばた祭り」が浜町商店街であります。いつも商店街の人達が、福祉の店が閉まっても「ササ」の飾りつけをしてくれています。お店は「木・金」の週に二回ほど開けるので土・日の行事はしていません。そんな訳で近隣の皆様にはお世話になっております。	ありがたいことに福祉の店に来られるお客様の年齢が幅広いので、お客さんの流れが良くなったと聞いています。	10 年程前に丸亀ボランティア協議会が解散されました。それまでは他の団体や福祉施設などとも交流を続けていました。しかしコロナ等があり、今は福祉施設も2カ所だけとなっています。行政、他の団体に協力は今のところありません。
子ども連れで行く場所が少ない。	図書館うさぎ以外のお話し会をしている団体をチラシ等で紹介する。	全部のお話し会をまわるとプレゼントがもらえるような、スタンプラリー形式のちらし配布等。スタート→中央館→飯山館→綾歌館→愛母班→街ライブラリー→コミュニティと、めぐって行くとか！
子どもが安心して遊べる広い場所が近くにない。	残念ですが、できません。	広い遊び場の確保
高齢者が多いが近くにぐるっとバスが通らなく、今は会員が迎えに行っているがその会員も高齢なので、迎えに行けなくなる。	市の広報などで、若い人に会員に入ってもらいほのぼのの会会員は。	行事をする都度、高松の福祉バスを申し込むのですが、ガソリン代が発生するので丸亀バスを使用させて欲しいです。
私たち視覚に障害がある場合は、ごみすて等がこまる。外出等の手引きもこまる。	私たちの会では対応しかねます。相談窓口とのつながりを取りつけること。	行政にはいろいろと協力してほしいことは沢山ありますが、ここには書ききれません。
・介護保険の使い方について。	・福祉用具について勧める。 ・包括に紹介する。	・包括に相談にのってほしい。

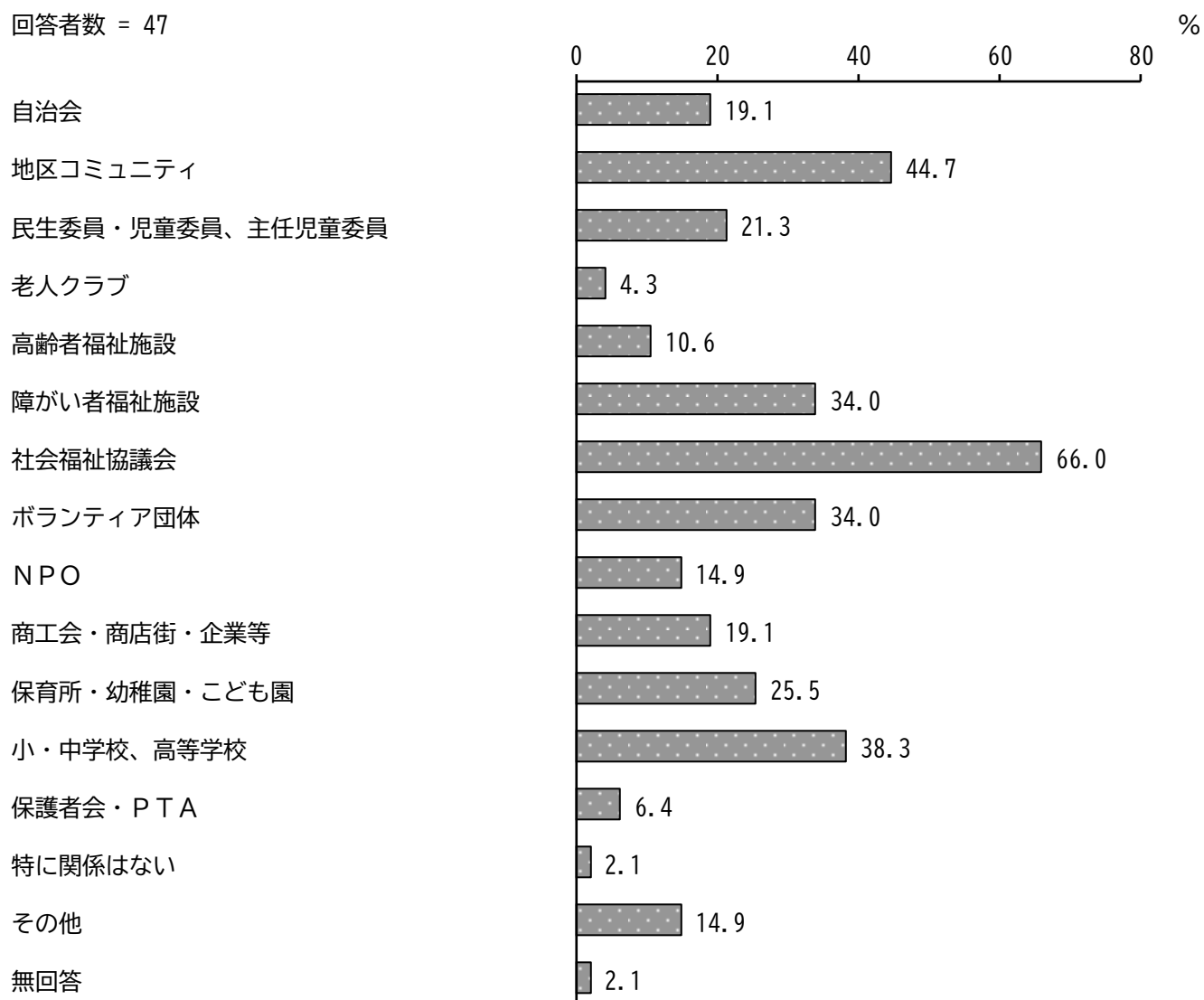
問6 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問7 問6の回答の中で、貴団体が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問8 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体に協力してほしいことはありますか。
・障がいを抱えている家族の高齢化の問題（親の高齢による介護力の低下、当事者の高齢による生活の困りごと）。 ・ひきこもりがちな方の情報もたまにある。	相談業務、専門につなぐなどの対応、利用者の受け入れ、支援全般。	人手不足。一つ一つに時間や専門性を問われる為、関係機関との連携や行政の協力は必須と考える。
子どものショートステイを月に1回でも継続して利用したい（子どもと離れて休息したいため）。	子育て短期支援事業	子育て短期支援事業の受け皿、受け入れ団体の確保。
・子育て ・Wケア ・夫婦関係 ・学校関係 ・就労 ・経済的困窮 ・発達 ・虐待	記入分、全て対応している。	ケース会議
就労の定着が難しい、自宅から出る機会がない（ひきこもり）などの話はあるが、地域の問題についてはほとんどない。	就労に関する相談やひきこもりなど、家庭に関する問題等（福祉サービスに該当するもの）。	就労移行利用に値する方へ情報を伝えてもらったり、紹介してもらいたい。
人権問題	助言、紹介	
当事者（障害者、家族含む）からの意見として、支援学校、福祉施設に通学、入所などを行っているが、親も年々、高齢になり、将来が不安である。	関係者から困りごとや課題・各種問題を集約し、これらの諸問題を「丸亀市身心障害児（者）育成会」の役員会に諮ったり、「香川県手をつなぐ育成会」と問題を共有を図り、同じ境遇を持つ方々と問題解決に向け協議する。	関係者各位の努力により、国においても法令が整備され、予算的にも充実してきていると感じるが、障害者のひとり一人が自分らしく生きていくために、併せて一般市民（住民）との共生社会が構築されるには、まだまだ解決しなければならない問題が多々あります。そのためにも行政には関係者に対しリーダーシップをとって頂きたいと思います。
団地、アパートなどで近所付き合いがないので何かあった時（不審者や災害など）怖い。子どもとの接し方や子育ての中での些細な悩みを言えるところがない。	子ども食堂などを通じて子ども同士、親同士でも気軽に話せる機会を設ける。（親子イベントなど）送迎時など短時間でも保護者の方と話せる時間を作る。活動に関わってくれている保護者と面談や対話をする。	保護者向けの勉強会をしてほしいです。（子どもの権利条約、ヤングケアラー、発達障害児への関わり方、子どもの叱り方など）
介護が必要になった時の相談、介護方法、高齢者の一人暮らしの悩み等	介護相談や介護の仕方等会員が対応出来る。又研修会の開催	研修会場の支援、場所の提供、講師謝金の支援等、広報
生活困窮（特にひとり親）、DVなどを原因とする離婚、子どもの不登校・引きこもり	食料の支援、不登校の子どものフリースクール	行政には食料支給のための財政支援（食料購入費・倉庫の維持費・配送の費用）・フリースクールへの財政支援（スタッフの人件費・教室の賃借料・教材費・イベントの開催費）
子どもが何か困難を抱えたとき、相談をどこにしていけばいいかわからない。相談していいのかわからず判断できず、結局我慢してしまう。	拠り所「みらいCUBE」に来ていただき、何に困っているかを話ができる範囲で話していただければ、香川県と高松市小児慢性特定疾病児童等自立支援員がお繋ぎ先を紹介したり、未来ISSEYの事業	みらいCUBEに一度お越しいただき、施設内の様子や各事業内容を知っていただきたい。その上で、特に思いあたる当事者様がいらっしゃったらご紹介いただきたい。

問6 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題等を聞くことがありますか。	問7 問6の回答の中で、貴団体が対応できるものにはどんなことがあげられますか。	問8 上記の対応をするうえで、行政を含め他の団体に協力してほしいことはありますか。
	内に対応できるものをご紹介したりできる。まずは誰にも言えずに我慢していた気持ち、思いを吐露する場としてご利用いただける。	
・障害の特性で、怖がって暴れる為、診察検査など難しかったり、病院内に入れない場合もあり、利用（対応）できる病気が見つかりにくく、日々の健康管理に不安を抱いている。 ・発語なし重度、最重度知的障害児の子育てをしている保護者の方との情報交換の場がない。	発語なし重度最重度知的障害児者の保護者の会なので、共感し合ったり、必要な情報交換の場になっている。	行動移動支援を利用しやすくして欲しい。
丸亀婆娑羅花火がレオマになり、見にいきにくくなった。		

問9 貴団体では、活動を行ううえで他のボランティア団体や公共団体等との交流や協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「社会福祉協議会」の割合が66.0%と最も高く、次いで「地区コミュニティ」の割合が44.7%、「小・中学校、高等学校」の割合が38.3%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳
丸亀市心身障害児（者）育成会、香川県手をつなぐ育成会。
保護司会、更生保護女性会、協力雇用主。
支援学校教員
市立図書館
丸亀市防災部福祉協会、丸亀市身体障害者福祉連合協会支部。
支援学校

【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「地区コミュニティ」、「民生委員・児童委員、主任児童委員」の割合が市内全域で高く、「障がい者福祉施設」、「保護者会・PTA」の割合が市内と近隣市町で高くなっています。

単位：％

活動範囲 \ 質問項目	回答者数 (件)	自治会	地区コミュニティ	民生委員・児童委員、 主任児童委員	老人クラブ	高齢者福祉施設	障がい者福祉施設	社会福祉協議会	ボランティア団体
全 体	47	19.1	44.7	21.3	4.3	10.6	34.0	66.0	34.0
市内の一部地域	7	—	57.1	14.3	—	—	42.9	71.4	57.1
市内全域	15	20.0	73.3	40.0	6.7	13.3	33.3	66.7	20.0
市内と近隣市町	16	25.0	37.5	12.5	6.3	12.5	43.8	56.3	31.3
県内全域	5	20.0	—	—	—	20.0	20.0	100.0	60.0
隣接県を含む地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特に決まっていない	2	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	2	50.0	—	50.0	—	—	—	100.0	50.0

活動範囲 \ 質問項目	N P O	商工会・商店街・企業等	保育所・幼稚園・こども園	小・中学校、高等学校	保護者会・PTA	特に関係はない	その他	無回答
全 体	14.9	19.1	25.5	38.3	6.4	2.1	14.9	2.1
市内の一部地域	14.3	42.9	14.3	28.6	—	—	14.3	—
市内全域	13.3	13.3	40.0	46.7	6.7	6.7	6.7	—
市内と近隣市町	12.5	18.8	25.0	37.5	12.5	—	18.8	—
県内全域	20.0	—	—	40.0	—	—	—	—
隣接県を含む地域	—	—	—	—	—	—	—	—
特に決まっていない	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0
その他	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	50.0	—

【活動分野別】

活動分野別にみると、「自治会」、「保育所・幼稚園・こども園」、「小・中学校、高等学校」の割合が子育て支援で高く、「地区コミュニティ」、「ボランティア団体」、「商工会・商店街・企業等」の割合がまちづくりで高く、「高齢者福祉施設」の割合が高齢者支援で高く、「障がい者福祉施設」、「社会福祉協議会」の割合が障がい者支援で高くなっています。

単位：％

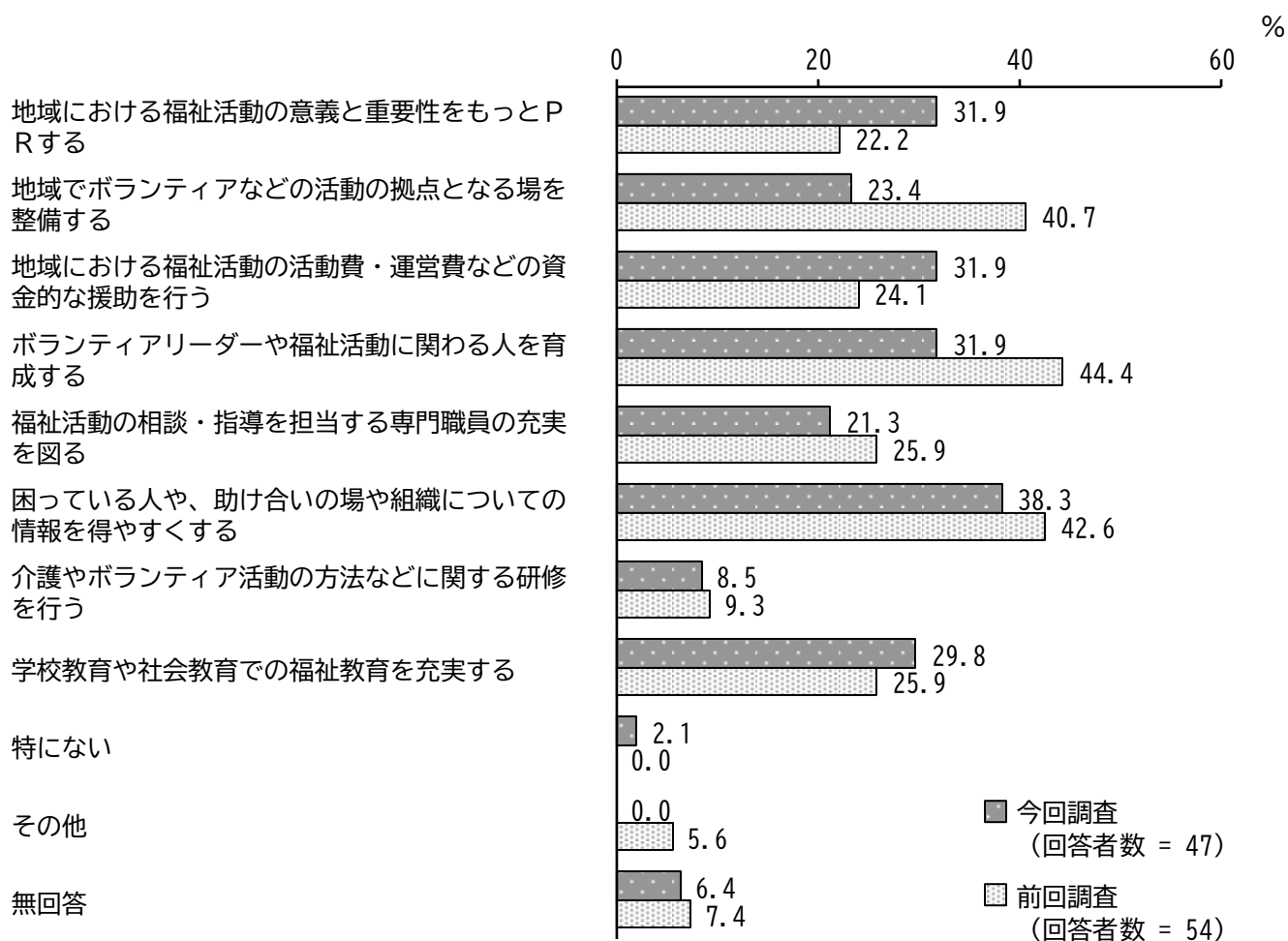
活動分野	質問項目	回答者数 (件)	自治会	地区コミュニティ	民生委員・児童委員、主任児童委員	老人クラブ	高齢者福祉施設	障がい者福祉施設	社会福祉協議会	ボランティア団体
全 体		47	19.1	44.7	21.3	4.3	10.6	34.0	66.0	34.0
高齢者支援		14	21.4	50.0	28.6	14.3	28.6	42.9	57.1	35.7
障がい者支援		20	10.0	40.0	30.0	5.0	15.0	65.0	80.0	50.0
子育て支援		17	41.2	64.7	35.3	11.8	17.6	23.5	64.7	47.1
健康づくり・医療		7	14.3	42.9	42.9	14.3	28.6	42.9	71.4	42.9
消防・防災・防犯		4	75.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0	75.0
地域の清掃・美化		7	14.3	57.1	28.6	—	14.3	42.9	71.4	42.9
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	27.3	36.4	18.2	18.2	18.2	36.4	54.5	54.5
青少年育成・支援		10	20.0	50.0	40.0	—	20.0	20.0	70.0	50.0
国際交流・国際協力		2	50.0	50.0	—	—	—	—	100.0	100.0
まちづくり		12	33.3	75.0	33.3	16.7	16.7	33.3	75.0	66.7
人権問題		7	42.9	57.1	57.1	14.3	28.6	57.1	71.4	57.1
その他		3	66.7	—	—	—	—	—	100.0	—

活動分野	質問項目	NPO	商工会・商店街・企業等	保育所・幼稚園・こども園	小・中学校、高等学校	保護者会・PTA	特に関係はない	その他	無回答
全 体		14.9	19.1	25.5	38.3	6.4	2.1	14.9	2.1
高齢者支援		14.3	21.4	35.7	35.7	7.1	—	14.3	7.1
障がい者支援		15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	—	25.0	—
子育て支援		35.3	35.3	47.1	58.8	11.8	—	11.8	—
健康づくり・医療		14.3	14.3	14.3	42.9	—	—	14.3	—
消防・防災・防犯		50.0	25.0	—	50.0	—	—	—	—
地域の清掃・美化		14.3	28.6	42.9	42.9	—	—	—	—
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		27.3	27.3	18.2	36.4	—	9.1	9.1	—
青少年育成・支援		30.0	20.0	40.0	50.0	10.0	10.0	10.0	—
国際交流・国際協力		100.0	—	—	100.0	—	—	—	—
まちづくり		25.0	41.7	33.3	58.3	8.3	—	8.3	—
人権問題		42.9	28.6	42.9	42.9	—	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	33.3	—

問10 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」の割合が38.3%と最も高く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」、「ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する」の割合が31.9%となっています。

前回調査と比較すると、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」の割合が増加しています。一方、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」「ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する」の割合が減少しています。



【活動分野別】

活動分野別にみると、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」の割合がまちづくりで高く、「ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）で高く、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」の割合が青少年育成・支援で高く、「介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う」の割合が高齢者支援で高くなっています。

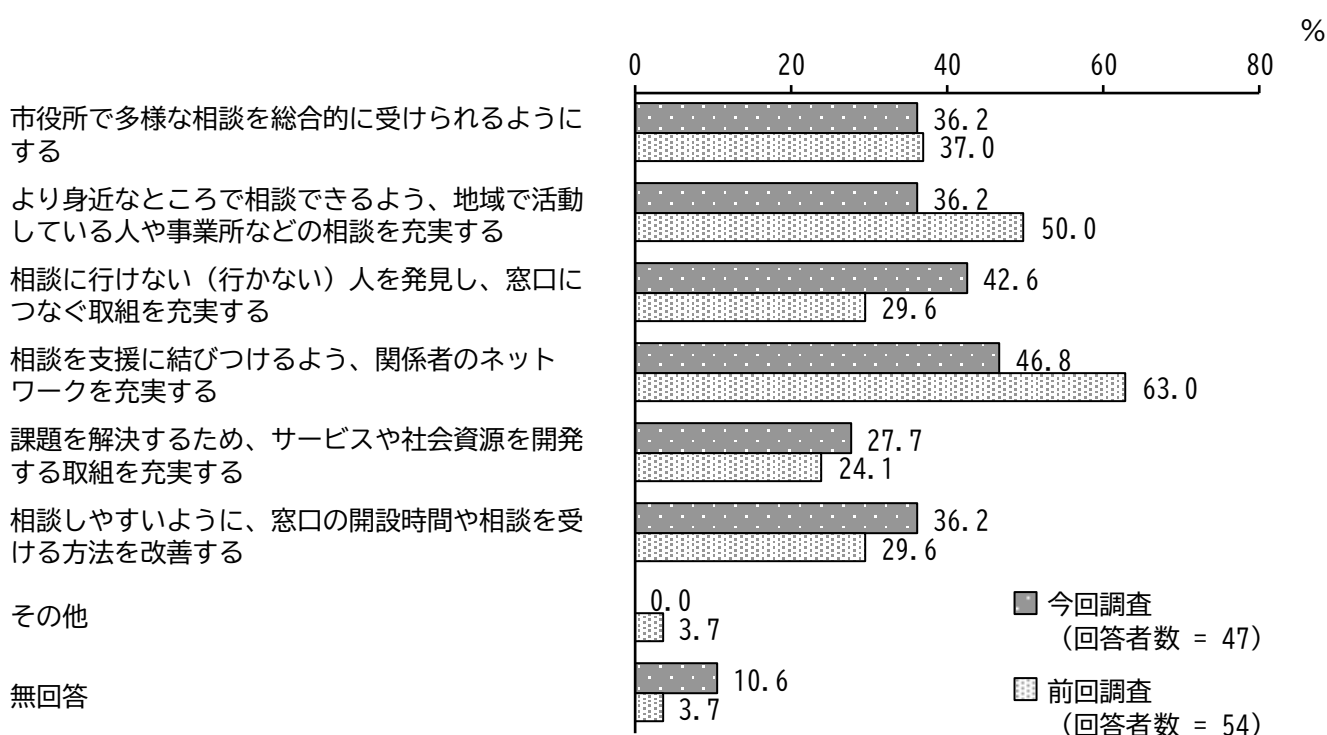
単位：％

活動分野 質問項目	回答者数（件）	地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	特にない	その他	無回答
全 体	47	31.9	23.4	31.9	31.9	21.3	38.3	8.5	29.8	2.1	—	6.4
高齢者支援	14	42.9	21.4	21.4	21.4	7.1	28.6	21.4	21.4	7.1	—	14.3
障がい者支援	20	40.0	5.0	30.0	20.0	25.0	45.0	20.0	30.0	—	—	10.0
子育て支援	17	35.3	23.5	29.4	47.1	23.5	52.9	5.9	29.4	5.9	—	—
健康づくり・医療	7	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	—	—	14.3
消防・防災・防犯	4	25.0	25.0	—	50.0	50.0	25.0	—	25.0	—	—	25.0
地域の清掃・美化	7	28.6	28.6	28.6	42.9	—	57.1	28.6	14.3	—	—	—
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）	11	36.4	9.1	18.2	54.5	9.1	36.4	—	36.4	—	—	9.1
青少年育成・支援	10	20.0	20.0	10.0	60.0	10.0	60.0	10.0	40.0	—	—	—
国際交流・国際協力	2	—	—	50.0	100.0	—	100.0	—	50.0	—	—	—
まちづくり	12	58.3	25.0	41.7	41.7	8.3	33.3	8.3	50.0	—	—	—
人権問題	7	57.1	14.3	42.9	28.6	14.3	71.4	28.6	28.6	—	—	—
その他	3	100.0	—	—	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—

問 11 多様な生活課題に対して制度等の枠を超えた包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」の割合が 46.8%と最も高く、次いで「相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」の割合が 42.6%、「市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする」、「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」、「相談しやすいように、窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善する」の割合が 36.2%となっています。

前回調査と比較すると、「相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」「相談しやすいように、窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善する」の割合が増加しています。一方、「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」の割合が減少しています。



【活動分野別】

活動分野別にみると、「市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする」の割合が青少年育成・支援で低く、「より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）、まちづくりで高く、「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」、「課題を解決するため、サービスや社会資源を開発する取組を充実する」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。

単位：％

活動分野	質問項目	回答者数（件）	市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする	より身近なところで相談できるよう、地域で活動している人や事業所などの相談を充実する	相談に行けない（行かない）人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する	相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する	課題を解決するため、サービスや社会資源を開発する取組を充実する	設時間や相談を受ける方法を改善する	その他	無回答
全 体		47	36.2	36.2	42.6	46.8	27.7	36.2	—	10.6
高齢者支援		14	42.9	42.9	35.7	42.9	14.3	28.6	—	14.3
障がい者支援		20	35.0	40.0	50.0	50.0	30.0	45.0	—	5.0
子育て支援		17	29.4	41.2	41.2	52.9	35.3	41.2	—	11.8
健康づくり・医療		7	57.1	42.9	57.1	57.1	57.1	42.9	—	—
消防・防災・防犯		4	50.0	50.0	75.0	75.0	50.0	50.0	—	—
地域の清掃・美化		7	57.1	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	—	—
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	36.4	63.6	45.5	45.5	45.5	36.4	—	—
青少年育成・支援		10	10.0	50.0	30.0	70.0	50.0	30.0	—	—
国際交流・国際協力		2	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	—	—
まちづくり		12	50.0	58.3	41.7	50.0	33.3	25.0	—	—
人権問題		7	28.6	57.1	57.1	71.4	42.9	57.1	—	—
その他		3	66.7	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—	33.3

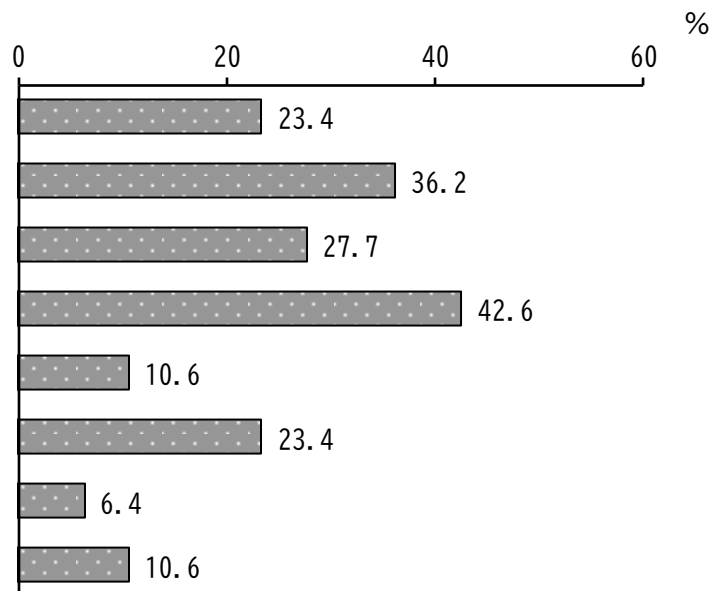
(3) 利用者について

問 12 最近の貴団体の利用者の傾向について、どのように感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」の割合が 36.2%、「対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている」の割合が 27.7%となっています。

回答者数 = 47

既存の制度では対応できない個人や世帯が増えている
分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている
対象者だけではなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている
地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている
相談や支援を拒否する個人や世帯が増えている
特に変化は感じない
その他
無回答



「その他」内訳
施設利用者、当会会員の高齢化。
高齢者、精神障害者が多い。
若い世代が入会しない。
個人情報等により、戦没者家族が判りにくくなっている。

【活動分野別】

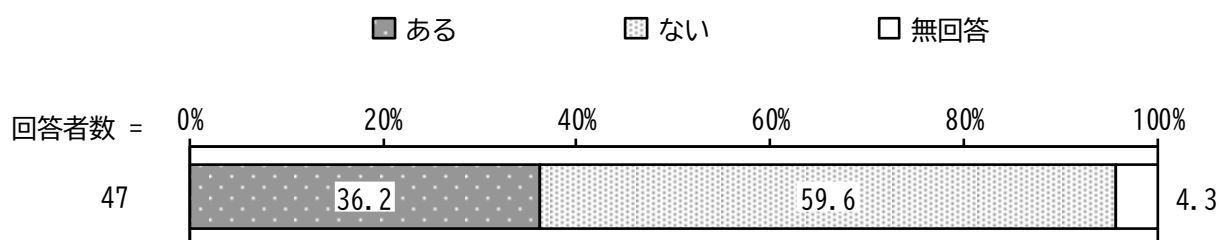
活動分野別にみると、「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が高齢者支援、子育て支援で高くなっています。

単位：％

活動分野	質問項目	回答者数 (件)	既存の制度では対応できない個人や世帯が増えている	分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている	対象者だけでなく、世帯全体への支援の必要なケースが増えている	地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている	相談や支援を拒否する個人や世帯が増えている	特に変化は感じない	その他	無回答
全 体		47	23.4	36.2	27.7	42.6	10.6	23.4	6.4	10.6
高齢者支援		14	21.4	21.4	28.6	64.3	28.6	7.1	—	21.4
障がい者支援		20	30.0	45.0	45.0	45.0	25.0	25.0	5.0	5.0
子育て支援		17	29.4	47.1	35.3	64.7	11.8	5.9	5.9	11.8
健康づくり・医療		7	28.6	42.9	42.9	71.4	28.6	14.3	14.3	—
消防・防災・防犯		4	25.0	75.0	50.0	50.0	—	25.0	—	—
地域の清掃・美化		7	14.3	14.3	14.3	42.9	42.9	28.6	—	14.3
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	27.3	27.3	27.3	45.5	—	27.3	—	9.1
青少年育成・支援		10	20.0	40.0	30.0	60.0	10.0	20.0	—	—
国際交流・国際協力		2	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	—	—	—
まちづくり		12	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7	25.0	—	16.7
人権問題		7	28.6	57.1	57.1	71.4	28.6	28.6	—	—
その他		3	33.3	33.3	—	—	—	—	33.3	33.3

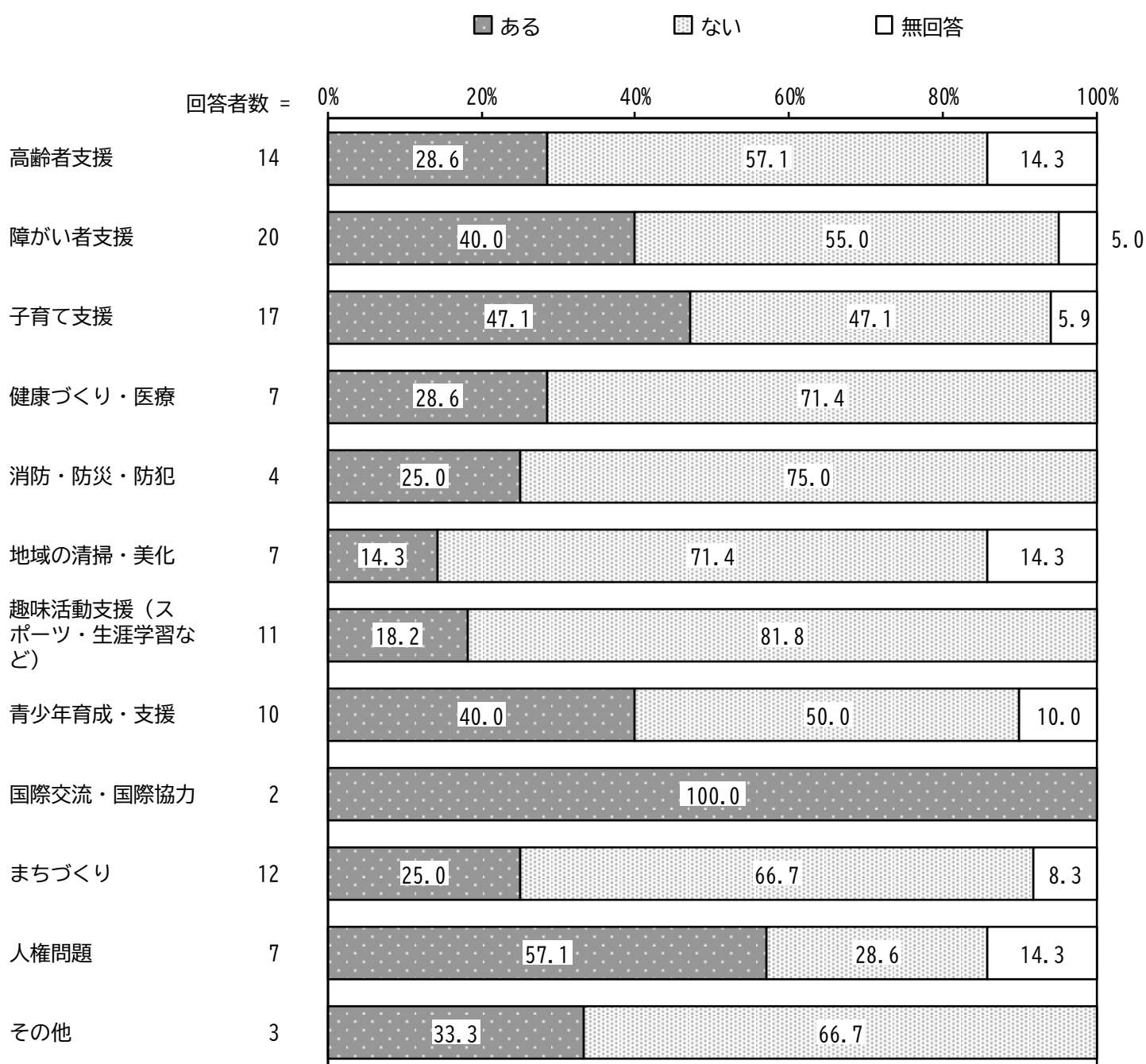
問 13 「制度の狭間」や「複合多問題」といった福祉課題を抱えた個人や世帯について、相談を受けたことがありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が 36.2%、「ない」の割合が 59.6%となっています。



【活動分野別】

活動分野別にみると、「ある」の割合が子育て支援で高く、「ない」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）で高くなっています。

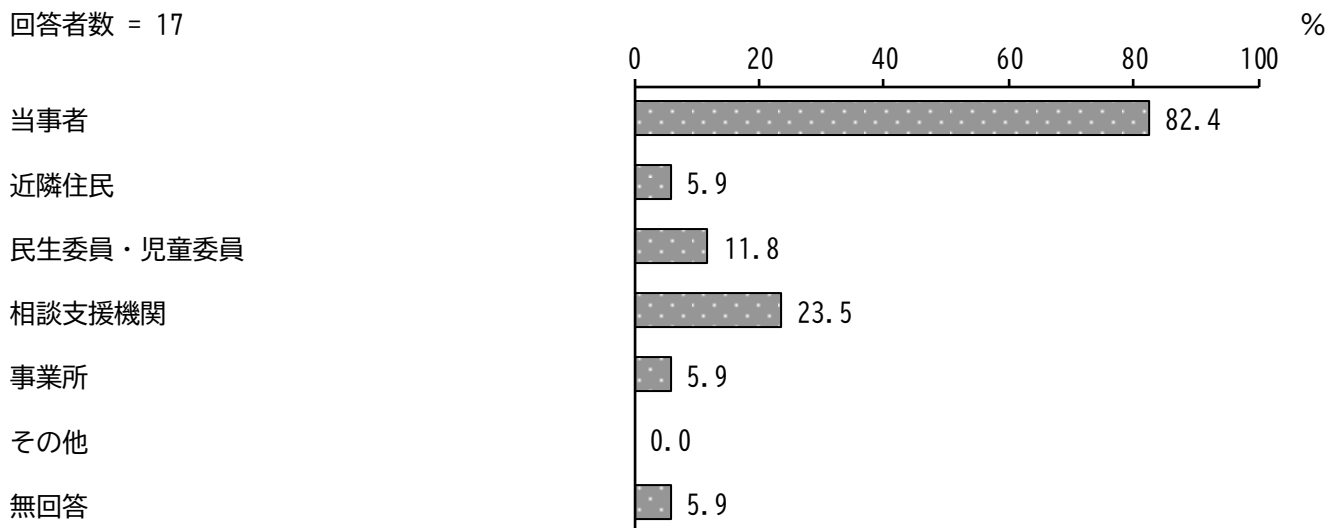


問 13 で「ある」と回答した方のみお答え下さい。

問 13－1 問 13 のような相談は、どこから受けることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

「当事者」の割合が 82.4%と最も高く、次いで「相談支援機関」の割合が 23.5%、「民生委員・児童委員」の割合が 11.8%となっています。

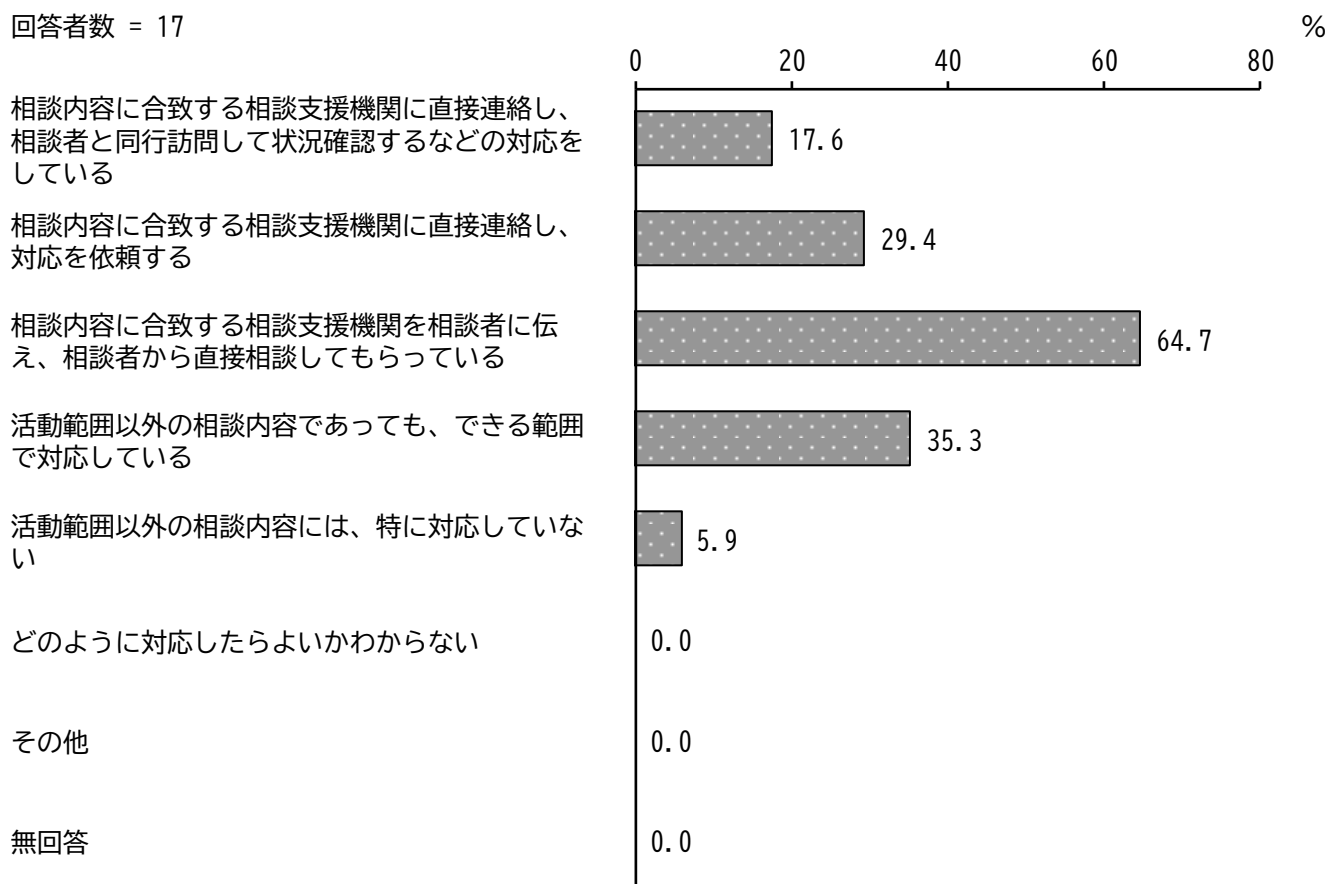
回答者数 = 17



問 13－2 受けた相談が通常関わる活動範囲以外の内容である場合、どのように対応していますか。(○は2つまで)

「相談内容に合致する相談支援機関を相談者に伝え、相談者から直接相談してもらっている」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「活動範囲以外の相談内容であっても、できる範囲で対応している」の割合が 35.3%、「相談内容に合致する相談支援機関に直接連絡し、対応を依頼する」の割合が 29.4%となっています。

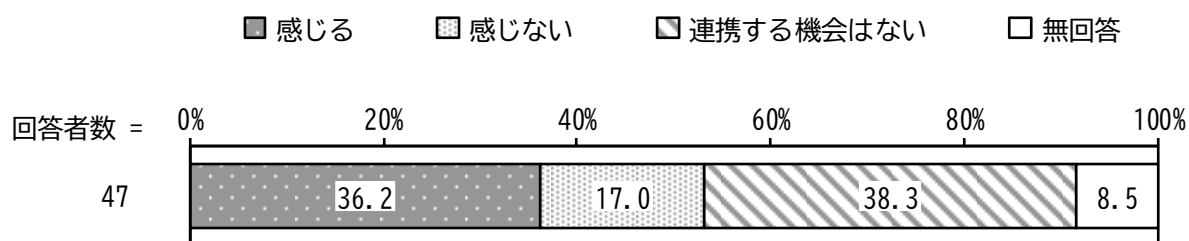
回答者数 = 17



「対応の多い内容」内訳	「その他」内訳
夜間保護者が不在のため遅い時間まで預かる。	

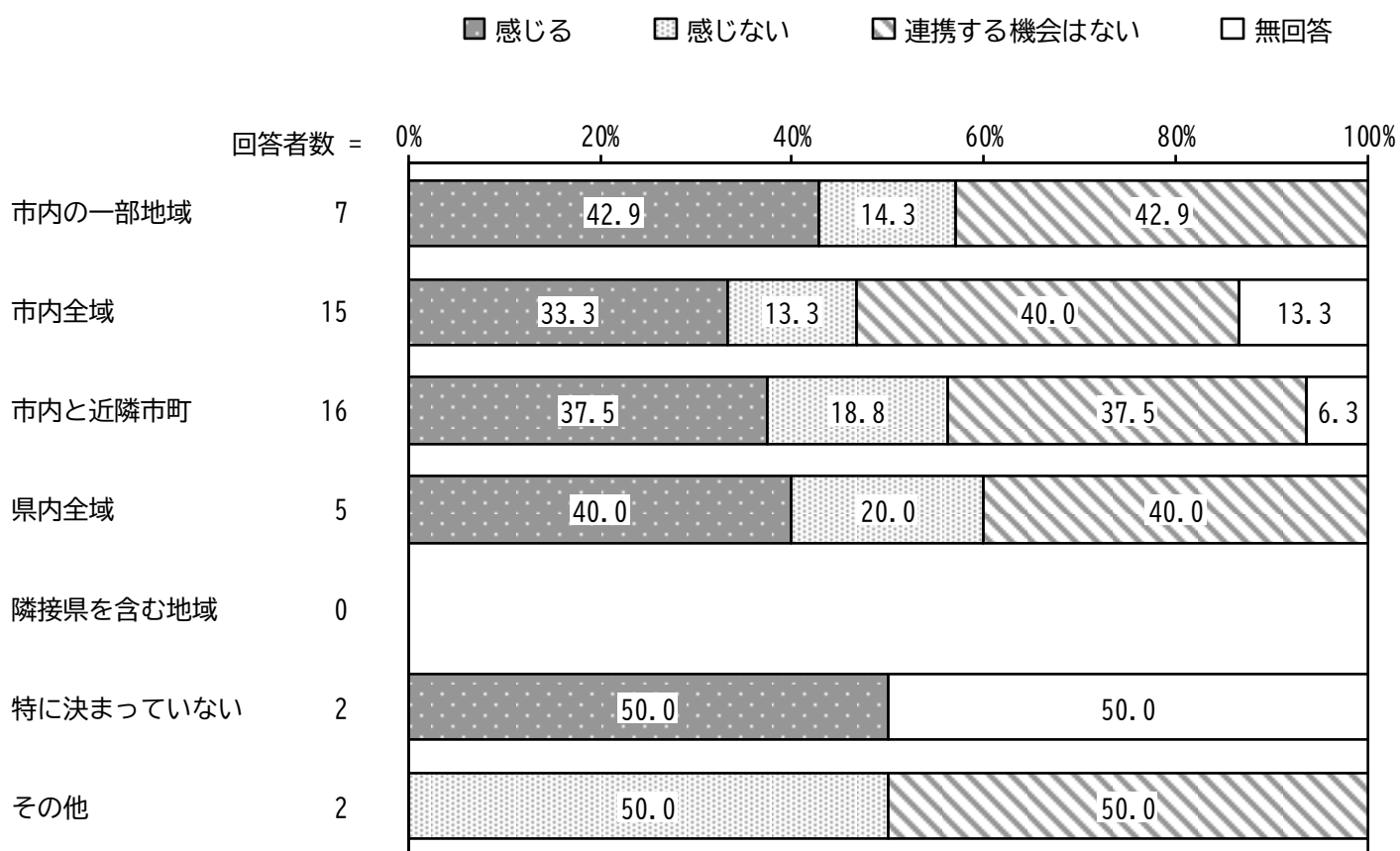
問 14 相談者への支援にあたって通常関わる活動範囲以外の相談支援機関・施設と連携する必要があるときに、連絡や連携はスムーズに行われていると感じますか。(○は1つ)

「感じる」の割合が 36.2%、「感じない」の割合が 17.0%、「連携する機会はない」の割合が 38.3% となっています。



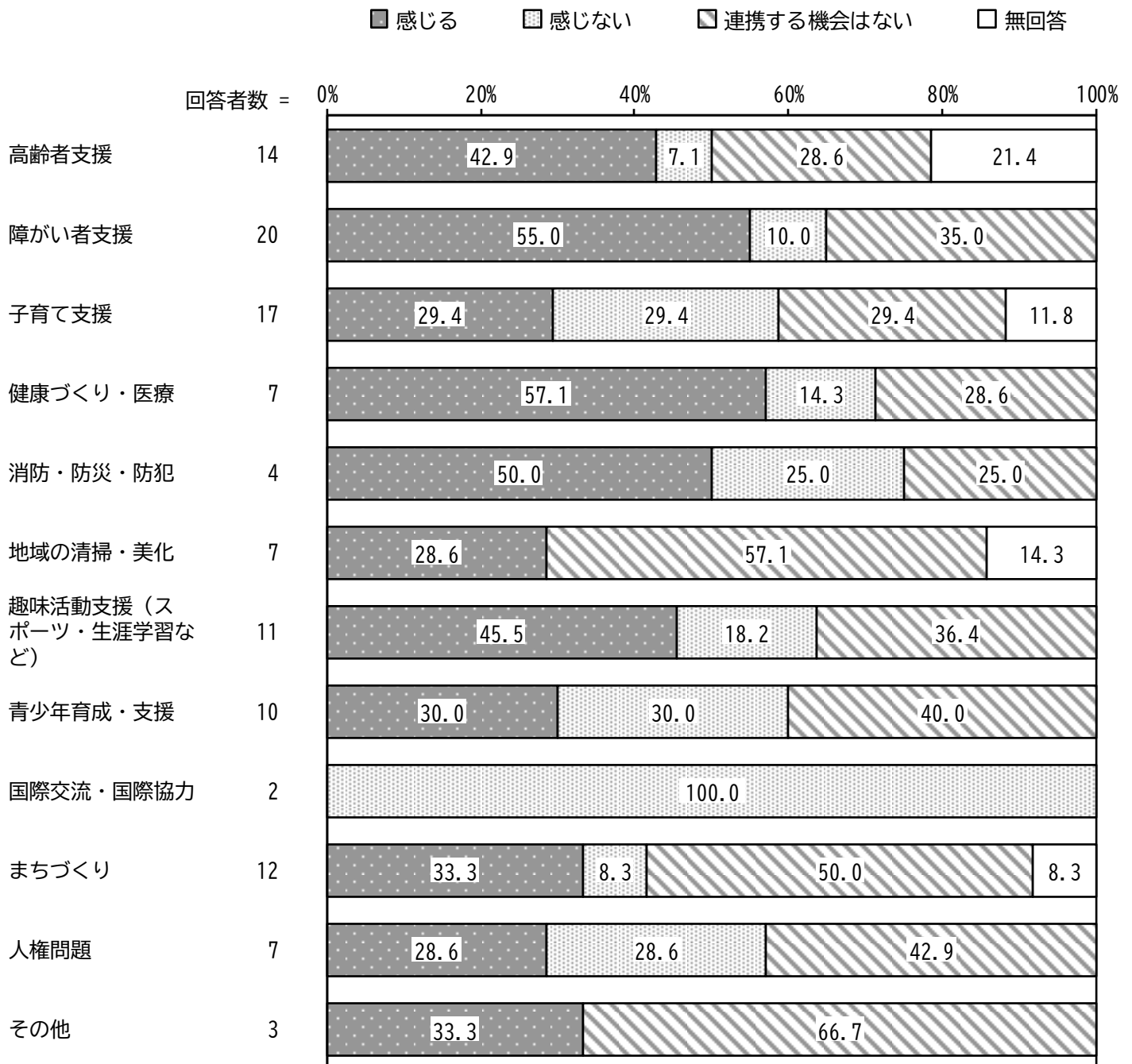
【活動範囲別】

活動範囲別にみると、大きな差はみられません。



【活動分野別】

活動分野別にみると、「感じる」の割合が障がい者支援で高く、「感じない」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。

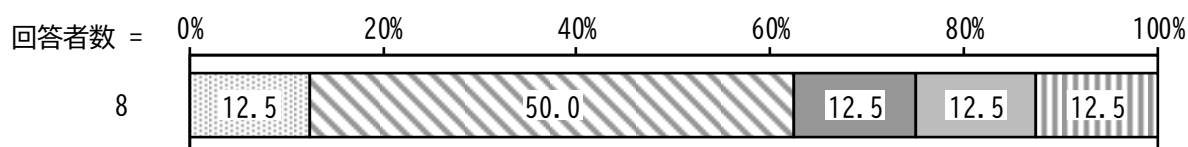


問 14 で「感じない」と回答した方のみお答え下さい。

問 14－1 その理由として最もあてはまるのは何ですか。(○は1つ)

「他の相談支援機関・施設の内容や対応可能な業務が共有されていない」が4件、「他の相談支援機関・施設と日頃からの交流がない」、「他の相談支援機関・施設の業務に関する知識に乏しいため連絡しづらい」、「どのように（どこ）連携すればよいかわからない」が1件となっています。

- ☐ 連携に必要な相談支援機関・施設などの資源が地域に少ない
- ☐ 他の相談支援機関・施設と日頃からの交流がない
- ☐ 他の相談支援機関・施設の内容や対応可能な業務が共有されていない
- ☐ 他の相談支援機関・施設の業務に関する知識に乏しいため連絡しづらい
- ☐ 他の相談支援機関・施設に連絡しても断られる
- ☐ どのように（どこ）連携すればよいかわからない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

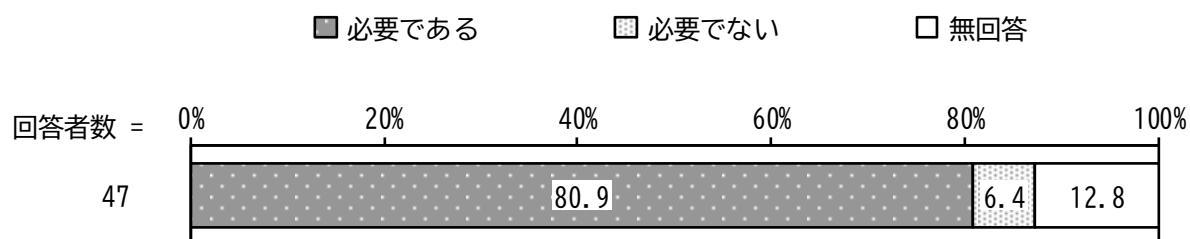


「その他」内訳

ケースバイケースで内容によっては連携とれるが、中にはどこに言っていくべきかということもある。

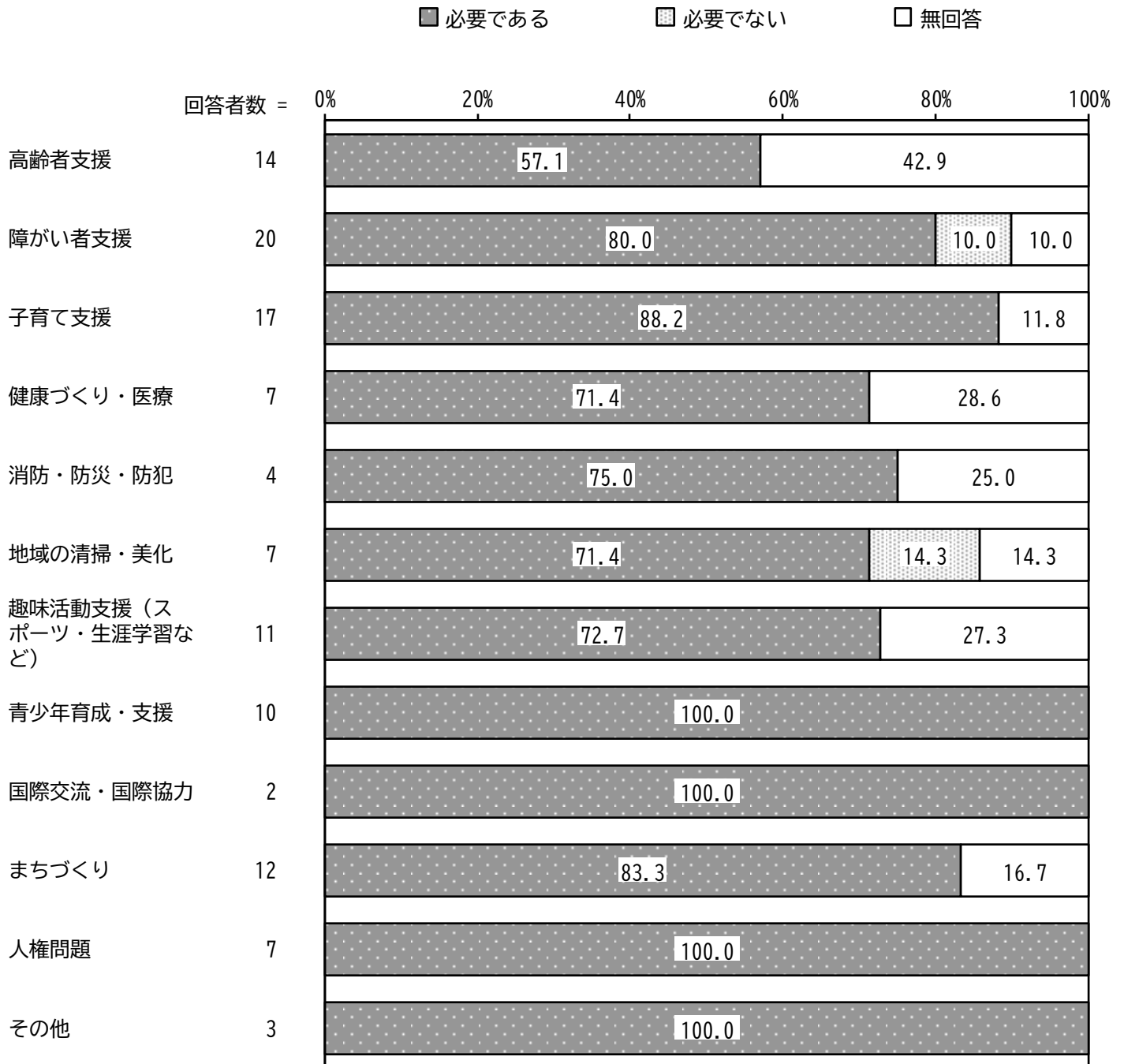
問 15 最近、「制度の狭間」や「複合多問題」といった福祉課題を抱えるため、単独の部署や相談支援機関のみでは対応困難な個人や世帯が増えてきていると言われています。このような場合に、複数の関係部署・機関をコーディネートする部署や相談支援機関が必要と考えますか。(○は1つ)

「必要である」の割合が 80.9%となっています。



【活動分野別】

活動分野別にみると、「必要である」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。

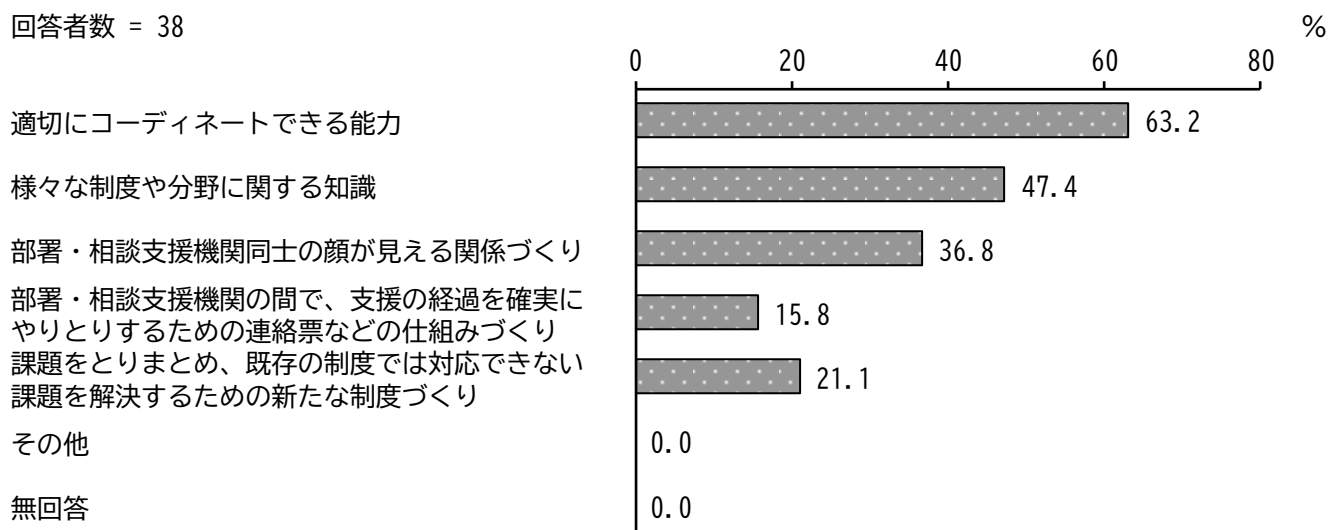


問 15 で「必要である」と回答した方のみお答え下さい。

問 15－1 コーディネートする部署や相談支援機関に必要な機能は何ですか。(○は2つまで)

「適切にコーディネートできる能力」の割合が 63.2%と最も高く、次いで「様々な制度や分野に関する知識」の割合が 47.4%、「部署・相談支援機関同士の顔が見える関係づくり」の割合が 36.8%となっています。

回答者数 = 38



問 15 で「必要でない」と回答した方のみお答え下さい。

問 15－2 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「既に連携をコーディネートする機能（仕組み）があるから」、「通常業務の中で連携が図れているから」が 1 件となっています。

「その他」内訳

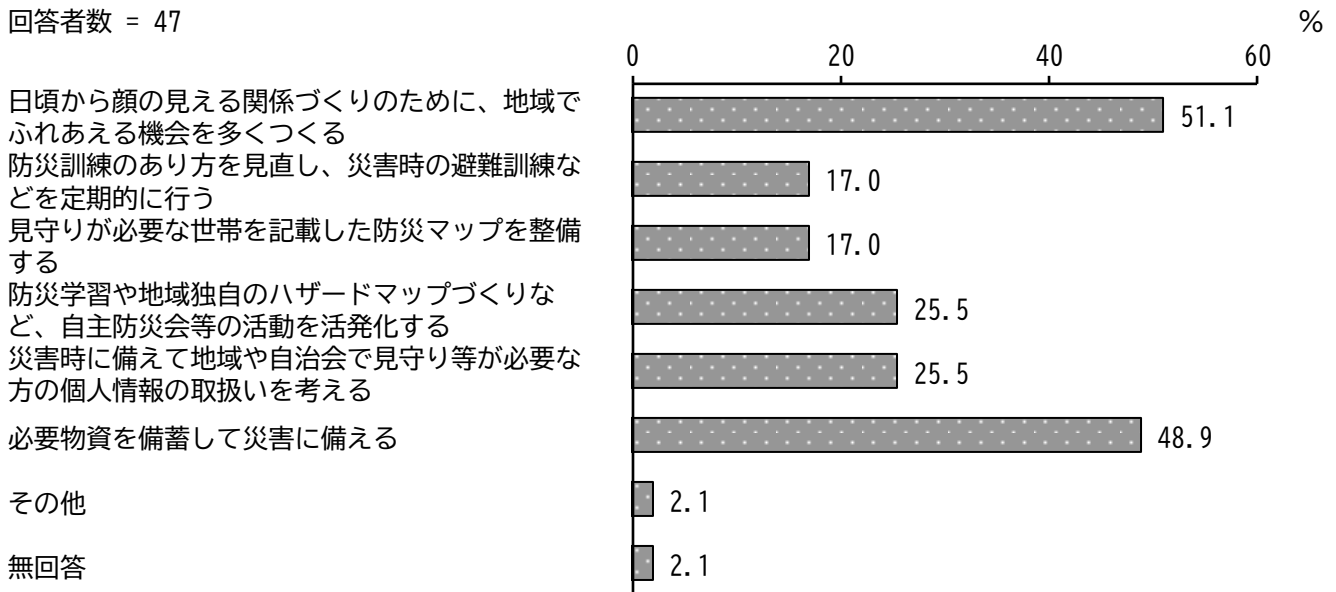
個人情報を守られるか心配だから。

(4) 災害に関することについて

問 16 近年、災害が多発しています。災害に備えて日頃から地域でどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

「日頃から顔の見える関係づくりのために、地域でふれあえる機会を多くつくる」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「必要物資を備蓄して災害に備える」の割合が 48.9%、「防災学習や地域独自のハザードマップづくりなど、自主防災会等の活動を活発化する」、「災害時に備えて地域や自治会で見守り等が必要な方の個人情報の取扱いを考える」の割合が 25.5%となっています。

回答者数 = 47

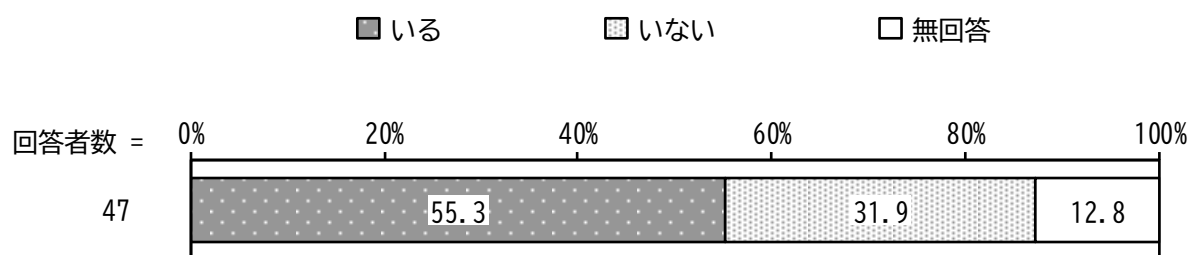


「その他」内訳

個人情報の観点から自治体単位で見守りが必要な世帯を記載した防災マップ、連絡方法(電話・面会方法等)を整備する。定期的に(約半年ごと)見直しし、また近所づきあいを密にしていけば、非常時の対応に少しは役立つかも。

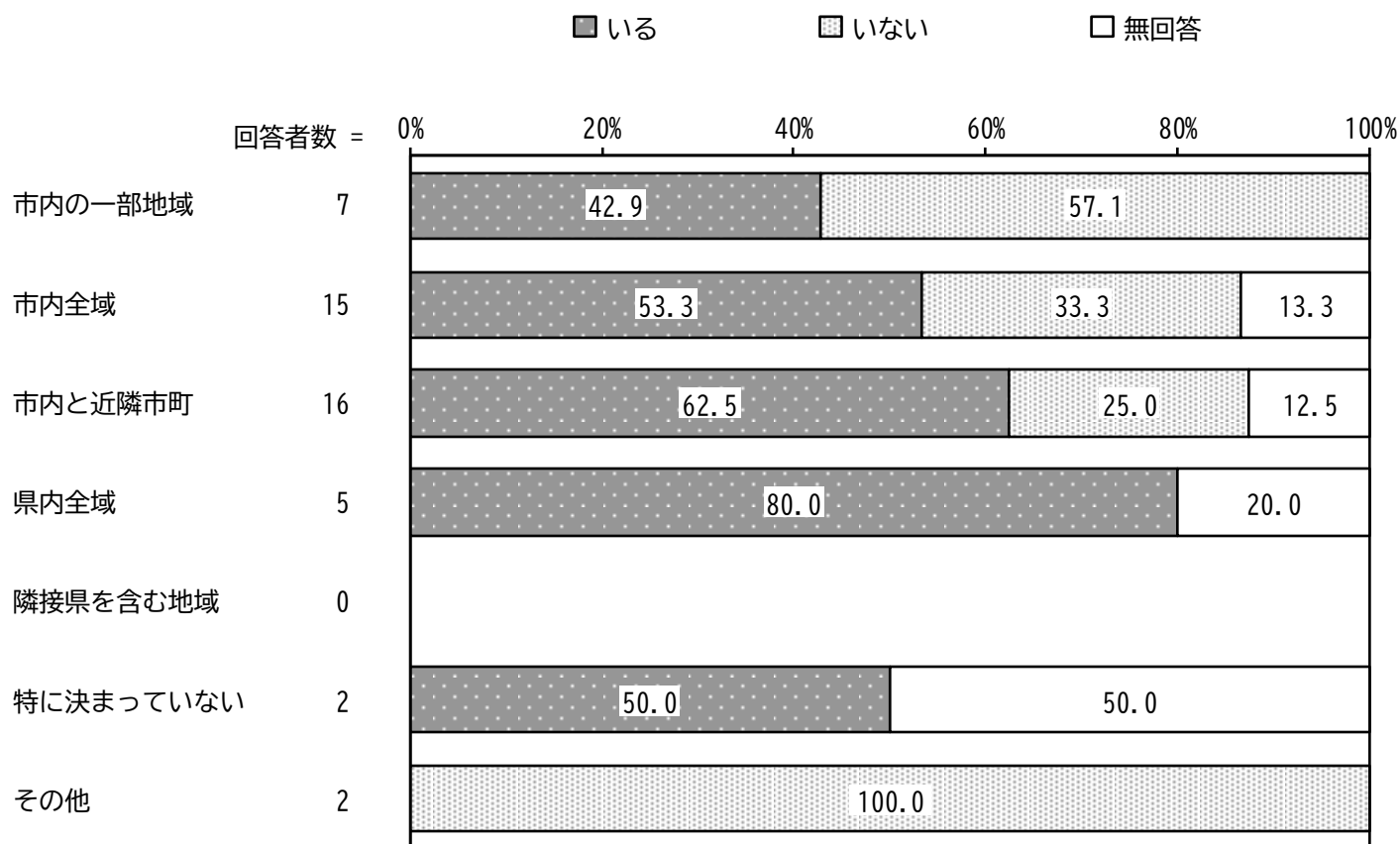
問 17 貴団体がある地域では、災害時において、避難が困難だと感じる人がいますか。
(○は1つ)

「いる」の割合が 55.3%、「いない」の割合が 31.9%となっています。



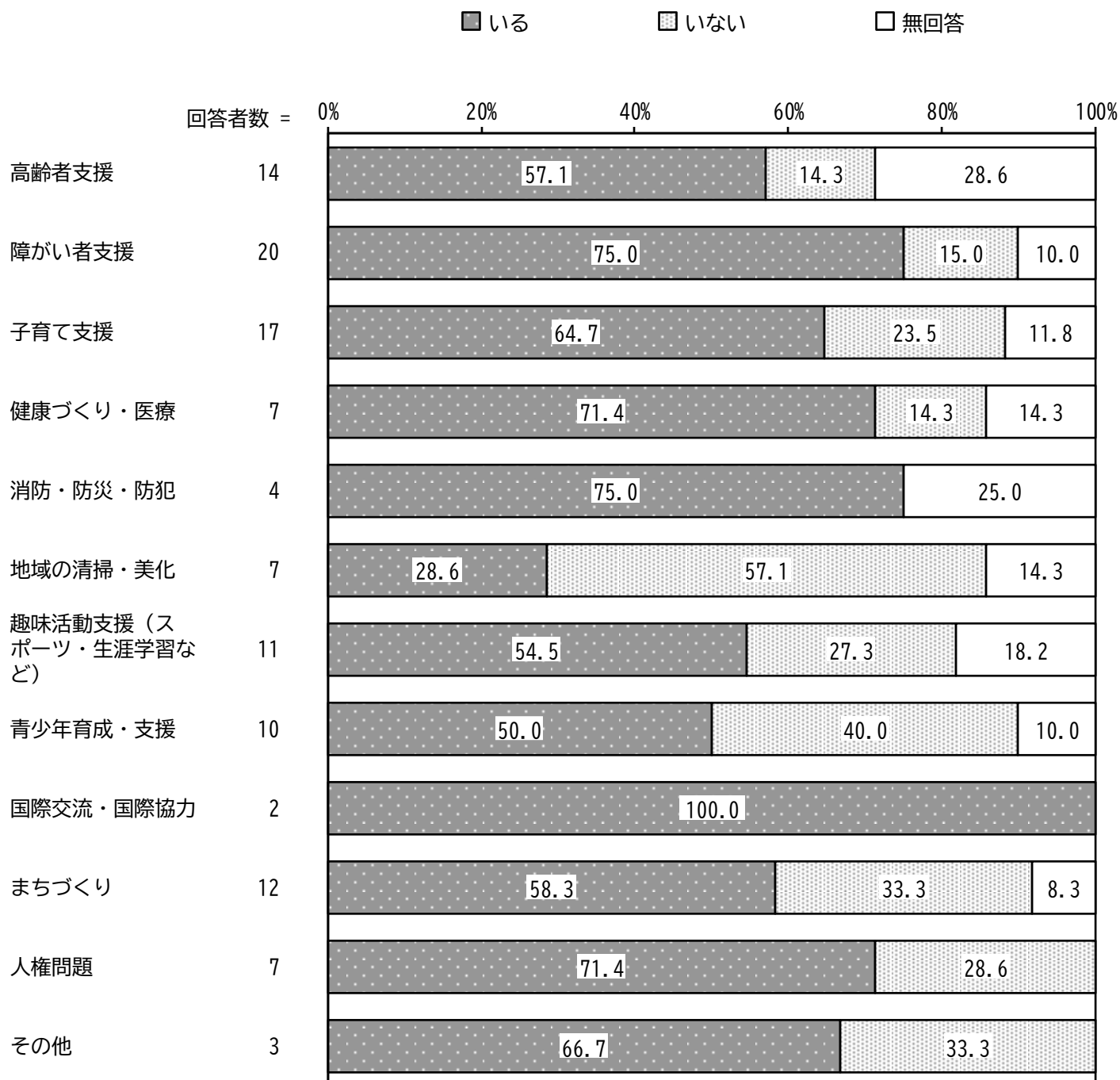
【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「いる」の割合が市内と近隣市町で高くなっています。



【活動分野別】

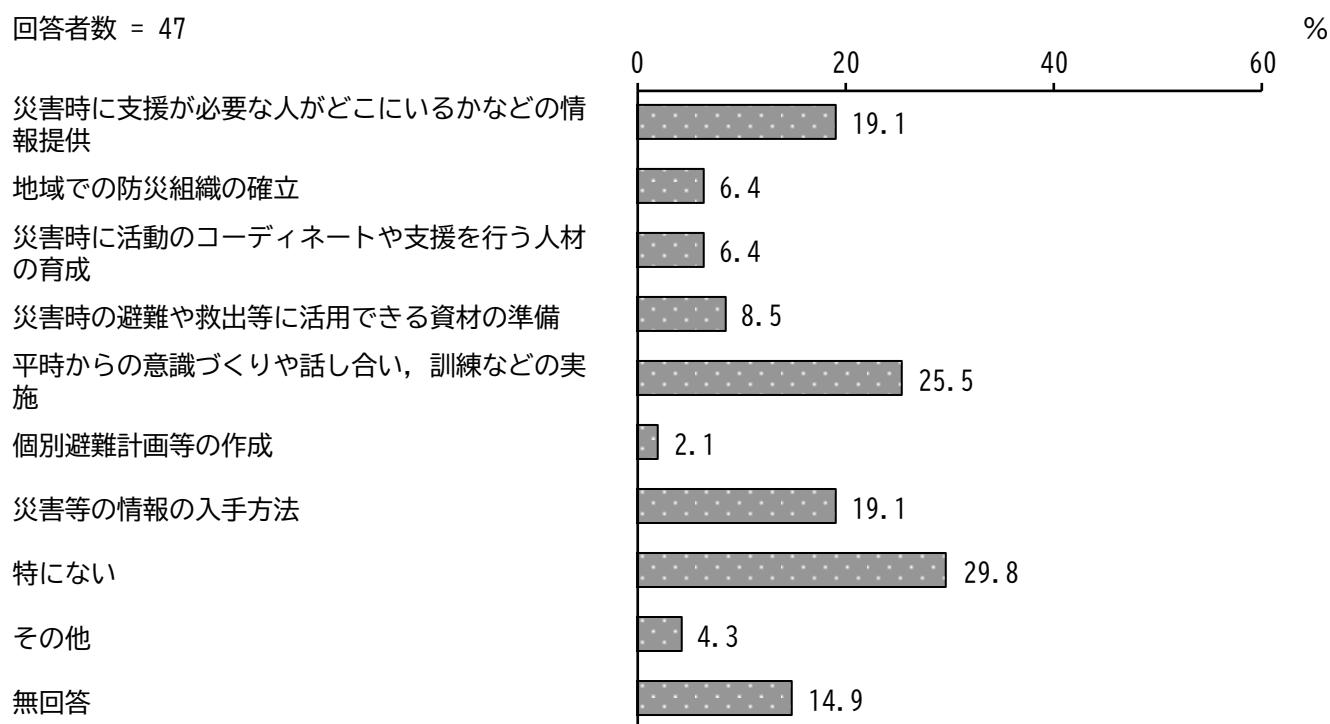
活動分野別にみると、「いる」の割合が障がい者支援で高く、「いない」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。



問 18 避難が困難だと感じる人に対して、貴団体ではどのような取組をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 29.8%と最も高く、次いで「平時からの意識づくりや話し合い、訓練などの実施」の割合が 25.5%、「災害時に支援が必要な人がどこにいるかなどの情報提供」、「災害等の情報の入手方法」の割合が 19.1%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳

避難者にうどんなど、食料品の提供。

それぞれが防災時の準備（薬、生活必需品など）をしている。

取り組みはしていないが、避難困難な状況の方の程度がわからない。避難困難の状態、環境により違うので、市も調査はしているだろうが、一般に見ると避難困難者だが、実は普通の方だったり、その逆もあり得る。難しい問題。

【活動分野別】

活動分野別にみると、「災害時に支援が必要な人がどこにいるかなどの情報提供」の割合が障がい者支援で高く、「災害時の避難や救出等に活用できる資材の準備」、「平時からの意識づくりや話し合い、訓練などの実施」、「災害等の情報の入手方法」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）で高く、「特にない」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。

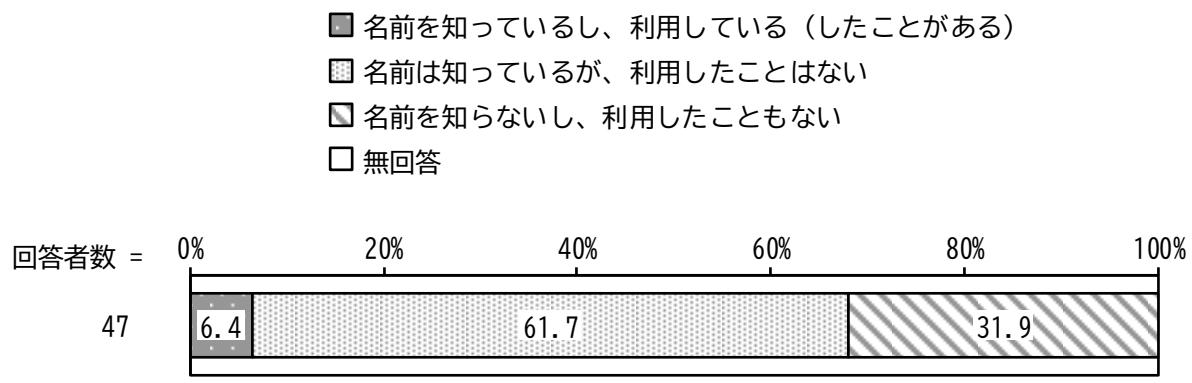
単位：％

活動分野	質問項目	回答者数（件）	災害時に支援が必要な人がどこにいるかなどの情報提供	地域での防災組織の確立	災害時に活動のコーディネートや支援を行う人材の育成	災害時の避難や救出等に活用できる資材の準備	平時からの意識づくりや話し合い、訓練などの実施	個別避難計画等の作成	災害等の情報の入手方法	特にない	その他	無回答
全 体		47	19.1	6.4	6.4	8.5	25.5	2.1	19.1	29.8	4.3	14.9
高齢者支援		14	28.6	14.3	14.3	21.4	28.6	7.1	21.4	21.4	—	21.4
障がい者支援		20	30.0	10.0	10.0	10.0	25.0	5.0	25.0	30.0	5.0	10.0
子育て支援		17	23.5	5.9	11.8	5.9	35.3	5.9	17.6	23.5	5.9	5.9
健康づくり・医療		7	28.6	28.6	28.6	28.6	42.9	14.3	42.9	28.6	—	—
消防・防災・防犯		4	25.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	—	—
地域の清掃・美化		7	14.3	—	—	—	28.6	—	—	28.6	—	28.6
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	18.2	9.1	18.2	27.3	36.4	9.1	36.4	36.4	—	—
青少年育成・支援		10	10.0	—	10.0	—	30.0	—	20.0	40.0	—	—
国際交流・国際協力		2	—	—	50.0	—	—	—	50.0	50.0	—	—
まちづくり		12	16.7	8.3	16.7	8.3	33.3	8.3	16.7	33.3	8.3	8.3
人権問題		7	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	28.6	—	14.3
その他		3	—	—	—	33.3	66.7	—	33.3	33.3	—	—

(5) 福祉制度や福祉事業について

問 19 「あすたねっと」について知っていますか。(○はひとつ)

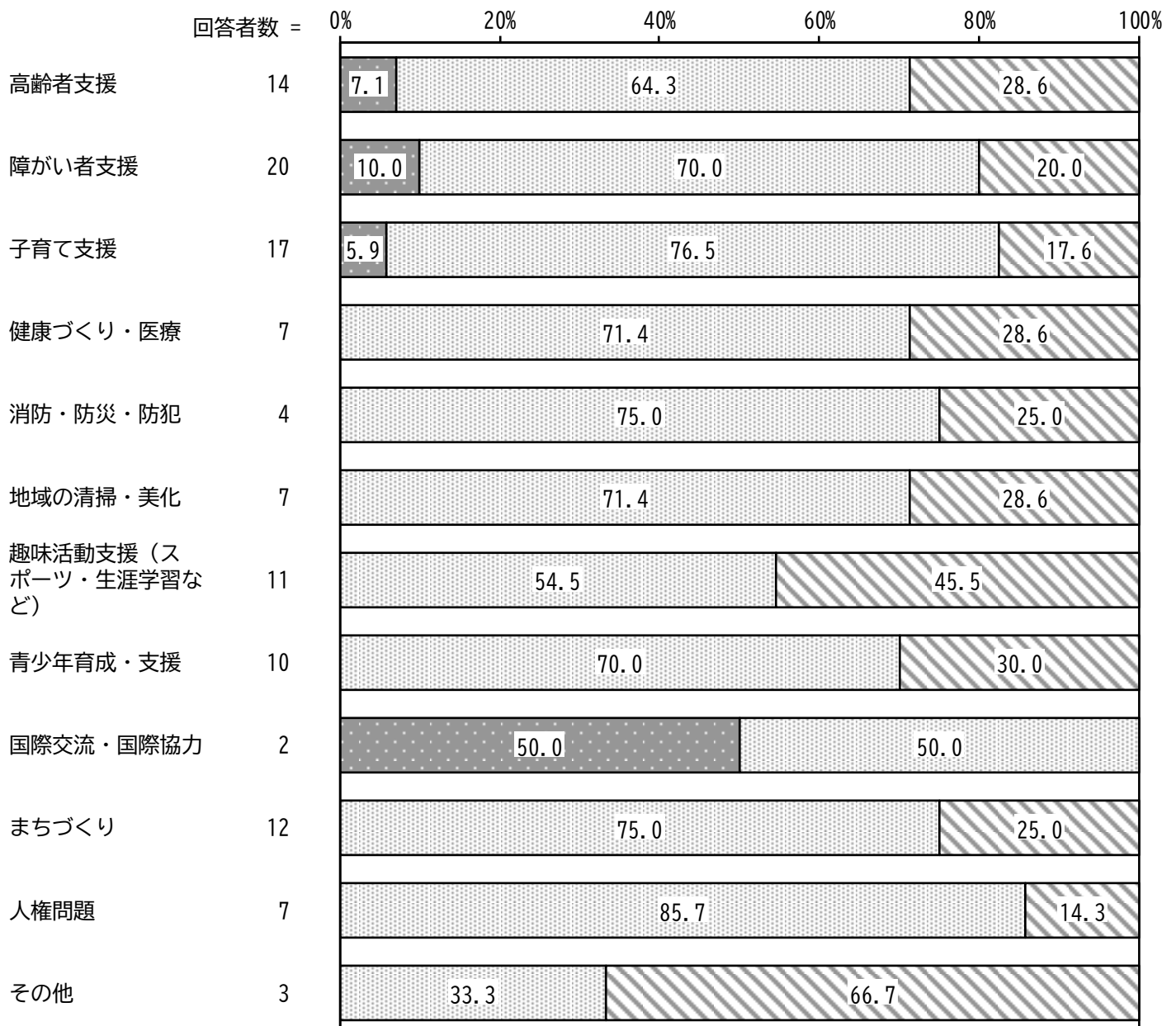
「名前は知っているが、利用したことはない」の割合が 61.7%、「名前を知らないし、利用したこともない」の割合が 31.9%となっています。



【活動分野別】

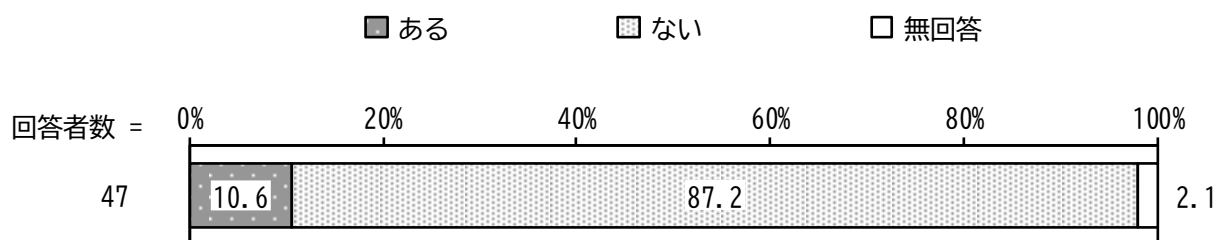
活動分野別にみると、「名前は知っているが、利用したことはない」の割合が子育て支援で高く、「名前を知らないし、利用したこともない」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）で高くなっています。

- 名前を知っているし、利用している（したことがある）
- ▨ 名前は知っているが、利用したことはない
- ▩ 名前を知らないし、利用したこともない
- 無回答



問 20 貴団体の活動の中で、「再犯防止」に関して取り組んでいることや協力していることはありますか。(○はひとつ)

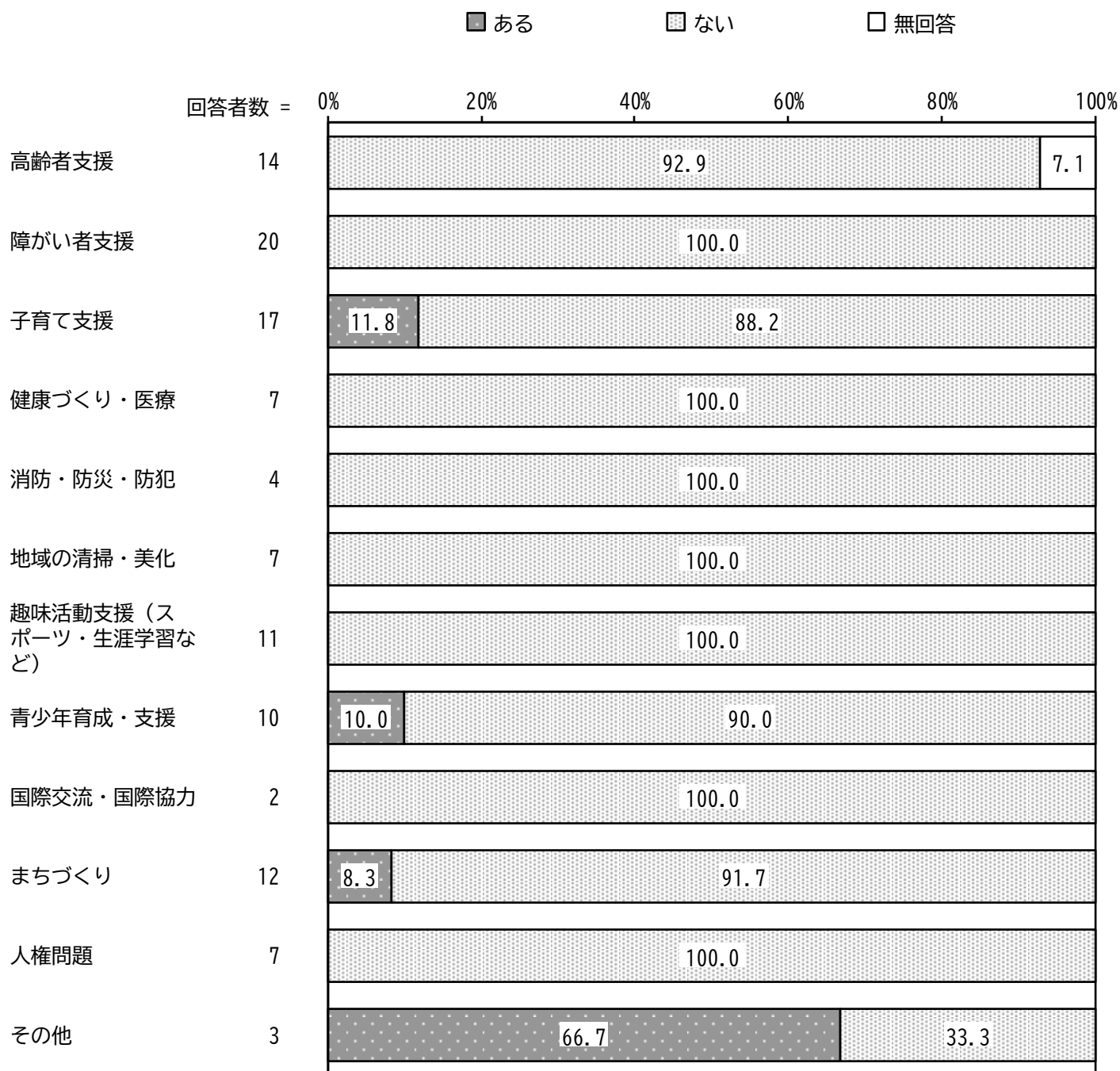
「ある」の割合が 10.6%、「ない」の割合が 87.2%となっています。



「その他」内訳
事業が更生保護施設である（再犯防止）。
研修会場で協議している。対象者に対して適切なアドバイスを行なう。
入所の契約を解除せずに、再チャレンジできる体制を作っている。
更生保護の研修、啓発活動。

【活動分野別】

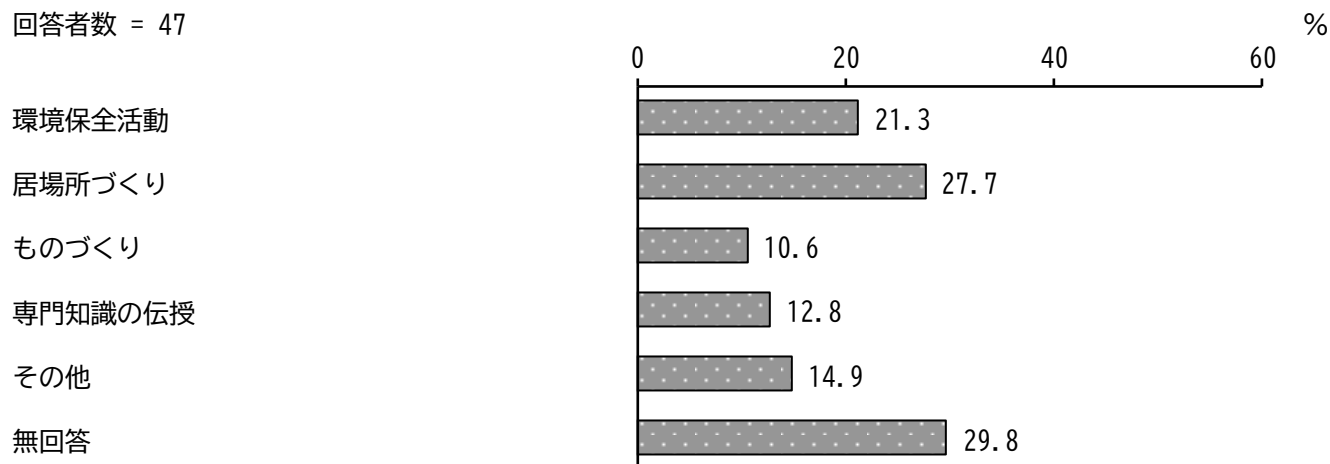
活動分野別にみると、「ない」の割合が高齢者支援で高くなっています。



問 21 貴団体が今後、社会貢献活動を行う矯正施設や更生保護施設等と共同で取り組めることはありますか？（あてはまるものすべてに○）

「居場所づくり」の割合が 27.7%と最も高く、次いで「環境保全活動」の割合が 21.3%、「専門知識の伝授」の割合が 12.8%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳

清掃活動

イベントなどで一緒に楽しむ。

【活動分野別】

活動分野別にみると、「環境保全活動」の割合が障がい者支援で高く、「居場所づくり」の割合がまちづくりで高く、「専門知識の伝授」の割合が高齢者支援で高くなっています。

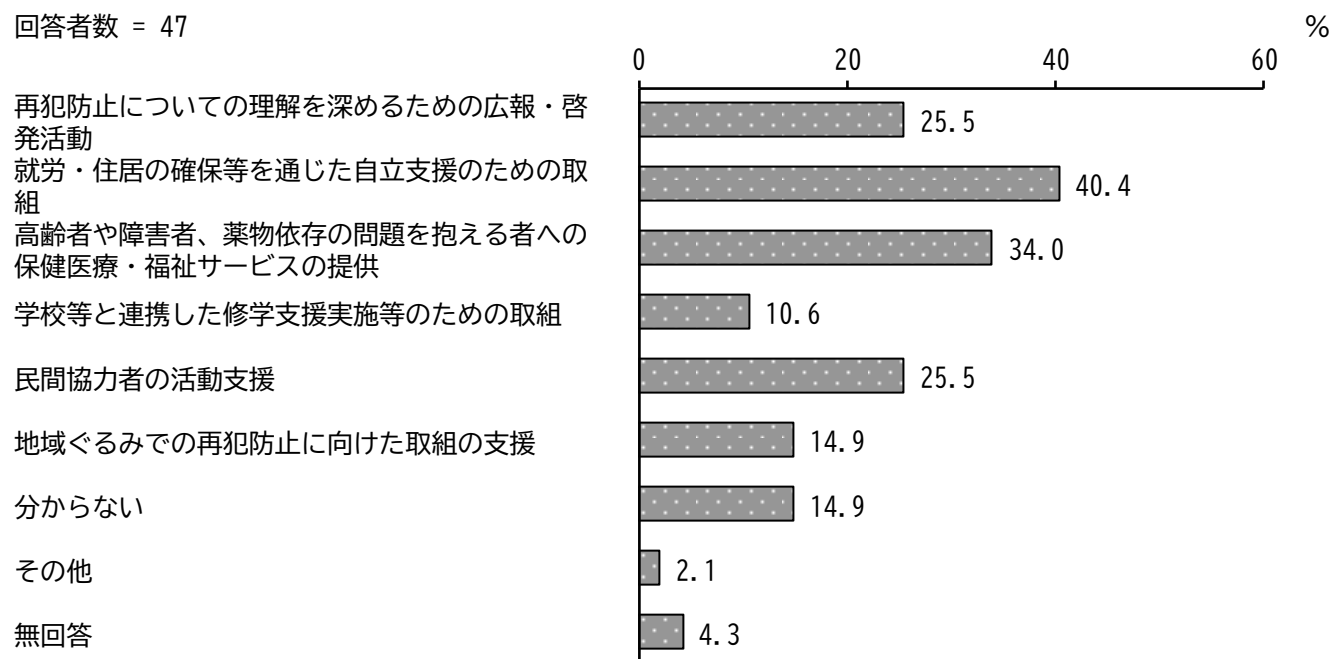
単位：％

活動分野	質問項目	回答者数 (件)	環境保全活動	居場所づくり	ものづくり	専門知識の伝授	その他	無回答
全 体		47	21.3	27.7	10.6	12.8	14.9	29.8
高齢者支援		14	7.1	35.7	—	21.4	7.1	42.9
障がい者支援		20	30.0	20.0	5.0	15.0	15.0	30.0
子育て支援		17	11.8	41.2	11.8	5.9	17.6	29.4
健康づくり・医療		7	28.6	14.3	—	14.3	14.3	42.9
消防・防災・防犯		4	25.0	25.0	25.0	—	25.0	25.0
地域の清掃・美化		7	14.3	28.6	14.3	—	28.6	28.6
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	27.3	36.4	—	9.1	18.2	27.3
青少年育成・支援		10	20.0	30.0	—	—	30.0	20.0
国際交流・国際協力		2	50.0	—	—	—	50.0	—
まちづくり		12	25.0	50.0	8.3	—	16.7	25.0
人権問題		7	28.6	14.3	—	—	42.9	28.6
その他		3	—	66.7	—	—	—	33.3

問 22 今後丸亀市は、再犯防止のためにどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(○は2つまで)

「就労・住居の確保等を通じた自立支援のための取組」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「高齢者や障害者、薬物依存の問題を抱える者への保健医療・福祉サービスの提供」の割合が 34.0%、「再犯防止についての理解を深めるための広報・啓発活動」、「民間協力者の活動支援」の割合が 25.5%となっています。

回答者数 = 47



「その他」内訳

犯罪予防につながる子ども育成教育が必要

【活動分野別】

活動分野別にみると、「再犯防止についての理解を深めるための広報・啓発活動」の割合が趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）で高く、「高齢者や障害者、薬物依存の問題を抱える者への保健医療・福祉サービスの提供」の割合が障がい者支援で高く、「地域ぐるみでの再犯防止に向けた取組の支援」の割合が青少年育成・支援で高くなっています。

単位：％

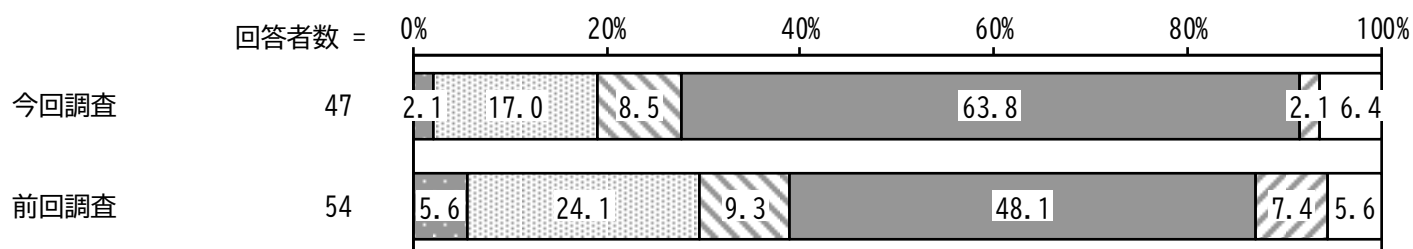
活動分野	質問項目	回答者数（件）	再犯防止についての理解を深めるための広報・啓発活動	就労・住居の確保等を通じた自立支援のための取組	高齢者や障害者、薬物依存の問題を抱える者への保健医療・福祉サービスの提供	学校等と連携した修学支援実施等のための取組	民間協力者の活動支援	地域ぐるみでの再犯防止に向けた取組の支援	分からない	その他	無回答
全 体		47	25.5	40.4	34.0	10.6	25.5	14.9	14.9	2.1	4.3
高齢者支援		14	14.3	21.4	42.9	—	42.9	21.4	7.1	—	14.3
障がい者支援		20	15.0	40.0	55.0	10.0	25.0	15.0	15.0	—	—
子育て支援		17	35.3	52.9	23.5	17.6	29.4	5.9	5.9	5.9	—
健康づくり・医療		7	14.3	28.6	71.4	—	28.6	28.6	14.3	—	—
消防・防災・防犯		4	—	50.0	25.0	25.0	50.0	—	25.0	—	—
地域の清掃・美化		7	28.6	—	14.3	—	71.4	14.3	14.3	—	14.3
趣味活動支援（スポーツ・生涯学習など）		11	45.5	27.3	27.3	9.1	18.2	27.3	18.2	—	—
青少年育成・支援		10	40.0	30.0	10.0	20.0	30.0	30.0	10.0	—	—
国際交流・国際協力		2	—	100.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—
まちづくり		12	41.7	33.3	16.7	8.3	41.7	16.7	8.3	—	8.3
人権問題		7	42.9	57.1	28.6	14.3	42.9	—	—	—	—
その他		3	—	66.7	33.3	—	33.3	—	33.3	—	—

問 23 貴団体での活動を通じて、成年後見制度の利用を必要とする人を発見したり、利用のための支援等を行うことがありますか。(○は1つ)

「特にない」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が 17.0%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」の割合が増加しています。一方、「制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が減少しています。

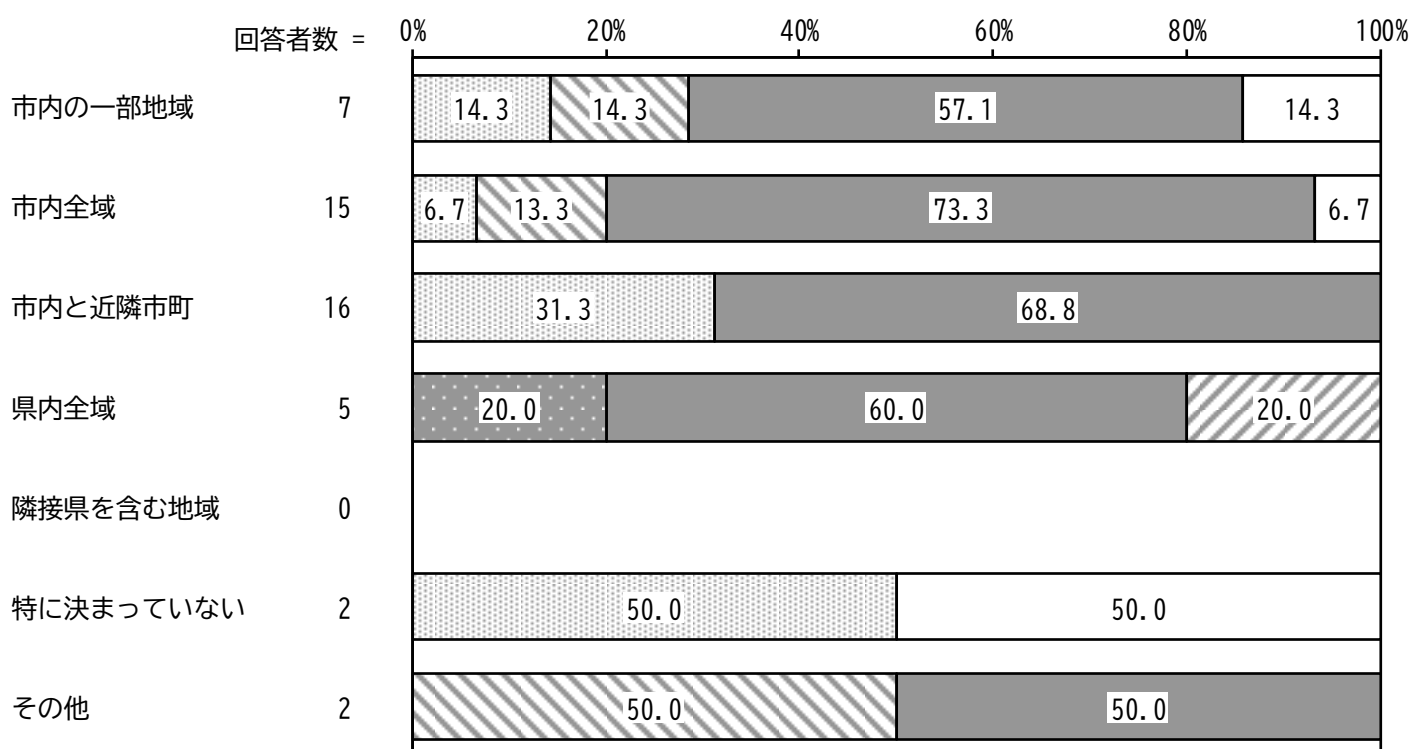
- 成年後見制度を利用するための支援を行うことがある
- ▨ 制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある
- ▧ 活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない
- 特にない
- ▨ その他
- 無回答



【活動範囲別】

活動範囲別にみると、「制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」の割合が市内と近隣市町で高く、「特にない」の割合が市内全域で高くなっています。

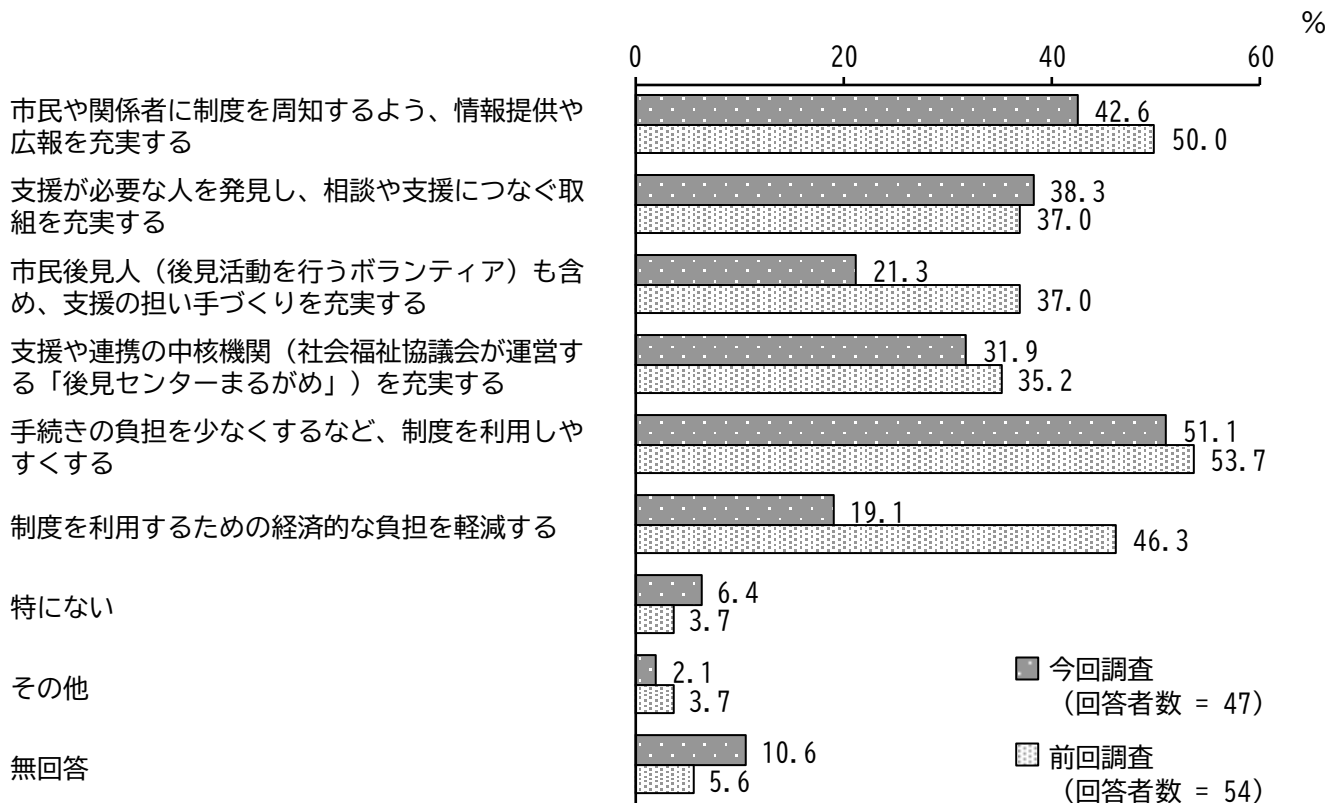
- 成年後見制度を利用するための支援を行うことがある
- ▨ 制度を利用するための支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある
- ▩ 活動のなかで、成年後見制度を利用することが望ましいと思う人を発見することはない
- 特にない
- ▨ その他
- 無回答



問 24 成年後見制度の利用を促進するうえで、力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「手続きの負担を少なくするなど、制度を利用しやすくする」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「市民や関係者に制度を周知するよう、情報提供や広報を充実する」の割合が 42.6%、「支援が必要な人を発見し、相談や支援につなぐ取組を充実する」の割合が 38.3%となっています。

前回調査と比較すると、「市民や関係者に制度を周知するよう、情報提供や広報を充実する」「市民後見人（後見活動を行うボランティア）も含め、支援の担い手づくりを充実する」「制度を利用するための経済的な負担を軽減する」の割合が減少しています。



「その他」内訳

後見人の交代を可能にするなど、制度の抜本的な見直しが必要。

問 25 貴団体における、現在の行政や社会福祉協議会との連携状況や取組、地域福祉推進のために今後取り組みたいこと、住民組織等との連携についてなど、思っていることや課題をご自由にお書きください。

綾歌支部は、私を含め高齢者が多く、若い方は仕事等から参加者は近年全くなく、活動も非常に難しくなっています。今後何年この活動が出来るか不安です。身体の元気な間は活動を継続していきますが、今後ともよろしくお願い致します。
毎年、定期的に実施している子育て支援講演会、おひなさまと吊るし飾り講座展示会・まるがめ子育てフェスタ&にこにこひろばを無料で、丸亀市飯山総合保健福祉センターも無料で使用させて頂いて助かっている。今後も継続を希望している。
連携の必要性は感じている。どのような連携の方策があるのか、いまひとつはっきりしない。特に行政の民間団体への関わりが不透明である。
災害による避難所の開設訓練やその運用について、勉強会などの開催は出来ないでしょうか。
再犯防止は社会で取り組む課題だと思います。犯罪や非行をした人達に対する継続的かつ重層的な支援が大切だと思います。地域連携ネットワークを積極的に行なう。
健康課の支援を受けて活動している。これまでと違って現在は 70 歳でも仕事をしている人も多く、若い世代はもちろん働いているので、ボランティア活動をする余裕がない。団体活動を続けていくことがだんだんむずかしくなっている。
刑務所から出所した人に対して充実した就労支援をお願いしたい。
丸亀まちづくりと一くの会では、社会福祉協議会と連携して通町の「みんながオルデ」拠点で活動しています。特に中高年を対象に気軽に参加できる事業を行ない楽しいひと時を過ごしています。しかし、数年前から社会全体が変わりつつあり、事業が活気あるものの、ボランティアも高齢化し継続が難しい状態です。
特に他のボランティア団体の会長さんとよく話をするのですが、社協は昔は良かったのに、とよく言われます。今は人数も多く昔の様に身近に感じられません。また、局長さんとはまったく何の接触もありません（少し長く続けられてるのでは）。
地域子育て支援センターに、子どもたち、親子と地域住民が一緒に何かできる、ふれあい遊びでも良いので高齢者の居場所となる場がつかれないか。
飯北移動サービス事業は年々利用者が増加し、地域の高齢化を考えると、利用者数は今後ますます右肩上がりに増加が予想されるため、それに対しサポート隊員の人材確保を早急にする必要がある（運転者については、年齢問題があるのでサポートできない）。ボランティアではなく、運転者を飯北、飯南で 1～2 名程採用しては。
障害によってそれぞれ違った問題があります。行政にはそれぞれにきめこまやかなサポートが必要だと言うことを考えていただきたい。
基本的には何かあった場合、対応・連携を取れている方だと思う。ただやはり、時間のかかるケース、困難なケースが多い印象はあるので、長期的な関わりができる体制づくりは重要だと考える。
丸亀市社会福祉協議会様からはいつも寄付を頂いたり、お正月に入所の子どもの歳末たすけあい助成金でお年玉を頂いたり、大変お世話になっております。私ども法人も地域における福祉で今後も子ども、若者の支援を充実していきたいと思えます。
経済的に困窮する子育て家庭に対する支援のあり方を検討。民生委員さんや地域組織の方と、つながりを深めたい。
行政と社協の連携を強化し、スピーディーに物事が進むようにしていけば、さまざまな課題の解決につながるのではと思います。
終戦 80 年を迎え戦争の記憶の風化が進んでいる。戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代にも伝えるために、教育委員会や学校での平和学習に関心を持ってもらい、恒久平和を希求し、子どもたちにも理解してもらえる様な取組をお願いしたい。
社会を明るくする運動などの啓発活動に取り組む。

・フードバンクの支援をいただいておりますが、公平に食材や商品が行き渡るようにして欲しいです。（特定の事業者が総取りしているため、スーパーなどに取りに行っても「昨日あげたところなので」と言われます） ・行政（西部子どもセンター、教育委員会など）の関心が薄く子どもへの支援の温度差が激しすぎて話し合いになりません。（対応の遅れ、管轄外のため非対応など）課題の必要に応じた連携や対応策を考えられる人を窓口にして欲しいです。
災害時の対応がスムーズに行えるように普段から情報交換やネットワークの構築、高齢社会に対応出来る人材の育成、人材確保のため、介護の仕事や役割の理解を深める等市民への啓蒙活動を期待する。
新たな組織を作るよりも、現在ある支援の資源を育て、最大限に活用するほうが有効である。
現在、丸亀市社会福祉協議会さまより、子ども食堂運営の補助、入院付き添い家族に送るエールバッグ事業への物品支援、各種支援活動への人的応援（ボランティア紹介）などをいただいております。こちらの体制を基盤に益々強化、拡充できるよう、これからも努力してまいります。様々な分野でお声掛けいただければ幸いです。
成年後見制度について、社会福祉協議会と連携して、勉強会や相談ができたらと思う。
いつも助成金をいただき、ありがとうございます。おかげさまで毎年楽しく活動できています。来年度もよろしくお願いします。

■その他、地域福祉に関するご意見等がございましたら、自由にご記入ください。

地域に住む一住民として思うことです。地域内では年々高齢化が進み、自治会活動を将来的に円滑に進めることが困難な状況になってきている。その中で好評なのが、社会福祉協議会主催の「ふれあいいきいきサロン」事業です。毎月給付される助成金での活動が地域の人が集まる居場所になっている。毎月1回定期的に顔を合わせることで安否確認にもなり、安心安全な地域づくりの一助となっている。私たちのサロンは開設20年になるが、自分達の企画で無理なく笑顔で集え、負担も軽く継続できている。

地域では1人の人がいくつもボランティア活動、コミュニティ活動をしている。今してくれている人は高齢化していつまでできるかなと言いながらやってくれている。新しく参加してもらおうとしても、少額でも活動費のでるボランティアには参加してくれるが、無償となるとむずかしいのが現状である。

会、地域づくりは特にコミュニティ活動団体が行なっているようで「人と人」がつながって事業が行なわれていますが難しい時代になってきているようです。特に数年前のコロナで地域の集まりも新たな会員やつながりが希薄になってきているような気がします。ここに高齢者から引きついでいく人材をつないでいかなければなりません。ここに新たな地域づくりをしていくボランティアの人材が急務です。

特に社協は、一番地域福祉に近い存在であってほしいと思っています。

困った人や困ったことに何でも対応する課“すぐやる課”を設置して市民の“困ったこと”に対応してあげたいと思います。早期定年退職した人をやとい、安く設置できるのではないのでしょうか？！

丸亀市に住む人がみんな明るく楽しく、元気で過ごせたらいいですね。

丸亀市身障福祉協飯山支部としての事務所を、開設しているわけでは無いので、郵便等の送付先は個人名を追加して下さい。

この間のこたえではありませんが、視覚障害者には、ききとりでおねがいしたい。とても苦痛としかいえません。障害はそれぞれです。

- ・個々に活動していても住民や子どもの困りごとに届いていない（周知の仕組みや連携ができていない）
- ・専門分野の見識が希薄だったり「自分達はできている」「時間がない」と慢心している団体が多いため、先進的な取り組みや複数課題への対応が難しいところが多い。
- ・勉強会や研修会の開催が少なく学べる場所がほとんどない。（たまに開催されても県の福祉課や行政関係者の話だけで実践的な内容ではない）
- ・NPO法人や社会福祉法人などがあるにもかかわらず個々の団体活動だけに終始し、地域を巻き込んだ活動（イベントや行事ではなく）につなげていない。それぞれの団体の強みや専門性を活かした地域啓発を多くなってくれる社会福祉事業者がいないのが残念。

職能団体の活動が他団体や社会福祉協議会と連携しやすい環境を整えるために、活動拠点となる事務所を市民センター等に設置出来るように支援していただきたい。又市の広報等にも情報提供する機会を希望する。

丸亀市の皆様の心の拠り所となれるよう、今後も行政、地域団体、市民の皆様と積極的に交流してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

丸亀市
地域福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

発行年月： 令和7年4月
発 行： 丸亀市
編 集： 丸亀市 健康福祉部 福祉課
〒 763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
T E L： 0877-24-8873
F A X： 0877-24-8861
